

JD Edwards EnterpriseOne 受注 管理 9.0 製品ガイド

2008 年 12月

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド
SKU E190ASO-B 1208JPN

Copyright © 2003, 2008, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

商標と登録商標について

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

ライセンス制約の保証と結果的に生じる損害の免責

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

米国特許第5,781,908、5,828,376、5,950,010、5,960,204、5,987,497、5,995,972、5,987,497、6,223,345号により保護されています。その他の特許は申請中です。

保証免責

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

制限付権利

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次のNoticeが適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

危険な用途への使用について

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

第三者のコンテンツ、製品、サービスに対する免責

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

Contains GNU libgmp library; Copyright © 1991 Free Software Foundation, Inc. This library is free software which can be modified and redistributed under the terms of the GNU Library General Public License.

Includes Adobe® PDF Library, Copyright 1993–2001 Adobe Systems, Inc. and DL Interface, Copyright 1999–2008 Datalogics Inc. All rights reserved. Adobe® is a trademark of Adobe Systems Incorporated.

Portions of this program contain information proprietary to Microsoft Corporation. Copyright 1985–1999 Microsoft Corporation.

Portions of this program contain information proprietary to Tenberry Software, Inc. Copyright 1992–1995 Tenberry Software, Inc.

Portions of this program contain information proprietary to Premia Corporation. Copyright 1993 Premia Corporation.

This product includes code licensed from RSA Data Security. All rights reserved.

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).

This product includes cryptographic software written by Eric Young (ey@cryptsoft.com).

This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com). All rights reserved.

This product includes the Sentry Spelling–Checker Engine, Copyright 1993 Wintertree Software Inc. All rights reserved.

Open Source Disclosure

Oracle takes no responsibility for its use or distribution of any open source or shareware software or documentation and disclaims any and all liability or damages resulting from use of said software or documentation. The following open source software may be used in Oracle's JD Edwards EnterpriseOne products and the following disclaimers are provided:

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>). Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. THIS SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS” AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

目次

はじめに

この PeopleBook について	xxv
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件.....	xxv
アプリケーションの基礎.....	xxv
最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード.....	xxvi
最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ).....	xxvi
ドキュメンテーションのダウンロード.....	xxvi
追加情報.....	xxvi
表記規則.....	xxviii
表記規則.....	xxviii
注意事項の表示.....	xxix
国、地域、業種の表記.....	xxix
通貨コード.....	xxx
ご意見、ご要望をお寄せください.....	xxx
製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xxx

まえがき

JD Edwards EnterpriseOne受注管理 – まえがき.....	xxxiii
JD Edwards EnterpriseOne製品.....	xxxiii
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎.....	xxxiii
この製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xxxiv

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne受注管理 – はじめに.....	1
JD Edwards EnterpriseOne受注管理の概要.....	1
JD Edwards EnterpriseOne受注管理のビジネス・プロセス.....	2
JD Edwards EnterpriseOne受注管理の統合.....	3
JD Edwards EnterpriseOne受注管理の導入.....	5
グローバル導入の手順.....	5
受注管理導入の手順.....	6

第 2 章

受注管理システムの設定.....	9
------------------	---

受注管理のシステム構成について.....	9
UDCの設定.....	10
固定情報の設定.....	12
受注管理の固定情報について.....	12
事前設定.....	13
固定情報の設定に使用するフォーム.....	14
事業所固定情報の設定.....	14
在庫状況の設定.....	19
システム固定情報の設定.....	20
バッチ制御固定情報の設定.....	23
保管場所フォーマットの設定.....	24
事業所内保管場所の設定.....	25
受注管理のAAIの設定.....	27
受注管理のAAIについて.....	27
受注管理のAAIの設定に使用するフォーム.....	29
受注管理のAAIの設定.....	29
オーダー行タイプの設定.....	31
オーダー行タイプについて.....	31
オーダー行タイプの設定に使用するフォーム.....	32
オーダー行タイプの設定.....	32
オーダー処理規則の設定.....	35
オーダー処理規則について.....	35
事前設定.....	35
オーダー処理規則の設定に使用するフォーム.....	36
オーダー処理規則の設定.....	36
 第 3 章	
オーダー処理情報の設定.....	39
オーダー処理情報について.....	39
レコード予約について.....	40
コミッション情報の設定.....	40
コミッション情報について.....	41
コミッション割当について.....	41
コミッション固定情報について.....	42
事前設定.....	42
コミッション情報の設定に使用するフォーム.....	43
コミッション固定情報の設定.....	43
販売グループの設定.....	45
事業所間販売価格割増の設定.....	46

事業所間販売価格割増について.....	46
事業所間販売価格割増の設定に使用するフォーム.....	47
事業所間販売価格割増の設定.....	47
任意勘定科目設定コードの定義.....	48
任意勘定科目設定コードについて.....	48
事前設定.....	51
任意勘定科目コードの定義に使用するフォーム.....	52
任意勘定科目設定コードの定義.....	52
オーダー・テンプレートの作成.....	54
オーダー・テンプレートについて.....	54
事前設定.....	55
オーダー・テンプレートの作成に使用するフォーム.....	55
顧客テンプレートの改訂プログラム (P4015) の処理オプションの設定.....	55
標準テンプレートの作成.....	56
顧客履歴テンプレートの再作成プログラム (R42815) の処理オプションの設定.....	57
システム生成テンプレートの作成.....	58
オーダー保留情報の設定.....	58
オーダー保留情報について.....	58
オーダーへの保留コードの割当について.....	61
顧客請求指示への保留コードの割当について.....	62
オーダー保留情報の設定に使用するフォーム.....	62
オーダー保留コードの設定.....	62
受注管理システムのセルフサービス情報の設定.....	64
顧客向けセルフサービスの設定について.....	64
セキュリティ問題について.....	64
カスタマ・セルフサービスの処理オプションについて.....	65
セルフサービス・オーダー入力の製品階層設定について.....	65
事前設定.....	65
受注管理のセルフサービス情報の設定に使用するフォーム.....	66
品目階層プログラム (P4101H) の処理オプションの設定.....	66
製品階層の設定.....	67

第 4 章

顧客情報の設定.....	69
顧客情報について.....	69
関連住所の設定.....	70
関連住所について.....	70
事前設定.....	71
関連住所の設定に使用するフォーム.....	71

関連住所の設定.....	72
請求先住所の定義.....	73
デフォルト住所タイプの定義.....	74
顧客請求指示の設定.....	75
顧客請求指示について.....	75
事前設定.....	75
顧客請求指示の設定に使用するフォーム.....	76
顧客請求情報の設定.....	76
運賃および配送情報の入力.....	79
品目制約の入力.....	81
コミッション情報の入力.....	81
与信情報の入力.....	82
顧客限度額の換算.....	83
顧客限度額の通貨換算について.....	83
住所録換算 - F03012プログラム (R8903012E) の処理オプションの設定.....	84
住所録換算 - F03012プログラムの実行.....	85
日付基準顧客セットの設定.....	85
日付基準顧客セットについて.....	85
事前設定.....	86
日付基準顧客セットの設定に使用するフォーム.....	86
日付基準顧客セットの設定.....	86
顧客購買セグメントの設定.....	87
顧客セグメント・ベース販売について.....	88
顧客への購買セグメント・コードの割当に使用するフォーム.....	89
顧客セグメント品目プログラム (P42440) の処理オプションの設定.....	89
購買セグメント・コードの顧客への割当.....	90
購買セグメント・コードの更新プログラム (R42442) の処理オプションの設定.....	90
顧客セグメント・コードの更新プログラムの実行.....	90
顧客セグメント品目の作成プログラム (R42441) の処理オプションの設定.....	90
顧客セグメント品目の作成プログラムの実行.....	91

第 5 章

UCC 128準拠の設定.....	93
UCC 128準拠について.....	93
UCC IDコードについて.....	94
バーコード・ラベルについて.....	96
階層構成の設定.....	98
階層構成について.....	98
階層構成の設定に使用するフォーム.....	100

階層構成の設定.....	100
出荷情報の設定.....	101
出荷ラベルについて.....	101
出荷情報の設定に使用するフォーム.....	103
出荷情報の設定.....	103
UCC 128における品目情報の設定.....	104
UCC 128における品目情報について.....	104
事前設定.....	105
UCC 128における品目情報の設定に使用するフォーム.....	105
UCC 128における品目情報の設定.....	105

第 6 章

基本価格設定および標準価格設定の設定.....	107
価格設定について.....	107
基本価格構造の設定.....	109
基本価格構造について.....	109
事前設定.....	111
基本価格構造の設定に使用するフォーム.....	112
顧客価格設定グループへの顧客の割当.....	112
品目価格設定グループへの品目の割当.....	113
価格設定階層の設定.....	113
基本価格の設定.....	114
基本価格について.....	114
事前設定.....	115
基本価格の設定に使用するフォーム.....	116
基本価格の設定.....	116
複合価格グループの設定.....	117
複合価格グループについて.....	117
事前設定.....	118
複合価格グループの設定に使用するフォーム.....	119
複合価格グループの設定.....	119
顧客の価格グループへの割当.....	120
複合品目グループの設定.....	120
品目グループへの品目の割当.....	120
価格グループ関係の生成.....	121
標準価格調整の設定.....	121
標準価格調整について.....	121
事前設定.....	122
標準価格調整の設定に使用するフォーム.....	123

標準価格調整の設定.....	123
在庫価格設定規則の設定.....	125
顧客および顧客グループへの価格設定規則の割当.....	126
取引値引の設定.....	126
 第 7 章	
受注オーダーの入力.....	127
受注オーダー入力について.....	127
事前設定.....	129
受注オーダー見出しおよび明細情報の入力.....	129
受注オーダー見出し情報について.....	130
受注オーダー明細情報について.....	131
受注オーダー入力時におけるワークフロー処理について.....	134
サブシステム処理の有効化について.....	135
カスタマ・セルフサービスでのオーダー入力について.....	135
事前設定.....	135
受注オーダーの見出しと明細情報の入力に使用するフォーム.....	136
受注オーダー入力 (P4210) の処理オプション.....	137
受注オーダー見出し情報の入力.....	165
受注オーダー品目情報の入力.....	167
デフォルト行情報の入力.....	169
クロス・ドッキング情報の入力.....	170
受注オーダー情報の更新とコピー.....	171
明細フォームに対して見出し情報を更新する処理について.....	171
受注オーダーのコピーについて.....	171
価格再設定について.....	172
事前設定.....	172
受注オーダー情報の更新とコピーに使用するフォーム.....	173
見出し情報の更新.....	173
受注オーダーのコピー.....	173
オーダー・レベル/バスケット・レベル価格プログラム (R42750) の処理オプションの設定.....	173
テンプレートを使用した受注オーダーの入力.....	175
オーダー処理でのテンプレートの使用について.....	175
事前設定.....	176
テンプレートを使用した受注オーダー情報の入力に使用するフォーム.....	176
テンプレートを使用した受注オーダーの入力.....	176
代替品目、関連品目または販促品の入力.....	177
代替品目、関連品目、および販促品について.....	177
事前設定.....	178

代替品目、関連品目および販促品の入力に使用するフォーム.....	178
代替品目、関連品目または販促品の入力.....	178
顧客セグメント・ベース販売の使用.....	179
受注オーダーでの顧客セグメント・ベース販売の使用方法について.....	179
事前設定.....	179
受注オーダーへの顧客購買セグメント品目の追加に使用するフォーム.....	180
受注オーダーへの顧客購買セグメント品目の追加.....	180
販売高アップセル価格の作成.....	180
販売高アップセルについて.....	180
事前設定.....	181
販売高アップセル価格の作成に使用するフォーム.....	181
受注オーダー入力の納期回答.....	181
納期回答について.....	182
受注オーダー入力での納期回答に使用するフォーム.....	184
約束納入日付の選択.....	184
監査ログ生成と承認プロセス.....	184
監査ログについて.....	185
承認プロセスについて.....	185
事前設定.....	186
監査ログの生成と承認プロセスに使用するフォーム.....	186
監査ログの検討.....	186
キット品目およびコンフィギュレーション品目のオーダー入力.....	187
キットについて.....	187
キット処理について.....	190
コンフィギュレーション品目について.....	193
事前設定.....	193
キット品目とコンフィギュレーション品目のオーダー入力に使用するフォーム.....	194
キット構成品の選択.....	194
コンフィギュレーション品目の属性の選択.....	195
定期受注オーダーの処理.....	196
定期受注オーダーについて.....	196
定期受注オーダーの処理に使用するフォーム.....	197
定期オーダー・プログラム(P4004Z)の処理オプションの設定.....	197
定期受注オーダーの作成.....	199
定期受注オーダー情報の入力.....	199
定期オーダーの編集/作成プログラム(R40211Z)の処理オプションの設定.....	200
定期オーダーの処理.....	201
オフライン処理を使用したオーダーの入力.....	201
オフライン処理について.....	201
ワークステーションへのマスター・テーブルのダウンロードについて.....	203

オフラインでのオーダーの作成について.....	205
サーバーへの受注オーダーのアップロードについて.....	205
バッチ受注オーダーの処理について.....	206
バッチ受注オーダーの修正について.....	207
一括バッチ処理について.....	207
事前設定.....	209
オフライン処理を使用したオーダーの入力に使用するフォーム.....	209
ワークステーションへのマスター・テーブルのダウンロード.....	209
オフライン処理のオーダーの入力.....	210
サーバーへの受注オーダーのアップロード.....	210
バッチ編集/作成プログラム(R4210Z)の処理オプションの設定.....	210
バッチ受注オーダーの処理.....	211
バッチ受注オーダーの修正.....	211
マトリックス品目の受注オーダー入力.....	211
マトリックス品目の受注オーダー入力について.....	212
事前設定.....	212
マトリックス品目の受注オーダー入力に使用するフォーム.....	212
マトリックス品目の受注オーダー入力.....	212

第 8 章

カスタマ・サービス担当者用の受注オーダーの入力.....	215
カスタマ・サービス担当者用の受注オーダー入力について.....	215
事前設定.....	216
受注オーダー見出しおよび明細情報の入力.....	217
受注オーダー見出し情報について.....	217
受注オーダー明細情報について.....	217
受注オーダー入力時におけるワークフロー処理について.....	217
受注オーダー情報の入力に使用するフォーム.....	218
受注オーダー入力プログラム(P42101)の処理オプションの設定.....	218
受注オーダー見出し情報の入力.....	222
受注オーダー品目情報の入力.....	222
デフォルト行情報の入力.....	223
受注オーダーのコピー.....	223
受注オーダーのコピーについて.....	223
受注オーダーのコピーに使用するフォーム.....	224
受注オーダーのコピー.....	224
テンプレートを使用した受注オーダーの入力.....	224
オーダー処理でのテンプレートの使用について.....	224
テンプレートによるカスタマ・サービス担当者用の受注オーダーの入力に使用するフォーム.....	225

代替品目、関連品目または販促品の入力.....	225
代替品目、関連品目、および販促品について.....	225
代替品目、関連品目および販促品の入力に使用するフォーム.....	226
販売高アップセルの通知の有効化.....	226
販売高アップセルについて.....	226
カスタマ・サービス担当者への販売高アップセルに関する通知の有効化に使用するフォーム.....	227
受注オーダー入力におけるサブシステム処理の有効化.....	227
カスタマ・サービス担当者に対するサブシステム処理の有効化について.....	227
受注オーダー入力の納期回答.....	227
納期回答について.....	227
カスタマ・サービス担当者の受注オーダー入力での納期回答で使用するフォーム.....	228
監査ログ生成と承認プロセス.....	228
監査ログについて.....	228
カスタマ・サービス担当者の監査ログの生成と承認プロセスに使用するフォーム.....	228
キット品目およびコンフィギュレーション品目のオーダー入力.....	229
キット品目およびコンフィギュレーション品目について.....	229
キット品目およびコンフィギュレーション品目のオーダーを管理するために使用するフォーム.....	229

第 9 章

追加オーダーの入力.....	231
追加オーダー入力について.....	231
クレジット・オーダーの入力.....	232
クレジット・オーダーについて.....	232
事前設定.....	233
クレジット・オーダーの入力に使用するフォーム.....	233
販売履歴照会プログラム (P42025) の処理オプションの設定.....	233
履歴からのクレジット・オーダーの入力.....	234
転送オーダーの入力.....	235
転送オーダーについて.....	236
事前設定.....	236
転送オーダーの入力に使用するフォーム.....	237
転送オーダーの入力.....	237
直送オーダーの入力.....	237
直送オーダーについて.....	237
関連する受注オーダーと購買オーダーの整合性の維持.....	238
事前設定.....	239
直送オーダーの入力に使用するフォーム.....	240
一括オーダーの入力.....	240
一括オーダーについて.....	240

事前設定.....	241
一括オーダーの入力に使用するフォーム.....	242
見積オーダーの入力.....	242
見積オーダーについて.....	242
事前設定.....	243
見積オーダーの入力に使用するフォーム.....	243
事業所間オーダーと会社間オーダーの入力.....	244
事業所間オーダーと会社間オーダーについて.....	244
事業所間オーダーのデフォルト情報について.....	245
事業所間オーダー入力について.....	245
事前設定.....	246
事業所間オーダーと会社間オーダーの入力に使用するフォーム.....	246
事業所間オーダーの入力.....	246

第 10 章

オーダーの保留、リリース、および検討.....	247
オーダーの保留とリリースについて.....	247
事前設定.....	247
オーダーの保留.....	247
オーダーの保留について.....	248
与信保留のバッチ処理プログラム (R42542) の処理オプションの設定.....	248
保留オーダーのリリース.....	249
オーダーのリリースについて.....	249
事前設定.....	250
保留オーダーのリリースに使用するフォーム.....	250
保留リリース・プログラム (P43070) の処理オプションの設定.....	250
保留オーダーのリリース.....	252
与信保留のバッチ・リリース・プログラム (R42550) の処理オプションの設定.....	252
与信保留のバッチ・リリース.....	253
バックオーダーのリリース.....	254
バックオーダー・リリースについて.....	254
バックオーダーのオンライン・リリースに使用するフォーム.....	255
バックオーダー・リリース (オンライン) プログラム (P42117) の処理オプションの設定.....	255
バックオーダーのオンライン・リリース.....	259
バックオーダー・リリース/レポート・プログラム (R42118) の処理オプション.....	260
バックオーダーのバッチ・リリース.....	263
一括オーダー・リリース.....	263
一括オーダー・リリースについて.....	263
一括オーダーのリリースに使用するフォーム.....	265

受注一括オーダー・リリース・プログラム (P420111) の処理オプションの設定.....	265
一括オーダー・リリース.....	266
見積オーダーのリリース.....	267
見積オーダー・リリースについて.....	267
見積オーダーのリリースに使用するフォーム.....	268
見積オーダーのリリース.....	268
品目情報の検討.....	269
品目情報について.....	269
需要と供給について.....	269
事前設定.....	270
品目情報の検討に使用するフォーム.....	270
価格/引当可能数量の照会プログラム (P4074) の処理オプションの設定.....	270
標準価格および引当可能数量の情報の検討.....	271
在庫状況プログラム (P41202) の処理オプションの設定.....	272
数量情報の検索.....	274
引当可能数量の計算の検討.....	275
需要/供給照会プログラム (P4021) の処理オプションの設定.....	275
需要/供給情報の検討.....	280
顧客情報と売上情報の検討.....	280
顧客勘定情報について.....	280
受注オーダー情報について.....	281
販売明細実績情報について.....	281
事前設定.....	282
顧客情報と受注情報の検討に使用するフォーム.....	283
顧客勘定情報の検討.....	283
受注オーダーの検討.....	284
配送票照会プログラム (P42290) の処理オプションの設定.....	284
コミッション情報の検討.....	285
コミッション情報について.....	285
事前設定.....	285
コミッション情報の検討に使用するフォーム.....	286
コミッション情報の検討.....	286
見越しコミッションの検討.....	287

第 11 章

受注オーダーの処理.....	289
受注オーダー情報について.....	289
受注オーダー処理について.....	290
トランザクション処理について.....	290

請求情報の使い方.....	291
オンライン請求書について.....	291
注文承認書の印刷について.....	292
請求情報の処理に使用するフォーム.....	293
オンライン請求書照会プログラム (P42230) の処理オプションの設定.....	293
注文承認書の印刷.....	294
状況コードの更新.....	294
状況コードについて.....	295
事前設定.....	295
状況コードの更新に使用するフォーム.....	295
状況コードの更新プログラム (P42040) の処理オプションの設定.....	295
状況コードの更新.....	297
ピッキング伝票の印刷.....	297
ピッキング伝票のタイプについて.....	297
ピッキング・リストの印刷プログラム (R42520) の処理オプションの設定.....	299
ピッキング・リストの印刷.....	303
シリアル番号情報の処理.....	303
シリアル番号の処理について.....	303
流通管理システムでのシリアル番号処理について.....	304
事業所用のシリアル番号設定について.....	305
シリアル番号情報を処理するために使用するフォーム.....	305
シリアル番号照会プログラム (P4220) の処理オプションの設定.....	306
出荷の確認.....	306
出荷確認について.....	306
出荷確認時の追加オーダー処理について.....	308
自重および梱包情報について.....	310
出荷確認バッチ・アプリケーションについて.....	311
事前設定.....	311
出荷の確認に使用するフォーム.....	312
出荷確認プログラム (P4205) の処理オプションの設定.....	312
出荷の確認.....	323
出荷確認バッチ・アプリケーション・プログラム (R42500) の処理オプションの設定.....	324
出荷確認バッチ・アプリケーションの実行.....	324
出荷伝票の印刷.....	324
船荷証券について.....	324
配送票について.....	325
事前設定.....	325
船荷証券の印刷プログラム (R42530) の処理オプションの設定.....	325
船荷証券 (B/L) の印刷.....	327
配送票印刷プログラム (R42535) の処理オプションの設定.....	327

配送票の印刷.....	328
UCC 128に従った出荷処理.....	329
UCC 128に従った出荷処理について.....	329
事前設定.....	330
UCC 128に従った出荷処理に使用するフォーム.....	330
出荷の処理プログラム(P4915)の処理オプションの設定.....	330
出荷、梱包、およびUCC 128出荷の情報の入力.....	334

第 12 章

前払処理.....	335
前払処理について.....	335
事前設定.....	336
前払処理の設定について.....	336
前払状況コード.....	336
前払タイプ.....	337
前払保留コード.....	338
クレジット・カード取引の承認.....	338
クレジット・カードの承認について.....	338
前払取引の承認プログラム(R004201)の処理オプションの設定.....	339
前払取引(トランザクション)の承認プログラムの実行.....	339
前払トランザクションの更新.....	339
手作業によるトランザクション状況の更新.....	341
トランザクション状況の更新について.....	341
トランザクション状況の更新に使用するフォーム.....	341
トランザクション状況コードの更新.....	341
前払取引の決済.....	342
前払取引の決済について.....	342
前払取引の決済プログラム(R004202)の処理オプションの設定.....	343
前払取引(トランザクション)の決済プログラムの実行.....	343
前払の手形の使い方.....	343
手形の回収について.....	343
事前承認手形について.....	344

第 13 章

価格の更新.....	345
基本価格の更新.....	345
基本価格の更新について.....	345
基本価格の一括更新プログラム(R41830)の処理オプションの設定.....	346

基本価格の一括更新プログラムの実行.....	347
顧客価格の更新.....	347
顧客価格の更新について.....	347
受注オーダー価格/原価のバッチ更新プログラム(R42950)の処理オプションの設定.....	348
受注オーダー価格/原価のバッチ更新プログラムの実行.....	350
価格レベルの変換.....	350
価格レベルの換算について.....	350
品目販売価格レベルの換算プログラム(R41816)の処理オプションの設定.....	350
品目販売価格レベルの換算プログラムの実行.....	351
異なる通貨を使用した基本価格の新規作成.....	351
異なる通貨を使用した新しい基本価格について.....	352
通貨別基本価格の生成プログラム(R410601)の処理オプションの設定.....	353
新しい基本価格/通貨の生成.....	354

第 14 章

請求書作成.....	355
請求書について.....	355
標準請求書の印刷.....	355
請求書印刷プログラムについて.....	356
キット構成品および親品目の請求書作成について.....	357
事前設定.....	361
請求書印刷プログラム(R42565)の処理オプションの設定.....	361
請求書印刷プログラムの実行.....	368
請求書サイクルの設定.....	368
請求書サイクルの設定について.....	368
請求書サイクル優先情報の設定に使用するフォーム.....	371
請求書サイクル優先情報の作成.....	371
計画請求書日付範囲の追加.....	373
サイクル請求の実行.....	373
サイクル請求について.....	373
事前設定.....	375
サイクル請求プログラム(R49700)の処理オプションの設定.....	375
サイクル請求プログラムの実行.....	376

第 15 章

日次締め処理の実行.....	377
日次締め処理について.....	377
仕訳バッチの検討/承認について.....	378

仕訳のバッチ転記について.....	379
事業所間売上の転記.....	379
転記処理中の変更.....	379
仕訳転記の確認.....	379
メッセージの電子メールの検討.....	379
総勘定元帳への転記レポートの検討.....	380
顧客売上の更新.....	380
売上更新プログラムについて.....	380
事業所間および会社間の取引について.....	383
売上更新プログラムが使用するAAIについて.....	384
事前設定.....	386
売上更新プログラム(R42800)の処理オプションの設定.....	386
売上更新プログラムの実行.....	395
売上更新レポートの検討.....	395
売上更新レポートについて.....	395
請求書仕訳の検討.....	395
売上仕訳の印刷プログラム(R42810)の処理オプションの設定.....	395
売上仕訳の検討.....	396
オーダーの再転記.....	396
オーダーの再転記処理について.....	396
処理中受注オーダーの再転記プログラム(R42995)の処理オプションの設定.....	398
処理中受注オーダーの再転記プログラムの実行.....	399
データの除去.....	399
受注管理の除去プログラムについて.....	400
受注オーダー・テキスト行の除去プログラムについて.....	400
事前設定.....	400
受注オーダーのテキスト行の除去.....	400
処理済受注オーダー・バッチの除去.....	400
受注オーダー見出し(F4201)の除去プログラム(R4201P)の処理オプションの設定.....	401
受注オーダーの見出しレコードの除去.....	401
明細から履歴への除去プログラム(R42996)の処理オプションの設定.....	401
受注オーダー明細行の除去.....	402
監査ログの除去プログラム(R42420)の処理オプションの設定.....	402
監査ログ・トランザクションの除去.....	402
受注オーダー・トランザクションの除去.....	402
 第 16 章	
返品承認の生成.....	403
返品承認について.....	403

返品承認デフォルト値の設定.....	404
返品承認デフォルト値について.....	404
返品承認デフォルトの設定に使用するフォーム.....	404
返品承認デフォルト値の設定.....	404
検索順序の決定.....	406
返品承認の作成.....	406
返品承認の入力について.....	406
事前設定.....	407
返品承認の作成に使用するフォーム.....	408
返品承認(RMA)の改訂プログラム(P400511)の処理オプションの設定.....	408
返品承認(RMA)の処理プログラム(P40051)の処理オプションの設定.....	411
返品承認の入力.....	412
返品承認(RMA) - 受注オーダー状況の更新プログラムの実行.....	413
返品承認(RMA) - 受注オーダー状況の更新プログラムについて.....	414
返品承認(RMA) - 受注オーダー状況の更新(R400502)の処理オプションの設定.....	414
返品承認(RMA) - 受注オーダー状況の更新プログラムの実行.....	414
返品承認の除去プログラムの実行.....	414
返品処理の除去について.....	415
返品承認の除去プログラム(R400510)の処理オプションの設定.....	415
返品承認の除去プログラム(R400510)の実行.....	415

第 17 章

優先情報の有効化.....	417
優先情報について.....	417
優先マスターと階層.....	418
基本優先情報と詳細優先情報との違いについて.....	418
基本優先情報.....	418
基本優先情報の使用方法.....	419
詳細優先情報.....	420
優先タイプについて.....	420
カスタム優先タイプについて.....	425
運送業者の優先情報.....	425
顧客通貨優先情報.....	426
顧客運賃の優先情報.....	426
納期の優先情報.....	426
伝票セットの優先情報.....	428
最終用途優先情報.....	429
延長期限優先情報.....	429
運賃優先情報.....	429

等級および濃度の優先情報.....	430
売上高総利益率価格設定優先情報.....	430
在庫引当優先情報.....	431
業種優先情報.....	432
輸送モード優先情報.....	433
複数の入出荷保管場所優先情報.....	433
次のオーダー状況優先情報.....	433
オプションおよび設備の優先情報.....	434
オーダー準備日数優先情報.....	434
支払条件優先情報.....	435
支払条件(事業所)優先情報.....	435
価格調整スケジュール優先情報.....	435
価格設定単位優先情報.....	436
価格設定単位(事業所)優先情報.....	436
製品割当優先情報.....	437
製品割当(事業所)優先情報.....	438
品質管理優先情報.....	439
収益ビジネスユニット優先情報.....	440
収益ビジネスユニット優先情報(事業所).....	440
販売コミッション優先情報.....	441
販売価格基準日優先情報.....	441
ユーザー定義価格コード優先情報.....	441
優先マスター情報の設定.....	441
優先マスターの設定について.....	442
優先マスター情報の設定に使用するフォーム.....	442
優先マスター情報の設定.....	442
優先階層の作成.....	443
優先階層の作成について.....	443
優先階層の作成に使用するフォーム.....	444
優先階層の作成.....	444
基本優先情報の設定.....	445
基本優先情報の設定について.....	445
基本優先情報の入力に使用するフォーム.....	445
詳細優先情報の設定.....	452
詳細優先情報の設定について.....	452
詳細優先情報の設定に使用するフォーム.....	454
優先定義の設定.....	454
優先スケジュールの設定.....	455
優先詳細の設定.....	456
優先詳細値の設定.....	457

顧客と品目のグループへの割当.....	457
顧客と品目のグループへの割当について.....	457
事前設定.....	458
顧客と品目をグループに割り当てるために使用するフォーム.....	458
優先情報グループへの顧客の割当.....	458
優先情報グループへの品目の割当.....	459
優先情報の有効化.....	460
優先情報の有効化について.....	460
優先情報の選択方法について.....	461
事前設定.....	461
優先情報選択 (R40400) の処理オプションの設定.....	461
優先情報の選択プログラムの実行.....	462

付録 A

JD Edwards EnterpriseOne受注管理の標準ワークフロー.....	463
JD Edwards EnterpriseOne受注管理の標準ワークフロー.....	463
JDESOENTRYワークフロー・プロセス.....	463
受信確認ワークフロー.....	464
受注オーダー変更承認.....	464

付録 B

JD Edwards EnterpriseOne受注管理レポート.....	467
JD Edwards EnterpriseOne受注管理レポート.....	467
JD Edwards EnterpriseOne受注管理のすべてのレポート.....	467
JD Edwards EnterpriseOne受注管理の主なレポート.....	468
R004203 - 前払取引レポート.....	468
前払取引レポート (R004203) の処理オプション.....	468
R42600 - 販売履歴レポート.....	469
販売履歴レポート (R42600) の処理オプション.....	469
R42611 - 売上分析集計.....	470
売上分析集計レポート (R42611) の処理オプション.....	470
R42620 - 顧客別受注残レポート.....	470
顧客別受注残レポート (R42620) の処理オプション.....	471
R42632 - 品目別受注残レポート.....	471
R42640 - 保留オーダー・レポート.....	471

JD Edwards EnterpriseOne用語集..... 473

索引489

この PeopleBook について

JD Edwards EnterpriseOne製品ガイドでは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの導入と使用に必要な情報が提供されています。

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件
- アプリケーションの基礎
- 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見、ご要望について
- 製品ガイドで使用する共通フィールド

注意: 製品ガイドでは、追加の説明が必要な場合のみ、フィールドやチェックボックスなどの説明を記載しています。処理や業務の説明箇所に、そこで使用されるフィールドの説明がない場合は、追加の説明が必要ないか、または、項、章、製品ガイド全体、製品ライン全体で使用される共通フィールドとして説明されています。すべてのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションで共通して使用されるフィールドは、この章で説明します。

JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件

このガイドの内容を十分に理解して活用するには、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基本的な使い方を熟知している必要があります。

また、少なくとも1つの入門トレーニング・コースを修了することをお薦めします。

この製品ガイドでは、ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneのメニューやフォーム、ウィンドウを使用して、アプリケーションを操作したり、情報を追加、更新、削除したりできることを前提としています。また、Webブラウザと、Microsoft WindowsまたはWindows NTの操作に習熟していることも必要です。

これらの製品ガイドでは、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを効果的に導入および使用するために必要な情報を提供します。そのため、アプリケーションの操作手順など基本的な説明は省略されています。

アプリケーションの基礎

各アプリケーションの製品ガイドでは、それぞれのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

一部のアプリケーションでは、システムの設定や設計に必要な基本情報は、このガイドの姉妹編ともいえるアプリケーションの基礎製品ガイドに記載されています。ほとんどの製品ラインには、アプリケーションの基礎製品ガイドが用意されています。それぞれの製品ガイドのまえがきの章に、関連するアプリケーションの基礎製品ガイドの情報が記載されています。

アプリケーションの基礎製品ガイドで取り上げている項目は、どのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものです。JD Edwards EnterpriseOneシステムを導入する際は、製品ラインの中から1つのアプリケーションだけを導入する場合でも、いくつかのアプリケーションを組み合わせで導入する場合でも、あるいは製品ライン全体を導入する場合でも、アプリケーションの基礎製品ガイドに書かれている内容を十分に理解しておく必要があります。このガイドの内容が、アプリケーションの導入に着手する出発点となります。

最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード

この項では、次の方法について説明します。

- 最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）
- ドキュメンテーションのダウンロード

最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）

本リリースおよび旧リリースの最新版および追加ドキュメンテーションは、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから入手できます。オラクル社のPeopleSoft Customer ConnectionのDocumentationセクションから、ファイルをダウンロードして製品ガイド・ライブラリに追加することができます。このセクションでは、CD-ROMで提供されているすべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションに対する更新事項など、最新かつ有益な資料が提供されます。

重要: アップグレードを行う際は、その前にオラクル社のPeopleSoft Customer Connectionサイトで、アップグレードに関する最新情報があるかどうかを確認してください。オラクル社では、アップグレード手法の向上に伴い、常に最新の情報を掲載するようにしています。

関連項目:

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection: http://www.oracle.com/support/support_peoplesoft.html

ドキュメンテーションのダウンロード

すべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションは、CD-ROMで提供されているだけでなく、オラクル社のWebサイトでも提供されています。Oracle Technology Networkから、PDF版のJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションをダウンロードできます。PDFファイルは、ソフトウェアの出荷後すぐにメジャー・リリース別にオンラインで提供されます。

参照: Oracle Technology Network: <http://www.oracle.com/technology/documentation/psftent.html>

追加情報

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから、次の情報を入手できます。

情報	ナビゲーション
アプリケーションのメンテナンス情報	「Updates + Fixes」
ビジネス・プロセス図	「Support」、「Documentation」、「Business Process Maps」
インタラクティブ・サービス・リポジトリ	「Support」、「Documentation」、「Interactive Services Repository」
ハードウェア要件とソフトウェア要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Hardware and Software Requirements」
インストール・ガイド	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Installation Guides and Notes」
統合情報	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Pre-Built Integrations for PeopleSoft Enterprise and JD Edwards EnterpriseOne Applications」
最低要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Supported Platforms」
最新版ドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」
製品ガイド・サポート・ポリシー	「Support」、「Support Policy」
プレリリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
製品出荷予定	「Support」、「Roadmaps + Schedules」
リリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
リリース・バリュープロポジション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Value Proposition」
製品概要	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Statement of Direction」
トラブルシューティング情報	「Support」、「Troubleshooting」
アップグレード関連のドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Upgrade Documentation and Scripts」

表記規則

ここでは、次の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

表記規則

製品ガイドは、次の表記規則に従って記述されています。

表記規則	説明
太字	PeopleCodeの関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しでそのまま記述すべきPeopleCodeの予約語は太字で記述しています。
斜体	PeopleCodeの構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。
キー+キー	キーを組み合わせる操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら2番目のキーを押すという意味です。たとえば、[Alt]+[W]は、[Alt]キーを押しながら[W]キーを押すことを表します。
固定幅のフォント	PeopleCodeのプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。
... (省略記号)	PeopleCodeの構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。
{ } (中かっこ)	PeopleCodeの構文で、2つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒()で区切られています。
[] (角かっこ)	PeopleCodeの構文で、省略できる要素を示します。
& (アンパサンド)	PeopleCodeの構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。 また、PeopleCodeの変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。

注意事項の表示

表記規則

注意

JD Edwards EnterpriseOneシステムを使って作業するときの注意事項が書かれています。

注意: 注意事項は、このような形式で示しています。

システムが正しく機能するために必ず守っていただきたい大切な事柄は、“重要:”と示されています。

重要: 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

警告

システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

警告: 警告は、このような形式で示しています。

相互参照

相互参照は、“参照”または“関連項目”という形で示しています。通常は、それぞれの説明の後に、その内容に関連する他のドキュメンテーションが示されています。

国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常は項の見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。

特定の国を対象とした見出しの例: 「(FRA)従業員の採用」

特定の地域を対象とした見出しの例: 「(中南米)減価償却の設定」

国の表記

国際標準化機構(ISO)が定める国コードを使って表記しています。

地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

業種の表記

業種を表す名称か略称を使用して表記しています。以下に例を示します。

- USF(米国連邦政府)

- E&G(教育/公的機関)

通貨コード

金額はISOが定める通貨コードを使って表記しています。

ご意見、ご要望をお寄せください

お客様のご意見は非常に貴重です。製品ガイドおよびその他のオラクル社の参考資料やトレーニング・ガイドについて、変更のご希望がございましたら、ぜひご一報ください。日本オラクル株式会社WPTG-Japanのランゲージ・マネージャまで、ご意見、ご要望をお寄せください(宛先: 〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター)。電子メール(etsjpn_us@oracle.com)でも受け付けております。

いただいた電子メールすべてにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

製品ガイドで使用する共通フィールド

住所録番号	エンティティのマスター・レコードを識別する固有の番号を入力します。住所録番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナントなどのIDとして使用できます。アプリケーションによっては、フォーム上の住所録番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員ID、応募者ID、加入者番号などに相当する場合もあります。
仮定通貨コード	取引金額の表示に使用される通貨を指定する3文字のコードを入力します。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照することができます。
バッチ番号	システムによって処理される取引のグループを識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーがバッチ番号を割り当てるか、または自動採番プログラム(P0002)を使用して自動的に割り当てることができます。
バッチ日付	バッチが作成される日付を入力します。このフィールドを空白のままにすると、システム日付がバッチ日付として使用されます。
バッチ状況	<p>バッチの転記状況を示すユーザー定義コード(UDC)テーブル(98/1C)のコードが表示されます。値は次のとおりです。</p> <p>空白: バッチは転記されず、承認が保留状態になります。</p> <p>A: バッチにエラーがなく転記が承認されますが、保留状態でまだ転記されていません。</p> <p>D: バッチが正常に転記されています。</p> <p>E: バッチにエラーが発生しました。転記の前にエラーを修正する必要があります。</p> <p>P: バッチの転記処理中です。転記処理が完了するまで、バッチにアクセスすることはできません。転記中にエラーが発生した場合は、バッチ状況コードがEに変更されます。</p>

	U: 別のユーザーがバッチを操作中のため一時的に使用できないか、またはバッチの処理中に停電があったため、バッチが使用中と認識されています。
事業所	倉庫、作業、プロジェクト、作業場、支店、工場など、配送業務や製造業務が行われる場所や単位を表すコードを入力します。システムによっては、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
ビジネスユニット	原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。システムによっては、事業所と呼ばれる場合もあります。
カテゴリ・コード	特定のカテゴリ・コードを表すコードを入力します。カテゴリ・コードはユーザー定義コードの1つで、各組織の情報追跡(トラッキング)やレポートの要件に合わせてカスタマイズできます。
会社	特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードはF0010テーブルにすでに存在しており、完全な貸借対照表を持つ法人に対応する必要があります。
通貨コード	取引の通貨を表す3文字のコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、国際標準化機構(ISO)が定める通貨コードを使用しています。通貨コードは、F0013テーブルに定義されています。
伝票会社	<p>伝票に関連付けられている会社番号を入力します。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付とあわせて使用され、当初伝票を一意に識別します。</p> <p>会社と会計年度別に次の番号を割り当てる場合は、伝票会社に基づいて、該当する会社に正確な“次の番号”が割り当てられます。</p> <p>2つ以上の当初伝票が同じ伝票番号と伝票タイプを持つ場合は、伝票会社を使用して必要な伝票を表示できます。</p>
伝票番号	伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなどの当初伝票を識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーが当初伝票番号を割り当てるか、または自動採番プログラムを使用して自動的に割り当てることができます。
伝票タイプ	<p>ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に定義された、取引の発生元と目的を表す2文字のユーザー定義コード(伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなど)を入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、伝票タイプ用に次のプレフィックスが予約されています。</p> <p>P: 買掛金伝票 R: 売掛金伝票 T: 時間および給与伝票 I: 在庫伝票 O: 購買オーダー伝票 S: 受注オーダー伝票</p>
有効日付	<p>住所、品目、取引、またはレコードがアクティブになる日付を入力します。このフィールドの意味は、プログラムによって異なります。たとえば、有効日付で次の日付を表すことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 住所の変更が有効になる日付 • 賃貸契約が有効になる日付

- 価格が有効になる日付
- 為替レートが有効になる日付
- 税率が有効になる日付

会計期間、会計年度

元帳で使用される会計期間および会計年度を示す数値を入力します。多くのプログラムでは、このフィールドを空白のままにできます。その場合、会社名および番号プログラム(P0010)で定義された現在の会計期間と会計年度が使用されます。

元帳日付

取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。取引で入力した日付と会社割り当てられた会計期間パターンが比較されて、適切な会計期間番号と会計年度が取得されると同時に、日付検証が実行されます。

JD Edwards EnterpriseOne受注管理 – まえがき

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne製品
- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎
- この製品ガイドで使用する共通フィールド

JD Edwards EnterpriseOne製品

この製品ガイドには、オラクル社の次のJD Edwards EnterpriseOne製品が関連しています。

- JD Edwards EnterpriseOne買掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne売掛管理
- JD Edwards EnterpriseOneバルク在庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne基本設定 – 住所録
- JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ
- JD Edwards EnterpriseOne一般会計
- JD Edwards EnterpriseOne一般会計
- JD Edwards EnterpriseOne在庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne調達管理
- JD Edwards EnterpriseOne所要量計画
- JD Edwards EnterpriseOne受注管理
- JD Edwards EnterpriseOne輸送管理
- JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理

JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎

システムの設定や設計に必要な基本情報は、このドキュメンテーションの姉妹編とも言える『JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド』に記載されています。

JD Edwards EnterpriseOneの最低要件に記載されているとおりに、リリースでサポートされているプラットフォームに準拠する必要があります。また、JD Edwards EnterpriseOneは、オラクル社の他の製品と統合、連結または連携する場合があります。オラクル社の様々な製品の互換性を確保するため、プログラムの事前設定やバージョンの相互参照マニュアルについて<http://oracle.com/contracts/index.html>のプログラム・ドキュメンテーションにある相互参照資料を参照してください。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 – まえがき」

この製品ガイドで使用する共通フィールド

顧客No.、顧客

JD Edwards EnterpriseOne 基本設定 – 住所録に、従業員、応募者、加入者、顧客、仕入先、テナント、ロケーションなどの項目を識別する番号を入力します。

この番号は、住所録レコードに関する情報の検索および入力に使用できます。詳細住所や税IDなど、住所録番号 (AN8) 以外の値を入力した場合は、JD Edwards EnterpriseOne 基本設定 – 住所録固定情報で定義した特殊文字を前に付ける必要があります。レコードが検出されると、そのレコードの住所録番号がこのフィールドに表示されます。

たとえば、住所録番号 4100 (Total Solutions) の詳細住所が TOTAL で、JD Edwards EnterpriseOne 基本設定 – 住所録固定情報で定義した詳細住所を区別する記号が * (アスタリスク) の場合、このフィールドに「*TOTAL」と入力して検索すると、4100 が表示されます。

顧客購買オーダー

相互参照番号または 2 次参照番号として使用する購買オーダーの番号を入力します。

顧客価格グループ、顧客グループ

この顧客または仕入先に関連付けられている価格設定グループを識別する UDC 40/PC の値を入力します。

受注オーダーでは、「顧客請求指示」フォームで価格設定グループを顧客に割り当てます。通常、小売業者や卸売業者など、共通の価格設定特性を持つ顧客がグループに含まれます。

購買オーダーでは、仕入先請求指示のフォームで価格設定グループを仕入先に割り当てます。

有効日付、有効開始、有効開始日付

住所、品目、取引またはレコードがアクティブになる日付を入力します。このフィールドの意味は、プログラムによって異なります。たとえば、有効日付の場合は、次のいずれかの日付を表すことができます。

- 住所の変更が有効になる日付
- 賃貸契約が有効になる日付
- 価格が有効になる日付
- 為替レートが有効になる日付
- 税率が有効になる日付

デフォルトは現在のシステム日付です。将来予定されている変更にあわせて将来の有効日付を入力できます。

有効期限、有効終了、有効終了日付

住所、品目、取引またはレコードが無効になる日付を入力します。このフィールドの意味は、プログラムによって異なります。デフォルトの日付は、データ辞書で「変換世紀年」フィールドに定義されているデフォルト年度の 12 月 31 日です。

品目 No.	<p>品目を識別する番号を入力します。システムには、3つの個別の品目番号と代替品目番号に対する広範な相互参照機能が用意されています。3つの品目番号は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 品目番号(略式) 自動的に割り当てられる8桁の番号です。 • 第2品目番号 英数字を使用してユーザーが定義する25桁の品目番号です。 • 第3品目番号 英数字を使用してユーザーが定義する、25桁の、もう1つの品目番号です。 <p>これら3つの基本品目番号の他に、広範な相互参照検索機能が用意されています。これにより、他の部品番号に対する相互参照を多数定義できます。たとえば、代替品目番号、置換品目、販促品、バーコード、顧客番号、仕入先番号などを定義できます。</p>
品目価格グループ、品目グループ	<p>品目の在庫価格グループを識別するユーザー定義コード(40/PI)の値を入力します。</p> <p>在庫価格グループには、独自の価格設定構造があり、この構造により、受注オーダーや購買オーダーの品目に組み込まれた値引や割増が適用されます。この割引や割増は、発注された品目の数量、金額または重量に基づいています。品目に価格グループを割り当てると、その品目は在庫価格グループに対して定義されたものと同じ価格設定構造を持ちます。</p> <p>受注オーダーや購買オーダーの値引と割増は、対話形式で品目グループに基づいて計算されるため、調整定義または品目に在庫価格グループを割り当てする必要があります。</p>
前状況	<p>UDC 40/ATの値により、このオーダー行について正常に完了した、処理サイクル内の最後のステップを確認できます。</p>
行タイプ	<p>トランザクションの行の処理方法を制御するコードを入力します。この値によって、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne一般会計システム、JD Edwards EnterpriseOne作業原価システム、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システム、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システム、JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムとのトランザクションのインターフェイスを設定します。</p> <p>また、行のレポートへの出力や計算への組み込みの条件も行タイプによって決まります。通常次のようなコードを使用します。</p> <p>S: 在庫品目 J: 作業原価 N: 非在庫品目 F: 運賃 T: テキスト情報 M: その他費用 W: 作業オーダー</p>

保管場所	<p>在庫を出荷または入荷する倉庫内の区域を入力します。保管場所フォーマットは、ユーザーが定義し、事業所別に入力します。</p> <p>保管場所フォーマットはそれぞれの要素の他、任意で区切り文字から構成されます。このフィールドのすべての要素の長さの合計は、区切り文字を含めて20文字以下に制限されています。</p>
ロットNo.、ロット/シリアル	<p>ロットまたはシリアル番号を識別する番号を入力します。ロットは、類似の特性を持つ品目のグループです。</p>
オーダー会社	<p>オーダー番号とオーダー・タイプとともに、オーダー伝票(購買オーダー、契約、受注オーダーなど)を一意に識別する数字を入力します。</p> <p>会社/会計年度別自動採番機能を使用すると、自動採番プログラム(P0010)はオーダー会社を使用して、この会社用の正しい次の番号を取得します。複数のオーダー伝票のオーダー番号とオーダー・タイプが同一の場合、オーダー会社で目的の伝票を見つけることができます。</p> <p>正規の自動採番機能を使用した場合は、次の番号の割当にオーダー会社は使用されません。このため、伝票の検索にオーダー会社は使用されません。</p>
オーダー日付	<p>このフィールドにより、オーダーがシステムに入力された日付を確認できます。この日付によって、在庫価格設定に使用される有効レベルが決まります。</p>
支払手段	<p>顧客による支払方法を指定するUDC 00/PYの値を入力します。</p> <p>たとえば、小切手の場合は「C」、電子送金の場合は「T」を入力します。</p>
支払条件、デフォルト支払条件	<p>請求書が割引期日内に支払われた場合に適用される割引率など、支払条件を指定するコードを入力します。ブランクのコードは、最も使用頻度の高い支払条件を示します。</p> <p>各支払条件タイプは「支払条件の改訂」フォームで定義します。支払条件には次のようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ブランク: 15日以内 • 001: 30日(10日以内1%割引) • 002: 30日(10日以内2%割引) • 003: 各月10日払い • 006: 受取り時払い <p>支払条件コードは、顧客請求書に印刷されます。</p>
オーダー数量	<p>顧客がオーダーした数量を入力します。</p>
要求日付	<p>顧客が配送を要求した日付を入力します。要求日付は、品目が顧客保管場所に到着する必要がある日付です。</p>
要求時刻	<p>配送が要求される時刻を入力します。24時間制のフォーマット(HHMMSS)を使用して時刻を入力します。たとえば、午前6:00は「060000」、午後7:00は「190000」と入力します。</p>
改訂No.	<p>このフィールドにより、このオーダーが修正された回数を確認できます。特定のオーダー変更回数を検索して、変更されたフィールドを確認できます。</p>

このフィールドが使用されるのは、受注オーダー入力プログラム(P4210およびP42101)の処理オプションで監査ログ機能が有効で、受注オーダーの顧客に対して顧客請求指示で監査ログをバイパスしていない場合のみです。

出荷先

このオーダーの出荷先の所在地の住所番号を入力します。番地、市町村、都道府県、郵便番号、国など、顧客の住所に対するデフォルト値は住所録から設定されます。

販売先

従業員、応募者、関連会社、顧客、仕入先、テナント、所在地などの、JD Edwards EnterpriseOne住所録システムの項目を識別する番号を入力します。販売先顧客の住所により、商品の販売先となる顧客事業体が識別されます。

税域/コード、税域、税率/税域

共通の税率と納税先が割り当てられる税域または地域を示すコードを入力します。入力したコードは、税域テーブル(F4008)に対して検証されます。この税率/税域は、請求書または伝票を作成する際に、税目コードおよび税規則と併せて税額と元帳配賦金額の計算に使用されます。

免税証明番号

免税対象の個人または法人に対して課税当局が発行した、免税状況を識別する番号を入力します。

単位

在庫品目の数量を定義するための測定単位を指定するUDC 00/UMの値を入力します。たとえば、ケース単位の場合は「CS」、箱単位の場合は「BX」と入力します。

単位価格

品目1単位に対して請求される表示価格または基本価格を確認または入力します。品目基本価格テーブル(F4106)に価格を設定していない場合は、受注オーダーの価格を手動で入力する必要があります。

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 – はじめに

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne 受注管理の概要
- JD Edwards EnterpriseOne 受注管理のビジネス・プロセス
- JD Edwards EnterpriseOne 受注管理の統合
- JD Edwards EnterpriseOne 受注管理の導入

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理の概要

受注管理業務には、受注と出荷以外にも様々な作業が含まれます。顧客の満足を勝ち得、さらなるビジネスの展開を可能にするには、ビジネスに対してもシステムに対しても柔軟性が求められます。今日の受注オーダー・システムには、次のような機能が不可欠です。

- 単純なオーダーにも複雑なオーダーにも対応できなければなりません。
- 在庫システムと緊密に統合されていて、オーダー入力時に在庫を割り当てることができる必要があります。
- キットおよびコンフィギュレーション品目に対して受注オーダーを作成できなければなりません。
- 販促用の価格設定を設定および使用できなければなりません。

オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムを使用すると、システムの次のような機能を使用して顧客サービスを向上させることができます。

- オーダー・テンプレート

通常一緒に販売される品目のリストが含まれるオーダー・テンプレートを作成できます。オーダー入力時にテンプレートを使用すると、データ入力にかかる時間や入力ミスを大幅に減らすことができます。

- 定期オーダーおよび一括オーダー

品目を定期的にオーダーする顧客に対して定期オーダーを作成できます。たとえば、顧客は1つの品目を大量にオーダーすることで、割引価格の適用を受けることができます。ただし、合計数量を何回かに分けて配送するよう顧客が希望したとします。このような場合に一括オーダーを使用します。

- 見積オーダー

見積オーダーを作成することで、顧客または見込顧客に対して彼らが関心のある商品について見積を提出できます。その後顧客がこの品目の購買を決定したときに、見積を受注オーダーに変換できます。

- 各国で定められている条件の準拠

ブラジル、チリ、ペルーなど、多くの国々で、受注オーダーの処理および課税方法について、その国独自の法的規制が定められています。JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムを使用すると、これらの国々で特有の要件に受注オーダーを準拠させるために必要な情報を処理できます。

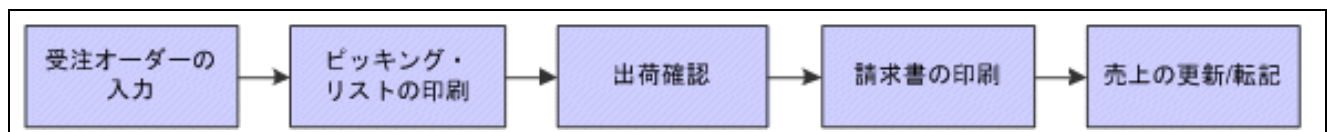
さらに、JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムでは、次をオンラインで表示することにより、付加的な顧客サービス・サポートも提供されます。

- 関連オーダー、在庫、輸送、財務情報
- 販売促進や値引、割当などを適用する場合の製品ラインごとの正味収益性

顧客や市場に特定の契約や特別の販売促進、価格調整、有効日付などを考慮した効率的な価格設定が必要になります。JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムでは、基本価格設定の構造を柔軟に設定できます。その後で価格調整を定義し、必要に応じて価格の改訂と更新を行うことができます。

JD Edwards EnterpriseOne受注管理のビジネス・プロセス

次のプロセス・フローは、JD Edwards EnterpriseOne受注管理の標準的なビジネス・プロセスを表しています。



受注オーダーのビジネス・プロセスでは、オーダー処理の管理および、重要なビジネス・データの取得と分析を効率的に行うことができます。顧客サービス担当者がオーダーを受けてから、ユーザーが顧客から支払を受けるまで、プロセスを効率的に管理する必要があります。

受注オーダーの入力

オーダーを入力することで、顧客および顧客がオーダーした品目に関する情報を記録できます。オーダーを入力する際、顧客、品目、優先情報および価格設定レコードに対して存在する関連情報が自動的に入力されます。この手順を完了すると、ただちに受注処理が開始されます。

ピッキング・リストの印刷

受注オーダーの入力後、倉庫の従業員に対して、数量分の商品を在庫から引き当てて出荷の準備をすることを承認するピッキング・リストを印刷できます。この手順は任意となります。

出荷の確認

受注オーダーの全品目が倉庫から正しくピッキングされ、出荷に向けて適切に梱包されていることを確認します。

請求書の印刷

出荷確認を通じて受注オーダーを処理した後、請求書を印刷して商品の顧客に送信します。

売上の更新/転記

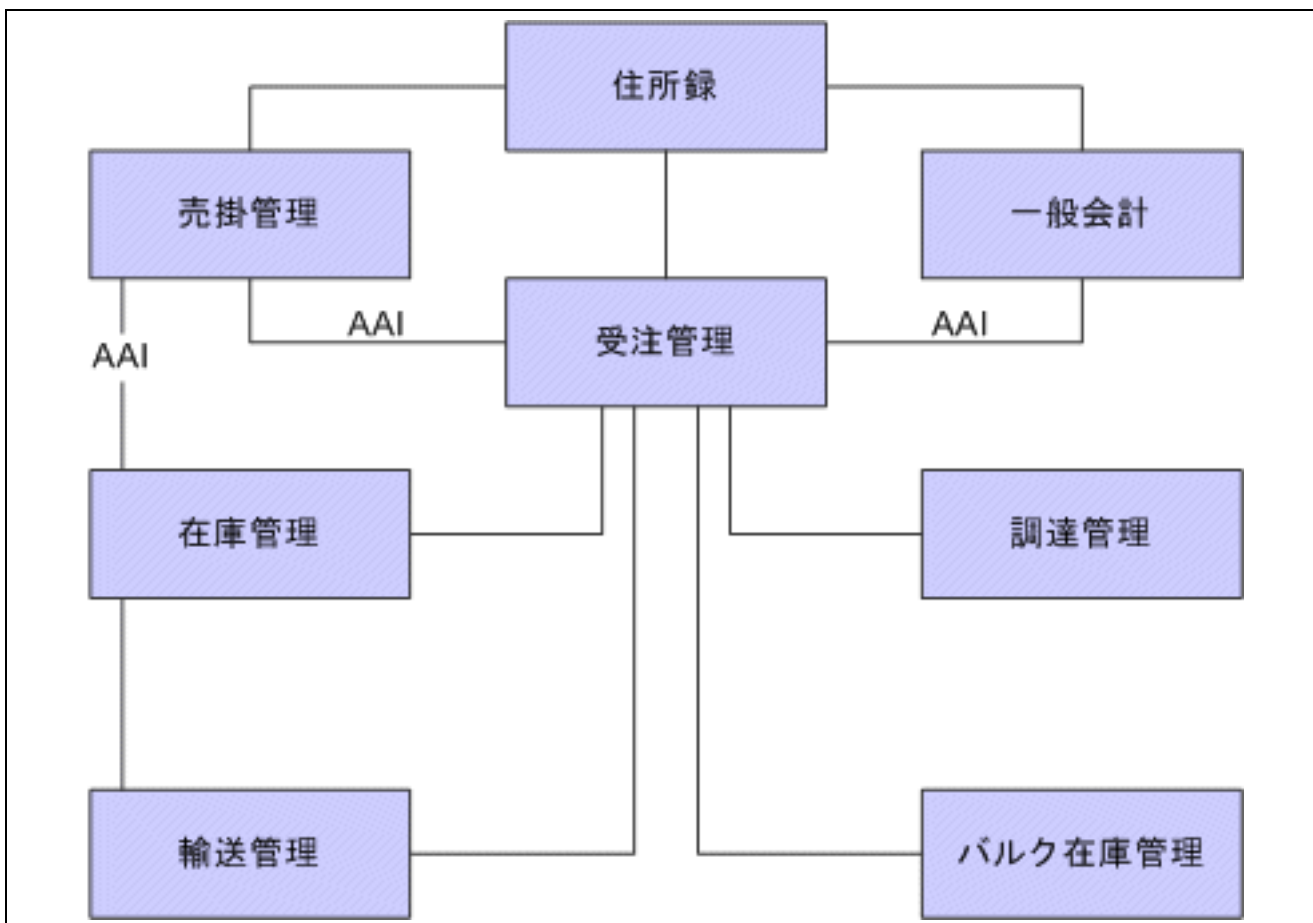
1日の最後に売上情報を更新して、次のレコードを最新の正確なものとして維持します。

- 売掛金
- 在庫手持残高
- 売上およびコミッション情報
- 価格設定

売上の更新後、売上仕訳および請求書バッチを総勘定元帳に転記する必要があります。この手順により、受注処理サイクルが完了します。

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理の統合

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理は、オラクル社の次の JD Edwards EnterpriseOne システムと統合されています。



JD Edwards EnterpriseOne 受注管理と統合されているシステム

顧客の需要を確実に満たすことを期すため、JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムは他の会計システム、流通管理システム、ロジスティクス・システム、製造システムと統合されています。顧客の需要を満たすためには、需要と供給をより正確に把握する必要があります。これは、各システムを効果的に連携させ、流通およびロジスティクス情報を積極的に活用することにより実現できます。

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理

オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムとの統合により、受注処理時に顧客勘定にアクセスできます。たとえば、与信チェック・プログラム (P42050) を使用して、顧客の売掛金合計および受注残と与信限度額とを比較します。売上情報を毎日更新し、最新の売掛金レコードを管理します。

JD Edwards EnterpriseOne住所録

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne住所録システムには、顧客に関する最新情報(たとえば、住所、連絡先情報、電話番号、ファックス番号、請求指示、デフォルトの出荷および請求情報など)が保存されます。

JD Edwards EnterpriseOneバルク在庫管理

JD Edwards EnterpriseOne受注管理は、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneバルク在庫管理システムと統合できます。バルク製品のオーダー識別用に、異なる伝票タイプの設定が可能です。定義したオーダー・タイプと行タイプの組合せに基づいて、受注オーダーの出荷が自動的に作成されます。その後で出荷の改訂や追加、出荷品を入れた積荷の作成が可能です。

JD Edwards EnterpriseOne一般会計

統合の中心点は、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムであり、受注に関するすべての会計情報がこのシステムによって保管およびトラッキングされます。オーダーを作成して転記すると、総勘定元帳に仕訳が作成されることにより、勘定残高が確実に更新されて入金記録と財務報告が可能になります。すべての流通管理システムは、AAI(自動仕訳)により一般会計とインターフェイスをとります。

JD Edwards EnterpriseOne在庫管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムに保存されている品目情報は、JD Edwards EnterpriseOne受注管理システム、JD Edwards EnterpriseOne調達管理システム、JD Edwards EnterpriseOne製造管理システムおよびJD Edwards EnterpriseOne Supply Chain Managementシステムで使用されます。JD Edwards EnterpriseOne在庫管理では、売上原価、購買原価、保管場所別の引当可能数量も保存され、販売に使用できない保管場所にある保留品もトラッキングされます。在庫評価や棚卸差異、移動による変更があると、総勘定元帳が更新されます。

JD Edwards EnterpriseOne調達管理

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムでは、直送オーダーと転送オーダーの処理をサポートします。このシステムを使用して、バックオーダー品目に関する受領書をリリースできます。

JD Edwards EnterpriseOne輸送管理

JD Edwards EnterpriseOne受注管理をオラクル社のJD Edwards EnterpriseOne輸送管理システムと緊密に統合することで、運送業者向け機能や出荷機能および上級の受注オーダー・バルク在庫機能を提供できます。

JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムでJD Edwards EnterpriseOne輸送管理システムとのインターフェイスを設定することにより、受注オーダーで次の処理ができるようになります。

- トリップの作成
- バルクおよびパッケージ製品の積荷および配送
- 運賃の計算

積荷および配送の確認の際に、製品の原価情報が取り込まれ、JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムから在庫がリリースされます。取り込まれる原価情報は、JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムで積荷および配送確認済として報告された受注オーダーを基準としています。

さらに、次の手順で総勘定元帳が更新されます。

シナリオ	行われるタスク
請求書日付が将来の場合の積荷確認	<ul style="list-style-type: none"> 積送中仕訳を作成する。 サイクル請求により、繰延売上原価、収益、売掛勘定項目が作成される。
請求書日付が将来でない場合の積荷確認	積送中仕訳を作成する。
請求書日付が将来の場合の積荷および配送確認	サイクル請求により、在庫、繰延売上原価、収益、売掛勘定項目が作成される。

JD Edwards EnterpriseOne受注管理の導入

この項では、JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムの導入に必要な手順について説明します。

導入の計画段階では、インストール・ガイドやトラブルシューティング情報など、JD Edwards EnterpriseOneに関して提供されるすべての情報を活用してください。『この製品ガイドについて』のまえがきの章では、参考となるリソースの一覧が提供されています。また、各リソースの最新バージョンの掲載場所についても記載があります。

JD Edwards EnterpriseOne受注管理について、どのESU(電子ソフトウェア更新)をインストールするかを決める際は、EnterpriseOne and World Change Assistantを使用します。JavaベースのツールであるEnterpriseOne and World Change Assistantを使用すると、必要となるESUを検索してダウンロードするためにかかる時間を75%以上削減できます。さらに、複数のESUを一度にインストールすることも可能です。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Software Update Guide

JD Edwards EnterpriseOne受注管理を導入するためのOracle Business Accelerator(OBA)ソリューションの詳細は、公開されているドキュメンテーションを参照してください。

参照: http://www.peoplesoft.com/corp/en/iou/implement/rapid_start/rapid_start_prtr_notes.jsp

グローバル導入の手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムのグローバル導入の推奨手順を示します。

手順	参照
1. グローバル・ユーザー定義コード(UDC)を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Foundation Guide
2. 会社、会計期間パターンおよびビジネスユニットを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「組織の設定」
3. 自動採番を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Foundation Guide
4. 勘定科目と勘定科目表を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「勘定科目表の作成」
5. 一般会計固定情報を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計固定情報の設定」

手順	参照
6. 通貨コードや為替レートなどの多通貨処理を設定します。	
7. 元帳タイプ規則を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計システムの元帳タイプ規則の設定」
8. 事業所固定情報、デフォルト事業所およびプリンタ、製造および流通AAI、伝票タイプなどの在庫情報を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「在庫管理システムの設定」
9. 製造現場カレンダーを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 9.0 製品ガイド、「製造現場管理システムの設定」
10. 住所録で顧客の住所情報を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録レコードの入力」、「住所録レコードの入力」
11. 会社別顧客マスターで顧客を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理 9.0 製品ガイド、「顧客マスター情報の設定」
12. 事業所を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録レコードの入力」、「住所録レコードの入力」 JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「組織の設定」、「ビジネスユニットの設定」

受注管理導入の手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne受注管理のアプリケーション別の推奨導入手順を示します。

手順	参照
1. JD Edwards EnterpriseOne受注管理のユーザー定義コードを設定します。	第 2 章、「受注管理システムの設定」、「UDCの設定」、10ページ
2. 固定情報を設定します。	第 2 章、「受注管理システムの設定」、「固定情報の設定」、12ページ
3. JD Edwards EnterpriseOne受注管理に対する AAIを設定します。	第 2 章、「受注管理システムの設定」、「受注管理のAAIの設定」、27ページ
4. オーダー行タイプを定義します。	第 2 章、「受注管理システムの設定」、「オーダー行タイプの設定」、31ページ
5. オーダー処理規則を定義します。	第 2 章、「受注管理システムの設定」、「オーダー処理規則の設定」、35ページ
6. コミッション情報を設定します。	第 3 章、「オーダー処理情報の設定」、「コミッション情報の設定」、40ページ
7. 事業所間の原価割増しを定義します。	第 3 章、「オーダー処理情報の設定」、「事業所間販売価格割増の設定」、46ページ
8. (省略可) 任意勘定科目設定コードを定義します。	第 3 章、「オーダー処理情報の設定」、「任意勘定科目設定コードの定義」、48ページ

手順	参照
9. オーダー・テンプレートを作成します。	第 3 章、「オーダー処理情報の設定」、「オーダー・テンプレートの作成」、54 ページ
10. オーダー保留情報を設定します。	第 3 章、「オーダー処理情報の設定」、「オーダー保留情報の設定」、58 ページ
11. (省略可)セルフサービス情報を設定します。	第 3 章、「オーダー処理情報の設定」、「受注管理システムのセルフサービス情報の設定」、64 ページ
12. レコード予約を設定します。	第 3 章、「オーダー処理情報の設定」、「レコード予約について」、40 ページ
13. 関連住所を設定します。	第 4 章、「顧客情報の設定」、「関連住所の設定」、70 ページ
14. 顧客請求指示を設定します。	第 4 章、「顧客情報の設定」、「顧客請求指示の設定」、75 ページ
15. 日付基準顧客セットを設定します。	第 4 章、「顧客情報の設定」、「日付基準顧客セットの設定」、85 ページ
16. UCC 128 に準拠した情報を設定します。	第 5 章、「UCC 128 準拠の設定」、93 ページ
17. 基本価格、基本価格設定構造、複合価格グループ、標準価格調整を設定します。	第 6 章、「基本価格設定および標準価格設定の設定」、107 ページ
18. 返品承認デフォルトおよび返品承認を設定します。	第 16 章、「返品承認の生成」、403 ページ
19. 基本優先情報および詳細優先情報を設定します。	第 17 章、「優先情報の有効化」、417 ページ

第 2 章

受注管理システムの設定

この章では、受注管理のシステム構成の概要および次の方法について説明します。

- ユーザー定義コード(UDC)の設定
- 固定情報の設定
- 受注管理のAAI(自動仕訳)の設定
- オーダー行タイプの設定
- オーダー処理規則の設定

受注管理のシステム構成について

JD Edwards EnterpriseOne受注管理を使用する前に、処理に必要な情報を定義する必要があります。この情報を使用して、会社のビジネス・ニーズに合ったシステム構成を行います。

次の表に情報の設定方法を説明します。

設定情報	説明
UDC	UDCを設定して、システムをオーダー処理用に設定できます。
固定情報	<p>固定情報を設定して、次のようなデフォルト情報を提供できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• システム固定情報によって、実行する機能が決まります。• バッチ制御固定情報によって、アプリケーションに管理者承認とバッチ制御が必要かどうかが決まります。• 事業所固定情報によって、事業所内の日次トランザクションが制御されます。• 保管場所フォーマットにより、事業所での品目保管場所を識別する方法が決まります。• 品目引当可能数量によって、各事業所にある品目数量の計算方法が決まります。
オーダー行タイプ	オーダー明細行の処理方法を指定するコードを定義できます。

設定情報	説明
オーダー処理規則	オーダー処理ステップの順序を設定できます。
AAI	AAIを設定して、JD Edwards EnterpriseOne一般会計と連動する際に必要な会計情報と総勘定元帳との関係情報をJD Edwards EnterpriseOne受注管理に提供します。

UDC の設定

この項では、JD Edwards EnterpriseOne受注管理に設定する各UDCの概要について説明します。

UDCにより、システムの動作を設定できます。次のコード・タイプをUDCテーブルに追加します。

自動TPロールバック・レベル - (00/AT)

このUDCの「特殊取扱」フィールドに値「1」を入力すると、トランザクション・ワークファイル・テーブル (F41021WF) に一時的にデータが取り込まれます。このデータで品目保管場所テーブル (F41021) が更新され、正常に在庫引当が行われた後、トランザクション・ワークファイル・テーブルからデータが削除されます。

参照: 第 11 章、「受注オーダーの処理」、「トランザクション処理について」、290ページ

前払の状況コード (00/SP)

状況コードを使用して、前払状況を指定します。次の状況が事前定義済みであり、ハードコード化されています。

- ブランク: 事前承認
- 01: 承認のために送信
- 02: 承認済み
- 03: 決済準備完了
- 04: 決済のために送信
- 05: 決済済み
- 06: 権限拒否/エラー
- 07: 決済拒否/エラー

ハードコード化された状況は変更しないでください。

支払手段 (00/PY)

前払処理用のトランザクションを識別するには、特殊取扱コードが割り当てられた支払手段を使用する必要があります。ここでは、まずハードコード化されている支払タイプを示し、次にソフトコード化されている支払タイプを示します。

次の支払手段はハードコード化されています。

- X: 電子データ交換 (EDI) 手形 (ARおよびAP) を使用する。
- Y: EDI振込 (ARおよびAP) を使用する。

- Z: EDI小切手 (ARおよびAP)を使用する。
- ?: クレジット・カード払いを使用する。

ハードコード化された支払手段コードは変更しないでください。

次の支払手段はソフトコード化されています。

- C: 小切手 - 8 3/4 (ARおよびAP)
- D: 請求書別手形 (ARおよびAP)
- N: 小切手の印刷 - ブラジル
- T: 電子資金決済 (EFT) (ARおよびAP)
- W: 小切手 - 8 1/2 (ARおよびAP)

00/PYの前払特殊取扱コード

前払処理は、支払手段UDC(00/PY)の「特殊取扱コード」カラムの値によって制御されます。つまり、支払タイプの取扱コードを設定する場合は、承認と決済サイクルを通じて取引が処理されます。JD Edwards EnterpriseOneでは、次の特殊取扱コードで事前定義された支払タイプがあります。

- 11: 現金払い
- 12: 小切手払い
- 13: クレジット・カード払い

一括/見積オーダー・タイプ(40/BT)

このUDCテーブルを使用して、一括オーダーおよび見積オーダーを設定するために使用されるオーダー・タイプを指定します。

手持数量リリース(40/IU)

このUDCテーブルを使用して、出荷確認時にオーダー・タイプの手持在庫がリリースされるかどうかを指定します。このテーブルにオーダー・タイプを設定しない場合、売上更新プログラム(R42800)の実行時に手持在庫がリリースされます。

オーダー・テンプレート(40/OT)

オーダー・テンプレートを作成する前に、このUDCテーブルにテンプレート名を追加しておく必要があります。このテーブルにテンプレートを追加しない場合、顧客テンプレートの改訂プログラム(P4015)を使用してテンプレートを設定できません。

相互参照タイプ・コード(41/DT)

このUDCテーブルを使用して、代替品目、補足品目、置換品目などの様々な相互参照タイプを指定します。また、顧客または仕入先の部品番号を参照するためにも使用されます。これらのコードを有効に利用するには、品目相互参照プログラム(P4104)を使用して品目の相互参照情報を入力する必要があります。

保留コード(42/HC)

JD Edwards EnterpriseOneでは、デフォルト・コードAH(承認保留)がこのUDCに設定され、承認処理に使用されます。特殊取扱コード1を指定すると、別の承認保留コードを追加できます。

固定情報の設定

この項では、JD Edwards EnterpriseOne受注管理の固定情報の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 事業所固定情報の設定
- 在庫状況の設定
- システム固定情報の設定
- バッチ制御固定情報の設定
- 保管場所フォーマットの設定
- 事業所内の保管場所の設定

受注管理の固定情報について

固定情報は、情報の処理方法を定義するために設定する情報です。固定情報は、多くのJD Edwards EnterpriseOneシステムでデフォルト情報として使用されます。システム全体で使用するデフォルト情報を定義した後、個別に適切な値を入力したり、事前定義した値を変更したりできます。

事業所固定情報により、流通/製造管理システムの各事業所で発生する日次トランザクションの処理を設定できます。

注意: オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne倉庫管理システムを使用する場合、事業所固定情報プログラム(P41001)の「事業所保管場所の定義」フォームで倉庫情報を定義する必要があります。倉庫管理システムを使用しない場合でも、保管場所の長さ情報は定義してください。

在庫状況

事業所ごとに在庫状況の計算方法を定義する必要があります。在庫状況は、システムによるバックオーダー、取消、顧客納入時期の計算方法に影響します。

注意: オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータを使用している場合、コンフィギュレータ固定情報プログラム(P3209)の「在庫確認」フィールドを設定して、受注オーダー入力中に品目引当可能数量をチェックする必要があります。品目とストリングが完全に一致するものが検索されると、ウィンドウに特定の構成のある保管場所がすべて表示されます。

システム固定情報

システム固定情報を定義して、実行する機能を決定します。たとえば、事業所が複数あり、それぞれの事業所で異なる単位を使用するとします。この場合、システム固定情報を設定して、単位を事業所別に自動換算できます。

システム固定情報はすべての事業所に適用されます。事業所ごとに設定を構成することはできません。

バッチ制御固定情報

権限のないユーザーが総勘定元帳を変更できないようにするには、バッチ制御固定情報を定義します。また、バッチ・ジョブの実行前にバッチ制御情報の入力を要求するように指定できます。バッチ制御情報を入力して、ジョブの予測サイズと実行結果を比較できます。

使用する流通および製造管理の各システムについて、管理者承認とバッチ制御をそれぞれ定義します。

保管場所制御

保管場所制御は、事業所固定情報で有効にするJD Edwards EnterpriseOne機能です。各事業所に特定の保管場所情報を指定できます。各事業所では、特定の品目保管場所に関する固有の情報を設定することが可能です。

JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理では保管場所制御は必須ですが、JD Edwards EnterpriseOneの他のすべての流通管理システムでは任意です。

保管場所フォーマット

保管場所フォーマットを定義することで、品目保管場所の設定方法を指定できます。保管場所フォーマットの要素として、実際の保管場所の詳細な情報を定義できます。要素とは、通路、棚番、棚、事業所で使用するその他の保管場所などです。

保管場所フォーマットには、通路や棚、棚番などの要素を最高10個まで定義できます。要素ごとに、次の項目を定義できます。

- 長さ

すべての要素の長さの合計は、区切り文字を含めて20文字以下に制限されています。区切り文字はテーブルには保存されませんが、保管場所コードをフォームまたはレポートに表示する際に使用されます。区切り文字を使用しない場合は、区切り文字のフィールドはブランクにします。保管場所は、連続の文字列として表示されます。

- 位置揃え

- 区切り文字

JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理を使用している場合は、容量、寸法、重量のデフォルト単位も指定してください。

事業所の保管場所

保管場所フォーマットを定義したら、倉庫内のすべての保管場所を定義します。倉庫内に保管場所の階層を定義して、各区域に関する情報を入力しておく、品目を簡単に検索できるようになります。

基本保管場所を定義して、倉庫内の品目に関する基本情報を保存することもできます。基本保管場所は、実際に存在する物理的な保管場所ではありません。たとえば、基本保管場所を「保管場所A」として定義し、倉庫内の全品目をAで始まる保管場所に割り当てることができます。

また、在庫品目の基本保管場所としてブランクの保管場所を定義することもできます。基本保管場所の表示方法は、事業所に対して定義する保管場所フォーマット仕様に基づきます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 事業所の住所録レコードを作成します。
- ALL(すべて)という名称の事業所を設定します。
- 事業所をビジネスユニットとして設定します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「EnterpriseOne価格管理の設定」、「システム固定情報の設定」

JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「仕入先の管理」、「仕入先パフォーマンス情報の管理」

JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「品目および数量情報の検討」、「パフォーマンス情報の検討」

JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録レコードの入力」

固定情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
事業所固定情報の処理	W41001B	「受注管理システム・セットアップ」(G4241)、「事業所固定情報」	事業所固定情報レコードを検討して選択します。
事業所固定情報	W41001H	「事業所固定情報の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	事業所固定情報を設定します。 事業所固定情報レコードを追加して改訂します。
在庫状況の定義	W41001G	事業所固定情報レコードを選択した後、「事業所固定情報の処理」フォームで「ロー」メニューの「在庫状況」を選択します。	在庫状況を設定します。 在庫状況の定義を追加して改訂します。
システム固定情報	W41001F	「事業所固定情報の処理」フォームで、「フォーム」メニューの「システム固定情報」を選択します。	システム固定情報を設定します。 システム固定情報を追加して改訂します。
アプリケーション固定情報	W41001E	「事業所固定情報の処理」フォームで、「フォーム」メニューの「アプリケーション固定情報」を選択します。	バッチ制御固定情報を設定します。 バッチ制御固定情報を追加して改訂します。
事業所保管場所の定義	W41001A	事業所固定情報レコードを選択した後、「事業所固定情報の処理」フォームで「ロー」メニューの「保管場所の定義」を選択します。	保管場所フォーマットを設定します。 保管場所定義を追加して改訂します。
保管場所情報の入力	W4100B	事業所固定情報レコードを選択した後、「事業所固定情報の処理」フォームで「ロー」メニューの「保管場所」を選択します。	事業所内の保管場所を設定します。 事業所の保管場所情報を追加して改訂します。

事業所固定情報の設定

「事業所固定情報」フォームにアクセスします。

事業所固定情報 - 事業所固定情報			
OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)			
<div> </div>			
事業所	30	Eastern Distribution Center	
住所No.	6031	Eastern Distribution Center	
略式品目番号の識別記号	/	<input checked="" type="checkbox"/> バックオーダー許可 <input checked="" type="checkbox"/> 一般会計インターフェイス <input type="checkbox"/> 総勘定元帳への数量書込み <input type="checkbox"/> 保管場所制御 <input type="checkbox"/> 倉庫管理制御 <input type="checkbox"/> 品質制御 <input type="checkbox"/> 製造原価明細の使用 <input type="checkbox"/> 他社デボ <input checked="" type="checkbox"/> 在庫ロットの作成 <input type="checkbox"/> 保管場所セグメント制御	
第2品目番号の識別記号			
第3品目番号の識別記号	*		
顧客/仕入先の識別記号	#		
セグメント品目の識別記号	@		
セグメント区切り文字			
引当方法	1		
指定引当(日数)	999		
年間日数	260		
顧客相互参照コード	C		
仕入先相互参照コード	VN	在庫維持費 (%)	.100
購買原価方式	02	仕訳摘要の指定	1
原価計算方法(売上在庫)	02	承認経路コード	DEMO
現行在庫期間	6		
部品生産国コード			

「事業所固定情報」フォーム

略式品目番号の識別記号

略式品目番号を識別する8文字の記号を入力します(基本番号として使用しない場合)。

基本番号として使用する場合は、このフィールドをブランクにします。その場合、このフィールドを情報の入力と確認のため頻繁に使用することになります。

基本番号として使用しない場合は、品目を識別する特殊記号を入力します。/, *, & などの他の入力目的に影響しない記号を使用します。ピリオドやカンマは使用しないでください。この品目番号を他のフォームで入力する場合は、この記号を最初の文字として入力する必要があります。

注意: 品目番号の記号(SYM1、SYM2、SYM3、またはSYM6)用のフィールドは、1つだけブランクにして、基本番号として品目を識別できるようにします。他にはすべて、固有の記号を含める必要があります。

第2品目番号の識別記号

第2品目番号を識別する25文字の記号を入力します(基本番号として使用しない場合)。

基本番号として使用する場合は、このフィールドをブランクにします。その場合、このフィールドを情報の入力と確認のため頻繁に使用することになります。

基本番号として使用しない場合は、品目を識別する特殊記号を入力します。/, *, & などの他の入力目的に影響しない記号を使用します。ピリオドやカンマは使用しないでください。この品目番号を他のフォームで入力する場合は、この記号を最初の文字として入力する必要があります。

注意: 品目番号の記号 (SYM1、SYM2、SYM3、またはSYM6) 用のフィールドは、1つだけブランクにして、基本番号として品目を識別できるようにします。他にはすべて、固有の記号を含める必要があります。

第3品目番号の識別記号

第3品目番号を識別する25文字の記号を入力します (基本番号として使用しない場合)。

基本番号として使用する場合は、このフィールドをブランクにします。その場合、このフィールドを情報の入力と確認のため頻繁に使用することになります。

基本番号として使用しない場合は、品目を識別する特殊記号を入力します。/, *, & などの他の入力目的に影響しない記号を使用します。ピリオドやカンマは使用しないでください。この品目番号を他のフォームで入力する場合は、この記号を最初の文字として入力する必要があります。

注意: 品目番号の記号 (SYM1、SYM2、SYM3、またはSYM6) 用のフィールドは、1つだけブランクにして、基本番号として品目を識別できるようにします。他にはすべて、固有の記号を含める必要があります。

顧客/仕入先の識別記号

顧客または仕入先の番号を識別する文字を入力します。この文字から始まる番号を入力すると、顧客または仕入先の番号として認識されます。入力した番号は、相互参照テーブルに基づいて品目番号と照合されます。相互参照機能を実行する場合は、このフィールドに値を入力してください。

セグメント品目の識別記号

セグメント品目を識別する文字を入力します。

セグメント区切り文字

セグメント品目の区切り文字を入力します。

引当方法

在庫からのロット品目の引当に使用される方法を指定します。値は次のとおりです。

- 1: 通常の引当方法。最初に基本保管場所、次に2次保管場所の順序で在庫が引き当てられます。
- 2: ロット番号による引当方法。最小のロット番号から開始して引当可能なロットに対して順にオーダーの引当が行われます。
- 3: ロット満了日付による引当方法。最も早い満了日のロットがある保管場所から在庫の引当が行われます。引当の対象となるのは、満了日が受注オーダー日付または部品リスト要求日付以降の在庫がある保管場所のみです。

指定引当(日数)

受注オーダー処理で在庫の引当の時期の決定に使用する数値を入力します。この値(日数)は現行日付に加算され、オーダー行の約束出荷日付と比較されます。約束出荷日付がシステム算出日付より後の場合、オーダー行は品目保管場所テーブル(F41021)で、将来日付で引き当てられます。

将来引当を行わない場合は、「999」を入力します。

年間日数

1年のうちで会社が営業している日数を入力します。このフィールドは必須です。252から365までの数値を指定してください。

	JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システムでは、この数値を使用して経済的発注数量 (EOQ) を計算します。
顧客相互参照コード	顧客に設定した相互参照タイプを識別する UDC 41/DT のコードを入力します。
仕入先相互参照コード	仕入先に設定した相互参照タイプを識別する UDC 41/DT のコードを入力します。
購買原価方式	購買オーダーの品目原価の決定に使用する原価計算方法を指定する UDC 40/CM の値を入力します。01 から 19 までの原価計算方法は予約済です。
原価計算方法 (売上/在庫)	品目の売上原価を計算する際の原価計算方法を示す UDC 40/CM の値を入力します。01 から 19 までの原価計算方法は予約済です。
現行在庫期間	現行会計期間を識別するために、「1」から「14」を入力します。この番号は、PBCO (過去期間) や PACO (未来期間) などのエラー・メッセージの作成に使用されます。
部品生産国コード	<p>部品が米国外で生産されたかどうかを示す 2 桁の国コードを入力します。有効値の例は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CA: カナダ • MX: メキシコ <p>部品が米国内で生産されたかどうかを示す 3 桁のコードを入力します。値は、U の後に 2 桁の州の郵便コードが続く形式になります。たとえば、UOH は米国のオハイオで生産されたことを示します。</p>
バックオーダー許可	<p>この事業所のバックオーダーを許可するかどうかを指定するには、このオプションを選択します。</p> <p>バックオーダーは、品目マスター (P4101) または事業所品目 (P41026) プログラムを使用して品目別に許可したり、顧客請求指示プログラム (P03013) を使用して顧客別に、または事業所固定情報プログラム (P41001) を使用して事業所別に許可できます。</p> <p>受注オーダーの品目のバックオーダーを可能にするには、すべてのプログラムで「バックオーダー許可」オプションを選択する必要があります。</p>
一般会計インターフェイス	この事業所で処理される在庫トランザクションで仕訳を作成する場合に選択します。
総勘定元帳への数量 書込み	<p>次のプログラムからの仕訳を記録した後に、総勘定元帳に数量を計上するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • P31111 (作業オーダー在庫出庫) • P31112 (作業オーダー完了) • P31802 (作業オーダーの仕訳入力) • P4112 (在庫出庫) • P4113 (在庫移動) • P4114 (在庫調整) • P4116 (品目再分類) • P41413 (循環棚卸の更新)

- P41610 (タグの更新)
- R42800 (売上更新)
- P4312 (入荷)
- P4314 (伝票照合)
- P415021 (実地照合の更新)
- P415101 (一般在庫移動)
- P41514 (バルク製造の損益)
- R49700 (サイクル請求)
- P49510 (バルク製品の積荷確認 - XT49799)
- P49515 (バルク製品の積荷確認バッチ - XT49799)
- P49530 (パッケージ製品の積荷確認 - XT49799)
- P49572 (ラック・データのアップロード - XT49799)
- P49710 (バルク製品の配送確認 - XT49799)
- P49711 (バルク製品の配送確認 (巡回配達) - XT49799)
- P49715 (バルク製品処分 - XT49799)
- P49720 (パッケージ製品の配送確認 - XT49799)
- P49731 (一括確認バッチ - XT49799)

保管場所制御

保管場所マスター (F4100) の保管場所のみを使用する場合に選択します。F4100 テーブルの保管場所のみを使用する場合は、保管場所制御を使用します。「倉庫管理制御」オプションを選択する場合は、「保管場所制御」オプションも選択する必要があります。このオプションの選択を解除すると、F4100 テーブル内の保管場所に限定されません。「事業所保管場所の定義」フォームで定義された保管場所フォーマットに該当するすべての保管場所が使用されます。

倉庫管理制御

事業所に倉庫トランザクションが作成されるかどうかを指定します。

品質制御

事業所にオラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 品質管理システム (システム 37) を有効にするかどうかを指定します。

製品原価明細の使用

流通管理プログラムで合計原価を使用するか、または明細製造原価を使用するかを指定します。

他社デポ

事業所が他社所有であるかどうかを指定します。バルク/パッケージ製品の積荷確認プログラムでは、このコードを使用して、製品が積載されたデポが他社デポであるかどうかを識別します。他社デポの場合は、積荷確認時に有効な借入契約を入力する必要があります。

在庫ロットの作成

在庫トランザクション・プログラムで新しいロット番号またはシリアル番号を作成できるかどうかを指定します。このオプションの選択を解除すると、在庫トランザクション・プログラムで新しいロット番号は作成できません。このオプションを選択すると、在庫トランザクション・プログラムで新しいロット番号を作成できます。

保管場所セグメント制御

保管場所の定義プログラム (P41001) で保管場所セグメント仕様を有効にするかどうかを指定します。保管場所セグメント仕様では、UDC テーブル (41/ER) を使用して、事業所内で保管場所をセグメント化する方法を指定

します。保管場所のセグメントを定義するには、このチェックボックスを選択しておく必要があります。

購買オーダー発注費用

JD Edwards EnterpriseOne調達管理で経済的発注数量の計算に使用する数値を入力します。この費用は、1件の購買オーダーを発注するときの資材費、労務費、および間接費の見積になります。デフォルト値は00です。

次の例は、購買オーダー発注費用を使用して経済的発注数量を計算する方法を示しています。

S: 購買オーダー発注費用 = 15.0

I: 在庫維持費 = 0.09 (9%)

Y: 年間売上数量 = 3,000

C: 品目の単位原価 = 10.0

経済的発注数量 = $((2S/I) \times (Y/C))$ の平方根

$[(2)(15) \div 0.09] \times 3,000 \div 10.0$ の平方根 = 316.23

在庫維持費 (%)

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムで経済的発注数量の計算に使用する在庫投資のパーセント値を入力します。デフォルト値は00です。パーセント値は小数で入力してください。

次の例は、在庫維持費 (%) を使用して経済的発注数量を計算する方法を示しています。

S: 購買オーダー発注費用 = 15.0

I: 在庫維持費 = 0.09 (9%)

Y: 年間売上数量 = 3,000

C: 品目の単位原価 = 10.0

経済的発注数量 = $((2S/I) \times (Y/C))$ の平方根 = $(2(15) \div 0.09) \times (3000 \div 10)$ の平方根 = 316.23

注意: 経済的発注数量計算式の詳細は、「経済的発注数量」フィールドのフィールド・ヘルプにアクセスしてください。

仕訳摘要の指定

総勘定元帳で仕訳の2行目に表示されるデフォルト記述を選択する際に JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムで使用するコードを入力します。値は次のとおりです。

1: 品目マスター記述 (デフォルト値)

2: 基本品目番号

承認経路コード

オーダーの承認経路を指定するコードを入力します。

在庫状況の設定

「在庫状況の定義」フォームにアクセスします。

品目引当可能数量の計算から除外する品目を指定するには、「減算」見出しの次のオプションをクリックします。品目引当可能数量の計算に算入する品目を指定するには、「加算」見出しの次のオプションをクリックします。

受注/作業オーダーのソフト・コミット数量	受注オーダーまたは作業オーダーに対してソフト・コミットされた数量を品目引当可能数量の計算に含める場合に選択します。
受注オーダーのハード・コミット数量	受注オーダーの特定の保管場所およびロットに対してハード・コミットされた数量を品目引当可能数量の計算に含める場合に選択します。
受注オーダーの将来日付引当数量	要求出荷日付が指定引当日数を超えている受注オーダーの数量を含める場合に選択します。
作業オーダーのハード・コミット数量	作業オーダーの特定の保管場所およびロットに対してハード・コミットされた数量を品目引当可能数量の計算に含める場合に選択します。
その他数量1 - SO（その他数量1 - 受注オーダー）	その他の減算として指定された数量を品目引当可能数量の計算に含める場合に選択します。
その他数量2 - SO（その他数量2 - 受注オーダー）	その他の減算として指定された数量を品目引当可能数量の計算に含める場合に選択します。
保留数量	保留数量を品目引当可能数量の計算に含める場合に選択します。
安全在庫	安全在庫として確保されている数量を品目引当可能数量の計算に含める場合に選択します。
購買オーダー入荷数量	購買オーダーの数量を品目引当可能数量の計算に含める場合に選択します。
その他購買数量1	他の購買オーダーの数量を品目引当可能数量の計算に含める場合に選択します。
作業オーダー入荷数量	作業オーダーの数量を品目引当可能数量の計算に含める場合に選択します。
積送中数量	積送中数量を品目引当可能数量の計算に含める場合に選択します。
検査中数量	検査中数量を品目引当可能数量の計算に含める場合に選択します。
作業1数量	入荷工程処理の1つの作業の数量を品目引当可能数量の計算に含める場合に選択します。このフィールドに該当する入荷工程の作業を定義します。
作業2数量	入荷工程処理の1つの作業の数量を品目引当可能数量の計算に含める場合に選択します。このフィールドに該当する入荷工程の作業を定義します。

システム固定情報の設定

「システム固定情報」フォームにアクセスします。

事業所固定情報 - システム固定情報 i

OK(O) 取消(L) ツール(T)

☐ 事業所別に単位を換算する

☒ 平均原価のリアルタイム更新

☐ EGSシステムの使用

☐ インターネットPPATメッセージ使用

☐ 科学計算法

☐ 顧客セットの使用

☐ 出荷日付規則(昇順)

重複ロットの許可 2

販売価格の計算に使用する単位 1

購買価格の計算に使用する単位 2

販売価格基準日

購買レポートのカテゴリ・コード 3

優先スケジュール

優先調整の計算に使用する単位

価格設定エンジン

「システム固定情報」フォーム

- 事業所別に単位を換算する** 特定の事業所に品目を追加する場合に、品目固有の換算テーブルを表示する場合に選択します。
- このオプションの選択を解除すると、品目マスター(F4101)の全事業所に対して、品目固有の換算テーブルが表示されます。
- 平均原価のリアルタイム更新** 品目の平均原価に影響するトランザクションが発生した後に新しい平均原価を計算する場合に選択します。
- 平均原価に影響するすべてのプロセスで平均原価ワークファイル・テーブル(F41051)にトランザクションを作成するようにする場合はこのオプションの選択を解除します。平均原価の更新プログラム(R41811)を実行すると、新しい平均原価が計算されます。
- EGSシステムの使用**
(Energy and Chemical Systemの使用) JD Edwards EnterpriseOneバルク在庫管理システムを使用する場合に選択します。
- インターネットPPATメッセージ使用** (インターネット人/場所/物メッセージ使用) 流通管理プログラムで生成された電子メール・メッセージを送信する場合に選択します。
- 科学計算法** 科学計算法を実行する場合に選択します。
- 現在、この機能はJD Edwards EnterpriseOne品質管理システムの試験結果の改訂プログラム(P3711)にのみ使用できます。

顧客セットの使用	顧客セット機能を使用する場合に選択します。
出荷日付規則(昇順)	顧客別および品目別の出荷日付規則(昇順)を受注オーダー入力時、ピッキング・リスト印刷時、引当処理時、および出荷確認時に適用する場合に選択します。昇順の出荷日付規則を適用すると、顧客への出荷ロットは満了日付、販売期限、または有効期限で並べ替えられます。
重複ロットの許可	<p>同一ロットを複数の品目に割り当てるかどうかを決定する値を入力します。値は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none">1: 重複ロットを許可しない。ロットは1品目と1事業所に限定されます。2: 重複ロットを許可する。複数の品目と事業所を持つロットを作成できます。3: 重複ロットを許可しない。ロットは1品目に限定されますが、複数の事業所の数量を含めることができます。
販売価格の計算に使用する単位	<p>受注処理、サービス/保証管理、およびシップ・アンド・デビット処理で基本価格と価格調整の取得に使用する単位を指定するコードを入力します。基本価格と価格調整は、様々な単位で定義できます。基本価格は品目基本価格テーブル(F4106)で定義し、価格調整は価格調整明細テーブル(F4072)で定義します。</p> <p>指定した単位で基本価格や価格調整が見つからない場合は、その品目の基本単位が使用されます。</p>
購買価格の計算に使用する単位	<p>購買オーダー処理で購買基本価格に使用する単位を示すコードを入力します。</p> <p>トランザクションや価格設定の処理で指定した単位のレコードが存在しない場合は、その品目の基本単位を使用して処理が繰り返されます。</p>
販売価格基準日	受注オーダー見出しテーブル(F4201)と受注オーダー明細テーブル(F4211)で価格有効日付を更新する方法を指定するコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムでは、価格有効日付を使用してF4106テーブルから基本価格を取得し、F4072テーブルから価格調整を取得します。
購買リピートのカテゴリ・コード	組込比較の基準に使用されるカテゴリ・コードを表す数値を入力します。
優先スケジュール	優先情報の決定時に使用される詳細優先スケジュールを表すUDC 40/ASの値を入力します。詳細優先スケジュールによって、詳細優先情報機能で使用する優先情報が決まります。優先スケジュールはUDCで直接管理することはできませんが、価格調整スケジュール・プログラム(P4070)を使用して管理できます。
優先調整の計算に使用する単位	<p>受注処理中に詳細優先情報の調整を取得するために使用される単位を指定するコードを入力します。F4072テーブルの詳細優先調整は、様々な単位で定義できます。</p> <p>トランザクションや価格設定の処理で指定した単位のレコードが検出されない場合は、その品目の基本単位を使用して処理が繰り返されます。</p>
価格設定エンジン	<p>個別の価格設定テーブルにレコードをキャッシュするための加速価格設定エンジンを使用するかどうかを示す値を入力します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">• ブランクまたは0: 使用を許可しない。• 1: 使用を許可する。

- 2: 自動ロード。

自動ロードでは、いずれかのユーザーがキャッシュされたテーブルを使用してトランザクションを処理すると、キャッシュが自動的にロードされます。

このオプションを有効にする前に、価格設定エンジンの動作、制約および管理方法の詳細を十分に読んで理解してください。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「EnterpriseOne 価格管理の設定」、「価格設定エンジンの使用」

バッチ制御固定情報の設定

「アプリケーション固定情報」フォームにアクセスします。

事業所固定情報 - アプリケーション固定情報

OK(O) 取消(L) ツール(T)

レコード 1-4 グリッドのカスタマイズ

	システム コード	記述	管理者 承認	バッチ 制御
<input checked="" type="radio"/>	31	製造現場管理	Y	
<input type="radio"/>	41	在庫管理	N	N
<input type="radio"/>	42	受注管理	Y	
<input type="radio"/>	43	調達管理	N	N

「アプリケーション固定情報」フォーム

システムコード

システムを識別するUDC 98/SYの値を入力します。値は次のとおりです。

01: JD Edwards EnterpriseOne住所録

03B: JD Edwards EnterpriseOne売掛管理

04: JD Edwards EnterpriseOne買掛管理

09: JD Edwards EnterpriseOne一般会計

11: オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne多通貨処理

管理者承認

バッチを総勘定元帳に転記する前に承認を必須とするかどうかを示すコードを入力します。値は次のとおりです。

Y: 表示されたシステム内で作成するバッチごとに保留の状況を割り当てる。

N: 各バッチに承認済の状況を割り当てる。

バッチ制御

バッチ制御情報の入力を必須にするかどうかを示すコードを入力します。

バッチごとにバッチ制御フォームが表示されます。このフォームでは、バッチ処理するトランザクションの伝票数と合計金額についての情報を入力します。この合計に基づいて、実際に入力したトランザクションとの差異が編集され、その結果が表示されます。

このフィールドは、JD Edwards EnterpriseOne在庫管理およびJD Edwards EnterpriseOne調達管理にのみ適用されます。JD Edwards EnterpriseOne

在庫管理でYを指定すると、在庫の出庫、調整、または移動の前にバッチ制御フォームが表示されます。JD Edwards EnterpriseOne調達管理でYを指定すると、入荷を入力する前にバッチ制御フォームが表示されます。値は次のとおりです。

Y: バッチ制御情報の入力が必要

N: バッチ制御情報の入力は不要

保管場所フォーマットの設定

「事業所保管場所の定義」フォームにアクセスします。

「事業所保管場所の定義」フォーム

保管場所フォーマット仕様

「保管場所フォーマット仕様」タブを選択します。

区切り文字

フォームまたはレポートに表示する際に保管場所の各要素を分ける区切り文字を入力します。たとえば、保管場所コード内の通路、棚番、棚などの要素をスラッシュ(/)で区切ることができます。

保管場所コードの長さは、最大20文字(区切り文字を含む)です。

区切り文字はテーブルには保存されませんが、保管場所コードをフォームまたはレポートに表示する際に使用されます。区切り文字を使用しない場合は、このフィールドを空白にします。

ただし、保管場所コード内の各要素の長さに合わせて文字とスペースを入力する必要があります。保管場所は、1つの連続する文字列として表示されます。

タンク/所有者と通路/棚番の組合せは、フォームまたはレポートに表示される際に、このフィールドに入力した文字で区切られます。

通常、この区切り文字にはピリオド(.)が使用されます。

通路	タンク(パッケージ製品の場合は通路)を表す数値を入力します。値は1から8です。
棚番	バルク混合在庫の所有者(パッケージ製品の場合は棚番)を表す数値を入力します。値は1から8です。
コード3 から コード10	保管場所フォーマット仕様でコード3からコード10を表す数値を入力します。
左/右	左または右のラジオ・ボタンを選択し、保管場所フォーマットの定義に使用する各要素の位置揃え(左または右)を指定します。

倉庫制御

「倉庫制御」タブを選択します。

JD Edwards EnterpriseOne 倉庫管理を使用しない場合は、「倉庫管理」タブのフィールドに値を入力しないでください。

組込バージョン要求 この事業所に使用する組込規則を識別するUDC 40/RVのコードを入力します。オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne製造管理システムおよびJD Edwards EnterpriseOne倉庫管理では、次のような方法で組込規則が使用されます。

- JD Edwards EnterpriseOne製造管理システムでは、資材所要量計画(MRP)、基準生産日程計画(MPS)、または流通所要量計画(DRP)を実行するために複数のバージョンのリソース規則を使用できます。
- JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理では、貯蔵およびピッキングを実行するために複数のバージョンの組込規則を使用できます。指定した事業所の組込規則と一致するオーダー行のみが処理されます。

寸法単位 倉庫の寸法を表示する単位を識別するUDC 00/UMの値を入力します。計量基準としてインチ、センチメートル、メートルなどを設定できます。

表示容量単位 この事業所の容量を表示する単位を識別するUDC 00/UMのコードを入力します。事業所固定情報プログラム(P410012)から、このフィールドに値が入力されます。このデフォルト値は一時変更できます。

表示重量単位 この品目の重量を示す単位を識別するUDC 00/UMのコードを入力します。オンスやグラム、キログラムなどを重量基準として指定できます。この単位は品目に使用されたり、個別の品目やコンテナの単位に合せて一時変更されます。

入荷保管場所 在庫を入庫する倉庫内の区域を入力します。保管場所フォーマットは、ユーザーが定義し、事業所別に入力します。

出荷保管場所 在庫のピッキング時や出荷のための在庫の移動時にデフォルト値として使用する保管場所を入力します。保管場所フォーマットは「事業所固定情報」フォームでユーザーが定義します。

事業所内保管場所の設定

「保管場所情報の入力」フォームにアクセスします。

事業所の保管場所フォーマットを定義したら、事業所内保管場所を設定できます。

保管場所 在庫を入庫する倉庫内の区域を入力します。保管場所フォーマットは、ユーザーが定義し、事業所別に入力します。

保管場所フォーマットはそれぞれの要素の他、任意で区切り文字から構成されます。

それぞれの要素は事業所内の特定の保管場所を表します。タンクに混合在庫が含まれる場合は、「事業所保管場所の定義」フォームで定義されている区切り文字を入れ、所有者を特定します。

このフィールドのすべての要素の長さの合計は、区切り文字を含めて20文字以下に制限されています。1つのタンクの保管場所には、「事業所保管場所の定義」フォームで通路情報を指定したフィールドに示された文字数まで使用できます。

所有者IDには、「事業所保管場所の定義」フォームで棚番情報を指定したフィールドに示された文字数まで使用できます。

このフィールドをブランクにし、区切り文字を使用しなかった場合、保管場所はアスタリスクとして表示されます。区切り文字を使用した場合は、各要素の所定のスペース数を空けた後、区切り文字を付けて、保管場所が表示されます。

貯蔵区域	商品が貯蔵または保管される倉庫内の区域を識別するUDC 46/ZNのコードを入力します。
ピッキング区域	出荷のために品目がピッキングされる区域を識別するUDC 46/ZNのコードを入力します。
補充区域	ピッキング保管場所を補充(再充填)するために品目が取得される倉庫内の区域である補充区域を識別するUDC 46/ZNのコードを入力します。保管場所マスター・プログラム(P4100)を使用して、保管場所に区域を割り当てます。
詳細レベル	<p>保管場所の集計または分類用のコードを入力します。指定したコードにより、レビュー用に保管場所の階層が作成されます。たとえば、通路をレベル2に割り当て、通路内の棚番をレベル3に割り当てます。</p> <p>「詳細レベル」フィールドには、保管場所の情報が表示される際の開始詳細レベルを指定します。</p>
通路	倉庫内の保管場所を特定するコードを入力します。このコードを棚番やロットIDとともに使用して、倉庫や在庫置き場内の特定の有形保管区域を指定します。
棚番	倉庫や店内の特定の保管場所を入力します。保管場所の通路と棚番により、幅、奥行、高さが明示可能な保管領域が特定されます。
保管場所03 から保管場所10	<p>次のいずれかの目的で使用されるコードを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none">• 保管場所IDの一部として、事業所内の特定の保管場所を識別する。• 保管場所情報の一般レポート・コードとして使用する。
品目/ロット混合	<p>1つの保管場所の異なる品目の混在や、同じ品目の異なるロット/シリアル番号の混在を許可するかどうか指定するコードを入力します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">• ブランク: 制約なし• 1: 1つの保管場所に1つの品目• 2: 1つの保管場所に1つの品目またはロット

経由場所

- 3: 1つの保管場所に1つの品目、ロット、または状況

保管場所が経由場所(品目を別の場所に移動する前に一時的に保管する場所)かどうかを示すコードを入力します。経由場所(入出荷ドックなど)は、収容能力に制限がないため、寸法、容量または重量に関するグループ定義は不要です。有効なコードは次のとおりです。

- Y: 経由場所
- N: 経由場所以外

受注管理のAAIの設定

この項では、受注管理のAAIの概要と受注管理のAAIの設定方法について説明します。

受注管理のAAIについて

AAIにより、日次業務、勘定科目表、財務レポートをリンクします。AAIは、システムで生成された仕訳に該当する金額をどのように配賦するかを決定するために使用されます。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne 受注管理では、在庫品目を顧客に販売するなどのトランザクションに関連する仕訳をどのように記録するかをAAIで指定します。

JD Edwards EnterpriseOne 流通管理システムでは、使用が予想される会社、トランザクション、伝票タイプ、元帳クラスの固有の組合せごとにAAIを作成する必要があります。それぞれのAAIは、ビジネスユニット、主科目、補助科目(任意)からなる特定の勘定科目に関連付けます。

顧客請求書で税を徴収する場合、その税額を適切な勘定科目に割り当てます。付加価値税(VAT)や使用税など特定タイプの税に対してAAIを設定する際、請求書税額の仕訳で使用する勘定科目を指定します。

AAIは、流通/製造AAI値テーブル(F4095)に保存されます。

AAIの検索順序

AAIテーブルを設定しておくことで、受注オーダー・トランザクションに勘定科目コードが割り当られ、そのトランザクションに関連する額が総勘定元帳に計上されます。ほとんどの場合、組織内の会社ごとに固有の勘定科目コードが設定されます。ただし、それぞれの会社で同じ勘定科目コードを共有する場合があります。会社ごとに固有の固有の勘定科目を設定しない場合は、デフォルト会社(会社00000)に勘定科目情報を設定できます。勘定科目コードは次の順序で検索されます。

1. まず、オーダー会社、オーダー・タイプ、元帳転記カテゴリ・コードについて一致するものがないか検索されます。
2. 一致するものが見つからなかった場合、オーダー会社、オーダー・タイプ、それに元帳転記カテゴリ・コードを**** (ワイルドカード)として一致するものがないか検索されます。
3. それでも一致するものが見つからなかった場合、会社00000、オーダー・タイプ、元帳転記カテゴリ・コードについて一致するものがないか検索されます。
4. 一致するものが見つからなかった場合、会社00000、オーダー・タイプ、それに元帳転記カテゴリ・コードを**** (ワイルドカード)として一致するものがないか検索されます。
5. それでも一致するものが見つからなかった場合、AAIが設定されていないことを示すエラーがユーザーに返されます。

フィールド「オーダー会社」、「オーダー・タイプ」、「元帳転記カテゴリ・コード」の他に製造原価明細も使用している場合は、勘定科目の検索に「原価タイプ」も含まれます。これは、売上AAI 4220および4240に適用されます。

さらに、「任意売上勘定科目の設定」メニュー(G4241)で、受注オーダー明細テーブル(F4211)の他のドライバ・フィールドに基づいて、「ビジネスユニット」、「補助科目」、「補助元帳」の各フィールドを自由に定義できます。

受注管理のAAI

次の表は、JD Edwards EnterpriseOne受注管理に設定するAAIをまとめたものです。

AAI	説明
売上原価(4220)	売上原価勘定に経費金額または原価額を指定します。
繰延売上原価(4221)	サイクル請求または定期請求を使用している場合に、繰延売上原価勘定に経費金額または原価額を指定します。
売上原価 - 貸出品(4222)	トランザクションのバルク品目に対してローン契約が有効で、サイクル請求を使用していない場合に、売上原価勘定に経費金額または原価額を指定します。
繰延売上原価 - 貸出品(4223)	トランザクションのバルク品目に対してローン契約が有効で、サイクル請求または定期請求を使用している場合に、繰延売上原価勘定に経費金額または原価額を指定します。
収益(4230)	売上収益科目に在庫の実際の販売価格を指定します。
繰延収益(4231)	サイクル請求または定期請求を使用している場合に、繰延売上収益科目に在庫の実際の販売価格を指定します。
未請求売掛金貸方(4232)	サイクル請求または定期請求を使用している場合に、売掛金勘定の貸方にトランザクションの未請求額を記入します。
配賦済収益(4233)	品目別の運賃割当がJD Edwards EnterpriseOne輸送管理システムから設定(輸送運賃の更新時に決定)され、出荷の合計運賃の一部またはすべてが既存の受注オーダー行品目に配賦される場合に、配賦済収益の仕訳を追加入力します。
在庫(4240)	在庫勘定科目の貸方に原価額を転記します。
輸送中在庫(4241)	JD Edwards EnterpriseOne輸送管理システムを使用している場合に、積荷確認済の行に対して在庫勘定科目の貸方に原価額を転記します。このAAIは、AAI 4240のかわりに使用されます。

AAI	説明
貸出品 (4242)	AAI 4242は、貸出品に借入契約が設定されているバルク品目トランザクションに使用されます。「事業所固定情報」フォームで「他社デポ」および「一般会計インターフェイス」チェックボックスを選択してください。
売掛金 (4245)	売掛金勘定の借方に売上金額を転記します。売上更新プログラム (R42800) の「売掛金明細の更新」処理オプションが無効な場合にのみ、売掛金相殺仕訳が総勘定元帳に書き込まれます。
未払税 (4250)	売上更新時に作成された税勘定の仕訳があります。
価格調整 (4270)	売上更新時に作成された個々の価格調整の仕訳があります。
支払リベート (4280)	支払リベート勘定の相手仕訳があります。
シップ・アンド・デビット (4234)	シップ・アンド・デビット契約の影響を受ける粗利益率を調整します。

流通AAIプログラム (P40950) の「勘定科目の改訂」フォームでは、事前に定義された各AAI項目と、伝票タイプ、元帳クラス、およびトランザクションにより影響を受ける勘定科目についての情報が表示されます。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「在庫管理システムの設定」、「流通管理システムのAAI設定」

受注管理のAAIの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
AAIの処理	W40950B	「受注管理システム・セットアップ」(G4241)、「AAI (自動仕訳)」	AAIテーブルを確認および選択します。
勘定科目の改訂	W40950D	AAIテーブルを選択した後、「AAIの処理」フォームで「ロー」メニューの「AAIの設定」を選択します。	受注管理のAAIを設定します。 選択したAAIテーブルについて売掛情報を追加および改訂します。

受注管理のAAIの設定

「勘定科目の改訂」フォームにアクセスします。

AAI(自動仕訳) - 勘定科目の改訂

OK(O) 検索(I) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

AAIテーブル番号: 4220 Cost of Goods Sold

レコード 1 - 10

	会社 番号	伝票 タイプ	記述	元帳 クラス	記述	事業所	主 科目	補助 科目
<input checked="" type="radio"/>	00000	CO	クレジット・オーダー	IN30	製造完成品	30	6020	
<input type="radio"/>	00000	SD	直送	IN30	製造完成品		6020	
<input type="radio"/>	00000	SD	直送	IN99	在庫	10	6020	
<input type="radio"/>	00000	SI	事業所内売上	****		30	6020	
<input type="radio"/>	00000	SK	会社間受注オーダー	IN30	製造完成品		6020	
<input type="radio"/>	00000	SO	受注オーダー	IN30	製造完成品		6020	
<input type="radio"/>	00000	SO	受注オーダー	IN99	在庫	10	6020	
<input type="radio"/>	00000	SR	受注オーダー - 緊急	IN30	製造完成品		6020	
<input type="radio"/>	00000	SR	受注オーダー - 緊急	IN99	在庫	10	6020	
<input type="radio"/>	00000	ST	移転販売	IN30	製造完成品		6020	

「勘定科目の改訂」フォーム

元帳クラス

取引の転記先となる勘定科目の検索に使用される相手勘定を識別する UDC 41/9のコードを入力します。クラス・コードを指定しない場合には、このフィールドにアスタリスクを4つ(****)入力してください。

AAIを使用して、JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムに自動相手勘定のクラスを事前設定できます。次のように元帳クラス・コードを割り当てることができます。

- IN20: 直送オーダー
- IN60: 転送オーダー
- IN80: 在庫販売

1件の取引に基づいて仕訳レコードが作成されます。たとえば、在庫1品目を一度販売すると、次のような仕訳レコードが作成されます。

- 販売在庫(借方) xxxxx.xx
- 売掛在庫販売(貸方) xxxxx.xx
- 転記カテゴリ: IN80
- 在庫品目(借方) xxxxx.xx
- 在庫売上原価(貸方) xxxxx.xx

クラス・コードと伝票タイプに基づいて、該当するAAIが検索されます。

事業所

原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。たとえば、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。

このフィールドをブランクにすると、売上更新プログラム(R42800)の「勘定科目ビジネスユニット」処理オプションの設定に基づいて事業所が使用されます。

主科目

勘定科目コードの中で、原価コード(労務費、材料費、設備費など)をサブカテゴリに分類する部分を入力します。たとえば、労務費の原価コードは通常時間、割増時間、間接費に分割できます。

注意: 任意勘定科目コードを使用して主科目コードを6桁に設定した場合は、6桁のすべてを使用することをお勧めします。たとえば、「000456」と入力する場合と「456」と入力する場合は異なります。「456」と入力すると、スペースが3つ追加されるため結果が異なります。

補助科目

主科目の中の区分を入力します。補助科目には、主科目に関する会計処理の詳細レコードが含まれます。

オーダー行タイプの設定

この項では、オーダー行タイプの概要と設定方法について説明します。

オーダー行タイプについて

受注オーダーの明細情報を入力するときに、各品目およびサービスの数量、価格、原価を入力します。返品品目や非在庫品目、テキスト情報なども、同じ受注オーダーに入力できます。

各入力行は1行となります。行は、オーダーする品目またはサービスのオーダーに関連する情報になります。各行の処理は、行タイプに基づいて行われます。

行タイプとは、特定のオーダータイプに対して入力する各明細行の処理に使用されるコードのことです。たとえば、在庫品目に対して行タイプSを指定できます。システムにより、在庫の品目数量を増加させるか減少させるかが確定されます。運賃に対しては行タイプFを指定できます。行タイプの定義に従い、その品目は非在庫品目であると確定されます。

行タイプが総勘定元帳およびJD Edwards EnterpriseOne在庫管理内でどのように使用されるかを指定できます。たとえば、在庫品目の購買または販売の際に、在庫品目に行タイプを割り当てることが可能です。行タイプに指定した情報に基づいてトランザクションが記録されます。この場合、品目の原価または価格が総勘定元帳に反映されます。このトランザクション行は、JD Edwards EnterpriseOne在庫管理の品目引当可能数量にも影響します。

定義した行タイプは、流通管理システム全体に適用されます。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne受注管理とJD Edwards EnterpriseOne調達管理の両システムで行タイプは同じように処理されます。

テキスト行タイプを使用したメッセージの追加

オーダー入力中、テキスト行タイプを使用してオーダー明細行にメッセージを入力できます。たとえば、自転車などの在庫品目にオーダー明細行を入力してから、要組立てなどのテキスト用にオーダー明細行を入力することが可能です。このオーダー明細行はメッセージとして機能するようになります。行タイプ定義で指定されているため、テキスト機能で示される行タイプのオーダー明細行の情報はメモ専用です。「品目番号」フィールドの情報(入力したメッセージ)は事業所品目テーブル(F4102)に対して検証されず、このトランザクションはJD Edwards EnterpriseOne買掛管理やJD Edwards EnterpriseOne売掛管理などの他のJD Edwards EnterpriseOneシステムと連動することはありません。

非在庫品目用行タイプの割当

非在庫品目に対して行タイプを設定することで、数量の引当を行わずに、品目マスター(F4101)の情報を検索できます。「非在庫品目品目マスターの編集」オプションで、F4101テーブルと照合することで受注オーダー行の品目が検証されるかどうか制御されます。このオプションは、非在庫インターフェイスにかぎり使用します。

オーダーの入力時には、F4102テーブルの品目番号と、品目原価テーブル(F4105)および品目基本価格テーブル(F4106)の原価と価格情報が検証されます。ただし、在庫引当と引当可能数量チェックは実行されません。

オーダー行タイプの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
行タイプの処理	W40205A	「受注管理システム・セットアップ」(G4241)、「オーダー行タイプ」	オーダー行タイプ・レコードを確認および選択します。
行タイプ固定情報の改訂	W40205B	「行タイプの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	オーダー行タイプを設定します。 オーダー行タイプ・レコードを追加および改訂します。

オーダー行タイプの設定

「行タイプ固定情報の改訂」フォームにアクセスします。

在庫管理インターフェイス

指定した行タイプのオーダー行についてJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムとどのように連動するかを指定するコードを入力します。値は次のとおりです。

- Y: この行タイプを含むアクティビティの金額または単価が在庫に反映されます。また、入力した品目が有効な品目になるよう編集も行われます。この値がデフォルト値です。
- A: 入力した番号が総勘定元帳の勘定科目コードとして認識されます。このコードは、購買でのみ使用されます。
- B: 購買オーダー入力でフォーマット4を使用した場合に編集が行われます。

在庫テーブルから価格データが取り込まれますが、購買オーダーの数量は更新されません。このコードは、「一般会計インターフェイス」フィールドをY(はい)に設定した場合にかぎり有効です。このインターフェイス・コードを使用すると、予算チェックが十分な機能を果たします。

- D: この行の品目は、引当可能数量や現在数量に影響を与えない在庫品目です。
- N: この品目は在庫品目ではありません。

品目がF4101テーブルに存在するかどうか確認するには、「非在庫品目品目マスターの編集」オプションと一緒に在庫インターフェイスNを使用します。

相手勘定

取引の転記先となる勘定科目の相手勘定を識別するUDC 41/9のコードを入力します。クラス・コードを指定しない場合には、このフィールドにアスタリスクを4つ(****)入力してください。

AAIを使用して、JD Edwards EnterpriseOne受注管理に自動相手勘定のクラスを事前設定できます。次のように元帳クラス・コードを割り当てることができます。

- IN20直送オーダー
- IN60転送オーダー
- IN80在庫販売

1件のトランザクションに基づいて仕訳レコードが作成されます。たとえば、在庫1品目を販売すると、次のような仕訳レコードが作成されます。

- 販売在庫(借方) xxxxx.xx
- 売掛在庫販売(貸方) xxxxx.xx
- 転記カテゴリ: IN80
- 在庫品目(借方) xxxxx.xx
- 在庫売上原価(貸方) xxxxx.xx

クラス・コードと伝票タイプに基づいて、該当するAAIが検索されます。

税額1に含める

このオーダー行の金額が課税対象であるかどうか、課税対象の場合どの税が適用されるかを示すコードを入力します。値は次のとおりです。

Y:この行は適用可能な税の課税対象です。

N: この行は適用可能な税の課税対象ではありません。

3から8: この行はグループ番号(3から8)で示される税率で課税されます。グループ番号は付加価値税に使用されます。

売上仕訳カラム

この行の4つのカラムのどれに売上高が適用されるかを示す値を入力します。値は次のとおりです。

- 1: カラム1に売上高(存在する場合)が適用されます。
- 2: カラム2に売上高(存在する場合)が適用されます。
- 3: カラム3に売上高(存在する場合)が適用されます。
- 4: カラム4に売上高(存在する場合)が適用されます。

一般会計インターフェイス

このオーダー行タイプを含むアクティビティの金額または単価を総勘定元帳に反映させる場合に選択します。

売掛管理インターフェイス

このオーダー行タイプを含むアクティビティの金額または単価をJD Edwards EnterpriseOne売掛管理に反映させる場合に選択します。

買掛管理インターフェイス

このオーダー行タイプを含むアクティビティの金額または単価をJD Edwards EnterpriseOne買掛管理に反映させる場合に選択します。

サービス/ワランティ管理

このオーダー行タイプをJD Edwards EnterpriseOneサービス管理(S/WM)システムで使用するようにする場合に選択します。

このオプションを選択する場合、「フォーム」メニューからアクセスできる「行タイプ固定情報の改訂」フォームで、行タイプに追加のJD Edwards EnterpriseOne S/WM属性を設定します。

テキスト行	このオーダー行タイプの情報がテキスト情報のみであることを示す場合に選択します。
符号の反転	行内の数量の符号を反転させる場合に選択します。このコードを使用すると、クレジット・メモを簡単に入力できます。
運賃の適用	<p>処理中に運賃の計算を実行する場合に選択します。</p> <p>このオプションの選択を解除した場合、処理中に運賃の計算は実行されません。</p>
留保金の適用	買掛留保の計算に品目の値を含める場合に選択します。JD Edwards EnterpriseOne調達管理とJD Edwards EnterpriseOne買掛管理間のインターフェイスがアクティブである場合にかぎり、このオプションを使用します。
作業オーダーの生成	このオーダー明細行に内部作業オーダーを自動生成する場合に選択します。
現金割引の適用	現金割引または支払条件に基づく割引の計算にトランザクションの合計金額を含める場合に選択します。
売上総利益に売上/売上原価を含める	売上総利益の計算に売上および売上原価を含める場合に選択します。
伝票照合差異勘定	伝票照合時に生成された差異を勘定に記帳するよう指定する場合に選択します。オーダー明細行の経費勘定に差異を記帳する場合は、このオプションの選択を解除します。
<p>注意: このオプションは、JD Edwards EnterpriseOne調達管理で「在庫インターフェイス」フィールドがAまたはBに設定されている場合にのみ使用されます。</p>	
非在庫品用品目マスターの編集	品目マスターと照合して受注オーダー行項目を検証する場合に選択します。非在庫インターフェイスと組み合わせてのみ使用します。
受注オーダー価格の保護	<p>受注オーダーの「単価」、「合計価格」、「単価(外貨)」および「合計価格(外貨)」フィールドを示すコードを、オーダー入力後に改訂できないようにします。</p> <p>このオプションを選択すると、受注オーダーの最初の入力後に価格が変更されることを防止できます。</p>
購買オーダーの生成	購買オーダーを生成する場合に選択します。「在庫インターフェイス」フィールドがDまたはNに設定されている場合に使用します。
資材出庫プログラムの呼出し	<p>入庫機能を実行するときに資材出庫機能を有効にする場合に選択します。</p> <p>このオプションは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne受注設計生産を使用している場合に、JD Edwards EnterpriseOne購買管理にのみ使用します。</p>
入荷確認必須	購買オーダー行に入荷を要求する場合に選択します。このオプションを選択した場合は、伝票照合処理の前に購買オーダー行が入荷される必要があります。このオプションの選択を解除した場合は、入荷を必要とせずに、購買オーダー行の照合を行うことができます。

オーダー処理規則の設定

この項では、オーダー処理規則の概要、事前設定、およびオーダー処理規則の設定方法について説明します。

オーダー処理規則について

オーダー処理でオーダー行の処理を進めるには、オーダー処理規則を作成する必要があります。オーダー処理規則はオーダー情報の処理ステップの順序を確立する際に使用されます。

オーダー・タイプと行タイプの組合せに対して設定したオーダー処理規則を基にオーダー行が処理されます。たとえば、受注オーダーで在庫行タイプのオーダー処理規則を次のように設定できます。

- オーダー入力
- ピッキング・リストの印刷
- 出荷確認

オーダー処理の各ステップに対して状況コードを割り当ててください。状況コードは、オーダー行の現行状況を識別するために使用する番号です。オーダー処理が次にどのステップに進むかを決定する次状況コードも識別する必要があります。状況コードは、昇順に配列し、ステップの順序が確定されるようにしてください。

オーダー処理規則で、ステップの進行を変更したり代替ステップを含めることができます。たとえば、受注オーダーで非在庫品目に対するオーダー処理規則を設定して、ピッキング・リストの印刷を省略し、オーダー行を出荷確認に進めることができます。

受注オーダー処理のどの段階で、総勘定元帳にレコードを書き込むかを指定できます。

オーダー処理では次のような目的でオーダー処理規則を使用できます。

- オーダー状況を検索する。
- バッチ処理するオーダーを選択する。
- オーダーの現行状況に基づいてレポートを作成する。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 状況コードがUDCテーブル40/ATに設定されていることを確認してください。
- UDCテーブル00/DTでオーダー・タイプが設定されていることを確認してください。
- オーダー行タイプが設定されていることを確認してください。

参照: 第 2 章、「受注管理システムの設定」、「オーダー行タイプの設定」、31 ページ

オーダー処理規則の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー処理規則の処理	W40204B	「受注管理システム・セットアップ」(G4241)、「オーダー処理規則」	オーダー処理規則レコードを確認および選択します。
オーダー処理規則の改訂	W40204A	「オーダー処理規則の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	オーダー処理規則を設定します。 オーダー処理規則レコードを追加および改訂します。

オーダー処理規則の設定

「オーダー処理規則の改訂」フォームにアクセスします。

オーダー処理規則 - オーダー処理規則の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

オーダー・タイプ クレジット・オーダー - 輸送 使用する自動採番
行タイプ Credit

レコード 1 - 9

グリッドのカスタマイズ

	前 状況	前状況 記述	次 状況	他 1	他 2	他 3	他 4	他 5	履歴 (Y/N)
<input checked="" type="radio"/>	520	Enter Sales Order	527	560	575	580	620		N
<input type="radio"/>	527	Approve Shipment/Load	560						N
<input type="radio"/>	560	Shipment Confirmation	575	573	580	620			N
<input type="radio"/>	573	Delivery Confirm	575	580	620				N
<input type="radio"/>	575	Billable Freight	580						N
<input type="radio"/>	580	Print Invoices	620						N
<input type="radio"/>	620	Sales Journal/Update	999						N
<input type="radio"/>	999	Complete - Ready to Purge							N
<input type="radio"/>									

「オーダー処理規則の改訂」フォーム

オーダー・タイプ

伝票のタイプを識別するコードをUDC 00/DTから入力します。このコードはトランザクションの発生元も示します。伝票、請求書、領収書、およびタイム・シートの伝票タイプ・コードが予約されており、転記プログラムを実行したときに自動的に相殺仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)

事前に定義されている次の伝票タイプは変更しないでください。

P: 買掛金伝票

R: 売掛金伝票

T: 給与計算伝票

I: 在庫伝票

	O: 購買オーダー処理伝票 J: 一般会計/共有利息請求伝票 S: 受注オーダー処理伝票
使用する自動採番	<p>このオーダー・タイプでオーダー番号を作成するときに使用する自動採番を指定するコードを入力します。使用できる自動採番は10個あります。</p> <p>このフィールドには、次のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none">• 入札要求と購買オーダーとは異なるオーダー番号の購買要求• 標準の受注オーダーとは異なる番号範囲の一括受注オーダー
他1、他2、他3、他4、他5	<p>(省略可) オーダー処理の次のステップとして実行できる状況を示す番号を入力します。</p> <p>これは次のステップとして優先されたり期待されたりするものではないものの、一時変更が許容されるフィールドです。期待される次状況か他の使用可能状況いずれかとして定義されていないオーダー行ステップまたは状況は開始できません。その他の許可状況コードでは、処理手順を省略できます。多くの場合、処理オプションでは、これらのコードは一時変更用次状況コードと呼ばれます。</p>
履歴(Y/N)	<p>販売履歴明細テーブル(F42199)にレコードを書き込む値を入力します。値は次のとおりです。</p> <p>Y: 選択されたフィールドのレコードを履歴テーブルに書き込みます。</p> <p>N: 履歴テーブルにレコードを書き込みません。</p>

第 3 章

オーダー処理情報の設定

この章では、オーダー処理情報とレコード予約の概要と次の方法について説明します。

- コミッション情報の設定
- 事業所間販売価格割増の設定
- 任意勘定科目設定コードの定義
- オーダー・テンプレートの作成
- オーダー保留情報の設定
- 受注管理システムのセルフサービス情報の設定

オーダー処理情報について

オーダー情報を処理するには、オーダーの処理に使用する方法およびデータをあらかじめ定義しておく必要があります。データ処理を開始する前に設定するオーダー情報としては、次のようなものがあります。

- コミッション情報

コミッション固定情報を使用することで、異なるオーダー・タイプについてコミッション金額を計算するために使用するレート、基準、条件を指定できます。それぞれのニーズにあわせてコミッション情報を設定できます。

さらに、顧客への販売に寄与した販売担当グループにコミッション金額を配賦するように販売グループを設定できます。販売グループのメンバーごとにコミッション情報を定義できます。

- 事業所間販売価格割増

事業所間での原価割増しは、転送オーダーまたは事業所間受注オーダーと関連する追加原価の設定に使用します。たとえば、販売場所とそのオーダー入力および出荷場所が異なり、オーダー入力および出荷が中央供給倉庫などで行われる場合、この中央供給倉庫から顧客に直接オーダーを出荷できます。

- 任意勘定科目設定コード

任意勘定科目設定コードにより、それぞれのニーズにあわせて、勘定科目コードの各セグメントを設定できます。たとえば、販売担当者、事業所、販売区域、その他の住所録カテゴリ・コードなどの情報を含むフォーマットを使用できます。あるいは、受注明細や総勘定科目で品目や顧客をトラッキングする方法を基にした任意勘定科目設定コードの構造を設定することも可能です。

- オーダー・テンプレート

オーダー入力処理のスピード化を図るために、オーダー・テンプレートを作成して割り当てます。テンプレートには、頻繁に発注される品目の情報が含まれます。全顧客に使用される標準テンプレートを作成することも、顧客固有のテンプレートを作成することもできます。また、販売履歴に基づくオーダー・テンプレートを作成したり、既存のテンプレートを販売動向に基づいて更新することも可能です。

- オーダー保留情報

オーダーを保留にする条件を定義し、それを保留コードに添付できます。たとえば、最小オーダー値や最大オーダー値を定義できます。オーダー総額がこの範囲にない場合は、そのオーダーに保留コードが割り当てられ、オーダーは保留となり、その後の処理が中止されます。粗利益および与信保留を定義することもできます。この情報に基づいて、オーダーまたはオーダー行が粗利益の基準を満たさない場合または顧客の与信限度額を超えた場合にオーダーが保留になります。

- セルフサービス情報

顧客や仕入先自身が情報を確認および更新できるように、情報を設定しておきます。顧客や仕入先のプロファイルを設定し、顧客や仕入先に対してその顧客や仕入先が使用できるプログラムにだけアクセスできるように制限できます。

また、製品階層を設定しておく、グループおよび階層別に製品を表示できます。製品グループおよび階層に品目を割り当てることにより、顧客は在庫品目リスト全体を参照しなくても済みます。

レコード予約について

毎日大量の受注オーダーがあり、様々なプログラムを使用して受注オーダーを効率的に処理している場合は、受注オーダーが入力された後にユーザーのアクセスを制限してデータの整合性を保持しようとする場合があります。同時に複数のユーザーがデータを更新すると、データが不正確になる場合があります。

JD Edwards EnterpriseOneではレコード予約機能が提供され、この機能を有効にした場合、受注オーダー明細テーブル(F4211)に含まれる個々のレコードを同時に1人のユーザーのみが更新できるようにすることができます。1人のユーザーが明細行の更新を終えた時点で、別のユーザーがこの明細行にアクセスし情報の更新を続けることができるようになります。レコード予約により、データの整合性が保証されます。

レコード予約のユーザー定義コード(UDC)テーブル00/RRにアクセスし、「特殊取扱」フィールドに「1」を入力すると、特定のプログラムに対してレコード予約を有効にできます。

次のJD Edwards EnterpriseOne受注管理プログラムでレコード予約を有効にできます。

- 受注オーダー入力(P4210およびP42101)
- 出荷確認(P4205)
- バックオーダー・リリース(P42117)
- バックオーダー・リリース/レポート(R42118)
- ピッキング・リストの印刷(R42520)
- 在庫引当(R42997)
- 一括ピッキング・リスト(R42521)
- 保管場所別ピッキング・リスト(R42522)

コミッション情報の設定

この項では、コミッション固定情報、コミッション情報、コミッション割当の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- コミッション固定情報の設定

- ・ 販売グループの設定

コミッション情報について

コミッション情報はJD Edwards EnterpriseOne受注管理システムの中で、会社の販売環境にあわせて設定します。

各顧客に1つまたは複数の販売担当者または販売グループを割り当てることができます。顧客番号がオーダー入力フォームの「販売先」フィールド、「出荷先」フィールド、またはその両方のフィールドにあるかどうかに基づいて、販売担当者はコミッションを受け取ることができます。オーダーを入力し顧客売上の更新を行うと、その販売担当者の住所録番号または販売グループに属する各販売担当者の住所録番号に計算されたコミッション金額が適用されます。売上を更新した後、販売コミッション・ファイル・テーブル(F42005)のコミッション情報、および販売集計履歴ファイル・テーブル(F4229)の売上原価および品目別売上の集計を検討して販売担当者が正しい額を受け取ったかどうかを確認できます。

受注オーダーを入力する際、優先情報を使用しているかどうかを基にコミッション情報が処理されます。優先情報を使用していないと、受注明細コミッション・テーブル(F42160)のコミッション情報が取り込まれます。このテーブルでは、受注オーダー見出しコミッション情報(F42150)および顧客マスター・コミッション情報(F42140)の各テーブルの情報が使用されます。また、受注オーダー見出しにコミッション情報を入力することもできます。

基本優先情報を使用した場合は、F42160テーブルのコミッション情報が取り込まれます。このテーブルでは、優先プロファイル - 販売コミッション・テーブル(F40344)の情報が表示されます。F40344テーブルにコミッション情報がないと、F42150テーブルのデフォルトのコミッション情報が取り込まれます。詳細優先情報を使用してコミッション情報を取り込むこともできます。

顧客への販売に寄与した2人以上の販売担当者にコミッションを配賦するように販売グループを設定できます。たとえば、販売グループが販売責任者、担当者、販売アシスタントから構成されている場合は、3人に販売担当者を表すグループ・コードを割り当てます。販売グループは、顧客のオーダーを担当する販売担当者を識別し、複数のコミッション率を管理するのに役立ちます。

コミッション割当について

JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムでコミッション情報を定義するには、1つまたは複数の販売担当者または販売グループ、コミッション率、顧客、オーダー・タイプを関連付ける必要があります。

コミッション率は、会社のコミッション支払方針に基づいて設定します。コミッションの配賦は、単一の固定コミッション率または複数の変動コミッション率を入力して行います。

固定コミッション率を設定すると、コミッションを生成するオーダー・タイプすべてに同じ率が適用されます。1つまたは複数の販売グループを顧客に割り当てると、固定コミッション率のコミッションを配賦できます。グループ内の各販売担当者に同じコミッション率を配賦するように固定率を設定することが可能です。ただし、グループに対する顧客請求指示で固定コミッション率を割り当てると、コミッション金額がグループ番号に配賦されます。事業所などに対してコミッションを配賦する場合に、このオプションが使用できます。固定コミッション率がグループ内の販売担当者間で自動的に分割されることはありません。

グループに対して単一の固定コミッション率を設定したり、販売グループ内の販売担当者に対して複数の変動コミッション率を設定することもできます。グループ内でコミッション率が異なる場合は、各販売担当者に対して個別のコミッション率を設定することが可能です。たとえば、管理者のコミッション率を販売アシスタントの率よりも高くすることができます。

顧客マスター・レコードで固定コミッション率を割り当てると、オーダー合計に基づいてコミッション金額が計算されます。変動コミッション率を計算したり追加のコミッション情報を設定する場合には、顧客マスター・レコードで販売担当者にコミッション率を割り当てることはできません。グループ内の販売担当者に対して同じコミッション率を配賦する場合には、各販売担当者に対するコミッション率を指定してください。

各販売担当者に対して変動コミッション率を設定すると、コミッションの計算の前に、有効日付やオーダー・タイプ、固定費や最小金額などの変数が組み込まれます。たとえば、一括オーダーのコミッション率と他の受注オーダーのコミッション率が違う場合があります。あるいは、コミッションの計算の前に固定費をオーダーから差し引く場合があります。

関連項目:

第 4 章、「顧客情報の設定」、「顧客請求指示の設定」、75ページ

コミッション固定情報について

コミッション固定情報は、従業員固有のコミッション情報の他に、コミッション金額の計算に使用される情報を定義するために使用します。個々の販売担当者、販売グループ、またはグループ内の複数の販売担当者のコミッション金額を計算する前に、追加の情報を組み込むことができます。コミッション率の計算前に、オーダー・タイプや固定費、有効日付などの追加のコミッション情報がオーダー情報と比較されます。また、オーダー・タイプ別に異なるコミッション率を指定することもできます。たとえば、販売担当者が標準的な受注オーダーに対して5%、直送オーダーに対して2%、一括オーダーに対して7%のコミッションを受け取るように設定することが可能です。

有効期間中に適用される変数の使用により、一定期間にのみ適用されるコミッション率を指定することもできます。たとえば、販売見習いが、研修期間中に受注オーダー金額合計に対して7%のコミッションを受け取るように指定できます。この期間中のオーダー総額が最小粗利益額に満たないと、コミッションは計算されません。オーダーがコミッションの対象となる場合には、コミッション率の計算前に固定費を差し引いてください。研修終了後、販売担当者は、全オーダーから固定費を差し引いた粗利益に対して5%のコミッションを受け取ります。将来のコミッション率の変更に備えて、複数のコミッション率を入力することも可能です。

コミッション率を入力するかわりに、コミッション金額を請求金額、原価、総額に入力できます。

追加情報を、販売グループまたはグループ内の販売担当者に割り当てることができます。グループに対する追加のコミッション情報を指定するには、グループ・コードに対して追加情報を割り当ててください。たとえば、コミッションの計算前に、そのグループが割り当てられた最小粗利益を上げる必要があると指定できます。グループ内の販売担当者用の追加コミッション情報を計算するには、追加情報を各販売担当者番号に割り当てることが可能です。

コミッション固定情報を設定したら、削除できません。ただし、失効日は変更できます。

受注オーダー固定情報プログラム(P42460)を使用して、「販売先/出荷先デフォルト値」を設定する必要があります。これによって、顧客番号がオーダー入力フォームの「販売先」フィールド、「出荷先」フィールド、またはその両方のフィールドにあるかどうかに基づいて、その販売担当者がコミッションを受け取るかどうかが決まります。

注意: 顧客が受け取るコミッションを「販売先」と「出荷先」の両フィールドに基づいて決めるよう受注オーダー固定情報を設定し、「販売先」フィールドと「出荷先」フィールドに同じ顧客番号を入力した場合、販売担当者は2倍のコミッションを受け取ります。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- UDCテーブル42/RSに販売担当者グループ用のコードが設定されていることを確認します。
- 業種別顧客マスター(F03012)で、各顧客に対するコミッション率コードがブランクになっていることを確認します。

- UDC 42B/CDを設定して、「販売先」フィールド、「出荷先」フィールド、またはその両方のフィールドの顧客番号に基づいて、オーダー入力時にコミッションを配賦するよう指定します。
- 受注オーダー固定情報プログラム(P42460)で「販売先/出荷先デフォルト値」フィールドを設定します。
受注オーダー固定情報プログラムにアクセスするには、「略式コマンド」フィールドで「P42460」と入力します。
- 販売担当者全員の住所録番号が存在するかどうかを確認します。
- 売上更新プログラム(R42800)の処理オプションが、コミッション情報を更新するように設定されていることを確認します。

参照: [第 15 章、「日次締め処理の実行」、「顧客売上の更新」、380ページ](#)

コミッション情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
コミッション固定情報の処理	W42110E	「コミッション/ロイヤリティ管理」(G4223)、「コミッション/ロイヤリティ固定情報」	コミッション固定情報レコードを確認および選択します。
コミッション固定情報の改訂	W42110D	「コミッション固定情報の処理」で「追加」をクリックします。	コミッション固定情報を設定します。 コミッション固定情報レコードを追加および改訂します。
関連販売担当者の処理	W42100F	「コミッション/ロイヤリティ管理」(G4223)、「コミッション/ロイヤリティ関連販売担当者」	関連販売担当者レコードを確認および選択します。
関連販売担当者の改訂	W42100E	「関連販売担当者の処理」で「追加」をクリックします。	販売グループを設定します。 関連販売担当者レコードを追加および改訂します。

コミッション固定情報の設定

「コミッション固定情報の改訂」フォームにアクセスします。

コミッション/ロイヤリティ固定情報 - コミッション固定情報の改訂

OK(O) 取消(L) ツール(T)

コミッション No. 6001

レコード 1 - 3

編集	コミッション計 * 算タイプ	有効開始日付	有効期限	オー ダー タイ プ *	係数	固定費用	粗利益の条件 額	コミッション率
<input checked="" type="radio"/>	I	1998/10/16	2020/12/31	S4				5.000
<input type="radio"/>	I	1997/10/23	2010/12/31	SO			25.0000	5.000
<input type="radio"/>								

「コミッション固定情報の改訂」フォーム

- コミッションNo.** コミッション固定情報を設定する担当者の住所録番号を入力します。
- コミッション計算タイプ** 請求金額または粗利益額を使用してコミッションを計算するかどうかを指定するコードを入力します。いずれの項目を使用する場合でも、コミッション計算の開始点として金額を検討し、積荷係数、固定原価、最小粗利などを適用する必要があります。
- 係数** 製造原価の乗数として使用する係数を入力します。
- 固定費用** オーダーごとの処理間接費の金額を入力します。
- 粗利益の条件額** オーダーに基づく最小粗利益額を入力します。粗利益額が最低限この金額に満たない場合、そのオーダーはコミッションの適用対象外となります。
- コミッション率** 販売担当者へ支払われるオーダー売上金額の率を入力します。
- 定額コミッション** コミッション金額を指定する値を入力します。コミッション率にかわり、定額コミッションを入力します。請求書、粗利益額、原価と突き合せてコミッション金額を計算するには、1個当たりの金額を入力する必要があります。
- 1個当たり金額** 品目1個当たりの金額を入力します。
- コミッション通貨コード** 販売担当者の定額コミッションに対応する通貨を識別するコードを入力します。
- カテゴリ・コード** JD Edwards EnterpriseOne住所録で住所に割り当てることができる30のレポート・コードの1つを入力します。これらのコードは、各種レポートや宛名ラベルの作成用などに住所録レコードをグループ化するために使用します。カテゴリ・コードは、ユーザー定義コード(システム01、タイプ01から30)です。次のような例があります。
- カテゴリ・コード01
 - 保管場所または事業所
 - カテゴリ・コード02
 - 販売担当者
 - カテゴリ・コード03
 - 製品

- 地域

- ・ カテゴリ・コード04
 - ・ 信用調査官

JD Edwards EnterpriseOne住所録で住所に割り当てることができる30のレポート・コードの1つを入力します。これらのコードは、各種レポートや宛名ラベルの作成用などに住所を識別するために使用します。カテゴリ・コードは、ユーザー定義コード(システム01、タイプ01から30)です。次のような例があります。

 - ・ カテゴリ・コード01 - 保管場所または事業所
 - ・ カテゴリ・コード02 - 販売担当者
 - ・ カテゴリ・コード03 - 新規テナント
 - ・ カテゴリ・コード04 - 信用調査係
- 貨物/運賃取扱コード

仕入先の出荷貨物が納入される方法を指定するコードをUDC 42/FRから入力します。たとえば、仕入先がドックまで出荷貨物を納入してくることもあれば、仕入先のドックで出荷貨物を受け取ることもできます。

このコードで、運賃の責任者も指定できます。たとえば、仕入先の倉庫から商品が搬出された時点で商品の法的な所有権が顧客に移り、出荷先までの輸送料金は顧客が支払うなどのコードを設定できます。
- パスワード

テーブルの更新前に入力する必要のある文字列を入力します。

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne流通管理では、コミッションの設定や保留オーダーのリリースがパスワードで保護されています。パスワードへのアクセス権を持つユーザーのみがオーダーをリリースできます。パスワードは、フォームには表示されません。パスワードをブランクにすることはできません。

販売グループの設定

「関連販売担当者の改訂」フォームにアクセスします。

コミッション/ロイヤリティ関連販売担当者 - 関連販売担当者の改訂

OK(O) 取消(L) ツール(T)

販売コード *

645

北西部地域担当グループ

レコード 1 - 3

グリッドのカスタマイズ

	販売担当者 * No.	有効開始日付	有効期限	関連販売 担当者	行オー ダー コード	関連 共通率
<input checked="" type="radio"/>	6001	1997/11/20	2010/12/31	I	0	5.000
<input type="radio"/>	8444	1997/11/20	2010/12/31	I	0	5.000
<input type="radio"/>						

「関連販売担当者の改訂」フォーム

販売コード	オーダーの販売担当者が複数存在する場合に販売担当者番号のかわりに使用するコードを入力します。
販売担当者No.	販売担当者の住所録番号を入力します。 3人以上の販売担当者にコミッションを作成するには、1行のオーダー行に個人または部署/部門(ロイヤリティの場合)を関連付けます。このような場合、関連ファイルで、特定の販売担当者ではなく、複数の販売担当者を表す販売コードを設定します。このコードは、受注オーダーの入力時に顧客の請求指示レコードに挿入され、オーダー処理サイクルの適切な時点で複数のコミッション・レコード(関係する販売担当者ごとに1つのレコード)が作成されます。1人の販売担当者に対して複数の率を適用できます。
関連販売担当者	請求金額または粗利益額を使用してコミッションを計算するかどうかを指定するコードを入力します。
行/オーダーコード	コミッションをオーダー合計に基づいて決めるには「O」を入力し、行の金額に基づいて決めるには「L」を入力します。
関連共通率	関連販売担当者に適用される売上の率を入力します。関連販売担当者とは、指定された(関連)販売グループ内の販売担当者です。 指定されたグループで、売上の率が100%になる必要はありません。

事業所間販売価格割増の設定

この項では、事業所間販売価格割増の概要と設定方法について説明します。

事業所間販売価格割増について

事業所間での原価割増しは、転送または事業所間受注オーダーと関連する追加原価の設定に使用します。事業所間受注オーダーの入力は、オーダーを入力した事業所とは異なる事業所から受注オーダーを充当する際に行います。たとえば、販売場所とそのオーダー入力および出荷場所が異なり、オーダー入力および出荷が中央供給倉庫などで行われる場合、この中央供給倉庫から顧客に直接オーダーを出荷できます。

追加費用を転送および事業所間売上に適用できます。事業所間移動による割増プログラム(P3403)で設定する追加の原価は、基本価格に加えてその事業所が請求する、追加の割増額になります。

P3403プログラムを使用して、転送または事業所間受注オーダーの割増金額を設定できます。販売事業所と供給事業所の関係も定義できます。たとえば、中央供給倉庫の視点から事業所間販売価格割増テーブルを設定する場合、発注元のすべての保管場所に請求する金額を定義します。

品目または品目グループに特定の割増金額を設定することもできます。たとえば、割増金額のある品目を含むオーダーを充当する際にはその品目の割増額が必ずオーダー合計に追加されます。または特定のグループからの品目を含むオーダーを充当する際には、グループの割増金額が必ず追加されます。品目と、その品目を含むグループの両方に対して割増しは設定できません。

事業所間販売価格割増の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
事業所間移動による割増の処理	W3403C	「受注管理システム・セットアップ」(G4241)、「事業所間販売価格割増」	事業所間移動による割増レコードを確認および選択します。
事業所間移動による割増の改訂	W3403A	改訂する事業所を選択して、「事業所間移動による割増の処理」フォームで「選択」をクリックします。	事業所間販売価格割増を設定します。 事業所間移動による割増レコードを追加および改訂します。

事業所間販売価格割増の設定


「事業所間移動による割増の改訂」フォームにアクセスします。

事業所間販売価格割増 - 事業所間移動による割増の改訂

OK(O) 取消(L) ツール(T)

移動元事業所 Eastern Distribution Cent

レコード 1 - 4 グリッドのカスタマイズ   

		移動元事業所	移動先事業所	カテゴリコード	品目 No.	有効開始日付	有効終了日付	割増 %
<input checked="" type="radio"/>		<input type="text" value="30"/>	<input type="text" value="10"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	1997/03/26	2010/12/31	10.00
<input type="radio"/>		30	20			1997/03/26	2010/12/31	10.00
<input type="radio"/>		30	40			1997/03/26	2010/12/31	10.00
<input type="radio"/>								

「事業所間移動による割増の改訂」フォーム

移動元事業所

原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。たとえば、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。

ビジネスユニットを伝票、事業体、または個人に割り当てて、管轄別のレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別の未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの設備をトラッキングできます。

ビジネスユニットにセキュリティが設定されていると、権限のないユーザーにはビジネスユニットに関する情報が表示されない場合があります。

移動先事業所

利益センター、部署、倉庫保管場所、ジョブ、プロジェクトまたは作業場のよう、管理レポートの作成に必要な会計単位を入力します。

カテゴリコード

論理的に関連する品目を表す値を、UDC 41/S1から入力します。カテゴリコードを使用すると、個別の品目ではなく、品目のグループに対して割増価格を設定できるようになります。

割増%

ある事業所から別の事業所に品目が転送される際に原価に割増しされるパーセントを入力します。

任意勘定科目設定コードの定義

この項では、任意勘定科目設定コードの概要、事前設定、および任意勘定科目設定コードの定義方法について説明します。

任意勘定科目設定コードについて

任意売上勘定科目の設定を使って、勘定科目表の勘定科目コード用に任意形式を作成します。任意勘定科目設定コードでは、JD Edwards EnterpriseOneフォーマットを使用し、これは次の3つのセグメントから構成されます。

- ビジネスユニット
- 主科目
- 補助科目

勘定科目コードは、「ビジネスユニット.主科目.補助科目」として表示されます。任意形式なので勘定科目コードの各セグメントを設定できます。

たとえば、販売担当者、事業所、販売区域、その他の住所録カテゴリ・コードなど、より詳しい情報を含むフォーマットを使用できます。あるいは、受注明細や総勘定科目で品目や顧客をトラッキングする方法を基にした任意勘定科目設定コードの構造を設定することも可能です。

標準的な勘定科目構造は、次のセグメントでフォーマットされます。

- ビジネスユニット
- 主科目
- 補助科目
- 補助元帳

任意形式の勘定科目の場合も同様のセグメントを使用します。セグメントの長さは34文字以下である必要があります。任意形式勘定科目の各セグメントには文字数の制限があります。

- ビジネスユニット: 12文字
- 主科目: 6文字
- 補助科目: 8文字
- 補助元帳: 8文字

任意勘定科目設定コードを作成するには、これらのセグメントを1つ以上定義します。各フィールドは、UDCテーブル40/DIでハードコード化されています。任意売上勘定科目の設定プログラム(P40296)で、有効なフィールドを表示できます。そのためには、1つ以上の情報を各セグメントに関連付けます。各情報は1つのフィールドに関連付けられ、テーブルに保管されます。テーブルは各アプリケーションで異なります。

セグメントと各情報を関連付けるには、テーブルの各フィールドに対応するデータ項目名またはエイリアスを把握する必要があります。

注意: これらのテーブルに含まれていないフィールドを使用するには、カスタム・プログラミングを行う必要があります。

主科目セグメントは定義できません。AAI(自動仕訳)で主科目を定義する必要があります。

補助元帳勘定科目はオンラインでは表示されませんが、取引明細テーブル(F0911)に保管されています。

売上更新プログラム(R42800)の処理オプションで、任意売上勘定科目の設定を有効にします。

任意勘定科目設定コードを作成する前に、次の事項を考慮してください。

- 一貫した勘定科目構造の使用

組織内のすべての会社とすべてのビジネスユニットに同じ勘定科目構造を使用してください。これは、複数会社の連結処理と自動会社間決済に必要なことです。

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne Financial Managementの任意勘定科目設定を使用する場合、流通用の任意勘定科目の設定で定義するビジネスユニットおよび補助科目の文字数は、会計用の任意勘定科目の設定で定義するビジネスユニットおよび補助科目の文字数と同じにしてください。

- 勘定科目ごとに1つの補助元帳の定義

補助元帳タイプは勘定科目ごとに1つしか定義できません。任意勘定科目を設定して補助元帳をどのように使用するか指定する前に勘定科目構造を検討する必要があります。

例: 任意勘定科目コード

ある製薬会社は、製品を全国各地の病院や薬局に販売しています。この会社はまた、処方せん薬品以外の製品も小売店に販売しています。

この会社では、販売動向を国内の各地域、病院と小売薬局、薬局(処方)と小売(処方薬以外)別にトラッキングしています。この3種のカテゴリを様々な組み合せた勘定科目を利用して、売上、売上原価、在庫費用などを整理し、販売情報のトラッキングを行うことができます。

任意勘定科目設定コードは次のように定義できます。

- ビジネスユニットを2つのセグメントに分ける。

- 販売地域などの住所録カテゴリ・コード(たとえば、Wは西部)

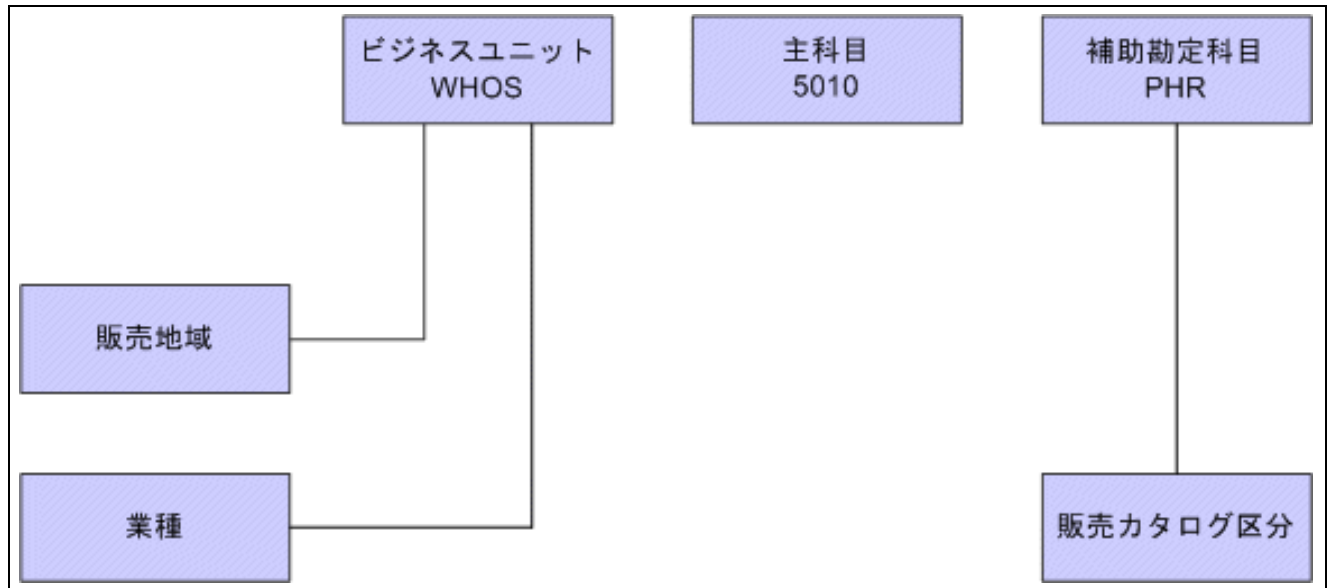
- 業種などの住所録カテゴリ・コード(たとえば、HOSは病院、RETは小売)

- 5010などのAAIの総勘定元帳主科目。

- (任意)補助科目を1つのセグメントで示す。

販売カタログ区分などの品目マスター・レポート・コード(たとえば、PHRは薬局、OTCは小売)を使用します。

次の図は、病院がその調剤薬局のために処方薬を購入したときの収益がWHOS.5010.PHR勘定科目に転記されるのを示しています。



任意勘定科目設定コード

基本受注管理AAI(自動仕訳)

任意勘定科目設定コードは、次の基本受注管理AAIテーブルに対してのみ定義できます。

- 4220: 売上原価
- 4230: 売上
- 4240: 在庫
- 4250: 消費税課税額

これらのAAIに対する勘定科目の検索は、任意売上勘定科目の設定テーブル(F4096)に対して、次の順序で行われます。

1. 特定のAAIおよび特定の会社に対して定義された任意勘定科目設定コードがチェックされます。
2. 特定のAAIおよび特定の会社に勘定科目が定義されていない場合には、特定のAAIと会社00000に対して定義された勘定科目がチェックされます。

上級価格設定AAI

任意勘定科目設定コードは、次の上級価格設定AAIテーブルに対してのみ定義できます。

- 4270: 調整
- 4280: 見越し

これらのAAIに対する勘定科目の検索は、F4096テーブルに対して次の順序で行われます。

1. 特定のAAI、特定の会社、および価格調整コードに対して定義された任意勘定科目設定コードがチェックされる。
2. 特定のAAI、特定の会社、および価格調整コードに対する勘定科目が定義されていない場合は、特定のAAIおよび特定の会社に対して定義された任意勘定科目設定コードがチェックされる。
3. 特定のAAIおよび特定の会社に対する勘定科目が定義されていない場合は、特定のAAI、会社00000、および価格調整コードに対して定義された任意勘定科目設定コードがチェックされる。
4. 特定のAAI、会社00000、および価格調整コードに対する勘定科目が定義されていない場合は、特定のAAIおよび会社00000に対して定義された任意勘定科目設定コードがチェックされる。

AAIの勘定科目情報の検索

システムにより情報が総勘定元帳へ記録される必要のあるトランザクションを処理する場合、任意勘定科目設定コードの各セグメントは次のように検索されます。次の表は、検索階層をまとめたものです。

勘定科目コード・セグメント	検索階層
ビジネスユニット	<p>ビジネスユニットを検索するために、次の処理が実行されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. AAIでビジネスユニットが検索される。 2. AAIでビジネスユニットが定義されていない場合は、ユーザーが定義する任意形式ビジネスユニットが使用される。 3. 任意形式ビジネスユニットが存在しない場合は、売上更新プログラム(R42800)の処理オプションで指定したビジネスユニットが使用される。
補助勘定科目	<p>補助科目を検索するために、次の処理が実行されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. AAIで定義された補助勘定科目が検索される。 2. AAIに補助勘定科目が定義されていない場合は、ユーザーが定義する任意形式補助勘定科目が使用される。
補助元帳	<p>補助元帳を検索するために、次の処理が実行されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受注オーダー明細で指定した補助元帳勘定科目が検索される。 2. 受注オーダー明細で補助元帳勘定科目が指定されていない場合は、ユーザーが定義する任意形式補助元帳勘定科目が使用される。 3. 任意形式補助元帳勘定科目が存在しない場合は、R42800プログラムの処理オプションで指定する補助元帳が使用される。

R42800プログラムの該当処理オプションを設定してある場合には、任意勘定科目情報が検索されます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 勘定科目コードの各セグメントに関連付ける情報を確定します。
- 主科目情報のみを使用してAAIを定義します。

任意勘定科目コードの定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
任意売上勘定科目の処理	W40296A	「受注管理システム・セットアップ」(G4241)、「任意売上勘定科目の設定」	任意勘定科目コードのレコードを確認および選択します。
任意売上勘定科目の改訂	W40296C	「任意売上勘定科目の処理」フォームで「追加」をクリックします。	任意勘定科目設定コードを定義します。 任意勘定科目コードのレコードを追加および改訂します。

任意勘定科目設定コードの定義

「任意売上勘定科目の改訂」フォームにアクセスします。

任意売上勘定科目の設定 - 任意売上勘定科目の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) ロー(R) ツール(T)

AAIテーブル番号 4220 会社番号 00001

AAI-会計 主科目-開始/終了

伝票タイプ SO 調整名

補助元帳タイプ

レコード 1-5

順序	ビジネスユニット	補助科目	補助元帳	品目	コストオブジェクト	コストタイプ	テーブルID *	長さ	記述
2				X			F4211	8	Item Num
3					1	C	F4211	8	Address N
4					2	P	F4211	3	Master Pla
5					3	L	F0101	10	Industry C
6									

「任意売上勘定科目の改訂」フォーム

AAIテーブル番号

勘定科目情報の順序指定と取得に使用する番号を入力します。

AAI-会計

特定の機能で使用する単一の勘定科目または勘定科目範囲を定義する、ハードコード化されたフィールドを検討します。たとえば、項目 GLG4では、年度締めで使用される繰越利益勘定を定義します。処理中に、プログラムによって品目番号と会社番号が使用され、借方または貸方に相当する正しい勘定科目が見つかります。AAI(自動仕訳)テーブルでは、会社とともに品目(または範囲)がキーとなります。

主科目-開始/終了

勘定科目範囲を表す開始主科目と終了主科目を入力します。指定した範囲に含まれる勘定科目に転記された金額のみが配賦されます。

調整名

調整定義を識別するユーザー定義コード(40/TY)の値を入力します。価格調整の定義プログラム(P4071)で、調整を定義します。

JD Edwards EnterpriseOne 契約管理のペナルティ・スケジュールについては、4タイプの各ペナルティに定義を追加します。

- 最小数量
- 最大数量
- 過少引当
- 過剰引当

補助元帳タイプ

「補助元帳」フィールドとあわせて補助元帳のタイプと編集方法の識別に使用される値をUDC 00/STを入力します。

「ユーザー定義コード」フォームでは、記述の第2行目により編集方法が制御されます。このコードはハードコードされているか、またはユーザーが定義します。有効値は次のとおりです。

- A: 英数字フィールド(編集なし)
- N: 数字フィールド(右揃え、ゼロで埋める)
- C: 英数字フィールド(右揃え、ブランクで埋める)

ビジネスユニット

「X」と入力して、総勘定元帳の各勘定科目コードに対応するこのセグメントが、データベースの「ビジネスユニット」フィールド内に保存されていることを示します。任意勘定科目コードの場合、「ビジネスユニット」フィールドで最大6個のセグメントを定義し、合計12文字を使用できます。

ビジネスユニットに対して複数のセグメントを定義する場合、各セグメントに対して割り当てた順序番号に従って、それらのセグメントが左から右に連結されます。その結果として得られた値は、データベース・フィールド内で右揃えになります。

補助科目

「X」と入力して、総勘定元帳の各勘定科目コードに対応するこのセグメントが、データベースの「補助科目」フィールド内に保存されていることを示します。任意勘定科目コードの場合、「補助科目」フィールドで最大4個のセグメントを定義し、合計8文字を使用できます。

補助科目に対して複数のセグメントを定義する場合、各セグメントに対して割り当てた順序番号に従って、それらのセグメントが左から右に連結されます。結果の番号はデータベース・フィールドでは左揃えになります。

補助元帳

「X」と入力して、このセグメントがデータベースの「補助元帳」フィールド内に保存されていることを示します。

補助元帳に対して複数のセグメントを定義する場合、各セグメントに対して割り当てた順序番号に従って、それらのセグメントが左から右に連結されます。その結果として得られた値は、データベース・フィールド内で左揃えになります。

品目

任意規則を品目番号に関連付けるには、「品目」カラムに「X」を入力します。

コストオブジェクト

特定のセグメントに入力されるコスト・オブジェクトを示す値を入力します。値は1、2、3、および4です。

コストタイプ

コスト・オブジェクトおよび編集のタイプを指定するコードを入力します。有効なタイプは、コスト・オブジェクト・タイプ・テーブル(F1620)に保管されます。コスト・オブジェクト・タイプ・プログラム(P1620)を使用して、コスト・タイプを追加または変更できます。

テーブルID	テーブルのIDを入力します。たとえば、勘定科目マスターは「F0901」になります。命名規則については、標準マニュアルのプログラマーズ・メニューを参照してください。
データ項目	「テーブルID」フィールドで指定したテーブルから、特定のデータ項目に相当するコードを入力します。たとえば、「テーブルID」フィールドに「F0901」と入力した場合、「R001」などテーブル内の任意のフィールドを、「データ項目」フィールドに入力できます。
データタイプ	<p>任意売上勘定科目で使用される住所を識別するコードを入力します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1: 請求先 • 2: 出荷先 • 3: 親住所 <p>このコードは「データ項目」フィールドとともに使用されます。</p> <p>「データ項目」フィールド内の値が、住所録マスター(F0101)から取得したものである場合、「データタイプ」フィールドが必須です。</p>

オーダー・テンプレートの作成

この項では、オーダー・テンプレートの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 顧客テンプレートの改訂プログラム (P4015) の処理オプションの設定
- 標準テンプレートの作成
- 顧客履歴テンプレートの再作成プログラム (R42815) の処理オプションの設定
- システム生成テンプレートの作成

オーダー・テンプレートについて

オーダー入力処理のスピード化を図るために、オーダー・テンプレートを作成して割り当てます。テンプレートには、頻繁に発注される品目の情報が含まれます。

標準テンプレートはすべての顧客に適用されます。たとえば、事務用品テンプレートを作成して、頻繁に発注される事務用品をリストできます。また、品目分類に関係なく、頻繁に発注される全品目をリストした標準テンプレートを識別することもできます。

オーダー入力処理が正確かつ効率的に行われるように、既存のオーダー・テンプレートを定期的に更新するようにしてください。たとえば、既存のテンプレートの数量や順序を変更する場合があります。

顧客に一定のオーダー履歴がある場合は、オーダー・テンプレートを自動作成できます。顧客履歴テンプレートの再作成プログラム (R42815) は、JD Edwards EnterpriseOneの標準バッチ・プログラムです。顧客のオーダーを入力し、売上更新プログラムを実行すると、受注履歴テーブル (F42119) にその顧客のオーダー履歴レコードが作成されます。適切なデータ選択基準を識別し、顧客履歴テンプレートの再作成プログラムを実行して次の事項を行います。

- 販売実績に基づく標準テンプレートの作成
- 現行の販売パターンに基づくテンプレートの更新

標準テンプレート

頻繁に発注される品目用のテンプレートを作成して、オーダー入力をスピードアップできます。すべての顧客に適用される標準テンプレートを作成し、オーダー入力のたびにそれが表示されるように割り当てることができます。標準テンプレートは必要な数だけ作成できます。受注オーダー入力プログラム(P4210とP42101)の処理オプションでテンプレート名を入力した場合、オーダー入力のたびに、処理オプションで指定したテンプレートが表示されます。

ある標準テンプレートを顧客マスター・プログラム(P03013)を通じて顧客に割り当てます。割り当てられたテンプレートは、その顧客用にオーダーを入力する際に常に表示されます。顧客特定のテンプレートには、顧客の住所録番号と、その顧客が最も頻繁に発注する品目およびその数量のみが含まれています。顧客に対して複数のテンプレートを作成するか、同じテンプレートを複数の顧客に対して作成できます。

受注オーダー入力中に、顧客のニーズにあったテンプレートにアクセスし、選択することが可能です。

テンプレートの管理

正確で効率的にオーダーを入力するために、現行テンプレートを管理する必要があります。既存のテンプレートの品目、数量、順序の変更はいつでも行うことができます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- UDC 40/OT内で、テンプレート名に対応するコードを作成します。
- 顧客に対してF42119テーブルにオーダーが存在することを確認します。

オーダー・テンプレートの作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー・テンプレートの処理	W4015A	「上級/技術的操作」(G4231)、「顧客テンプレートの改訂」	オーダー・テンプレートを確認および選択します。
オーダー・テンプレートの改訂	W4015B	「オーダー・テンプレートの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	標準テンプレートを作成します。 オーダー・テンプレートを追加および改訂します。
受注履歴の処理	W40215E	「オーダー・テンプレートの改訂」フォームで「フォーム」メニューから「オーダー実績」を選択します。	目的の受注オーダーを選択して、テンプレートで使用する受注オーダーの明細をコピーします。 注意: オーダー形式の処理オプションを1(販売先)または2(出荷先)に設定しないと、「購買実績の処理」フォームが表示されます。

顧客テンプレートの改訂プログラム(P4015)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、デフォルト値を表示し、バージョンを指定します。

表示

この処理オプションでは、デフォルトのオーダー・テンプレートおよびカスタマ・セルフサービス・モードを指定します。

- | | |
|-----------------------------|--|
| 1. 使用するフォーマットを入力します。 | 販売先、出荷先、仕入先、ユーザーのどの住所録フィールドを見出しに表示するかを指定します。値は次のとおりです。
1: 販売先
2: 出荷先
3: 仕入先
4: ユーザー |
| 2. カスタマ・セルフサービス・モード | 標準処理とカスタマ・セルフサービス・モードのどちらを使用するかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 標準処理
1: Java/HTMLのカスタマ・セルフサービス・モード
2: Windowsのカスタマ・セルフサービス・モード |

バージョン

この処理オプションでは、P4015プログラムからプログラムを呼び出すときに使用するバージョンを指定します。

- | | |
|--------------------------------|---|
| 1. 受注残/完了オーダー照会 (P4210) | 受注残/完了オーダー照会プログラム (P4210) のバージョンを指定します。
この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 2. 購買オーダー (P4310) | 発注残プログラム (P4310) のバージョンを指定します。
この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |

標準テンプレートの作成

「オーダー・テンプレートの改訂」フォームにアクセスします。

顧客テンプレートの改訂 - オーダー・テンプレートの改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

販売先

オーダー・テンプレート

BIKES

レコード 1 - 5

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	品目 No.	通常オーダー 数量	単位	順序No.	有効 開始日付	有効 終了日付	品名
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	210	10		5	1997/03/27	2010/12/31	Mountain Bike, Red
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	220	5		10	1997/03/27	2010/12/31	Touring Bike, Red
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	221	5		15	1997/03/27	2010/12/31	Touring Bike, Blue
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	222	5		20	1997/03/27	2010/12/31	Touring Bike, Green
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				25			

「オーダー・テンプレートの改訂」フォーム

- オーダー・テンプレート

頻繁に発注する品目のリストを識別する値をUDC 40/OTから入力します。
多くの場合、品目は製品タイプ(燃料、潤滑剤、パッケージ製品など)に基づいてグループ化されます。
- 通常オーダー数量

通常発注される数量を入力します。
- 順序No.

テンプレートに個々の行が表示される順序を入力します。

顧客履歴テンプレートの再作成プログラム(R42815) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、履歴から顧客テンプレートを作成する方法を定義します。

処理1

この処理オプションでは、顧客テンプレートの再作成プログラムの実行時に使用するオーダー・テンプレート、順序、行数、有効日付を指定します。

1. 作成するオーダー・テンプレートを入力してください。

頻繁に発注する品目のリストを識別するコードをUDC 40/OTから指定します。通常、品目グループは燃料、潤滑材、パッケージ商品などの製品タイプに基づきます。
2. テンプレート順序を選択してください。

バージョン順序の場合は「1」を入力し、頻繁に発注される順序の場合は「2」を入力します。
3. 最大行数を入力してください。

取り込む最大行数を指定します。
この処理オプションを空白にすると、すべての行が取り込まれます。
4. 最小行数を入力してください。

取り込む最小行数を指定します。
この処理オプションを空白にすると、すべての行が取り込まれます。
5. 有効開始日付

(省略可)テンプレートがアクティブまたは有効になる日付を指定します。

6. 有効終了日付

この処理オプションをブランクにすると、システム日付が使用されます。

(省略可)テンプレートがアクティブまたは有効である最後の日付を指定します。

この処理オプションをブランクにすると、フィールドに、最後に定義した日付が自動入力されます。

処理2

この処理オプションでは、販売先と出荷先のどちらの住所番号をオーダー・テンプレートで使用するかを指定します。

1. オーダー・テンプレート住所の選択

販売先の場合は「1」、出荷先の場合は「2」を入力します。

2. 通常数量の平均数量

「オーダー・テンプレートの改訂」フォームの「通常オーダー数量」フィールドにある平均数量と同じ値を使用するには、「1」を入力します。

システム生成テンプレートの作成

「上級/技術的操作」メニュー(G4231)、「顧客テンプレートの改訂」を選択します。

顧客履歴テンプレートの再作成プログラム(R42815)を使用して、テンプレート作成処理を自動化します。R42815プログラムは、顧客のオーダー履歴を基にテンプレートを作成するバッチ・プログラムです。

オーダー保留情報の設定

この項では、オーダー保留情報、オーダーへの保留コードの割当、および顧客請求指示への保留コードの割当の概要と、オーダー保留コードの設定方法について説明します。

オーダー保留情報について

オーダーの処理を中断するために、オーダーを保留にすることができます。次のような理由からオーダーを保留にします。

- 最小オーダー金額に満たない。
- 顧客の与信限度額を超過する。
- 粗利益に満たない、またはそれを超過する。
- 非アクティブな顧客を対象としている。

オーダーを保留にする条件を定義し、それを保留コードに添付します。たとえば、最小オーダー値や最大オーダー値を定義できます。オーダー総額がこの範囲にない場合は、その受注オーダーに保留コードが割り当てられ、オーダーは保留となり、その後の処理が中止されます。

粗利益および与信保留を定義することもできます。この情報に基づいて、オーダーまたはオーダー行が粗利益の基準を満たさない場合にオーダーが保留になります。オーダーが顧客の与信限度額を超過する場合もオーダーが保留になります。

参照: 第 10 章、「オーダーの保留、リリース、および検討」、「保留オーダーのリリース」、249ページ

オーダー保留コード

オーダーの保留に使用されるオーダー保留情報を設定します。受注オーダー入力プログラムで該当する処理オプションを設定すると、この情報が適用されます。

さらに、製品割当優先情報とあわせて保留コードを使用できます。こうすることで、顧客または顧客グループが購入できる品目または品目グループの金額を制限できます。

優先マスター・プログラム (P40070) の製品割当優先情報を設定して、優先情報処理オプション・プログラム (R40400) で優先情報を有効にする必要があります。オーダー保留固定情報プログラム (P42090) で、UDC 42/HC の中に保留コードを設定し保留情報を定義します。受注オーダー入力プログラムの処理オプションで、製品割当保留コードを入力して、行レベルでオーダー保留処理を有効にした後、優先プロファイル処理を有効にする必要があります。

参照: 第 17 章、「優先情報の有効化」、「製品割当優先情報」、437 ページ

最小および最大オーダー金額のオーダー保留コード

オーダーの処理を進める前に、顧客に適用される最小および最大オーダー金額を設定できます。たとえば、顧客が最小金額を発注した場合は、その顧客に取引割引を適用できます。

顧客マスター・プログラム (P03013) の「請求情報」フォームで最大/最小オーダー金額の範囲を定義するか、または最大/最小金額を定義できます。次に、オーダーや行の金額が顧客マスター・レコードで定義した値と比較されるように保留コードを設定します。

金額範囲についてオーダーのチェックを設定するには、受注オーダー入力プログラムの「オーダー保留」タブにある「オーダー最小値チェック」および「オーダー最大値チェック」処理オプションに保留コードを入力します。この金額が受注オーダー合計と比較されます。オーダー金額が定義されている範囲に入らない場合は、エラー・メッセージが表示され、オーダーの処理は行われません。

与信チェックのオーダー保留コード

与信保留コードを設定して、顧客マスター・レコードで設定した与信限度額とオーダーおよび売掛金残高を自動的に比較します。たとえば、顧客の与信限度額を 1,000 USD に設定するとします。顧客の売掛金残高が 100 USD の場合、オーダー額は 900 USD 以下である必要があります。それを超過する場合は、オーダーは保留になります。

売掛金残高のパーセントを基準として保留コードを指定することもできます。残高情報を検証するには、経過計算期間を 0 日から 30 日、または 31 日から 60 日に設定してください。31 日から 60 日の期間を指定する場合は、最初の期間の残高情報は比較されません。

たとえば、顧客の売掛金残高合計が 6,000 USD あり、5,000 USD が 0 から 30 日期間で、1,000 USD が 31 日から 60 日期間とします。未収残高のパーセントに基づく保留を売掛金残高合計の 20% と設定します。31 日から 60 日の経過計算期間を許容パーセントと比較するように指定します。この情報に従うと、31 日から 60 日間に許容される最大未収残高は 1,200 USD になります。経過計算期間 31 日から 60 日の未収残高が 1,000 USD なので、この顧客は与信チェックの基準を満たします。

与信チェックのオーダー・コードを設定するには、受注オーダー入力プログラムの「オーダー保留」タブにある「顧客与信チェック」処理オプションに保留コードを入力します。

非アクティブな顧客のオーダー保留コード

非アクティブな顧客に対して保留コードを設定できます。非アクティブな顧客に該当するのは、それ以降の販売を停止する顧客、破産申請した顧客、またはたまにしか販売を行わない顧客です。非アクティブな保留コードを設定することで、非アクティブな顧客に対してはオーダーの処理を自動的に停止します。また、たまにしか発注しない顧客からオーダーがあったときにエラー・メッセージを表示するようにする場合にも非アクティブな保留コードを設定できます。

注意: このタイプのオーダー保留はオーダー全体に適用されます。オーダー明細行が保留になるのではなく、オーダー全体が保留になります。

非アクティブな顧客に対してUDC 42/HC内の保留コードを設定した後で、住所録の改訂プログラム(P01012)の「住所録」タブのユーザー定義の非アクティブな顧客タイプに「検索タイプ」フィールドを設定する必要があります。さらに、「非アクティブな顧客の保留」処理オプションを設定し、受注オーダー入力プログラムの「オーダー保留」タブにある「非アクティブな顧客検索タイプ」処理オプションで検索タイプを入力します。

「システム固定情報」フォームで「顧客セットの使用」オプションを選択し、オーダーに非アクティブな顧客を入力した場合、警告は表示されますが、オーダーは保留になりません。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録レコードの入力」

たまにしか発注しない顧客に対して保留コード(42/HCおよび00/CM)を設定した後で、受注オーダー入力プログラムの「オーダー保留」タブにある「非アクティブな顧客」処理オプションでその値を入力する必要があります。たまにしか発注しない顧客に対してオーダーを入力し、このオーダーが保留になった場合、適切な承認があればこのオーダーを処理できます。

粗利益チェックのオーダー保留コード

保留コードを設定して、受注オーダーまたは受注明細行がすべて指定した粗利益の基準を満たすようにすることができます。

粗利益の計算には次の計算式が使用されます。

$(\text{価格} - \text{原価}) \div \text{価格} = \text{利益率}$

たとえば、ある品目を0.42 USDで購入し1.00 USDで販売すると、その計算は次のようになります。

$(1 - 0.42) \div 1 = 0.58$ または58%

明細行またはオーダー全体の販売粗利益率を検証する保留コードを設定できます。販売粗利益を受注オーダーの明細行と比較するオーダー保留コードを設定すると、各明細行が指定した最小粗利益と最大粗利益の範囲になっていることが検証されます。たとえば、販売粗利益が25%から30%と設定されているとします。ある品目の粗利益が35%の場合、このオーダーは保留になります。

オーダー合計の販売粗利益を検証する保留コード情報を設定すると、オーダー合計が、指定した最小粗利益と最大粗利益を満たしていることが検証されます。たとえば、販売粗利益が25%から27%と設定されているとします。ある品目の粗利益が28%でも、オーダー合計の粗利益が25%となる場合は、このオーダーは保留になりません。

粗利益チェックのオーダー・コードを設定するには、受注オーダー入力プログラムの「オーダー保留」タブにある「オーダーの利益チェック」または「オーダー行の利益チェック」処理オプションに保留コードを入力します。

部分オーダー保留のオーダー保留コード

部分オーダー保留は、オーダー明細行を充当するだけの引当可能数量はないけれども顧客が部分オーダーを許可している場合に使用する保留です。バックオーダーはオーダー明細行に対して数量が十分な場合のみにリリースできますが、部分オーダー保留はバックオーダーではないのでいつでもリリースすることが可能です。

オーダー明細行に十分な引当可能数量がない場合、数量が補充されるまでオーダー全体を保留にするよう、保留コードを設定します。このオーダー保留はバックオーダーと部分出荷が許容される場合に使用してください。

オーダー明細行に十分な引当可能数量がない場合、顧客マスター・プログラム (P03013) のバックオーダー情報に基づいて引当可能数量をバックオーダーするかまたは取り消すことができます。顧客がバックオーダーを許可しない場合、オーダー明細行は取り消されます。部分オーダー保留を使用することにより、引当可能数量を確保できるまでオーダー明細行が保留になります。顧客がバックオーダーを許可していないがオーダーまたは行の部分出荷を許可している場合、部分オーダー保留を設定してオーダー明細行が取り消されないようにすることができます。

部分オーダー保留のオーダー・コードを設定するには、受注オーダー入力プログラムの「オーダー保留」タブにある「部分オーダー保留」処理オプションに保留コードを入力します。受注オーダー入力プログラムの「引当て」タブで「引当可能数量チェックの使用」処理オプションを有効にする必要があります。

前払のオーダー保留コード

前払を処理するときに、オーダーの保留に使用されるオーダー保留情報を設定します。保留コードを使用すると、前払プロセスの中で各ステップが正常に完了したことを確認できます。

前払トランザクション用に次の保留コードを定義しておく必要があります。

- 決済保留、保留コードCSによって識別
- 承認保留、保留コードCAによって識別

受注オーダー入力プログラムで該当する処理オプションを設定すると、このオーダー保留情報が適用されます。

関連項目:

第 12 章、「前払処理」、335ページ

第 4 章、「顧客情報の設定」、「顧客請求指示の設定」、75ページ

第 7 章、「受注オーダーの入力」、「受注オーダー入力 (P4210) の処理オプション」、137ページ

オーダーへの保留コードの割当について

保留コードを有効にするために、受注オーダー入力プログラムの処理オプションで保留コードを指定する必要があります。システムはオーダーごとに売掛情報、オーダーおよび行粗利益率、部分オーダーなどの情報を比較します。特定顧客の与信チェックを免除するには、顧客請求指示プログラムの「与信チェックの免除」オプションを有効にする必要があります。システムによりオーダーが保留になった場合、保留オーダー・リリース・プログラム (P43070) ですべてのオーダーをリリースする必要があります。

また、オーダー見出し情報に保留コードを手作業で入力できます。「保留コード」フィールドに値が入力されていると、そのオーダーの処理が停止します。

JDESOENTRYワークフロー処理をアクティブにすると、保留をチェックした上でオーダーが処理されます。「OK」をクリックしてオーダーを受け入れると、保留コードの処理オプションがチェックされ、オーダーとその保留情報が比較されます。

オーダーが保留になると、保留コードの中で担当者番号として定義された住所録番号にアクション・メッセージが送られます。このメッセージはオーダーが保留中であることを示します。オーダー・リリースの担当者はワークフロー・プロセス中に送られたメッセージを検討して、ワーク・センターによりリリースするオーダーにアクセスできます。

参照: 第 7 章、「受注オーダーの入力」、「受注オーダー見出し情報について」、130ページ

顧客請求指示への保留コードの割当について

顧客マスター・プログラム (P03013) の「請求情報」フォームで保留コードを指定できます。顧客に対して保留コードを入力した場合、その顧客に関するすべてのオーダーが保留されます。顧客のオーダーを検討する担当者がオーダーをリリースするまで、オーダーの処理は行われません。

バッチ・オーダー保留プログラム (R42642) を使用して、「請求情報」フォームで入力された保留コードで顧客の既存のオーダーを更新できます。たとえば、顧客と管理上の問題で合意する前にオーダーを入力した場合、そのオーダーを保留にしてオーダーを処理サイクルから外すことが可能です。

「請求情報」フォームで保留コードを設定した後、R42642 プログラムを実行して、顧客の受注残となっているオーダーを更新できます。このバッチ・プログラムは、個別の顧客に対して、または、保留コードのフィールドがブランク以外のすべての顧客に対して実行できます。

オーダー保留情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
保留オーダー固定情報の処理	W42090A	「受注管理システム・セットアップ」(G4241)、「オーダー保留情報」	保留オーダー・コードを確認および選択します。
オーダー保留情報	W42090B	「保留オーダー固定情報の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	オーダー保留コードを設定します。 保留オーダー・コードを追加および改訂します。
顧客請求指示 - 顧客マスターの処理	W03013A	「受注管理システム・セットアップ」(G4241)、「顧客請求指示」	顧客を選択および確認します。
顧客請求指示 - 顧客マスターの改訂	W03013B	「顧客請求指示 - 顧客マスターの処理」フォームで「追加」をクリックします。 「顧客請求指示 - 顧客マスターの改訂」フォームの「与信」タブで、「一時与信メッセージ」フィールドに値を入力して、「OK」をクリックします。	顧客情報を追加および改訂します。

オーダー保留コードの設定

「オーダー保留情報」フォームにアクセスします。

オーダー保留情報 - オーダー保留情報

OK(O) 取消(L) ツール(T)

保留コード * B1 予算保留

事業所 * 10 Western Distribution Center

担当者No. * 6001 Allen, Ray

制限タイプ % パーセント

コード・タイプ L 行基準

経過開始 [] ブランクは経過期間

経過% []

上限 []

下限 []

パスワード B1

「オーダー保留情報」フォーム

- 保留コード** オーダーが保留中である理由を識別する値をUDC 42/HCから入力します。
- 担当者No.** 保留にされたオーダーを確認およびリリースする担当者の住所録番号を指定します。
- 制限タイプ** 制限タイプが金額とパーセントのどちらに基づくかを指定します。通常、制限タイプはオーダーまたは行の粗利益限度のみに適用されます。値は次のとおりです。
- A: 限度は金額に基づきます。
- %: 限度はオーダーに対するパーセントに基づきます。
- コード・タイプ** オーダー内の個々の行またはオーダー全体を保留にするコードを指定します。与信保留の場合、保留コードは全オーダーに適用されます。粗利益保留では、特定の行またはオーダー全体に保留コードを適用できます。
- L: オーダー内の個々の行に保留を適用します。
- O: オーダー全体に保留を適用します。
- 経過開始** 顧客の売掛金の経過に基づく与信チェックを指定した場合に使用される経過計算期間を示す番号を指定します。これは、売掛支払セットアップに基づきます。
- 経過%** 全売掛金のうち「経過開始」フィールドで指定されたカラムで許容されるパーセントを指定します。経過与信チェックを使用した場合、「経過 %」フィールドは入力必須フィールドです。
- たとえば、売掛金残高の合計が10,000で、そのうちの2,500が31から60日カラムであるとしします。「経過開始」値が3(31から60日)、「許容 %」値が10(10%)としします。この場合、カラム3から6で許容される売掛金残高は1,000(10,000 × 10%)となり、この顧客はこの与信チェックの基準を満たします。
- 上限** 許容されるマージン%または金額の上限を示す値を指定します。このコードは、オーダーまたは個々のオーダー行に最大の粗利益率または粗利益額を設定するために使用します。

下限	許容されるマージン%または金額の下限を示す値を指定します。オーダーまたは個々のオーダー行に最小の粗利益率または粗利益額を設定できます。
パスワード	<p>テーブルの更新前に入力する必要のある文字列を入力します。</p> <p>オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne流通管理システムでは、コミッションの設定や保留オーダーのリリースがパスワードで保護されています。パスワードへのアクセス権を持つユーザーのみがオーダーをリリースできます。パスワードは、フォームには表示されません。パスワードを空白にすることはできません。</p>

受注管理システムのセルフサービス情報の設定

この項では、顧客向けセルフサービスの設定、セキュリティ問題、カスタマ・セルフサービスの処理オプションの設定、セルフサービス・オーダー入力の製品階層の概要、事前設定および次の方法について説明します。

- 品目階層プログラム (P4101H) の処理オプションの設定
- 製品階層の設定

顧客向けセルフサービスの設定について

顧客がセルフサービスを使用して情報にアクセスできるようにするには、あらかじめ次の方法を提供しておく必要があります。

- 品目情報へのアクセス
- 売掛情報の確認
- 既存のオーダーおよび出荷の検討
- 製品および保証情報へのアクセス
- 既存のコール情報の検討
- サービス・オーダーの検討

顧客のユーザー・プロファイルを設定する際に、ユーザーIDを使用してアクセスをセルフサービス・メニューに限定できます。セルフサービス機能を使用しても、顧客は住所録や顧客マスター情報への追加および修正はできません。

セキュリティ問題について

顧客の住所録および住所録マスター・レコードを設定したら、ユーザー・プロファイルを設定して顧客のアクセスを限定する必要があります。顧客がセルフサービス・アプリケーションにサインインするには、プロファイルの設定が必要です。

ユーザー・プロファイルでは、顧客または仕入先に対して次の情報を入力します。

- ユーザーID
- パスワード
- 言語やローカライゼーション情報などの優先情報

また、顧客がアクセス可能なメニューを指定する必要があります。顧客は、ユーザー・プロファイルに指定されたメニューのプログラムにしかアクセスできません。

顧客がセルフサービス・プログラムを使用してデータを入力すると、製品の選択やその他の情報はメモリー・キャッシュ・ファイルに保存されます。顧客はプログラム間を移動でき、キャッシュ・ファイルには最新のオーダーや見積の情報が保存されます。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 System Administration Guide

カスタマ・セルフサービスの処理オプションについて

顧客がセルフサービスを使用してオーダーや勘定科目情報を入力および確認できるようにするには、次のプログラムのカスタマ・セルフサービス処理オプションを有効にする必要があります。

- 受注オーダー入力 (P4210)
- 売掛金元帳照会 (P03B2002)
- 在庫状況 (P41202)

JD Edwards EnterpriseOne 輸送管理システムを使用する場合には、次のプログラムのカスタマ・セルフサービス処理オプションを有効にします。

- 出荷のトラッキング (P4947)
- 出荷の処理 (P4915)
- 積荷の処理 (P4960)

顧客が利用できるフィールドのみが表示され、機密フィールドは表示されません。

セルフサービス・オーダー入力の製品階層設定について

顧客がセルフサービスを使用してシステムにアクセスする際に、グループと階層別に製品を表示できるように設定できます。製品グループおよび階層に品目を割り当てることにより、顧客は在庫品目リスト全体を参照しなくても済みます。

F4101テーブルまたはF4102テーブルからカテゴリ・コードを選択して、製品グループを定義します。同じカテゴリ・コードを割り当てた品目は、1つのグループに属することになります。たとえば、自転車製造業者はマウンテン・バイク、ロード・バイクなどのサブグループのあるバイクというグループを作成できます。階層は、指定した順序番号と親ディレクトリに基づいて割り当てられます。たとえば、バイク・グループは、マウンテン・バイク・グループより上の順序番号になります。こうしてできるツリー構造には、必要なだけの階層が設定可能です。

顧客マスター・プログラムで顧客に品目制約を定義すると、品目は割り当てた製品グループおよび割り当てた階層の一部として残りますが、顧客は制約品目を照会できません。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 住所録で顧客を設定してあることを確認します。
- 顧客の顧客マスター・レコードを設定しているか確認します。
- 各顧客に事業所およびデフォルトの保管場所を割り当てます。

製品、価格、および引当可能数量について顧客から問合せがあった場合、その顧客のユーザーIDに割り当てた事業所に基づいて情報が読み込まれます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「在庫管理システムの設定」、「デフォルト事業所の設定」

- JD Edwards EnterpriseOne 輸送管理システムを使用している場合には、セルフサービスの配送経路オプションを設定します。

受注管理のセルフサービス情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
製品階層の管理	W4101HD	「受注管理システム・セットアップ」(G4241)、「品目階層の管理」	製品階層グループを確認および選択します。
製品階層の改訂	W4101HE	「製品階層の管理」フォームで「追加」をクリックします。	製品階層を設定します。 製品階層を追加および改訂します。
ディレクトリ検索	W4101HF	「製品階層の改訂」フォームの「フォーム」メニューから「親ディレクトリ」を選択します。	親階層を検索および選択します。

品目階層プログラム(P4101H)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、デフォルト値を設定し、データの処理方法を定義します。

デフォルト

この処理オプションでは、P4101Hから使用される受注オーダー入力プログラムの構造タイプおよびバージョンに使用されるデフォルト値を指定します。

構造タイプ

JD Edwards EnterpriseOne 住所録システムに独自の階層を持つ組織構造のタイプ(電子メールなど)を指定するUDC 01/TSのコードを入力します。

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理に親/子組込規則を作成する場合は、このフィールドをブランクにします。

受注オーダー入力のバージョン(P4210)

オーダーを処理する方法を決定するために使用する受注オーダー入力プログラム(P4210)のバージョンを入力します。

処理

この処理オプションでは、品目制約チェックや引当可能数量チェックを行うかどうか、およびカテゴリ・コードの参照時に使用されるテーブルを制御します。

1. 品目制約(1/0)

品目制約チェックを行って、顧客に品目を販売できるかどうかを確認するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 品目制約チェックは行いません。

1: 品目制約をチェックします。

2. 引当可能数量チェック(1/0)

発注された各品目について引当可能数量チェックを行うかどうかを指定します。

ブランク: 引当可能数量のチェックを実行しません。

1: 引当可能数量チェックを実行します。

3. 品目テーブル

カテゴリ・コードの参照時に品目マスターと事業所品目テーブルのどちらを使用するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: F4101テーブルを使用します。

1: F4102テーブルを使用します。

製品階層の設定

「製品階層の改訂」フォームにアクセスします。

品目階層の管理 - 製品階層の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)






構造タイプ

CSS

カスタマ・セルフサービス

記述 *

Bikes

順序No.

カテゴリ・コード

ユーザー定義コード

親ディレクトリ

ルート・ディレクトリ

「製品階層の改訂」フォーム

構造タイプ

製品階層を作成するときに使用される組織構造のタイプを識別する値をUDC 01/TSから指定します。この構造タイプは、JD Edwards EnterpriseOne住所録システムで独自の階層を使用します。

記述

品目階層の名前を入力します。

順序No.

グループ内での順序を示す順序番号を指定します。

カテゴリ・コード

値を取得し、グループを作成するのに使用するF4101またはF4102テーブルのフィールドを指定します。これは製品階層の最下位レベルで、実際の品目が含まれます。たとえば、このフィールドに「SRP4」と入力すれば、品目マスターの4番目の販売カテゴリ・コード・フィールドを指定できます。

ユーザー定義コード

カテゴリ・コード・フィールドで参照されるUDCテーブルの値を指定します。たとえば、カテゴリ・コードSRP4を入力した場合、UDC 41/S4から値が取得されます。

親ディレクトリ

「フォーム」メニューを使用して「ディレクトリ検索」フォームにアクセスする値を選択します。

第 4 章

顧客情報の設定

この章では、顧客情報の概要と次の方法について説明します。

- 関連住所の設定
- 顧客請求指示の設定
- 顧客限度額の換算
- 日付基準顧客セットの設定
- 顧客購買セグメントの設定

顧客情報について

顧客ごとにニーズが異なるため、それぞれのニーズや詳細情報に応じて、正しくトランザクションが処理されるように情報を定義しておくことができます。JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムでは、次のタイプの顧客情報が使用されます。

- 関連住所情報

多くの組織が複数の住所を持っています。受注オーダーを入力する際、製品の送付先住所の他、請求書の送付先住所を指定します。関連住所を使用して、顧客の住所情報すべてをトラッキングします。

- 顧客請求指示

受注オーダーを処理する前に、デフォルトの顧客請求情報を設定しておきます。顧客請求情報には、請求先および出荷先住所、運賃および配送情報、品目制約、コミッション情報、与信情報などが含まれます。

たとえば、複数の事業所に出荷された品目の請求書をまとめて親会社に送るよう顧客が希望する場合、この情報を顧客請求指示で指定できます。このデフォルト情報は、顧客に対してオーダーを入力するたびにに取り込まれます。

- 顧客限度額

ユーロ住所録換算プログラム(R8903012E)を使用して、顧客限度額を別の通貨に換算し、この値を丸め規定額を求めることができます。このプログラムは、会社別顧客マスター(F03012)で、顧客の通貨コードおよび住所録金額を別の通貨に換算します。JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムでは、住所録金額は顧客の最大/最小オーダー値であり与信限度額です。

- 日付基準顧客セット

顧客セットは、受注オーダー処理に関連する役割を割り当てた対象の集まりです。受注オーダー入力の際にオーダーを作成した発注元(販売先)とオーダーを出荷する相手(出荷先)を指定すると、この販売先/出荷先を含む顧客セットが検索されます。オーダー日付が顧客セットの有効日付と有効期限内であれば、その顧客セットの他の機関や会社(たとえば、支払人、配送先、請求先、転送先など)が自動的に入力されます。

- 顧客購買セグメント

顧客セグメントをベースとする販売を使用して、顧客の購買習慣に基づく購買セグメントに顧客をグループ分けします。同じような製品を購入する顧客を購買セグメントにグループ分けすることで、受注の際に顧客に対してその顧客と同じセグメントの他の顧客が購入した品目をオファーして売上を伸ばせる可能性があります。

JD Edwards EnterpriseOne Customer Relationship Managementシステムを使用している場合、CRM顧客詳細プログラム(P90CA080)を使用して顧客情報を入力できます。P90CA080プログラムを使用する場合、JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムと同じテーブルに対して、データの自動入力およびアクセスが実行されます。

関連住所の設定

この項では、関連住所の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 関連住所の設定
- 請求先住所の定義
- デフォルト住所タイプの定義

関連住所について

受注オーダーを作成するときに、請求書を送る住所(販売先住所)と納品する住所(出荷先住所)を指定する必要があります。出荷先と販売先には異なる住所を使用できます。

各顧客にデフォルトの住所を定義すると、受注オーダーに複数の住所を入力する場合に処理を簡略化できます。出荷先住所には関連する販売先住所を1つ定義できます。また販売先住所にも関連する出荷先住所を1つ定義できます。受注オーダーにこの住所のどちらかを入力すると、もう一方の住所は自動入力されます。

顧客に他の関連住所や親住所などを定義することも可能です。たとえば、すべての請求書の送付先となる親住所を1つと、納品先となる補助住所を複数顧客が持っている場合などです。なお、親住所レベルでは、任意で与信限度額チェックを行うこともできます。

住所録マスター(F0101)を使用すると、取引先のすべての企業/個人情報を管理できます。顧客ごとに、住所録の改訂プログラム(P01012)を使用して、各関連住所を定義します。

- 出荷先
- 販売先
- 親

注意: 販売先と請求先はJD Edwards EnterpriseOne受注管理システムでは区別なく使用され、どちらも請求書の送付先となる顧客住所を指します。

関連住所を「住所録の改訂」フォームに入力するためには、事前に住所録への登録が必要です。関連住所が存在しない場合は、これらのフィールドには顧客に割り当てられた番号と同じ住所録番号が使用されます。

請求先住所の定義

関連住所を住所録に入力した後、すべての請求書を送る住所を定義する必要があります。また、親住所を住所録に入力していなかった場合は、ここで親住所を入力する必要があります。

デフォルト住所タイプの定義

デフォルト住所情報を定義することによって、受注オーダーに複数の住所を入力する場合の処理を簡略化できます。次のいずれかの住所タイプを顧客のデフォルト値として使用するように定義します。

- 請求先住所のみ (請求住所タイプB)
- 出荷先住所のみ (請求住所タイプS)
- 請求先住所および出荷先住所 (請求住所タイプX)

請求先住所は販売先住所と同義です。

顧客請求指示で関連住所を定義することもできます。これは、住所録の関連住所と同じです。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- F0101テーブルに顧客住所とすべての関連住所が入力されていることを確認します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録レコードの入力」、「住所録レコードの入力」

- F03012テーブルに顧客が設定されていることを確認します。

関連住所の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
住所の処理	W01012B	「顧客の改訂」(G4221)、 「顧客住所録の改訂」	住所録レコードを確認および選択します。
住所録の改訂	W01012A	「住所の処理」フォームで住所録レコードを選択します。	関連住所を設定します。 住所録情報、具体的には関連住所を追加および改訂します。
顧客マスターの処理	W03013A	「顧客の改訂」(G4221)、 「顧客マスター情報」	顧客マスターレコードを確認および選択します。
顧客マスターの改訂	W03013B	「顧客マスターの処理」フォームで顧客マスターレコードを選択します。	請求先住所を定義します。 顧客マスター情報、具体的には親住所番号を追加および改訂して、「請求書送付先」フィールドに値を入力します。
請求情報	W03013E	「顧客マスターの改訂」フォームで、「フォーム」メニューから「請求情報」を選択します。	デフォルト住所タイプを定義します。 顧客の請求情報を追加および改訂します。

関連住所の設定

「住所録の改訂」フォームにアクセスし、「関連住所」タブを選択します。

顧客住所録の改訂 - 住所録の改訂

住所の処理

住所録の改訂

OK(O)

取消(L)

フォーム(F)

前

次

ツール(T)

住所番号

4100

タブを選択:

5-関連住所

親住所No.

第1住所No.

4100

Total Solutions

第2住所No.

4100

Total Solutions

第3住所No.

4100

Total Solutions

第4住所No.

4100

Total Solutions

第5住所No.

4100

Total Solutions

ファクタ代替受取人

4100

Total Solutions

「住所録の改訂」フォーム: 「関連住所」タブ

- 親住所No.

親会社の住所録番号を入力します。この番号は、特定の住所を親会社または所在地と関連付けるために使用されます。このフィールドに入力した値は、住所録組織構造マスター(F0150)で構造タイプがブランクのレコードを更新します。検証の必要があるため、F0101テーブルにある住所番号を指定する必要があります。親番号のある住所録レコードの例を次にあげます。

• 親会社のある子会社

• 本社のある支店

• 請負業者の作業現場
- 第1住所No.、第2住所No.、第3住所No.、第4住所No.、第5住所No.

住所録の代替住所番号を入力します。これらのフィールドには、次のように、基本住所に関連する業者や個人の住所を補足的な住所として入力できます。

• 販売担当者

- 法律事務所
- 会計士
- 証券会社
- 担保会社

入力フォームでこれらのフィールドを空白にすると、「住所番号」フィールドの基本住所が使用されます。

ファクタ/代替受取人

買掛管理で特定の支払先住所を識別する住所録番号を入力します。

認証の必要があるため、F0101テーブルにある番号を指定する必要があります。入力フォームでこのフィールドを空白にすると、「住所番号」フィールドの基本住所が使用されます。

請求先住所の定義

「顧客マスターの改訂」フォームにアクセスします。

請求書送付先

請求書に印刷する請求先の名称と住所を示すコードを入力します。値は次のとおりです。

C: 顧客名 (AN8)。

N: 印刷しない。

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne不動産管理では、この値は無視されます。請求記録または賃貸契約記録から「請求書の印刷」フィールドの値が使用されます。

P: 親番号 (PA8)

R: 支払人 (PYR)

1: 第1住所番号 (AN81)

2: 第2住所番号 (AN82)

3: 第3住所番号 (AN83)

4: 第4住所番号 (AN84)

5: ファクタ/代替支払先 (AN85)

6: 第5住所番号 (AN86)

注意: 代替受取人フィールド (AYPR) で顧客レコードに設定する支払人を除き、これらのコードはすべて住所録レコードで設定する関連住所情報に対応しています。システム固定情報の「顧客セットの使用」フィールドを選択し、受注オーダーの「販売先住所」と「出荷先住所」の組合せを使用して日付基準顧客セットを設定する場合、顧客セットの設定による「請求先」フィールドの値が顧客請求指示による「請求書送付先」フィールドの値と差し替えられます。

システム固定情報の「顧客セットの使用」フィールドを選択する場合、請求書の印刷プログラム (R42565) は指定された受注オーダーの受注オーダー見出しテーブル (F4201) から「請求先」、「転送先」、「支払元」の各フィールドを読み込みます。これらのフィールドにデータが存在しない場合、顧客セットが存在しないものとみなし、R42565 は請求指示の指定に従い「請求書送付先」フィールドを読み込みます。

注意: タイプ B (請求) で設定した人名録レコードがある場合、請求先の名称は、人名録レコードから取り込まれます。

デフォルト住所タイプの定義

「請求情報」フォームにアクセスします。

請求住所タイプ

指定した住所を販売先、出荷先、またはその両方の住所として使用するためのコードを入力します。コードは次のとおりです。

X: 請求先住所と出荷先住所の両方として使用するよう指定します。

S: 出荷先住所のみとして使用するよう指定します。

B: 請求先住所のみとして使用するよう指定します。

関連住所No.

関連住所番号を入力します。これは、出荷先は国内各所と複数あるものの、請求書はすべて1つの住所に送付しなければならない場合に使用します。このような場合、出荷先ごとに住所が存在します。それぞれの住所は S (出荷先のみ) でコード化されます。各住所の請求指示レコードでは、同じ関連住所番号が指定されます。値1から5で、関連住所5つを指定できます。

与信チェック・レベル

与信チェックをどのように行うかを制御するコードを入力します。値は次のとおりです。

P: 顧客の親番号に基づいて与信チェックを実行します。未決済の売掛金と受注オーダーを比較して、親子の合計と親番号の与信限度額を照合します。このオプションは、複数の事業所を持つ顧客がすべての与信チェックを1つの勘定科目に反映させる場合に使用します。親子の与信チェックを行う場合、会社00000を含め、各親子およびすべての業種について、F03012 テーブルの未決済オーダー金額を集計する必要があります。

CまたはS: 顧客番号に対してのみ与信チェックを実行します。ユーザーが顧客レベルで与信限度額を設定した場合、様々な業種で受注オーダーが作成されていても、顧客に業種が1つしかなければ、与信チェックでは1つのユニットとみなされます。

L: 業種別に与信チェックを実行します。ユーザーは顧客と会社の組合せごとに与信限度額を設定し、販売先とオーダー会社両方について与信チェック処理が行われます。

注意: 親番号、または顧客番号のレベルで与信チェックが実行可能な場合でも、顧客売上更新プログラム(R42800)の実行時に売掛金はすべて販売先顧客番号(受注オーダー明細テーブル(F4211)のSDAN8)に転記されます。

顧客請求指示の設定

この項では、顧客請求指示の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 顧客請求情報の設定
- 運賃および配送情報の入力
- 品目制約の入力
- コミッション情報の入力
- 与信情報の入力

顧客請求指示について

受注オーダーを処理する前に、デフォルトの顧客請求情報を設定しておきます。顧客請求情報には、請求先および出荷先住所、運賃および配送情報、品目制約、コミッション情報などが含まれます。

たとえば、複数の事業所に出荷された品目の請求書をまとめて親会社に送るよう顧客が希望する場合、この情報を顧客請求指示で指定できます。このデフォルト情報は、顧客に対してオーダーを入力するたびにに取り込まれます。

与信情報

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムが使用する与信情報は、ABCランク付けフィールドです。「顧客マスターの改訂」フォームの「与信」タブにあるそれ以外のすべてのフィールドについては、『JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理 9.0 製品ガイド』に記載されています。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理 9.0 製品ガイド、「与信/回収管理の設定」

税情報

税とともに受注オーダーを入力する場合、受注オーダーに対して税情報を直接入力するか、入力プロセスで自動的に使用されるデフォルト値を設定できます。税のデフォルト値には、税率/税域と税目コードが含まれ、顧客レコードまたはビジネスユニット・レコード(税率/税域のみ)で設定されます。デフォルト値を設定するかどうかにかかわらず、受注オーダーの入力時に税情報を一時変更できます。

受注オーダー入力時には、顧客レコードに設定した税のデフォルト値が使用されます。直送オーダー、転送オーダー、または販売先と出荷先が異なる受注オーダーを入力する場合、販売先住所から税目コードが、出荷先住所からは税率/税域が取り込まれます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 顧客に対する住所録レコードが存在することを確認します。
- 各顧客に対してデフォルトおよび関連住所が指定済であることを確認します。
請求書を送る先の住所と品目を出荷する先の住所を指定する必要があります。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理 9.0 製品ガイド、「顧客マスター情報の設定」

顧客請求指示の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
顧客マスターの処理	W03013A	「顧客の改訂」(G4221)、 「顧客請求指示」	顧客マスター・レコードを確認および選択します。
顧客マスターの改訂	W03013B	「顧客マスターの処理」 フォームで顧客マスター・レコードを選択します。	与信情報を入力します。 顧客マスター・レコードを確認および選択します。
請求情報	W03013E	「顧客マスターの改訂」 フォームで、「フォーム」メニューから「請求情報」を選択します。	顧客請求情報を設定します。 運賃および配送情報を入力します。 顧客の請求情報を追加および改訂し、運賃および配送情報を設定します。
品目制約の改訂	W40131B	「顧客マスターの改訂」 フォームで、「フォーム」メニューから「品目制約」を選択します。	品目制約を入力します。 品目制約を追加および改訂します。 「請求情報」フォームの「品目制約」フィールドの値に応じて、「品目制約の改訂」フォームにリストされている品目だけを除外するかまたはその品目だけを取り込みます。
顧客マスター・コミッションの検索	W42140A	「請求情報」フォームの「フォーム」メニューから「コミッション・コード」を選択します。	コミッション情報を入力します。 販売担当者または販売グループのコミッション情報を追加または改訂します。

顧客請求情報の設定

「請求情報」フォームにアクセスします。

顧客マスター情報 - 請求情報

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

住所No. 4284 Central Distributor

会社番号 00000

請求1 請求2

請求住所タイプ ☒ 請求先/出荷先住所

関連住所No. 1

価格調整スケジュール

顧客価格グループ RETAIL 小売顧客

最小オーダー値

最大オーダー値

印刷メッセージ

オーダー・テンプレート

与信チェック・レベル C プランク - デフォルト

品目制約

取引制約

配送指示

購買セグメント・コード BIKES 自転車購買セグメント

☐ 顧客発注No.必須

☐ 与信チェックの免除

☐ 配送票

☐ 合計請求書

☒ バックオーダー可

☒ 代替品可

☒ 部分出荷可

☒ 部分オーダー出荷可

☒ ピッキング・リストに価格を印刷

☒ 運賃の適用

☒ 分析証明書の印刷

☐ 監査ログのバイパス

☐ 非アクティブ顧客

「請求情報」フォーム

請求1

「請求1」タブを選択します。

請求住所タイプ

この住所を販売先、出荷先、またはその両方の住所として使用するためのコードを入力します。有効なコードは次のとおりです。

- X: 請求先住所と出荷先住所を指定します。
- S: 出荷先住所のみを指定します。
- B: 請求書住所のみを指定します。

関連住所No.

「住所録の改訂」フォームにある5つの関連住所のいずれかを指す値(1から5)を入力します。

出荷先は国内各所と複数あるものの、請求書はすべて1つの住所に送付する必要がある場合に、これらの住所のうち最も頻繁に使用される住所番号を入力します。この場合、出荷先ごとに住所が存在しますが、各住所は「請求住所タイプ」フィールドで「S」とコード化されています。各住所の請求情報では、同じ「関連住所番号」が指定されます。

最大オーダー値

それを超えた場合にオーダーが保留となる限界値を入力します。最大オーダー値よりも合計が大きいオーダーを入力した場合、エラー・メッセージが表示されます。

このフィールドは整数として指定し、小数点以下は伴いません。

最小オーダー値

それを下回った場合にオーダーが保留となる限界値を入力します。最小オーダー値よりも合計が小さいオーダーを入力した場合、エラー・メッセージが表示されます。

	このフィールドは整数として指定し、小数点以下は伴いません。
印刷メッセージ	「印刷メッセージの改訂」フォームで設定した事前定義済のメッセージを表す値をUDC 40/PMから入力します。メッセージは、受注オーダーや購買オーダーなどで印刷できます。
オーダー・テンプレート	顧客から頻繁に注文される品目のリストを示す値を入力します。多くの場合、品目は製品タイプ(燃料、潤滑剤、パッケージ製品など)に基づいてグループ化されます。
与信チェック・レベル	<p>与信チェックをどのように行うかを制御するコードを入力します。コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">• P: 顧客の親番号に従って与信チェックを実行します。• C: 顧客番号に対してのみ与信チェックを実行します。• S: 顧客番号に対してのみ与信チェックを実行します。 <p>Pの実行方法を使用すると、親子の未決済の売掛金と受注オーダーの合計と親番号の与信限度額を照合します。たとえば、複数のオフィスや事業所(そのすべてが発注)を持つ顧客から、すべての与信チェックを1つの口座に反映させるよう依頼された場合に、このオプションを使用します。</p> <hr/> <p>注意: 与信チェックは親または顧客番号のレベルで実行できますが、すべての売掛金は売上更新プログラム(P42800)の実行時に顧客番号(SDAN8)に記録されます。</p>
品目制約	<p>この顧客に対する品目の販売に制約が設定されているかどうかを示すコードを入力します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 販売に制約は設定されていません。</p> <p>I: 「品目制約」フォームで設定されている品目だけを顧客に販売できるように指定します。</p> <p>E: 「品目制約」フォームで設定されている品目を顧客に販売できないよう指定します。</p>
取引値引	<p>各品目の価格から値引されるパーセントを入力します。値引には、このパーセントのみが適用されます。価格を入力すると、値引率が一時変更されます。</p> <p>値引率は、整数(5%であれば5)で指定します。</p>
購買セグメント・コード	類似の購買習慣で顧客をグループ化する値をUDC 42B/BSから入力します。
顧客発注No.必須	受注入力時に「顧客の購買オーダー番号」フィールドに値を入力するよう顧客が要求している場合に選択します。
与信チェックの免除	受注処理サイクルで顧客が与信チェックを免除されるよう指定する場合に選択します。
合計請求書	顧客の請求書を集計する場合に選択します。
バックオーダー可	<p>この品目のバックオーダーを許可する場合に選択します。</p> <p>バックオーダーは、品目マスター(P4101)プログラムまたは事業所品目(P41026)プログラムを使用して品目別に許可したり、顧客請求指示プロ</p>

	グラム (P03013) を使用して顧客別に、または事業所固定情報プログラム (P41001) を使用して事業所別に許可できます。
代替品可	顧客が代替品目を受け取るよう指定する場合に選択します。
ピッキング・リストに価格を印刷	顧客のピッキング・リスト、購買オーダー、または受注オーダーに価格情報を示す場合に選択します。
分析証明書の印刷	顧客の分析証明書を印刷するよう指定する場合に選択します。
注意: この機能は、JD Edwards EnterpriseOne 品質管理システムが使用されており、かつ分析証明書が作成されている場合にのみ有効となります。	
監査ログのバイパス	受注オーダーの変更について監査ログを残さないよう指定するときに選択します。
非アクティブ顧客	JD Edwards EnterpriseOne Customer Relationship Management で顧客の状況を示す場合に選択します。
請求 2	「請求 2」タブを選択します。
請求書コピー枚数	顧客が必要とする請求書コピーの枚数を入力します。このフィールドに指定した枚数の請求書が印刷されます。必ず、少なくとも 1 枚は請求書が印刷されます。
オーダー保留コード	UDC 42/HC の値を入力して、オーダーが保留中である理由を識別します。
優先コード	<p>この顧客のオーダーを優先的に処理するためのコードを UDC H40/PR から入力します。ピッキング・リストを優先的に印刷するには、この値を使用してピッキング・リストの印刷を設定します。</p> <p>また、バックオーダー・リリース/レポート・プログラム (R42118) をこのコードで順序付けし、優先順位の高いオーダーから順にリリースするように指定することもできます。UDC H40/PR の特殊取扱コードの中で、このコードは受注オーダーに関する受注スコア (OSSCORE) を計算するための係数として使用されます。このフィールドが数値ではない場合、係数ゼロが使用されます。</p>
請求書の調整	このフィールドに「Y」と入力して、顧客の販売請求書に価格調整の詳細を印刷するかどうかを制御します。JD Edwards EnterpriseOne 価格管理を使用している場合にのみ、このフィールドが有効になります。
納期回答のビジネス目的	この値により、納期回答前に納期回答に送付されるデフォルトのビジネス目的を確認できます。ビジネス目的は、受注オーダーの条件を満たすビジネス・ルールをグループ化したものです。受注オーダー明細行では、納期回答後に納期回答で選択されるビジネス目的が指定されます。

運賃および配送情報の入力

「請求情報」フォームにアクセスします。

請求 1

「請求 1」タブを選択します。

配送票	この顧客に対する配送票を請求書に印刷するよう指定する場合に選択します。
部分出荷可	<p>顧客が部分出荷を許可することを示す場合に選択します。</p> <p>品目行を入力すると、その行に対応して使用できる部分数量が出荷可能になり、引当できない残りの数量がバックオーダーとして処理されます。部分的な出荷を許可しない場合、品目行の数量全体がバックオーダーとして処理されます。</p>
部分オーダー出荷可	<p>顧客が単一の注文に対して複数の部分出荷を許可することを示す場合に選択します。</p> <p>このオプションを選択しない場合、1つの行品目が出荷できないときは、オーダー全体が保留されます。行品目はバックオーダーとして処理され、受注オーダー入力プログラム (P4210) の「部分オーダー保留」処理オプションの値に基づいて受注が保留されます。</p> <hr/> <p>注意: この機能は、引当可能数量チェックをオンにして受注オーダー入力でオーダーを追加する場合にのみ有効になります。これは、受注オーダー入力時以外には、すべての行を1つのオーダーにまとめることができないためです。ピッキング・リスト、または出荷確認で実行した引当可能数量チェックでは、すべての行がオーダーに組み込まれているかどうかは保証されません。</p> <hr/>
運賃の適用	処理中に運賃計算を実行するよう指定する場合に選択します。
配送指示	配送指示を入力します。
請求2	「請求2」タブを選択します。
重量表示単位	オーダー集計フォームを使用するときに、この顧客に対して、個々のオーダー行およびオーダー全体の重量を表示する単位を識別するUDC (00/UM) を入力します。
容量表示単位	<p>この事業所の容量を表示する単位を識別する値をUDC 00/UMから入力します。</p> <p>「事業所保管場所の定義」フォームの「表示容量単位」フィールドの情報に基づいて、このフィールドに値が入力されます。このデフォルト値は一時変更できます。</p>
貨物/運賃取扱コード	<p>仕入先の出荷貨物が納入される方法を指定する値をUDC 42/FRから入力します。たとえば、仕入先がドックまで出荷貨物を納入してくることもあれば、仕入先のドックで出荷貨物を受け取ることもできます。</p> <p>また、このコードを使用して、だれが運賃を支払うかを指定することもできます。たとえば、仕入先の倉庫から商品が搬出された時点で商品の法的な所有権が顧客に移り、出荷先までの輸送料金は顧客が支払うなどのコードを設定できます。</p>
区域No.	顧客に割り当てられている配送区域を示す値をUDC 40/ZNから入力します。このフィールドは、運賃集計機能がオーダーにかかる輸送費の計算時に使用する係数の1つです。

	<p>ピッキングの場合は、経路コード/中継点コードおよび区域コードを入力して特定の経路を使う配送車両に積載する品目を分類します。</p> <p>これらの各フィールドのデフォルト・コードは、「顧客請求指示」フォームで設定します。</p>
運送業者No.	<p>品目の優先運送業者の住所番号を入力します。配送経路や特殊取扱などの条件を考慮して、顧客が優先的に運送業者を指定します。</p>
経路コード	<p>顧客に割り当てられている配送経路を示す値をUDC 42/RTから入力します。このフィールドは、運賃集計機能がオーダーにかかる輸送費の計算時に使用する係数の1つです。</p> <p>ピッキングの場合は、経路コード/中継点コードおよび区域コードを入力して特定の経路を使う配送車両に積載する品目を分類します。</p> <p>これらの各フィールドのデフォルト・コードは、「顧客請求指示」フォームで設定します。</p>
中継点コード	<p>特定の配送経路上の中継点を示す値をUDC 42/SPから入力します。このフィールドは、運賃集計機能がオーダーにかかる輸送費の計算時に使用する係数の1つです。</p> <p>ピッキングの場合は、経路コード/中継点コードおよび区域コードを入力して特定の経路を使う配送車両に積載する品目を分類します。</p> <p>これらの各フィールドのデフォルト・コードは、「顧客請求指示」フォームで設定します。</p>

品目制約の入力

「品目制約の改訂」フォームにアクセスします。

品目番号	<p>品目に割り当てられた番号を入力します。</p> <p>略式、明細形式、第3品目番号形式のいずれかで品目を入力できます。「請求情報」フォームの「品目制約」フィールドの設定に基づいて、リスト内の品目を取り込むか除外するかを決定します。</p>
-------------	--

コミッション情報の入力

「顧客マスター・コミッションの検索」フォームにアクセスします。

参照: 第 3 章、「オーダー処理情報の設定」、「コミッション情報の設定」、40ページ

販売担当者/グループ	<p>この顧客に対する販売を担当するか、またはこの顧客に対する販売コミッションを受け取ることができる2人の販売担当者の1人目を入力します。</p> <p>このコードは、住所録または「関連販売担当者」フォームを使用して作成します。</p>
コミッションの適用	<p>コミッションの計算に顧客マスター・コミッション情報テーブル(F42140)の特定のレコードを使用するかどうかを決定するために選択します。</p> <p>このオプションを選択しない場合、レコードは販売チーム・メンバーを示すためにのみ使用され、コミッション処理には使用されません。</p>
パーセント	<p>特定の販売担当者または販売グループが行った販売のコミッションを計算する場合に使用されるコミッション・レート(%)を入力します。</p>

固定額	コミッション金額を指定する値を入力します。請求書、粗利益額、原価と突き合せてコミッション金額を計算するには、1個当たりの金額を入力します。
1個当たり金額	品目1個当たりの金額を入力します。
基準	請求金額または粗利益額を使用してコミッションを計算するかどうかを指定するコードを入力します。 いずれの項目を使用する場合でも、コミッション計算の開始点として金額を検討し、積荷係数、固定原価、最小粗利などを適用する必要があります。
ロール・タイプ	販売チーム・メンバーのロール・タイプを定義する値をUDC H42/RTから入力します。

与信情報の入力

「顧客マスターの改訂」フォームにアクセスします。

与信

「与信」タブを選択します。

与信限度額	この顧客に対する掛売販売の限度額を入力します。この金額を超えるとワークフロー・メッセージが送信されます。この値は、与信管理プログラム全体で使用されます。与信限度額は子(顧客)レベルで管理され、親レベルでは管理されません。与信限度額の超過が発生すると、超過した顧客別にワークフロー・メッセージが送信されます。与信限度額を設定または変更すると、与信管理者宛てに、承認待ちの限度額変更があることを知らせるワークフロー・メッセージが送信されます。この与信限度額は、与信管理者が承認するまで顧客レコードには反映されません。
与信管理者	与信限度額の入力や変更を承認する権限を持つ与信管理者の住所録番号を入力します。 住所録レコードで与信管理者を設定し、UDC 01/CRIにエントリを作成しておく必要があります。UDCの設定時には、「記述02」フィールドにその与信管理者の住所録番号を入力します。与信管理者を識別するUDCをこのフィールドに入力します。
ABCコード - 売上	顧客または在庫品目の販売活動のレベルを表す等級を入力します。この等級は80対20の法則(重要な成果の80%は企業努力の20%に起因する)に基づいています。A(最高)からF(最低)までの等級があります。
ABCコード - 粗利益	平均原価率によって品目のランクを表すコードを入力します。このコードは、手動または自動のいずれかで割り当てることができます。値は次のとおりです。 A: 品目を第1の金額ランク(A級)に割り当てます。 B: 品目を第2の金額ランク(B級)に割り当てます。 C: 品目を第3の金額ランク(C級)に割り当てます。 D: 品目をABC分析の対象から除外します。 このフィールドをブランクにすると、ABC分析プログラム(R4164)の実行時には、次のような品目の価値に基づいてコードが割り当てられます。 ・ 平均投資総額をビジネスユニットの平均値で除算した値

- 投資額と算出された品目価値の合計との一致

ABCコード - 平均日数

顧客が請求額の支払に要した平均日数に基づく等級を入力します。このコードは80対20の法則に基づいています。A(最高)からF(最低)までの等級があります。

顧客限度額の換算

この項では、顧客限度額の通貨換算の概要と、次の方法について説明します。

- 住所録換算 - F03012プログラム(R8903012E)の処理オプションの設定
- 住所録換算 - F03012プログラムの実行

顧客限度額の通貨換算について

複数の顧客について限度額を別の通貨に変換するには、住所録換算 - F03012プログラム(R8903012E)を実行します。このプログラムは、F03012テーブルの顧客の通貨コードと住所録金額を換算します。JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムでは、住所録金額は顧客の最大/最小オーダー値であり与信限度額です。

注意: このプログラムは、欧州連合に各国が加盟したときに、それぞれの国の通貨をユーロに換算できるようにするために作られたものです。

顧客の最大/最小オーダー値と与信限度を入力する際は、通常、丸めが実行された整数で入力し、業種別顧客マスター(F03012)には表示小数点以下桁数なしで保管されます。これらの金額を別の通貨に換算する際は、処理オプションで丸め係数を指定できます。たとえば、最小値と最大値を50単位で丸めるには、丸め係数を50にします。

例: 換算した限度額の丸め

限度額とは、顧客または仕入先マスター・レコードに割り当てた与信限度額および最大/最小オーダー金額のことです。限度額は通常丸められた整数として保存されます。

次の例では、処理オプションで丸め係数を入力した場合に、住所録換算 - F03012プログラムと住所録換算 - F0401(R890401E)プログラムが、換算済の限度額をどのように丸めるかを説明します。例ではカナダ・ドル(CAD)から米ドル(USD)への換算を想定します。

この例では、為替レートは1 CAD = 0.63492 USDで、丸め係数は50です。換算プログラムは、換算された限度額を切上げまたは切捨てします。

次の表は、換算された限度額がどのように丸められるかをまとめたものです。

換算後の限度額	説明
切上げ	<p>換算プログラムでは、8,000 CADは5,079.36 USDに換算されます。次の計算に基づいて、5,079.36 USDは5,100に切り上げられます。</p> <p>換算金額/丸め係数 = Q余りR。Rが丸め係数の1/2以上の場合、丸め係数からRが減算され、その金額が換算金額に加算されます。</p> <p>この例では、5,079 USD ÷ 50 = 101余り29で、50の1/2よりも大きいため、50から29が減算され (50 - 29 = 21)、21を5,079に加算することで、丸め後の値は5,100になります。</p>
切捨て	<p>換算プログラムでは、12,000 CADは7,619.05 USDに換算されます。次の計算に基づいて、7,619.05は7,600に切り捨てられます。</p> <p>換算金額/丸め係数 = Q余りR。Rが丸め係数の1/2より小さい場合、換算金額からRが減算されます。</p> <p>この例では、7,619 USD ÷ 50 = 152余り19で、19は50の半分より小さくなります。7,619から19を引き、丸め後の値は7,600になります。</p>

住所録換算 – F03012プログラム (R8903012E) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、システムの更新を制御し、通貨コードおよび金額を更新するかどうか決定します。また、換算後の金額をどのように丸めるかを指定します。

更新

この処理オプションでは、顧客マスターの残高および為替レート日付として使用される日付を更新するかどうかを定義します。

- 顧客マスターの残高の更新**

顧客マスターの残高を更新するかどうかを指定します。有効値は次のとおりです。

空白: 顧客マスターの残高を更新しません。

1: 顧客マスターの残高を更新します。
- 為替レート日付**

為替レート日付として使用する日付を指定します。この処理オプションを空白にすると、現在の日付がデフォルト日付として使用されます。

通貨コード更新

この処理オプションでは、F03012テーブルの住所録通貨コードおよび通貨コードを更新するかどうかを指定します。

- 住所録通貨コードの更新**

F03012テーブルの住所録通貨コードおよび金額を更新する通貨を入力します。

この処理オプションを空白にすると、住所録通貨コードおよび金額は更新されません。

- 4. 顧客マスターの通貨コードを更新する通貨** F03012テーブルの通貨コードを更新する通貨を入力します。
この処理オプションをblankにすると、通貨コードは更新されません。

丸め

この処理オプションでは、最小および最大丸め値を指定します。

金額 - 与信限度額 与信限度額に使用する丸め係数を入力します。たとえば、値100を入力した場合、換算額は100の単位に丸められ、50を入力した場合は50の単位に丸められます。

この処理オプションをblankにすると、値は丸められません。

最小オーダー値 最小オーダー値に使用する丸め係数を入力します。たとえば、値100を入力した場合、換算額は100の単位に丸められ、50を入力した場合は50の単位に丸められます。

この処理オプションをblankにすると、値は丸められません。

最大オーダー値 最大オーダー値に使用する丸め係数を入力します。たとえば、値100を入力した場合、換算額は100の単位に丸められ、50を入力した場合は50の単位に丸められます。

この処理オプションをblankにすると、値は丸められません。

住所録換算 - F03012プログラムの実行

「略式コマンド」フィールドに「BV」と入力して、「バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン」フォームにアクセスします。「バッチ・アプリケーション」フィールドに「R8903012E」と入力します。

日付基準顧客セットの設定

この項では、日付基準顧客セットの概要、事前設定と日付基準顧客セットの設定方法について説明します。

日付基準顧客セットについて

顧客セットは、受注オーダー処理に関連する役割を割り当てた対象の集まりです。通常、顧客セットの対象は次のとおりです。

- 発注者
- 出荷先
- 納付先
- 請求先
- 支払元
- 請求書のコピー送付先（通常は、支払元）

日付基準顧客セットを設定すると、同じ機関、会社などが頻繁に関係する受注オーダーを入力する際に便利です。

各顧客セットには、有効日付と有効期限を割り当てることができます。有効日付と有効期限がオーバーラップしていなければ、有効日付を割り当てることで、同じ機関や会社などの様々な組合せを含む顧客セットを設定できます。受注オーダー入力の際にオーダーを作成した発注元（販売先）とオーダーを出荷する相手（出荷先）を指定すると、この販売先/出荷先を含む顧客セットが検索されます。オーダー日付が顧客セットの有効日付と有効期限内であれば、その顧客セットの他の機関や会社が自動的に入力されます。

日付基準顧客セットを設定したら、事業所固定情報プログラムの該当するシステム固定情報を設定して顧客セット機能を有効にする必要があります。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 顧客セットを構成する各事業体の住所録レコードが存在していることを確認してください。
- 顧客セットの各事業体の顧客請求指示が設定されていることを確認してください。

日付基準顧客セットの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
顧客セットの処理	W42430A	「受注管理システム・セットアップ」(G4241)、「顧客セットの処理」	顧客セット・レコードを確認および選択します。
顧客セットの改訂	W42430B	「顧客セットの処理」フォームで「追加」をクリックします。	日付基準顧客セットを設定します。 顧客セットを追加および改訂します。

日付基準顧客セットの設定

「顧客セットの改訂」フォームにアクセスします。

配送先

住所録レコードを識別する名前または番号を入力します。この住所録レコードは、オーダーの納入先を表します。この番号は、住所録レコードに関する情報の検索および入力に使用できます。

住所録番号以外の値（詳細住所、税IDなど）を入力する場合は、住所録固定情報プログラム（P0000）で定義した特殊文字を先頭に付ける必要があります。レコードが検出されると、そのレコードの住所録番号がこのフィールドに表示されます。

たとえば、住所録番号4100（Total Solutions）の詳細住所がTOTALで、住所録固定情報で定義した詳細住所を区別する記号が*（アスタリスク）の場合、このフィールドに「*TOTAL」と入力して検索すると、4100が表示されます。

請求先

住所録レコードを識別する名前または番号を入力します。この住所録レコードは、請求書の送付先を表します。この番号は、住所録レコードに関する情報の検索および入力に使用できます。

住所録番号以外の値（詳細住所、税IDなど）を入力する場合は、住所録固定情報プログラム（P0000）で定義した特殊文字を先頭に付ける必要があります。レコードが検出されると、そのレコードの住所録番号がこのフィールドに表示されます。

支払元

たとえば、住所録番号4100(Total Solutions)の詳細住所がTOTALで、住所録固定情報で定義した詳細住所を区別する記号が*(アスタリスク)の場合、このフィールドに「*TOTAL」と入力して検索すると、4100が表示されます。

住所録レコードを識別する名前または番号を入力します。この住所録レコードは、請求書の支払元を表します。この番号は、住所録レコードに関する情報の検索および入力に使用できます。

住所録番号以外の値(詳細住所、税IDなど)を入力する場合は、住所録固定情報プログラム(P0000)で定義した特殊文字を先頭に付ける必要があります。レコードが検出されると、そのレコードの住所録番号がこのフィールドに表示されます。

たとえば、住所録番号4100(Total Solutions)の詳細住所がTOTALで、住所録固定情報で定義した詳細住所を区別する記号が*(アスタリスク)の場合、このフィールドに「*TOTAL」と入力して検索すると、4100が表示されます。

転送先

住所録レコードを識別する名前または番号を入力します。この住所録レコードは、オーダーの転送先を表します。この番号は、住所録レコードに関する情報の検索および入力に使用できます。

住所録番号以外の値(詳細住所、税IDなど)を入力する場合は、住所録固定情報プログラム(P0000)で定義した特殊文字を先頭に付ける必要があります。レコードが検出されると、そのレコードの住所録番号がこのフィールドに表示されます。

たとえば、住所録番号4100(Total Solutions)の詳細住所がTOTALで、住所録固定情報で定義した詳細住所を区別する記号が*(アスタリスク)の場合、このフィールドに「*TOTAL」と入力して検索すると、4100が表示されます。

税務用住所

税金の計算に使用する住所録番号を指定するコードを入力します。値は次のとおりです。

- 1: 出荷先住所番号を税務用住所として使用します。
- 2: 配送先住所番号を税務用住所として使用します。

輸送/Intrastat時使用する住所

輸送およびIntrastatに使用する住所録番号を指定するコードを入力します。値は次のとおりです。

- 1: 出荷先住所番号を輸送およびIntrastatに使用します。
- 2: 配送先住所番号を輸送およびIntrastatに使用します。

顧客購買セグメントの設定

この項では、顧客セグメント・ベース販売の概要、事前設定および次の方法について説明します。

- 顧客セグメント品目プログラム(P42440)の処理オプションの設定
- 購買セグメント・コードの顧客への割当
- 購買セグメント・コードの更新プログラム(R42442)の処理オプションの設定
- 顧客セグメント・コードの更新プログラムの実行
- 顧客セグメント品目の作成プログラム(R42441)の処理オプションの設定
- 顧客セグメント品目の作成プログラムの実行

顧客セグメント・ベース販売について

顧客セグメント・ベース販売は、顧客の購買習慣に基づく購買セグメントに顧客をグループ分けできる技術です。購買セグメントは、同様の製品グループを示すUDC(42B/BS)であり、顧客に対し購買セグメント・コードを割り当てます。同じような製品を購入する顧客を購買セグメントにグループ分けすることで、受注の際に顧客に対してその顧客と同じセグメントの他の顧客が購入した品目をオファーして売上を伸ばせる可能性があります。

購買セグメントの最新情報を検討できるようにするには、購買セグメント・コードの更新プログラム(R42442)を実行して、既存の受注オーダーの購買セグメント・コードを更新します。

購買セグメント内の顧客の最新の購入を検討できるようにするには、顧客セグメント品目の作成プログラム(R42441)を実行します。このプログラムにより顧客セグメント品目テーブル(F42440)で、品目番号や数量などの購買セグメントの販売データが確実に更新されます。

購買セグメント・コードの顧客への割当

購買セグメント・コードを顧客に割り当てる、またはすでに割り当てたコードを変更するには、顧客マスター・プログラム(P03013)を使用します。このプログラムでは、顧客に対する請求書情報、与信情報、請求情報、税情報などを定義できます。

購買セグメントを顧客に割り当てると、会社別顧客マスター(F03012)に情報が保存されます。購買セグメント・コードを割り当てた顧客のオーダーを入力する際には、次のテーブルに情報が保存されます。

- 業種別顧客マスター(F03012)
- 受注オーダー見出し(F4201)
- 受注オーダー見出し履歴ファイル(F42019)
- 販売明細実績(F42199)
- 受注オーダー明細(F4211)
- 受注オーダー履歴ファイル(F42119)

受注オーダー入力プログラム(P4210)の次のフォームに購買セグメント・コードが表示されます。

- 「受注オーダー入力」(SOE)の「追加情報1」タブ
- 「受注オーダー見出し」の「追加見出し情報」

購買セグメント・コードの更新

購買セグメントの最新情報を検討できるようにするには、購買セグメント・コードの更新プログラム(R42442)を実行して、既存の受注オーダーの購買セグメント・コードを更新します。通常は、購買セグメント・コードを顧客に割り当てるときか、顧客の購買構造を再編成した後にこのプログラムを実行します。

購買セグメント・コードの更新プログラムは、テスト・モードと最終モードのどちらでも実行できます。テスト・モードでは受注オーダー別の更新された購買セグメント情報を含むレポートが印刷されますがテーブルは更新されません。最終モードでは、レポートが印刷され次のテーブルが更新されます。

- 受注オーダー見出し(F4201)

このテーブルに含まれる各レコードで一致する販売先顧客の購買セグメント・コードが更新されます。

- 受注オーダー明細(F4211)

このテーブルに含まれる各レコードで一致する出荷先顧客の購買セグメント・コードが更新されます。

- 受注オーダー履歴ファイル(F42119)

このテーブルに含まれる各レコードで一致する出荷先顧客の購買セグメント・コードが更新されます。

顧客セグメント品目の作成

購買セグメント内の顧客の最新の購入を検討できるようにするには、顧客セグメント品目の作成プログラム(R42441)を実行します。このプログラムを実行すると、次のタイプの情報をコンパイルして各購買セグメント・コードの品目一覧が作成されます。

- 品目番号
- 数量
- 基本価格
- 粗利益率
- 出荷単位
- 購買セグメント・コード

最大表示品目数は99で、顧客セグメント品目テーブル(F42440)に情報は保存されます。

事前設定

購買セグメント・コードを42B/BS内で定義します。

顧客への購買セグメント・コードの割当に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
請求情報	W03013E	<p>「受注管理システム・セットアップ」(G4241)、「顧客請求指示」</p> <p>「顧客マスターの処理」フォームで、購買セグメント・コードを割り当てる顧客を検索し、「選択」をクリックします。</p> <p>「顧客マスターの改訂」フォームで、「フォーム」メニューから「請求情報」を選択します。</p>	購買セグメント・コードを顧客に割り当てます。

顧客セグメント品目プログラム(P42440)の処理オプションの設定

この処理オプションにアクセスするには、対話型バージョン・プログラム(P983051)を使用してください。「対話型プログラムID」フィールドに「P42440」を入力して、「検索」をクリックします。プログラムのバージョンを選択し、「ロー」メニューから「処理オプション」を選択します。

デフォルト処理オプション

この処理オプションでは、顧客セグメント・ベース販売リストをソートする方法と、リスト内の最大品目数を指定します。

1. ソート・フィールド

顧客セグメント・ベース販売リストのソートに使用するコードを指定します。値は次のとおりです。

ブランクまたは1: 価格別ソート

2: 数量別ソート

顧客購買セグメント・コードに保存できる異なる品目の最大数を指定します。
デフォルト値は99です。

顧客をそれぞれの購買習慣に基づいてグループ分けできるように値をUDC 42B/BSから指定します。

この処理オプションを使用して、処理モードとレポートを印刷するかどうかを指定します。

この処理オプションでは、レポートをテスト・モードと最終モードのどちらで実行するか、およびレポートを印刷するかどうかを指定します。

- 1. 購買セグメント・コードの更新の実行モード**
- レポートをテストまたは最終モードのどちらで実行するかを指定します。テスト・モードでは、プログラムを最終モードで実行した場合に加えられる変更が表示されます。最終モードではシステムが更新されます。
- 2. 更新された購買セグメント・コード・レポートの印刷**
- 購買セグメント・コードの更新レポート(R42442)を印刷するかどうか指定します。このレポートは、F4201、F4211、F42119テーブルに含まれる選択しているすべてのレコードを一覧表示します。値は次のとおりです。
- ブランク: レポートを印刷する。
- 1: レポートを印刷しない。

「上級/技術的操作」(G4231)、「購買セグメント・コードの更新」を選択します。

この処理オプションを使用して、R42441プログラムのデフォルト値を設定します。

この処理オプションでは、顧客ベースのセグメント品目の作成に使用されるデフォルト情報を決定します。

1. **開始日付枠**
計算の対象とする現在の日付までの日数を指定します。計算は、受注オーダー行の実際の出荷日付に基づきます。現在の日付以降のすべての日数は自動的に計算に含まれます。
 2. **最小平均数量**
顧客セグメント・ベース販売リストに入れるために、品目に必要な最小平均数量を指定します。最小平均数量は、受注オーダー明細行の品目ごとの数量合計を使用して計算されます。この数量をF4211テーブルにあるその品目の発生回数で割ります。

- 3. 加重平均表示価格** 顧客セグメント・ベース販売リストに入れる品目の加重平均リスト価格を指定します。この価格は、受注オーダー明細行の品目ごとの数量にリスト価格を掛けたものを使用して計算されます。この価格を対応する受注オーダー明細行の求める品目の数量の合計で割ります。
- 4. 価格比較で使用される通貨コード** 顧客セグメント品目テーブル(F42440)を作成する際に使用されるコードを指定します。テーブルの作成時、このコードと最小平均基本価格が使用されます。最小基本価格値がある場合は、この処理オプションに入力する必要があります。
- 5. 最低マージン(粗利益)率** 顧客セグメント・ベース販売リストに入れる品目の最低パーセント・マージンを指定します。最低パーセント・マージンは、すべての受注明細行の品目ごとに加重平均リスト価格と加重平均ベース原価の差異を求めて計算されます。この計算結果を、対応する受注明細行の求める品目の加重平均リスト価格で割ります。
- 6. 最大セグメント品目数** 顧客購買セグメント・コードに保存できる異なる品目の最大数を指定します。1から99の数字を入力します。この処理オプションをブランクのままにすると、デフォルト値99が使用されます。
- 7. ソート基準フィールド** 顧客セグメント・ベース販売リストのソートに使用するコードを指定します。値は次のとおりです。
- ブランクまたは1: 価格
 - 2: 数量
 - 3: 利益率

顧客セグメント品目の作成プログラムの実行

「上級/技術的操作」(G4231)、「顧客セグメント品目の作成」を選択します。

第 5 章

UCC 128準拠の設定

この章では、UCC（米国コード・センター）128準拠、UCC IDコード、バーコード・ラベルの概要と、次の方法について説明します。

- 階層構成の設定
- 出荷情報の設定
- UCC 128における品目情報の設定

UCC 128準拠について

サイクル回数の削減や在庫制限、増収を目指して、大規模な小売業では購買オーダーや請求書を主に電信で取引します。

米国のUCCやカナダのECCC (Electronic Commerce Council of Canada)、EAN (International Article Numbering Association) では、標準のIDコードと情報伝送の手順が確立されています。これはUCC 128準拠として知られていて、仕入先と顧客（小売業者）間の出荷情報を統一された製品IDで行うよう促進する規格です。

仕入先と小売業者は、次のUCC 128規格に準拠しています。

- IDコード
各コードについて定義された構造。
- バーコード・ラベル
単一の製品ユニットや消費用梱包、出荷の回収またはパッケージに対する情報をエンコード（暗号化）する固定または可変コード。
- 出荷ラベル
UCC共通ラベルの特定基準に準拠した出荷ラベル。この標準により、特定のラベル・セグメントと、各セグメントに組み込まれる情報が設定されます。
- 電子データ交換 (EDI)
構造化された機械読取情報の電子交換。

UCC 128に準拠することになり、取引規模の大きな小売業者には次の利点があります。

- 販売の向上
倉庫での保管時間を短縮して、製品を迅速に納品できます。たとえば、製品を早く顧客に納品することにより、仲買における増収が期待できます。
- 安全在庫の削減
納品前に出荷情報を入手することで、不足分にすばやく対処して安全在庫を削減できます。

- 予測精度の向上

出荷のリードタイムをさらに正確に計算できます。これは安全在庫の削減にもつながります。

- コストの低減

スキャナで出荷ラベルを読み取ることにより、手入力よりも早くバーコード・データを収集できます。この方法は労務費の負担が少ない上に、エラーやデータ欠損の削減にもつながります。

- 倉庫管理の向上

精度の高い出荷統計情報の収集、倉庫保管期間の縮小、より効率的な倉庫スペースの活用と労務スケジュールを実現できます。

仕入先には次の利点があります。

- キャッシュフローの向上

小売業者との支払回数を低減することで、借入必要額を減らし、キャッシュフローを向上させることができます。

- 販売の向上

小売業者は、UCC 128を準拠できない仕入先にはペナルティを課します。通常、ペナルティは取引ごとに課されます。その仕入先が指定された時間内にUCC 128に準拠しない場合には、この小売業者との取引を失うことになります。

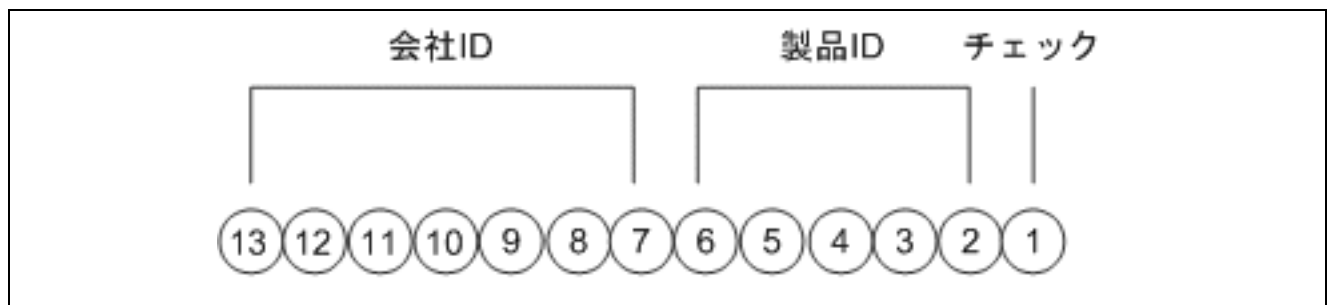
UCC IDコードについて

それぞれの会社で製品のIDコードを割り当てることができます。UCCやECCC、EAN（カナダと米国以外）では、加入している法人に会社IDを割り当てています。会社IDの最初の桁は地域コードになります。北米の地域コードは0です。このため、最初の桁をゼロとした場合、会社IDは7桁になります。それぞれのUCCコードには会社番号が含まれるため、番号はすべて固有のものになります。

統一商品コード（UPCコード）

各会社は、個々の製品について消費単位と最小販売可能単位の両方に統一商品コード（北米ではUPC、それ以外ではEAN-13）を割り当てることができます。たとえば、炭酸飲料は個別に販売できるため、1缶にUPC IDを付けることがあります。UPCコードは特定の製品の1単位を識別する固定コードです。

次の図は、UPCコードの構造の例です。



UPCとEAN-13コードの構造

UPCコードの構成は次のとおりです。

- UCCまたはEANによって割り当てられる7桁の会社（製造業者）ID

北米の会社の会社IDは、最初の7桁目が常にゼロでコードに固定されているので、残る6桁のみで表されます。

- 各会社が割り当てる5桁の製品ID
- チェック用の1文字

一般的に、社内使用に会社独自の製品IDコードが使用され、その社内の製品IDコードがUPCに相互参照されます。

出荷コンテナ・コード

出荷コンテナ・コード(北米ではSCC-14、それ以外ではEAN-14)を個々の製品の包装に割り当てます。たとえば、炭酸飲料は多様な構成で販売されます。その1つとして、6缶入りパック4個で1ケースを構成できます。この場合、このケースには内装ID(SCC-14)が貼付されることになります。

UPCと同様にSCCは、特定製品の特定消費単位を識別する固定コードです。例にある炭酸飲料ケースに貼付されるSCCは、炭酸飲料6缶または合計24缶の4つの消費単位を示します。

SCC-14コードの構成は次のとおりです。

- 梱包を識別する1桁の梱包インディケータ
このIDは会社で割り当てられ、製品ごとに異なる場合があります。このIDは次の値で固定されています。
 - ゼロは、SCCの製品IDがそのパッケージ内のUPCコードの製品IDと異なることを示します。
 - コード1から8は、会社定義による梱包を示します。たとえば、1は6パック入りの1ケースを意味し、2は12パック入りの1ケースを示すことができます。
 - コード9は、パッケージ内の消費単位のUPCコードが同じ製品でも、そのパッケージの製品量がパッケージごとに異なることを示します。
- UCCまたはEANで割り当てられる7桁の会社(製造業者)ID
- 各会社が割り当てる5桁の製品ID
- チェック用の1文字

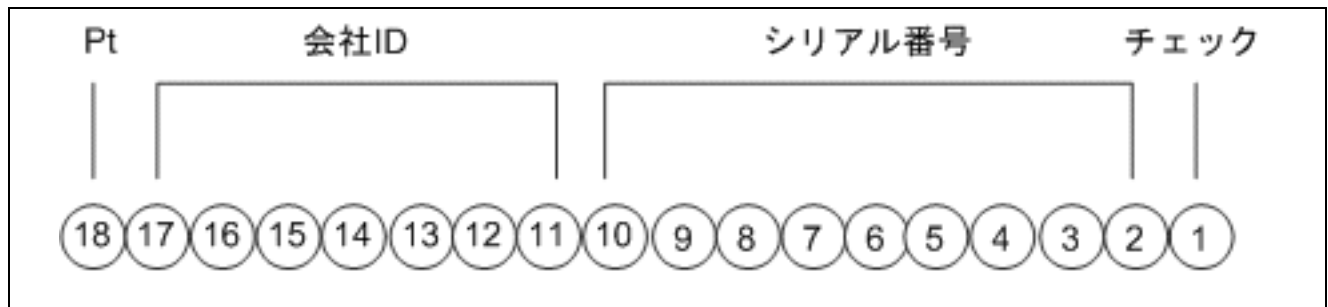
このシステムでは、SCCコードは品目コードとして扱い、特定の単位を使用します。どの品目に対しても、UPCコードは1つ存在するのに対し、SCCコードは複数存在します。

シリアル出荷コンテナ・コード

シリアル出荷コンテナ・コード(SSCC-18)は、車両の積荷や出荷全体など、カートンや出荷コンテナに割り当てる固有のシリアル番号です。

SSCCは可変コードで、SCCとUPCの階層構造として使用できます。各コードはデータベース・レコードのキーとなります。たとえば、10ケースの炭酸飲料と10ケースのジュースを持つパレットにSSCCを貼付できます。

次の図は、SSCC-18コードの構造の例です。



SSCC-18コード構造

SSCC-18コードの構成は次のとおりです。

- 1桁の梱包タイプ。このIDは次の値で固定されています。
 - ゼロは出荷コンテナがケースまたはカートンであることを示します。
 - コード2は出荷コンテナがパレット（ケースよりも大きい）であることを示します。
 - コード3は出荷コンテナが定義されていないことを示します。
 - コード4は出荷コンテナが社内用であることを示します。
 - コード5から9は将来の使用に予約されています。
- UCCまたはEANで割り当てられる7桁の会社（製造業者）ID
- 各会社が割り当てる出荷方法を識別する9桁のシリアル番号
- チェック用の1文字

バーコード・ラベルについて

バーコードは、出荷する物理的な製品や内装、パッケージの集合に関する情報をエンコード（暗号化）した機械読取用の記号です。

UPC/EAN-13用のバーコード・ラベル

次の図は、UPCラベルの構造の例です。



UPCコード例

UPC記号のフォーマットは、ビジネス・ニーズに対応して様々なものがあります。

- UPC-A: 12または13桁をすべて表示するフォーマット
- UPC-E: 12または13桁の数字からゼロの部分を省いた8桁のフォーマット

このフォーマットでは8桁しか表示されませんが、バーコード読取装置でスキャンして暗号がデコード（解読）されると、全桁のデータがコンピュータに伝送されます。

SCC-14/EAN-14用のバーコード・ラベル

ラベルや組み込む情報を印刷する場所によって、SCCには様々なフォーマットを使用できます。たとえば、段ボール箱へのバーコード印刷には、Interleaved 2-of-5 (ITF) フォーマットを使用できます。アプリケーション識別子 (AI) プレフィックスをエンコード (暗号化) する場合にUPC/EAN-128を利用することがあります。出荷ラベルに貼付された複数のバーコードをスキャンする際、AIプレフィックスにより、エンコードされた番号で表される商品をスキャナが識別できるようになるため、AIプレフィックスは重要です。

ITFフォーマットでは14桁の数字がエンコードされ、UPC/EAN-128よりも印刷に信頼性があるため、段ボール箱によく使用されます。

次の図は、SCC14/EAN-14ラベルの構造の例です。



SCC-14/EAN-14用のバーコード・ラベル

UPC/EAN 128フォーマットでは14桁のSCCとAIのプレフィックスがエンコードされます。

次の図は、UPC/EAN 128ラベルの構造の例です。



UPC/EAN128用のバーコード・ラベル

SSCC-18用のバーコード・ラベル

SSCCはUPC/EAN-128規格でエンコードされます。この規格では、SSCC-18コードの18桁とAIプレフィックスの両方をエンコードします。AIは暗号化 (エンコード) された情報タイプを識別します。00のAIはバーコードをSSCC-18として識別します。

SSCCは、出荷品やパレット、コンテナに貼付されるラベルです。出荷品が梱包されるときや、顧客に向けて荷積みされるときに、このラベルを使用できます。

次の図は、SSCC-18ラベルの構造の例です。



階層構成の設定

この項では、階層構成の概要と設定方法について説明します。

階層構成について

オーダー情報を伝送する際に、出荷情報や出荷に含まれるオーダー、オーダー品目を伝達するフォーマットを確立できます。階層構成を定義することにより、顧客のニーズに対応した情報を伝送します。ビジネス・ニーズに基づいた構造が設定できます。次の表は、階層構造の例です。

構造	説明
ピッキング/梱包	製品を自重レベルと梱包レベルで組み合わせることができるため、最も柔軟に構成できます。
標準カートン梱包	この構成内では、従属の自重レベルと梱包レベルにUPCは1つのみです。

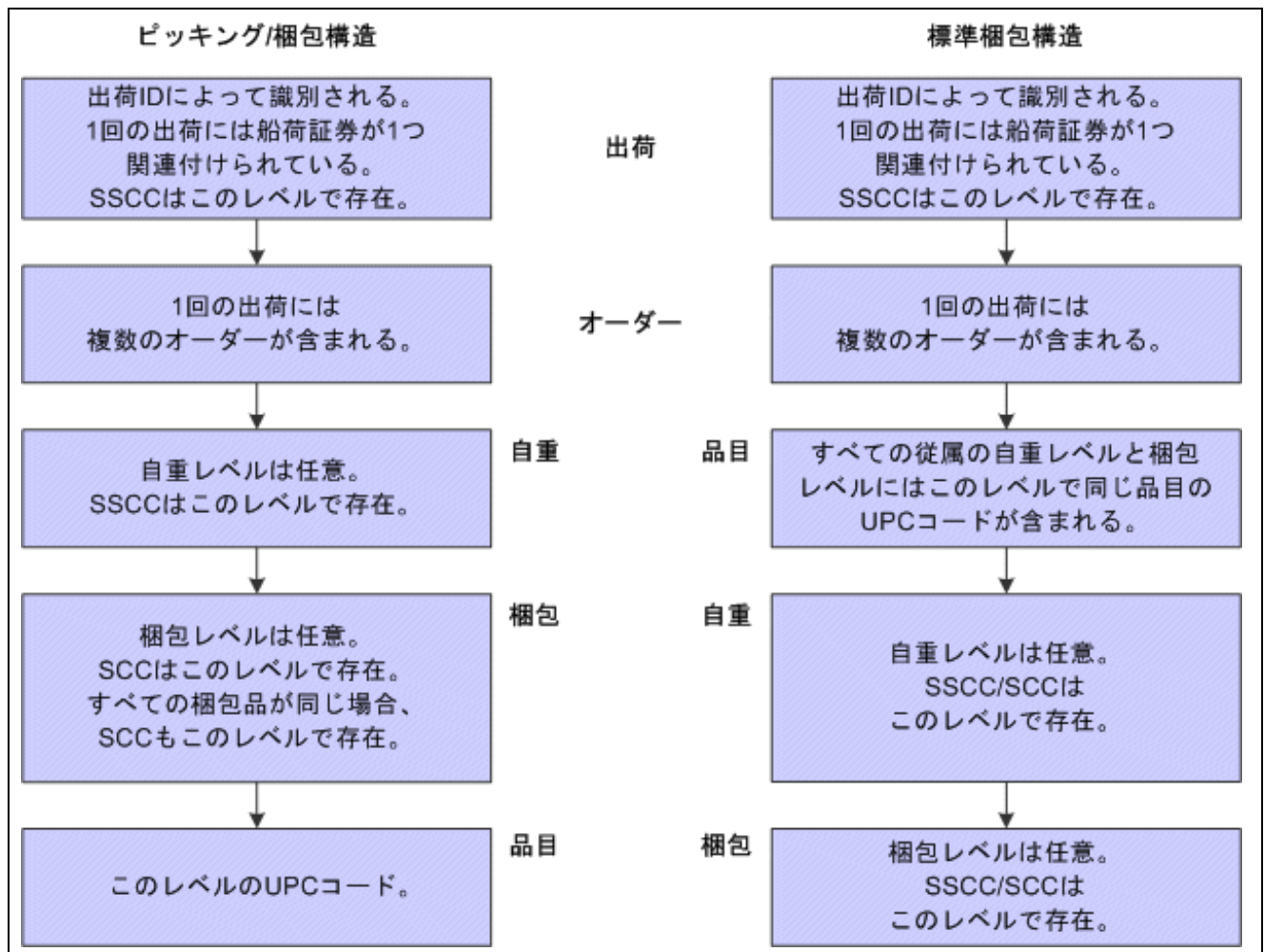
顧客の優先情報を基にこの構成内で階層を定義できます。次の表は、構成レベルの例です。

構成レベル	説明
出荷 (S)	伝送される各トランザクション・セットに対する出荷レベルは1つです。これには船荷証券番号や出荷先、販売元などの情報が含まれます。
オーダー (O)	オーダー・レベルには仕入先の受注オーダーや顧客の購買オーダーに関する情報が含まれます。
自重 (T)	自重レベルは任意で、パレットやさらにサイズの大きい製品の集合体に関する情報が含まれます。

構成レベル	説明
梱包 (P)	梱包レベルは任意で、内装に関する情報が含まれます。
品目 (I)	品目レベルにはUPC番号や数量など出荷製品の情報が含まれます。

顧客からの要望には様々なものがあり、オーダーに出荷/オーダー/品目の情報を必要とする場合や、出荷/オーダー/自重/梱包/品目の情報を必要とする場合があります。階層構造を定義することで、事前出荷通知 (ASN) に対するニーズにあった情報を顧客に伝送します。

次の図は階層構成を示したものです。



階層構成

階層構成の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
階層構成定義の改訂	W47HLD	「出荷通知」(G47215)、「階層構造定義」 「階層構成定義の処理」 フォームで「追加」をクリックします。	階層構成を設定します。 階層構成を定義することにより、顧客のニーズに対応した情報を伝送します。

階層構成の設定

「階層構成定義の改訂」フォームにアクセスします。

階層構造定義 - 階層構成定義の改訂

OK(O) 取消(L) ツール(T)

住所番号

4247

Coastal Services

階層構成 *

SOTPI

階層構造コード

1

☐ 拡張ASN

レコード 1-3
 グリッドのカスタマイズ

	レベル	階層構成	フィールド名	昇順 降順	合計 レベル	階層構成
<input checked="" type="radio"/>	1.000	SO	SDDOCO	A	1	
<input type="radio"/>	2.000	TP	SDDOCO	A	2	
<input type="radio"/>	3.000	I	XDPLT	A	3	

「階層構成定義の改訂」フォーム

住所番号

従業員、応募者、加入者、顧客、仕入先、テナント、ロケーションなど、住所録システムの項目を識別する番号を入力します。

階層構成

出荷通知/積荷目録にあるレベルを指定するEDI 856トランザクション・セット階層構成コードを入力します。このフィールドは2文字の階層レベル・コードの組合せ（データ要素735に対するX12仕様の値 - 階層レベル・コード）から構成されます。このフィールドには、HLCコードの組合せを最大9つ指定できます。

階層構造コード

HLセグメントを使用してトランザクション・セットの構造を定義するEDITトランザクション・セットの階層アプリケーション構造を示すコードを入力します。

レベル

オンラインで表示およびレポートするためにテーブルを論理グループにまとめる番号を入力します。

フィールド名

データ辞書項目名を入力します。たとえば、会社の場合はF#MMCOまたはF#CO、ビジネスユニットの場合はF#MMCUまたはF#MCU、ビジネスユニットのカテゴリ・コード01から30の場合はF#RP01から30のようになります。

#、@、\$を除き、データ項目名の一部に特殊文字は使用できません。

ソフトウェアを更新しても上書きされない保護データ名を作成するには、\$xxxおよび @xxxを使用します（ここで、xxxはユーザー定義です）。

注意: レポート・ライターの場合、「処理オプションの設定」フォームでは、フィールド名はデータ入力時にフィールド・サイズや他のフィールド属性を編集するために使用します。

昇順/降順

昇順または降順のソート順序を指定するコードを入力します。値は次のとおりです。

A: 昇順

D: 降順

注意: このフィールドは、OPNQUERYコマンド内でUNIQUEKEYパラメータを指定するために使用します。次のコードで指定されるキー・シーケンス・フィールド数は、UNIQUEKEYパラメータに割り当てられる数になります。このパラメータにより、指定したキーに対してレコードの重複を避けることができます。

合計レベル

レベル区切りを入力します。このフィールドに取り込む合計レベルを指定できます。最大9つの合計レベルを使用できます。次に示すように、ソート順序パラメータに合った合計レベルがオーダーで指定されていない場合、予想外の結果を招きます。

レベル01 - 部署ごとの合計 - ソート順序03

レベル02 - 事業所ごとの合計 - ソート順序02

レベル03 - 部門ごとの合計 - ソート順序01

レベル10 - 総合計

同じ合計レベルを複数のデータ・フィールドで指定する場合、次に示すように、すべての2次フィールドの合計レベルの先頭位置に「1」と入力します。

レベル01 - ビジネスユニット(ここから記述が取り込まれます)

レベル11 - 主科目(記述は無視されます)

レベル11 - 補助科目(記述は無視されます)

勘定科目マスターまたはビジネスユニット・マスターの詳細レベル概念(それぞれLDAおよびLDMを参照)と混同しないでください。

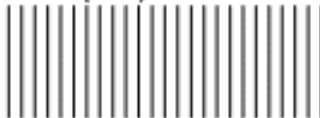
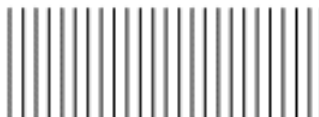
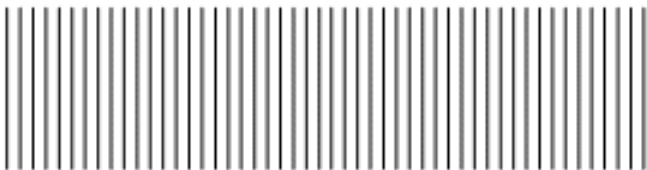
出荷情報の設定

この項では、出荷ラベルの概要と出荷情報の設定方法について説明します。

出荷ラベルについて

出荷ラベルはサイズや形、内容物によって異なる場合がありますが、特定の標準であるUCCの統一ラベルに準拠します。この規格はラベルの区分を識別して、各区分の情報タイプを定義します。

次の図は出荷ラベルの例です。

区分A	出荷元 1155 Battery Street San Francisco, CA 94111		出荷先 DC 1478 5241 San Antonio Drive NE Albuquerque, NM 87109		区分B
	出荷先郵便番号 (420) 871009 		運送業者 Best Freight PRO: 28957698660 B/L: 853930		
区分C	PO: 345-896779-0				区分H
区分F	部署コード: 092				
区分G	FOR: 		顧客店舗 1528 1815 N. Main Roswell NM 88201		
区分I	SSCC- 				

出荷ラベルの例

次の例では、前述のバーコードとそれに含まれる情報を示しています。

区分	内容	特性
区分A - 出荷元	出荷元の名称と住所	満載のトレーラ出荷には条件付き、 その他の出荷には必須
区分B - 出荷先	出荷先の名称と住所	満載のトレーラ出荷には条件付き、 その他の出荷には必須
区分C - 運送業者経路のバーコード	出荷先の郵便番号またはPRO番号 バーコード	条件付き
区分D - 運送業者	運送業者名、SCAC船荷証券番号、 PRO番号の運送業者割当による パッケージ製品ID、運送業者割当 による荷主ID	条件付き

区分	内容	特性
区分E-取引先IDデータ	取引先ID用の同意に基づくデータ。バーコード・コードとテキスト・データの両方をこの区分に表示できます。たとえば、購買オーダー番号、シリアル番号、製品番号を入力できます。	任意
区分F-取引先IDデータ	取引先ID用の同意に基づくデータ。このデータは区分Eの補足になります。	任意
区分G-最終出荷先コード	従業員が解読できる大きい所在地番号またはバーコード。たとえば、マーク先No.に使用できます。	条件付き
区分H-最終出荷先コード	最終出荷先ID、マーク先の名称と住所	条件付き
区分I-SSCC-18バーコード	シリアル出荷コンテナ・コード	必須

出荷情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
顧客マスターの改訂	W03013B	「受注管理システム・セットアップ」(G4241)、「顧客請求指示」 顧客を選択した後、「顧客マスターの処理」フォームで「選択」をクリックします。	出荷情報を設定します。 UCC 128に準拠するための顧客の仕様を設定します。この仕様には、輸送設備や配送経路、参照番号など、伝送情報や補足的なUCC 128処理情報に対する顧客特定フォーマットが含まれます。

出荷情報の設定

「顧客マスターの改訂」フォームにアクセスし、「出荷通知」タブを選択します。

出荷ラベル印刷プログラム	顧客宛の出荷ラベルを印刷するときに使用するプログラムの名前を入力します。
ピッキング/梱包構成	顧客が要求するデフォルトのピッキング/梱包構成を入力します。
標準カートン梱包構成	顧客が要求するデフォルトの標準カートン梱包構成を入力します。
出荷ラベル・バージョン	顧客宛の出荷ラベルを印刷するときに使用するドリーム・ライターのバージョンを入力します。
なし、ピッキング/梱包、標準カートン	顧客が要求するデフォルト構成を入力します。値は次のとおりです。 ブランク: この顧客については処理は行いません。 1: ピッキング/梱包構成がデフォルト値です。 2: 標準カートン構成がデフォルト値です。

梱包コード	この顧客について梱包コードを必須とする場合に選択します。
配送方法	この顧客について配送方法を必須とする場合に選択します。
設備必須	この顧客について設備コードを必須とする場合に選択します。
識別コード1、識別コード2	この顧客についてIDコード1と2のどちらを必須とするかを指定する場合に選択します。
参照No.1、参照No.2	この顧客について参照番号1と2のどちらを必須とするかを指定する場合に選択します。
重量	この顧客について重量コードを必須とする場合に選択します。
配送経路	この顧客について配送経路の記述を必須とする場合に選択します。

UCC 128における品目情報の設定

この項では、UCC 128における品目情報の概要、事前設定、およびUCC 128における品目情報の設定方法について説明します。

UCC 128における品目情報について

在庫にある品目の情報をシステムに入力してください。品目マスター情報の入力時には、次の情報を入力します。

- 品目ID
- 品目記述

UCC 128処理用に、品目IDを製品単位や内装に割り当てるUPCまたはSCCにすることができます。

パッケージ・インディケータ

SCCの設定時に、次のパッケージ・インディケータを使用して梱包タイプを識別します。

- ゼロは、SCCの製品IDがそのパッケージ内のUPCとしての製品IDと異なることを示します。
この製品IDはキット品目に使用します。
- コード1から8は、会社定義による梱包を示します。
たとえば、1は6パック入りの1ケースを意味し、2は12パック入りの1ケースを示すことができます。
- コード9は、パッケージ内の消費単位のUPCが同じ製品でも、そのパッケージの製品量がパッケージごとに異なることを示します。
可変単位はサポートされていません。

複合SCC

非在庫構成成品を使用してキットを表現できるように複合SCCを設定できます。キットとは、記述名（親品目）に関連付けられた在庫品目（構成成品）の集合です。複合SCCは親品目を表します。「品目相互参照の改訂」フォームで、構成成品のUPCをキット品目の複合SCCに割り当てることができます。相互参照情報は、非在庫品目に対してのみ入力します。たとえば、包帯などの品目は使用数量やUPCを記録しないので非在庫品目です。在庫数量をトラッキングする販売品目は救急用品で、この中には包帯も含まれます。顧客の要件に応じて、救急用品に対しては複合SCCを入力し、包帯などの救急用品の構成成品に対しては品目相互参照情報を入力できます。

構成成品が在庫品目の場合、相互参照情報を入力する必要はありません。キットの受注オーダーを入力すると、品目マスターから構成成品のUPCなどのキット情報が読み込まれます。

非在庫品目のキットIDを設定するには、SCCに含まれるUPCとしての製品IDとSCCが同じでないことを示す0（ゼロ）を、製品IDのSCCに設定します。UPCを複合SCCに割り当てるには、「品目相互参照」フィールドにその情報を入力してください。

「品目相互参照」で、品目相互参照タイプに「UP」と入力して、UPCであることを示す必要があります。相互参照の品目番号はUPCになり、相互参照記述は単位になります。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- ユーザー定義コード(UDC) 41/UCに、UCCで割り当てられた仕入先番号を設定します。
- UDC 49/SDに出荷伝票タイプが設定されていることを確認します。

UCC 128における品目情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
保管/出荷	W4101D	「在庫マスター/トランザクション」(G4111)、「品目マスター」 品目を選択した後、「品目マスターの処理」フォームの「ロー」メニューで「保管/出荷」を選択します。	UCC 128における品目情報を設定します。 品目IDとして製品単位および内装にUPCコードまたはSCCコードを割り当てます。
品目別品目相互参照の改訂	W4104C	「保管/出荷」フォームの「フォーム」メニューで「品目相互参照」を選択します。	非在庫構成成品のUPCを複合SCCに割り当てます。

UCC 128における品目情報の設定

「保管/出荷」フォームにアクセスし、「UCC 128」タブを選択します。

UPC/単位（統一商品コード/単位） UPCレベルで単位を入力します。

UPC/UCCコード（統一商品コード/統一商事法典） UPC番号のUCC構造に準拠しなければならない統一商品コード番号を入力します。

SCC (PI = 1) (出荷コンテナ・コード/梱包インディケータ = 1)	梱包インディケータが1のSCC梱包に関連付けられている単位を入力します。
デフォルトの複合UPC単位 (デフォルトの複合統一商品コード単位)	複合サービス・クラス・コード梱包に含まれる各統一商品コード数量に使用する単位コードを入力します。
SCC (PI = 0) (出荷コンテナ・コード/梱包インディケータ = 0)	梱包インディケータがゼロのSCC梱包に関連付けられている単位を入力します。

注意: このシステムでは、SCCは特定の単位の品目コードとして扱います。どの品目に対しても、UPCは1つ存在するのに対し、SCCは複数存在します。

製品IDが1から8のUPCとSCCを入力できます。

キットに製品情報を設定するには、「デフォルトの複合UPC単位」フィールドと「SCC (PI=0)」フィールドだけに値を入力します。

第 6 章

基本価格設定および標準価格設定の設定

この章では、価格設定の概要と、次の方法について説明します。

- 基本価格構造の設定
- 基本価格の設定
- 複合価格グループの設定
- 標準価格調整の設定

価格設定について

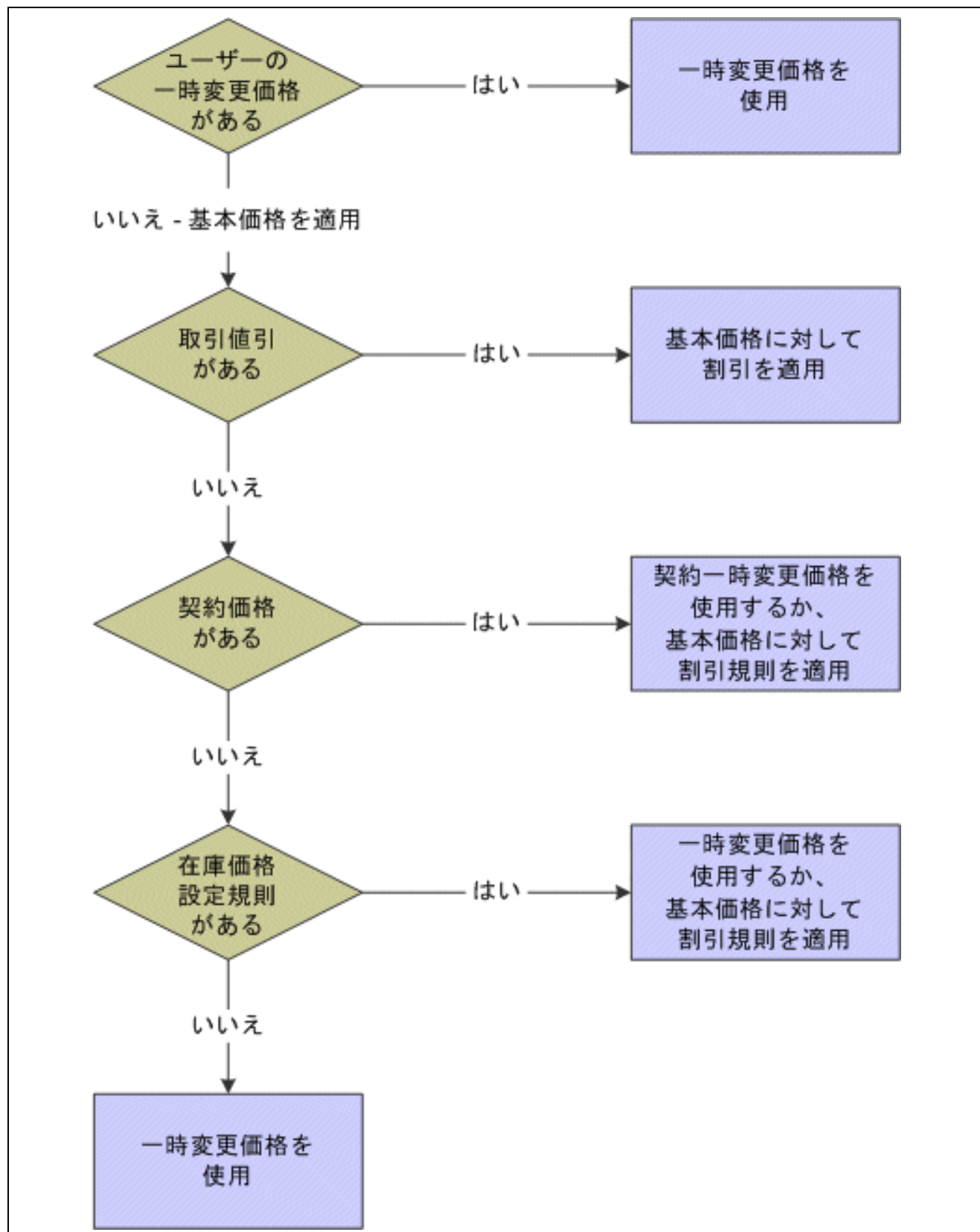
販売する各品目について、価格を定義する必要があります。JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムの価格設定を使用して、受注オーダー品目の入力時に取り込まれる基本価格を定義します。

基本価格を定義する前に価格設定構造を設定できます。この価格設定構造を使用して基本価格が取り込まれます。基本価格構造は、品目と顧客の様々な組合せに対して設定する価格設定体系に柔軟に対応できるように設定してください。顧客グループと品目グループを設定して、品目、品目グループ、顧客、および顧客グループの任意の組合せに対して価格を割り当てることができます。価格の検索方法を決定する階層を定義してください。

基本価格の定義後、次のようなタイプの価格計算を追加設定できます。

- 品目グループに対する価格調整
- ある品目の特殊な価格設定を単一の顧客または顧客グループに適用する契約価格設定
- 特定の顧客向けの全品目に適用する値引率を設定する取引値引価格設定

次の処理フローは、価格の計算方法を示しています。



価格設定は、受注オーダーの親、出荷先、または販売先住所に基づいて行われます。基本価格の定義に有効日付を使用して、将来使用される価格には販売促進やその他の特別措置のために一定期間だけ使用される価格を定義できます。品目が返品された場合に使用する返品価格を設定することもできます。

価格設定構造をさらに柔軟に使用するには、複合顧客グループと品目グループを定義します。顧客グループや品目グループには、特定の住所録カテゴリ・コードや品目カテゴリ・コードに基づくサブグループを作成できます。

基本価格の定義後は、価格の変更や将来有効となる価格の作成など、必要に応じて更新を行うことができます。基本価格の改訂プログラム(P4106)を使用して、基本価格を個別に更新できます。または、基本価格の一括更新プログラム(R41830)を使用して、複数の価格を一度に更新することも可能です。

顧客に対する価格を更新するには、受注オーダー価格/原価のバッチ更新プログラム(R42950)を使用します。このプログラムを使用して、受注オーダーの品目の単位原価および合計原価を最新の原価に更新することもできます。多通貨処理機能を有効にした場合は、「外貨単位」および「合計原価」フィールドも更新されます。

注意: 価格設定により柔軟性を持たせる必要がある場合は、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne価格管理システムを使用してください。JD Edwards EnterpriseOne価格管理を使用して、個別の販売促進や取引の価格を調整し、調整を価格構造(スケジュール)に組み込むことができます。同じスケジュール内で、価格調整を必要な数(無制限)だけ定義し、通常の割引と販売促進を組み合わせることができます。無償品カタログの表示を設定して品目の販売促進を実施し、リポートを使用して、顧客がより大量の商品やサービスを購入するように仕向けます。

基本価格構造の設定

この項では、基本価格構造の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 顧客価格設定グループの顧客への割当
- 品目価格設定グループの品目への割当
- 価格設定階層の設定

基本価格構造について

販売する各品目に対して販売に使用する基本価格を設定できます。受注オーダーに品目を入力するとこの価格が取り込まれます。

基本価格は、品目、品目の組合せ、品目グループ、顧客、顧客グループに対して定義できます。基本価格の定義と管理の処理を簡単にするために、同様の特性を持つ顧客や品目に対して価格グループを設定できます。

価格の取込み時には、基本価格レコードの検索順序を確定するために基本価格優先情報(51)の階層が使用されます。品目および顧客グループを作成する場合、基本価格優先階層の検索順序を定義して、品目と顧客の組合せに加えて、品目と顧客グループの組合せを検索できます。

注意: 51は実際の階層の値です。基本価格設定にはこの階層を使用する必要があります。

顧客価格グループ

顧客価格グループは、特定の顧客グループに価格設定体系を適用するために設定します。価格グループは、価格設定体系を構築するための1つの手段です。顧客価格グループを設定することにより、複数顧客の価格を個別に入力/更新するかわりに同時に処理できます。

たとえば、優先顧客に対して「優先」という名称の顧客価格グループを作成すると、他の顧客が450.00 USDで購入する自転車をその顧客は420.00 USDで購入できます。

簡易価格グループとは顧客請求指示で同じグループ名に割り当てられている顧客のグループのことです。JD Edwards EnterpriseOne基本価格設定では、各顧客に対して使用できる顧客価格グループは1つだけです。

価格設定にさらに柔軟性を持たせるために、複合顧客価格グループを設定できます。複合価格グループとは、同じグループ名に割り当てられていても異なるサブグループに属している可能性のある顧客のグループのことです。顧客の所在地、業種、販売量などのカテゴリ・コードに割り当てた値を使って複合価格グループにサブグループを定義できます。

複合価格グループを使用すると、所在地などのカテゴリ・コードに基づいて、同じグループに属する顧客に異なる価格を割り当てることができます。

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne価格管理では、顧客は顧客請求指示にある顧客グループに添付されずに、顧客グループに所属できます。顧客は、顧客のカテゴリ・コードに応じて複数のグループに含めることができます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「一時変更検索グループの定義」、「複合顧客価格グループの設定」

品目価格グループ

品目価格グループは顧客価格グループに類似しています。品目価格グループを設定することで、多数の品目に対して個別にではなくグループ別に基本価格情報を定義できます。これにより、品目別に更新するのではなく、複数の品目に対して価格情報を入力、更新できるようになります。たとえば“BIKES(自転車)”という名称で、色の異なる似た自転車をグループにして1つの価格を定義できます。

簡易価格グループとは、品目マスター・プログラム(P4101)または事業所品目プログラム(P41026)で同じグループ名に割り当てられている品目のグループのことです。JD Edwards EnterpriseOne基本価格設定では、各品目は1つの品目価格グループにのみ属することができます。

価格設定により柔軟性を持たせるために、複合品目価格グループを設定できます。複合価格グループとは、同じグループ名に割り当てられていても、異なるサブグループに属している可能性のある品目のグループのことです。商品クラスまたは品目プール・コードなどのカテゴリ・コードに割り当てた値を使って、複合価格グループにサブグループを定義できます。

複合価格グループを使用すると、商品クラスなどのカテゴリ・コードに基づいて、同じグループに属する品目に異なる価格を割り当てることができます。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理では、品目は事業所品目にある明細グループに添付されずに、このグループに所属できます。カテゴリ・コードに従って、1つの品目が複数のグループに属することが可能です。

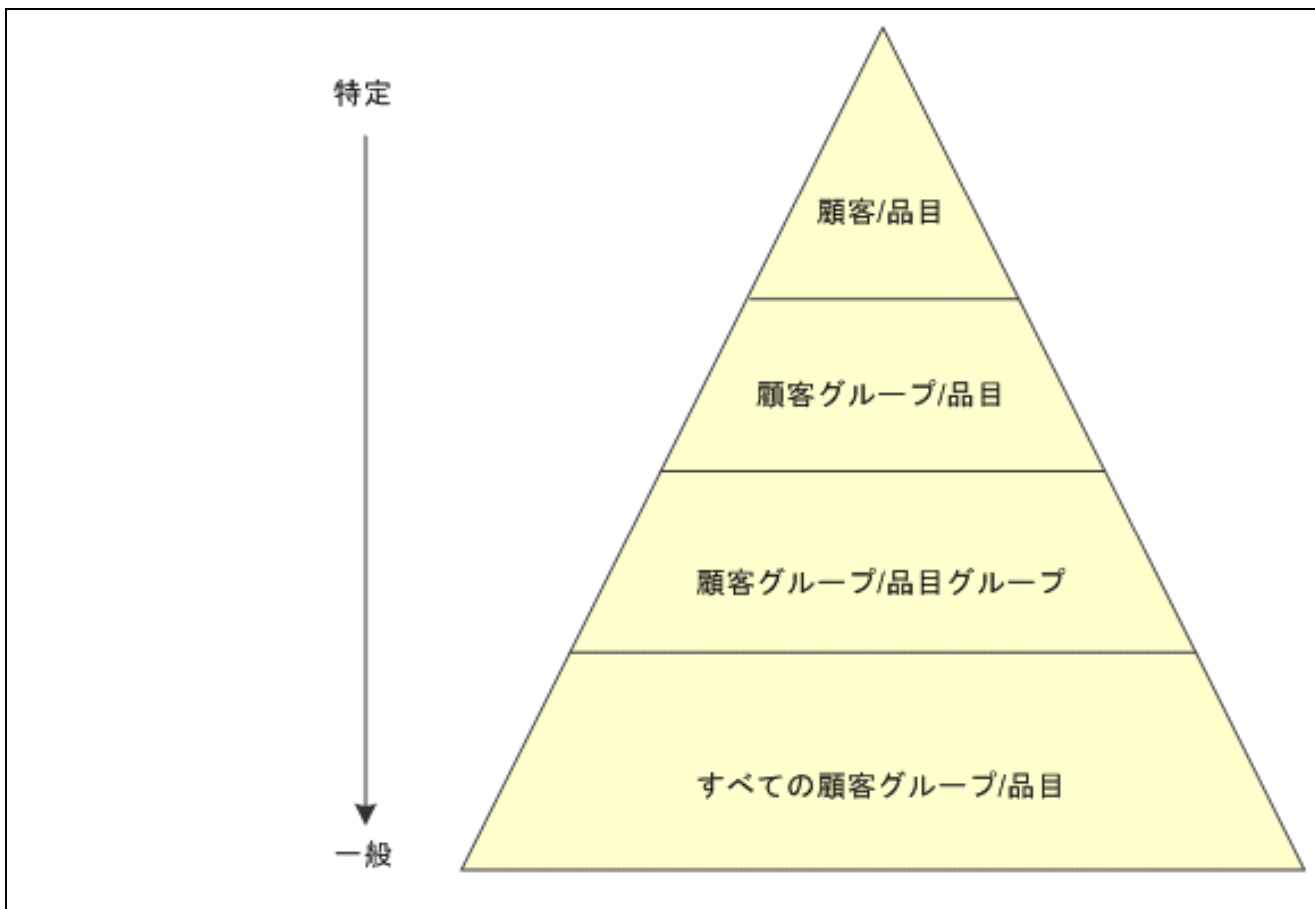
参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「一時変更検索グループの定義」、「複合品目価格グループの設定」

価格設定階層

価格の取込み時には、基本価格レコードの検索順序を確定するために基本価格優先情報(51)に設定した階層が使用されます。基本価格階層は、顧客、品目、顧客価格グループ、品目価格グループの組合せからなるマトリックスです。ローとカラムが交差する点を使用して基本価格の検索順序を確定します。

価格設定階層は最も詳細な定義から一般的な定義へと設定してください。価格の検索は、階層順序に基づいて行われます。交差部分の価格との一致が見つかったら、階層の検索は中止されます。このため、最も一般的な各設定規則が順序1に設定され、特定の顧客または品目の詳細な価格設定は検索されません。

次の図の例では、最も詳細な品目および顧客の価格階層を示しています。



優先階層の例

重要: 優先階層には最高14個までの番号を入力できます。ただし、階層に入力する番号は必要最小限に制限してください。番号を入力すると、その数だけ品目基本価格テーブル(F4106)の検索が行われます。そのため、階層に番号を追加するたびにシステムの処理時間が長くなります。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- ユーザー定義コード(UDC)40/PCに顧客価格グループが設定されていることを確認します。
- 品目価格グループがUDC 40/PIに設定されていることを確認します。

基本価格構造の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
請求情報	W03013E	<p>「受注管理システム・セットアップ」(G4241)、「顧客請求指示」</p> <p>「顧客マスターの処理」フォームで顧客マスター・レコードを選択します。</p> <p>「顧客マスターの改訂」フォームで、「フォーム」メニューから「請求情報」を選択します。</p>	顧客価格設定グループを顧客へ割り当てます。
品目/事業所情報	W41026A	<p>「在庫マスター/トランザクション」(G4111)、「事業所品目」</p> <p>レコードを選択し、「事業所品目の処理」フォームで、「ロー」メニューの「品目/事業所情報」を選択します。</p>	品目価格設定グループを品目へ割り当てます。
優先階層の処理	W40073B	「価格管理」(G4222)、「優先階層」	基本価格階層を選択します。
優先階層の改訂	W40073D	「優先階層の処理」フォームで優先タイプとして51(基本価格)を選択します。	価格設定階層を設定します。

顧客価格設定グループへの顧客の割当

「請求情報」フォームにアクセスします。

顧客マスター情報 - 請求情報

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

住所No. 4284 Central Distributor

会社番号 00000

請求1 請求2

請求住所タイプ	<input checked="" type="checkbox"/>	請求先/出荷先住所	<input type="checkbox"/> 顧客発注No.必須
関連住所No.	1		<input type="checkbox"/> 与信チェックの免除
価格調整スケジュール			<input type="checkbox"/> 配送票
顧客価格グループ	RETAIL	小売顧客	<input type="checkbox"/> 合計請求書
最小オーダー値			<input checked="" type="checkbox"/> バックオーダー可
最大オーダー値			<input checked="" type="checkbox"/> 代替品可
印刷メッセージ			<input checked="" type="checkbox"/> 部分出荷可
オーダー・テンプレート		ブランク - デフォルト	<input checked="" type="checkbox"/> 部分オーダー出荷可
与信チェック・レベル	C	顧客(販売先)	<input checked="" type="checkbox"/> ピッキング・リストに価格を印刷
品目制約		制約なし	<input checked="" type="checkbox"/> 運賃の適用
取引 値引			<input checked="" type="checkbox"/> 分析証明書の印刷
配送指示			<input type="checkbox"/> 監査ログのバイパス
購買セグメント・コード	BIKES	自転車購買セグメント	<input type="checkbox"/> 非アクティブ顧客

「請求情報」フォーム

顧客価格グループ

顧客を追加する顧客グループの名前を識別するための値をUDC 40/PCから入力します。

品目価格設定グループへの品目の割当

「品目/事業所情報」フォームの「追加情報」タブにアクセスします。

品目価格グループ

品目を追加する品目価格グループの名前を識別するための値をUDC 40/PIから入力します。

価格設定階層の設定

「優先階層の改訂」フォームにアクセスします。

優先階層 - 優先階層の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

優先タイプ

51

基本価格

		品目 No.	品目 グループ
出荷先	顧客 No.		
	顧客グループ		
販売先	顧客 No.	1	
	顧客グループ	2	3
親	顧客 No.		
	顧客グループ		
すべての顧客		4	

「優先階層の改訂」フォーム

ローとカラムの交差部分に連続番号を入力して、基本価格設定階層(51)を定義します。

たとえば、顧客の販売先住所に基づいて品目番号の価格設定情報を最初に検索する場合は、「販売先」の「顧客No.」フィールドの横にある「品目No.」カラムに「1」と入力します。このレベルに価格が設定されていない場合、値2に関連付けられたパラメータを使用した別の検索が実行されます。

基本価格の設定

この項では、基本価格の概要、事前設定、および基本価格の設定を行う方法について説明します。

基本価格について

受注オーダーで品目を入力すると、入力した品目の基本価格情報がシステムに取り込まれます。基本価格は、品目や品目グループ、顧客、顧客グループの任意の組合せに対して定義できます。

F4101テーブルに品目を入力する際には、販売価格レベルを入力する必要があります。この販売価格レベルにより、品目の基本価格の定義方法が決定されます。価格を定義するレベルについて次の表に示します。

レベル	説明
品目	1つの品目に対して全般的に適用される価格を1つ定義します。事業所、ロット、および保管場所情報を含めることはできません。

レベル	説明
品目/事業所	品目と事業所の各組合せに対して異なる価格を定義します。保管場所およびロット情報を含めることはできません。
品目/事業所/保管場所	保管場所およびロット別に価格設定を定義する場合、事業所情報を定義することも可能です。

品目または顧客に対して特別の価格設定や割引を定義すると、基本価格に基づいて割引計算が行われます。

品目の基本価格を定義するときに有効日付を割り当てることができます。有効日付を割り当てていない場合は、現在のシステム日付を基にして日付が割り当てられます。システム固定情報で販売価格基準日も指定して、価格有効日付として使用する受注オーダーの日付が指定されます。販売価格基準日には、約束日付、オーダー日付、またはシステム固定情報で定義した日付が使用できます。この販売価格基準日が有効日付範囲内にある価格がシステムにより取り込まれます。

有効日付を使用して、旧価格がまだ有効な間に新しい価格を入力することも可能です。たとえば、基本価格の日付と限定期間中のみ提供する割引価格の日付を重複させることができます。重複する日付範囲を設定すると、有効期限が先に来る日付の価格が取り込まれます。

各価格に対して、マイナスの数量用に使われる返品価格を定義することもできます。

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理の価格設定を使用して、国内通貨および必要な数の外貨による品目の価格を追加できます。たとえば、1つの品目に対して米ドルとユーロの両方で基本価格を設定することが可能です。通貨コードと単位はいずれも、F4106テーブルのキーとなります。多通貨を使用している場合は、次の順序で価格検索が行われます。

1. 顧客通貨およびユーザー指定単位
2. 顧客通貨および品目の基本単位
3. 国内通貨およびユーザー指定単位
4. 国内通貨および品目の基本単位

一致する項目がない場合、処理は価格設定階層構造の次のレベルに進み、同じ順序で検索が行われます。

ある品目グループに属する品目に対して基本価格情報をコピーできます。価格設定情報は複写されますが、品目グループ情報は複写されません。

事前設定

価格設定階層が定義されていることを確認します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「スケジュールと調整の使い方」、「価格設定階層の定義」

関連項目:

第 13 章、「価格の更新」、「異なる通貨を使用した基本価格の新規作成」、351 ページ

基本価格の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
優先基本価格の処理	W4106J	「価格管理」(G4222)、「基本価格の改訂」	基本価格の設定に使用するフォームにアクセスします。
優先階層の選択	W40073F	「優先基本価格の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	基本価格の設定時に使用する階層を選択します。
基本価格の改訂	W4106K	<p>階層を選択し、「優先階層の選択」フォームで「選択」をクリックします。</p> <p>または、「優先基本価格の処理」フォームで品目を検索して選択し、「選択」をクリックします。</p> <p>「ロー」メニューの「ローのコピー」を選択し、基本価格をコピーします。</p> <p>「ロー」メニューの「価格調整」を選択し、フォームの「価格調整」セクションに入力された値に基づいて基本価格を調整します。</p>	<p>基本価格を設定します。</p> <p>価格は金額またはパーセントで調整できます。価格は、「基本価格の改訂」フォームにあるグリッドの各価格を変更することでも修正できます。「基本価格の改訂」フォームのフィールドは、優先階層選択に基づいています。たとえば、顧客グループおよび品目グループに対する階層内の選択項目を定義する場合、グループ情報用のプロンプトが表示されます。</p>

基本価格の設定

「基本価格の改訂」フォームにアクセスします。

基本価格の改訂 - 基本価格の改訂 ?

OK(O) 削除(D) 取消(L) ロー(R) ツール(T)

品目 No. *Touring Bike, Red*

価格調整

☒ 単価 ☒ パーセント
☐ 返品価格 ☐ 金額

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ + - □

<input type="checkbox"/>		事業所コード	保管場所	ロットNo.	単位	通貨コード	単位価格	有効開始日付	有効終了日付
<input type="checkbox"/>		10			EA	USD	650.0000	2003/02/05	2010/12/31
<input type="checkbox"/>		<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

「基本価格の改訂」フォーム

価格調整

価格を調整する金額を入力します。また次のオプションから、変更する価格と使用方法を選択する必要があります。

	単価
	返品価格
	パーセント
	金額
単価	「単価」カラムを更新する場合に選択します。単価が更新されないようにするには、「単価」チェックボックスの選択を解除します。
返品価格	返品価格カラムを変更する場合に選択します。返品価格が変更されないようにするには、「返品価格」チェックボックスの選択を解除します。
パーセント	係数値はオーダー価格に適用する場合の乗数(%)であることを表す場合に選択します。たとえば、価格を5%調整する場合は、「価格調整」フィールドに「5」と入力し、このオプションを選択します。
金額	調整に使用する値がパーセントではなく金額であることを表す場合に選択します。たとえば、価格を5米ドル調整する場合は、「価格調整」フィールドに「5」と入力し、このオプションを選択します。

複合価格グループの設定

この項では、複合価格グループの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 複合価格グループの設定
- 顧客の価格グループへの割当
- 複合品目グループの設定
- 品目の品目グループへの割当
- 価格グループ関係の生成

複合価格グループについて

価格設定構造をさらに柔軟に使用するには、複合顧客グループと複合品目グループを定義します。各顧客グループまたは品目グループに、特定の品目タイプ、顧客の所在地、業種、販売量など添付されたカテゴリ・コードに基づいたサブグループを作成できます。

顧客グループ

複合顧客価格グループを使用すると、さらに柔軟な価格設定構造を設定できます。複合顧客グループの設定にはカテゴリ・コードを最高10まで使用できます。

ここで入力するカテゴリ・コード順序によって、関連フォームにおけるカテゴリ・コード・フィールドの表示方法が決まります。ここで選択したカテゴリ・コードの順序は、システムによる価格の検索方法には影響しません。

複合価格グループを作成してグループ名を顧客に添付すると、価格グループ関係が生成されます。

顧客にすでに割り当てられた価格グループのカテゴリ・コードは変更可能ですが、顧客価格グループの定義を変更する場合、価格グループ関係を更新する必要があります。

品目グループ

複合品目グループを使用すると、さらに柔軟な価格設定構造を設定できます。複合品目グループの設定にはカテゴリ・コードを最高10まで使用できます。

たとえば、PENSというグループにマーカーとボールペンの2種類がある場合、それぞれのペン・タイプに別々の価格を指定できます。ペンに対するオーダーを入力すると、その品目に対して割り当てられたカテゴリ・コードを使用して、ペンがマーカーかボールペンかがチェックされ、該当する価格が取り込まれます。

ここで入力するカテゴリ・コード順序によって、関連フォームにおけるカテゴリ・コード・フィールドの表示方法が決まります。ここで選択したカテゴリ・コードの順序は、システムによる価格の検索方法には影響しません。

複合品目グループを作成してグループ名を品目に添付すると、価格グループ関係が生成されます。

価格グループ関係の生成

価格グループを設定して顧客および品目にグループ名を割り当てた後、顧客価格グループと品目価格グループの関係を生成します。価格グループの関係を生成して、価格設定で使用可能な顧客と品目グループの組合せを定義します。

価格グループの関係を生成するには、次の2つのバッチ・プログラムを使用します。

- 顧客価格グループの生成 (R40932)
- 品目価格グループの生成 (R40931)

これらのプログラムにより、品目/顧客グループ関係テーブル (F4093) に、使用可能な顧客、品目、カテゴリ・コードの組合せを含むレコードが作成されます。

価格グループの組合せの生成後、エラーを表示するレポートが作成されます。レポートがブランクの場合は、生成処理中にエラーが発生しなかったことを示します。

顧客または品目にすでに割り当てられている価格グループのカテゴリ・コードを変更する場合、R40932またはR40931プログラムを実行して、F4093テーブルの価格グループ関係を更新する必要があります。

事前設定

UDC 40/PCに顧客価格グループが、UDC 40/PIに品目価格グループが設定されていることを確認します。

複合価格グループの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
価格グループ定義の処理	W4092E	<ul style="list-style-type: none"> 「価格管理」(G4222)、「顧客価格グループの定義」 「価格管理」(G4222)、「品目価格グループの定義」 	複合顧客グループを設定するフォームにアクセスします。
顧客価格グループ定義	W4092G	「価格グループ定義の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	複合顧客グループを設定します。
顧客マスターの処理	W03013A	「受注管理システム・セットアップ」(G4241)、「顧客請求指示」	顧客を選択します。
顧客マスターの改訂	W03013B	顧客を選択し、続いて「顧客マスターの処理」フォームの「選択」をクリックします。	顧客請求情報にアクセスします。
請求情報	W03013E	「顧客マスターの改訂」フォームで、「フォーム」メニューから「請求情報」を選択します。	顧客を価格グループへ割り当てます。
品目価格グループの定義	W4092C	「価格グループ定義の処理」フォームで、「追加」をクリックします。 最高10までのカテゴリ・コードを昇順で選択します。	複合品目グループを設定します。
事業所品目の処理	W41026E	「在庫マスター/トランザクション」(G4111)、「事業所品目」	品目を品目グループに割り当てるフォームにアクセスします。
品目/事業所情報	W41026A	事業所を選択し、「事業所品目の処理」フォームの「ロー」メニューの「品目/事業所情報」を選択します。	品目を品目グループへ割り当てます。

複合価格グループの設定

「顧客価格グループ定義」フォームにアクセスします。

顧客価格グループの定義 - 顧客価格グループ定義

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

価格グループ: DIST Distributor Customers

カテゴリ・コード01	<input type="text"/>	販売地域	2	カテゴリ・コード21	<input type="text"/>
担当者	<input type="text"/>	カテゴリ・コード12	<input type="text"/>	カテゴリ・コード22	<input type="text"/>
販売地域	<input type="text"/>	業種	1	カテゴリ・コード23	<input type="text"/>
地域	4	売上高	3	カテゴリ・コード24	<input type="text"/>
カテゴリ・コード05	<input type="text"/>	カテゴリ・コード15	<input type="text"/>	カテゴリ・コード25	<input type="text"/>
カテゴリ・コード06	<input type="text"/>	カテゴリ・コード16	<input type="text"/>	カテゴリ・コード26	<input type="text"/>
1099レポート処理	<input type="text"/>	カテゴリ・コード17	<input type="text"/>	カテゴリ・コード27	<input type="text"/>
カテゴリ・コード08	<input type="text"/>	カテゴリ・コード18	<input type="text"/>	カテゴリ・コード28	<input type="text"/>
カテゴリ・コード09	5	カテゴリ・コード19	<input type="text"/>	カテゴリ・コード29	<input type="text"/>
カテゴリ・コード10	6	カテゴリ・コード20	<input type="text"/>	カテゴリ・コード30	<input type="text"/>

「顧客価格グループ定義」フォーム

価格グループ UDC 40/PCから顧客グループを識別する値を入力します。

カテゴリ・コード01 からカテゴリ・コード30 1から10の間の数値を入力して、価格設定の定義で使用されるカテゴリ・コードを指定します。

顧客の価格グループへの割当

「請求情報」フォームにアクセスします。

顧客価格グループ UDC 40/PCから顧客グループを識別する値を入力します。同等の価格設定などの類似した特性を持つ顧客をグループ化できます。

複合品目グループの設定

「品目価格グループの定義」フォームにアクセスします。

価格グループ UDC 40/PIから品目グループを識別する値を入力します。

カテゴリ・コード01 からカテゴリ・コード30 1から10の間の数値を入力して、価格設定の定義で使用されるカテゴリ・コードを指定します。

品目グループへの品目の割当

「品目/事業所情報」フォームにアクセスします。

「追加情報」タブを選択します。

品目価格グループ 品目の在庫価格グループを識別するUDC (40/PI) の値を入力します。

価格グループ関係の生成

「価格管理」メニュー (G4222) の価格グループ生成プログラムにアクセスします。

1. 顧客価格グループ関係を生成するには、「顧客価格グループの生成」(R40932)を選択します。
2. 品目価格グループ関係を生成するには、「品目価格グループの生成」(R40931)を選択します。

標準価格調整の設定

この項では、標準価格調整の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 標準価格調整の設定
- 在庫価格設定規則の設定
- 顧客および顧客グループへの価格設定規則の割当
- 取引値引の設定

標準価格調整について

基本価格の定義後、次のような追加の価格調整タイプを設定できます。

- 品目グループに対する価格調整
- ある品目の特殊な価格設定を単一の顧客または顧客グループに適用する契約価格設定

オーダーの価格設定は次の順序で行われます。

1. 受注オーダーに入力した品目価格により、システムが取り込んだ基本価格が一時変更されます。
受注オーダー入力プログラム (P4210またはP42101) の処理オプションを設定して、価格関連フィールドや受注明細価格を保護できます。
2. 顧客請求指示で定義した取引値引によって、その他の価格設定または価格再設定はすべて無効になります。
値引は、オーダー総額に対する固定パーセントで、販売元の事業所に基づいてその品目の値引率が計算されます。その他の値引や価格協定は適用されません。
3. 契約価格は、特定品目に関して顧客との間で合意した価格です。特定の顧客に対する契約価格が、顧客グループに対する契約価格よりも優先されます。
契約価格は在庫価格設定規則よりも優先されます。特定の顧客に対する契約価格がない場合は、顧客グループに対する契約価格が検索されます。
オーダー日付は、契約価格の有効日付の範囲内である必要があります。システムは基本価格優先階層に基づいて契約価格を取り込み、失効日の最も近い価格を使用します。
4. 特定の顧客に対して在庫価格設定規則が定義されている場合は、顧客グループのための在庫価格設定規則が取り込まれる前に、特定の顧客に対する在庫価格設定規則が取り込まれます。
在庫価格設定規則は品目の購入数量に基づいて顧客との間で合意した値引価格です。
オーダー日付と数量は、在庫価格設定規則の有効日付およびレベルの範囲内である必要があります。
5. 取引値引、契約価格、在庫価格設定規則を定義しない場合は、自動的に基本価格が取り込まれます。

システムは基本価格優先階層に基づいて、品目または品目グループと、顧客または顧客グループの組合せを検索し、該当する通貨コードで終了日が最も早い価格を使用します。

価格設定レベルに基づき、事業所内の品目または保管場所に対して価格が見つからない場合、有効な基本価格が見つからないというエラー・メッセージが表示されます。

在庫価格設定規則

価格設定規則を定義して、品目または品目グループに対する価格設定計画を設定します。在庫価格設定規則とは、顧客または顧客グループに対する価格および数量を定義する規則のことです。各品目または品目グループに対して価格設定のレベルを定義します。数量別価格は数量別に定義できます。価格調整が割増しか割引かを指定することも可能です。契約価格を設定すると、特定の顧客に対して価格を保証できます。特定期間にわたり基本価格を一時変更する価格を入力することもできます。

在庫価格設定規則に顧客または顧客グループを割り当てるまでは、価格の調整は行われません。

在庫価格設定規則を定義する場合は、品目価格グループ用に事前に設定したユーザー定義コードを入力します。品目価格グループ用に新しいユーザー定義コードを作成するには、「価格管理」メニュー (G4222)、「在庫価格設定グループの設定」を選択します。

取引値引

取引値引は、顧客に値引を行う最も簡単な方法です。その顧客に販売されるすべての品目に対して値引が適用されます。取引値引は、他の価格設定をすべて無効にします。顧客に対する取引値引が存在する場合は、その他の割引は適用されません。取引値引価格の設定は、顧客請求指示で行います。オーダー合計に適用される固定パーセントを入力してください。

注意: 受注オーダーで入力されたコンフィギュレーション品目に対して取引値引は使用できません。

契約価格設定

契約価格を設定すると、特定の顧客に対して価格を保証できます。契約品目に対するオーダーの入力時に、契約価格で販売される残量がチェックされます。

オーダー数量が使用可能な残数量より多い場合には、オーダー行が次の2行に分けて書き込まれます。

- 契約価格の数量用に1行
- 通常価格の数量用に1行

契約価格は、在庫価格設定規則を定義して、その規則を顧客に割り当てることで設定します。

注意: 契約価格設定規則を定義するためには、UDCテーブル40/PIで品目の略式ID番号をコードとして使用する必要があります。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 品目価格グループが設定されていることを確認します。
- 顧客価格グループが設定されていることを確認します。
- 品目価格グループの価格設定規則がUDC 40/PIに設定されていることを確認します。

関連項目:

第 6 章、「基本価格設定および標準価格設定の設定」、「基本価格構造について」、109ページ

標準価格調整の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
価格設定規則の処理	W4271D	<ul style="list-style-type: none"> 「価格管理」(G4222)、「在庫価格設定規則の設定」 「価格管理」(G4222)、「顧客価格設定規則の設定」 	<p>在庫価格設定規則を設定します。</p> <p>顧客および顧客グループに価格設定規則を割り当てます。</p> <p>標準価格調整の設定に使用するフォームにアクセスします。</p>
顧客価格設定規則	W4271B	「価格設定規則の処理」フォームの「フォーム」メニューから「顧客規則」を選択します(「顧客価格設定規則の設定」メニューの選択からアクセスした場合)。	<p>標準価格調整を設定します。</p> <p>顧客価格設定規則を設定します。</p>
在庫価格設定規則	W4271A	「価格設定規則の処理」フォームの「フォーム」メニューから「在庫規則」を選択します(「在庫価格設定規則の設定」メニューの選択からアクセスした場合)。	在庫価格設定規則を設定します。
顧客マスターの処理	W03013A	「受注管理システム・セットアップ」(G4241)、「顧客請求指示」	顧客を選択します。
顧客マスターの改訂	W03013B	「顧客マスターの処理」フォームで顧客を選択し、「選択」をクリックします。	取引値引の設定に使用するフォームにアクセスします。
請求情報	W03013E	「顧客マスターの改訂」フォームで、「フォーム」メニューから「請求情報」を選択します。	取引値引を設定します。

標準価格調整の設定

「顧客価格設定規則」フォームにアクセスします。

顧客価格設定規則の設定 - 顧客価格設定規則

選択(S) 検索(I) 閉じる(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

在庫価格設定規則コード: BICYCLE 自転車

価格設定方式コード: プランク - 価格カテゴリ42/CT

契約価格設定コード: プランク - 価格設定タイプ 42/PT

顧客価格グループ: プランク 40/PC

または顧客No. ☐ 適用レベルのみ

レコード 1 - 3 グリッドのカスタマイズ

	価格設定規則コード	レベル	上限数量	基準	係数	タイプ	変更価格	有効開始日付	有効期限	基本単位	契約数量	累出
<input checked="" type="radio"/>	BICYCLE	1	99	P	1.0000	%		1997/04/17	2010/12/31	1		0
<input type="radio"/>	BICYCLE	2	499	P	.9000	%		1997/04/17	2010/12/31	1		0
<input type="radio"/>	BICYCLE	3	99,999,999	P	.8500	%		1997/04/17	2010/12/31	1		0

「顧客価格設定規則」フォーム

レベル

価格設定グループ内で規則を表示する順序を指定する英数字コードを入力します。レベルは、価格設定グループの設定時に定義します。

上限数量

価格設定テーブルで通常使用される容量区切りまたは数量区切りを入力します。規則の第1レベルの数量が5の場合、このレベルの価格設定論理は5個以下の品目にのみ適用されます。次レベルの数量が10の場合、この価格設定論理は、6から10個の品目に対して適用されます。99,999,999の値は、全数量を示します。

基準

オーダーの正味価格の基準となる原価計算方法を入力します。

価格設定および価格再設定の場合、値は次のとおりです。

1: 最終仕入原価

5: 将来原価

P: 単価

2: 平均原価

6: ロット原価

3: メモ原価1

7: 標準原価

4: 現行原価

ここに入力した計算方式を使用して、オーダーの正味価格が決まります。

または、1から8の値を指定して、受注明細の単価をすべての価格再設定計算の基準の値として使用します。

係数

この在庫価格設定規則に添付される品目の価格を計算するときに使用する割引率を入力します。

	割引率は乗数、追加金額、または控除可能金額として表すことができます。たとえば、10%の割引は「0.90」と入力します。同じ係数を、原価割増しに使用できます。たとえば、10%の割増しは「1.10」と入力します。
タイプ	オーダー価格に適用される係数を、乗数(%)で示すか、追加/差引きの金額(\$)で示すか、値を選択します。
変更価格	価格を入力します。ここに入力した価格で、その他の規則や価格がすべて一時変更されます。
基本単位	数量限度が特殊な単位に基づいていることを示すコードを入力します。デフォルト値は1です(基本単位)。値は次のとおりです。 1: 基本単位 2: 2次単位 3: 購買単位 4: 価格設定単位 5: 出荷単位 #: 重量 \$: 通貨の(量ではなく)制限
契約数量	在庫価格設定規則において顧客がこの契約価格で購入する品目の数として決定された数量を表示します。
累計数量	売上更新処理を通過した件数を表示します。 作業オーダー処理では、このフィールドは作業オーダーで完了または使用した総量の累計を識別します。
契約参照	この契約の基本となる文書の番号または識別子を入力します。 このフィールドは、特定の顧客との間に契約価格を作成している場合にのみ使用してください。

在庫価格設定規則の設定

「価格設定規則の処理」フォームにアクセスします。

1. 「追加」をクリックします。
2. 「在庫価格設定規則」フォームの必須フィールドに加えて、業務上必要となる次の任意フィールドに値を入力します。
 - 価格設定規則コード
 - 価格設定方式コード
 - レベル
 - 基準
3. 「ロー」メニューの「明細」を選択して、品目情報を検討します。
品目情報の検討を終了して「在庫価格設定規則」フォームに戻るには、「閉じる」をクリックします。
4. 情報を保存してプログラムを終了するには、「OK」をクリックします。

顧客および顧客グループへの価格設定規則の割当

「価格設定規則の処理」フォームにアクセスします。

1. 「追加」をクリックします。
2. 顧客または顧客グループに適用する価格設定規則を指定するために、次のフィールドに値を入力します。
 - 価格設定規則コード
 - 価格設定方式コード
3. 「フォーム」メニューの「顧客規則」を選択します。
4. 「顧客価格設定規則」フォームの次のいずれかのフィールドで、顧客または顧客グループを指定します。
 - 顧客価格グループ
 - または顧客No.
5. 価格設定レベルを選択し、「ロー」メニューの「適用レベル」を選択します。

取引値引の設定

「請求情報」フォームにアクセスします。

取引値引

システムが各品目に適用する値引率のパーセンテージを入力します。

このフィールドに値を入力すると、これ以外の値引は適用されなくなります。価格を入力すると、値引率が一時変更されます。値引率は、整数(5%であれば5)で指定します。

第 7 章

受注オーダーの入力

この章では、受注オーダー入力の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 受注オーダー見出しおよび明細情報の入力
- 受注オーダー情報の更新とコピー
- テンプレートを使用した受注オーダーの入力
- 代替品目、関連品目または販促品の入力
- 顧客セグメント・ベース販売の使用
- 販売高アップセル価格の作成
- 受注オーダー入力の納期回答
- 監査ログ生成と承認プロセス
- キット品目およびコンフィギュレーション品目のオーダー入力
- 定期受注オーダーの処理
- オフライン処理を使用したオーダー入力
- マトリックス品目の受注オーダー入力

注意: アルゼンチン、ブラジル、ロシアには、受注オーダーの入力のための国別機能が用意されています。

受注オーダー入力について

顧客が組織から品目を購入する場合には、購入される品目、数量、価格、およびこの受注に関連した顧客固有の追加情報を記録する必要があります。受注オーダー入力プログラム(P4210とP42101)を使用すると、各受注に関連するすべての情報をトラッキングするための受注オーダーを作成できます。

受注オーダー入力フォームには必須フィールドと任意フィールドがあります。どのフィールドに入力するかは、受注内容の複雑さに応じて決まります。必須フィールドのみに値を入力すると、デフォルトの顧客、品目および優先情報が一連のテーブルから取り込まれます。受注オーダーで品目を入力すると、基本価格も取り込まれます。受注オーダーのデフォルトの情報は必要であれば一時変更できます。デフォルトの情報を一時変更した場合、この受注オーダーのデフォルトの情報のみが一時変更されます。マスター・テーブルは変更されません。

受注オーダーのデフォルトの情報は、次のテーブルから取得されます。

- 住所録マスター(F0101)
- 業種別顧客マスター(F03012)
- 品目マスター(F4101)
- 品目保管場所(F41021)

- 優先マスター (F40070)

入力された品目の基本価格情報も取り込まれます。

注意: オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne セールス・フォース・オートメーション・システムを使用して受注オーダーを作成した場合、JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムを使用して作成する受注オーダーの場合と同様に、これらの受注オーダーは JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムで管理および処理します。

受注オーダー入力プログラム

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理テーブルに受注レコードを作成するには、P4210 と P42101 の 2 つのプログラムを使用します。このプログラムを使用すれば、受注オーダーの入力や更新を最も簡単な方法で行うことができます。

2 つの受注オーダー入力プログラム (P4210 と P42101) を連携させて、受注オーダー情報を処理します。両プログラムとも、システムの同じテーブルを更新します。受注オーダーの作成や変更には P4210 入力プログラムを使用しない場合でも、処理オプションで処理情報を指定するこのプログラムのバージョンを作成する必要があります。その際、P4210 プログラムのこのバージョンを、P42101 プログラムの処理オプションに入力します。P42101 を使用して受注オーダーの作成や変更を行う場合、受注オーダーの処理では、P42101 の処理オプションの情報に加えて P4210 の指定したバージョンの情報が使用されます。

P42101 プログラムでは、P4210 プログラムの機能を完全には複製していません。販売実績情報から転送受注オーダーやクレジット・オーダーを入力したり、カスタマ・セルフサービス機能を実行するには、P4210 プログラムを使用する必要があります。

参照: 第 8 章、「カスタマ・サービス担当者用の受注オーダーの入力」、215 ページ

受注オーダー情報

受注オーダーには次の 2 つのタイプの情報が含まれます。

- 見出し情報

この情報はオーダー全体に関係します。情報は、受注オーダー見出しテーブル (F4201) に保管されます。オーダーを完了するために、0101 および F03012 の各テーブルからも情報が取り込まれます。

- 明細情報

この情報は主に受注オーダーに含まれる個々の行および品目に関連します。データは、受注オーダー明細テーブル (F4211) に保管されます。F4201、F4101、F41021、および F03012 の各テーブルからも情報が取り込まれます。

見出し情報および明細情報は別々に入力できます。受注オーダーの入力には、処理するオーダーの規模を入力する見出し情報の量に応じて、次の 2 通りの方法があります。

- 最初に見出し情報、次に明細情報を入力する。
- 明細情報を入力してから、見出し情報のサブセットを入力する。
残りの見出し情報は、システムによってデフォルト値に基づいて入力されます。

多通貨処理

「一般会計固定情報」フォームで「多通貨換算」オプションを使用している場合は、国内通貨で受注オーダーを入力すると同じように外貨建てオーダーを入力できます。

オーダー保留

オーダーの入力中、オーダーを処理するか保留するかを選択できます。オーダーの処理の保留を有効にした場合、システムによってオーダーを保留にするかどうかが決まり、必要であれば、オーダーの処理を始める前にユーザーにオーダー保留の警告が発行されます。

販売提案

受注オーダーの作成後は、販売提案を生成できます。提案を生成するには、事前定義済みのテンプレートと提案に含めるテンプレート部品を選択します。テンプレートを作成するときは、JD Edwards EnterpriseOne のテーブルから自動的に取り込まれるデータを定義します。これにより、顧客向けに設定された伝票をすばやく作成できます。テンプレートとテンプレート部品の順序を変更して、会社のニーズを満たす提案を作成することもできます。

多くの組織において、契約交渉の期間中、提案は大きな役割を担います。提案はオーダー入力の迅速化にも使用できます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne Energy and Chemical System (ECS) を処理するには、事業所固定情報プログラム (P41001) の「システム固定情報」フォームで「ECS システムの使用」オプションを選択します。
- F0101 テーブルの各顧客について、住所情報を入力します。
- F03012 テーブルの各顧客について、請求指示を入力します。

参照: 第 4 章、「顧客情報の設定」、「顧客請求指示の設定」、75 ページ

- 品目情報を品目マスター (F4101) とバルク品目マスター (F4101) に入力します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「品目情報の入力」、「品目マスター情報の入力」

- 在庫固定情報テーブル (F41001) の各事業所について事業所情報を入力します。

参照: 第 2 章、「受注管理システムの設定」、「固定情報の設定」、12 ページ

- 在庫品目について、事業所品目テーブル (F4102)、F41021 テーブル、F4101 テーブルに品目および事業所情報を入力します。
- 顧客および品目の組合せに対する優先情報を入力します。

参照: 第 17 章、「優先情報の有効化」、「カスタム優先タイプについて」、425 ページ

- デフォルト事業所/プリンタ・テーブル (F40095) のデフォルトの設置場所とプリンタの端末またはユーザー・プロファイルを設定します。
- 異なる通貨を使用してオーダーを処理している場合、多通貨処理を設定します。

受注オーダー見出しおよび明細情報の入力

この項では、受注オーダー見出し情報、受注オーダー明細情報、受注オーダー入力時のワークフロー処理、サブシステム処理の有効化についての概要と、事前設定および次の方法について説明します。

- 受注オーダー入力プログラム (P4210) の処理オプションの設定

- 受注オーダー見出し情報の入力
- 受注オーダー品目情報の入力
- デフォルト行情報の入力
- クロス・ドッキング情報の入力

受注オーダー見出し情報について

受注オーダーを作成するときには、見出し情報と明細情報を入力する必要があります。見出し情報はオーダー全体に関連しており、次のものが含まれています。

- 請求先住所
- 通貨コードおよび為替レート
- 支払条件および支払手段
- オーダー保留コード
- オーダー日付

受注オーダー見出しには、請求指示や配送日付など、システムが受注オーダーを処理する方法についての情報も含まれます。

税コード、税域、出荷先住所、および運賃情報などの既存の見出し情報のほとんどは、F0101テーブルのデフォルト値とF03012テーブルに保存されている顧客マスター請求指示から構成されます。オーダー見出し入力の際、これらの項目を確認し、特定のオーダーに適用する値を変更できます。ただし、将来のオーダーに取り込まれる情報を変更するには、マスター・テーブルに含まれる情報を更新する必要があります。変更のできない唯一の見出し情報はオーダー・キーです。オーダー・キーにはオーダー番号、オーダー・タイプおよびオーダー会社が含まれます。この情報によって、受注オーダー・レコードは一意に識別されます。

入力した見出し情報に加えて、メッセージを作成して受注オーダーに添付すると、受注オーダーの印刷時にそのメッセージがオーダー見出し領域に記載されます。

受注オーダーの見出し情報または明細情報を入力する前に、P4210プログラムの処理オプションを設定しておく必要があります。

関連住所

顧客請求指示と他の顧客マスター情報を設定するときには、請求書の送付先住所を販売先住所として、出荷の配送先住所を出荷先住所としてそれぞれ定義します。出荷条件などのオーダー情報が、請求書コピーや支払条件などの請求情報と異なる場合、関連住所を定義します。出荷先住所を入力すると、販売先住所が自動入力されます。

オーダーの入力中には、税目コードや税域などの売掛金情報がF03012テーブルから取り込まれます。直送オーダー、転送オーダー、または販売先と出荷先が異なる受注オーダーの場合には、販売先住所から税目コードが、出荷先住所からは税率と税域がそれぞれシステムの設定に応じて取り込まれます。請求先住所タイプ（販売先または出荷先あるいはその両方）、与信情報および請求書のコピーなど、その他の売掛管理情報は、顧客請求指示が設定されている方法に基づいて取り込まれます。

与信情報の検討

オーダーを入力するときに、販売先の売掛金残高および年齢リスト残高を検証できます。この情報を使用して、現在のオーダーの顧客に対応できます。

与信チェック・プログラム(P42050)を使用して、顧客の売掛金および与信状況の情報を検討できます。顧客の売掛金と発注残の合計を、会社別顧客マスター(F03012)で割り当てられている顧客の現在の与信限度額と比較して、与信限度を超過していないかどうかを判断できます。

与信チェック・プログラムを使用すると、次のような情報にアクセスできます。

- 売掛金情報(現時点で支払期日を迎えた残高など)
- 支払実績(顧客の格付け、請求書、支払情報など)
- 受注残(オーダー日付や金額を確認できます)

コミッション情報の入力

顧客マスター・コミッション情報(F42140)テーブルおよびコミッション固定情報(F42004)テーブルからデフォルトの見出しコミッション情報が取り込まれます。オーダーの入力中は、見出しコミッション情報にアクセスして修正を加えることができます。

参照: 第 3 章、「オーダー処理情報の設定」、「コミッション情報の設定」、40ページ

受注オーダー明細情報について

受注オーダーに見出し情報を入力した後、品目IDや数量、価格、原価など、オーダー品目の明細情報を追加します。バックオーダーや出荷済の数量など、顧客の請求書に印刷する情報を指定できます。個別の明細行にメッセージを追加することも可能です。

明細情報の大半は他のテーブルから取り込まれるため、最小限の情報を入力するだけです。入力したデータに基づいて、残りのフィールドにはデフォルトの情報が自動的に入力されます。必要に応じてこれらの値を検討し変更できます。

見出しまたは明細情報フォームで、顧客のオーダー情報を入力できます。明細情報よりも見出し情報にまずアクセスすると、オーダーを入力する前のデフォルト値を検討できます。明細情報に直接アクセスすると、オーダーを検索して検討できます。

処理オプションの設定に応じて、明細情報より先に見出し情報を入力できます。

受注オーダー明細情報を入力するときには、次のテーブルからデフォルト情報が取り込まれます。

- 受注オーダー見出し(F4201)
- 品目マスター(F4101)
- 業種別顧客マスター(F03012)
- 事業所品目(F4102)
- 品目保管場所(F41021)
- 品目原価(F4105)
- 品目基本価格テーブル(F4106)

受注オーダー明細の情報は、品目と顧客の組合せに対して固有のものです。明細フォームへの変更は、変更したオーダー明細行にだけ反映されます。

ほとんどの情報は受注オーダー見出しと、各種のテーブルから取り込まれるため、入力する必要があるのは在庫品目の品目番号と数量のみです。

品目情報の入力

品目番号が不明の場合、「品目No.」フィールドの検索ボタンをクリックすれば、「品目の検索/選択」フォームにアクセスできます。仕入先や顧客の部品番号など、製品IDか置換番号、代替番号、相互参照番号のいずれかを使用すると、品目情報が取り込まれます。相互参照情報は、品目相互参照プログラム (P4104) で設定します。

基本価格の取込み

F4101テーブルに品目を入力するときに、品目の標準価格を管理するレベルを指定します。このレベルは、事業所/保管場所と事業所内ロットとの間で価格が異なるかどうかを管理します。

多通貨の場合には、事業所/保管場所と事業所内ロットに基づく品目価格が管理されるように価格設定レベルを設定する必要があります。

受注オーダーで入力した単価によって、「基本価格の改訂」フォームで設定した価格は一時変更されます。受注オーダーの入力中に単価を入力しない場合、価格設定階層に基づいて価格が取り込まれます。

基本価格優先 (51) に対して設定した階層により、F4106テーブルの検索順序が決定されます。基本価格階層は、顧客、品目、顧客価格グループ、品目価格グループの組合せからなるマトリックスです。ローとカラムの交差部分を使って階層順序を決定します。

価格情報は、顧客請求指示に対する入力とF4106テーブルに基づいて取り込まれます。

オーダーの入力時に、品目の価格を選択する前に、品目の価格と在庫状況をチェックできます。

参照: 第 6 章、「基本価格設定および標準価格設定の設定」、107ページ

税情報の変更

オーダー入力中に、F03012テーブルから税目コードと税率/税域が取り込まれます。直送オーダーや転送オーダー、または販売先住所と出荷先住所が異なる受注オーダーの場合には、税目コードは販売先住所から、税率および税域は出荷先住所からそれぞれ取り込まれます。ただし、このデフォルト情報は一時変更できます。

税目コードと税率および税域が見出し情報から取り込まれても、明細行の品目について「品目/事業所情報」フォームで「販売時課税対象」オプションがNに設定されていると、その明細行の税額は計算されません。

シリアル番号条件の処理

受注オーダー入力でシリアル番号が必要な場合は、事業所品目プログラム (P41026) で品目に対して定義したシリアル番号条件に基づいて、次の規則が適用になります。

- 取引単位はシリアル番号付きの品目の基本単位と一致させる。
- 保管場所とシリアル番号の組合せを入力する場合には数量を1にする。
- 有効で使用可能な保管場所とシリアル番号の組合せを入力する。

入力した保管場所/シリアル番号と品目の組合せが使用できない場合や手持数量がゼロの場合には、エラー・メッセージが表示されます。品目、保管場所、シリアル番号の組合せに対する数量が次の状況である場合、シリアル番号は使用できません。

- 検査中
- 作業中1
- 作業中2
- 積送中

参照: 第 11 章、「受注オーダーの処理」、「シリアル番号情報の処理」、303ページ

コミッション情報の入力

見出しフォームのコミッション情報が明細フォームに使用されます。販売担当者/販売グループとコミッション情報をオーダーの単一行に適用するには、「ロー」メニューの「明細コミッション」を選択してコミッション情報を改訂します。

JDESOENTRYワークフロー処理をオンにしている場合に現行のオーダーが保留になると、その保留コードに責任のある販売担当者にアクション・メッセージが送られます。このメッセージは、システムが保留コード処理を完了した後に送信されます。オーダーが保留にならない場合には、コミッション管理プログラム(P42120)で定義されているとおりに、販売担当者にアクション・メッセージが送られ、販売先番号とともにそのオーダーは処理中であることが連絡されます。ワークフロー処理中の送信メッセージはワーク・センター・プログラム(P012501)で見ることができます。

参照: 第 3 章、「オーダー処理情報の設定」、「コミッション情報の設定」、40ページ

デフォルト行情報の入力

デフォルト行情報は、ピッキングや出荷、要求日時、見出し情報の事業所以外の事業所を指定する際に便利です。明細情報より先に見出し情報を入力しない場合や、明細行の多くに代替事業所が入力されているときに役に立ちます。この機能は受注オーダーの入力時にのみ使用できます。

デフォルト行情報を入力した後、品目情報を入力するステップを実行してください。

注意: 各明細行の入力時に情報を一時変更することは可能ですが、明細行のデフォルト値を再照会して変更しても、各明細行の情報は自動更新されません。

受注オーダーへの契約の割当

契約書は、契約のすべての既定と条件を含んだ法的文書です。オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne 契約管理システムを使用すると、各種の契約を設定し、トランザクションをトラッキングして、契約の履行が進行中であることを確認できます。受注オーダーの入力時に、次のような契約を関連付けることができます。

- 製品を貸し出して品目をパートナに出荷
- 製品を貸し出して品目をパートナの顧客に出荷
- 製品を借り入れて品目をパートナの他社デポから顧客へ直接出荷

契約は次の基準を使用して選択されます。

- 契約はアクティブである必要があります。
- 受注オーダー明細行と契約の品目は同じである必要があります。

注意: 契約は在庫品目に対してのみ使用できます。

- 契約の「荷受先」の値は、Pである必要があります。
- 受注オーダーの販売先または出荷先は、契約の仕向地と同じである必要があります。
- 受注オーダー明細行の事業所は、契約の出荷元である必要があります。
- 受注オーダーのオーダー日付は、契約の有効日範囲内である必要があります。
- 受注オーダーの数量は残数を超えることはなく、契約が選択される前に満たされます。

これは数量制御を使用中の契約に適用されます。

原価ゼロと価格ゼロ

明細行の価格または原価をゼロに変更できます。受注オーダーの明細行の原価または価格をゼロにすると、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムにレコードは作成されません。

価格ゼロ機能を使用すると、製品サンプルの潜在顧客への出荷、交換部品の無料による顧客への送付、見積のための仕入先への品目の出荷を行うことができます。サンプルを仕入先に戻すには、原価ゼロ機能を使用できます。

価格と原価をゼロにして受注オーダーを作成すると、売掛金額を発生させずに在庫のリリースとトラッキングを行えます。

オーダー住所の一時変更

販売先または出荷先の顧客番号に関連する住所を一時変更できます。複数行の品目を持つ顧客の受注オーダーを入力する場合、1つの行の出荷先住所を一時変更して、1つの品目のみを顧客の別の場所に転送できます。顧客の希望によっては、製品をその顧客の取引先（サード・パーティ）に直接ユーザーが出荷し、請求書と送り状は顧客に引き続き直接送付する必要があります。

在庫のハード・コミット

オーダー明細行を入力するときに、保管場所を入力することで在庫を受注オーダーにハード・コミットできます。在庫をハード・コミットすることで、在庫を顧客に割り当てることができます。

ライセンス・プレートで管理された事業所、品目、保管場所、ロットに対して受注オーダーの明細行を入力できます。在庫は、JD Edwards EnterpriseOne 倉庫管理システムによって提示処理が正常終了するまで、品目保管場所テーブル (F41021) にハード・コミットされません。受注オーダーの入力とライセンス・プレート明細へのハード・コミットの間には、時間差が発生する可能性があります。この時間差が大きいほど、他の在庫処理によってそのライセンス・プレートに対してコミットが行われてしまう危険性も高くなります。

受注オーダー入力時におけるワークフロー処理について

JD Edwards EnterpriseOne ワークフローを使用すれば、これまで紙ベースで処理されてきた大量のプロセスを自動化して、ネットワーク経由の電子メールベースのプロセス・フローにすることができます。ドキュメント、情報、タスクが一連の手続きルールに基づいてユーザーからユーザーへと渡されて処理されます。ワークフロー処理を使用すると、ビジネス・プロセスを自動的に効率化、合理化し、ユーザーの関与を最小限にして処理時間を短縮できます。

システムはオーダー保留をチェックして受注オーダーを処理します。「OK」をクリックしてオーダーを受け入れると、受注オーダー入力 (P4210 と P42101) プログラムの処理オプションに保留コードが設定されていないかがチェックされ、オーダーとその保留情報が比較されます。

JDESOENTRY ワークフロー処理をオンにしている場合にオーダーが保留になると、現行のオーダーが保留になっていることを伝えるアクション・メッセージが販売担当者に送信されます。このメッセージは、システムが保留コード処理を完了した後に送信されます。オーダーが保留にならない場合には、コミッション管理プログラム (P42120) で定義されているとおり、販売担当者にアクション・メッセージが送られ、販売先番号とともにそのオーダーは処理中であることが連絡されます。ワークフロー処理中の送信メッセージはワーク・センター・プログラム (P012501) で見ることができます。

注意: JDESOENTRY 処理はシステムのパフォーマンスに影響を与えることがあります。直前のオーダー処理が済んでワークフロー処理が完了するまで、次のオーダーは入力できません。

サブシステム処理の有効化について

サブシステム・ジョブは、対話型アプリケーションとは関係なく非同期に、連続して実行されるバッチ処理です。サブシステム処理を使用すると、プロセッサの資源の負荷軽減、サーバー処理の保護、および頻繁に繰り返される処理の実行によって、最大の出力を得ることができます。

オーダー入力を終了した直後にピッキング・リストや請求書が必要な場合、サブシステム処理を設定して起動できます。インスタント印刷機能は次のような場合に役に立つことがあります。

- 同日配送のオーダーを大量に処理するため、オーダーの入力後すぐにピッキング・リストを作成する必要がある。
- 店頭販売の件数が多く、顧客が商品と請求書を同時に持ち帰りたい。

サブシステム処理を終了するには、サブシステムが稼働している適切なサーバーを見つけて選択する必要があります。「サーバーの処理」フォームで、「ロー」メニューの「サブシステム・ジョブ」を選択します。「サブシステムの処理」フォームで、該当のジョブを選択し、「ロー」メニューの「サブシステム・ジョブの終了」を選択します。

重要: サブシステムは、日締め処理を実行する前に必ず停止してください。サブシステムのジョブはいつでも停止できます。

サブシステム処理を有効にするには、特にサブシステム処理用に新しいバージョンの受注オーダー入力プログラム (P4210) を作成し、作成した P4210 プログラムの「処理」タブにある「サブシステム処理」処理オプションに次のプログラムのいずれかの値を入力します。

- ピッキング・リストの印刷 (R42520)
- 請求書の印刷 (R42565)
- 在庫引当 (R42997)
- バッチ編集/作成 (R4210Z)

各プログラムのサブシステム用のバージョンを、「バージョン」タブ内の対応する処理オプションに指定する必要があります。

たとえば、オーダー入力の直後にピッキング・リスト印刷用のサブシステム処理を有効にするには、処理オプションでピッキング・リスト印刷の値を設定してから、R42520 プログラムのバージョンを指定します。

カスタマ・セルフサービスでのオーダー入力について

JD Edwards EnterpriseOne カスタマ・セルフサービスを使用すれば、受注オーダーの入力、受注オーダー状況の確認、出荷状況の確認、会計取引の確認を顧客が行えるようになります。

ユーザーは顧客が JD Edwards EnterpriseOne システムにアクセスできるようにして、顧客が最新の在庫情報を確認したり受注オーダーを直接入力できるようにします。

カスタマ・セルフサービスでは、顧客が一部のプログラムやフィールドにしかアクセスできないようにセキュリティが設定されています。顧客はシステム全体にアクセスできません。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 受注オーダー入力プログラムの処理オプションで、見出し情報を明細情報よりも先に表示するように設定していることを確認してください。

- JDESOENTRYワークフロー処理が有効に設定されていることを確認してください。

関連項目:

付録 A、「JD Edwards EnterpriseOne受注管理の標準ワークフロー、」463ページ

受注オーダーの見出しと明細情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
受注見出しの処理	W4210H	「受注オーダー処理」(G4211)、「受注見出し」	受注オーダーの見出しレコードを確認して選択します。またはフォームにアクセスして新しい受注オーダーを追加します。
受注オーダー見出し	W4210G	新しい受注オーダーを追加するには、「受注見出しの処理」フォームで「追加」をクリックします。 既存の受注オーダーを改訂するには、「受注見出しの処理」フォームでレコードを選択し、「選択」をクリックします。	受注オーダー見出し情報を入力します。
受注オーダー明細の改訂	W4210A	「受注オーダー見出し」フォームで「OK」をクリックします。	受注オーダー品目情報を入力します。 デフォルト行情報を入力します。 2次単位と該当品目の数量情報を確認します。 デフォルトの価格および原価を一時変更するか、これらの値をゼロに変更します。
オーダー承認	W42232A	「受注オーダー明細の改訂」フォームで「OK」をクリックします。	オーダーを実行、または改訂するために適切なボタンをクリックします。
受注残/完了オーダー照会	W4210E	「受注オーダー処理」(G4211)、「受注明細」	受注オーダー明細レコードの確認と選択を行います。
受注残/完了オーダー照会	W4210E	「受注オーダー処理」(G4211)、「受注明細」 「受注残/完了オーダー照会」フォームで、「バックオーダー合計数量」チェックボックスを選択します。	バックオーダー合計数量情報を確認します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
オーダー住所情報	W4006B	<ul style="list-style-type: none"> 「受注見出しの処理」フォームで、オーダーを検索し、「選択」をクリックします。「受注オーダー見出し」フォームの「フォーム」メニューから「オーダー住所」を選択します。 「受注見出しの処理」フォームで、オーダーを検索し、「ロー」メニューの「オーダー住所」を選択します。 「受注残/完了オーダー照会」フォームで、オーダーを検索し、「選択」をクリックします。「受注オーダー明細の改訂」フォームの「フォーム」メニューから「オーダー住所」を選択します。 「受注残/完了オーダー照会」フォームで、オーダーを検索し、行の前にあるチェックボックスを選択します。「オーダー」を選択し、「ロー」メニューの「オーダー住所」を選択します。 	オーダーまたは行項目で販売先または出荷先の顧客番号を一時変更します。
受注オーダー入力 - 追加情報	W4210B	「受注残/完了オーダー照会」フォームで、オーダーを検索して選択します。「受注オーダー明細の改訂」フォームで、明細行を選択して、「ロー」メニューの「受注オーダー入力 - 追加」を選択します。	クロス・ドッキング情報を入力します。

受注オーダー入力 (P4210) の処理オプション

処理オプションを使用して、デフォルト値、オーダーのコピー方法、実行するシステム処理、表示する情報、受注オーダー入力プログラム (P4210) からアクセスする各プログラムのバージョンを指定します。

デフォルト

この処理オプションでは、トランザクションに値が入力されていない場合に P4210 プログラムで使用する伝票タイプなどのデフォルト値を決定します。

必須であるオーダー・タイプを除いたこれらのデフォルト値は、オーダー入力時にのみ適用されます。書込み済のレコードを照会する場合、まずフォーム見出しのオーダー情報に基づいてオーダーが取り込まれ、次に照会で定義したパラメータが使用されます。

見出しと明細フォームに表示されるデフォルト情報は一時変更できます。情報が非表示の場合、オーダーは処理オプションやマスター・テーブルで設定したデフォルトの情報に基づいて処理されます。

- 1. オーダー・タイプ(必須)** 伝票のタイプを識別する値をユーザー定義コード(UDC)00DTから入力します。
- 伝票、請求書、入荷確認書、およびタイム・シートの伝票タイプ・コードは予約されており、転記プログラムの実行時に自動的に仕訳が作成されます。
- このバージョンの受注オーダー入力プログラム(P4210)を他のプログラムで使用する場合、受注オーダーのデフォルト値は、オーダーが当初作成されたときのデフォルト値に一時変更されます。たとえば、一括オーダー・リリース・プログラム(P42216)で、P4210プログラムのこのバージョンを使用すると、受注オーダーの行タイプのデフォルトは、一括オーダーのオーダー行タイプに一時変更されます。
- 2. 行タイプ** 取引行の処理方法を制御するコードを入力します。
- 行タイプによって、トランザクションがやり取りするシステム(JD Edwards EnterpriseOne一般会計、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne作業原価、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理、JD Edwards EnterpriseOne在庫管理など)を設定します。値は「行タイプ固定情報の改訂」フォームで定義され、次のものが含まれます。
- S: 在庫品目
 - J: 作業原価
 - N: 非在庫品目
 - D: 直送品目
 - F: 運賃
 - T: テキスト情報
 - M: その他の料金および返品
 - W: 作業オーダー
- 「行タイプ固定情報の改訂」フォームで、情報をロット・マスター(F4108)から取り込むが、数量の引当は行わない非在庫品目用の行タイプを設定できます。「非在庫品目用品目マスターの編集」オプションは、「在庫管理インターフェイス」オプションがDやNなどの非在庫品目用に設定されている場合に使用されます。
- 直送品目タイプを入力すると、購買オーダー入力プログラム(P4310)のバージョンの1つを使用して、この受注オーダーに関連する購買オーダーが作成されます。バージョンの指定は、受注オーダー入力プログラム(P4210)の処理オプションの「バージョン」タブにある「購買オーダー入力」処理オプションで指定します。
- 作業オーダーの行タイプを入力すると、P4210の処理オプションの「バージョン」タブにある「作業オーダー入力」処理オプションで指定したバージョンの作業オーダー入力プログラム(P48013)を使用して作業オーダーが作成されます。
- このバージョンのP4210プログラムを他のプログラムで使用する場合、受注オーダーのデフォルト値は、オーダーが当初作成されたときのデフォルト値に一時変更されます。たとえば、一括オーダー・リリース・プログラム(P42216)で、P4210プログラムのこのバージョンを使用すると、受注オーダーの行タイプのデフォルトは、一括オーダーのオーダー行タイプに一時変更されます。
- 3. 開始状況** オーダー処理の現行の状況を示す値をUDC 40/ATから入力します。

使用中のオーダー・タイプと行タイプに基づいてオーダー処理規則で設定されたコードを指定する必要があります。

開始状況と次状況の組合せは、オーダー処理規則テーブル(F40203)の前状況と次状況の有効な組合せになっている必要があります。

4. 一時変更用次状況

オーダー処理の次のステップを示す値をUDC 40/ATから入力します。使用中のオーダー・タイプと行タイプに基づいてオーダー処理規則で設定されたコードを指定する必要があります。

この一時変更用状況は、この処理で実行できるもう1つのステップになります。開始状況と一時変更用次状況の組合せは、F40203テーブルの前状況と次状況の有効な組合せになっている必要があります。

5. 行番号増分

オーダー行番号を自動的に増加するときに使用する増分を入力します。キット入力などの他の処理では小数の増分を作成するので、整数を指定する必要があります。

6. 理由コード

UDC 42/RCで設定されている値を入力します。レポートの目的で使用されるメモ用のフィールドです。

注意: 理由コード6は予約されています。

7. 一時変更取引単位

オーダー内の品目の単位をUDC 00/UMから入力します。

この処理オプションに値を入力しないと、品目マスター(F4101)で定義されている基本単位が取り込まれます。

8. デフォルトの取引単位

使用する単位を指定します。デフォルトの取引単位は、「一時変更取引単位」フィールドがブランクの場合に取り込まれます。値は次のとおりです。

ブランク: 基本単位を使用します。

1: 価格設定単位を使用します。

9. 住所録の改訂

受注オーダーの入力時に、新しい顧客をJD Edwards EnterpriseOne住所録システムに追加するようにプロンプトを表示するかどうかを指定します。システムが認識できない顧客の住所録番号を「販売先」フィールドまたは「出荷先」フィールドに入力すると、オーダーを入力できなくなります。値は次のとおりです。

ブランク: オーダーを入力する前に、「住所録の改訂」フォームに手作業でアクセスして、顧客情報を追加する必要があります。

1: 「住所録の改訂」フォームが自動的に表示されます。

「フォーム」メニューの「住所録の改訂」フォームにアクセスする場合、または顧客を自動的に追加するオプションを選択する場合のいずれも、住所録の改訂プログラム(P0101)のバージョンZJDEC003が使用されます。

10. 見出しから明細への更新

見出し情報を変更する場合に、明細情報フォームの対応する情報を更新するかどうかを指定します。次に、明細テーブルに対する見出しカラムの定義プログラム(P40HDR)を使用して、明細フォームを更新するために使用するフィールドを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 「見出しから明細」フォームのメニューで「自動入力」オプションが選択されていないかぎり、「受注オーダー明細の改訂」フォームの情報は更新されません。

1: 見出し情報の変更が反映されるように明細行が自動的に更新されます。

- 11. 見出し事業所** 原価のトラッキングに選択されるデフォルトの事業所の値を指定します。ユーザーIDまたは端末、または住所録の改訂プログラム(P0101)の出荷先住所のビジネスユニットに基づいて事業所のデフォルトの見出しを設定できます。値は次のとおりです。
- 空白: ユーザーIDまたは端末IDに基づくデフォルトのロケーションを使用し、オーダー見出しフォームに事業所を表示します。
- ユーザーIDまたは端末IDに基づいたデフォルトの事業所は、デフォルト事業所およびプリンタプログラム(P400951)で設定します。
- 1: 商品を出荷する顧客について「住所録の改訂」フォームで指定したビジネスユニットを使用します。
- 12. デフォルトの事業所** オーダー見出しに表示されるデフォルトの事業所を指定します。
- 13. オーダー・テンプレート** すべての顧客に適用される標準テンプレートを入力します。
- よく使用されるオーダー品目をリストした標準テンプレートを作成できます。このテンプレートはオーダーごとに表示されますが、オーダーの入力時には、この一部またはすべての品目を適用する必要はありません。
- 14. カスタマ・セルフサービスの構造タイプ** 使用する組織構造タイプを示す値をUDC 01/TSから入力します。アプリケーションでは、別の住所録番号と関連するアドレスのリストから住所録番号を選択できます。この住所録番号は、住所録レコードに関連するアドレスとして指定するか、組織構造タイプを介して関連付けることで指定します。組織構造タイプは、同じ組織に属しているある住所録番号と別の住所録番号との関係をシステムが認識するために使用されます。
- この処理オプションを空白のままにしておくと、住所番号レコードで指定した関連する住所番号のリストから値を選択できます。
- 15. ユーザーIDデフォルト (CSSのみ)** カスタマ・セルフサービス(CSS)を使用するときに、受注オーダー見出しの「出荷先」フィールドまたは「販売先」フィールドにユーザーIDを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- 空白: 販売先見出しにユーザーIDを表示します。
- 1: 出荷先見出しにユーザーIDを表示します。
- 16. 販売先/出荷先見出しの一時変更 (CSSのみ)** CSSを使用するときに「出荷先」フィールドと「販売先」フィールドの一時変更を有効にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- 空白: 一時変更を有効にしません。
- 1: カスタマ・セルフサービス・モードの見出しレベルでの「販売先」フィールドと「出荷先」フィールドの一時変更を有効にします。
- 17. 運送業者No.の一時変更 (CSSのみ)** CSSを使用するときに、見出し情報の運送業者を一時変更するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- 空白: 運送業者を一時変更しません。
- 1: 運送業者番号を一時変更します。
- 18. 販売先の連絡先レコード・タイプ** 受注オーダー入力プログラム(P42101)を使用してオーダーを入力するときに、見出しにデフォルトで表示する販売先の連絡先タイプをUDC 01/WOから指定します。
- 19. 出荷先の連絡先レコード・タイプ** P42101を使用してオーダーを入力するときに、見出しにデフォルトで表示する出荷先の連絡先タイプをUDC 01/WOから指定します。

注意: カスタマ・セルフサービス(CSS)のみと指定されている処理オプションは、カスタマ・セルフサービス以外のオーダー入力には適用されません。

コピー

この処理オプションでは、受注オーダーをコピーする場合に受注オーダー入力プログラム(P4210)で使用する伝票タイプなどの値を指定します。

1. **オーダー・タイプ** コピーされる伝票のオーダー・タイプを指定する値をUDC 00/DTから入力します。
「受注残/完了オーダー照会」フォームのツールバーの「コピー」をクリックすると、オーダー・タイプが同じである複製オーダーが作成されます。
この処理オプションをブランクにすると、受注オーダー入力プログラム(P4210)の「デフォルト」タブにある「オーダー・タイプ」処理オプションに指定された値が使用されます。
2. **開始状況** コピーされた行の現行の状況を示す値をUDC 40/ATから入力します。「受注残/完了オーダー照会」フォームの「コピー」をクリックすると、同じ状況を持った複製オーダーが作成されます。UDC 40/ATから指定する値は、使用するオーダー・タイプと行タイプに基づいてオーダー処理規則に設定されている必要があります。開始状況と次状況の組合せは、F40203テーブルの前状況と次状況の有効な組合せになっている必要があります。
3. **次状況** 複製オーダーのオーダー処理の次のステップを示す値をUDC 40/ATから入力します。UDC 40/ATから指定する値は、使用するオーダー・タイプと行タイプに基づいてオーダー処理規則に設定されている必要があります。この一時変更用状況は、この処理で実行できるもう1つのステップになります。開始状況と一時変更用次状況の組合せは、F40203テーブルの前状況と次状況の有効な組合せになっている必要があります。
4. **関連テキスト行のコピー** オーダーを複製する場合に、コピーされるメッセージと関連テキストを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 関連テキストおよびメッセージをコピーしません。
1: オーダー明細行に添付されたメッセージおよび関連テキストをコピーします。
2: オーダー明細行に添付されているメッセージの他に、見出しに添付されているメッセージやテキストもコピーします。
3: 見出しに添付されているメッセージやテキストをコピーしますが、特定のオーダー明細行のものはコピーしません。

オーダー保留

この処理オプションでは、オーダー保留処理を有効にします。オーダー保留処理を有効にするには、次の処理オプションのいずれかで保留コードを指定する必要があります。保留パラメータは保留オーダー固定情報プログラム(P42090)で設定します。

1. **顧客与信チェック** 「顧客マスター情報」フォームに設定した顧客の与信限度と、オーダーおよび売掛金残高をシステムが自動比較するために使用する与信保留コードを示す値をUDC 42/HCから入力します。

2. オーダー・マージン・チェック

顧客の与信チェック処理を有効にするには、この処理オプションで保留コードを指定する必要があります。

すべての受注オーダーが特定のマージンを満たしているかを検証する際に使用される、オーダーのマージン・チェックを識別する値をUDC 42/HCから入力します。

マージンの計算には次の計算式が使用されます。

$$(\text{価格} - \text{原価}) \div \text{価格} \times 100 = \text{マージン}$$

オーダーのマージン・チェック処理を有効にするには、この処理オプションで保留コードを指定する必要があります。

3. オーダー行・マージン・チェック

すべてのオーダー明細行が特定のマージンを満たしていることを検証する際に使用される、オーダー行のマージン・チェックを識別する値をUDC 42/HCから入力します。

マージンの計算には次の計算式が使用されます。

$$(\text{価格} - \text{原価}) \div \text{価格} \times 100 = \text{マージン}$$

オーダー行のマージン・チェックを有効にするには、この処理オプションで保留コードを指定する必要があります。

4. オーダー最小値チェック

「顧客請求指示」フォームで顧客に対して設定したオーダー最小数量と、オーダーの合計数とを自動的に比較する際に使用されるコードを識別する値をUDC 42/HCから入力します。

オーダーの最小数量チェックを有効にするには、この処理オプションで保留コードを指定する必要があります。

5. オーダー最大値チェック

「顧客請求指示」フォームで顧客に対して設定したオーダー最大数量と、オーダーの合計数とを自動的に比較する際に使用されるコードを識別する値をUDC 42/HCから入力します。

オーダーの最大数量チェックを有効にするには、この処理オプションで保留コードを指定する必要があります。

6. 部分オーダー保留

オーダー明細行を充当する引当可能数量がない場合に、オーダー全体を保留するために使用するコードを識別する値をUDC 42/HCから入力します。

部分オーダー保留は、いつでもリリースできます。リリース後は、顧客マスター(P03013)、品目マスター(P4101)、事業所品目マスター(P41026)および事業所固定情報(P41001)の各プログラムのバックオーダー情報に基づいて、バックオーダー、取消または出荷可能数量の出荷を実行できます。

部分オーダー保留処理を有効にするには、この処理オプションで保留コードを指定する必要があります。

7. 製品割当保留

顧客または顧客グループが購入できる品目または品目グループの金額を制限する際に使用される保留コードを指定する値をUDC 42/HCから入力します。

優先マスター・プログラム(P40070)で製品割当優先情報を設定し、優先情報選択プログラム(R40400)を使用してこの優先情報を有効にします。さらに保留オーダー固定情報プログラム(P42090)で保留コード情報を設定してから、受注オーダー入力プログラム(P4210)の「バージョン」タブの「優先プロファイル」処理オプションを設定します。

製品割当の保留処理を有効にするには、この処理オプションで保留コードを指定する必要があります。

8. 前払処理の承認保留

前払の承認の保留で使用するデフォルトの保留コードをUDC 42/HCから入力します。クレジット・カード処理機からの前払を承認するには、前払取引の承認プログラム(R004201)を実行します。

9. 前払処理の決済保留

前払の決済の保留で使用するデフォルトの保留コードをUDC 42/HCから入力します。受注オーダーを出荷した後に資金決済を確定するには、前払取引の決済プログラム(R004202)を実行します。

10. オーダー処理保留

オーダーが受注オーダー処理の様々な段階を通過しないようにするための値をUDC 42/HCから入力します。

この保留コードは、与信チェックや最小/最大のマージン・チェックなど、特定の処理には関連がありません。この処理オプションを使用して、受注オーダーの追加の承認ステップを作成できます。

11. 承認保留

オーダーへの改訂が承認を必要とする場合に、受注オーダーを保留にするために使用される値をUDC 42/HCから入力します。

入力するコードは「AH」、または「AH」と類似した特性の値になることがあります。指定する保留コードに関係なく、コードは保留オーダー固定情報プログラム(P42090)で設定される必要があります。P42090の設定は、L(行)のコード・タイプとA(金額)の制限タイプを使用する必要があります。

12. 排他調整保留

互いに排他的な価格調整が受注明細行に適用され、矛盾が解決できない場合に、受注オーダーを保留するかどうかを指定する値をUDC 42/HCから入力します。互いに矛盾する調整が存在する場合、警告が表示されます。「ロー」メニューの「価格履歴」を選択して、矛盾する調整の取消や変更を行うことで、矛盾を解決できます。オーダーの承認時に矛盾が存在する場合、この処理オプションが設定されていると、オーダーは保留されます。

入力するコードは「AH」、または「AH」と類似した特性の値になることがあります。指定する保留コードを問わず、コードは保留オーダー固定情報プログラム(P42090)で設定しておく必要があります。P42090の設定は、L(行)のコード・タイプとA(金額)の制限タイプを使用する必要があります。

排他調整の保留処理を有効にするには、この処理オプションで保留コードを指定する必要があります。

13. 非アクティブな顧客の保留

「非アクティブな顧客検索タイプ」処理オプションで指定された検索タイプが顧客にある場合に受注オーダーを保留するためのオーダー・レベルの保留コードを指定する値をUDC 42/HCから入力します。

注意: この処理オプションは、「非アクティブな顧客検索タイプ」処理オプションが設定されている場合にのみ有効です。非アクティブな顧客を保留状態にできるようにするには、この2つの処理オプションが必要です。

非アクティブな顧客の保留処理を有効にするには、この処理オプションで保留コードを指定する必要があります。

14. 非アクティブな顧客検索タイプ

非アクティブな顧客を指定するために、F0101テーブルで使用される検索タイプを指定します。

注意: 受注オーダーを入力するときに、顧客の検索タイプがこの処理オプションで指定された検索タイプである場合、「非アクティブな顧客の保留」処理オプションが設定されている場合にのみ、その受注オーダーは保留されます。

「非アクティブな顧客の保留」処理オプションと「非アクティブな顧客検索タイプ」処理オプションを「顧客 - 管理 <顧客名>」フォームの「顧客状況」フィールドと連携して、非アクティブな顧客のオーダーを保留するかどうかを決定します。

表示

この処理オプションでは、原価や価格フィールド、終了行とキット構成部品など、特定タイプの受注オーダー情報の表示の可否と変更の可否を制御します。

注意: このタブにある処理オプションは、受注オーダー入力プログラム (P4210) のみに適用されます。カスタマ・サービス担当者受注オーダー入力プログラム (P42101) を使用する場合、P4210プログラムの「表示」タブのオプションは、P42101プログラムの「表示」タブのオプションに一時変更されます。

1. 原価フィールドの表示/ 非表示

「原価」フィールドを保護または非表示にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: フォームに「原価」フィールドが表示され、情報を一時変更できます。

1: 「原価」フィールドは保護され、変更できなくなります。「原価」フィールドを変更から保護すると、原価はフォームに表示されますが、変更はできなくなります。

2: 原価フィールドは非表示です。「原価」フィールドを非表示にすると、「原価」フィールドはフォームに表示されなくなります。ただし、原価情報は品目原価テーブル (F4105) から受注オーダー明細テーブル (F4211) に書き込まれます。

デフォルトの原価情報は、F4105テーブルから取り込まれます。

2. 価格フィールドの表示/ 非表示

「価格」フィールドを保護または非表示にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 「価格」フィールドは表示され、入力も可能です。このオーダーについてのみ情報を一時変更できます。

1: 価格は変更されないように保護されます。単価および合計価格はフォームに表示されますが、これらの情報は一時変更できません。

2: 価格情報は表示されません。価格フィールドを非表示にしても、価格情報は受注オーダー明細テーブル (F4211) に書き込まれます。

3. 価格設定関連フィールドの使用不可

計算価格に影響する価格設定関連フィールドを無効にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 価格設定関連フィールドは表示され、入力も可能です。

1: 価格設定関連のフィールドは表示されますが、情報の一時変更はできません。

4. 状況コードの使用不可/ 非表示

状況コードを保護または非表示にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: このオーダーに限って情報を一時変更できます。状況コードを入力する場合、伝票タイプと行タイプの組合せに対して、オーダー処理規則でその他の使用可能な状況コードとして設定する必要があります。さらに、開始状況と次状況の組合せは、オーダー処理規則テーブルの前状況と次状況の有効な組合せになっている必要があります。

1: 状況コードは保護され、変更できなくなります。状況コードを変更されないように保護すると、現行状況と次状況がフォーム上に表示されますが、情報の一時変更はできなくなります。

2: 状況コードを非表示にします。状況コードを非表示にすると、前状況と次状況のコードは表示されません。オーダーは、オーダー処理規則で設定されている現状況と次状況に基づいて処理されます。

5. 終了明細行の非表示

アクティブな明細行、終了している明細行、取り消した明細行を表示するかどうかを指定します。照会中に、アクティブなオーダーの明細行のみを検討する場合があります。値は次のとおりです。

ブランク: 明細フォームにすべてのオーダー明細行が表示されます。

1: 状況コードが999の行は表示されません。ただし、この行のレコードは、F4211テーブル、または受注実績テーブル(F42119)に残ります。

6. クレジット・カード情報の非表示

ユーザーが顧客のクレジット・カード情報にアクセスできるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: オーダー入力時にクレジット・カード情報にアクセスできます。

1: オーダー入力時にクレジット・カード情報にアクセスできません。

7. 運賃および運送業者情報の非表示

運賃と運送業者情報フィールドを表示するかどうか指定します。適切な配送経路、中継点、区域に基づいて運賃の計算が正確に行われるように、また顧客への配送を常に優先運送業者が担当するように、運賃および運送業者の情報フィールドを標準化できます。値は次のとおりです。

ブランク: 運賃および運送業者の情報フィールドはオーダー明細フォームに表示され、一時変更できます。

1: 運賃および運送業者の情報フィールドはオーダー明細フォームに表示されません。オーダーは、顧客請求指示または品目マスター情報に設定されているデフォルト情報に基づいて処理されます。

8. コミッション情報の非表示

コミッション情報を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: コミッション情報を表示し、デフォルト情報を一時変更します。現行オーダーのみに影響します。

1: コミッション情報を表示しません。オーダーはコミッション・テーブル(F42005)に設定されているデフォルト情報に基づいて処理され、アクセスや変更はできません。

9. キット構成品の非表示

オーダーの再照会時にキット構成品が「受注オーダー明細の改訂」フォームに表示されるかどうかを指定します。

ブランク: オーダーの再照会時に、選択したフィーチャとオプションの他に、親品目が表示されます。

1: オーダーの再照会時に親行のみを表示します。ただし、親行およびすべての構成品行は受注オーダー明細テーブル(F4211)に書き込まれます。

引当て

この処理オプションを使用して、引当可能数量チェックおよび汎用バケットへの引当を有効にします。引当計算は各事業所の引当可能数量の計算に基づくため、システムによるバックオーダーや取消、顧客への納期の計算に影響します。

品目引当可能数量の計算方法は、品目の引当可能数量から減算または加算する要素を定義して決定します。品目の引当可能数量から減算される要素には、受注オーダー数量や作業オーダー数量などがあります。品目の引当可能数量に加算される要素には、積送中の購買オーダー数量や検査中の品目数量などがあります。これらの要素は引当可能数量を計算するフォームで定義します。このフォームには事業所固定情報プログラム(P41001)からアクセスできます。

1. 引当可能数量チェックの使用

要求された品目に対して、引当可能数量を検証するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 引当可能数量のチェックを実行しません。このオプションは、一括オーダーまたは見積オーダーの入力で使用される場合があります。

1: 引当可能数量チェックを実行します。数量が引当できない場合は、この品目の数量が引当可能数量を超過するという警告が表示されます。品目マスター、事業所品目、事業所固定情報および顧客請求指示の各プログラムに設定されているバックオーダー情報に基づいて、引当できない数量については自動的にバックオーダーまたは取り消されます。

2: 引当可能数量チェックを実行します。数量が引当できない場合は、この品目の数量が引当可能数量を超過するという警告が表示されます。ただし、数量のバックオーダーまたは取消は実行されません。数量は出荷可能のまま残ります。

バックオーダーは品目別、または顧客別に設定できます。また特定の事業所でバックオーダーを許可するかどうかも指定できます。品目のバックオーダーを行うには、品目マスター、事業所品目、事業所固定情報および顧客請求指示の各プログラムで「バックオーダー可」オプションを設定する必要があります。バックオーダーを使用することにより、数量が引当可能になるまでオーダー明細行が保留になります。バックオーダーを使用しない場合は、オーダー明細行が取り消されます。

オーダー明細行が処理された後で、オーダー明細行のフィールドでバックオーダー、取消、および出荷が実行された情報について検討できます。

2. 数量1または数量2への引当

数量を引き当てる先の汎用バケットを指定します。通常、このオプションは、品目の引当可能数量に影響を与えないオーダーに対して使用されます。この汎用バケットを使用して需要や将来の受注を予測できます。たとえば、受注オーダー入力プログラム(P4210)の1つのバージョンに見積オーダーを設定し、バケット数量1に数量を引き当てることができます。また、P4210の別のバージョンには一括オーダーを設定して、バケット数量2に数量を引き当てることができます。引当可能数量の情報は、在庫集計照会のフォームで検討できます。値は次のとおりです。

ブランク: 事業所固定情報の引当可能数量を計算するフォームで受注オーダーに定義する要素に基づいて数量が引き当てられます。

1: バケット「数量1」に対して数量が引き当てられます。

2: バケット「数量2」に対して数量が引き当てられます。

引当可能な在庫数量からこのオーダーの数量を加算も減算もしない場合は、受注オーダー入力プログラムの「引当て」タブにある「引当可能数量

チェックの使用」処理オプションをブランクにすると、引当可能数量のチェックは実行されなくなります。

3. 需要/供給照会フォームの表示

品目の数量が引当可能でない場合に、「需要/供給の照会」フォームを自動的に表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 「需要/供給照会」フォームを表示しません。数量が引当可能でない場合、オーダー明細行はバックオーダーされるか、または取り消されます。ただし、「受注オーダー明細の改訂」フォームからこの情報に手作業でアクセスして、需要品目数、供給可能数量、および約束可能数量の情報をモニターできます。

1: 数量を引当できない場合に「需要/供給照会」フォームを表示します。「バージョン」タブの対応する処理オプションに設定したバージョンの需要/供給照会プログラム(P4021)が使用されます。

4. 検証する許容ロット状況グループの入力

検証する許容ロット状況グループを入力します。受注オーダーの処理中、ブランクでないロット状況コードが、ユーザー定義の状況コード値に対して検証されます。ブランクでない状況コードが許容ロット状況テーブル(F41081)に存在する場合、ユーザー定義のロット許容コードはブランクとして扱われ、保留品目はピッキング・リストの印刷、出荷確認、倉庫保管場所の選択へと処理が続行されます。

通貨

この処理オプションでは、許容率、仮定金額の通貨コード、および仮定金額の為替レートを処理する際に使用する基準日についての情報を指定します。

1. 許容限度

多通貨オーダーに対する許容限度を指定します。金額の変動が為替レート・テーブル(F0015)と比較した場合の許容率を超えないことが保証されます。スポット・レートを有効にするオプションをF0015テーブルに設定している場合、オーダーの入力中に為替レートの一時変更を手作業で入力できます。入力した通貨レートがこの許容限度の範囲外になると、警告が表示されます。

2. 通貨コード

トランザクションを表示するときの通貨コードを入力します。

これにより、取引の当初入力時の通貨以外の国内通貨または外貨で金額を表示できます。値は次のとおりです。

ブランク: 入力された時点の通貨で仮定金額が表示されます。仮定通貨建ての金額は一時メモリーに保存され、テーブルには書き込まれません。

1: 仮定通貨レートを表示します。

3. 基準日

仮定の「通貨コード」処理オプションの基準日を指定します。この日付を使用してF0015テーブルから為替レートが取得されます。「通貨コード」処理オプションで通貨コードを指定し、この処理オプションをブランクにすると、システム日付が使用されます。国内通貨/外貨と仮定通貨との有効な為替レート(基準日時点)がF0015テーブルに保存されている必要があります。

処理

この処理オプションでは、受注オーダー入力プログラムで次の処理を実行するかどうかを制御します。

- 処理のある過程を終了したオーダーへの変更を許可する。
- サブシステム処理を有効にする。

- ・「受注オーダー見出し」フォームを「受注オーダー明細の改訂」フォームより先に表示する。
- ・オーダーが作成される前に、オーダーの内容を検討するようプロンプトを出す。
- ・自動価格再設定により、オーダー合計を再計算する。
- ・販売先または出荷先住所に基づいてオーダー・テンプレート処理をアクティブにする。
- ・既存の契約、一括オーダーおよび見積オーダーに対してオーダーを処理する。
- ・指定した割増しを単位原価や単価に適用するかどうかを指示する。

1. 変更に対する状況コードの限度

オーダー明細行を変更不可にする状況を示す値をUDC 00/ATから入力します。状況コードの限界が存在するバージョンの受注オーダー入力プログラム(P4210)にオーダーを入力する場合、この状況より後の状況を持つ明細は照会および変更できなくなります。

状況コードの限度が設定されていないバージョンのP4210にオーダーを入力し、この処理オプションを無効化した別のバージョンで再照会を行うと、状況を問わずオーダーを変更できます。

オーダー・タイプと行タイプの組合せに基づいて、オーダー処理規則で設定された状況を指定する必要があります。

2. サブシステム処理

サブシステムを使用するかどうかを指定します。サブシステム処理を使用すると、標準のシステム処理をバイパスできます。サブシステム処理は、たとえばオーダー入力の直後にピッキング・リストや請求書の印刷を行う場合に使用できます。値は次のとおりです。

1: サブシステムはピッキング・リストの印刷処理を実行します。P4210の処理オプションの「バージョン」タブで、サブシステムでのピッキング・リスト印刷プログラム(R42520)の処理オプションに、対応するバージョンを指定しておく必要があります。

2: サブシステムは請求書の印刷処理を実行します。P4210の処理オプションの「バージョン」タブで、請求書の印刷プログラム(P42565)の処理オプションに、対応するバージョンを指定しておく必要があります。

3: サブシステムは引当処理を実行しますが、オーダーが完了するまでは在庫は引き当てられません。オーダーの承認後、別のオーダーの入力時にサブシステムのバッチ・プログラムによってオーダーは処理されます。

4: オンライン引当処理を実行します。オーダー明細行は非同期では処理されません。オーダーの入力後、完了したオーダーの引当が処理されます。この後、別のオーダーを入力できるようになります。これにより、オーダーの各明細行の引当可能数量が処理される際、在庫引当プログラム(R42997)を使用してオンライン引当を検討できるようになります。

5: サブシステムはオフライン処理モードでオーダーの入力と処理を実行します。P4210処理オプションの「バージョン」タブで、適切なバージョンの受注オーダー・バッチ・トランザクション・エディタ・プログラム(R4210Z)を指定する必要もあります。

3. 見出しまたは明細の表示

オーダーの追加時に、「受注オーダー見出し」フォームと「受注オーダー明細の改訂」フォームのどちらを先に表示するかを指定します。明細情報の前に見出し情報を入力して、オーダーに反映するデフォルト情報を編集できます。値は次のとおりです。

ブランク: 「受注オーダー明細の改訂」フォームを先に表示します。明細情報フォームに入力した販売先と出荷先の住所に設定した事業所と顧客の情報に基づいて、オーダー見出しレコードが作成されます。必要で

あれば、「受注オーダー見出し」フォームにアクセスしてデフォルト情報を一時変更できます。

1: 「受注オーダー見出し」フォームを先に表示します。販売先および出荷先住所に入力される請求指示、納期、支払条件などのデフォルト情報を検討、または一時変更できます。

4. オーダーの自動価格再設定

オーダー合計の再計算に自動オーダー価格再設定を使用するかどうかを指定します。品目と数量が評価され、オーダー全体に基づいて調整が行われます。値は次のとおりです。

ブランク: 自動オーダー価格再設定を使用しません。

1: オーダー合計の再計算に自動オーダー価格再設定を使用します。P4210処理オプションの「バージョン」タブで指定したバージョンのオーダー・レベル/バスケット・レベル価格プログラム(R42750)が使用されます。JD Edwards EnterpriseOne価格管理を使用する場合は、オーダー・レベル/バスケット・レベル価格プログラムのバージョンを入力する必要があります。

5. 受入前のプロンプト

受注オーダー明細テーブル(F4211)にレコードを作成する前に、オーダーを検討するためのプロンプトを表示するかどうかを指定します。検討を行うと、オーダーの入力や変更を正確に実行できます。値は次のとおりです。

ブランク: オーダーを検討するプロンプトは表示されません。「OK」をクリックするとF4211テーブルにレコードが作成されます。

1: F4211テーブルにレコードが作成される前に、オーダーを検討するためにオーダー、オーダー合計、税額、適用する値引が表示されます。「受注オーダー明細の改訂」フォームに戻って変更を行うこともできます。「フォーム」メニューのオプションを選択してオーダーを承認するまでは、F4211テーブルにレコードは作成されません。

注意: 承認前のプロンプト表示は、受注オーダー入力プログラム(P4210)のみに適用されます。カスタマ・サービス担当者受注オーダー入力プログラム(P42101)にはオンラインのオーダー集計が含まれており、承認前のプロンプト表示プログラム(P42232)は使用されません。

6. オーダー・テンプレート処理

オーダーの入力中に使用するテンプレートを指定します。テンプレートには、頻繁に発注される品目の情報が含まれます。オーダー入力処理のスピード化を図るために、オーダー・テンプレートを作成して割り当てます。値は次のとおりです。

ブランク: オーダー・テンプレート処理を使用しません。

1: 「顧客請求指示」フォームの販売先住所に割り当てたオーダー・テンプレートを表示します。

2: 「顧客請求指示」フォームの出荷先住所に割り当てたオーダー・テンプレートを表示します。

顧客テンプレートは、顧客テンプレートの再作成プログラム(R42815)のオーダー実績に基づいて作成できます。または、顧客テンプレートの改訂プログラム(P4015)を使用することでも顧客用のテンプレートを作成できます。「顧客請求指示」フォームの販売先住所と出荷先住所にオーダー・テンプレートを割り当てます。

7. 一括/見積オーダー処理

一括オーダー、または見積オーダーに対して受注オーダーを処理するかどうかを指定します。見積オーダーは、顧客から価格の問合せを受けているが、まだ受注オーダーが未確定の場合に使用します。一括オーダーは、顧客が一定量の品目を一定期間にわたって買い付けることに合意した場合に使用します。

一括オーダーまたは見積オーダー処理を使用すると、該当する一括オーダーまたは見積オーダーが検索され、見つかったオーダーから、数量を分割する場合には複数の受注オーダーを、全数量をリリースする場合には単一の受注オーダーを作成できます。値は次のとおりです。

ブランク: 一括オーダーまたは見積オーダー処理を使用しません。

- 1: 出荷先住所に基づいて一括/見積オーダーが処理されます。
- 2: 販売先住所に基づいて一括/見積オーダーが処理されます。
- 3: 販売先住所と顧客購買オーダーに基づいて一括/見積オーダーが処理されます。
- 4: 出荷先住所と顧客購買オーダーに基づいて一括/見積オーダーが処理されます。
- 5: 配送先住所に基づいて一括/見積オーダーが処理されます。
- 6: 配送先住所と顧客購買オーダーに基づいて一括/見積オーダーが処理されます。

販売先住所または出荷先住所に対して複数の一括または見積オーダーを作成できます。明細行を入力すると、ロー見出しとカラムに一括または見積オーダーが存在することを示すチェック・マークが表示されます。

「一括オーダー・リリース」フォームで一括または見積オーダーを表示して、関連受注オーダーを作成できる適切なオーダーを選択します。

8. 契約処理

受注オーダーに対する契約をオラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 契約管理システムで処理するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 契約処理を使用しません。

- 1: 使用可能なすべての契約が検索され、受注オーダーが契約に自動的に割り当てられます。
- 2: 使用可能なすべての契約が検索され、複数の契約が存在することを示すチェック・マークがロー見出しとカラムに表示されます。基準に合致する契約が契約選択ウィンドウに表示されます。
- 3: 使用可能なすべての契約が検索され、受注オーダーが終了日付の最も早い契約に自動的に割り当てられます。

受注オーダーを入力すると、次の基準に合う契約が選択されます。

- 受注オーダーと契約の品目は同じである必要があります。
- 契約の荷受先の値は P (パートナ) である必要があります。これはこの製品と契約について製品の荷受先がパートナであることを示します。
- 受注オーダーの販売先または出荷先の値は、契約の出荷先と同じである必要があります。
- 受注オーダーの事業所明細またはその事業主は、契約の出荷元である必要があります。
- 受注オーダーの日付は、契約の有効日範囲内です。

- 数量制御が有効な契約では、受注オーダーの数量は契約が選択される前に充足される残数を超えることはありません。

- 9. カスタマ・セルフサービス** 標準のオーダー入力モードまたはカスタマ・セルフサービス・モードのどちらでオーダーを作成するかを指定します。カスタマ・セルフサービス・モードを選択すると、受注オーダー入力プログラム (P4210) を使用してオーダーを作成する前に、複数のアプリケーションから品目を選択できます。この機能は、カスタマ・セルフサービス環境でオーダーを入力する場合に使用できます。値は次のとおりです。
- 空白: カスタマ・セルフサービスを使用しません。
- 1: カスタマ・セルフサービスを使用します。
- 10. 原価または基本価格の割増** 原価または価格に割増しを適用するかどうかを指定します。事業所間での原価割増しは、事業所間受注オーダーまたは受注転送オーダーと関連する追加原価の設定に使用します。転送価格は、供給事業所が品目を入荷事業所に販売するときの金額です。値は次のとおりです。
- 空白: 追加の原価を適用せずに、F4105テーブルに定義されている原価を取り込みます。
- 1: コンフィギュレータ事業所割増プログラム (P3403) から割増しを取り込み、割増し分も含めて転送価格を再計算します。この割増しは在庫原価に適用されます。
- 2: F4106テーブルに定義される、供給事業所によって設定される基本価格を適用します。
- 11. シップ・アンド・デビット処理** シップ・アンド・デビット契約の識別と調整に、割当/再計算/再割当契約プログラム (R45100) のサブシステム処理とバッチ処理のどちらを使用するかを指定します。値は次のとおりです。
- 空白: サブシステム処理もバッチ処理も使用しません。
- 1: サブシステム処理を使用します。
- 2: バッチ処理を使用します。
- 12. デフォルトの無償品に対する警告** デフォルトで無償の商品で、すでに提供済の商品をユーザーが選択した場合に警告を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- 空白: 警告を表示しません。
- 1: 警告を表示します。
- 13. 販売高トランザクションの累計の調整** クレジット・オーダーの入力時に、販売高トランザクション集計テーブル (F4078) および販売高トランザクション明細テーブル (F4079) の累計値を再調整するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- 空白: 調整しません。
- 1: 累計値を再調整します。
- 14. 顧客セグメント品目** 「顧客セグメント品目」フォームを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- 空白: 「顧客セグメント品目」フォームを表示しません。
- 1: 「顧客セグメント品目」フォームを表示します。

15. 昇順日付規則チェックの警告/エラー表示

受注オーダーの入力時に、出荷日付の昇順規則チェックに失敗した場合に警告メッセージまたはエラー・メッセージのどちらを表示するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 警告を表示します。

1: エラー・メッセージを表示します。

顧客または品目に昇順規則が定義されている場合、受注オーダーの入力中にロットと保管場所が指定されると、昇順日付規則チェックが実行されます。

16. 複数一括オーダーのデフォルト選択

複数の一括オーダーが存在する場合、選択された一括オーダーのリリースを手作業で行うか、自動で行うかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 複数の一括オーダーが存在する場合、一括オーダーをリリースしません。一括オーダーは手作業で選択してリリースする必要があります。

1: 最も早い取消日付で一括オーダーを選択してリリースします。複数の一括オーダーの取消日付が同じになる場合は、リリースは最も早い要求日付に基づいて処理されます。

17. 単一括オーダーのデフォルト選択

一致する一括オーダーが1つだけ存在する場合、選択された一括オーダーのリリースを手作業で行うか、自動で行うかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 一括オーダーをリリースします。

1: 一括オーダーをリリースしません。一括オーダーは手作業で選択してリリースする必要があります。

18. キットの受注一括リリース・ウィンドウの表示

キットの親品目を受注オーダーに追加する場合に、リリース可能な一括オーダーを自動的に表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 「一括オーダー・リリース」フォームを表示しません。

1: キットの親品目の一括オーダーが存在する場合に「一括オーダー・リリース」フォームを表示します。

注意: また、「複数一括オーダーのデフォルト選択」処理オプションと「単一括オーダーのデフォルト選択」処理オプションの設定によって、キットの親品目の一括オーダーをどのように処理するかが決まります。

相互参照

この処理オプションでは、代替、補足、置換、関連品目の相互参照タイプを指定します。相互参照情報は品目相互参照プログラム (P4104) で作成します。相互参照により、自社品目が他の自社品目番号や、外部からの内部品目番号と関連付けられます。

1. 代替品目

代替品目の相互参照情報の検索に使用する値をUDC 41/DTから入力します。代替品目は、当初の品目の手持在庫が不足している場合にかわりに販売する商品です。品目相互参照の改訂プログラムでのコードは一般的にSです。代替品目は「顧客請求指示」フォームで顧客が代替品目を承認している場合のみ使用できます。

代替品目がある場合、ロー見出しとカラムにチェック・マークが表示されます。オプションとして、「代替/補足品目」フォームにアクセスして、当初の品

目の代替品目を販売することもできます。代替品目の数量を入力すると、代替品目の情報による2行目のオーダー明細行が作成されます。

2. 補足品目

補足品目の相互参照情報の検索に使用する値をUDC 41/DTから入力します。補足品目は、販売対象として推奨する追加の品目です。補足品目は無償品ではなく、当初の品目に追加して販売されるものです。品目相互参照の改訂プログラムでのコードは一般的にCです。

補足品目がある場合、ロー見出しとカラムにチェック・マークが表示されます。オプションとして、「代替/補足品目」フォームにアクセスして、当初の品目とともに補足品目を販売することもできます。補足品目の数量を入力すると、補足品目の情報による2行目のオーダー明細行が作成されます。

3. 置換品目

置換品目の相互参照情報の検索に使用する値をUDC 41/DTから入力します。置換品目は、自社または仕入先が品目の販売を中止する場合に当初の品目のかわりに販売される商品です。通常、品目相互参照の改訂プログラムでの置換品目のコードはRです。置換の相互参照を作成できるのは、「品目マスター」フォームまたは「品目事業所」フォームの「在庫タイプ」フィールドがO(旧品目)またはU(消耗品)の品目のみです。

4. 代替品目の価格設定

代替商品を販売するときに取り込む価格を指定します。代替品目は、当初の品目の引当可能数量が不足している際にかわりに販売する商品です。品目を代替した場合、顧客に対するその品目の価格を当初のオーダーから変更するか、または代替品目用に設定した価格を使用できます。値は次のとおりです。

ブランク: 品目基本価格テーブル(F4106)に定義されている当初の品目の価格を使用します。

1: F4106テーブルに定義されている代替品目の価格を取り込みます。

5. 販促品

販促品の相互参照情報の検索に使用する値をUDC 41/DTから入力します。販促品は、当初の品目のかわりに提供される商品です。品目相互参照の改訂プログラムでのコードは一般的にPです。

バージョン

この処理オプションでは、「受注オーダー見出し」または「受注オーダー明細」フォームの「ロー」または「フォーム」メニューで関連するオプションを選択するときに使用するバージョンを指定します。

バージョンごとにプログラムの情報の表示および処理方法が異なります。組織の必要に応じて、処理オプションで特定のバージョンを設定する必要があります。

1. サブシステムでのピッキング・リスト印刷(R42520)

オーダーの入力後サブシステムによってピッキング・リストの処理に使用されるピッキング・リストの印刷プログラム(R42520)のバージョンを入力します。サブシステムの処理で設定されているバージョンを指定してください。

この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

2. 需要/供給照会(P4021)

引当数量と引当可能数量の検証に使用される需要/供給照会プログラム(P4021)のバージョンを入力します。

数量が引当可能でないときに自動的に「需要/供給照会」フォームが表示される場合も、手作業で「受注オーダー明細の改訂」フォームから「需要/供給照会」フォームにアクセスする場合も、このバージョンが呼び出されます。

この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

3. 受注残および完了オーダー照会からのピックアップ・リストのオンデマンド印刷 (R42520)

数量が引当可能でない場合に「需要/供給照会」フォームを自動的に表示するには、「引当て」タブの「需要/供給の照会フォームの表示」処理オプションを選択します。

「受注残/完了オーダー照会」フォームからアクセスするピックアップ・リストのオン・デマンド印刷プログラム (R42520) のバージョンを入力します。

この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0003が使用されます。

4. 標準オーダー/バスケット価格管理 (R42750)

オーダー合計の計算に使用される標準オーダー/バスケット価格管理プログラム (R42750) のバージョンを入力します。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理を使用する場合は、R42750プログラムのバージョンを入力する必要があります。

この処理オプションを空白にした場合、「処理」タブで「自動オーダー価格再設定」処理オプションをオーダーの自動価格再設定に設定していると、バージョンZJDE0001が使用されます。

5. オンライン請求書照会 (P42230)

請求情報の表示に使用されるオンライン請求書照会プログラム (P42230) のバージョンを入力します。

この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

受注オーダー番号によって照会を行う場合、売上更新が実行されていない未処理の行が表示されます。請求書番号によって照会を行うと、請求書の印刷 (R42565) または売上更新 (R42800) のどちらかのプログラムによって請求書番号が割当済の行のみが表示されます。

6. 優先プロファイル (R40400)

「優先情報選択」フォームで有効になっている優先情報に基づいてオーダーを処理するために使用される優先プロファイル・プログラム (R40400) のバージョンを入力します。

この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

7. 価格/引当可能数量チェック (P41261)

価格調整情報の取込みに使用する価格/引当可能数量チェック・プログラム (P41261) のバージョンを入力します。価格調整の設定でJD Edwards EnterpriseOne価格管理システムを使用しない場合は、価格/引当可能数量の標準チェック・プログラム (P41261) のバージョンを入力する必要があります。JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムを使用して上級価格調整を設定する場合は、価格/引当可能数量の詳細チェック・プログラム (P4074) のバージョンを入力する必要があります。

この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

8. 購買オーダー入力 (P4310)

関連する直送オーダーおよび転送オーダーの作成に使用する購買オーダー入力プログラム (P4310) のバージョンを入力します。P4310プログラムの処理オプションで設定されるデフォルトの情報はすべてが使用されるとは限りません。たとえば、関連購買オーダーが作成されるときに、オーダーが事業所間オーダーで行の在庫タイプが非在庫の場合、デフォルトの購買オーダー行タイプは受注オーダー行タイプによって一時変更されます。

この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

- 9. 販売履歴照会 (P42025)** 前回のオーダーからクレジット・オーダーを作成するために使用される販売履歴照会プログラム (P42025) のバージョンを入力します。
オーダー情報は F42199 テーブルから取り込まれます。
この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。
- 10. 部品表照会 (P30200)** キットに関連するすべてのフィーチャとオプションに関する情報を取り込むために使用される部品表照会プログラム (P30200) のバージョンを入力します。流通管理システムでは、品目グループを検索して組み立てるために部品表が使用されます。
この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。
- 11. 作業オーダー入力 (P48013)** 作業オーダーの作成に使用する作業オーダー入力プログラム (P4801) のバージョンを入力します。行タイプを W1 にして受注オーダーを入力すると、JD Edwards EnterpriseOne 製造管理システムに自動的に作業オーダーが生成されます。
この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。
- 12. 請求書印刷 (R42565)** サブシステムを介して請求書を印刷する際の請求書印刷プログラム (R42565) のサブシステム・バージョンを入力します。請求書を印刷して R42565 プログラムのバージョンを指定するには、「処理」タブのサブシステム処理オプションの処理オプションを有効にする必要があります。
- 13. オンライン/サブシステム引当て (R42997)** オンラインまたはサブシステム引当てで使用するオンライン/サブシステム引当てプログラム (R42997) のバージョンを入力します。「処理」タブで、オンライン引当てまたはサブシステム引当てのサブシステム処理オプションを設定し、対応する引当てプログラムのバージョンを指定します。
この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。
- 14. コンフィギュレーション品目 (P3210)** コンフィギュレーション品目のオーダーを入力するときに使用されるコンフィギュレーション品目の改訂プログラム (P3210) のバージョンを入力します。
この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。
- 15. 受注オーダー・バッチ・トランザクション・エディタ (R4210Z)** オフライン環境で受注オーダーの入力時に使用される受注オーダー・バッチ・トランザクション・エディタ・プログラム (R4210Z) のバージョンを入力します。
この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。
- 16. 与信チェック (P42050)** 与信チェック・プログラム (P42050) のバージョンを入力します。
この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。
- 17. 出荷処理 (P4915)** 出荷処理プログラム (P4915) のバージョンを入力します。
この処理オプションを空白にすると、ZJDE0001 が使用されます。
- 18. 顧客マスター (P03013)** 「フォーム」メニューの「売掛金」を選択したときに使用される顧客マスター・プログラム (P03013) のバージョンを入力します。

- この処理オプションを空白にすると、ZJDE0001が使用されます。
- 19. シップ・アンド・デビット (R45100)** シップ・アンド・デビット契約の識別と調整に使用されるシップ・アンド・デビット・プログラム (R45100) のバージョンを指定します。
- 20. 販売高レベル調整の適用 (R45900)** システムで使用する販売高レベル調整の再適用プログラム (R45900) のバージョンを入力します。
- 21. 自動文書生成 (P90CA24)** 文書の自動生成中に使用される生成伝票の改訂プログラム (P90CA24) のバージョンを入力します。
- この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。
- 22. 顧客セグメント品目 (P42440)** 受注オーダー入力プログラム (P4210) に顧客セグメント品目を表示するために使用される顧客セグメント品目プログラム (P42440) のバージョンを入力します。
- この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。
- このフォームが表示されるのは、「処理」タブの「顧客セグメント品目のプロンプト表示」処理オプションが設定されている場合のみです。
- 23. プロダクト・バリエーション (P41902)** 受注オーダー入力プログラム (P4210) から使用可能なマトリックス・オーダー入力プログラム (P41902) のバージョンを入力します。
- この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。
- 24. オーダー処理 (R31410)** システムが使用するオーダー処理プログラム (R31410) のバージョンを入力します。
- この処理オプションを空白にすると、バージョンXJDE0007が使用されます。
- 25. 製品カタログ (P90CA106)** システムが使用する製品カタログ・プログラム (P90CA106) のバージョンを入力します。
- この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。
- 26. 受注オーダーのスコア再算出 (R4277702)** 将来使用されます。
- 27. 委託販売のレポート (P4131)** 将来使用されます。

優先

この処理オプションでは、P4210プログラムのこのバージョンで、優先プロファイル処理が有効かどうかを指定します。優先情報は、顧客や品目、顧客（販売先や出荷先または親住所）と顧客グループ、品目、品目グループの組合せについて定義する情報のことです。優先情報により、オーダー入力時に通常使用される顧客および品目の設定情報が一時変更されます。

優先情報を処理するためには、P4210プログラムの処理オプションを2つ設定する必要があります。1つは、「優先」タブの「優先プロファイル処理」フィールドに「1」を入力します。もう1つは、「バージョン」タブの「優先プロファイル (R40400)」フィールドに、実行する優先情報が選択されるように設定したプログラムのバージョンを指定します。

1. 優先プロファイル処理

優先プロファイル処理を使用するかどうかを指定します。優先プロファイル処理を使用する場合は、オーダー入力プログラムのすべてのバージョンで優先プロファイル処理を使用する必要があります。値は次のとおりです。

ブランク: 優先プロファイル処理を使用しません。

1: 優先プロファイル処理を使用します。この処理オプションを有効にした後、「バージョン」タブでR40400プログラムのバージョンを指定します。指定したバージョンのR40400プログラムで、実行する処理オプションの優先情報を選択します。

優先情報選択には、在庫引当と印刷メッセージの優先情報は含まれません。

2. 在庫引当での優先プロファイル処理

他の優先情報処理とは別に、在庫引当優先情報を使用するかどうかを指定します。顧客/顧客グループ、品目/品目グループに基づき、各オーダー行に対する充当が1つ以上の事業所から行われるよう指定するために在庫引当を使用します。製品が出荷される事業所の指定、事業所で数量が充当される前に事業所に存在する必要があるオーダーのパーセントの決定、または受注オーダー明細行の運送モードと運送業者情報の指定が可能です。値は次のとおりです。

ブランク: 在庫引当優先情報を使用しません。

1: 現行のオーダーに対してのみ在庫引当優先情報処理を使用します。在庫引当優先情報の処理は、見出し事業所の引当ウィンドウ内にあるオーダーに対してのみ実行されます。見出し事業所のウィンドウ外にあるオーダーは、見出し事業所に将来引き当てられます。

2: すべてのオーダー（現行および将来）に対して在庫引当優先情報処理を使用します。在庫引当優先情報の処理は、見出し事業所の引当ウィンドウに関係なく、すべてのオーダーに対して実行されます。

3. 上級優先スケジュールの一時変更

詳細優先情報の一時変更スケジュールを入力します。この処理オプションは、詳細優先情報機能を使用しており、事業所固定情報プログラム(P41001)で定義されているデフォルトの優先情報スケジュールのかわりに、システムで使用される優先情報スケジュールの一時変更を指定する場合にのみ使用します。詳細優先情報を使用している場合は、このスケジュールによって優先情報処理が制御されます。

注意: 優先情報スケジュールは、詳細優先情報スケジュールの改訂プログラム(P4070)でのみ変更可能です。このプログラムには「詳細優先情報」メニュー(G40311)からアクセスできます。

転送

この処理オプションでは、P4210プログラムのこのバージョンで、転送オーダー処理が有効かどうかを指定します。転送オーダーは、社内の事業所間の在庫移動と、適正在庫数量を維持するために使用します。

1. 転送オーダー入力の使用

転送オーダー入力 that 有効かどうかを指定します。転送オーダーを入力する場合は、転送元事業所と転送先事業所の他に、関連する購買オーダーも入力する必要があります。値は次のとおりです。

ブランク: 転送オーダー情報を処理しません。

1: 転送元および転送先事業所をはじめ、購買オーダー番号、陸揚費用規則、および受注オーダーと購買オーダーの為替レートなどの購買オーダー情報を入力する「転送オーダー入力」フォームを表示します。「バージョン」

タブで指定した購買オーダー入力プログラム(P4310)のバージョンに基づいて、購買オーダーが自動的に作成されます。

2. 課税対象受注/購買オーダー

受注オーダーおよび購買オーダーを課税対象にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 顧客マスターから税目コードと税率および税域を取り込みます。直送オーダーや転送オーダー、代替販売先住所と代替出荷先住所のある受注オーダーの場合、税目コードは販売先住所から、税率および税域はシステムの設定に基づいて出荷先または配送先住所からそれぞれ取り込まれます。この税率は一時変更が可能です。

1: 事業所品目プログラムで設定された販売時課税対象オプションまたは購買時課税対象オプションを参照しません。

3. 必須陸揚費用

関連購買オーダーに陸揚費用が必要かどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 陸揚費用を必須としません。

1: オーダー入力の前に陸揚費用の入力が必要です。陸揚費用を入力しないと、エラー・メッセージが表示されます。

オーダー照会

この処理オプションでは、「受注残/完了オーダー照会」フォームでのオーダーの検索方法を指定します。

注意: このタブにある処理オプションは、受注オーダー入力プログラム(P4210)のみに適用されます。カスタマ・サービス担当者受注オーダー入力プログラム(P42101)を使用する場合は、P42101プログラムの「オーダー照会」タブにある処理オプションを設定する必要があります。

1. 開始状況

オーダー処理の現行の状況を示す値をUDC 40/ATから入力します。

使用中のオーダー・タイプと行タイプに基づいてオーダー処理規則で設定されたコードを指定する必要があります。

開始状況と終了状況の組合せは、オーダー処理規則テーブル(F40203)の前状況と次状況の有効な組合せになっている必要があります。

オーダーの照会中、開始状況と終了状況の範囲外にあるオーダーは表示されません。

2. 終了状況

オーダー処理の次のステップを示す値をUDC 40/ATから入力します。使用中のオーダー・タイプと行タイプに基づいてオーダー処理規則で設定されたコードを指定する必要があります。

開始状況と終了状況の組合せは、F40203テーブルの前状況と次状況の有効な組合せになっている必要があります。

オーダーの照会中、開始状況と終了状況の範囲外にあるオーダーは表示されません。

3. 前状況または次状況の検索

このフォームに表示する情報を選択するために使用される状況コードを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: この範囲に当てはまる前状況を持つすべてのオーダーを表示します。

1: この範囲に当てはまる次状況を持つすべてのオーダーを表示します。

4. 日付範囲

オーダー検索時の日付の値を指定します。値は次のとおりです。

- 1: オーダー入力日付に基づいてオーダーを検索します。
- 2: オーダー入力時に表示された約束出荷日付に基づいてオーダーを検索します。
- 3: オーダー入力時に表示された当初約束日付に基づいてオーダーを検索します。
- 4: オーダーの出荷が確認された日付に基づいてオーダーが検索されます。出荷確認プログラム(P4205)を使用して処理されたオーダーのみが検索されます。
- 5: 顧客への請求書が印刷された日付に基づいてオーダーを検索します。請求書印刷(R42565)プログラムまたは売上更新(R42800)プログラムで処理され、請求書番号が割り当てられたオーダーのみが検索されます。
- 6: オーダー入力時にメモ用の取消フィールドに入力した日付に基づいてオーダーが検索されます。
- 7: 元帳日付に基づいてオーダーを検索します。R42800プログラムで処理されたオーダーのみが検索されます。
- 8: オーダー入力時に約束納入日付として入力された日付に基づいてオーダーを検索します。

5. テキスト行の表示

テキスト行を表示するかどうかを指定します。

テキスト行は、行タイプTのオーダー明細行で、メモ専用の情報を含むコードが行タイプ固定情報プログラム(P40205)にあります。

オーダーを照会するときに、テキスト行の情報の確認が必要になる場合があります。値は次のとおりです。

ブランク: テキスト行を表示しません。オーダー入力時にテキスト行を作成すると、そのテキスト行は受注オーダー明細テーブル(F4211)に記録されます。

- 1: テキスト行を表示します。

6. バックオーダー行/取消行の表示

オーダーの照会時に、バックオーダー行または取消行を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

- 1: バックオーダー行を表示します。
- 2: 取消行を表示します。
- 3: バックオーダー行と取消行の両方を表示します。

ブランクまたは4: バックオーダー行と取消行の両方を表示しません。

7. 顧客相互参照タイプ

顧客品目番号を使用して相互参照情報を検索するためのコードを示す値をUDC 41/DTから入力します。相互参照により、自社の品目番号と顧客の品目番号が関連付けられます。品目マスター・プログラム(P4101)に品目を設定して、品目相互参照の改訂プログラム(P4104)で相互参照情報を作成します。

倉庫

この処理オプションは、JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理システムとあわせて使用されます。JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理システムを使用すると、ピッキングの要求処理モードと、保管場所選択ドライバ・プログラム(R46171)のバージョンを指定できます。

1. 要求処理モード

JD Edwards EnterpriseOne 倉庫管理システムでピッキング要求を作成するかどうかを指定します。

JD Edwards EnterpriseOne 倉庫管理を使用すると、ピッキング要求を作成し、サブシステムを使用してこの要求を処理できます。ピッキング要求は、オーダーに対して特定の保管場所から在庫をピッキングするように提示する処理に使用されます。値は次のとおりです。

ブランク: ピッキング要求を生成しません。

1: 要求のみを作成します。

2: サブシステムを使用して要求を生成しピッキング要求を作成します。

2. サブシステムでのピッキング要求印刷

サブシステムを使用して倉庫管理のピッキング要求を生成するかどうかを指定します。サブシステム処理に設定されたピッキング要求の印刷プログラム (P46171) のバージョンを指定します。

3. 一時変更用次状況

オーダー処理の代替ステップを識別する値をUDC 40/ATから入力します。使用中のオーダー・タイプと行タイプに基づいてオーダー処理規則で設定されたコードを指定する必要があります。開始状況と一時変更状況の組合せは、F40203テーブルの前状況と次状況の有効な組合せになっている必要があります。

オフライン処理

この処理オプションを使用して、オーダー入力のモードを指定します。

注意: このタブにある処理オプションは、受注オーダー入力プログラム (P4210) のみに適用されます。

UDC 42/POに特殊取扱コード1が設定されている場合、編集モードに関係なく優先情報処理が実行されます。

1. モード

オーダーをオフライン処理環境で入力するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

- ブランク: 受注オーダー入力モードを使用します。

在庫引当と優先情報処理が実行され、オーダー情報がマスター・テーブルに対して検証されます。

- 1: 部分編集オフライン処理モードを使用します。

優先情報処理または在庫引当は実行されません。必要な受注オーダー処理のみが実行されます。

- 2: 完全編集オフライン処理モードを使用します。

優先情報処理または在庫引当は実行されませんが、オーダー処理は実行されます。

- 3: 価格のみオフライン処理モードを使用します。

価格設定に必要な情報だけが処理されます。

ワークフロー

この処理オプションを使用して、ワークフローの処理方法を指定します。

- | | |
|------------------------------|--|
| 1. 作業オーダー計画担当者への電子メール | <p>作業オーダーの担当者に電子メールを送信するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>blank: 電子メールを送信しません。</p> <p>1: 電子メールを送信します。</p> |
| 2. 受注オーダー入力のワークフロー | <p>受注オーダー入力のワークフロー処理 (JDESOENTRY) をこのバージョンの P4210 プログラムで使用するかどうかを指定します。特定バージョンの JDESOENTRY は、プロセス・マスター・プログラム (P98800) によって有効にする必要があります。値は次のとおりです。</p> <p>blank: ワークフローを有効にしません。</p> <p>1: ワークフローを有効にします。</p> |

複数

この処理オプションを使用して、複数スケジュールの処理方法を指定します。

注意: このタブにある処理オプションは、受注オーダー入力プログラム (P4210) のみに適用されます。

- | | |
|--------------------------|--|
| 1. 複数スケジュール | <p>複数のスケジュールを有効にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>blank: 複数スケジュールをバイパスします。</p> <p>1: 複数スケジュールを有効にします。</p> |
| 2. スケジュール行 (将来使用) | <p>行タイプの検索コードを入力します。</p> |

事業所間

この処理オプションでは、事業所間オーダーのオーダー・タイプを指定します。事業所間オーダーは、販売元でない別の事業所から顧客のオーダーの充当に使用できます。このオーダーは販売元と出荷事業所 (中央供給倉庫など) が異なる場合に役立ちます。会社間オーダーとは、供給事業所と販売事業所間のトランザクションをトラッキングするオーダーのことです。

- | | |
|------------------------|--|
| 1. 会社間請求書 | <p>会社間請求書を作成するかどうかを指定します。会社間オーダーとは、供給事業所と販売事業所間のトランザクションをトラッキングするオーダーのことです。事業所間オーダーが顧客に対する受注オーダーであるのに対して、会社間オーダーは顧客の受注オーダーを充当するために供給事業所に行う購買オーダーです。値は次のとおりです。</p> <p>blank: 会社間請求書を作成しません。</p> <p>1: 会社間請求書を作成します。</p> |
| 2. 事業所間オーダー・タイプ | <p>事業所間オーダーのオーダー・タイプを示す値を UDC 00/DT から入力します。</p> <p>句読点や空白で区切らずに、複数のコードを入力します。すべての事業所間オーダーを正確に更新するには、売上更新プログラム (R42800) の「事業所間」タブの「事業所間オーダー・タイプ」処理オプションにすべての事業所間オーダーのオーダー・タイプを入力することも必要です。</p> |

インタオペラビリティ

この処理オプションでは、トランザクションを変更する前にトランザクション情報をキャプチャするかどうか、およびエクスポート処理を実行するかどうかを制御します。

1. **トランザクション・タイプ** UDC 00/TTに定義されている有効なトランザクション・タイプを入力します。
2. **変更前/変更後トランザクション処理** インタオペラビリティ消費の変更前/変更後トランザクション・レコードを書き込むか、変更後トランザクション・レコードのみを書き込むかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 変更後トランザクション・レコードのインタオペラビリティ消費データのみを書き込みます。
 1: 変更前/変更後レコードのインタオペラビリティ消費データを書き込みます。

前払

この処理オプションでは、オーダーの支払情報を記録できるかどうかを制御します。

オーダーの前払は、オーダー入力の時点で売り手が顧客から支払を受け取る際に発生します。顧客は、現金、小切手、クレジット・カードなど、様々な前払タイプを使用できます。前払を使用すると、オーダー明細行ごとにトランザクション情報が記録され、請求書に支払が示されます。

1. **前払処理** 前払処理ファイルの更新と、ユーザーの前払ウィンドウへのアクセスを許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 前払処理ファイルは更新されず、「ロー」メニューからの前払ウィンドウへのアクセスも許可されません。
 1: 前払処理ファイルの更新と、前払ウィンドウへのアクセスが可能です。
2. **承認処理** 処理方法を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 承認処理を実行しません。
 1: 承認処理を対話形式で実行します。
 2: バージョンに基づいてバッチ・モードまたはサブシステム・モードで承認処理を実行します。
3. **決済処理** 決済処理の方法を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 決済処理を実行しません。
 1: 決済処理を対話形式で実行します。
 2: バージョンに基づいてバッチ・モードまたはサブシステム・モードで決済処理を実行します。
4. **前払取引承認のバージョン** 前払取引の承認プログラム(R004201)のバージョンを入力します。
5. **前払取引決済のバージョン** 前払取引の決済プログラム(R004202)のバージョンを入力します。
6. **承認済み行** クレジット・カード処理時に承認済になったオーダー行の一時変更用次状況コードを入力します。
7. **決済済み行** クレジット・カード処理時に決済済になったオーダー行の一時変更用次状況コードを入力します。

監査ログ

この処理オプションでは、受注オーダーに対して行われた変更の監査ログを作成するかどうか、および変更の処理方法を決定します。

1. 受注オーダー変更の監査ログの使用

受注オーダーの変更に対する監査ログ処理を有効にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 監査ログ処理を有効にしません。

1: 監査ログ処理を有効にします。

注意:「顧客請求指示」フォームに定義されている「監査ログのバイパス」フィールドを使用して、この処理オプションを一時変更できます。たとえば、この処理オプションを1に設定している場合でも、受注オーダーで指定されている顧客には「監査ログのバイパス」が設定されていると、このオーダーまたはこの顧客が指定されているすべてのオーダーに対して、監査ログ処理は実行されません。

2. 受注オーダー変更の理由コード

受注オーダーの変更に対して、改訂理由コードが必要であるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 改訂理由コードは必要ありません。

1: 改訂理由コードが必要です。

3. 受注オーダー変更の承認処理

受注オーダーの変更に対して、承認処理が必要であるかどうかを指定します。

承認処理を有効にするには、「監査ログ」タブの「受注オーダー変更の監査ログの使用」処理オプションを1に設定する必要があります。しかし、「受注オーダー変更承認処理が必須」処理オプションを設定しなくても、監査ログを有効にできます。

承認処理が必要な場合、オーダーへの変更は記録されません。そのかわり、当初の値が保持され、オーダーは保留状態になります。新しい値は、承認または却下の判断が行われるまで、監査ログ・トランザクション・テーブル (F42420) 内で保留となります。新しい値がオーダーに記録されるのは、オーダーが承認された場合に限られます。値は次のとおりです。

ブランク: 承認処理は必要ありません。

1: 承認処理が必要です。

販売高アップセル

この処理オプションでは、指定した許容率に基づいて警告を表示するかどうかを決定します。

1. 許容範囲内の販売高アップセルに対する警告

提示されるアップセルの許容率を入力します。このパーセントは、次のレベル区切りに一致するために、顧客がオーダーする必要のある数量の増加に基づいています。

売上高総利益率

この処理オプションでは、売上高総利益率の価格設定を処理する方法を決定します。

1. 売上高総利益の価格設定

「受注オーダー明細の改訂」フォームの「粗利益率」カラムを有効にするかどうかを指定します。このカラムを有効にすると、売上総利益率の入力が可能になります。値は次のとおりです。

ブランク: 売上高総利益率の入力を有効にしません。

1: 売上高総利益率の入力を有効にします。

2. 一時変更する調整理由コード

調整が変更された理由を識別する値をUDC 40/ARから入力します。指定された売上総利益率を達成するために必要な金額にあわせた価格調整の計算と更新が行われる場合、売上総利益の価格調整のこの値が更新されます。この計算は受注オーダー入力プログラム (P4210) で売上利益率が手作業で変更された場合に発生します。

3. ターゲット総利益パーセントの分析/テスト

売上総利益率がターゲット総利益率優先情報の処理オプションで指定した範囲外にある場合に、警告を表示するかどうかを指定します。また、売上総利益率が定義された利益率の範囲内になく、行レベル利益率保留コードの処理オプションが設定されている場合、この処理オプションで指定されている行レベル利益率保留コードを使用してオーダーが保留されます。値は次のとおりです。

ブランク: 警告を表示しません。

1: 警告を表示します。

プロモーションID

この処理オプションでは、販促ID番号を割り当てるかどうかを決定します。

1. デフォルトのプロモーションID

プロモーションID番号が手作業で割り当てられていない受注オーダー行品目に対してプロモーションID番号を自動的に割り当てるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 販促IDを割り当てません。

1: 販促IDを割り当てます。

注意: この処理オプションを1に設定すると、プロモーション取引明細テーブル (F40P011) からプロモーションIDが割り当てられます。複数のプロモーションIDが見つかった場合は、F4009テーブルの販促ID解決固定情報フィールドの値に基づいてプロモーションIDが割り当てられます。IDの自動割当処理には時間がかかる場合があります。

納期回答

この処理オプションでは、納期回答処理を有効にするかどうかと、処理モードの決定を制御します。

1. 納期回答

オーダーの配送日付を約束するために使用される納期回答のモードを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 納期回答を使用しません。

1: 納期回答に自動回答モードを使用します。

マトリックス

この処理オプションでは、マトリックス・オーダー入力の処理中にマトリックス・ウィンドウを表示するかどうかを制御します。

1. 親在庫

マトリックス親品目での作業中に、「マトリックス・オーダー」フォームを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 「マトリックス・オーダー」フォームを表示します。

1: 「マトリックス・オーダー」フォームを表示しません。

受注オーダー見出し情報の入力

「受注オーダー見出し」フォームにアクセスします。

「受注オーダー見出し」フォーム: 「受注オーダー見出し」タブ

事業所（必須）

受注オーダーを充当する事業所コードを入力します。このフィールドに入力した値は、事業所固定情報に設定されている必要があります。

通貨

取引の通貨を識別するコードを入力します。このフィールドに入力を行わない場合は、販売先住所に関連付けられた通貨がフィールドに自動設定されます。この値が見つからない場合は、事業所の通貨コードが使用されます。この通貨コードも見つからない場合は、会社00000の関連付けられた通貨コードが使用されます。

為替レート

国内通貨金額を算出するために外貨金額に掛け合せる数字（為替レート）を入力します。このフィールドには最大で小数点以下7桁まで入力できます。これ以上の桁数を入力すると、最も近い小数点以下7桁の数値に調整されます。関連付けられた通貨コードに対する為替レートを設定している場合、このフィールドは自動的に設定されます。

基本	国内通貨に関連付けられた通貨コードを入力します。たとえば、組織がフランスにあり、業務取引にユーロを使用している場合は、ユーロの通貨コードをこのフィールドに入力します。
外貨	これを選択すると、取引金額が外貨で表示されます。このチェックボックスの選択を解除すると、取引金額は国内通貨で表示されます。
メッセージ	このオーダーに関してシステムから表示されているメッセージを見るには、フォームのこのセクションを確認します。
販売先（必須）	このオーダーの請求書が送付されるクライアント住所に対応する住所録番号を入力します。オーダーの支払責任者は、販売先の顧客です。
出荷先	このオーダーに関連した品目が送付されるクライアント住所に対応する住所録番号を入力します。出荷先の顧客がオーダーを受け取ります。
オーダー日付	オーダーが入力された日付を指定します。ブランクにすると、システム日付が使用されます。この日付によって、在庫価格設定に使用される有効レベルが決まります。
取消日付	商品が顧客に発送されない場合、または仕入先から商品が入荷しない場合に、オーダーを取り消す日付を入力します。これはメモ専用のフィールドであり、このフィールドによってなんらかの自動処理が実行されることはありません。受注オーダー行が受注オーダー入力の取消済にある場合、このフィールドは行が取り消されたときの日付で更新されます。
要求日付	顧客がオーダーの入荷を望む日付を入力します。
要求時刻	要求日付に顧客がオーダーの入荷を望む時刻を入力します。
顧客購買オーダー	通常、顧客がオーダーを行うことで提供される購買オーダー番号を入力します。これは、相互参照番号または2次参照番号として使用される英数字の値です。
印刷メッセージ	顧客の受注オーダーに印刷されるメッセージを指定するコード(UDC 40/PM)を入力します。メッセージで使用されるテキストとしては、生産設計仕様、休暇中の作業時間数、特殊配送指示などがあります。
保留コード	オーダー保留の理由を示すコード(UDC 42/HC)を入力します。
税域/コード	<p>1つ目のフィールドには、共通の税率と納税先を持つ税域または地域を示す税域コードを入力します。入力したコードは、税域テーブル(F4008)に対して検証されます。この税率/税域は、請求書または伝票を作成する際に、税目コードおよび税規則と併せて税額と元帳配賦金額の計算に使用されます。</p> <p>2つ目のフィールドには、税額や総勘定元帳の配賦金額の計算にシステムが使用するアルゴリズムを制御するハードコードされた税コード(UDC 00/EX)を入力します。この税目コードと税率/税域、税規則を組み合わせることで税計算の方法が決まります。取引支払項目ごとに異なる税目コードを指定できます。</p>
免税証明番号	顧客によって提供される、免税対象の個人または法人に対して課税当局から発行され、免税状況を識別する番号を入力します。
価格ピッキング・リスト	顧客のピッキング・リスト、購買オーダー、または受注オーダーに価格情報を印刷する場合に選択します。このチェックボックスの選択を解除すると、価格情報は印刷されません。

発注担当者 オーダーを行った顧客会社の担当者名を入力します。このフィールドは任意フィールドです。

受注担当者 この受注オーダーの入力を行った担当者を調べるには、このフィールドを確認します。

受注オーダー品目情報の入力

受注オーダーについて、見出し情報の入力後、明細行情報を入力します。明細情報の大半は他のテーブルから取り込まれるため、最小限の情報を入力するだけです。必要に応じてこれらの値を検討し変更できます。

「受注オーダー明細の改訂」フォームにアクセスします。

受注見出し - 受注オーダー明細の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

明細の改訂 行デフォルト

オーダー番号 2401 SO 00200 事業所 M30

販売先 4242 Capital System オーダー日付 2005/06/10

出荷先 4242 Capital System 顧客購買オーダー 004

通貨 USD 為替レート 基本 USD 外貨

レコード 1-9 グリッドのカスタマイズ

	オーダー 数量	単位	2次単位 数量	2次 単位	品目 No.	行 タイプ	単位 価格	合計 価格
<input type="checkbox"/>	134	EA	134	EA	220	S	650.0000	87,100
<input type="checkbox"/>	50	EA	50	EA	210	S	798.0000	39,90
<input type="checkbox"/>	80	EA	80	EA	220	S	650.0000	52,00
<input type="checkbox"/>	230	EA	230	EA	210	S	798.0000	183,54
<input type="checkbox"/>	74	EA	74	EA	220	S	650.0000	48,10
<input type="checkbox"/>	250	EA	250	EA	210	S	798.0000	199,50
<input type="checkbox"/>	60	EA	60	EA	220	S	650.0000	39,00
<input type="checkbox"/>	45	EA	45	EA	220	S	650.0000	29,25
<input type="checkbox"/>						S		

「受注オーダー明細の改訂」フォーム

オーダー数量 顧客が発注した品目の数を入力します。

単位 CS(ケース)、BX(箱)のように、表示される在庫品目のトランザクション数量単位を示すUDC(00/UM)を入力します。このフィールドをブランクにすると、品目マスターに入力された値が自動的に入力されます。

品目No. 顧客が発注する品目の英数字の識別番号を入力します。品目マスターに保存されている情報に基づいて、入力した品目の各品目行のフィールドの多くは自動的に入力されます。入力する値には、略式、明細形式、第3品目番号形式があります。

行タイプ	<p>取引行の処理方法を制御するコードを入力します。行タイプによって、トランザクションがやり取りするシステム (JD Edwards EnterpriseOne 一般会計、JD Edwards EnterpriseOne 作業原価、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理、JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理など) を設定します。また、行をレポートに印刷する場合や、行を計算に組み込む場合の条件も指定します。次のようなコードがあります。</p> <p>S: 在庫品目 J: 作業原価 N: 非在庫品目 F: 運賃 T: テキスト情報 M: その他費用 W: 作業オーダー</p>
要求日付	顧客が品目の入荷を要望した日付を入力します。
単価	この品目 1 単位に対して請求される表示価格または基本価格を確認します。受注オーダーを入力する際は、すべての価格を品目基本価格テーブル (F4106) に設定してください。この値は一時変更が可能です。
合計価格	システムによって計算された合計価格を確認します。この価格は、数量に単価を掛けて計算されます。合計金額には、バックオーダー品目は含まれません。
前状況	処理サイクル中でこのオーダー行が正常に完了した最後のステップを判断するために、このフィールドを確認します。値はUDC 40/ATに保存されています。
次状況	行タイプのオーダー・フローの次のステップを判断するために、このフィールドを確認します。値はUDC 40/ATに保存されています。
事業所	受注オーダーを充当するために品目を取り込まれる事業所コードを入力します。事業所コードは、原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードです。たとえば、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、事業体、または個人に割り当てて、管轄別のレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別の未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの設備をトラッキングできます。ビジネスユニットにセキュリティが設定されていると、権限のないユーザーにはビジネスユニットに関する情報が表示されない場合があります。
保管場所	移動する品目が保管されている場所を入力します。品目の基本保管場所が「. .」で表されるのは、品目保管場所と事業所情報の設定が正しく行われている場合です。
ロット番号	指定された品目の保管場所を決定するために使用される、ロットまたはシリアル番号を特定する番号を入力します。
行番号	購買オーダーやその他の伝票など行番号で、重複を識別するためにシステムによって割り当てられた番号を確認します。通常、この番号はシステムによって割り当てられますが、場合によってはユーザーが一時変更することもできます。

基本単位	品目の価格設定に通常使用する単位を示すUDC(00/UM)を入力します。
出荷数量	受注オーダー入力で出荷に引き当てられた数量を、入力時の単位または品目に定義された基本単位を使用して入力します。
バックオーダー数量	JD Edwards EnterpriseOne受注管理または作業オーダー処理でバックオーダーされた数量を確認します。入力時の単位か、品目に定義された基本単位を使用します。
取消数量	受注オーダーまたは作業オーダー処理で取り消された数量を確認します。入力時の単位か、品目に定義された基本単位を使用します。
単位原価	1単位当たりの金額、つまりコストの合計を単位数量で割った金額を確認します。
合計原価	システムによって計算された合計原価額を確認します。受注オーダーおよび購買オーダーの場合、この額は単価に数量を掛けて計算されます。合計原価には、バックオーダーされた品目は含まれません。
粗利益率	オーダー明細行の粗利益率を判断するためにこの値を確認します。粗利益率の計算方法: $((\text{価格} - \text{原価}) \div \text{価格}) \times 100$
輸送モード	商品を顧客に輸送する際に使用される運送業者の種類を説明するUDC(00/TM)を入力します。鉄道や陸路などです。
運送業者No.	品目の優先運送業者の住所番号を入力します。配送経路や特殊取扱などの条件を考慮して、顧客または自社が優先的に選ぶ運送業者を指定します。

次のフィールドにアクセスするには、カラムをすべて表示します。

2次単位数量	2次単位数量を表示します。2次単位数量は、オーダー済数量と、2重単位が設定されている品目用に入力された単位に基づいて計算されます。 トランザクションは、2次単位数量と単位、またはトランザクション数量と単位のいずれかを使用して入力します。
2次単位	トランザクションの2次単位を入力します。このオプションは、基本単位への換算式が定義されていない場合に、2次単位で在庫残高とトランザクションの記録を管理するかどうかを指定するために使用します。通常は、品目のオーダーまたは販売をパッケージ数量単位で行い、価格を重量または容量単位で行う場合に、このチェックボックスを選択します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「品目情報の入力」、「品目の2重単位の指定」

デフォルト行情報の入力

「受注オーダー明細の改訂」フォームにアクセスします。

行デフォルト

「行デフォルト」タブを選択します。

このフィールドに入力した値は、受注オーダーの各行に自動的に入力されます。各行の値は、必要に応じて一時変更できます。

事業所詳細	オーダーのすべての行で使用する事業所コードを入力します。
要求日付	品目の到着予定日付、または作業の完了予定日付を入力します。
価格有効日付	この行に対する基本価格とすべての上級価格調整を決定するために使用される日付を入力します。
ピッキング予定日付	受注オーダーの約束出荷日付を入力します。需要/供給プログラムでは、この日付を使用して約束可能数量が計算されます。この値は受注オーダーの入力中に自動的に計算されます。この日付は、品目を倉庫から出荷できる日を表します。
約束納入日付	オーダーが顧客に納入されると約束した日付を入力します。
取消日付	商品が顧客に発送されない場合、または仕入先から商品が入荷しない場合に、オーダーを取り消す日付を入力します。これはメモ専用のフィールドであり、このフィールドによってなんらかの自動処理が実行されることはありません。受注オーダー入力で受注オーダーの行を取り消した場合、このフィールドは行が取り消されたときの日付で更新されます。

クロス・ドッキング情報の入力

「受注オーダー入力 - 追加情報」フォームにアクセスします。

クロス・ドッキング・オーダー

クロス・ドッキングを使用すると、受信在庫を直接受注オーダーに割り当てることができます。受信在庫は日付と優先度を基に割り当てられます。

フラグ

クロス・ドッキングを有効にするかどうかを指定します。品目行またはオーダー行はクロス・ドッキング処理と関連付けられます。このコードは品目またはオーダー行がクロス・ドッキングに適しているかどうか、あるいは品目またはオーダー行がクロス・ドッキングされていたか、またはクロス・ドッキングする必要があるかどうかを示します。品目または事業所品目に割り当てられている場合、このコードは品目または事業所品目がクロス・ドッキングに適していることを示します。このコードがオーダー行に割り当てられている場合、そのオーダー行をクロス・ドッキングする必要があることを示します。値は次のとおりです。

ブランクまたは0: クロス・ドッキングは無効です。

1: クロス・ドッキングは有効です。

優先順位

供給数量を受注オーダーに割り当てする場合、クロス・ドッキング・システムが従う優先度を指定します。この優先度は、クロス・ドッキングされた受注オーダーが特定の日付に実行される順序を示します。より小さい値が設定された受注オーダー行の優先度は、大きな値が設定された行よりも高くなります。この値については数値の編集しか行うことができません。優先度が指定されなかったり、複数のオーダー行に同じ優先度が割り当てられている場合は、オーダーはオーダー番号とオーダー・タイプの順に実行されます。

番号

供給オーダーを識別するオーダー番号を入力します。

タイプ

供給オーダーのタイプを入力します。供給オーダーには、購買オーダー、製造オーダー、転送オーダーなどがあります。

会社

クロス・ドッキング・オーダーに関連する会社を入力します。

行番号

クロス・ドッキング・オーダーに関連する行番号を入力します。

受注オーダー情報の更新とコピー

この項では、見出し情報を明細フォームに更新する処理、受注オーダーのコピー、価格再設定の概要と、事前設定および次の方法について説明します。

- 見出し情報の更新
- 受注オーダーのコピー
- オーダー・レベル/バスケット・レベル価格プログラム(R42750)の処理オプションの設定

明細フォームに対して見出し情報を更新する処理について

受注オーダーについての初期情報を入力した後に、見出し情報を更新する必要がある場合があります。税コードや税域、出荷先住所、運賃情報のような見出し情報の多くは、顧客マスター・レコードや住所録マスター・レコードのデフォルト値で構成されています。これらの情報はオーダーの入力時または改訂時に変更できます。オーダーの入力後に見出し情報を変更する必要がある場合、見出し情報を受注オーダー明細に対して更新することで、変更を明細情報に確実に反映させることができます。

注意: P4210プログラムの「処理」タブにある「変更に対する状況コードの限度」処理オプションが設定されている場合、見出しの変更は、定義された状況にない明細行にのみ反映されます。

見出しの変更を自動的に明細行に反映するには、P4210プログラムの「デフォルト」タブにある「見出しから明細への更新」処理オプションを自動更新に設定する必要があります。この処理オプションが手作業での更新に設定されている場合は、「受注オーダー見出し」フォームの「フォーム」メニューから「自動入力」を使用して、明細行に対する更新処理を手作業で開始する必要があります。処理オプションが手作業での更新に設定されている場合に、「自動入力」を選択しないと、オーダーの各行の見出しフィールドは変更が更新されません。

受注オーダーで選択した見出しフィールドを確認および改訂したり、見出しを変更したときに明細を更新するには、「受注オーダー見出し」フォームの「フォーム」メニューの「定義」を選択して使用します。選択した見出しフィールドは、更新モードが自動と手作業のどちらに設定されていても、更新されます。選択した見出しフィールドの一覧はUDCテーブルに保存されるため、「フォーム」メニューのこの選択を使用する必要があるのは、更新用に選択した見出しフィールドの変更を行う場合にかぎられます。

注意: 見出しフィールドの「販売先」と「顧客購買オーダー」を変更すると、その変更は処理オプションの設定に関係なく明細行に常に反映されます。

受注オーダーのコピーについて

ある顧客が同じまたは似たような品目と数量を繰り返しオーダーすることはよくあります。顧客が同じようなオーダーを入力するたびに明細のすべてを再入力することを避けるために、見出しと明細情報の両方をコピーして、新しい受注オーダーにその情報を追加することで、受注オーダーの入力を効率化できます。また、同じオーダーを他の出荷先住所に、あるいは請求書を他の販売先住所に送る場合に、明細情報のみをコピーして出荷先や販売先情報を変更できます。

処理オプションの設定によっては、元の受注オーダーとコピーした受注オーダーで次の情報が異なる場合があります。

- 伝票タイプ

- 開始状況コード

コピーした受注オーダーのオーダー番号は、当初オーダーの番号とは常に異なります。

どのバージョンのP4210プログラムからも受注オーダーに品目情報をコピーできます。たとえば、一括オーダー・バージョンに「コピー」処理オプションを設定して、一括オーダーからオーダーおよび行のデータをコピーする際に、新しい受注オーダーが作成されるようにできます。

価格再設定について

受注オーダーの価格を再設定する調整を定義できます。受注オーダーの価格再設定は次のような場合に行います。

- 品目グループに対して、追加の値引や割増しを行う。
- 特別な品目や顧客に対して、異なった価格設定を行う。
- 製品ファミリ内のオーダー品目の総数、総重量、総額に基づいて一括割引を行う。

価格再設定は、オーダー金額、オーダー品目の重量、またはオーダー内の全品目の総数に基づいて行います。調整を定義する際は、バスケットまたはオーダーのどちらの価格再設定に調整を使用するかを指定する必要があります。

次の3つの方法のいずれかを使用してオーダーの価格を再設定します。

- オーダーの照会後に価格再設定を行う。
- バスケット・レベルまたはオーダー・レベルで価格再設定を行う。
- 自動的に価格再設定を行う。

オーダー行の価格再設定は、繰り返し行うことができます。オーダー・レベル/バスケット・レベル価格プログラム(R42750)の価格再設定処理オプションを設定して、オーダー明細行を繰り返し価格再設定したり、既存レコードをすべてクリアしてから価格再設定できるようにする必要があります。P4210プログラムの処理オプションで使用するR42750プログラムのバージョンを定義します。

「調整前に既存レコードをクリアする」処理オプションを使用すれば、既存のすべての価格調整を削除してから、受注オーダーの各明細行に価格調整を再適用できます。この処理オプションを1に設定すると、行の価格を再設定する前に、オーダー・レベルとバスケット・レベルのすべての調整が削除されます。このオプションをブランクにすると、オーダー・レベルとバスケット・レベルの調整は削除されず、明細行の価格調整が重複する場合があります。「調整前に既存レコードをクリアする」処理オプションを1に設定する場合、「価格再設定の繰り返し許可」処理オプションも1に設定する必要があります。この2つの処理オプションを同時に設定すると、明細行の価格を複数回再設定したり、必ずすべての調整を削除してから価格を再適用できます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「価格再設定の使い方」

事前設定

新しい伝票タイプまたは状況に対して、P4210プログラムのコピー処理オプションを設定したことを確認してください。

受注オーダー情報の更新とコピーに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
受注見出しの処理	W4210H	「受注オーダー処理」 (G4211)、「受注見出し」	見出し情報を更新します。 受注オーダーをコピー します。

見出し情報の更新

「受注見出しの処理」フォームにアクセスします。

1. オーダーを選択して、「選択」をクリックします。
2. 「見出しから明細」をクリックして、「受注オーダー見出し」フォームの「フォーム」メニューにある「定義」をクリックします。更新用に選択した見出しフィールドを検討および改訂します。
3. 「明細テーブルに対する見出しカラムの定義」フォームで、明細フォームへの更新を行うフィールドを選択して「OK」をクリックします。
4. 「受注オーダー入力」処理オプションが見出しから明細への自動更新に設定されている場合は、「受注オーダー見出し」フォームで、「OK」をクリックします。この処理オプションが手作業による更新に設定されている場合は、「自動入力」をクリックして見出しへの変更を明細行に手作業で更新します。

受注オーダーのコピー

「受注見出しの処理」フォームにアクセスします。

1. コピーする受注オーダーを選択して「コピー」をクリックします。
2. 「受注オーダー明細の改訂」フォームで、入力が自動的に行われるフィールドを検討して必要に応じて変更します。
3. オーダーについての追加の情報があれば入力し、「OK」をクリックします。
「OK」がクリックされるまでは、新しいオーダーは保存されません。

オーダー・レベル/バスケット・レベル価格プログラム (R42750)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、レコード選択とデフォルト値を設定し、データの処理方法を定義します。

レコード選択値の入力

この処理オプションを使用して、受注オーダーの次状況コードを決定します。

1. 次状況
再価格設定用の受注オーダーを選択するために使用する次状況の値をUDC 40/ATから指定します。この処理オプションをブランクにすると、すべての受注オーダーの価格が再設定されます。

デフォルト値

この処理オプションを使用して、受注オーダー入力プログラム(P4210)の次状況コードとバージョンのデフォルト値を指定します。

1. 次状況の一時変更

UDC 40/ATのデフォルトの次状況の値を指定します。この状況は、オーダー・レベルの調整のために作成される受注オーダー明細行を更新するために使用されます。

2. 受注オーダー入力 (P4210) のバージョン

受注オーダー明細テーブル (F4211) の更新に使用する受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを指定します。このプログラムで受注オーダーの明細行が処理される場合に、このバージョンの処理オプションが使用されます。

この処理オプションをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

更新オプションの入力

この処理オプションを使用して、受注オーダーの更新方法を指定します。

1. 価格再設定の繰り返し許可

オーダー・レベルとバスケット・レベルの価格設定を何度も使用して受注オーダー明細行を処理するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: プログラムの初回実行時にのみ、バスケット・レベルとオーダー・レベルの調整が適用されます。

1: プログラムを実行するたびに、バスケット・レベルとオーダー・レベルの調整が適用されます。

「調整前に既存レコードをクリアする」処理オプションはこの処理オプションと組み合わせて使用されます。既存レコードをすべてクリアしてから価格再設定を行う場合、この処理オプションを1に設定する必要があります。

2. 拡張条件優先設定

単純なバスケットの拡張条件優先設定を処理するかどうかを指定します。受注オーダーの拡張条件優先設定が有効な場合に、この処理オプションが1に設定されていると、この拡張条件優先設定が受注オーダーの拡張条件に適用されます。受注オーダー入力時に支払条件が手作業で入力されている場合、その受注オーダー行の支払条件は拡張条件優先設定の値で置き換えられません。

3. 拡張条件支払の比較

受注オーダー行の支払条件を拡張条件優先設定の値で置き換えるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 割引率の高い支払条件コードが選択されます。たとえば、支払条件の割引が支払日数が30日、10日以内の支払で2%割引の場合、2%よりも高い割引率の支払条件コードを持つ割引のみが置き換えられます。

1: 割引可能日数の多い支払条件コードが選択されます。たとえば、支払条件の割引が支払日数が30日、10日以内の支払で2%割引の場合、10日より多くの割引可能日数の支払条件コードを持つ割引が置き換えられます。

2: 支払日数の多い支払条件コードが選択されます。たとえば、支払条件の割引が支払日数が30日、10日以内の支払で2%割引の場合、30日より多くの支払日数の支払条件コードを持つ割引が置き換えられます。

受注オーダー入力時に支払条件が手作業で入力されている場合、選択方法に関係なく、その受注オーダー行の支払条件は拡張条件優先設定の値で置き換えられません。

処理

この処理オプションを使用して、既存の価格調整と無償品の処理方法を決定します。

1. 調整前に既存レコードをクリアする

価格調整を受注オーダーの明細行に再適用する前に、既存の価格調整を削除するかどうかを指定します。たとえば、このオプションを1に設定すると、行の価格は、バスケット・レベルおよびオーダー・レベルの既存のすべての調整が削除された後に再設定されます。その後で、受注オーダーの明細行が再評価され、バスケット・レベルとオーダー・レベルの調整対象かどうかを確認されます。値は次のとおりです。

ブランク: バスケット・レベルおよびオーダー・レベルの既存の調整は削除されません。追加の調整が受注オーダーの明細行に適用される場合があります。

1: バスケット・レベルおよびオーダー・レベルの既存の調整は削除されます。受注オーダーの明細行の価格が再設定されます。このオプションを1に設定する場合、「更新オプションの入力」タブの「価格再設定の繰り返し許可」処理オプションも1に設定する必要があります。

警告: この処理オプションをブランクにして、「価格再設定の繰り返し許可」オプションを1に設定すると、同じバスケット調整が同じ明細行に何度も適用されるか、同じオーダー・レベルの調整が何度も適用される場合があります。

2. 無償品レコードの保存

無償品を受注オーダーに保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 既存の無償品は取り消されて、新しい無償品があれば追加されます。

1: 既存の無償品は保持されて、新しい無償品は追加されません。

テンプレートを使用した受注オーダーの入力

この項では、オーダー処理でのテンプレートの使用方法についての概要、事前設定、およびテンプレートを使用した場合の受注オーダーの入力方法について説明します。

オーダー処理でのテンプレートの使用について

テンプレートを使用すると、顧客から頻繁にオーダーのある品目を表示することでオーダーの処理スピードを上げることができます。テンプレートは、顧客の過去のオーダーに基づいてシステムにより生成されたりリストです。テンプレートにより、同じデータの繰り返し入力やエラーを防ぐことができます。

任意の顧客に使用できるデフォルトのテンプレートの設定、特定の顧客用のテンプレートの設定、システムに設定されている利用可能なテンプレートの選択が可能です。P4210プログラムの処理オプションを設定すると、デフォルトで使用するテンプレートを指定したり、顧客の請求指示の販売先または出荷先住所に基づいてテンプレートを取り込むかどうかを指定できます。P4210プログラムを使用して受注オーダーを入力する際に、「オーダー・テンプレート」フォームが表示されます。顧客がテンプレートを設定している場合、オーダーの入力時にそのテンプレートが取り込まれて表示されます。顧客がテンプレートを設定していない場合は、デフォルトのテンプレートが表示されます。

テンプレートを使用すると、次のような方法でオーダー情報を入力できます。

- テンプレートのすべての品目と数量をコピーする。
- 1行ずつ品目と数量情報を変更する。

- ・ 受注オーダーに追加しない品目の場合は、数量情報を入力しない。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- ・ P4210プログラムの処理オプションで、オーダー・テンプレート処理が有効になっていることを確認してください。
- ・ 標準テンプレートおよび顧客テンプレートが設定されていることを確認してください。

テンプレートを使用した受注オーダー情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
受注残/完了オーダー照会	W4210E	「受注オーダー処理」(G4211)、「受注明細」	受注オーダー明細レコードの確認と選択を行います。
受注オーダー明細の改訂	W4210A	「受注残/完了オーダー照会」フォームで「追加」をクリックします。	テンプレートを使用した受注オーダーを入力します。
オーダー・テンプレート	W40215A	受注オーダーを入力し、「受注オーダー明細の改訂」フォームの「OK」をクリックします。	テンプレートで品目の数量情報を入力します。
オーダー・テンプレートの処理	W4015A	「オーダー・テンプレート」フォームで「フォーム」メニューの「使用可能なテンプレート」を選択します。	オーダー・テンプレートを選択します。

テンプレートを使用した受注オーダーの入力

「オーダー・テンプレート」フォームにアクセスします。

受注明細 - オーダー・テンプレート i ?

OK(O) 検索(L) 取消(L) 通常数量の事前ロード(P) フォーム(F) ツール(T)

販売先

オーダー・テンプレート

レコード 1 - 5 グリッドのカスタマイズ

オーダー数量	単位	品目 No.	通常オーダー数量	通常単位	品名	品名 2
<input type="text"/>	<input type="text"/>	210	10		Mountain Bike, Red	
		220	5		Touring Bike, Red	
		221	5		Touring Bike, Blue	
		222	5		Touring Bike, Green	

「オーダー・テンプレート」フォーム

テンプレートの品目ごとにオーダー数量を入力します。「通常数量の事前ロード」をクリックすると、品目ごとに「オーダー数量」フィールドが「通常オーダー数量」フィールドの値で自動入力されます。

受注オーダーの異なるテンプレートを使用するには、「フォーム」メニューの「使用可能なテンプレート」オプションを選択します。

代替品目、関連品目または販促品の入力

この項では、代替品目、関連品目および販促品の概要、事前設定、およびこれらの品目の入力方法について説明します。

代替品目、関連品目、および販促品について

オーダー数量の一部しか引き当てられない場合、必要な数量を満たすために代替品目を使用できます。たとえば、顧客から自転車用チェーンのオーダーが入り、その自転車用チェーンがバックオーダーになったとします。この場合、代替品目として別メーカーの同クラス製品を指定してオーダーを充当できます。

受注オーダーで代替品目を使用すると、バックオーダーとなっている当初の品目の数量はすべて取り消されます。代替品目を追加すると、当初のオーダー行には“代替品目による取消し”が、新しいオーダー行には“代替品目として販売”という状況がそれぞれ表示されます。オーダー行には当初品目と代替品目が区別して表示されます。品目相互参照テーブル (F4104) 内に品目とその置換品目が設定されている場合は、代替品目を使用して受注オーダーの旧品目を置き換えます。

関連品目を使用すれば、顧客の当初のオーダーを補完する追加品目を顧客に販売できます。互いに関連のある品目を販売している場合は、関連品目をオーダーに追加する前にプロンプトが表示されるように設定できます。たとえば、タイヤ用ポンプとタイヤ修理キットを関連付けることが可能です。受注オーダーにタイヤ用ポンプの品目番号を入力する際、ロー見出しとカラムにチェック・マークが表示され、関連品目があることを知らせます。タイヤ修理キットなどの関連品目を追加する場合、そのオーダー明細行が受注オーダーに追加されます。

販促品を使用すると、新しい品目の市場投入、在庫の削減、売上の拡大が可能です。販促品には次のような品目があります。

- クーポン付きの通常品目
- 同じ価格で10%増量した品目
- 同じパッケージで景品付きの品目

相互参照情報を使用して、割り当てる価格インディケータに従い、新しい品目に価格を設定します。販促品は、品目ごとに一度に1つのみ設定できます。販促品については、自動的に当初の品目と差し替えられ、当初の品目のオーダー行は取り消されます。

P4210プログラムの相互参照処理オプションで、代替品目、関連品目、置換品目および販促品のチェックがシステムで行われるよう設定します。

代替/補足品目プログラム (P42260) の「フォーム」メニューの「品目相互参照」を選択すると、受注オーダー入力中に代替または補足品目を設定できます。最適または最低価格が提示されるように指定できます。この価格は、適用可能なプロモーションまたは割引後の最も低い価格となります。また、当初の品目の価格または代替品目の価格が最適な価格となる場合もあります。

明細行を入力すると、追加情報を処理中であることが表示されます。代替品目および補足品目の場合、ロー見出しとカラムにチェックマークが表示され、また警告が表示されます。販促品の場合、差し替えは自動的に行われます。

事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、次の点を確認してください。

- P4210プログラムの相互参照処理オプションで、代替品目、関連品目、置換品目および販促品の相互参照情報が表示されるように設定されている。
- P4210プログラムの処理オプションで、引当可能数量チェックが有効になっている。
- 顧客請求指示で、顧客が代替品目を承諾している。

代替品目、関連品目および販促品の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
受注見出しの処理	W4210H	「受注オーダー処理」(G4211)、「受注見出し」	受注オーダー見出しレコードの確認と選択を行います。
受注オーダー見出し	W4210G	「受注見出しの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	受注オーダー見出し情報の追加と改訂を行います。
受注オーダー明細の改訂	W4210A	「受注オーダー見出し」フォームで「OK」をクリックします。	フォームの明細部分で、品目情報の追加と改訂を行います。
代替/補足品目	W42260A	「受注オーダー明細の改訂」フォームで品目を選択し、「ロー」メニューから「代替/補足品目」を選択します。	代替品目、関連品目または販促品を入力します。

代替品目、関連品目または販促品の入力

「代替/補足品目」フォームにアクセスします。

代替品目、関連品目、または販促品を検索するには、品目を選択してから、受注オーダーにこの品目を追加するために「OK」をクリックします。

相互参照タイプ

この顧客に設定する相互参照タイプを識別する値をUDC 41/DTから指定します。次のような相互参照タイプがあります。

A: 関連製品

S: 代替品目

R: 置換品目

SP: 販促品目

バックオーダー数量の使用

代替品目のバックオーダー数量を指定するには、これを選択します。たとえば、顧客が50台の赤色の自転車をオーダーしたのに、引当可能な台数が25台しかない場合、25台の赤色の自転車がバックオーダーされます。顧客が50台の赤色の自転車のかわりに50台の青色の自転車をオーダーする場合は、このオプションを選択しないでください。かわりに、「当初数量を使用する」オプションを選択します。ただし、顧客が25台の赤色の自転車と25台の青色の自転車をオーダーする場合は、このオプションを選択しま

す。バックオーダー数量である25は、青色の自転車のオーダー行に対して使用されます。

当初数量を使用する

代替品目で当初数量を使用する必要がある場合は、これを選択します。たとえば、顧客が50台の赤色の自転車をオーダーしたのに、引当可能な台数が25台しかない場合、25台の赤色の自転車がバックオーダーされます。顧客が50台の赤色の自転車のかわりに50台の青色の自転車をオーダーする場合は、このオプションを選択します。当初数量である50が青色の自転車のオーダー行で使用されます。

ただし、顧客が25台の赤色の自転車と25台の青色の自転車をオーダーする場合は、「バックオーダー数量の使用」オプションを選択します。

顧客セグメント・ベース販売の使用

この項では、受注オーダーでの顧客セグメント・ベース販売の使用法の概要、事前設定、および受注オーダーへの顧客購買セグメント品目の追加方法について説明します。

受注オーダーでの顧客セグメント・ベース販売の使用法について

顧客セグメント・ベース販売は、顧客の購買習慣に基づく購買セグメントに顧客をグループ分けできる技術です。購買セグメントは、同様の製品グループを示すUDC(42B/BS)であり、顧客に対し購買セグメント・コードを割り当てます。同じような製品を購入する顧客を購買セグメントにグループ分けすることで、受注の際に顧客に対してその顧客と同じセグメントの他の顧客が購入した品目をオファーして売上を伸ばせる可能性があります。

顧客セグメント品目プログラム(P42440)では、同じ購買セグメントの顧客が購入した品目一覧を検討できます。顧客に受注オーダーを入力しながら、数量も指定できます。

顧客セグメント品目プログラムにアクセスするには、次の2つの方法を使用できます。

- P4210プログラムで適切な処理オプションを設定している場合、受注オーダーの追加を終了した時点で、「顧客セグメント品目」フォームが自動的に表示されます。
- P4210入力プログラムで適切な処理オプションを設定している場合、受注オーダー追加中に顧客セグメント品目のオプションを選択できます。

事前設定

P4210プログラムの「バージョン」タブにある顧客セグメント・ベース販売の適切な処理オプションを有効にします。P4210プログラムの「処理」タブにも顧客セグメント・ベース販売の任意の処理オプションがあります。

受注オーダーへの顧客購買セグメント品目の追加に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
顧客セグメント品目	W42440A	<p>「受注オーダー処理」(G4211)、「受注明細」</p> <p>「受注残および完了オーダーの照会」フォームで、オーダー番号を検索し、「ロー」メニューの「オーダー」、「受注オーダー明細の改訂」の順に選択します。</p> <p>「受注オーダー明細の改訂」フォームの「フォーム」メニューから「顧客セグメント品目」を選択します。</p>	顧客購買セグメント品目を受注オーダーに追加します。

受注オーダーへの顧客購買セグメント品目の追加

「顧客セグメント品目」フォームにアクセスします。

オーダー数量

受注オーダーに関連付ける各品目の数量を指定します。

手動入力

顧客セグメント品目テーブル(F42440)に品目を追加するかどうかを指定します。

販売高アップセル価格の作成

この項では、販売高アップセルの概要、事前設定、および販売高アップセル価格の作成に使用するフォームについて説明します。

販売高アップセルについて

大量購入による値引きを顧客に提案する場合は、調整と、オーダー行がアップセル通知の条件を満たしていることを通知するタイミングを決定する許容率を指定できます。

アップセル通知を有効にするには、P4210プログラムの「販売高アップセル」タブの「許容範囲内の販売高アップセルに対する警告」処理オプションに許容率を入力する必要があります。この許容率で、いつ通知を出すかを指定します。受注オーダー行でオーダーした数量をアップセルのパーセント分のみ増やした値が計算され、アップセルの機会がチェックされます。次に、その増加を行った場合に次の数量区切りに到達するかどうか判断されます。

たとえば、アップセル調整の数量区切りが10個(EA)、許容率が15%に設定されているとします。オーダー数量として数量9を入力した場合、9の15%増しは10.35になり次のレベル区切りの基準を満たしているため、アップセル警告が表示されます。この場合、許容率が10%であれば、9の10%増しは9.9なのでアップセル警告は表示されません。このケースでは次の計算式を使用します。

(オーダーした数量 × 許容率) + オーダーした数量

$(9 \times 15\%) + 9 = 10.35$

販売高アップセル情報の処理では、価格調整定義テーブル (F4071) が使用されます。

販売高アップセル価格の作成

販売高アップセル通知が発行された場合、「調整タイプの数量区切り」フォームでこの情報を表示して、受注オーダーと価格履歴のアップセル価格を設定できます。新しいレベル区切りを選択する際は、そのオーダー行の数量が、受注オーダー入力でその新しいレベル区切りに必要な数量に変更されます。さらに数量不足のため当初のオーダーでは適用しなかった新しい行レベルの価格調整が検索されます。受注オーダーにアップセルの機会を持つ調整がある場合は、選択していれば調整のレベル区切りとともに調整の一覧が表示されます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- アップセル通知を有効にするには、P4210プログラムの「販売高アップセル」タブの「許容範囲内の販売高アップセルに対する警告」処理オプションで許容限度率を指定します。
- オーダー入力時のアップセルの機会の検索に調整を含めるかどうかを価格調整の定義プログラム (P4071) で指定します。

販売高アップセル価格の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
受注見出しの処理	W4210H	「受注オーダー処理」 (G4211)、「受注見出し」	受注オーダー見出しレコードの確認と選択を行います。
受注オーダー見出し	W4210G	「受注見出しの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	受注オーダー見出し情報の追加と改訂を行います。
受注オーダー明細の改訂	W4210A	「受注オーダー見出し」フォームで「OK」をクリックします。	フォームの明細部分で、品目情報の追加と改訂を行います。
調整タイプの数量区切り	W40722E	「受注オーダー明細の改訂」フォームで、ローを選択して、「ロー」メニューの「販売高アップセル」を選択します。	数量区切りレベルを検討および選択して、受注オーダー明細行の品目の数量と価格を調整します。 「調整タイプの数量区切り」フォームの「閉じる」をクリックすると、選択した情報が「受注オーダー明細の改訂」フォームに自動入力されます。

受注オーダー入力の納期回答

この項では、納期回答の概要と、約束納入日付の選択方法について説明します。

納期回答について

納期回答は、受注オーダー入力プログラム(P4210)の「納期回答」タブにある処理オプションを設定することにより有効化されます。

納期回答機能は、受注オーダーの入力時に需要/供給履歴をトラッキングし、配送日付の約束可能数量(ATP)または生産販売可能数量(CTP)のどちらかによる計算を行います。納期回答日付の決定に際してATPまたはCTP計算が実行され、承認前表示フォームの「ピッキング予定日付」フィールドに計算結果が表示されます。配送リードタイムも計算され、「ピッキング予定日付」、「約束出荷日付」および「約束納入日付」フィールドにその結果が追加されます。約束納入日付とは、顧客がオーダーを受け取る日です。

納期回答は受注オーダーの各明細行の品目ごとに計算されます。オーダーに変更があるたびに、即座にテーブルが更新され、その後続くオーダーに実際の需要と供給が反映されます。

ATP/CTPの日程が必要な受注オーダーを入力する際には、オーダー見出しおよびオーダー明細情報を入力する手順は同じであることに注意してください。納期回答はJD Edwards EnterpriseOne受注管理システムの機能であり、次の処理やオプションとともに使用できます。

- 部分オーダー
- バックオーダー
- 部分出荷
- 代替品目
- マルチソーシング

納期回答を使用した提案納期の作成

納期回答は、顧客の希望した納入日付に沿うよう、いくつかの提案納期を生成します。見出しと明細情報を入力したら、納期回答を起動します。次に、自動モードを選択します。要求の作成、更新および送信には、XAPI(外部アプリケーション・プログラム・インターフェイス)機能が使用されます。

この情報の送信中は、受注残の訂正はできません。

自動モードを選択して納期回答日付を設定する場合は、複数の提案が生成され一番早い日付が自動的に選択され、その日付が提案されます。

納期回答提案の設定

提案納期が作成される際に、納期回答で考慮されるオプションを設定できます。入力された顧客情報と受注オーダー情報によって、提案は非常に厳格または柔軟なものになります。

納期回答は、可能であればいつでも既存のシステムの設定からのデフォルト情報を使用します。

次の表では、納期回答が納期の提示に使用するコード、フィールドおよび値を示しています。

コード、フィールド、または値	説明
ビジネス・ゴール	納期回答に使用される組込規則のセット。 納期回答は、顧客請求指示のデフォルト情報を使用してビジネス・ゴールと顧客を関連付けます。
部分オーダー出荷可	別の日に同じ行品目を出荷できるかどうか。 納期回答は、顧客マスターの顧客請求指示からのデフォルト情報を使用します。

コード、フィールド、または値	説明
バックオーダー許可	<p>要求日付より後に行品目を出荷できるかどうか。</p> <p>納期回答は、顧客請求指示の値と「事業所固定情報」フォームの値を使用します。バックオーダーを可能にするには、両方のフォームで「バックオーダー許可」オプションを有効にする必要があります。</p>
部分出荷可	<p>行品目の出荷は分割できるかどうか。</p> <p>納期回答は、顧客マスターの顧客請求指示からのデフォルト情報を使用します。</p>
代替品可	<p>顧客は代替品を承認するかどうか。</p> <p>納期回答は、顧客マスターの顧客請求指示からのデフォルト情報を使用します。</p>
マルチソーシング可	<p>複数の事業所から出荷できるかどうか。</p> <p>納期回答で顧客が1箇所の事業所からの出荷を優先情報で設定しているかどうかを確認されます。設定していなければ、マルチソーシングが可能になります。</p>
出荷グループ	<p>同じ日の同じ出荷にする必要のある出荷グループの一部のみを出荷する必要があるかどうか。</p> <p>顧客が出荷グループを要求している場合は、納期回答シナリオ・マネージャの優先情報で指定できます。</p>
単位の計画	<p>オーダーの一部として出荷できる最小の単位。</p> <p>受注オーダーで入力された単位が使用されます。受注オーダーで入力された単位より細かい単位では提案納期は生成されません。</p>

納期回答を使用してATPまたはCTP納期を計算する場合は、「受注オーダー明細の改訂」フォームの「フォーム」メニューから「納期回答」を選択し、「自動回答」を選択します。

顧客の納期の要求に見合う提案納期が生成されます。

納期回答のUDC

UDCを使用して、納期回答の動作を指定できます。提案納期の生成とオーダーの表示についての様々なモードをサポートする、P4210プログラムの様々なバージョンを作成できます。P4210の処理オプションでは次のUDCを使用します。

- 42B/OP (納期回答可能)

値は次のとおりです。

 - ブランク: 納期回答を使用しません。
 - 1: 自動回答モードの納期回答を使用します。
 - 2: 自動回答とシナリオ・マネージャの両方のモードの納期回答を使用します。
- 42B/DC (承認前の表示)

値は次のとおりです。

- 0: 約束納入日付以後は、オーダーを表示しません。
- 1: 約束納入日付以後に、オーダーを表示します。

受注オーダー入力での納期回答に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
受注見出しの処理	W4210H	「受注オーダー処理」(G4211)、「受注見出し」	受注オーダー見出しレコードの確認と選択を行います。
受注オーダー見出し	W4210G	「受注見出しの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	受注オーダー見出し情報の追加と改訂を行います。
受注オーダー明細の改訂	W4210A	「受注オーダー見出し」フォームで「OK」をクリックします。	フォームの明細部分で、品目情報の追加と改訂を行います。
オーダー承認	W42232A	「受注オーダー明細の改訂」フォームの「フォーム」メニューから「納期回答」を選択し、「自動回答」を選択します。	約束納入日付を選択します。 オーダーを実行、または改訂するために適切なボタンをクリックします。

約束納入日付の選択

「オーダー承認」フォームにアクセスします。

約束納入日付を検討し、必要であれば改訂します。

「受注オーダー明細の改訂」フォームの「フォーム」メニューから「自動回答」を選択すると、納期回答が実行され、その結果とその他のオーダー明細が「オーダー承認」フォームに表示されます。「オーダー承認」フォームが表示されて約束納入日付を確認できます。また「オーダー承認」フォームで、約束納入日付を承認（「発注」ボタンをクリック）または却下（「オーダーの改訂」ボタンをクリック）できます。「オーダーの改訂」ボタンをクリックすると、「受注オーダー明細の改訂」フォームに戻ります。そのフォームで変更を加えた後に納期回答を再度試すことができます。

発注するには、「オーダー承認」フォームで「OK」をクリックします。

監査ログ生成と承認プロセス

この項では、監査ログと承認プロセスの概要、事前設定、および監査ログの検討方法について説明します。

監査ログについて

JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムには、オーダーに対して行われた手作業による変更を検討およびトラッキングする方法があります。該当する処理オプションが有効になっていると、受注オーダー情報に対して行われた手作業によるすべての変更について改訂が作成されるので、オーダー改訂履歴プログラム(P42420)にアクセスした際に変更情報を検討できます。オーダー入力時に改訂番号を確認できます。オーダーに変更が入るたびに新しい改訂番号が作成されます。オーダー改訂履歴プログラムには、次のプログラムを実行中にアクセスできます。

- 受注オーダー入力(P4210)
- 出荷確認(P4205)
- 保留オーダー・リリース(P43070)
- バックオーダー・リリース(P42117)
- 販売状況スピード更新(P42040)

オーダー改訂履歴プログラムには、次のタイプのオーダー情報があります。

- 改訂番号
- 承認プロセスが必要かどうか、必要な場合はそのオーダー状況
- 改訂理由
- 改訂が行われた日時
- 改訂者
- オーダー品目と関連品目情報

変更の監査ログも作成されます。監査ログ・トランザクション・テーブル(F42420)にすべての変更情報が保存されます。処理オプションが適切に設定されていれば、監査ログには変更を行った人のユーザーIDや変更理由を説明する理由コードなどの情報が含まれます。

大半の顧客についての変更をトラッキングすることもできますが、「請求情報」フォームで「監査ログのバイパス」オプションを設定することで、特定の顧客についての監査ログの生成をバイパスすることもできます。

承認プロセスについて

承認プロセスとは、あるタイプの受注オーダー情報に対する手作業変更が承認を必要とするかどうかを制御できるようにするワークフロー・プロセスです。JD Edwards EnterpriseOneでは、受注オーダー入力のデフォルトのワークフロー・プロセス(JDESCHNG)が用意されています。このワークフロー・プロセスは、ビジネスの要件に応じてカスタマイズできます。

承認プロセスを有効にするには、P4210プログラムの「受注オーダー変更の承認処理」処理オプションを使用します。ただし、承認プロセスを使用するには、監査ログも有効にする必要があります。

既存の受注オーダー明細行の情報を変更しようとする、オーダーの処理前に変更承認が必要という警告がP4210プログラムから表示されます。JDESCHNGワークフロー・プロセスを使用して次の処理を行います。

1. オーダーを保留にします。
2. ワーク・センターを通じて承認要求を、オーダー保留情報プログラム(P42090)で定義されている責任者に送信します。
3. 保留オーダー・テーブル(F4209)にオーダー・レコードを書き込みます。
4. 変更が承認されたか拒否されたかに基づいて承認を処理します。

5. 監査ログ・トランザクション・テーブルに承認プロセス情報を記録します。

変更が承認または拒否されたら、引き続きワークフロー・プロセスで保留オーダーが削除され、システムのワーク・センターのメッセージで変更者に対して変更の承認または拒否が通知されます。

次のタイプの情報に対しては、手作業による変更の承認を要求できます。

- トランザクション数量
- 価格
- 要求日付
- 約束納入日付
- 支払条件

JD Edwards EnterpriseOneでは、UDC (42/HC) に設定する承認プロセスのデフォルト・コードとして、AH (承認保留) が用意されています。特殊取扱コード1を指定すると、別の承認保留コードを追加できます。デフォルト・コードAHを使用する場合は、オーダー保留情報プログラムで次の設定を確認します。

- 承認責任者
- コード・タイプがL (行基準)
- 制限タイプがA (額)

ワークフロー・プロセスをカスタマイズする場合は、JD Edwards EnterpriseOneシステムのプロセス・モデル・ツールを使用する必要があります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Workflow Tools Guide

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- P4210プログラムの「監査ログ」タブの該当する処理オプションを設定します。
- UDC 42/HCで承認プロセスを設定します。
- 承認コードにAHを使用する場合は、保留オーダー固定情報を確認します。

監査ログの生成と承認プロセスに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
受注残/完了オーダー照会	W4210E	「受注オーダー処理」 (G4211)、「受注明細」	受注オーダー明細レコードの確認と選択を行います。
オーダー改訂履歴	W42420B	オーダーを選択して、「ロー」メニューの「品目」を選択します。次に「受注残/完了オーダー照会」フォームの「改訂履歴」を選択します。	監査ログを検討します。

監査ログの検討

「オーダー改訂履歴」フォームにアクセスします。

受注明細 - オーダー改訂履歴

検索開じるツール

改訂No.*

オーダーNo.8023469

オーダータイプSO

オーダー会社00001

行番号1.000

表示する状況☒承認☒保留☒却下☒承認要求なし

前の改訂No.

最終改訂者

最終更新日付

最終更新時刻

レコード 1 - 10

グリッドのカスタマイズ

	改訂No.	改訂理由	更新日付	更新時刻	改訂者	承認状況	承認者却下者	承認/却下日付	承認/却下時刻	行番号	品目No.
●	000		2003/05/22	110851	BD58607...	承認要求なし				0	1.000 210
○	001	顧客の要求	2003/05/22	111214	BD58607...	保留				0	1.000 210
○	000		2003/05/22	111710	BD58607...	承認要求なし				0	1.000 210
○	001	顧客の要求	2003/05/22	111827	BD58607...	保留				0	1.000 210
○	000		2008/04/25	141220	KB69468...	承認要求なし				0	1.000 2400
○	001		2008/04/25	142409	KB69468...	承認要求なし				0	1.000 2400
○	002		2008/04/25	142544	KB69468...	承認要求なし				0	1.000 2400
○	000		2008/04/25	141220	KB69468...	承認要求なし				0	1.010 2420
○	001		2008/04/25	142409	KB69468...	承認要求なし				0	1.010 2420
○	002		2008/04/25	142544	KB69468...	承認要求なし				0	1.010 2420

「オーダー改訂履歴」フォーム

承認、保留、却下、承認要求なし 表示される受注オーダーの承認状況を示すコードを選択します。

キット品目およびコンフィギュレーション品目のオーダー入力

この項では、キット、キット処理、およびコンフィギュレーション品目の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- キット構成品の選択
- コンフィギュレーション品目の属性の選択

キットについて

キットおよびコンフィギュレーション品目の受注オーダーを入力できます。キットとは、記述名(親品目)に関連付けられた在庫品目(構成品)の集合です。たとえば、モニター、ハード・ディスク、キーボード、マウスなど、複数のコンピュータ構成品を保管します。これらの品目を販売するときは、1つのコンピュータ・システムとしてセット販売します。

受注オーダー入力でキットの品目番号を入力すると、キット選択のウィンドウが自動的に表示されます。キットの構成品としてあらかじめ選択されている品目と数量を確認できます。オプション品目を選択して、受注オーダーに含めることも可能です。構成品の一部がバックオーダーとなっている場合は、キット全体もバックオーダーとなります。

キットを受注オーダーに追加すると、親を含むすべての行にキットIDが割り当てられます。このキットIDはソート値として使用され、キットの親と構成品が、ピッキング・リストや伝票などの伝票に同時に表示されるようになります。

親品目を取り消すと、そのキットの親に関連付けられた各構成品行の出荷可能数量が取り消されます。

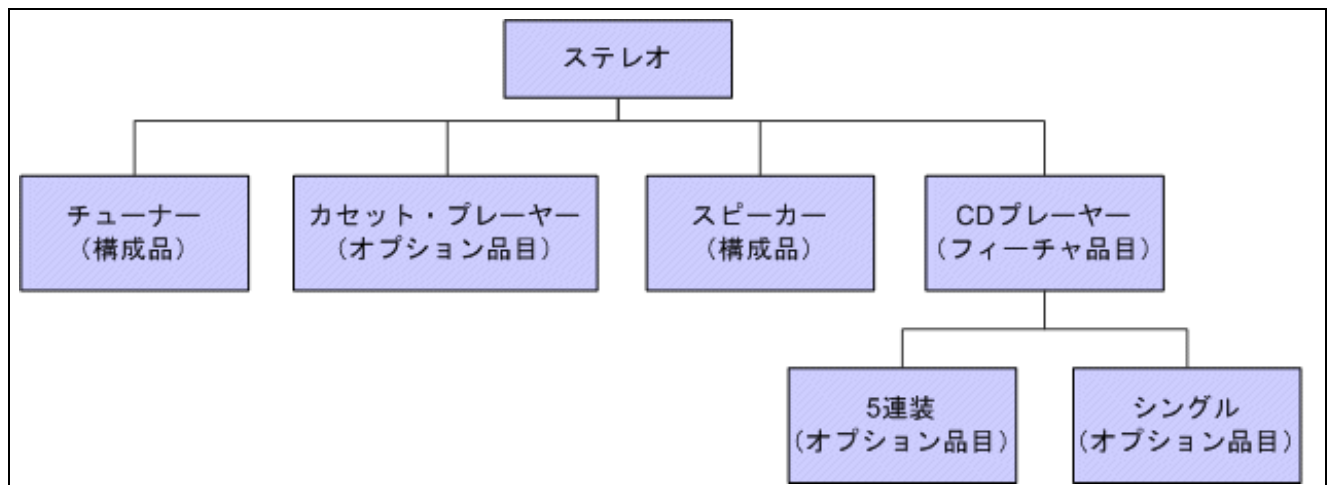
キット構成品

キット品目を通常構成する在庫品目を次の表に示します。

在庫品目	説明
親品目	組立品です。一般的に、親品目は在庫品目にはなりません。親品目は、品目マスターに設定し、在庫タイプK（キット）を割り当てる必要があります。品目マスターにより、価格計算方法が決定します。
構成品	キットに含まれる実際の在庫品目です。構成品は、通常の在庫品目として、品目マスターに設定します。
フィーチャ品目とオプション品目	キットの追加品目です。フィーチャ品目の在庫タイプは「F」（フィーチャ）です。フィーチャ品目は在庫品目にならないので、システムによりレベル2の親品目とみなされます。部品表には実際の在庫品目を設定します。

キットの例: フィーチャ品目

たとえば、親品目はステレオで構成品およびオプションは次のとおりだとします。



キットの親と構成品の例

CDプレーヤーがキットのフィーチャであるとし、フィーチャについては、次のオプション品目から1つを選択できます。

- 5連装CDプレーヤー
- シングルCDプレーヤー

品目相互参照

「キット選択」フォームで、キット構成成品に対して品目相互参照チェックを実行できます。受注オーダーに引当可能数量の問題がある場合、受注オーダー入力プログラム(P4210)の「相互参照」処理オプションに設定された値を使用して、代替品目があるかどうかを検索されます。グリッド内にチェック・マークが表示され、代替品目の存在が視覚的に通知されます。代替品目を選択した場合、置換または代用された当初の構成成品の一部が取り消されます。また、構成成品が廃止になったり消耗したことも、警告メッセージが表示されることで視覚的に通知されます。

「品目相互参照」フォームにアクセスし、「キット選択」フォームから代替品目または置換品目があるかどうかを検索できます。「品目相互参照」フォームに入力した数量が置換品目の受注オーダーに戻されます。

必須構成成品に対して相互参照品目を選択すると、必須属性が新しい行に割り当てられ、当初の行を再選択できるようになります。当初の構成成品の残りの数量を取り消すかわりに、品目の選択を解除することで、当初の構成成品をキットから除外するように選択できます。部分的な代用が発生した場合、置換品目は当初の品目とは別に処理されます。改訂されたキット構成成品を検討するには、キット構成成品の表示プログラム(P420112)を使用します。P420112プログラムを使用すれば、代替品目に加えて、選択された標準構成成品を、キットの部品表を再展開することなく検討できます。

注意: JD Edwards EnterpriseOneシステムでは、キット構成成品の補足品目と販促品はサポートされません。

一括オーダーと見積オーダー

キット品目の一括オーダーと見積オーダーは、標準の在庫品目と同様に作成できます。オーダー入力時に「キット選択」フォームが表示され、一括オーダー用のキット構成成品を選択できます。

一括オーダーからキットをリリースすると、一括オーダーで選択した構成成品が受注オーダーにコピーされます。「キット選択」フォームは表示されません。P4210プログラムの処理オプションによって、受注オーダー入力時の単一および複数的一括オーダーの処理方法が決まります。顧客にキット品目用の複数的一括オーダーがある場合、受注オーダー入力時に適切な一括オーダーを選択するよう求めるプロンプトが表示されるか、取消日付に基づいて一括オーダーが選択されます。各一括オーダーから選択された数量については、受注オーダーに別の明細行が作成されます。

受注オーダー入力時に一括オーダーを手作業で選択していない場合、または一括オーダーが自動選択されるようにしていない場合は、「キット選択」フォームが表示されます。一括オーダーは、個々の構成成品ではなくキットの親品目に対してリリースする必要があります。数量はキットの親品目に対してのみ指定可能です。

一括オーダーの親の数量に対する変更が更新されます。オーダーのリリース時に構成成品に変更を加えた場合、当初の一括オーダーまたは見積オーダーは更新されません。

価格設定

キット・オーダーの親品目の数量と価格情報は変更できます。価格は再計算され、その価格変更は現行のオーダーのみに適用されます。価格を変更してそのまま維持する場合は、基本価格レコードで変更します。構成成品が個別に処理された後で、キットの価格または為替レート情報は変更できません。

品目マスター(F4101)の「キット/コンフィギュレータ価格設定方法」フィールドが1(構成成品リスト価格合計)または2(最終キットのリスト価格)に設定されている場合、分離調整はキットの親レベルで処理されます。「キット/コンフィギュレータ価格設定方法」フィールドが4(構成成品値引価格)に設定されている場合、分離調整は個々の構成成品レベルで処理されます。

キット作業オーダー

受注オーダーの入力時にキットに対する作業オーダーを作成すると、作業オーダーの処理終了後に親品目が作成され、その品目を在庫としてストックできます。作業オーダーの処理が完了すると、構成成品が手持数量から差し引かれ、親品目が在庫の手持数量に追加されます。親のキット品目を在庫にできるのはこのときだけです。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 9.0 製品ガイド、「作業オーダーおよびレート・スケジュール情報の管理」

キットの制約

次の優先情報はキット品目とは一緒に使用できません。

- 印刷メッセージ
- 製品割当
- 在庫引当

転送または直送オーダーにはキット情報は入力できません。キット用オーダーを入力するには、通常の受注オーダー入力プログラムを使用してキットを処理します。

親品目に対する自動運賃計算の設定はできません。運賃を自動計算するには、各構成成品の自動運賃計算を設定する必要があります。

キット処理について

受注処理のステップを通じてキット処理を進める場合、親と構成成品の両方のレベルでキットを管理できます。構成成品の個別出荷、複数の場所またはロットへの構成成品の割当、バックオーダーからの構成成品の個別リリース、親を問わない構成成品の請求書発行ができるようになります。

出荷確認プログラム (P4205) およびバックオーダー・リリース・プログラム (P42117) では、親または構成成品の一部数量をキットの整合性を失うことなく処理できます。構成成品がすでに個別に処理されていても、1つの親全体を処理すればキットの数量は調整されます。親品目の以降の出荷時には、構成成品の出荷が推奨数量に反映されます。品目マスター・プログラムの「整数丸め」フィールドの設定に基づいて数量は丸められます。

キット残数調整ウィンドウ・プログラム (P42055) を使用すれば、キットの親のトランザクションを満たす構成成品の推奨数量を検討、修正、確定できます。キット残数調整ウィンドウ・フォームには、確認のために、キットの親品目の現在のトランザクション情報が見出し領域に表示されます。フォームのグリッド領域には、各構成成品の残数量が表示されます。また参照情報として、以前にキットの親とは別に処理された構成成品があれば別のタブに表示されます。

P42055 プログラムでは、構成成品の計算済推奨数量を必要に応じて一時変更できます。構成成品の数量はオーダー数量まで増加できますが、オーダー数量を超える構成成品を出荷することはできません。追加の構成成品を出荷する必要がある場合は、個別の構成成品目として受注オーダーに別の行を入力する必要があります。

オーダー入力時に、キット・オーダーの親品目の数量と価格情報は変更できます。価格が再計算されて現行オーダーの価格に適用されます。オーダー入力時に変更された価格は現行オーダーのみに適用されます。価格を変更してそのまま維持する場合は、基本価格レコードで変更します。

受注オーダーでキットの親の行品目のフィールドを変更すると、構成成品の状況または構成成品が個別処理されたかどうかによって、現行の構成成品リストが更新されます。構成成品行の変更を更新するには、データ反映ロジックを使用するか、「キット選択」フォームを使用します。データ反映ロジックを使用すれば、「キット選択」フォームを表示することなく変更を更新できます。構成成品目を更新するには、親品目の状況が、キット・フィールドの変更を許可する状況になっている必要があります。

- 個別処理された構成部品がなく、すべての構成部品の状況が変更許可になっている場合、次の表のロジックを使用して受注オーダーのフィールドが更新されます。

フィールド	フィールド・エイリアス	更新ロジック
事業所	MCU (事業所)	「キット選択」フォーム
PC 1 (価格設定コード1)	UPC1	データ反映
PC 2 (価格設定コード2)	UPC2	データ反映
PC 3 (価格設定コード3)	UPC3	データ反映
約束納入日付	RSDJ	「キット選択」フォーム
約束出荷日付	PPDJ	「キット選択」フォーム
バックオーダー数量	SOBK	データ反映
取消数量	SOCN	データ反映
オーダー数量	UORG	「キット選択」フォーム
出荷数量	SOQS	データ反映
要求日付	DRQJ	「キット選択」フォーム
ピッキング予定日付	PDDJ	「キット選択」フォーム
出荷先	SHAN	データ反映
税目コード1	TXA1	データ反映
税率/税域	EXR1	データ反映
単位	単位	「キット選択」フォーム

価格設定コードを除くすべてのフィールドについて、親の値が構成品行にコピーされます。親の「価格設定コード」フィールドを変更すると、構成品の価格設定も変更される場合があります。ただし、「価格設定コード」フィールドの値は構成品行にコピーされません。

- 個別処理された構成部品があるか、変更不可の状況になっている構成部品がある場合、次の表のロジックを使用して受注オーダーのフィールドが更新されます。

フィールド	フィールド・エイリアス	更新ロジック
事業所	MCU (事業所)	変更不可
PC 1 (価格設定コード1)	UPC1	変更不可
PC 2 (価格設定コード2)	UPC2	変更不可
PC 3 (価格設定コード3)	UPC3	変更不可

フィールド	フィールド・エイリアス	更新ロジック
約束納入日付	RSDJ	データ反映
約束出荷日付	PPDJ	データ反映
バックオーダー数量	SOBK	変更不可
取消数量	SOCN	変更不可
オーダー数量	UORG	変更不可
出荷数量	SOQS	変更不可
要求日付	DRQJ	変更不可
ピッキング予定日付	PDDJ	データ反映
出荷先	SHAN	データ反映
税目コード1	TXA1	データ反映
税率/税域	EXR1	データ反映
単位	単位	変更不可

構成品の個別処理

キットの親から構成品が個別に処理されていると、価格とオーダー数量を変更できません。構成品の出荷、「キット残数調整ウィンドウ」フォームでの構成品の数量変更、構成品のバックオーダーからのリリースを行うことによって、構成品が個別に処理されます。

構成品目が個別に出荷されていると、親のオーダー数量を変更できません。オーダー数量を増加するには新しい明細行を入力します。オーダー数量を減少するには、出荷確認プログラム (P4205) を使用して、キットの残りを取り消すか、一部数量を取り消します。また、P4210プログラムの「ロー」メニューにある「行の取消」オプションを使用すれば、キットと関連する構成品全体の残数量を取り消すこともできます。

受注オーダー価格/原価のバッチ更新プログラム (R42950) を使用すれば、構成品目ごとに原価を更新できます。構成品が個別に処理された後で、キットの価格または為替レート情報は変更できません。

キットの取消

1つ以上の構成品の数量がすでに処理されている場合にキットの親の一部を取り消そうとすると、警告が表示されます。キットの親を取り消す前に、個別処理された構成品がすでに請求処理されていることを確認する必要があります。

親品目を取り消すと、構成品は自身の単価で請求処理されます。キットの親の価格は評価されません。P4205プログラムで親品目が完全に取消された場合、「キット残数調整ウィンドウ」フォームは表示されません。

キットの作業オーダー処理

部品と作業工程を添付するには、作業オーダー処理プログラム(R31410)を使用して作業オーダーを処理する必要があります。R31410プログラムを使用してオーダーを処理する場合、「受注/コンフィギュレーション」タブの「行タイプ」処理オプションの値がテキスト行のタイプに設定されていることが検証されます。この行タイプはテキスト行のタイプとして設定し、売上更新時に構成品の売上原価や棚卸資産の仕訳が書き込まれないようにする必要があります。これにより、出荷確認や売上更新の際に構成品が再度差し引かれなくなります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 9.0 製品ガイド、「作業オーダーおよびレート・スケジュール情報の管理」

コンフィギュレーション品目について

製造環境では、製造業者は比較的少ない構成品から様々な最終製品を組み立てます。コンフィギュレーション品目は、顧客が要求する様々な機能で構成されています。たとえば自動車を製造販売する場合、同じタイプの自動車に異なる機能や、エンジンのサイズおよびトランスミッションのタイプなどのオプションを付けて販売することもあります。コンフィギュレーション品目を設定するときに、ペイントの色やパワータイプなど品目の特徴となるセグメント(フィーチャまたはオプション)を定義します。コンフィギュレーション品目に半組立品を組み入れることもできます。たとえばコンフィギュレーション品目の自動車に、構成済半組立品であるトランスミッションを含めることが可能です。

コンフィギュレーション品目オーダー

製造および生産工程を販売と連携して管理することにより、顧客の需要が確実に満たされるようになります。たとえば自動車を製造販売する場合、同じタイプの自動車に様々なフィーチャ品やオプション品を付けて販売できます。

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムをJD Edwards EnterpriseOne受注管理システムと連携して使用すれば、次のような品目を販売できます。

- 複雑な品目
- フィーチャ品やオプション品によって作業工程が変更になる品目
- 他のフィーチャと一緒に使用できないフィーチャを含む品目
- 組立品を定義するために、複数の作業オーダーが必要な品目

コンフィギュレーション品目の受注オーダーを入力すると、JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムでは、その品目のセグメント値を入力するようプロンプトが出ます。セグメントとは、色やサイズ、素材、パワータイプなど、コンフィギュレーション品目のフィーチャのことです。選択した規則やUDCテーブルなどのユーザー定義情報に対して、セグメント値が確認されます。コンフィギュレーションの確認が正常に終了すると、オーダーが処理されます。

受注オーダーを入力してコンフィギュレーション品目用の作業オーダーを生成したら、JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムの次のプログラムを使用して、受注処理サイクルを完了します。

- ピッキング・リストの印刷(R42050)
- 出荷確認(P4205)
- 請求書の印刷(R42565)
- 売上更新(R42800)

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- キット品目が在庫内に設定されていることを確認します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「キットの処理」、「キット情報の入力」

- キットの部品表が作成されていることを確認します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理 9.0 製品ガイド、「部品表の設定」

- コンフィギュレーション品目が設定されていることを確認します。

キット品目とコンフィギュレーション品目のオーダー入力に使用するフォーム






フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
受注残/完了オーダー照会	W4210E	「受注オーダー処理」(G4211)、「受注明細」	受注オーダー明細レコードの確認と選択を行います。
受注オーダー明細の改訂	W4210A	「受注残/完了オーダー照会」フォームでレコードを選択し、「OK」をクリックします。	フォームの明細部分で、品目情報の追加と改訂を行います。 受注オーダー見出しを入力しない場合の品目情報に加えて、行のデフォルト情報を入力します。
キット選択	W41351A	「受注オーダー明細の改訂」フォームでキット品目のオーダーを入力します。	キット構成品を選択します。
コンフィギュレーション品目 <品目番号 - 記述>	W3210B	<ul style="list-style-type: none"> • 「日次処理」(G32)、「受注オーダーの入力」 • 「受注残/完了オーダー照会」フォームで「追加」をクリックします。 • 「受注オーダー明細の改訂」フォームで、コンフィギュレーション品目のオーダーを入力して、「OK」をクリックします。 	コンフィギュレーション品目の属性を選択します。

キット構成品の選択

「キット選択」フォームにアクセスします。

受注明細 - キット 選択 i ?





OK(O) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)


    

事業所 30

品目 No. 2400 *Bike Accessory Kit*

数量 1 EA

レコード 1 - 4 グリッドのカスタマイズ    

	SEL	オプション +/-	記述	単位 数量	引当可能 数量	単位	行 タイプ	要求 日付	前 状況	次 状況
<input type="radio"/>		F +	Helmet Feature Parent Item		0	EA	S	2005/07/08		
<input type="radio"/>	*	S	Water Bottle w/ Cage	1	485	EA	S	2005/07/15	520	530
<input type="radio"/>		O	Gloves - Cloth	1	613	EA	S	2005/06/21	520	530
<input checked="" type="radio"/>	*	S	Tire Repair Kit	1	930	EA	S	2005/06/21	520	530

「キット選択」フォーム

キットの親を構成する構成品目を選択または選択解除するには、「ロー」メニューの「構成品の選択」を選択して使用します。また、添付カラムをダブルクリックしても構成品目を選択できます。

単位数量

キットの親品目を完了するために必要な構成品の数を入力します。初期数量はキットの親の部品表に基づいて計算されます。

コンフィギュレーション品目の属性の選択

「コンフィギュレーション品目 <品目番号 - 記述>」フォームにアクセスします。

受注明細 - コンフィギュレーション品目 6000 - Forklift

オーダーに追加(D) 取消(L)

レコード 1 - 5

メッセージ・センター
✓ Valid Configuration
● 価格(国内通貨) : 106,070
● 原価(国内通貨) : 23,725

レコード 1 - 10

品目フィルタ 全品目 アクション Edit Item / Price / Cost

品目属性	必須/任意	回答の選択	回答の入力
Forklift Rating	必須	4000ポンド積載能力	
Power Type	必須	ガス・エンジン	
Boom Height	必須	10フィートブーム	
Interior	任意	-- 1つ選択 --	
Paint	任意	標準ペイント	
Propane Tank	任意	-- 1つ選択 --	
Calculated Counter Weight	計算		2190.106342212
Additional fork (spare)	必須	不要	
Lift Speed	必須	標準ポンプ	

コンフィギュレーション校証 デフォルトに戻す(U)

「コンフィギュレーション品目 <品目番号 - 記述>」フォーム

コンフィギュレーション品目の各属性の「回答の選択」フィールドに適切な値を入力します。

定期受注オーダーの処理

この項では、定期受注オーダーの概要と、次の方法について説明します。

- 定期オーダー・プログラム (P4004Z) の処理オプションの設定
- 定期受注オーダーの作成
- 定期受注オーダー情報の入力
- 定期オーダーの編集/作成プログラム (R40211Z) の処理オプションの設定
- 定期オーダーの処理

定期受注オーダーについて

「定期オーダー入力」フォームを使用して定期オーダーを作成すると、オーダー入力を効率化できます。定期オーダーを作成すると、同じ内容のオーダーを手作業で再入力する必要がなくなります。週、月、または年ごとにオーダーを自動的に再入力することが可能です。

オーダー処理の頻度は次のように指定できます。

- ・ 日(D)を指定する場合は、オーダーを処理する曜日を指定できます。
- ・ 週(W)または月(M)を指定すると、入力した「次のオーダー日付」を基準として将来の処理日付が計算されます。

入力した定期オーダーは、定期オーダーの編集/作成プログラム(R40211Z)を使って処理する必要があります。入力した情報は編集されて、指定した日付にオーダーが作成されます。データの整合性を保つために、定期受注オーダーは編集処理の終了後にのみ作成されます。

エラーのあるオーダーは、未処理としてバッチ入荷確認テーブルに残ります。この情報を修正して、R40211Zプログラムを再度実行する必要があります。

定期受注オーダーの処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オフライン処理オーダーの処理	W4004ZC	「追加オーダー処理」(G4212)、「定期オーダー入力」	オフライン受注オーダーを検討します。
オフライン処理オーダーの改訂	W4004ZA	「オフライン処理オーダーの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	定期受注オーダーの作成と改訂を行います。
定期オーダー情報	W4004ZE	「オフライン処理オーダーの改訂」フォームの「フォーム」メニューの「定期オーダー」を選択します。	定期受注オーダー情報の入力と改訂を行います。

定期オーダー・プログラム(P4004Z)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、定期オーダー・プログラム(P4004Z)のデフォルト値、バージョン、処理、カスタム・セルフサービス情報を指定します。

デフォルト

この処理オプションでは、新しい受注オーダーを作成する場合のデフォルト値を指定します。

1. オーダータイプ

伝票タイプを識別する値をUDC 00/DTから入力します。受注オーダー処理伝票の場合は、「S」と入力します。このコードはトランザクションの発生元を示します。

伝票、請求書、領収書、およびタイム・シートの伝票タイプ・コードが予約されており、転記プログラムを実行したときに自動的に相殺仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)

2. 行タイプ

トランザクションの行の処理方法を指定するコードを入力します。行タイプによって、JD Edwards EnterpriseOne一般会計、JD Edwards EnterpriseOne作業原価、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理、JD Edwards EnterpriseOne在庫管理など、連動して取引を処理するシステムが制御されます。値は「行タイプ固定情報の改訂」フォームで定義され、次のものが含まれます。

S: 在庫品目

J: 作業原価

N: 非在庫品目
 D: 直送品目
 F: 運賃
 T: テキスト情報
 M: その他の料金および返品
 W: 作業オーダー

3. 開始状況 このオーダー行の処理が正常に完了した、処理サイクル内の最後のステップを指定するコードをUDC 40/ATから入力します。
4. 一時変更用次状況 行タイプのオーダー・フローにおける次のステップを指定するコードをUDC 40/ATから入力します。
5. 行番号増加分 受注オーダー明細行の行番号の増分値を指定する値を入力します。

バージョン

この処理オプションでは、使用するプログラムのバージョンを指定します。

1. 受注オーダー入カマスタ・ビジネス関数 (P4210) アプリケーションおよびレポートのビジネス・ロジックの処理方法を制御するために使用する受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを入力します。
2. バッチトランザクション・エディタ (R40211Z) 新しい受注オーダーの作成に使用するバッチ・トランザクション・エディタ・プログラム (R40211Z) のバージョンを入力します。
3. オーダー・テンプレート (P4015W) 「定期オーダーの追加」フォームからオーダー・テンプレート・プログラムが呼び出されたときに使用される、オーダー・テンプレート・プログラム (P4015W) のバージョンを入力します。

この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

処理

この処理オプションでは、定期受注オーダーの処理方法を指定します。

1. バッチトランザクション・エディタにバッチ・オーダーを自動的に送信 「1」を入力するとサブシステム・モードでR40211Zプログラムが自動的に送信され、「2」を入力するとオンライン・モードでR40211Zプログラムが呼び出されます。
2. 完全編集または部分編集モードでの処理 「1」を入力すると、R40211Zプログラムが完全編集モードで処理され、ブランクのままにすると部分編集モードになります。

カスタマ・セルフサービス

この処理オプションでは、カスタマ・セルフサービスを使用して定期オーダーを処理する方法を指定します。

1. カスタマ・セルフサービス (CSS) 機能 「1」を入力すると、カスタマ・セルフサービス機能が有効になります。ブランクのままにするとカスタマ・セルフサービス機能はバイパスされます。

2. カスタマ・セルフサービスの住所構造タイプ (CSSのみ)

これをブランクのままにしておくと、ユーザーは住所番号レコードで指定した住所番号に関係したリストの値から選択できます。

組織構造タイプの値をUDC 01/TSから入力します。ユーザーは、構造タイプを介してユーザーの住所番号に関係した住所をリストから選択できるようになります。アプリケーションでは、ユーザー自身の住所録番号と関連するアドレスのリストから住所録番号を選択できます。このような住所番号は、ユーザーの住所録レコードの関連住所として定義されるか、組織構造タイプを介してユーザーと関連付けられています。組織構造タイプは、ユーザーの住所録番号と、ユーザーの組織に属している別の住所録番号との関係をシステムが認識するために使用されます。

3. ユーザーの住所デフォルト (CSSのみ)

ブランクのままにしておくと、販売先見出しのユーザーIDが自動入力され、「1」を入力すると、出荷先見出しのユーザーIDが自動入力されます。

4. 販売先/出荷先住所の一時変更許可 (CSSのみ)

ブランクのままにしておくと、一時変更は許可されません。「1」を入力すると、カスタマ・セルフサービス・モードの見出しレベルでの「販売先」フィールドと「出荷先」フィールドの一時変更を有効にします。

5. 顧客品目相互参照タイプ (CSSのみ)

顧客品目番号を使用して相互参照情報を検索するためのコードを示す値をUDC 41/DTから入力します。

相互参照により、自社の品目番号と顧客の品目番号が関連付けられます。品目マスター (F4101) に品目を設定して、品目相互参照の改訂プログラム (P4104) で相互参照情報を作成します。

定期受注オーダーの作成

「オフライン処理オーダーの改訂」フォームにアクセスします。

標準の受注オーダー情報を入力します。

参照: 第 7 章、「受注オーダーの入力」、「受注オーダー見出しおよび明細情報の入力」、129 ページ

定期受注オーダー情報の入力

「定期オーダー情報」フォームにアクセスします。

定期オーダー入力 - 定期オーダー情報									
OK(O) 取消(L) ツール(T)									
<div>    </div>									
オーダー生成頻度	WW	週次							
次回オーダー日付	2005/07/27	曜日	日	月	火	水	木	金	土
オーダー停止日付			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

「定期オーダー情報」フォーム

オーダー生成頻度

オーダーの再生成頻度を示す値をUDC 40/OFから入力します。

次回オーダー日付

オーダーが処理される次回の日付を入力します。

オーダー停止日付

このオーダーに対して、定期オーダーを以降作成しない日付を入力します。

曜日

定期ジョブの実行を、選択したフィールドの曜日に限定します。定期ジョブが実行されて次回の実行日が計算されると、その結果の日付と選択した曜日が比較されます。結果の日付が、選択した曜日に対応しない場合、次回の実行日にあわせて調整されます。

定期オーダーの編集/作成プログラム(R40211Z)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、定期オーダーの編集/作成プログラム(R40211Z)のデフォルトの処理とバージョンを指定します。

処理

この処理オプションでは、実行する処理を指定します。

1. 引当可能数量チェックと
キット残高調整の実行 引当可能数量チェックとキット残高調整を実行するかどうかを指定します。
値は次のとおりです。
 ブランク: 引当可能数量チェックまたはキット残高調整を実行しません。
 1: 引当可能数量チェックおよびキット残高調整が実行されます。
2. 価格の一時変更 価格の一時変更を許可するか、F4106テーブルにある単価を使用するか
を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: F4106テーブルの単価を使用します。
 1: 価格の一時変更を許可します。
3. 処理するオーダー 定期オーダーを処理するか、または一時保留されている受注オーダーを
接続解除モードで処理するかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 定期オーダーを処理します。
 1: 一時保留されている受注オーダーを接続解除モードで処理します。

バージョン

この処理オプションでは、定期オーダーの作成に使用するバージョンを指定します。

1. 受注オーダー入力の
バージョン アプリケーションおよびレポートのビジネス・ロジックの処理方法を制御す
るために使用する受注オーダー入力プログラム(P4210)のバージョンを入
力します。
2. 見積オーダー・バージョン 見積オーダーのバージョンを入力します。このフィールドをブランクにする
と、バージョンZJDE0003が使用されます。

コンフィギュレータ処理オプション

この処理オプションでは、コンフィギュレーション品目の処理方法を決定します。

- | | |
|--------------------------------|---|
| コンフィギュレーション品
目の在庫分割 | オーダー作成処理時のコンフィギュレーション品目の分割オプションを指
定します。値は次のとおりです。
ブランク: 分割を使用不可にします。
1: 2分割を可能にします。
2: 多重分割を可能にします。 |
|--------------------------------|---|

定期オーダーの処理

「追加オーダー処理」(G4212)、「定期オーダーの編集/作成」を選択します。

オフライン処理を使用したオーダーの入力

この項では、オフライン処理、ワークステーションへのマスター・テーブルのダウンロード、オフラインでのオーダーの作成、サーバーへの受注オーダーのアップロード、バッチ受注オーダーの処理、バッチ受注オーダーの修正、および一括バッチ処理の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- ワークステーションへのマスター・テーブルのダウンロード
- オフライン処理のオーダーの入力
- サーバーへの受注オーダーのアップロード
- バッチ編集/作成プログラム(R4210Z)の処理オプションの設定
- バッチ受注オーダーの処理
- バッチ受注オーダーの修正

オフライン処理について

オーダーのオフラインまたはバッチ処理では、JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムで受注オーダーを処理する前に、大量の受注オーダーを入力および管理するための効率のよい方法が提供されます。たとえば、遠隔地にいてサーバーにアクセスする専用線がない場合は、通常の業務時間中に受注オーダーをワークステーションにローカルに作成することで生産性と費用効果を向上できます。その後、その受注オーダーをサーバーにアップロードしてオフピーク時に処理できます。

ペースの速い大容量環境においては、受注オーダーをバッチ入力することで次の機能を実現できます。

大量の品目の迅速な入力 オーダーの作成には業種別顧客マスター(F03012)のデフォルト情報のほとんどが使用されるため、入力する必要のある情報は限定されます。

最適な情報処理 日中に受注オーダーを生成し、後でその受注オーダーを処理できます。

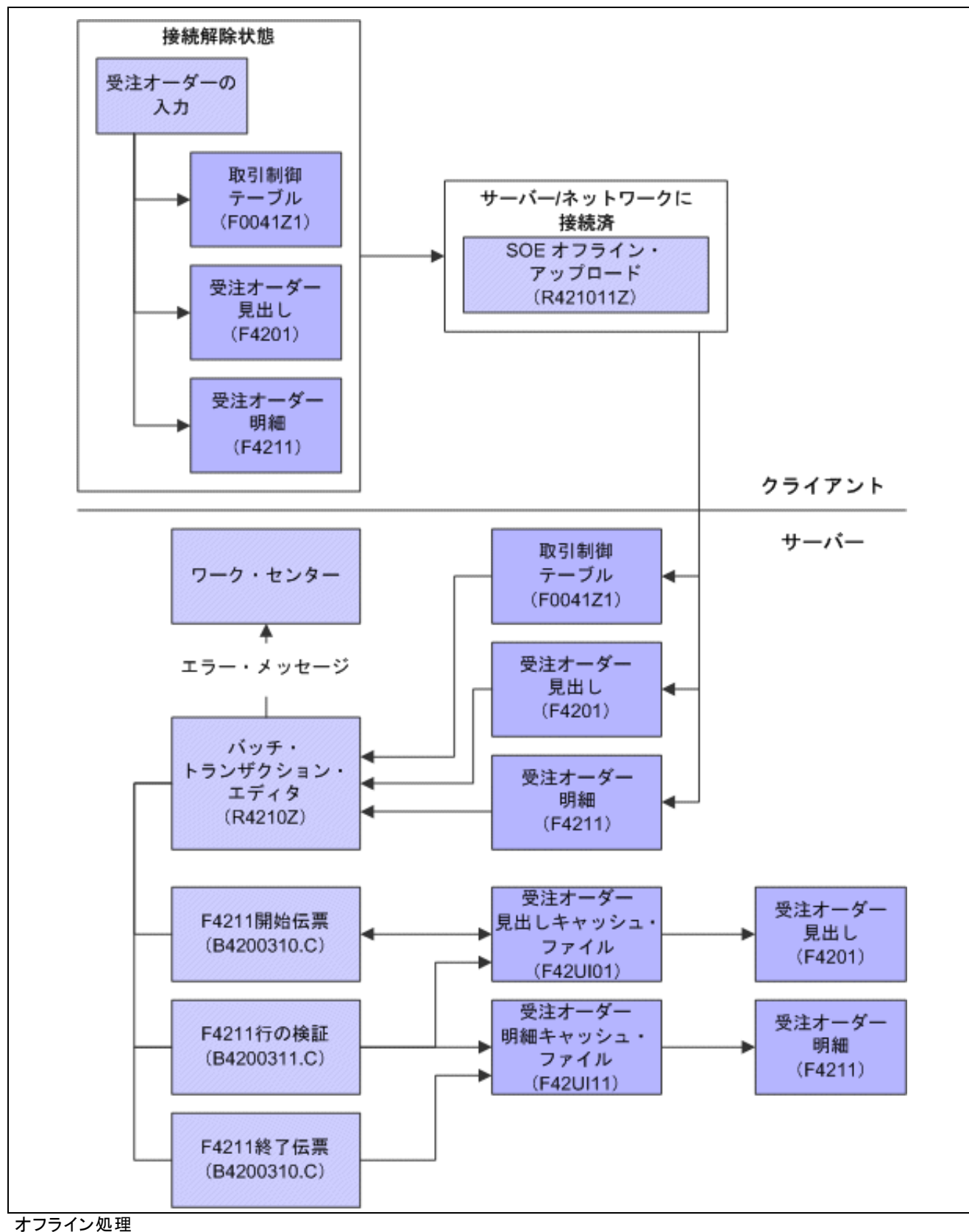
警告: オーダーのオフライン処理を設定して使用する前に、自動採番機能を設定する必要があります。

入力した見出し情報は受注オーダー見出し未編集トランザクション・ファイル・テーブル(F4201Z1)に転送され、明細情報は受注オーダー明細未編集トランザクション・ファイル・テーブル(F4211Z1)に転送されます。転送されたデータは、オーダー処理の準備ができるまでこれらのテーブルに保存されます。

複数オーダー処理の準備ができたなら、バッチ編集/作成プログラム(R4210Z)を実行する必要があります。オーダー情報は編集され、データが受注オーダー見出し(F4201)テーブルと受注オーダー明細(F4211)テーブルに転送されます。

受注オーダーを生成するには、バッチ編集/作成プログラムを実行する必要があります。オーダーが作成されると、そのオーダーのあらゆる明細情報を行単位で変更できます。

次の図は、オフライン処理の流れを示しています。



オフライン処理

ワークステーションへのマスター・テーブルのダウンロードについて

ワークステーションで受注オーダーを作成する前に、オフライン・ダウンロード・プログラム (P00140) を使用して各種テーブルをサーバーからダウンロードする必要があります。取引の作成および検証にこれらのテーブルが必要です。たとえば、受注オーダーの作成に必要な仕入先情報を得るには、住所録マスター (F0101)、品目マスター (F4101)、業種別顧客マスター (F03012) をダウンロードする必要があります。

F4201 テーブルを除くすべてのテクニカル・データ・テーブルとビジネス・データ・テーブルにデータが存在することを確認する必要があります。マスター・テーブルをワークステーションにダウンロードして、データが存在しない場合は、環境データベースの作成プログラム (R98403) を使用して各マスター・テーブルを個別にダウンロードできます。ネットワークを切断する前に、ダウンロードの完全性をテストする必要があります。たとえば、ワークステーションで受注オーダーを作成できます。

オフライン処理で使用するワークステーションには、特定のビジネス・データ・テーブルが存在する必要があります。ビジネス・データ・テーブルに加えて、テクニカル・データ・テーブルもダウンロードする必要があります。ワークステーションにダウンロードするデータ・テーブルを次の表に示します。

テーブル	名称
F0004	ユーザー定義コード・タイプ
F0005	ユーザー定義コード
F0006	ビジネスユニット・マスター
F0006D	ビジネスユニット代替記述マスター
F0008	会計期間パターン
F0008B	会計期間パターン - 52 期間会計
F0009	一般会計固定情報
F0010	会社固定情報
F0012	AAI マスター
F0013	通貨コード
F0014	支払条件
F0022	税規則
F0041Z1	取引制御
F0101	住所録マスター
F0111	住所録 - 人名録
F0116	日付別住所
F0150	住所組織構造マスター

テーブル	名称
F03012	業種別顧客マスター
F0401	仕入先マスター
F0901	勘定科目マスター
F0907	勘定科目表形式
F40073	優先階層
F4008	税域
F4009	流通/製造固定情報
F40095	デフォルト事業所/プリンタ
F4013	オーダー処理相互参照
F40205	行タイプ制御固定情報
F4070	価格調整スケジュール(価格管理を使用する場合のみ)
F4071	価格調整タイプ(価格管理を使用する場合のみ)
F4072	価格調整明細(価格管理を使用する場合のみ)
F4075	価格変動コード(価格管理を使用する場合のみ)
F4092	グループ・コード・キー定義テーブル
F4094	品目/顧客キーIDマスター
F41001	在庫固定情報
F41002	単位換算係数
F41003	単位標準換算
F4101	品目マスター
F4102	事業所品目
F4106	品目基本価格
F4201	受注オーダー見出し
F4207	品目別価格
F4208	顧客別価格

テーブル	名称
F4211	受注オーダー明細
F4801	作業オーダー・マスター

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータなどの他のJD Edwards EnterpriseOneシステムに影響するトランザクション用に追加のビジネス・テーブルのダウンロードが必要になる場合があります。コンフィギュレーション品目のサポートのためにダウンロードするテーブルを次の表に示します。

テーブル	名称
F3294Z	コンフィギュレータ・バッチ・セグメント
F32943	コンフィギュレーション・ストリング履歴
F3296	コンフィギュレータ・レベル/順序
F3296T	コンフィギュレータ・レベル/順序タグ
F32961	コンフィギュレータ原価/価格調整
F329611	コンフィギュレータ明細原価/価格調整

オフラインでのオーダーの作成について

マスター・テーブルをワークステーションにダウンロードしたら、オフライン環境で標準の受注オーダーを作成できます。受注オーダーは、サーバーにアップロード(転送)して処理するまで、ワークステーションに保存しておきます。

オフラインで受注オーダーを作成すると、次の処理が実行されます。

- テーブルからダウンロードした情報に基づいて、各受注オーダーが編集されてチェックされます。
- 受注オーダーごとに状況1(処理準備完了)の取引制御レコードが、取引制御テーブル(F0041Z1)に保管されます。
- 受注オーダー入力のバージョンが作成され、処理オプションが設定されます。

オフライン処理のアップロード・プログラム(R421011Z)を実行すると、履歴フィールドに重複する受注オーダー番号がないかどうかチェックされます。バッチ・オーダー番号が重複する場合、新しい番号が受注オーダーに割り当てられて、F4201テーブルとF4211テーブルにある当初のオーダー番号の重複オーダー番号が参照されます。

サーバーへの受注オーダーのアップロードについて

ワークステーションで受注オーダーを作成したら、オフライン・トランザクションのアップロード・プログラム(R421011Z)を使用してその受注オーダーをサーバーにアップロードして処理する必要があります。これを行うには、まず、サーバーに接続して本稼働用環境にサインインし、ジョブをローカルで送信する必要があります。

受注オーダーをアップロードすると、次の処理が実行されます。

- サーバーのF4201テーブルとF4211テーブルにレコードが作成されます。

- レコードがサーバーに正常にアップロードされると、ワークステーションのファイルは削除されます。
ワークステーションの受注オーダーの状況が1(処理準備完了)または2(エラー)の場合は、その受注オーダーをワークステーションで変更できます。
- サーバー上で各受注オーダーに対するトランザクション制御レコードが作成され、状況コード1(処理準備完了)が割り当てられます。

アップロードしたすべての受注オーダーに対して、伝送アップロード・レポートが作成されます。このレポートを使用して、オーダーが正しくアップロードされたことを確認します。

注意: システムのパフォーマンスを最適化するには、オフピーク時に受注オーダーをアップロードします。

バッチ受注オーダーの処理について

受注オーダーを後で処理する場合は、バッチ編集/作成プログラム(R4210Z)を実行する必要があります。入力した情報が編集されて、すべてのオーダーが一度に作成されます。データの整合性を保つため、編集処理が完了した後にのみバッチ・オーダー用の受注オーダーが作成されます。

エラーのあるオーダーは、未処理としてバッチ入荷確認テーブルに残ります。エラーを修正して、バッチ編集/作成プログラムを再度実行する必要があります。

「バージョンの処理 - 使用可能なバージョン」で、既存のバージョンを選択するか新しいバージョンを作成して、バッチ受注オーダーを処理します。

アップロードした受注オーダーを処理するときは、バッチ入力の受注オーダー処理に使用するのと同じプログラムを使用します。

バッチ状況コードを確認すれば、オーダーが処理のどの段階にあるかを識別できます。次のコードを使用して、オーダーの状況が識別されます。

状況コード	値
1	トランザクションは処理可能。
2	トランザクションにエラーあり。
3	トランザクションの処理中。
4	アップロード伝送中。
5	システム使用不可。サーバーからの応答待ち。
6	トランザクションは完了し、サーバーのF4201とF4211テーブルに更新済。

関連項目:

第 11 章、「受注オーダーの処理」、289ページ

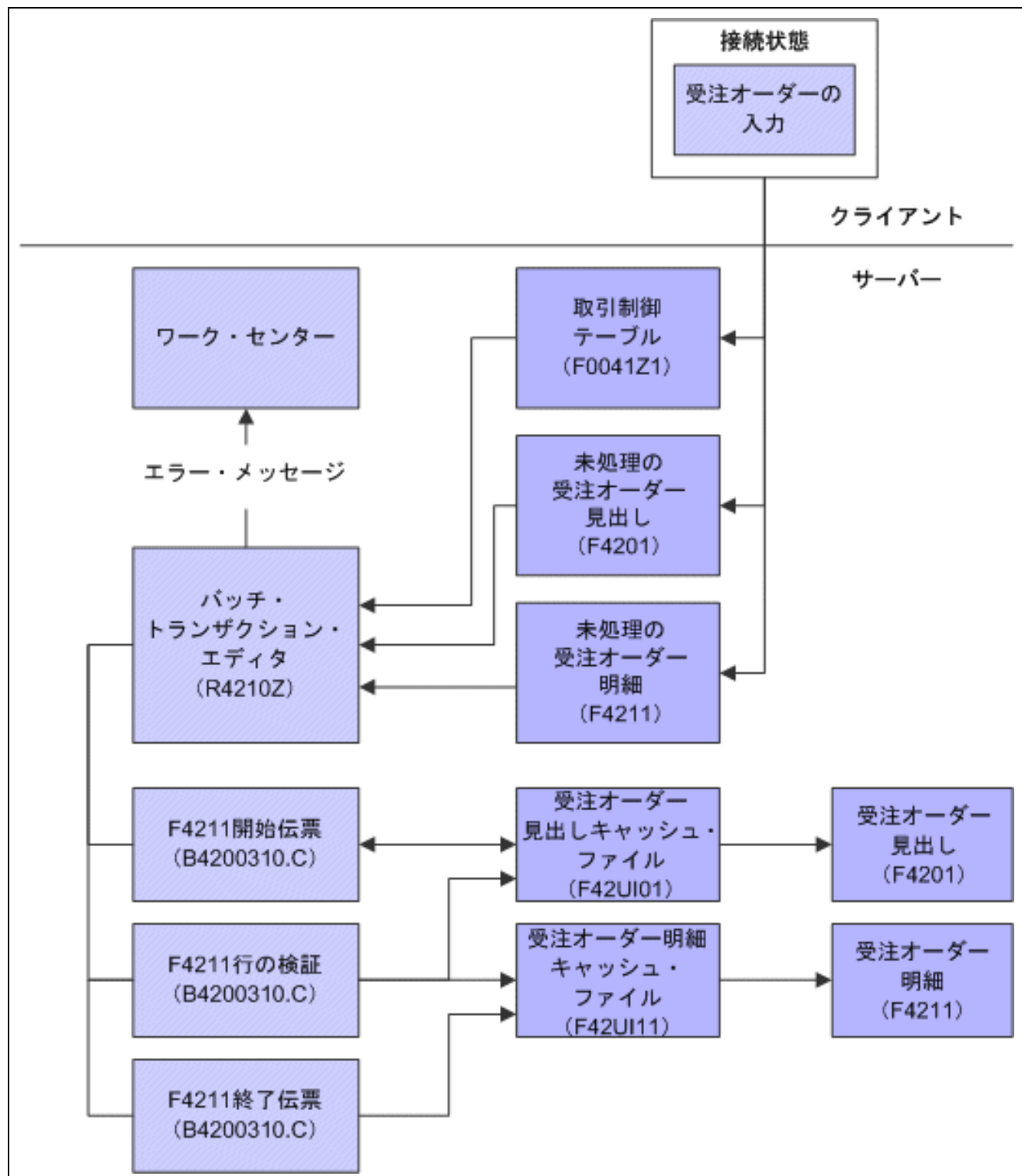
バッチ受注オーダーの修正について

バッチ編集/作成プログラム(R4210Z)を実行した後、エラーのあるオーダーについては見出し情報と明細情報を修正する必要があります。伝送内に差異がある場合、オーダーが作成されて、そのオーダーは差異保留の状態にされます。たとえば、転送された合計価格がシステム生成価格よりも大幅に異なる場合、オーダーは保留されます。保留の警告は、R4210Zプログラムが生成するレポートで確認できます。オーダーは、保留オーダー・リリース・プログラム(P43070)を使用してリリースできます。情報を修正したら、R4210Zプログラムを再度実行してオーダーを処理できます。

一括バッチ処理について

一括バッチ処理では、オフライン・モデルが持つパフォーマンス上の利点があるだけでなく、ダイレクト接続モデルにおけるトランザクション・データのリアルタイム更新も可能です。一括バッチ処理ではオフライン処理が使用されますが、ワークテーブルはローカルにマッピングされるのではなく、サーバーにマッピングされます。

次の図は、一括バッチ処理の流れを示しています。



一括バッチ処理

一括バッチ処理は対話形式で使用したり、サブシステム処理と組み合わせて使用できます。一括バッチ処理をサブシステム処理で使用する場合は、完了したトランザクションごとにデータ・キューにレコードが書き込まれ、これによりサブシステムが起動されてオーダーが処理されます。最初のオーダーがサーバーで処理されている間に、次のトランザクションを引き続き処理できます。ワーク・センター・プログラム (P012502) にすべてのエラー・メッセージが送信されます。新しいメッセージが送信されたときにプロンプトを表示するか、またはすべてのメッセージを待ってから表示するようオプションを設定できます。

対話形式の処理を使用する場合、オーダーが処理される前にオーダーの承認プロンプトが表示されるように、P4210プログラムの処理オプションを設定できます。

事前設定

オフライン・オーダーを正常に処理するには、次の作業を実行する必要があります。

1. 受注オーダーのオフライン処理を実行する前に、必要なテクニカル・マスター・テーブルがシステム管理者によりダウンロードされていることを確認します。
2. サーバーに接続して本稼働用環境にサインインし、ワークステーションにマスター・テーブルをダウンロードします。
3. システムにサインインする際は、「環境」フィールドで適切な環境を選択します。「詳細」をクリックして環境名にアクセスします。
4. P4210プログラムとバッチ編集/作成 (R4210Z) プログラム用の適切な編集モードの処理オプションを設定します。

オフライン処理を使用したオーダーの入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オフライン処理オーダー照会	W4210E	「追加オーダー処理」(G4212)、「オーダーのバッチ入力」	オフライン処理のオーダーを入力します。 バッチ受注オーダーを修正します。

ワークステーションへのマスター・テーブルのダウンロード

ワークステーションにマスター・テーブルをダウンロードするには、次の手順に従います。

1. 「追加オーダー処理」(G4212)、「オフライン処理テーブルのダウンロード」を選択します。
2. 「使用可能なバージョン」フォームで、オフライン・ダウンロード・プログラムのバージョンを選択し、「選択」をクリックします。
3. 「バージョン・プロンプト」フォームで、「データ選択」オプションを選択してダウンロードする情報を制限し、「送信」をクリックします。
4. 「データ選択」フォームで、データを選択し、「OK」をクリックします。
5. 「プリンタの選択」フォームで「OK」をクリックします。

注意: ダウンロードするテーブルの完全な説明を表示できます。これを行うには、「使用可能なバージョン」フォームで適切なバージョンを選択し、「ロー」メニューから「バージョン詳細」を選択します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Configurable Network Computing Implementation Guide

オフライン処理のオーダーの入力

「オフライン処理オーダー照会」フォームにアクセスします。

オフライン処理のオーダーを入力するには、次の手順に従います。

1. 「追加」をクリックします。
2. 「オフライン処理明細の改訂」フォームで明細情報の入力手順を完了します。
3. 「フォーム」メニューの「トランザクション制御」を選択して、トランザクションの制御にアクセスします。
4. 「トランザクション制御の改訂」フォームの次のフィールドを必要に応じて改訂します。
 - ・ 状況コード
 - ・ 承認コード
 - ・ クライアント通知
5. 「OK」をクリックし、続いて「取消」をクリックします。
6. 「オフライン処理明細の改訂」フォームで「OK」をクリックします。
7. オーダーを自動処理するように処理オプションが設定されていない場合は、オーダーを送信して処理を実行します。

または、バッチ編集/作成プログラム(R4210Z)を実行して、後で受注オーダーを処理します。

オーダーを入力すると、状況コードは1になります。この状況のオーダーのみがワークステーションからサーバーにアップロードされます。

いつオーダーを処理するかに関係なく、R4210Zプログラムでは情報が編集され、受注オーダーが作成されます。エラーがない場合、情報はF4201テーブルとF4211テーブルに追加されます。

サーバーへの受注オーダーのアップロード

サーバーに受注オーダーをアップロードするには、次の手順に従います。

1. 「追加オーダー処理」(G4212)、「オフライン・トランザクションのアップロード」を選択します。
2. 「使用可能なバージョン」フォームで、オフライン・アップロード・プログラムのバージョンを選択し、「選択」をクリックします。
3. 「バージョン・プロンプト」フォームで「データ選択」オプションを選択し、「送信」をクリックして、アップロードする情報を制限します。
4. 「データ選択」フォームで、データを選択し、「OK」をクリックします。
5. 「プリンタの選択」フォームで「OK」をクリックします。

バッチ編集/作成プログラム(R4210Z)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、バッチ編集/作成プログラム(R4210Z)のデフォルトの処理とバージョンを指定します。

処理

この処理オプションでは、実行する処理を指定します。

1. 引当可能数量チェックと
キット残高調整の実行 「1」を入力すると、引当可能数量チェックおよびキット残高調整が実行されます。

2. 価格の一時変更

価格を一時変更するかどうかを示す値を入力します。値は次のとおりです。

ブランク: F4106テーブルの単価を使用します。

1: 価格を一時変更します。

バージョン

この処理オプションでは、使用するP4210のバージョンを指定します。

1. 受注オーダー入力のバージョンIDを入力してください。

受注オーダーの生成に使用する受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを指定します。

コンフィギュレータ

この処理オプションでは、コンフィギュレータ・オーダーの処理方法を指定します。

コンフィギュレーション品目の在庫分割

将来使用されます。

コンフィギュレータ・オーダーを再作成するか、そのままコンフィギュレータ・オーダーを受け入れる

コンフィギュレータ・オーダーを再作成するか、またはコンフィギュレータ・オーダーをそのまま受け入れるかを指定します。

ブランク: コンフィギュレータ・オーダーをそのまま受け入れます。

1: コンフィギュレータ・オーダーを再作成します。

バッチ受注オーダーの処理

「追加オーダー処理」(G4212)、「オーダーのバッチ編集/作成」を選択します。

バッチ受注オーダーの修正

「オフライン処理オーダー照会」フォームにアクセスします。

バッチ受注オーダーを修正するには、次の手順に従います。

1. 修正が必要な受注オーダーを検索します。
2. 「ロー」メニューの「オーダー」を選択し、次のいずれかのフォームを選択して受注オーダー情報を必要に応じて改訂します。
 - ・ オフライン処理見出しの改訂 (受注オーダー見出しの改訂)
 - ・ オフライン処理明細の改訂 (受注オーダー明細の改訂)
 - ・ トランザクション制御の改訂 (トランザクション制御)
3. バッチ編集/作成プログラム (R4210Z) を実行してオーダーを処理します。

マトリックス品目の受注オーダー入力

この項では、マトリックス品目の受注オーダー入力の概要、事前設定、およびマトリックス品目の受注オーダーの入力方法について説明します。

マトリックス品目の受注オーダー入力について

消費者パッケージ商品 (CPG) 業界では、基本的な特性は同じでも様々なバリエーションがある製品を取り扱います。たとえば、シャツとジャケットについての在庫があるとします。しかし、このシャツに関して、スタイルやサイズ、袖の長さ、色などの多くの属性についての顧客の必要があります。各シャツはボタンダウンとプルオーバーの2つの異なるスタイルに分かれます。さらに、各シャツのサイズはSサイズからXLサイズに分類でき、また色でも5種類に分類できます。ただし、保管条件、出荷、価格など、シャツの基本的な特性は同一のままです。

事前設定

次の作業を実行する前に、マトリックス品目が在庫に設定されていることを確認してください。

マトリックス品目の受注オーダー入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
マトリックス・オーダー入力	W41902A	「受注オーダー処理」 (G4211)、「受注明細」 「受注残/完了オーダー照会」フォームで「追加」をクリックします。「受注オーダー明細の改訂」フォームで、マトリックス品目の行を追加し、「OK」をクリックします。「マトリックス・オーダー入力」フォームで、オーダーされる品目ごとにローを選択し、製品のバリエーションごとに数量を指定します。	マトリックス品目の受注オーダーを入力します。
マトリックス・オーダー入力	W41902A	「受注オーダー処理」 (G4211)、「受注明細」 「受注残/完了オーダー照会」フォームで、オーダーを検索して選択します。「受注オーダー明細の改訂」フォームで明細行を選択して、「ロー」メニューの「マトリックス・オーダー」を選択します。	既存のオーダーを変更するか、オーダーに品目を追加します。

マトリックス品目の受注オーダー入力

「マトリックス・オーダー入力」フォームにアクセスします。

多数のバリエーションを持つ製品の受注オーダーを入力するためのフォームを使用します。

受注明細 - マトリックス・オーダー入力

OK(O) 検索(F) 取消(L) ツール(T)

オーダーNo.

2822

SO

00001

合計

テンプレート

SHIRT

Bicycle Shirt

Style

TEE

Gender

*

Sleeve

*

Size

*

Color

*

行番号

1.000

事業所

30

制御数量

単位

EA

レコード 1 - 15

グリッドのカスタマイズ

	Gender	Sleeve	Color	Small	Medium	Large
<input type="radio"/>	Male	Long Sleeve	Black			
<input type="radio"/>	手持Male	手持Long Sleeve	手持Black			
<input type="radio"/>	引当可能Male	引当可能Long Sleeve	引当可能Black	10-		
<input type="radio"/>	Male	Long Sleeve	Blue			
<input type="radio"/>	手持Male	手持Long Sleeve	手持Blue			
<input type="radio"/>	引当可能Male	引当可能Long Sleeve	引当可能Blue			
<input type="radio"/>	Male	Long Sleeve	Green			
<input type="radio"/>	手持Male	手持Long Sleeve	手持Green			
<input type="radio"/>	引当可能Male	引当可能Long Sleeve	引当可能Green			
<input type="radio"/>	Male	Long Sleeve	Red			

「マトリックス・オーダー入力」フォーム

「受注オーダー明細の改訂」フォームの「品目No.」に入力された値に基づいて、フォームの見出しセクションにあるセグメント・フィールドの記述は異なります。

合計

マトリックス品目としてオーダーされたすべてのバリエーションの数量が表示されます。

数量カラム

マトリックス品目の各バリエーションに対して要求される数量を入力します。

合計数量

マトリックス品目の各バリエーションに対してオーダーされた数量が表示されます。マトリックス内のローゴとに入力された数量が合計されます。

第 8 章

カスタマ・サービス担当者用の受注オーダーの入力

この章では、カスタマ・サービス担当者用の受注オーダー入力の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 受注オーダー見出しおよび明細情報の入力
- 受注オーダーのコピー
- テンプレートを使用した受注オーダーの入力
- 代替品目、関連品目または販促品の入力
- 販売高アップセルの通知の有効化
- 受注オーダー入力におけるサブシステム処理の有効化
- 受注オーダー入力の納期回答
- 監査ログ生成と承認プロセス
- キット品目およびコンフィギュレーション品目のオーダー入力

カスタマ・サービス担当者用の受注オーダー入力について

通常、カスタマ・サービス担当者 (CSR) は、大量の受注オーダーを短時間で効率的に入力する必要があります。受注管理メニュー (G4211) の標準的なオーダー入力選択機能を使用するかわりに、複数のタイプのオーダーを作成および更新する別のメニュー項目を使用できます。これらのメニューを選択することにより、受注オーダー入力プログラム (P42101) を実行できるため、柔軟、かつ簡単な方法でオーダーの入力および更新が可能です。

オーダー入力と変更を迅速に処理できるように、フィールドとボタンが用意されています。リンクをクリックして表示されるドロップダウン・メニューからオプションを選択すると、次に示す受注オーダー関連のその他のタイプの情報を簡単に見つけることができます。

- オーダー保留
- 無償品
- 品目引当可能数量
- オーダー集計

2つの受注オーダー入力プログラム (P4210とP42101) を連携させて、受注オーダー情報を処理します。両プログラムとも、システムの同じテーブルを更新します。P4210プログラムの、受注オーダーの処理方法を指定するバージョンを作成する必要があります。その際、P4210プログラムのこのバージョンを、P42101プログラムの処理オプションに入力します。P42101を使用して受注オーダーの作成や変更を行う場合、受注オーダーの処理では、P42101の処理オプションの情報に加えてP4210の指定したバージョンの情報が使用されます。

次のタスク(この章では説明されていません)は、P42101プログラムを使用して完了できます。

- 見積オーダーの入力とリリース
- オーダー行の取消
- オーダー行の在庫確認
- オーダー行の保留
- オーダー集計明細の検討
- 直送オーダーの作成
- 価格階層の使用
- コミッション情報の処理
- 顧客購買セグメントの処理
- オーダーの粗利益の計算
- オーダーへのメディア・オブジェクトの追加
- JD Edwards EnterpriseOne価格管理システム、JD Edwards EnterpriseOne輸送管理システム、JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理システムとの連携
- 顧客セット情報の処理
- オーダーへの契約の割当
- 明細行の価格または原価のゼロへの変更
- 販売先または出荷先顧客番号に関連付けられた住所の一時変更
- マトリックス品目のオーダー入力

日次セールス・フォース・オートメーション処理メニュー (G90CA01) から受注オーダーを作成する場合、受注管理メニュー (G4211) のメニュー項目を使用してオーダーの作成または更新を行い、これら受注オーダーの保守と処理を実行できます。

参照: 第 7 章、「受注オーダーの入力」、127ページ

事前設定

この項で示すタスクを完了する前に、受注オーダー入力用にP4210の処理オプションが設定されていることを確認します。

参照: 第 7 章、「受注オーダーの入力」、「受注オーダー入力 (P4210) の処理オプション」、137ページ

関連項目:

第 7 章、「受注オーダーの入力」、127ページ

第 9 章、「追加オーダーの入力」、231ページ

第 10 章、「オーダーの保留、リリース、および検討」、247ページ

第 11 章、「受注オーダーの処理」、289ページ

受注オーダー見出しおよび明細情報の入力

この項では、受注オーダー見出し情報、受注オーダー明細情報、受注オーダー入力時のワークフロー処理の概要、および次の方法について説明します。

- 受注オーダー入力プログラム (P42101) の処理オプションの設定
- 受注オーダー見出し情報の入力
- 受注オーダー品目情報の入力
- デフォルト行情報の入力

受注オーダー見出し情報について

「受注オーダーの作成 - 見出しを先頭」の「オーダー見出しの改訂」フォームからのオーダー見出し情報の入力方法は、「受注オーダー見出し」フォームと同じです。受注オーダー見出しに入力できる情報のタイプは、次のとおりです。

- 基本オーダー情報
- 税と通貨情報
- 支払と運賃情報
- 取引先と顧客情報
- 納期回答の変更

参照: 第 7 章、「受注オーダーの入力」、「受注オーダー見出しおよび明細情報の入力」、129 ページ

見出し全体の編集

オーダー入力中はいつでも、オーダー見出しの情報を変更できます。オーダーを入力して見出し情報を変更した場合、見出し情報を受注オーダー明細に対して更新することで、変更を明細情報に確実に反映させることができます。「見出し全体の編集」ボタンを使用して見出しのオーダー情報を変更できます。

受注オーダー明細情報について

受注オーダーに見出し情報を入力した後、品目 ID や数量、価格、原価など、オーダー品目の明細情報を追加します。「受注オーダーの作成 - 見出しを先頭」の「新規オーダーの入力」フォームからのオーダー明細情報の入力方法は、「受注オーダー明細の改訂」フォームと同じです。

参照: 第 7 章、「受注オーダーの入力」、「受注オーダー明細情報について」、131 ページ

受注オーダー入力時におけるワークフロー処理について

システムはオーダー保留をチェックしてそのオーダーを処理します。「OK」をクリックしてオーダーを受け入れると、保留コードの処理オプションがチェックされ、オーダーとその保留情報が比較されます。

JDESOENTRY ワークフロー・プロセスを有効にする場合にオーダーが保留になると、現行のオーダーが保留になっていることを伝えるアクション・メッセージが販売担当者に送付されます。オーダーが保留にならない場合には、コミッション固定情報ファイル・テーブル (F42004) で定義した販売担当者にアクション・メッセージが送られ、販売先番号とともにそのオーダーは処理中であることが連絡されます。ワークフロー処理中の送信メッセージはワーク・センター・プログラム (P012502) で見ることができます。

注意: JDESOENTRYワークフロー処理はシステムのパフォーマンスに影響を与えることがあります。直前のオーダー処理が済んでワークフロー処理が完了するまで、次のオーダーは入力できません。

受注オーダー情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー見出しの改訂	W42101E	「受注オーダー処理」(G4211)、「受注オーダーの作成－見出しを先頭」	受注オーダー見出し情報を入力します。
新規オーダーの入力	W42101D	<ul style="list-style-type: none"> 「オーダー見出しの改訂」フォームで「保存して続行」をクリックします。 「受注オーダー処理」(G4211)、「受注オーダーの作成－詳細を先頭」 	受注オーダー品目情報を入力します。 デフォルト行情報を入力します。
既存オーダーの管理	W42101C	<ul style="list-style-type: none"> 「受注オーダー処理」(G4211)、「受注オーダーの更新－見出しを先頭」 「受注オーダー処理」(G4211)、「受注オーダーの更新－詳細を先頭」 	オーダー見出しとオーダー明細レコードを確認します。

受注オーダー入力プログラム(P42101)の処理オプションの設定

P42101プログラムの処理オプションでは、デフォルトの処理、バージョン、および照会の値を指定します。

P42101プログラムの使用時、P4210プログラムの「表示」、「オーダー照会」、「転送」、「複数」タブのすべての処理オプションが無視されます。また、P4210プログラムの次の処理オプションも無視されます。

タブ	オプション
デフォルト	14. カスタマ・セルフサービスの構造体タイプ 15. ユーザーIDデフォルト(CSSのみ) 16. 販売先/出荷先見出しの一時変更(CSSのみ) 17. 運送業者No.の一時変更(CSSのみ)
処理	3. 見出しまたは明細の表示 5. 受入前のプロンプト 9. カスタマ・セルフサービス

表示

この処理オプションでは、「受注残/完了オーダー照会」フォームでのオーダーの検索方法を指定します。

1. 原価フィールドの表示/非表示 原価フィールドを表示するか、保護するか、非表示にするか指定します。値は次のとおりです。

ブランク: フォームに原価フィールドが表示され、情報を一時変更できます。

- 1: 原価フィールドが変更できないよう保護します。「原価」フィールドを変更から保護すると、原価はフォームに表示されますが、変更はできなくなります。
- 2: 原価フィールドが表示されません。「原価」フィールドを非表示にすると、「原価」フィールドはフォームに表示されなくなります。ただし、品目原価元帳テーブル (F4105) から受注オーダー明細テーブル (F4211) に原価情報が書き込まれます。
- デフォルトの原価情報は、F4105テーブルから取り込まれます。
- 2. 価格フィールドの表示/非表示** 価格フィールドを表示するか、保護するか、非表示にするか指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 価格フィールドがフォームに表示され、情報は一時変更できます。このオーダーについてのみ情報を一時変更できます。
- 1: 価格フィールドは変更から保護されます。単価および合計価格はフォームに表示されますが、これらの情報は一時変更できません。
- 2: 価格フィールドは非表示です。価格フィールドを非表示にしても、価格情報はテーブルに書き込まれます。
- 3. 価格設定関連フィールドの使用禁止** 計算価格に影響する価格設定関連フィールドを無効にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 価格設定関連フィールドは表示され、入力も可能です。
- 1: 価格設定関連のフィールドは表示されますが、情報の一時変更はできません。
- 4. 状況コードの使用禁止または非表示** 状況コードを保護または非表示にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 状況コードをこのオーダーについてのみ一時変更できます。状況コードを入力する場合、それらのコードは、伝票タイプと行タイプの組合せに有効な別の状況コードとしてオーダー処理規則テーブル (F40203) で設定されている必要があります。開始状況と次状況の組合せは、F40203 テーブルにある有効な前状況と次の状況組合せである必要があります。
- 1: 状況コードは保護され、変更できなくなります。状況コードを変更されないように保護すると、現行状況と次状況がフォーム上に表示されますが、情報の一時変更はできなくなります。
- 2: 状況コードを非表示にします。状況コードを非表示にすると、前状況と次状況のコードは表示されません。オーダーは、オーダー処理規則で設定されている現状況と次状況に基づいて処理されます。
- 5. 終了明細行の非表示** アクティブな明細行、終了している明細行、取り消した明細行を表示するかどうかを指定します。照会中に、アクティブなオーダーの明細行のみを検討する場合があります。値は次のとおりです。
- ブランク: 明細フォームに表示されるすべてのオーダー明細行を表示します。
- 1: 999の状況の行は明細フォームに表示されません。ただし、その行のレコードはF4211テーブル、または受注オーダー明細 - 履歴テーブル (F42119)に残っています。
- 6. クレジット・カード情報の非表示** ユーザーが顧客のクレジット・カード情報にアクセスできるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

7. 運賃/運送業者情報の非表示

ブランク: オーダー入力時にクレジット・カード情報にアクセスできます。

1: オーダー入力時にクレジット・カード情報にアクセスできません。

運賃と運送業者情報フィールドを表示するかどうか指定します。適切な配送経路、中継点、区域に基づいて運賃の計算が正確に行われるように、また顧客への配送を常に優先運送業者が担当するように、運賃および運送業者の情報フィールドを標準化できます。値は次のとおりです。

ブランク: オーダー明細フォームに表示される運賃/運送業者情報フィールドは一時変更できます。

1: 運賃/運送業者情報フィールドはオーダー明細フォームに表示されません。オーダーは、顧客請求指示または品目マスター情報に設定されているデフォルト情報に基づいて処理されます。

8. コミッション情報の非表示

コミッション情報を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: コミッション情報を表示し、デフォルト情報を一時変更します。現行オーダーのみに影響します。

1: コミッション情報を表示しません。オーダーは、販売コミッション・ファイル・テーブル (F42005) に設定されているデフォルト情報に基づいて処理されます。

9. キット構成品の非表示

オーダーの再照会時にキット構成品が「受注オーダー明細の改訂」フォームに表示されるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: オーダーの再照会時に、選択したフィーチャとオプションの他に、親品目が表示されます。

1: オーダーの再照会時に親行のみを表示します。ただし、親行とすべての構成品行はF4211テーブルに書き込まれます。

オーダー照会

この処理オプションでは、「受注残/完了オーダー照会」フォームでのオーダーの検索方法を指定します。

1. 状況 - 開始

オーダー処理の現行の時点指定します。

使用するオーダー・タイプと行タイプに基づいて、オーダー処理規則テーブル (F40203) に設定されているユーザー定義コード (UDC) の値をUDC 40/AT から指定する必要があります。

開始状況と次状況の組合せは、F40203テーブルにある有効な前状況と次状況の組合せである必要があります。

オーダー照会時、開始状況と次状況の間にはないオーダーは表示されません。

2. 状況 - 終了

オーダー処理の次のステップを指定します。使用するオーダー・タイプと行タイプに基づいて、オーダー処理規則テーブル (F40203) に設定されている値をUDC 40/ATから入力する必要があります。

開始状況と次状況の組合せは、F40203テーブルにある有効な前状況と次状況の組合せである必要があります。

オーダー照会時、開始状況と次状況の間にはないオーダーは表示されません。

3. 前状況または次状況の検索

このフォームに表示する情報を選択するために使用される状況コードを指定します。

ブランク: この範囲に当てはまる前状況を持つすべてのオーダーを表示します。

1: この範囲に当てはまる次の状況を持つすべてのオーダーを表示します。

4. 日付範囲

オーダー検索の条件とする日付値を指定します。値は次のとおりです。

1: オーダー入力日付に基づいてオーダーを検索します。

2: オーダー入力時に表示された約束出荷日付に基づいてオーダーを検索します。

3: オーダー入力時に表示された当初約束日付に基づいてオーダーを検索します。

4: オーダーの出荷が確認された日付に基づいてオーダーが検索されます。出荷確認プログラム (P4205) を使用して処理されたオーダーのみが検索されます。

5: 顧客への請求書が印刷された日付に基づいてオーダーを検索します。請求書印刷プログラム (R42565) で処理されたオーダーのみが検索されます。

6: オーダー入力時にメモ用の「取消日付」フィールドに入力した日付に基づいてオーダーが検索されます。

7: 元帳日付に基づいてオーダーを検索します。売上更新プログラム (R42800) で処理されたオーダーのみが検索されます。

8: オーダー入力時に約束納入日付として入力された日付に基づいてオーダーを検索します。

5. テキスト行の表示

テキスト行を表示するかどうかを指定します。

テキスト行は、行タイプ T のオーダー明細行で、メモ情報のみが含まれる「オーダー行タイプの改訂」フィールドのコードを特徴としています。オーダーを照会するときに、テキスト行の情報の確認が必要になる場合があります。値は次のとおりです。

ブランク: テキスト行を表示しません。オーダー入力時にテキスト行を作成した場合、テキスト行は F4211 テーブルにあります。

1: テキスト行を表示します。

6. バックオーダー行/取消行の表示

オーダーの照会時に、バックオーダー行または取消行を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

1: バックオーダー行を表示します。

2: 取消行を表示します。

3: バックオーダー行と取消行の両方を表示します。

4: バックオーダー行または取消行を印刷しません。

7. 顧客相互参照タイプ

顧客品目番号で相互参照情報を検索する際に使用する UDC 41/DT の値を入力します。

相互参照により、自社の品目番号と顧客の品目番号が関連付けられます。品目マスター・プログラム (P4101) に品目を設定して、品目相互参照の改訂プログラム (P4104) で相互参照情報を作成します。

バージョン

この処理オプションでは、「受注残/完了オーダー照会」フォームでのオーダーの検索方法を指定します。

1. **受注オーダー・モデルのバージョン** P42101の業務プロセスのロジックを制御する際に使用する受注オーダー入力プログラム(P4210)のバージョンを入力します。

タスク・フロー

この処理オプションでは、「受注残/完了オーダー照会」フォームでのオーダーの検索方法を指定します。

見出しと明細の表示 見出しまたは明細フォームを最初に表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 明細を最初に表示します。

1: 見出しを最初に表示します。

受注オーダー見出し情報の入力

「オーダー見出しの改訂」フォームにアクセスします。

受注オーダーの作成 - 見出しを先頭 - オーダー見出しの改訂

保存して閉じる(O) 取消(L)

オーダー番号 2825 SO 00200

オーダー情報 税/通貨 支払/運賃 パートナ/顧客セット 納期回答一時変更

販売先	4243	Custom Brokers	日時	オーダー日付	2009/05/20
出荷先	4243	Custom Brokers		取消日付	
顧客購買オーダー				要求日付	2009/05/20
事業所	M30			要求時刻	0
保留コード		ブランク - 保留コード 42/HC	連絡先	販売先の連絡先ID	0
与信メッセージ				販売先宛先	
一時与信メッセージ				出荷先の連絡先ID	0
オポチュニティID	0			出荷先宛先	
受注担当者番号	JPN3				
発注担当者					
印刷メッセージ					

「オーダー見出しの改訂」フォーム

参照: 第 7 章、「受注オーダーの入力」、「受注オーダー見出し情報の入力」、165 ページ

受注オーダー品目情報の入力

「新規オーダーの入力」フォームにアクセスします。

受注オーダーの作成 - 詳細を先頭 - 新規オーダーの入力

オーダーの集計(U)

送信して新規入力(N)

送信して閉じる(B)

取消(L)

受注オーダー見出し

オーダー集計

オーダーNo.

80

販売先

出荷先

事業所

顧客発注No.

通貨

為替レート

前回オーダー番号

保留コード

オーダー日付

2009/02/18

与信メッセージ

一時与信メッセージ

基本通貨

☒ 外貨

見出し全体の編集(D)

オーダー住所

与信チェック

添付

ジャンプ

-- 1つ選択 --

>>

受注オーダー明細

行引当可能数量

無償品

行デフォルト

追加ロー・アクション

-- 1つ選択 --

>>

レコード 1 - 1

グリッドのカスタマイズ

+

-

□

引当可能数量照会(B)

行の取消し(L)

価格照会(P)

価格履歴(Y)

キット/CNFG(U)

相互参照(N)

「新規オーダーの入力」フォーム

参照: 第 7 章、「受注オーダーの入力」、「受注オーダー品目情報の入力」、167ページ

デフォルト行情報の入力

「新規オーダーの入力」フォームにアクセスし、「行デフォルト」タブを選択します。

参照: 第 7 章、「受注オーダーの入力」、「受注オーダー見出しおよび明細情報の入力」、129ページ

受注オーダーのコピー

この項では、受注オーダーのコピーの概要とその方法について説明します。

受注オーダーのコピーについて

見出しおよび明細情報の両方をコピーし、新しい受注オーダーにそれらの情報を追加すると、受注オーダーの入力を簡略化できます。「既存オーダーの管理」フォームからの受注オーダーのコピーは、「受注オーダー見出し」フォームと同じです。

参照: 第 7 章、「受注オーダーの入力」、「受注オーダー情報の更新とコピー」、171ページ

受注オーダーのコピーに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
既存オーダーの管理	W42101C	<ul style="list-style-type: none"> 「受注オーダー処理」(G4211)、「受注オーダーの更新-見出しを先頭」 「受注オーダー処理」(G4211)、「受注オーダーの更新-詳細を先頭」 	受注オーダーをコピーします。

受注オーダーのコピー

「既存オーダーの管理」フォームにアクセスします。

- コピーする受注オーダーを検索し、選択します。
- 「コピー」をクリックします。

選択したオーダーの情報を使用して、新しいオーダーが作成されます。

- 必要に応じて「新規オーダーの入力」フォームで受注オーダーを改訂します。

システムの設定によっては、受注オーダーをコピーしようすると警告が表示される場合があります。コピーして作成された新しい受注オーダーは、他の受注オーダーと同じように改訂および管理できます。

テンプレートを使用した受注オーダーの入力

この項では、テンプレートを使用したオーダー処理の概要とテンプレートによる受注オーダーの入力に使用するフォームについて説明します。

オーダー処理でのテンプレートの使用について

テンプレートを使用して顧客から最も頻繁にオーダーのある品目を表示し、オーダー処理をスピード化できます。「新規オーダーの入力」フォームからのテンプレートによる受注オーダーの入力は、「受注オーダー明細の改訂」フォームと同じです。

参照: [第 7 章、「受注オーダーの入力」、「テンプレートを使用した受注オーダーの入力」、175 ページ](#)

テンプレートによるカスタマ・サービス担当者用の受注オーダーの入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー見出しの改訂	W42101E	「受注オーダー処理」(G4211)、「受注オーダーの作成 - 見出しを先頭」	受注オーダー見出しレコードを追加します。
新規オーダーの入力	W42101D	<ul style="list-style-type: none"> 「オーダー見出しの改訂」フォームで「保存して続行」をクリックします。 「受注オーダー処理」(G4211)、「受注オーダーの作成 - 詳細を先頭」 	受注オーダー見出し情報を追加または改訂します。
オーダー・テンプレート	W40215A	<ul style="list-style-type: none"> 「オーダー見出しの改訂」フォームで「保存して続行」をクリックします。 「オーダー見出しの改訂」フォームで「ジャンプ」メニューからテンプレートを選択し、「移動」ボタンをクリックします。 	<p>テンプレートで品目の数量を入力するか、別のテンプレートを選択します。</p> <p>注意: P4210プログラムの処理オプションの「オーダー・テンプレート処理」フィールドを設定して、テンプレート処理を有効にする必要があります。オーダーの顧客に対して請求情報フォームにテンプレート・セットがある、またはP4210プログラムの処理オプションの「オーダー・テンプレート」フィールドにテンプレート名を入力すると、自動的に「オーダー・テンプレート」フォームが表示されます。</p>
オーダー・テンプレートの処理	W4015A	「オーダー・テンプレート」フォームの「フォーム」メニューで「使用可能なテンプレート」を選択します。	オーダー・テンプレートを選択します。

代替品目、関連品目または販促品の入力

この項では、代替品目、関連品目および販促品の概要と、これらの品目の入力で使用するフォームについて説明します。

代替品目、関連品目、および販促品について

オーダー数量の一部しか引き当てられない場合、必要な数量を満たすために代替品目を使用できます。「新規オーダーの入力」フォームでの代替品目の入力は、「受注オーダー明細の改訂」フォームと同じです。

参照: 第 7 章、「受注オーダーの入力」、「代替品目、関連品目または販促品の入力」、177ページ

代替品目、関連品目および販促品の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー見出しの改訂	W42101E	「受注オーダー処理」(G4211)、「受注オーダーの作成 - 見出しを先頭」	受注オーダー見出しレコードを追加します。
新規オーダーの入力	W42101D	<ul style="list-style-type: none"> 「オーダー見出しの改訂」フォームで「保存して続行」をクリックします。 「受注オーダー処理」(G4211)、「受注オーダーの作成 - 詳細を先頭」 	受注オーダー見出し情報を追加または改訂します。
代替/補足品目	W42260A	「新規オーダーの入力」フォームのローを選択し、「相互参照」をクリックします。	代用する品目、または補足品、販促品として使用する品目を選択します。

販売高アップセルの通知の有効化

この項では、販売高アップセルの概要と販売高アップセルの通知を有効化するために使用するフォームについて説明します。

販売高アップセルについて

大量購入による値引きを顧客に提案する場合は、調整と、オーダー行がアップセル通知の条件を満たしていることを通知するタイミングを決定する許容率を指定できます。「新規オーダーの入力」フォームでの販売高アップセルの通知の有効化は、「受注オーダー明細の改訂」フォームと同じです。

参照: [第 7 章、「受注オーダーの入力」、「販売高アップセル価格の作成」、180 ページ](#)

カスタマ・サービス担当者への販売高アップセルに関する通知の有効化に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー見出しの改訂	W42101E	「受注オーダー処理」(G4211)、「受注オーダーの作成 - 見出しを先頭」	受注オーダー見出しレコードを追加します。
新規オーダーの入力	W42101D	<ul style="list-style-type: none"> 「オーダー見出しの改訂」フォームで「保存して続行」をクリックします。 「受注オーダー処理」(G4211)、「受注オーダーの作成 - 詳細を先頭」 	受注オーダー見出し情報を追加または改訂します。
販売高アップセルの処理	W40722E	ローを選択し、次に「追加ロー・アクション」リストから「販売高アップセル」を選択します。次に、「新規オーダーの入力」フォームで「移動」の矢印をクリックします。	レベル区切りを選択して、受注オーダーの品目の価格と数量を調整します。「閉じる」をクリックして、「新規オーダーの入力」フォームに戻ります。

受注オーダー入力におけるサブシステム処理の有効化

この項では、カスタマ・サービス担当者に対するサブシステム処理の有効化の概要について説明します。

カスタマ・サービス担当者に対するサブシステム処理の有効化について

オーダー入力を終了したときにピッキング・リストや請求書が必要な場合、サブシステムを設定して起動できます。P42101プログラムのサブシステム処理を有効化する方法は、P4210プログラムの場合と同じです。

参照: [第 7 章、「受注オーダーの入力」、「サブシステム処理の有効化について」、135ページ](#)

受注オーダー入力の納期回答

この項では、納期回答の概要と、受注オーダー入力での納期回答で使用するフォームについて説明します。

納期回答について

納期回答を有効にするには、P4210プログラムの「納期回答」タブの処理オプションを設定します。

「オーダー見出しの改訂」フォームからの納期回答機能の使用方法は、「受注オーダー明細の改訂」フォームと同じです。

参照: [第 7 章、「受注オーダーの入力」、「受注オーダー入力の納期回答」、181ページ](#)

カスタマ・サービス担当者の受注オーダー入力での納期回答で使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー見出しの改訂	W42101E	「受注オーダー処理」(G4211)、「受注オーダーの作成 - 見出しを先頭」 「オーダー見出しの改訂」フォームの「納期回答一時変更」タブを選択します。	受注オーダー見出し情報を追加します。 納期回答情報を追加および改訂します。

監査ログ生成と承認プロセス

この項では、監査ログの概要と、監査ログの生成と承認プロセスに使用するフォームについて説明します。

監査ログについて

JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムには、オーダーに対して行われた手作業による変更を検討およびトラッキングする方法があります。該当する処理オプションが有効になっていると、受注オーダー情報に対して行われた手作業によるすべての変更について改訂が作成されるので、オーダー改訂履歴プログラム(P42420)にアクセスした際に変更情報を検討できます。オーダー入力時に改訂番号を確認できます。

「既存オーダーの管理」フォームからの監査ログ機能の使用方法は、「受注オーダー明細の改訂」フォームと同じです。

参照: 第 7 章、「受注オーダーの入力」、「監査ログ生成と承認プロセス」、184 ページ

カスタマ・サービス担当者の監査ログの生成と承認プロセスに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
既存オーダーの管理	W42101C	<ul style="list-style-type: none"> 「受注オーダー処理」(G4211)、「受注オーダーの更新 - 見出しを先頭」 「受注オーダー処理」(G4211)、「受注オーダーの更新 - 詳細を先頭」 	受注オーダー情報を検討または改訂します。
オーダー改訂履歴	W42420B	オーダーを選択してから、「既存オーダーの管理」フォームの「ロー」メニューの「品目」、次に「改訂履歴」を選択します。	オーダーに行われた変更を検討します。

キット品目およびコンフィギュレーション品目のオーダー入力

この項では、キット品目およびコンフィギュレーション品目の概要と、キット品目およびコンフィギュレーション品目のオーダーの管理に使用するフォームについて説明します。

キット品目およびコンフィギュレーション品目について

キットおよびコンフィギュレーション品目の受注オーダーを入力できます。キットとは、記述名（親品目）に関連付けられた在庫品目（構成部品）の集合です。コンフィギュレーション品目は、顧客が要求する様々な機能で構成されています。

「新規オーダーの入力」フォームでのキット品目およびコンフィギュレーション品目の選択方法は、「受注オーダー明細の改訂」フォームと同じです。

参照: 第 7 章、「受注オーダーの入力」、「キット品目およびコンフィギュレーション品目のオーダー入力」、187 ページ

キット品目およびコンフィギュレーション品目のオーダーを管理するために使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー見出しの改訂	W42101E	「受注オーダー処理」(G4211)、「受注オーダーの作成 - 見出しを先頭」	受注オーダー見出しレコードを追加します。
新規オーダーの入力	W42101D	<ul style="list-style-type: none"> 「オーダー見出しの改訂」フォームで「保存して続行」をクリックします。 「受注オーダー処理」(G4211)、「受注オーダーの作成 - 詳細を先頭」 	受注オーダー情報を追加または改訂します。
キット選択	W41351A	「新規オーダーの入力」フォームからキット品目のオーダーを入力し、次に「追加ロー・アクション」リストから「キット/コンフィギュレータ」を選択します。	キット構成部品を選択します。
コンフィギュレーション品目 <品目番号 - 記述>	W3210B	「新規オーダーの入力」フォームからコンフィギュレーション品目のオーダーを入力し、次に「キット/CNFG」ボタンを選択します。	コンフィギュレーション品目の属性を選択します。

第 9 章

追加オーダーの入力

この章では、追加オーダー入力の概要と、次の方法について説明します。

- クレジット・オーダーの入力
- 転送オーダーの入力
- 直送オーダーの入力
- 一括オーダーの入力
- 見積オーダーの入力
- 事業所間オーダーと会社間オーダーの入力

追加オーダー入力について

JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムには、特定のオーダー状況に対応できるように、様々なオーダー・タイプが用意されています。追加オーダーの入力方法は通常基本受注オーダーと同じですが、各オーダーのタイプにより、異なった処理が行われます。

クレジット・オーダーは、顧客が商品を返品し、それを在庫に戻す際に使用します。顧客から返品された不良品を在庫に戻せない場合にも、クレジット・オーダーを使用できます。どちらの場合も、クレジット・オーダー行を作成して返品商品に対する調整を行ってください。

転送オーダーを使用して社内の事業所間の在庫移動を行い、適正な手持在庫数量を維持できます。JD Edwards EnterpriseOne受注管理、JD Edwards EnterpriseOne調達管理、またはオラクル社のJD Edwards EnterpriseOne外注管理で転送オーダーを作成しても、商品を出入荷できます。転送オーダーでは、割増し、運賃、輸送時間を考慮できます。

直送オーダーは、他の仕入先から購入した品目の販売を記録するために使用します。仕入先は品目を顧客に直接送ります。仕入先は顧客に品目を直接送るため、在庫のオーダー数量は処理されません。

ある品目を指定した期間中に何度かに分けてリリースする契約を顧客と結んでいる場合、一括オーダーを使用します。たとえば、100品目を4か月にわたって月に25品目ずつ配送されるようにオーダーできます。指定された時期になると、実際の受注オーダーに入力した数量は一括オーダーから差し引かれます。

見積オーダーは、価格見積の記録に使用します。次の処理が可能です。

- 受注オーダーの処理に使用すると同じ検討、管理、照会のフォームから見積オーダーにアクセスする。
- 見積オーダー全部または一部を受注オーダーに変換する。
- 見積オーダーを使用して価格保証を効率的に管理する。
- 見積オーダーを使用して、顧客がオーダーを承認するまで在庫の引当を行わないようにする。

会社間オーダーを使用して、販売事業所以外の事業所から受注オーダーを充当します。ある部門で発行されている受注オーダーが、実際は中央供給倉庫など別の部門で充当されて出荷される場合に便利です。

クレジット・オーダーの入力

この項では、クレジット・オーダーの概要、事前設定、および次の項目について説明します。

- 販売履歴照会プログラム (P42025) の処理オプションの設定
- 履歴からのクレジット・オーダーの入力

クレジット・オーダーについて

顧客から商品が返品されてそれを在庫に戻す場合、または不良品が返品され在庫に戻すことができない場合に、クレジット・オーダーを使用します。どちらの場合も適切なクレジット・オーダーを作成し、返品された商品に対する調整を行う必要があります。

クレジット・オーダーを手作業で入力し、返品品目を記録してその顧客の売掛金に現行の単価を貸方入力できます。デフォルトの価格設定情報は必要であれば一時変更が可能です。クレジット・オーダーの入力は、受注オーダーの入力と同じ方法で行います。

システムによってクレジット・オーダーが作成される場合、販売明細実績テーブル (F42199) を基に返品情報が作成されます。クレジット・オーダー金額は現行価格ではなく、顧客が実際に支払った単価になります。

クレジット・オーダーの場合、顧客に返金する価格と返品を受け取って在庫とするプロセスを定義できます。

クレジット・オーダーには、総勘定元帳の特定の勘定科目で返品をトラッキングして個別の返品履歴を記録できる伝票タイプを設定できます。AAI (自動仕訳) を設定して、仕訳がクレジット・オーダー伝票タイプを基準とした特別の勘定科目に転送されるよう設定できます。売上更新プログラム (R42800) を実行すると、返品の手仕訳が作成されます。

クレジット・オーダー行タイプを設定するには、行タイプ固定情報プログラム (P40205) の符号の反転オプションを有効にする必要があります。受注オーダーを入力すると、引当可能な在庫からその数量が差し引かれます。クレジット・オーダーの場合は、在庫から数量は差し引かれません。

クレジット・オーダーを識別する伝票タイプを設定し、クレジット・オーダー伝票タイプと行タイプの組合せに対して状況コードを設定できます。状況コードはオーダーを処理するステップを定義します。

価格調整を使用する場合、マイナス数量区切りの設定によりクレジット・オーダー品目を処理する必要があります。

クレジット・オーダー用バージョンの作成

クレジット・オーダーを入力する前に、返送オーダーを処理できるように、受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを作成する必要があります。クレジット・オーダー・バージョンでは、「デフォルト」タブの「行タイプ」処理オプションを返送オーダーに設定する行タイプに設定します。通常、行タイプ「C」に設定します。また、「デフォルト」タブの「オーダー・タイプ」処理オプションをクレジット・オーダーに使用するオーダー・タイプに設定します。通常、COに設定します。次に、このバージョンをクレジット・オーダーの作成で使用するメニューオプションに関連付けます。不明点については、システム管理者にお問い合わせください。

システムが生成したクレジット・オーダーの入力

履歴からクレジット・オーダーを作成する場合には、当初のオーダー情報を取り込んで、実際に支払われた金額に基づいて顧客の貸方勘定に記録します。この価格は現行価格と異なる場合があります。オーダー情報は、F42199テーブルから取得します。

注意: 履歴からクレジット・オーダーを作成する場合は、当初販売した数量、ピッキングした数量、および出荷した数量と異なる数量を出荷できます。当初販売数量と返品合計数量が一致するかはチェックされません。

事前設定

クレジット・オーダー用の行タイプを設定したことを確認します。

参照: 第 2 章、「受注管理システムの設定」、「オーダー行タイプの設定」、31 ページ

関連項目:

第 7 章、「受注オーダーの入力」、127 ページ

クレジット・オーダーの入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
受注残/完了オーダー照会	W4210E	「追加オーダー処理」(G4212)、「履歴のクレジット・オーダー」	オーダーを検討および選択します。
受注オーダー明細の改訂	W4210A	「受注残/完了オーダー照会」フォームで「追加」をクリックします。	「フォーム」メニューの「クレジット・メモ」オプションにアクセスします。
販売履歴照会の処理	W42025A	「受注オーダー明細の改訂」フォームの「フォーム」メニューの「クレジット・メモ」を選択します。	履歴からクレジット・オーダーを入力します。

販売履歴照会プログラム(P42025)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、デフォルト値の設定、クレジット・メモ値の指定、およびバージョンの指定を行います。

デフォルト

この処理オプションでは、デフォルト伝票タイプを定義し、終了および開始状況コードを指定します。

オーダー・タイプ

伝票のタイプを識別する値をユーザー定義コード(00/DT)から入力します。

このコードはトランザクションの発生元も示します。伝票、請求書、領収書、およびタイム・シートの伝票タイプ・コードが予約されており、転記プログラムを実行したときに自動的に相殺仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)

開始状況コード

オーダーの選択で使用する開始状況コードを指定するUDCから値40/ATを入力します。このコードは、「終了状況コード」処理オプションと組み合わせて検索基準範囲を定義します。「検索」をクリックすると、販売明細実績テーブ

ル(F42199)にこの範囲に当てはまる前の状況値を持つすべてのオーダーが表示されます。

終了状況コード

オーダーの選択に使用する、最後の状況コードを指定するUDCから値40/ATを入力します。このコードは、「開始状況コード」処理オプションと組み合わせて検索基準範囲を定義します。「検索」をクリックすると、F42199テーブルにこの範囲に当てはまる前の状況値を持つすべてのオーダーが表示されます。

クレジット・メモ

この処理オプションは、このアプリケーションが受注オーダー入力プログラム(P4210)から呼び出され、「ロー」メニューの「オーダーの選択」を使用して処理するすべてのオーダー行を選択する場合のみ使用されます。

1. クレジット・オーダーの取得

クレジット・オーダーを取得する際に使用する状況コードを入力します。この処理オプションに入力された値は、オーダーの検索時にデフォルト検索基準として使用され、この値に一致する状況コードを持つオーダーのみが表示されます。

2. 基準日状況

フォームに表示する情報を選択する際に使用する状況コードを入力します。この処理オプションは、「クレジット・オーダーの取得」処理オプションとともに使用されます。値は次のとおりです。

ブランク: 次状況がクレジット・オーダーの取得の値と一致するすべてのオーダーが表示されます。

1: 前状況が「クレジット・オーダーの取得」処理オプションの値と一致するすべてのオーダーが表示されます。

たとえば、「クレジット・オーダーの取得」処理オプションに「100」を入力し、この処理オプションに「1」を入力した場合は、前状況の値が「100」であるすべてのオーダーが表示されます。

3. 当初受注の請求書のコピー

当初受注の売請求書からクレジット・オーダーに請求日付をコピーするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 当初受注の請求書からクレジット・オーダーに請求日付をコピーしません。

1: 当初受注の請求書からクレジット・オーダーに請求日付をコピーします。

バージョン

この処理オプションは、このアプリケーションが受注オーダー入力プログラム(P4210)から呼び出されていない場合にのみ使用されます。

クレジット・オーダー入力のバージョン

クレジット・オーダーの作成用に設定されている受注オーダー入力プログラム(P4210)のバージョンを入力します。

受注オーダー入力のバージョン

受注オーダーの作成で使用する受注オーダー入力プログラム(P4210)のバージョンを入力します。

履歴からのクレジット・オーダーの入力

「販売履歴照会の処理」フォームにアクセスします。

履歴のクレジット・オーダー - 販売履歴照会の処理 i ?

選択(S) 検索(I) 閉じる(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

☒ ☐ ☒ ☐ ☐ ☒

オーダーNo. * SO * 事業所 *
 顧客発注No. * 追加の選択あり
 品目No. *

レコード 1 - 10 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	オーダー No.	オーダー タイプ	オーダー 会社	行 番号	販売先	名称	オーダー 数量	出荷 数量	オーダー 金額
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	2401	SO	00200	1.000	4242	Capital System	134	134	87,1
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	2401	SO	00200	1.000	4242	Capital System	134	134	87,1
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	2401	SO	00200	1.000	4242	Capital System	134	134	87,1
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	2401	SO	00200	2.000	4242	Capital System	50	50	39,9
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	2401	SO	00200	2.000	4242	Capital System	50	50	39,9
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	2401	SO	00200	2.000	4242	Capital System	50	50	39,9
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	2401	SO	00200	3.000	4242	Capital System	80	80	52,0
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	2401	SO	00200	3.000	4242	Capital System	80	80	52,0
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	2401	SO	00200	3.000	4242	Capital System	80	80	52,0
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	2401	SO	00200	4.000	4242	Capital System	230	230	183,5

「販売履歴照会の処理」フォーム

- 処理するオーダーを検索する際の選択基準を見出しに領域に入力し、「検索」をクリックします。
- オーダー内の1つの行についてクレジット・メモを作成するには、処理するオーダーを選択し、「ロー」メニューから「クレジット・メモ」、「行の選択」の順に選択します。
 - 「受注オーダー明細の改訂」フォームで、クレジット・オーダーに含める行を検索して選択し、「閉じる」をクリックします。
 - 「販売履歴照会の処理」フォームで「OK」をクリックすると、クレジット・オーダーが作成されます。
- 1つのオーダー内のすべての行についてクレジット・オーダーを作成するには、「ロー」メニューから「クレジット・メモ」、「オーダーの選択」の順に選択します。
販売履歴照会プログラム (P42025) の処理オプションに基づいて、オーダーの該当するすべての行がクレジット・オーダーに追加されます。
- 「受注オーダー明細の改訂」フォームの「OK」をクリックし、クレジット・オーダーを作成します。

転送オーダーの入力

この項では、転送オーダーの概要、事前設定、および転送オーダーの入力方法について説明します。

転送オーダーについて

転送オーダーは、社内の事業所間の在庫移動と、適正在庫数量を維持するために使用します。転送オーダーを作成すると、次の処理が実行されます。

- 仕入先(出荷先事業所)の購買オーダーを作成する。
- 顧客への供給事業所(入荷先事業所)の受注オーダーを作成する。
- 転送オーダー上の在庫金額を、正式な購買および販売として処理する。
- 転送を完了するのに必要なピッキング・リストや請求書などの伝票を作成する。

転送トランザクションは、JD Edwards EnterpriseOne在庫管理で在庫移動プログラム(P4113)を使用して、またはJD Edwards EnterpriseOne調達管理あるいはJD Edwards EnterpriseOne受注管理で受注オーダー入力プログラム(P4210)を使用して記録できます。

JD Edwards EnterpriseOne在庫管理で在庫移動を作成すると、ある保管場所から別の保管場所に在庫が移動し、トランザクションがただちに記録されます。受注オーダーや購買オーダーは作成されないため、在庫をトラッキングするための紙上の証跡は残りません。管理者承認が必要となることもあります。

JD Edwards EnterpriseOne調達管理またはJD Edwards EnterpriseOne受注管理で転送オーダーを作成すると、商品を出入荷できます。この方法では、割増し、運賃、輸送時間を考慮できます。受注オーダーおよび関連の購買オーダーが生成されることにより、紙上の証跡が作成されます。各オーダーは、伝票タイプと行タイプの組合せで設定したオーダー処理規則に基づいて処理されます。

転送オーダーを作成すると、転送オーダー処理プログラム(P4242)によって次のテーブルにレコードが作成されます。

- 受注オーダー見出し(F4201)
- 受注オーダー明細(F4211)
- 購買オーダー見出し(F4301)
- 購買オーダー明細(F4311)

注意: 転送オーダーにはキット情報を入力できません。キット用のオーダーを入力するには、通常受注オーダーまたは購買オーダー入力プログラムを使用してください。

受注転送オーダーには、他へ引当1または他へ引当2を割り当てられません。これらの引当オプションは、引合いと一括オーダーのみに利用します。

事前設定

転送オーダーに使用するP4210プログラムのバージョンを作成し、処理オプションを設定します。このバージョンを転送オーダーの作成に使用するメニューオプションに関連付けます。不明点については、システム管理者にお問い合わせください。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「購買オーダーの入力」、「オーダー明細情報の入力」

転送オーダーの入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
受注残/完了オーダー照会	W4210E	「受注オーダー処理」(G4211)、「転送オーダー」	オーダーを検討および選択します。
転送オーダー - 受注オーダー明細の改訂	W4210A	「受注残/完了オーダー照会」フォームで「追加」をクリックします。	転送オーダーを入力します。

転送オーダーの入力

「転送オーダー - 受注オーダー明細の改訂」フォームにアクセスします。

「転送オーダー - 受注オーダー明細の改訂」フォーム

転送オーダーを入力する場合、「見出しまたは明細の表示」処理オプションの設定にかかわらず明細情報を入力する前に見出し情報を入力できない点に注意してください。

直送オーダーの入力

この項では、直送オーダー、関連する受注オーダーと購買オーダーの整合性の概要、事前設定、および直送オーダーの入力に使用するフォームについて説明します。

直送オーダーについて

仕入先から品目を購入し、それを仕入先から直接顧客に配送するのが直送オーダーです。直送オーダーの数量および品目情報は、在庫には影響を与えません。

直送オーダーを入力すると、顧客に対する受注オーダーと、仕入先に対する購買オーダーが同時に作成されます。購買オーダーでは、品目を直接顧客に配送するように指示されています。P4210プログラムの「数量1または数量2への引当」引当処理オプションを有効にした場合、直送オーダーに対して設定した非在庫行タイプを使用しても購買オーダーは作成されません。直送見積に対して受注オーダーをリリースすると、購買オーダーが作成されます。

注意: キットに対しては直送オーダーを入力できません。キット用のオーダーを入力するには、通常の受注オーダーまたは購買オーダー入力プログラムを使用してください。

直送オーダーの行タイプを設定する際、直送オーダーに対する在庫インターフェイスをDと定義し、「非在庫品目用品目マスターの編集」オプションを選択する必要があります。直送オーダーの入力時には、事業所品目ファイル・テーブル(F4102)の品目番号、品目原価(F4105)テーブルおよび品目基本価格(F4106)テーブルの両テーブルの原価と価格情報が検証されます。ただし、在庫引当の作成や引当可能数量チェックは行われません。

次のテーブルにレコードが作成されます。

- 受注オーダー見出し(F4201)
- 受注オーダー明細(F4211)
- 購買オーダー見出し(F4301)
- 購買オーダー明細(F4311)

受注オーダーまたは購買オーダーの情報を変更すると、該当するオーダーが次の情報に基づいて更新されます。

- 約束日付
- オーダー数量
- 基本単位(購買単位が変更される)
- 重量および容量(数量を変更した場合)
- 単価

直送オーダーは、通常の受注オーダーと同じ方法で入力します。「受注オーダー処理」メニュー(G4211)で「直送オーダー」、「直送オーダーの作成」または「直送オーダーの更新」を選択します。

関連する受注オーダーと購買オーダーの整合性の維持

「直送オーダー - 受注残/完了オーダー照会」フォームから直送行タイプ(D)を使用して受注オーダーを入力すると、対応する購買オーダーが作成されます。オーダーが保留になると、受注オーダーと購買オーダーの両方が受注オーダーと購買オーダーの処理から除外されます。受注オーダーまたは明細行を取り消すと、対応する購買オーダーまたは購買明細行が取り消されます。

受注オーダー情報の変更は、購買オーダー処理に影響する場合があります。同様に、購買オーダーの変更は受注オーダー情報に影響することがあります。次のフィールドの情報を変更すると、自動的に対応するオーダーが更新されます。

フィールド	変更の説明
状況	<p>購買オーダーまたは受注オーダーのいずれかを締めるか取り消す場合、対応するオーダーの状況が更新されます。</p> <p>仕入先が顧客に出荷した商品が正式に入荷されると、受注オーダーの状況が更新されます。</p> <p>明細行の1つが部分的に受け取られると、品目のうち、その入荷済分の受注オーダー状況のみが更新されます。残数の状況は変わりません。</p>
原価	<p>購買オーダーの当初原価が維持されます。入荷時の原価が異なる場合、購買オーダーの原価は更新されません。ただし、入荷時の原価の変更は、標準原価計算を使用していない場合、受注オーダー明細行で更新されます。</p>
ロット/シリアルNo.	<p>仕入先が入荷を入力してロットまたはシリアル番号を指定した場合、そのロット/シリアル番号情報が受注オーダー明細行に表示されます。複数品目の場合、各ロット/シリアル番号に対して受注オーダーと購買オーダーが分割されます。ロット/シリアル番号を戻す(逆仕訳する)と、それを伝える警告が受注オーダーに表示されます。</p>
日付	<p>仕入先が顧客に商品を出荷すると、仕入先は入荷日付を入力して顧客が商品を受け取ったことを示します。受注オーダー明細行の実際出荷日付が更新されます。</p>

入荷

仕入先は顧客に商品を出荷すると、入荷確認で受領日を入力して顧客が商品を受け取ったことを記録します。入荷処理時の原価の変更は、標準原価計算方法を使用していないかぎり対応する受注オーダー明細行にも反映されます。

部分入荷の場合、受注オーダー明細行が分割されて、残りの入荷待ち数量を反映します。ロットまたはシリアル番号付きの情報を受け取ると、受注オーダー明細行が分割されて、購買オーダーに対応するロットまたはシリアル番号が表示されます。

オーダー明細行を逆仕訳する場合、受注明細行の状況が更新されます。

伝票照合

仕入先が請求書に対する支払伝票を入力すると、受注明細行が終了または除去されていないかぎり受注明細行の原価が新しい原価に更新されます。

事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、事前に次の作業を行う必要があります。

- 直送オーダーに使用するP4210プログラムのバージョンに処理オプションを設定していることを確認します。

このバージョンを、直送オーダーの作成に使用するメニューオプションに関連付けます。不明点については、システム管理者にお問い合わせください。

- ・直送オーダーの行タイプを設定したことを確認します。

参照: [第 2 章、「受注管理システムの設定」、「オーダー行タイプの設定」、31 ページ](#)

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「[購買オーダーの入力](#)」、「[オーダー明細情報の入力](#)」

直送オーダーの入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
受注残/完了オーダー照会	W4210E	「受注オーダー処理」(G4211)、「直送オーダー」	オーダーを検討および選択します。
直送オーダー - 受注オーダー明細の改訂	W4210A	「受注残/完了オーダー照会」フォームで「追加」をクリックします。	直送オーダーを入力します。
直送オーダーの更新 - 既存オーダーの管理	W42101C	「受注オーダー処理」(G4211)、「直送オーダーの更新」	カスタマ・サービス担当者用の直送オーダーを検討します。
直送オーダーの作成 - 新規オーダーの入力	W42101D	<ul style="list-style-type: none"> ・「受注オーダー処理」(G4211)、「直送オーダーの作成」 「直送オーダーの作成 - オーダー見出しの改訂」フォームで「保存して続行」をクリックします。 ・「直送オーダーの更新 - 既存オーダーの管理」フォームで、「追加」をクリックします。 	カスタマ・サービス担当者用の直送オーダーを入力します。

一括オーダーの入力

この項では、一括オーダーの概要、事前設定、および一括オーダーの入力に使用するフォームについて説明します。

一括オーダーについて

一括オーダーは、顧客が一定量の品目を一定期間にわたって買い付けることに合意した受注オーダーです。一括オーダーでは、当該品目の販売が保証され、価格、取引条件、および開始日と終了日が設定されています。合意期間の最終日を取消日付として、1行で一括オーダーを入力できます。決まった時期が来るたびに、一括オーダーの一部の数量に対して受注オーダーを作成します。

一括オーダーは受注オーダーと同じ方法で入力しますが、入力する数量は一括オーダー期間でリリースする全体の数量です。同様に、取消日付は一括オーダーの有効期間の最終日になります。

受注オーダーを直接入力して一括オーダーからその数量を差し引くか、または一括オーダーをリリースするかの選択が可能です。一括オーダーの当初の受注オーダー数量、関連リリース済オーダーおよび残量が参照できます。

P4210プログラムで「引当制御」処理オプションを設定できるため、一括オーダーの作成時に在庫が引き当てられることはありません。この処理オプションを設定すると、「在庫引当ての優先プロファイル処理」フィールドは無視されます。

一括オーダーは、通常の受注オーダーと同じ方法で入力します。「受注オーダー処理」メニュー（G4211）で「一括オーダー」、「一括オーダーの作成」または「一括オーダーの更新」を選択します。

キット品目の一括オーダー

標準の在庫品目と同様にして、キット品目の一括オーダーを作成できます。オーダー入力時にキット構成品を選択する必要があります。

「キット選択」フォームを使用して、オーダー入力時にキット構成品を選択します。選択した構成品を受注オーダーの将来のリリースで使用するテンプレートとして使用されます。一括オーダーから数量をリリースする場合、当初の一括オーダーからの選択項目に基づいてキットが構成されます。一括オーダーのキット構成品行は、親行と独立して選択されてリリースされないように、無効化されます。

また、一括オーダーのリリース後は、「ロー」メニューの「キット選択」オプションを選択することにより、別の構成品を選択できます。現在の部品表は、「キット選択」フォームに展開されて表示されます。一括オーダーのリリース後に受注オーダーの構成品に対して変更を行っても、一括オーダーは更新されません。

事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、事前に次の作業を行う必要があります。

- 一括オーダーが引当可能な在庫にどのように影響するかを指定する処理オプションを設定していることを確認します。

「引当て」タブで、P4210プログラムの処理オプションでこれを設定します。

- UDCテーブル40/BTに一括オーダーのコードを設定します。
- 処理基準に対して一括オーダーを作成したことを確認します。
- 一括オーダー処理と見積オーダー処理を有効にしていることを確認します。

P4210プログラムの「処理」タブで次の処理オプションに適正な値を指定します。

- 一括/見積オーダー処理
- 複数一括オーダーのデフォルト選択
- 単一一括オーダーのデフォルト選択
- キットの受注一括リリースウィンドウの表示

関連項目:

第 7 章、「受注オーダーの入力」、「受注オーダー明細情報について」、131ページ

第 10 章、「オーダーの保留、リリース、および検討」、247ページ

一括オーダーの入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
受注残/完了オーダー照会	W4210E	「受注オーダー処理」(G4211)、「一括オーダー」	オーダーを検討および選択します。
一括オーダー - 受注オーダー明細の改訂	W4210A	「受注残/完了オーダー照会」フォームで「追加」をクリックします。	一括オーダーを入力します。
一括オーダーの更新 - 既存オーダーの管理	W42101C	「受注オーダー処理」(G4211)、「一括オーダーの更新」	カスタマ・サービス担当者用の一括オーダーを検討します。
一括オーダーの作成 - 新規オーダーの入力	W42101D	<ul style="list-style-type: none"> 「受注オーダー処理」(G4211)、「一括オーダーの作成」 「一括オーダーの更新 - 既存オーダーの管理」フォームで、「追加」をクリックします。 	カスタマ・サービス担当者用の一括オーダーを入力します。

見積オーダーの入力

この項では、見積オーダーの概要、事前設定、および見積オーダーの入力に使用するフォームについて説明します。

見積オーダーについて

見積オーダーは、潜在顧客に対して数量と価格の情報を提供するために使用する仮の伝票です。見積オーダーは、顧客から正式な価格見積を要求されているが、受注オーダーにコミットできる準備が整っていない場合に使用します。通常、見積オーダーは一定期間内でのみ有効な伝票です。見積オーダーを入力して、次の処理を実行します。

- 大量の品目に関する価格および引当可能数量を提示する。
- 将来の参照用に数量および価格見積を記録する。
- 顧客がオーダーを承認するまで見積を保留にする。
- 品目の価格および引当可能数量についての情報を収集する。
- 一定期間にわたって見積価格を保証する。

顧客がオーダーを承認した時点で、見積オーダーを受注オーダーに変換します。また、見積オーダーに基づいて販売提案を作成できます。見積オーダーは、伝票タイプの管理プログラム(P40040)から数量をリリースするように、またはリリースしないように指定できます。

見積オーダーの入力は、受注オーダーと同じ方法で行います。「受注オーダー処理」メニュー(G4211)で「見積オーダー」、「見積の作成」または「見積の更新」を選択します。顧客がオーダーを承認するまでは、見積オーダーは受注オーダーに変換しません。

請求書印刷プログラム(R42565)のバージョンを設定すると、見積オーダーの請求書を印刷できます。また、処理オプションを設定して、請求書が見積であること伝えるメッセージを請求書に印刷できます。

見積オーダーを入力すると、見積オーダーからデータを取り込んだ提案文書を自動的に作成できます。提案文書は、各顧客にあわせた情報が含まれるように構成できます。

キット用の見積オーダー

標準の在庫品目と同様にして、キット品目用の見積オーダーを作成できます。オーダー入力時にキット構成品を選択する必要があります。

「キット選択」フォームを使用して、オーダー入力時にキット構成品を選択します。選択した構成品を受注オーダーの将来のリリース用のテンプレートとして使用します。見積オーダーの数量をリリースすると、当初の見積オーダーの選択項目に基づいてキットが構成されます。見積オーダーのキット構成行は、親行と独立して選択されてリリースされないように、無効化されます。

また、見積オーダーのリリース後は、「キット選択」フォームにアクセスするロー・エグジットを選択して、別の構成品を選択できます。現在の部品表は、「キット選択」フォームに展開されて表示されます。

事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、事前に次の作業を行う必要があります。

- 見積オーダーが引当可能な在庫にどのように影響するかを指定する処理オプションを設定していることを確認します。

「引当て」タブで、P4210プログラムの処理オプションでこれを設定します。

- UDC 40/BTに見積オーダーのオーダー・タイプを設定していることを確認します。

見積オーダーの入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
受注残/完了オーダー照会	W4210E	「受注オーダー処理」(G4211)、「見積オーダー」	オーダーを検討および選択します。
見積オーダー - 受注オーダー明細の改訂	W4210A	「受注残/完了オーダー照会」フォームで「追加」をクリックします。	見積オーダーを入力します。
見積の更新 - 既存オーダーの管理	W42101C	「受注オーダー処理」(G4211)、「見積の更新」	カスタマ・サービス担当者用の見積オーダーを検討します。
見積の作成 - 新規オーダーの入力	W42101D	<ul style="list-style-type: none"> • 「受注オーダー処理」(G4211)、「見積の作成」 • 「見積の更新 - 既存オーダーの管理」フォームで、「追加」をクリックします。 	カスタマ・サービス担当者用の見積オーダーを入力します。
提案生成ウィザード(1/3)	W90CA24B	「受注残/完了オーダー照会」フォームで、レコードを選択し、「ロー」メニューから「オーダー」、「提案の生成」を選択	見積に提案書を生成します。

事業所間オーダーと会社間オーダーの入力

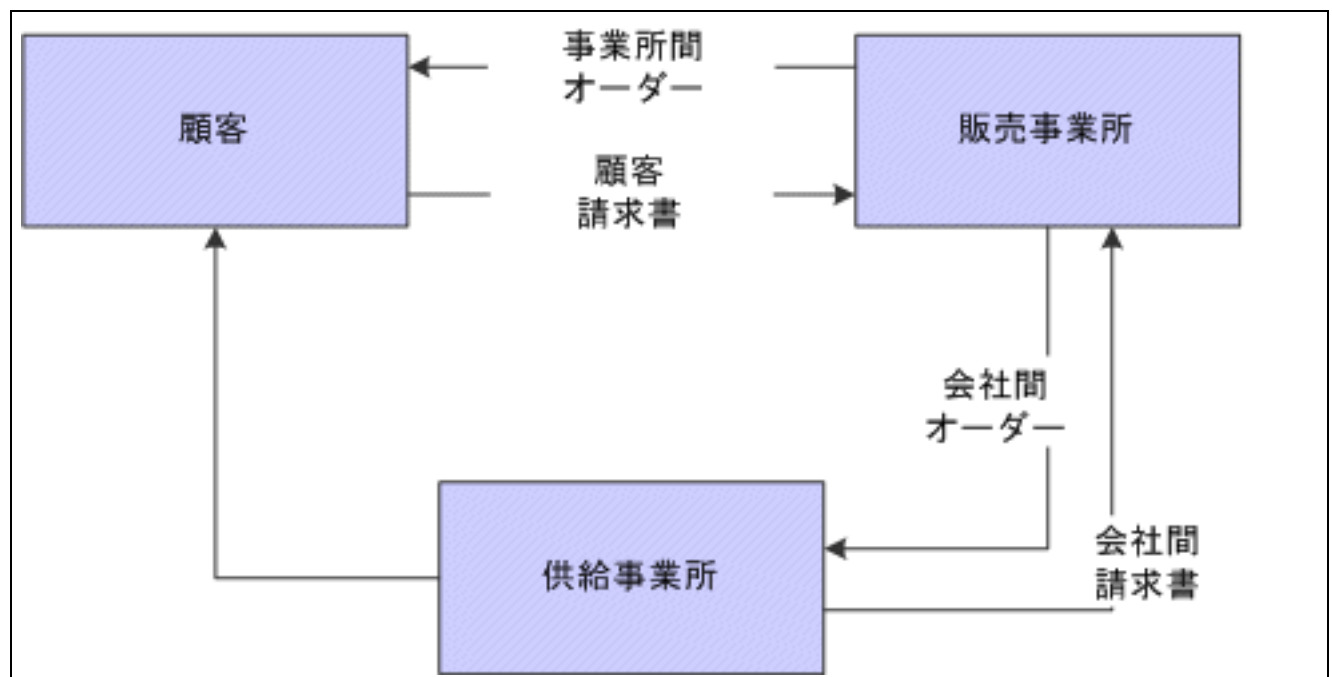
この項では、事業所間オーダーと会社間オーダー、事業所間オーダーのデフォルト情報、事業所間オーダー入力の概要、事前設定、および事業所間オーダーの入力方法について説明します。

事業所間オーダーと会社間オーダーについて

事業所間オーダーを使用すると、販売事業所以外の事業所から顧客のオーダーを充当できます。事業所間オーダーは販売元と出荷事業所（中央供給倉庫など）が異なる場合に役立ちます。

会社間オーダーとは、供給事業所と販売事業所間のトランザクションをトラッキングするオーダーのことです。事業所間オーダーが顧客に対する受注オーダーであるのに対して、会社間オーダーは供給事業所に対する購買オーダーです。会社間オーダーが直送オーダーと異なるのは、仕入先が供給倉庫であり、販売先住所が販売事業所、出荷先住所が顧客番号となる点です。また、出荷を確認するまでは会社間オーダーは作成されません。

次の図は、事業所間オーダーと会社間オーダーの違いを示しています。



事業所間オーダーと会社間オーダー

事業所間オーダー用に設定した伝票タイプと行タイプの組合せに基づいて事業所間オーダーが処理されます。出荷確認中に作成された会社間オーダーは、前状況に「914」（出荷確認時に追加）が使用されます。オーダー処理規則を編集して、事業所間オーダーおよび会社間オーダーの処理を続行できます。

「非在庫品目用品目マスターの編集」を選択して、事業所間オーダーの行タイプを非在庫品目として設定できます。これらの行タイプ機能により、F4102テーブルの品目番号、F4105とF4106テーブルの原価と価格情報を検証し、会社間オーダーに固有の行タイプに関するトランザクションを相手勘定に書き込むことができます。直送オーダーと同様に、販売事業所では引当処理と引当可能数量チェックのどちらも実行されません。

事業所間オーダーのデフォルト情報について

事業所間オーダーおよび会社間オーダーの場合、P4210プログラムの処理オプションで指定する価格設定方式コードに基づいて価格情報が取得されます。基本価格または原価加算割増しを選択すると、次のように価格が取り込まれます。

1. 事業所間オーダーの場合、基本価格優先階層に基づいた供給事業所のF4106テーブルから価格情報が取り込まれます。
基本価格優先階層を定義して、出荷先または販売先の住所録番号に基づいた価格の検索が可能です。
2. 詳細事業所(仕入先)に基づいて、F4105テーブルから原価情報が取り込まれます。
3. 出荷確認時に会社間オーダーを作成すると、事業所間オーダーの単位原価が会社間オーダーの単価となります。

顧客に対する通貨情報は一時変更できます。異なる通貨で海外からのオーダーを処理する場合に役に立ちます。多通貨の場合、次の処理が実行されます。

- 会社間請求書の場合、業種別顧客マスター(F03012)で顧客としての販売事業所、およびに供給事業所に設定されている通貨コードの為替レート情報が販売事業所受注オーダーに取り込まれます。
- 事業所間(顧客)請求書の場合、販売先顧客向け顧客マスターで販売事業所に設定されている通貨コードから為替レート情報が顧客に取り込まれます。

価格や原価を含むオーダー情報はオーダー入力中に一時変更できます。また、環境設定によりその他のデフォルト情報を一時変更することもできます。

事業所間オーダー入力について

事業所間オーダーを入力するには、P4210プログラムの処理オプションで適切な価格設定方式コードと事業所間オーダー・タイプが設定されていることを確認し、顧客請求書の他に会社間請求書を作成するかどうか指定していることを確認します。

処理オプションの組合せによって、次のオプションを指定できます。

- 割増し価格を使用するが、会社間請求書は生成しない。
- 割増し価格を使用し、会社間請求書を生成する。
- 事業所間価格を使用するが、会社間請求書を生成しない。
- 事業所間価格を使用し、会社間請求書を生成する。

供給事業所の出荷先または販売先情報に基づいて、F4106テーブルで事業所間オーダーの基本価格を設定できます。原価割増しは、事業所間での事業所間関係マスター(F3403)の販売事業所および供給事業所間で設定する特定の価格を指します。この割増しは在庫原価に適用されます。

注意: 会社間請求書を生成する場合は、P4210、請求書印刷(R42565)、売上更新(R42800)プログラムで同じ会社間伝票タイプを指定する必要があります。

出荷確認中の会社間オーダーの作成

会社間オーダーが直送オーダーと異なるのは、仕入先が供給倉庫であり、販売先住所が販売事業所、出荷先住所が顧客番号となる点です。また、出荷を確認するまでは会社間オーダーは作成されません。

事業所間受注オーダーを確認する際、出荷確認バッチ・アプリケーション・プログラム (R42500) の処理オプションが検証され、会社間オーダーおよびそのバージョンを作成するかどうか判断されます。事業所間オーダーの原価フィールドの金額は、会社間オーダーの価格として使用されます。会社間受注オーダーの作成プログラム (R4210IC) のバージョンから会社間オーダーが作成されます。

会社間オーダーの作成後は、受注オーダー入力で事業所間または会社間オーダーを変更すると、「整合性を維持するために対応するオーダーを変更してください」という内容の警告メッセージが表示されます。

参照: [第 11 章、「受注オーダーの処理」、「出荷の確認」、306ページ](#)

事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、事前に次の作業を行う必要があります。

- F3403テーブルに割増原価が設定されていることを確認します (必要な場合)。

参照: [第 3 章、「オーダー処理情報の設定」、「事業所間販売価格割増の設定」、46ページ](#)

- 適切な価格設定方式コードおよび会社間オーダー・タイプを使用するように P4210 プログラムの処理オプションを設定していること、および会社間請求書を作成するかどうかを指定していることを確認します。
- 出荷確認時に手持在庫をリリースする場合は、UDC 40/IU で事業所間受注オーダーにオーダー・タイプを設定していることを確認します。
- 会社間オーダーに対応する購買オーダーに、オーダー・タイプ、行タイプ、オーダー処理規則を作成していることを確認します。

会社間購買オーダーは、伝票照合プログラム (P4314) で適切な仕訳を作成するために行タイプを使用して作成する必要があります。

事業所間オーダーと会社間オーダーの入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
受注残/完了オーダー照会	W4210E	「受注オーダー処理」 (G4211)、「受注明細」	オーダーを検討および選択します。
受注オーダー明細の改訂	W4210A	「受注残/完了オーダー照会」フォームで「追加」をクリックします。	事業所間オーダーを入力します。

事業所間オーダーの入力

「受注オーダー明細の改訂」フォームにアクセスします。

事業所間オーダーは、基本的な受注オーダーと同じ方法で入力します。

参照: [第 7 章、「受注オーダーの入力」、127ページ](#)

第 10 章

オーダーの保留、リリース、および検討

この章では、オーダーの保留とリリースの概要と、次の方法について説明します。

- オーダー保留
- 保留オーダーのリリース
- バックオーダーのリリース
- 一括オーダーのリリース
- 見積オーダーのリリース
- 品目情報の検討
- 顧客情報と売上情報の検討
- コミッション情報の検討

オーダーの保留とリリースについて

顧客のオーダーを保留にする必要がある場合があります。たとえば、顧客の与信の問題により、顧客のオーダーを保留することがあります。与信の問題が解決したら、オーダーのリリースを使用して、オーダーを処理サイクルに戻したり、受注オーダー処理を開始できます。また、一括オーダーや見積オーダーを保留している場合には、それらのオーダーをリリースして、受注オーダーを作成できます。

オーダーを保留すると、そのオーダーは処理サイクルから除外されます。オーダーをリリースすると、そのオーダーは処理サイクルに戻されます。

事前設定

ユーザーのパスワードを含む、オーダーの保留情報の設定

参照: [第 3 章、「オーダー処理情報の設定」、「オーダー保留情報の設定」、58ページ](#)

オーダーの保留

この項では、オーダーの保留の概要、および与信保留のバッチ処理プログラム(R42542)の処理オプションの設定方法について説明します。

オーダーの保留について

オーダーの入力中には、オーダーの保留情報を含む様々な方法で、システムによりオーダーを評価できます。オーダーの保留処理を有効にすると、オーダー情報が評価され、オーダーを保留にするかどうか決定されます。オーダーを保留にする必要があるとシステムにより判断された場合は、オーダーを処理する前にオーダーの保留警告が送信されます。

オーダーの入力時には、システムにより与信チェックを実行し、オーダーを与信保留にすることができます。ときには、既存の受注オーダーに対して顧客の与信限度を確認し、オーダーを与信保留にする必要がある場合があります。与信限度を超える既存のオーダーを保留するには、与信保留のバッチ処理プログラム(R42542)を使用できます。システムにより、異なる状況にある複数行の受注オーダーを確認するには、「最も高い次状況」処理オプションを設定する必要があります。受注オーダーのすべての明細行がこの処理オプションに入力した値以下の場合は、受注オーダー全体が与信保留になります。

たとえば、受注オーダーの1行目の「次状況」が590、2行目の「次状況」が540だとします。「最も高い次状況」処理オプションに560を入力したとします。この場合は、1行目の状況が処理オプションの値よりも大きいので、オーダーは保留にはなりません。

与信保留のバッチ処理プログラム(R42542)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、与信保留のバッチ処理プログラムのデフォルト値を指定します。

デフォルト

この処理オプションでは、与信保留に使用されるデフォルト値を指定します。

1. **状況コード - 開始**

与信保留のバッチ処理対象のオーダーの選択に使用する状況コード範囲の開始状況コードを指定する値を、ユーザー定義コード(UDC)の40/ATから入力します。このコードと「状況コード - 終了」処理オプションが組み合さって、検索基準範囲が定義されます。「状況コード - 開始」と「状況コード - 終了」の組合せは、オーダー処理規則定義テーブル(F40203)内にある、処理するオーダー・タイプと行タイプの前状況と次状況の有効な組合せである必要があります。
2. **状況コード - 終了**

与信保留のバッチ処理を行うオーダーを選択するために、状況コード範囲を指定するコード(UDC 40/AT)を入力します。このコードと「状況コード - 開始」処理オプションが組み合さって、検索基準範囲が定義されます。「状況コード - 開始」と「状況コード - 終了」の組合せは、F40203テーブル内にある、処理するオーダー・タイプと行タイプの前状況と次状況の有効な組合せである必要があります。
3. **基準日状況**

処理するオーダーの決定に「前状況」と「次状況」のフィールドを使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

 - 1: 「前状況」の値が、処理オプションの「状況コード - 開始」と「状況コード - 終了」の範囲内にあるオーダーを選択します。
 - 2: 「次状況」の値を使用して、オーダーを選択します。
4. **次状況の一時変更**

オーダー処理の次のステップを示すコードをUDC 40/ATから入力します。F40203テーブル内で設定されている、使用するオーダー・タイプと行タイプに対応するコードを指定する必要があります。この一時変更用状況は、与信保留のバッチ処理で実行できるもう1つの任意のステップになります。開始状況と一時変更用次状況の組合せは、F40203テーブルの前状況と次状況の有効な組合せになっている必要があります。

- 5. 次状況の更新回避** オーダー処理規則定義を基に次状況が更新されないようにするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 既存のオーダー処理規則の次状況を更新します。
 1: 次状況を更新しません。
- 6. 最も高い次状況** 受注オーダーに与信保留を適用するために、受注オーダー明細行に指定できる最も高い次状況を示すコードをUDC 40/ATから入力します。与信保留についてこの値よりも大きい次状況を持つオーダーは評価されません。
- 7. 保留オーダー・コード** 業種別顧客マスター (F03012) に設定した顧客の与信限度と、オーダーおよび売掛金残高を自動比較するために使用するコードをUDC 42/HCから入力します。
 オーダーを保留にする条件をオーダー保留情報プログラム (P42090) で定義し、その条件を保留コードに添付します。オーダー保留処理を有効にするには、この処理オプションで保留コードを指定する必要があります。

保留オーダーのリリース

この項では、オーダーのリリースの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 保留リリース・プログラム (P43070) の処理オプションの設定
- 保留オーダーのリリース
- 与信保留のバッチ・リリース・プログラム (R42550) の処理オプションの設定
- 与信保留のバッチ・リリース

オーダーのリリースについて

いくつかの理由でオーダーを保留にする場合があります。たとえば、粗利益条件を満たさないオーダーや顧客の与信限度額を超過するオーダーなどを保留にする場合です。保留にしたオーダーの処理を再開するには、その保留オーダーをリリースする必要があります。これは、保留リリース・プログラム (P43070) または与信保留のバッチ・リリース・プログラム (R42550) を使用して行います。

オーダーは次の様々な理由から保留にできます。

- 与信保留などの顧客保留
- 粗利益条件を満たさない明細行などの品目保留
- 最小金額に満たないオーダーや最大金額を超過するオーダーなどに対するオーダー保留

JDESOENTRYワークフロー処理をアクティブにすると、オーダーが保留についてチェックされたうえで処理されます。「OK」をクリックしてオーダーを受け入れると、保留コードの処理オプションがチェックされ、オーダーとその保留情報が比較されます。

オーダーが保留になると、保留コードに担当者として定義した住所録番号宛てに電子メールでメッセージが送信されます。このメッセージはオーダーが保留中であることを示します。オーダーをリリースする担当者は、ワークフロー処理時にワーク・センターでメッセージの内容を検討して、リリースするオーダーにアクセスできます。オーダーがリリースされると、コミッション・フィールドと販売先番号に定義されている販売担当者に、オーダーが処理中であることを示す電子メールが送信されます。

オーダーを処理サイクルに戻すには、そのオーダーを保留状態からリリースする必要があります。たとえば、顧客の与信限度額を超過するオーダーを入力するとオーダーが保留になります。顧客が支払を行うと与信状況が変更になり、オーダーの充当処理が可能になります。ただし、顧客のオーダーをリリースしないかぎり、オーダーの処理は行われません。オーダーをリリースするには、適切なセキュリティ権限が必要です。顧客に対する品目やオーダーのリリースは必要に応じて何回でも行うことができます。保留受注オーダーの印刷レポート(R42640)を印刷して、保留状態の受注オーダーをすべて検討できます。

オーダーのリリース処理を短縮するために、親会社の住所録番号に基づいてオーダーを選択し、リリースできます。

さらに、与信保留のバッチ・リリース・プログラム(R42550)を使用して、与信保留中の受注オーダーをリリースできます。受注オーダーは、ピッキング日付と顧客の与信限度額に基づいてリリースされます。顧客が未処理の請求書に充当する支払を行い、かつ既存の受注オーダーに適用する与信残高がある場合には、ピッキング日付別に受注オーダーの明細行が検討されます。受注オーダーは、オーダー明細行の最短のピッキング日付を使用して、保留からリリースされます。

参照: 第 3 章、「オーダー処理情報の設定」、「事業所間販売価格割増の設定」、46ページ

事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、次の点を確認する必要があります。

- 追加のオーダー・タイプ用に状況コードとオーダー処理規則定義を設定していること。
- クレジット・オーダーおよび直送オーダーに関連する行タイプを設定していること。

参照: 第 2 章、「受注管理システムの設定」、「オーダー行タイプの設定」、31ページ

保留オーダーのリリースに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
保留オーダーの処理	W43070A	「追加オーダー処理」(G4212)、「保留リリース」	保留中のオーダーを検討します。
パスワードの確認	W43070B	オーダーを選択し、「保留オーダーの処理」フォームの「ロー」メニューから「リリース」を選択します。	保留オーダーをリリースします。 オーダーをリリースするパスワードを入力します。

保留リリース・プログラム(P43070)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、保留リリース・プログラム(P43070)で実行されるデフォルト値、表示設定、バージョンおよび処理を指定します。

デフォルト

この処理オプションでは、デフォルトのオーダー・タイプとリリース・コードを指定します。

1. **オーダー・タイプ** リリースするオーダー・タイプを示す値をUDC 00/DTから入力します。
2. **リリース・コード** リリース・コードを示す値をUDC 40/RCから入力します。

表示

この処理オプションでは、表示される情報を指定します。

1. 受注オーダーまたは購買オーダーの表示

受注オーダーと購買オーダーのいずれを表示するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 購買オーダーを表示します。

1: 受注オーダーを表示します。

2. 前にリリースしたオーダーの表示

以前リリースしたオーダーを表示するには、「Y」と入力します。

バージョン

この処理オプションでは、「保留オーダーの処理」フォームからアクセスされるプログラムのバージョンを指定します。

1. 受注オーダー入力 (P4210)

受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを入力します。
この処理オプションをブランクにすると、ZJDE0001が使用されます。

2. 購買オーダー入力 (P4310)

購買オーダー入力プログラム (P4310) のバージョンを入力します。
この処理オプションをブランクにすると、ZJDE0001が使用されます。

3. ピッキング・リスト印刷 (R42520)

ピッキング・リスト印刷プログラム (R42520) のバージョンを入力します。
この処理オプションをブランクにすると、ZJDE0001が使用されます。

4. シップ・アンド・デビット (R45100)

シップ・アンド・デビット・プログラム (R45100) のバージョンを入力します。
この処理オプションをブランクにすると、ZJDE0001が使用されます。

5. 製造作業オーダー (P48013)

製造作業オーダー・プログラム (P48013) のバージョンを入力します。
この処理オプションをブランクにすると、ZJDE0001が使用されます。この処理オプションは、受注オーダーのリリースでのみ使用されます。

処理

この処理オプションでは、システムで実行する処理を設定します。

1. ピッキング・リストの自動印刷

ピッキング・リストを自動印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: ピッキング・リストを印刷しません。

1: ピッキング・リストを自動印刷します。

2. 作業オーダーのリリース状況コードの入力

作業オーダーを処理サイクルに戻すときの作業オーダーの状況を指定する値をUDC 00/SSから入力します。

3. シップ・アンド・デビット処理

シップ・アンド・デビットの処理モードを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: R45100を使用しません。

1: サブシステム・モードを使用します。

2: バッチ・モードを使用します。

4. 親会社または出荷先の与信保留リリース処理(売上のみ)

与信保留中の受注オーダーのリリースを許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 親会社または出荷先の与信保留のリリースを許可しません。

1: 親会社または出荷先の与信保留のリリースを許可します。

注意: この処理オプションは、与信保留の受注オーダーでのみ使用できません。

倉庫

この処理オプションでは、倉庫を介して品目を処理する方法を設定します。

- | | |
|--------------------|--|
| 1. 要求処理モード | ピッキング要求の処理モードを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: ピッキング要求を指定しません。
1: 要求のみを作成します。
2: 要求を作成し、サブシステムを使用して処理します。 |
| 2. 要求の処理 | サブシステムを使用してピッキング要求を処理する場合は、使用する保管場所選択ドライバ・プログラム(R46171)のバージョンを入力します。 |
| 3. 次状況の一時変更 | リクエストが生成されている受注オーダー行の次状況を示す値をUDC 40/ATから入力します。 |

前払

この処理オプションでは、前払を使用できる保留コードを設定します。

- | | |
|---------------------------------|---|
| 1. 承認保留をリリースし、前払状況を進めます。 | 承認保留をリリースして前払状況を進めるかどうかを指定する値をUDC 42/HCから入力します。システムでは、承認が受領された場合にのみ承認保留をリリースできます。 |
| 2. 決済保留をリリースし、前払状況を進めます。 | 決済保留をリリースして前払状況を推進するかどうかを指定する値をUDC 42/HCから入力します。決済保留は、決済が受領された場合にのみリリースされます。 |

保留オーダーのリリース

「保留オーダーの処理」フォームにアクセスします。

- | | |
|---------------|--|
| 担当者No. | 保留中のオーダーを検討し、リリースする担当者の住所録番号を入力します。 |
| 仕入先/顧客 | 2番目の説明または備考(最大30文字)を入力します。 |
| 親No. | 親会社の住所録番号を入力します。この番号は、特定の住所を親会社または所在地と関連付けるために使用されます。このフィールドに入力した値で、住所録組織構造マスター(F0150)内の構造タイプがブランクになっているレコードが更新されます。検証目的で住所録マスター(F0101)に設定されている住所番号のみを使用できます。親会社No.を持つ住所録レコードの例として、子会社、支社、および契約会社の作業場所などがあります。 |
| 出荷先 | このオーダーの出荷先の所在地の住所番号を入力します。番地、市町村、都道府県、郵便番号、国など、顧客の住所に対するデフォルト値は住所録から設定されます。 |

与信保留のバッチ・リリース・プログラム(R42550)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

この処理オプションでは、デフォルトのオーダー・タイプとリリース・コードを指定します。

状況コード - 開始	(将来使用)オーダーの選択に使用する、最初の状況コードの範囲を指定する値をUDCの40/ATから入力します。「状況コード - 開始」と「状況コード - 終了」の組合せは、オーダー処理規則定義テーブル(F40203)内にある、処理するオーダー・タイプと行タイプの前状況と次状況の有効な組合せである必要があります。
状況コード - 終了	(将来使用)オーダーの選択に使用する、状況コードの範囲を指定する値をUDC 40/ATから入力します。「状況コード - 開始」と「状況コード - 終了」の組合せは、処理するオーダー・タイプと行のタイプについて、F40203テーブル内にある前状況と次状況の有効な組合せである必要があります。
基準日状況	(将来使用)受注オーダー明細テーブル(F4211)の選択基準として、必要な前状況と次状況のいずれを使用するかを指定します。値は次のとおりです。 1: 前状況に基づいて選択します。 2: 次状況に基づいて選択します。
リリース・コード	保留オーダーのリリースを行う担当者(担当部署)のIDを表すコードをUDC 40/RCから入力します。保留オーダーのリリース時に、保留オーダー・テーブル(F4209)にこの値が反映されます。
与信保留コード	オーダー保留の理由(たとえば、与信、予算、または粗利率の基準を超過など)を示す値をUDC 42/HCから入力します。
テスト・モードと最終モード	(将来使用)テスト・モードと最終モードのどちらで実行するかを指定します。値は次のとおりです。 ブランク: テスト・モードで実行します。 1: 最終モードで実行します。

印刷

この処理オプションでは、レポートに金額を印刷するかどうかを決定します。

金額の印刷	レポートに金額を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。 ブランク: レポートに金額を印刷します。 1: レポートに金額を印刷しません。
-------	---

与信保留のバッチ・リリース

与信保留のバッチ・リリース(R42550)を使用して、与信保留中のオーダーをリリースできます。R42550プログラムでは、顧客の与信限度額と未決済請求額に基づいて、保留オーダー・テーブル(F4209)にある保留中の受注オーダーをリリースし、受注オーダー見出しテーブル(F4201)のオーダーについてオーダー保留コードを削除します。

「略式コマンド」フィールドに「BV」と入力します。「使用可能なバージョン」フォームの「バッチ・アプリケーション」フィールドに「R42550」と入力します。

バックオーダーのリリース

この項では、バックオーダーのリリースの概要と次の方法について説明します。

- バックオーダー・リリース(オンライン)プログラム(P42117)の処理オプションの設定
- バックオーダーのオンライン・リリース
- バックオーダー・リリース/レポート・プログラム(R42118)の処理オプションの設定
- バックオーダーのバッチ・リリース

バックオーダー・リリースについて

オーダーまたはオーダー行を満たすのに十分な引当可能数量が在庫にない場合、システムによりオーダーを処理サイクルから除外できます。このタイプの保留はバックオーダーと呼ばれます。オーダーまたはオーダー行をバックオーダーにする場合、在庫が引当可能となった時点でバックオーダーをリリースして処理サイクルに戻す必要があります。バックオーダーのリリースではバックオーダー数量より大きな値を入力できます。

次のテーブルに各値が反映されます。

- F4201 - オーダー合計
- F4211 - オーダー数量
- F03012 - 顧客の受注残額
- F41021 - 品目残高

受注オーダーに対する支払手段タイプが現金の場合には、業種別顧客マスター(F03012)は更新されません。

バックオーダーのリリースを行う前に、特定の顧客や品目、オーダーに対してバックオーダー情報を検索できます。

バックオーダーのバッチ・リリース

バックオーダー・リリース/レポート・プログラム(R42118)を使って、複数のバックオーダーを一度にリリースできます。在庫が引当可能になると、その在庫がすべて引き当てられるまで、システムによりバックオーダーがリリースされます。

バックオーダーが充当される順序は、システムにより自動的に決定されます。デフォルトでは日付が最も早いオーダーが最初になります。「顧客請求指示」に設定した優先コードに基づいてオーダーを充当するには、R42118プログラムの別のバージョンを作成して、日付順序の値を編集します。このバージョンでは優先コード順にオーダーの充当が行われ、次に、要求日付順にオーダーが充当されます。

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne内示調整管理システムを使用する場合は、レポートの日付/時刻列に約束納入時刻(RSDT)情報が記載されます。

キットのバックオーダーのリリース

キットの親または個別のキット構成品に対するバックオーダーをリリースできます。キット構成品を個別にリリースするときは、親と構成品の不一致が生じることを知らせる警告が表示されます。システムは、レコードにフラグを設定し、このフラグ情報を使用することで、キットの整合性を失わせる結果になるキット親品目に対するアクション、たとえばキット親品目のオーダー数量変更を防止します。

バックオーダー・リリース・プログラム(P42117)で、親品目のトランザクション数量を指定し、受注オーダーの行を処理するときに、P42055プログラムが起動されます。P42117プログラムで「キット残数調整ウィンドウ(P42055)の表示」処理オプションを設定し、キット残数調整の実行方法を指定します。

バックオーダーのバッチ・リリース・プログラム(R42118)では、キット構成品は個別に処理できません。推奨された構成品数量に基づいて、構成品がリリースされます。

バックオーダーのオンライン・リリースに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
バックオーダーの処理	W42117M	「追加オーダー処理」(G4212)、「バックオーダー・リリース(オンライン)」	保留中のバックオーダーを検討して選択します。
バックオーダー・リリース(オンライン) - バックオーダー・リリース	W42117I	リリースするバックオーダーを見つけ、「バックオーダーの処理」フォームの「フォーム」メニューから「表示ローのリリース」を選択します。	表示しているオーダーをすべてリリースします。単一のバックオーダーをリリースします。
キット残数調整ウィンドウ	W42055A	キット品目に関して、出荷またはバックオーダーのリリースを確認します。	トランザクションのキット数量を改訂します。

バックオーダー・リリース(オンライン)プログラム(P42117)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、バックオーダー・リリース(オンライン)プログラム(P42117)で実行されるデフォルト値、表示基準、バージョンおよびプロセスを指定します。

デフォルト

この処理オプションでは、リリース済オーダーの次状況コードを決定します。

1. リリース済みオーダーの次状況

リリース済オーダーの次状況として使用する行状況を指定する値をUDC 40/ATから入力します。オーダー処理規則テーブル(F40203)に設定されている、オーダー・タイプと行タイプの組合せに対応する状況を使用する必要があります。

注意: 状況を入力しなかったり、無効な状況を入力した場合、オーダーの状況は更新されません。

表示

この処理オプションでは、情報が表示されるかどうかを指定します。

1. 完全充当のみ

全行を表示するか、完全に充当できる行のみを表示するかを指定します。このオプションは、品目番号で検索する場合にのみ役立ちます。値は次のとおりです。

ブランク: すべての行を表示します。

1: 完全に充当できる行のみを表示します。

2. キット構成品

キットの構成品行を表示するかどうかを指定します。キットのバックオーダーをリリースする際には、キットの各構成品を手動でリリースするか、または親品目のリリース時にその構成品を自動的にリリースできます。値は次のとおりです。

ブランク: キット構成品行を表示しません。各構成品のリリースとキットの各品目の残数量調整が、自動的に行われます。

1: すべてのキット構成品行が表示されます。必要に応じて、各構成品を手動でリリースできます。

3. 保留オーダー

「バックオーダー・リリース」フォームに保留オーダーを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 保留オーダーを表示しません。

1: 保留オーダーを表示します。

4. 選択する次状況

行タイプのオーダー・フローにおける次のステップを指定するコードをUDC 40/ATから指定します。

5. キット残数調整ウィンドウ(P42055)の表示

親品目レベルでキット品目を処理する場合に、キット残数調整ウィンドウ・プログラム(P42055)を表示するかどうかを指定します。常に製造済キット内の親品目のみが表示され、キット残高調整が非表示で実行されます。値は次のとおりです。

ブランク: 例外が存在する場合にのみ、「キット残数調整ウィンドウ」フォームが表示されます。例外とは、オーダー済の親品目数量を満たすだけの十分な構成品を引き当てることができない場合や、いずれの構成品もすでに処理済である場合などです。

1: キットの親品目の処理時に、必ず対話型の「キット残数調整ウィンドウ」フォームが表示されます。

2: 対話型の「キット残数調整ウィンドウ」フォームは表示されません。部品表プログラム(P3002)で定義されたデフォルト数量に基づいたキット残高調整が非表示で実行されます。

編集

この処理オプションでは、許容ロット状況コードを指定します。

1. 検証する許容ロット状況グループの入力

検証する許容ロット状況グループを入力します。

受注オーダーの処理中、ブランクでないロット状況コードが、ユーザー定義の状況コード値に対して検証されます。ブランク以外のロット状況コードが許容ロット状況テーブル(F41081)にある場合、ユーザー定義のロット状況コードはブランクとみなされ、保留中の品目は受注処理中もそのままになります。

プロセス

この処理オプションでは、システムで実行する特定の処理を指定します。

1. 使用可能数量に含めるバックオーダー数量

バックオーダー数量を引当可能数量に追加するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: バックオーダー数量を引当可能数量に追加しません。

1: バックオーダー数量を引当可能数量に追加します。

2. 引当

リリース済オーダーを在庫の保管場所にハード・コミットする在庫引当プログラム (R42997) を呼び出すかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: R42997 プログラムを呼び出さず、リリース済のオーダーのソフト・コミットのみを行います。

1: リリース済オーダーを在庫の保管場所にハード・コミットする R42997 プログラムを呼び出します。

注意: 引当可能数量を超える数量をリリースすると、オーダーが再びバックオーダーされることがあります。

3. 出荷数量がバックオーダー数量を上回る場合にリリース

当初数量を上回る数量のリリースを許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 当初数量を上回る数量のリリースを許可しません。

1: 当初のバックオーダー数量を上回る数量のリリースを許可します。

4. ゼロ手持数量

手持数量がゼロの場合にオーダーのリリースを許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 手持数量がゼロの場合にリリースを許可しません。

1: 手持数量がゼロのときにオーダーのリリースを許可します。

注意: この処理オプションにより在庫レベルが負の数量になることがあり、平均原価の計算に影響します。

5. 原価の更新

リリース済オーダーを現行原価で更新するかどうかを指定します。この処理オプションにより、オーダーを受けた時点とバックオーダーの数量をリリースした時点の間で原価が変化している品目について、原価を更新できます。値は次のとおりです。

ブランク: 原価を更新しません。

1: リリース済オーダーを現行原価で更新します。

注意: 販売価格は変更しません。

親キット品目のバックオーダーがリリースされ、構成部品が個別にリリース済である場合は、親キット行の原価は変更されません。バックオーダーからリリースされた構成部品行の原価は更新されますが、その原価の変更は親キット行には反映されません。

6. シップ・アンド・デビット処理

P42117 プログラムを実行するときに、シップ・アンド・デビット契約の指定と調整に、サブシステム、バッチ、または通常の処理のいずれを使用するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 通常処理を使用します。

1: サブシステムを使用します。

2: 割当/再計算/再割当契約プログラム (R45100) によるバッチ処理を使用します。

オーダー保留

この処理オプションでは、与信チェックと部分オーダー保留コードを指定します。

1. 与信チェック保留コード 業種別顧客マスター (F03012) に設定した顧客の与信限度とオーダーおよび売掛金残高を自動比較するために使用する、与信保留コードを識別するための値を、UDC 42/HC から入力します。
オーダーを保留にする条件をオーダー保留情報 (P42090) で定義し、その条件を保留コードに添付します。オーダー保留処理を有効にするには、この処理オプションで保留コードを指定する必要があります。
2. 部分オーダー保留コード オーダー明細行を充当する引当可能数量がない場合に、オーダー全体を保留するために使用するコードを識別する値を UDC 42/HC から入力します。
バックオーダー・リリースで、オーダーが完全充当される場合に保留をリリースするには、部分オーダー保留コードを入力する必要があります。これにより、「顧客請求指示」、「品目マスター情報」、「品目/事業所情報」、および「事業所固定情報」のフォームの情報に基づいて、保留のリリースと削除ができます。正しい部分保留コードを入力しない場合、バックオーダー・リリースによる保留オーダーのリリースは行われません。

印刷

この処理オプションでは、ピッキング・リストや請求書を自動印刷するかどうかを指定します。

1. 自動印刷 請求書を自動印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 請求書とピッキング・リストを印刷しません。
1: ピッキング・リストを自動印刷します。
2: 請求書を自動印刷します。

注意: ピッキング・リストの印刷プログラム (R42520) や請求書印刷プログラム (R42565) のバージョンを指定するには、「バージョン」タブの処理オプションを使用します。

バージョン

この処理オプションでは、使用するプログラムのバージョンを指定します。

1. 受注オーダー入力 (P4210) 「ロー」メニューから「受注明細」を選択したときに、オーダーの検討に使用する受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを指定します。
2. 受注残/完了オーダー照会 (P4210) 「フォーム」メニューから「受注残/完了オーダー照会」を選択したときに、オーダーの検討に使用する受注残/完了オーダー照会 (P4210) のバージョンを指定します。
3. 在庫状況 (P41202) 「フォーム」メニューから「在庫状況」を選択したときに、品目情報の検討に使用する在庫状況 (P41202) のバージョンを指定します。
4. サブシステムの請求書印刷 (R42565) サブシステム処理に設定する請求書印刷 (R42565) のバージョンを指定します。サブシステムで請求書を作成する場合に、この処理オプションを使用します。

注意: この処理オプションを使用するには、P42117 プログラムで請求書を自動印刷するために、「印刷」タブの「自動印刷」処理オプションに「2」と入力する必要があります。

5. サブシステムのピッキング・リスト印刷 (R42520)

サブシステム処理に設定するピッキング・リストの印刷 (R42520) のバージョンを指定します。サブシステムで請求書を作成する場合に、この処理オプションを使用します。

注意: この処理オプションを使用するには、P42117プログラムでピッキング・リストを自動印刷するために、「印刷」タブの「自動印刷」処理オプションに「1」と入力する必要があります。

6. シップ・アンド・デビット (R45100)

P42117プログラムを実行するときに、シップ・アンド・デビット契約の指定と調整に使用するサブシステムまたはバッチ処理 (R45100) のバージョンを指定します。

倉庫

この処理オプションでは、JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理システムによる要求のピッキング方法を指定します。

1. 要求処理モード

JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理システムでピッキング要求を作成しサブシステムで要求を処理するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: ピッキング要求を生成しません。

1: JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理システムでピッキング要求が作成されます。

2: ピッキング要求を作成し、JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理のサブシステムで要求を処理します。

ピッキング要求は、オーダーに対して特定の保管場所から在庫をピッキングするように提示する処理に使用されます。

2. サブシステムのピッキング要求印刷

サブシステム処理に設定されたピッキング要求印刷 (P46171) のバージョンを指定します。この処理オプションは、サブシステムで倉庫管理のピッキング要求を作成する場合に使用します。

3. 次状況の一時変更

オーダー処理の別の状況を定義する値をUDC 40/ATから入力します。オーダー・タイプと行タイプのそれぞれの組合せに対して、オーダー処理規則に次状況を設定する必要があります。開始状況と一時変更用状況の組合せは、オーダー処理規則テーブル (F40203) 内にある前状況と次状況の有効な組合せである必要があります。

バックオーダーのオンライン・リリース

「バックオーダー・リリース」フォームにアクセスします。

JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理を使用する場合は、バックオーダーをリリースするときに、オーダーの要求納入時刻およびピッキング予定時刻の情報が表示されます。この情報により、日付と時刻に基づいて製品をリリースできます。

バックオーダー・リリース (オンライン) - バックオーダー・リリース

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

品目 No.

*

事業所

M30

販売先 No.

*

出荷先

*

オーダー No.

23173

SO

00200

顧客発注 No.

*

レコード 1 - 6

グリッドのカスタマイズ

	出荷数量	単位	バックオーダー 残数量	2重単位 出荷予定数量	2重 単位	オーダー No.	2重単位 バックオーダー残数量	ピッキング 予定日付	ピッキング 予定時刻
<input checked="" type="radio"/>		EA	100		EA	23173		2005/06/16	
<input type="radio"/>		EA	250		EA	23173		2005/06/23	
<input type="radio"/>		EA	150		EA	23173		2005/06/30	
<input type="radio"/>		EA	100		EA	23173		2005/07/07	
<input type="radio"/>		EA	50		EA	23173		2005/07/21	
<input type="radio"/>		EA	50		EA	23173		2005/07/28	

「バックオーダー・リリース」フォーム

バックオーダー・リリース/レポート・プログラム(R42118)の処理オプション

処理オプションを使用して、バックオーダー・リリース/レポート・プログラム(R42118)のデフォルト処理を指定します。

デフォルト

この処理オプションでは、バックオーダーからリリースされたオーダーのデフォルトの次状況を決定します。

1. リリース済みオーダーの次状況
- リリース済みオーダーの次状況として使用する行状況を指定します。オーダー処理規則定義のUDCテーブル40/ATに設定されている、オーダー・タイプと行タイプの組合せに対応する状況を使用する必要があります。

注意: 状況を入力しなかったり、無効な状況を入力した場合、オーダーの状況は更新されません。

編集

この処理オプションでは、許容ロット状況コードを指定します。

1. 検証する許容ロット状況グループの入力
- 検証する許容ロット状況グループを入力します。受注オーダーの処理中、空白でないロット状況コードが、ユーザー定義の状況コード値に対して検証されます。空白以外のロット状況コードがF41081テーブルにある場合、ユーザー定義のロット状況コードは空白とみなされ、保留中の品目は受注オーダーの処理中も保留されたままになります。

処理

この処理オプションでは、システムで実行する特定の処理を指定します。

1. テスト・モード/最終モード
- バックオーダー・リリース/レポートをテスト・モードと最終モードのいずれで実行するかを指定します。値は次のとおりです。

- ブランク: テスト・モードで実行します。受注オーダー行の変更は行われず、バックオーダーは充当されません。テスト・モードでは、在庫を充当できる受注オーダー行が表示されるのみです。
- 1: プログラムを最終モードで実行します。これにより、バックオーダー行の更新と充当が行われます。
- 2. 使用可能数量に含めるバックオーダー数量**
- バックオーダー数量を引当可能数量に追加するかどうかを指定します。このオプションにより、さらに多くの数量でオーダーを充当できます。値は次のとおりです。
- ブランク: バックオーダー数量を引当可能数量に追加しません。
- 1: バックオーダー数量を引当可能数量に追加します。
- 3. 引当**
- リリース済オーダーを在庫の保管場所にハード・コミットする在庫引当プログラム (R42997) を呼び出すかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 引当プログラムを呼び出さず、リリース済のオーダーのソフト・コミットのみを行います。
- 1: リリース済オーダーを在庫の保管場所にハード・コミットする R42997 プログラムを呼び出します。
-
- 注意:** 引当可能数量を超える数量をリリースすると、オーダーが再びバックオーダーされることがあります。
-
- 4. 手持数量がゼロ**
- 手持数量がゼロの場合にオーダーのリリースを許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 手持数量がゼロのときにオーダーのリリースを許可しません。
- 1: 手持数量がゼロのときにオーダーのリリースを許可します。
-
- 注意:** このオプションにより在庫レベルが負の数量になることがあり、平均原価の計算に影響します。
-
- 5. 原価の更新**
- リリース済オーダーを現行原価で更新するかどうかを指定します。このオプションにより、オーダーを受けた時点とバックオーダーの数量をリリースした時点の間で原価が変化している品目について、原価を更新できます。値は次のとおりです。
- ブランク: 原価を更新しません。
- 1: リリース済オーダーを現行原価で更新します。
-
- 注意:** 販売価格は変更しません。
-
- 6. シップ・アンド・デビット処理**
- バックオーダー・リリース・プログラムの実行時に、シップ・アンド・デビット契約の指定と調整に使用する処理方法を指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: サブシステム処理もバッチ処理も使用しません。
- 1: サブシステムを使用します。
- 2: バッチ処理 (R45100) を使用します。

オーダー保留

この処理オプションでは、オーダー保留処理を有効にします。

1. 与信チェック保留コード 業種別顧客マスター (F03012) に設定した顧客の与信限度とオーダーおよび売掛金残高を自動比較するために使用する、与信保留コードを指定するための値を、UDC 42/HC から入力します。
 オーダーを保留にする条件をオーダー保留情報プログラム (P42090) で定義し、その条件を保留コードに添付します。
 オーダー保留処理を有効にするには、この処理オプションで保留コードを指定する必要があります。
2. 部分オーダー保留コード オーダー明細行を充当する引当可能数量がない場合に、オーダー全体を保留するために使用する値を UDC 42/HC から入力します。
 バックオーダー・リリースで、オーダーが完全充当される場合に保留をリリースするには、部分オーダー保留コードを入力する必要があります。これにより、「顧客請求指示」、「品目マスター情報」、「品目/事業所情報」、および「事業所固定情報」のフォームの情報に基づいて、保留のリリースと削除ができます。正しい部分保留コードを入力しない場合、バックオーダー・リリースによる保留オーダーのリリースは行われません。

印刷

この処理オプションでは、完全に充当可能なオーダーや保留オーダー、キット構成品のオーダー情報を印刷するかどうかを指定します。

1. 合計充当オーダー 全行を表示するか、完全充当可能な行のみを表示するかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 全行を印刷します。
 1: 完全充当可能な行のみを印刷します。
2. 保留オーダーの印刷 保留オーダーを印刷し、保留オーダーのリリースを許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 保留オーダーを印刷しません。
 1: 保留オーダーを印刷し、保留オーダーのリリースを許可します。
3. キット構成品行の印刷 バックオーダー・リリースのキットの構成品行を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: キット構成品を印刷しません。
 1: バックオーダー・リリースにキット構成品を印刷します。
4. エラー・メッセージの印刷 レポートにエラー・メッセージを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: すべてのエラー・メッセージを印刷します。
 1: エラー・メッセージを印刷しません。

バージョン

この処理オプションでは、バックオーダー・リリース処理中に使用するバージョンを指定します。ブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

1. サブシステムの請求書印刷 (R42565) サブシステム処理で請求書の作成を設定する請求書印刷プログラム (R42565) のバージョンを指定します。

- | | |
|--------------------------------|---|
| 2. サブシステムのピッキング・リスト印刷 (R42520) | サブシステム処理でピッキング・リストの作成を設定するピッキング・リスト印刷プログラム (R42520) のバージョンを指定します。 |
| 3. シップ・アンド・デビット (R45100) | R42118プログラムを実行するときに、シップ・アンド・デビット契約の特定と調整を行う割当/再計算/再割当契約プログラム (R45100) のバージョンを指定します。 |

倉庫

この処理オプションは、JD Edwards EnterpriseOne 倉庫管理システムとともに使用されます。

- | | |
|---------------------|--|
| 1. 要求処理モード | <p>ピッキング要求を作成し、サブシステムで要求を処理するかどうかを指定します。ピッキング要求は、オーダーに対して特定の保管場所から在庫をピッキングするように提示する処理に使用されます。この処理オプションをブランクにすると、ピッキング要求は作成されません。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: ピッキング要求を生成しません。</p> <p>1: ピッキング要求の作成のみを行います。</p> <p>2: ピッキング要求を作成し、サブシステムで要求を処理するかどうかを指定します。</p> |
| 2. サブシステムのピッキング要求印刷 | サブシステムで倉庫管理のピッキング要求を作成する場合、サブシステム処理に設定するピッキング要求の印刷プログラム (P4617) のバージョンを指定します。 |
| 3. 次状況の一時変更 | オーダー処理規則定義に設定されている、オーダー・タイプと行タイプの組合せに基づく値を、UDC 40/AT から指定することで、オーダー処理の別のステップを入力します。開始状況と一時変更用状況の組合せは、オーダー処理規則テーブル (F40203) 内にある前状況と次状況の有効な組合せである必要があります。 |

バックオーダーのバッチ・リリース

「追加オーダー処理」メニュー (G4212)、「バックオーダー・リリース (バッチ)」を選択します。

一括オーダー・リリース

この項では、一括オーダー・リリースの概要、および次の方法について説明します。

- 受注一括オーダー・リリース (P420111) の処理オプションの設定
- 一括オーダーのリリース

一括オーダー・リリースについて

一括のオーダーまたは見積から、顧客に対する受注オーダーを作成できます。一括オーダー・リリース・プログラム (P420111) を使用して、一括オーダーから手作業で品目の数量を差し引きます。指定した数量の受注オーダーが作成されます。一括オーダーの残りの数量は、将来のオーダー用に維持されます。いつ受注オーダー数量が一括オーダー数量を超えるかも表示されます。

オーダー行は、販売先、事業所、および通貨コードの情報に基づいて集計されます。入力したオーダー番号は、システムが作成する受注オーダーと同様に集約できます。たとえば、複数のレコードを選択してリリースし、最初のレコードのみに新しいオーダー番号を入力するとオーダーが集約されます。

一括オーダーのリリースでは、受注オーダー番号を指定して、リリース日付および数量を確認できます。番号を指定すると、重複するオーダー番号および行タイプの組合せがないかが照合されます。重複があった場合には、オーダーの処理が停止され、伝票番号がすでに存在することを示すエラー・メッセージが表示されます。受注オーダーを処理する前に、オーダーに一意の番号を割り当てる必要があります。オーダー番号を入力しないと、次の番号を使用して受注オーダー番号が自動採番されます。

単一または複数の一括オーダーを自動または手動でリリースできます。指定条件に一致する一括オーダーが複数ある場合に、デフォルトで一括オーダーを選択するかどうかを指定できます。

電子購買オーダー (EDI 850 オーダー) で受け取ったオーダーなど、ある顧客について複数の一括オーダーがある場合は、システムによりリリースされる一括受注オーダーが自動特定されるように設定できます。処理条件に一致する一括オーダーが複数存在しないように、次の値に基づいて一括オーダーを処理できます。

- 販売先住所と品目番号
- 出荷先住所と品目番号
- 販売先住所、品目番号、および顧客の購買オーダー (PO)
- 出荷先住所、品目番号、および顧客の購買オーダー (PO)
- 配送先住所と品目番号
- 配送先住所、品目番号、および顧客の購買オーダー (PO)

リリース数量および日付の確認や受注オーダー番号を指定せずに、複数の一括オーダーを一度にリリースし、各一括オーダーの品目の総数量をリリースできます。そのためには、「一括オーダー・リリースの処理」フォームの「ロー」メニューから「総数量リリース」を選択します。総数量に対する受注オーダーが作成され、自動採番の改訂プログラム (P0002) により受注オーダー番号が割り当てられます。

P420111 プログラムのカスタマ・セルフサービス・バージョンを使用している場合は、適切な処理オプションを設定しておくことにより、複数の一括オーダー、および一括オーダーの複数行から数量を部分リリースできます。受注オーダーが作成されるときに、作成された各受注オーダーの番号を確認できます。リリース済の行をすべて取り消すのではなく、単一行を取り消すことができます。

一括オーダーから受注オーダーを作成するには、当初一括オーダーの単位を使用する必要があります。受注オーダーの単位が一括オーダーの単位と異なる場合には、一括オーダーのリリースは開始されません。

参照: 第 9 章、「追加オーダーの入力」、「一括オーダーの入力」、240 ページ

キット用の一括オーダーのリリース

受注一括オーダーのリリース・プログラム (P420111) または受注オーダー入力プログラム (P4210 および P42101) を使用して一括オーダーをリリースできます。受注オーダー入力プログラムを使用する場合は、処理オプションを設定して、一括オーダーの処理を指定するとともに、個別または複数の一括オーダーの処理方法を決定する必要があります。受注オーダー入力プログラムを使用して一括オーダーをリリースするときは、元の一括オーダーを入力したときに選択した構成成品を基にしてキットを構築します。受注一括リリース・プログラム (P42116) を使用して、キット構成成品が表示されます。受注一括リリース・プログラムを使用して、一括オーダー行の検討とリリースを行います。選択した一括キット行の構成成品を検討するには、受注一括リリース・プログラムからキット構成成品の表示プログラム (P420112) にアクセスします。

キットの受注オーダーの価格設定は、どの構成成品を選択したかに関係なく、当初の一括オーダーでの価格に基づいて決定されます。

キットの親品目の一括オーダーから受注オーダーを作成すると、当初の一括オーダーの受注オーダーに変更が反映されます。オーダーを取り消した場合、またはオーダー数量を変更した場合は、当初オーダーの未処理数量が調整されます。構成品の品目の未処理オーダーの数量がキット内の親品目と部品表に基づいて更新されます。生成された受注オーダーの個別の構成品行に対する変更は、当初の一括オーダーには影響を与えません。

一括オーダーのリリースに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
一括オーダー・リリースの処理	W420111B	「追加オーダー処理」(G4212)、「一括オーダー・リリース」	一括オーダーを検討して選択します。 全オーダーをリリースするには、行を選択して、次に「ロー」メニューの「総数量リリース」を選択します。
一括オーダーの改訂	W420111A	「一括オーダー・リリースの処理」フォームで一括オーダーを選択し、「選択」をクリックします。	一括オーダーをリリースします。
一括オーダー・リリース	W42216A	「受注オーダー処理」(G4211) 一括オーダーに存在する品目の受注オーダーを入力します。	受注オーダー入力時に一括オーダーをリリースします。
キット構成品の表示	W420112H	一括オーダーを選択し、次に「一括オーダー・リリース」フォームの「ロー」メニューから「キット構成品の表示」を選択します。	キット内の親品目に選択された一括オーダーにある構成品を検討します。

受注一括オーダー・リリース・プログラム (P420111) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、受注一括オーダー・リリース・プログラム (P420111) のデフォルト値、表示、バージョン、処理を指定します。

デフォルト

この処理オプションでは、新しい一括オーダーを作成するときのデフォルト値を指定します。

- オーダー・タイプ** (必須) 選択するオーダー・タイプを示すコードをUDC 00/DTから入力します。
- 出荷伝票タイプ** (必須) 出荷伝票タイプを示すコードをUDC 00/DTから入力します。
- 行番号増加分** (オプション) オーダー行を分割する場合に、新しいオーダー行番号の指定に使用する増分を指定します。たとえば、オーダー行1を分割する必要がある、この処理オプションに「1」と入力すると、行番号2を持つ新しい行が作成されます。

表示

この処理オプションでは、キット構成品を表示するかどうかを指定します。

1. **キット構成品の非表示** 「一括オーダー・リリース」フォームにキット構成品行を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 - ブランク: すべての構成品同様、キット内の親品目も表示します。
 - 1: キット内の親品目のみが表示されます。

バージョン

この処理オプションでは、各アプリケーションのバージョンを定義します。

1. **受注オーダー入力** 一括オーダーのリリースで使用する受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを入力します。
このフィールドを空白にすると、ZJDE0001が使用されます。
2. **受注残/完了オーダー照会** 一括オーダーのリリースで使用する受注残/完了オーダー照会プログラム (P4210) のバージョンを入力します。
このフィールドを空白にすると、ZJDE0001が使用されます。

カスタマ・セルフサービス

この処理オプションでは、カスタマ・セルフサービスを使用するかどうかを指定し、データの表示方法を決定します。

1. **カスタマ・セルフサービスの機能** カスタマ・セルフサービス機能をアクティブにするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: カスタマ・セルフサービス機能を使用しません。
1: カスタマ・セルフサービス機能をアクティブにします。
2. **組織構造タイプ** 特定の構造タイプの住所を表示するには、構造タイプを入力します。関連する住所をすべて表示するには、空白のままにします。
3. **顧客相互参照タイプ** 顧客相互参照タイプを指定するコードをUDC 41/DTから入力します。
4. **変更ボタンの表示/非表示** 「変更」ボタンを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 「変更」ボタンを表示しません。
1: 「変更」ボタンを表示します。

一括オーダー・リリース

「一括オーダーの改訂」フォームにアクセスします。

一括オーダーをリリースするときに、次のエラー・メッセージが表示されることがあります。

- 複数の一括オーダーが存在する。
- 要求したオーダー行の数量が、一括オーダーに残っている数量を超えている。

これらのエラーに対しては、数量のリリース元となる一括オーダーを選択する、受注オーダーにあうようにオーダー数量を減らす、などのアクションが必要です。

リリース数量	未処理のオーダー数量からリリースする数量を指定します。この数量が、当初一括オーダーの未処理のオーダー数量から差し引かれます。
要求日付	受注オーダーの作成時にリリース行に適用される要求日付を指定します。
新規オーダーNo.	(オプション) 受注オーダーの作成でシステムが使用するオーダー番号を指定します。このオーダー番号が、受注オーダーの作成後に生成される受注オーダー番号になります。

見積オーダーのリリース

この項では、見積オーダーのリリースの概要、および見積オーダーのリリース方法について説明します。

見積オーダー・リリースについて

見積オーダー・リリースは、一括オーダー・リリースと同様に行います。一括オーダー・リリース・プログラム(P420111)を使用して、見積オーダーの品目をリリースし、受注オーダーを作成します。見積オーダーの数量または品目の一部をリリースすると、当初の見積オーダーの残りの数量はシステムにより維持されます。見積オーダーを次回表示するときに、調整済数量が表示されます。

同じ顧客および品目に対して複数のオーダーがある場合、すべてのオーダーが「一括オーダー・リリースの処理」フォームに表示されます。「数量」フィールドの値はブランクになっています。該当するオーダーの数量を入力する必要があります。

見積オーダーのリリースでは、受注オーダー番号を指定して、リリース日付および数量を確認できます。番号を指定すると、重複するオーダー番号および伝票タイプの組合せがないかどうか照合されます。重複があった場合には、オーダーの処理が停止され、伝票番号がすでに存在することを示すエラー・メッセージが表示されます。受注オーダーを処理する前に、オーダーに一意の番号を割り当てる必要があります。一意のオーダー番号を入力しないと、受注オーダー番号が自動採番されます。

オーダー行は、販売先、事業所、および通貨コードの情報に基づいて集計されます。ユーザーが入力したオーダー番号は、システムが作成する受注オーダーと同様に集約できます。たとえば、複数のレコードを選択してリリースし、最初のレコードのみに新しいオーダー番号を入力するとオーダーが集約されます。

見積オーダーを作成して顧客が購買を承諾すると、その見積オーダーを使って受注オーダーを作成できます。この方法は、見積オーダーの数量と品目のすべて、またはその大半を受注オーダーに反映させる場合に使用します。

「一括オーダー・リリースの処理」フォームの「ロー」メニューから「総数量リリース」を選択して、一度に複数の見積オーダーをリリースできます。

各見積オーダーから総数量がリリースされ、可能な場合には複数の選択項目が1つのオーダーに集約されます。見積オーダーから受注オーダーを作成するときは、見積オーダーと同じ単位を使用する必要があります。受注オーダーと見積オーダーの単位が異なる場合には、見積オーダー・リリースは実行されません。受注オーダーを生成するには、「フォーム」メニューから「受注オーダーの生成」を選択します。

キット用の見積オーダーのリリース

見積オーダーは、受注一括オーダーのリリース・プログラム (P420111) を使用して手動で、または受注オーダー入力プログラム (P4210 および P42101) を使用して自動的にリリースできます。受注オーダー入力プログラムを使用する場合は、処理オプションを設定して、見積オーダーが処理されるように指定するとともに、個別または複数の見積オーダーの処理方法を決定する必要があります。見積オーダーを自動的にリリースすると、元となる見積オーダーを入力したときに選択した構成品を使用してキットが構築されます。受注一括リリース・プログラム (P42116) を使用して、キット構成品が表示されます。受注一括リリース・プログラムを使用して、見積オーダー行のリリースの検討と更新を行います。

キットの受注オーダーの価格設定は、どの構成品を選択したかに関係なく、基となる見積オーダーでの価格に基づいて決定されます。

見積オーダーのリリースに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
一括オーダー・リリースの処理	W420111B	「追加オーダー処理」(G4212)、「見積オーダー・リリース」	見積オーダーを検討して選択します。
一括オーダーの改訂	W420111A	レコードを選択し、「選択」をクリックして見積オーダーをリリースします。	見積オーダーをリリースします。
一括オーダー・リリース	W42216A	「受注オーダー処理」(G4211) 見積オーダーに存在する品目の受注オーダーを入力します。	受注オーダー入力時に一括オーダーをリリースします。
キット構成品の表示	W420112H	見積オーダーを選択し、次に「一括オーダー・リリース」フォームの「ロー」メニューから「キット構成品の表示」を選択します。	見積オーダーにある、キット内親品目用に選択された構成品を検討します。

見積オーダーのリリース

「一括オーダーの改訂」フォームにアクセスします。

オーダーにある全数量をリリースするには、次の手順で行います。

1. リリースする見積オーダーのローを選択します。
2. 「ロー」メニューから「総数量リリース」を選択します。

オーダーにある数量の一部をリリースするには、次の手順で行います。

1. リリースする見積オーダーのローを選択します。
2. 「選択」をクリックします。
3. 「一括オーダーの改訂」フォームの「リリース数量」フィールドに、見積オーダーからリリースする数量を入力します。

指定した数量を見積からリリースした後で、受注オーダーを生成する必要があります。受注オーダーを生成するには、次の手順で行います。

1. 「一括オーダー・リリースの処理」フォームの「フォーム」メニューから「受注オーダーの生成」を選択します。
自動的に受注オーダーが作成され、オーダー番号と伝票タイプが表示されます。
2. 「追加オーダー」のリンクをクリックして、新しい受注オーダーにアクセスします。

品目情報の検討

この項では、品目情報および需要と供給の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 価格/引当可能数量の照会プログラム (P4074) の処理オプションの設定
- 標準価格および引当可能数量の情報の検討
- 在庫状況プログラム (P41202) の処理オプションの設定
- 数量情報の検索
- 引当可能数量の計算の検討
- 需要/供給照会プログラム (P4021) の処理オプションの設定
- 需要/供給情報の検討

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「品目および数量情報の検討」、「数量情報の検索」

JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「品目および数量情報の検討」、「品目情報の検索」

品目情報について

品目と数量に関する情報を検討することにより、将来必要になる在庫を正確に計画できます。たとえば、次のことができます。

- 在庫品目に関する情報へのアクセス
- 手持在庫品目、引当済品目、引当可能品目に関する集計情報や明細情報へのアクセス
- 将来の必要在庫を計画するための、需要/供給情報へのアクセスとモニタリング
- 過去の売上、現行の在庫数量、将来の入荷に関する品目情報へのアクセス
- 特定会計年度の繰越残高レコードの検討
- 在庫残高と総勘定元帳の調整、および詳細な品目トランザクション情報へのアクセス
- 期末在庫残高と総勘定元帳の同期末残高との比較

需要と供給について

「需要/供給照会」フォームを使用して、特定の品目の需要、供給、引当可能数量を検討します。指定した事業所について、製品と品目の全体的なパフォーマンス、過去の売上実績、現在の需要およびその他の品目情報を検討できます。これらの情報は在庫、購買、販売の履歴に基づいています。

「需要/供給照会」フォームでハイライトされた約束可能数量(ATP)行は、自社の引当可能な在庫を示します。約束可能数量の在庫は、指定期間中の販売や流通用に引当可能です。

需要数量は日付別に表示されます。この数量には安全在庫、受注オーダー数量、作業オーダー部品リスト、下位レベル計画オーダー需要、工場間の需要、予測需要などを含めることができます。供給数量は日付別に表示されます。この数量には、手持在庫、購買オーダー数量、製造作業オーダー、計画オーダー、レート・スケジュールなどを含めることができます。日付やオーダー情報のない供給数量は、事業所保管場所別の現行引当可能数量を表します。

事前設定

品目情報を検討する前に、事業所固定情報プログラム(P41001)で使用する品目引当可能数量の計算方法を定義する必要があります。

品目情報の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
受注残/完了オーダー照会	W4210E	「受注オーダー照会」(G42112)、「受注残/完了オーダー」	既存の受注オーダーから見出しおよび明細情報の両方を、新しい受注オーダーにコピーします。
既存オーダーの管理	W42101C	「受注オーダー処理」(G4211)、「受注オーダーの更新-見出しを先頭」	「コピー/変換」をクリックして、既存の受注オーダーから見出しおよび明細情報の両方を新しい受注オーダーにコピーします。
価格/引当可能数量の照会	W4074C	「受注オーダー照会」(G42112)、「価格/引当可能数量の詳細チェック」	価格と引当可能数量を照会します。
価格/引当可能数量の処理	W41261A	「受注オーダー照会」(G42112)、「価格/引当可能数量の標準チェック」	標準価格および引当可能数量の情報を検討します。
在庫状況の処理	W41202A	「受注オーダー照会」(G42112)、「在庫集計照会」	数量情報を検索します。
引当可能数量詳細	W41202C	「在庫状況の処理」フォームで、「ロー」メニューの「引当可能数量詳細」を選択します。	引当可能数量の計算を検討します。
需要/供給の処理	W4021B	「受注オーダー照会」(G42112)、「需要/供給」	需要/供給情報を検討します。

価格/引当可能数量の照会プログラム(P4074)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、価格/引当可能数量の照会プログラム(P4074)のデフォルト処理を指定します。

処理

この処理オプションでは、処理情報および価格検討情報の優先情報を指定します。

- | | |
|--|---|
| 1. 受注オーダー入力 (P4210) のバージョン | 優先プロファイルを制御する受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを入力します。
ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。 |
| 2. 入荷の価格履歴行と関連する陸揚費用の更新を許可するかどうかを指定 | 価格検討アプリケーション (P40G200) で更新された入荷の価格履歴エントリーを許可するかどうかを指定します。システムは、入荷に陸揚費用のエントリーが関連付けられているときに、入荷の価格履歴のエントリー更新を許可しないオプションをサポートしています。値は次のとおりです。

0: 入荷行の価格履歴エントリーを、関連する陸揚費用のエントリーに変更することを許可します。この値がデフォルト値です。

1: 入荷行の価格履歴エントリーを、関連する陸揚費用のエントリーに変更することを許可しません。 |

標準価格および引当可能数量の情報の検討

「価格/引当可能数量の処理」フォームにアクセスします。

事業所に対して選択したオプションに基づいて、品目引当可能数量および数量情報が計算されます。

数量 - 原価区切り情報を得るには、「価格/引当可能数量の処理」フォームの受注オーダー明細行をチェックします。

在庫価格設定規則など、標準価格調整情報を検討できます。

- | | |
|--------------|--|
| 契約価格 | クリックして契約価格を検索します。 |
| レベル | 価格設定グループ内で規則を表示する順序を指定する英数字コードを入力します。レベルは、価格設定グループの設定時に定義します。 |
| 上限数量 | 価格設定テーブルで通常使用する容量区切りまたは数量区切りを入力します。規則の第1レベルの数量が5の場合、このレベルの価格設定論理は5個以下の品目にのみ適用されます。次レベルの数量が10の場合、この価格設定論理は、6から10個の品目に対して適用されます。99,999,999の値は、全数量を示します。 |
| 変更単価 | 価格を入力します。ここに入力した価格で、その他の規則や価格がすべて一時変更されます。 |
| 係数 | この在庫価格設定規則に添付された品目の価格を計算するときに使用する割引を入力します。割引率は乗数、追加金額、または控除可能金額として表すことができます。たとえば、10%の割引は、「0.90」と表されます。同じ係数を、原価割増しに使用できます。たとえば、10%の割増しは、「1.10」と表されます。 |
| タイプ | 係数値をオーダー価格に適用する場合に、係数値が乗数(%)と追加/控除可能金額のいずれであるかを示すコードを入力します。 |
| 契約フラグ | 品目と1社以上の顧客との特殊価格設定の関係を示すコードを入力します。契約の在庫価格設定規則コードは品目番号です。値は次のとおりです。

ブランク: 契約がありません。

C: 契約価格設定コード。

契約の価格設定タイプを指定する場合は、この契約価格で販売可能な数量、および契約番号(ある場合)を入力する必要があります。 |

また、規則を有効にするために、契約価格設定規則を顧客または顧客グループに結び付ける必要があります。

在庫状況プログラム(P41202)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、在庫状況プログラム(P41202)で使用するデフォルトの処理を指定します。

バージョン

この処理オプションでは、P41202プログラムからアクセスするプログラムのバージョンを指定します。バージョンにより、情報の処理方法や表示方法が制御されます。このため、会社独自のニーズに応じて処理オプションを設定する必要があります。

- | | |
|-----------------|---|
| 1. 品目マスター | 品目マスター・プログラム(P4101)へのアクセスに使用するバージョンを入力します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 2. 品目注記 | 品目注記プログラム(P40163)へのアクセスに使用するバージョンを入力します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 3. 品目検索 | 品目検索プログラム(P41200)へのアクセスに使用するバージョンを入力します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 4. 購買オーダー照会 | 購買オーダー照会プログラム(P430301)へのアクセスに使用するバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 5. 受注残/完了オーダー照会 | 受注残/完了オーダー照会(各種Windows)プログラム(P42045)へのアクセスに使用するバージョンを入力します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 6. 手配済み作業オーダー | 未処理作業オーダー・プログラム(R31400)へのアクセスに使用するバージョンを入力します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 7. 需要/供給 | 需要/供給照会プログラム(P4021)へのアクセスに使用するバージョンを入力します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 8. 部品表 | 部品表照会プログラム(P30200)へのアクセスに使用するバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 9. ロット別在庫状況 | ロット別在庫状況プログラム(P41280)へのアクセスに使用するバージョンを入力します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 10. 品目元帳 | 品目元帳照会(CARDEX)プログラム(P4111)へのアクセスに使用するバージョンを入力します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 11. 事業所品目情報 | 事業所固定情報プログラム(P41001)へのアクセスに使用するバージョンを入力します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |

- 12. 保管場所マスター** 保管場所マスター・プログラム (P4100) へのアクセスに使用するバージョンを入力します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。
- 13. 品目保管場所情報** 品目保管場所タイプ・プログラム (P41023) へのアクセスに使用するバージョンを入力します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

表示

この処理オプションでは、特定の情報を表示するかどうか、およびデータの計算方法を指定します。

- 1. 等級情報** 等級情報を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 等級情報を表示しません。
1: 等級情報を表示します。
- 2. 濃度情報** 濃度情報を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 濃度情報を表示しません。
1: 濃度情報を表示します。
- 3. 品質管理** オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 品質管理システムの情報を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 品質管理情報を表示しません。
1: 品質管理情報を表示します。
- 4. 数量(基本単位)** 数量情報を基本単位で表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 数量を基本単位で表示しません。
1: 数量を基本単位で表示します。
- 5. 切捨て/切上げ** 詳細グリッドの情報の丸め方法を指定します。値は次のとおりです。
空白: 詳細グリッドの情報を丸めます。標準の四捨五入が使用されます。たとえば、小数点以下の表示桁数を指定していない場合、2.3 は 2 に切り捨てられ、2.6 は 3 に切り上げられます。
1: グリッドの情報を切り捨てます。不要な桁は常に切り捨てられます。たとえば、小数点以下の表示桁数を指定していない場合、2.3 と 2.6 は両方とも 2 に切り捨てられます。
2: グリッドの情報を切り上げます。常に次の整数に切り上げられます。たとえば、小数点以下の表示桁数を指定していない場合、2.3 と 2.6 は両方とも 3 に切り上げられます。
- 6. カスタマ・セルフサービス機能** 標準モードとカスタマ・セルフサービス機能のどちらを使用するかを指定します。値は次のとおりです。
空白: カスタマ・セルフサービス機能ではなく、標準モードを使用します。
1: カスタマ・セルフサービス機能を有効にします。

ロット・オプション

この処理オプションでは、上級ロット処理のフィールドを表示するかどうかと、ロットが満了するまでの日数を計算するためのデフォルト日付を指定できます。

- 1. 期限までの余日パーセントの表示** 「期日までの余日パーセント」フィールドを表示する値を入力します。この処理オプションをブランクにすると、「期日までの余日パーセント」フィールドは表示されません。
- 2. 残日数の表示** 「残実数」フィールドを表示するコードを入力します。この処理オプションをブランクにすると、「残実数」フィールドは表示されません。
- 3. 計算日付** ロット満了までの残日数の計算に使用する日付を入力します。この処理オプションをブランクにすると、今日の日付が使用されます。

数量情報の検索

「在庫状況の処理」フォームにアクセスします。

「検索」をクリックする前に「在庫状況」および「追加選択1」タブにあるフィールドへの値入力を完了し、数量情報の検討と、現在および将来の在庫ニーズを決定します。

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne価格管理を使用して品目と顧客の組合せに対して価格を設定した場合、価格/引当可能数量チェック・プログラム(P4074)を使用して、特定の顧客または顧客グループおよび品目グループの組合せに対して販売する在庫品目の価格および引当可能数量情報を検索できます。このプログラムでは、品目保管場所テーブル(F41021)および顧客別価格テーブル(F4208)からの情報が表示されます。

- | | |
|----------------|---|
| 等級範囲 | UDC 40/LGから、品目に対する許容等級範囲の下限を示す値を入力します。

許容下限等級に満たない品目を購買または出庫しようとする、警告メッセージが表示されます。許容等級の下限に満たない品目は、販売できません。 |
| 濃度範囲 | 品目に対する有効成分の許容濃度(パーセント)の下限を示す数値を入力します。

許容下限濃度に満たない品目を購買または出庫しようとする、警告メッセージが表示されます。許容下限濃度に満たない品目は販売できません。 |
| 集計のみ | このチェックボックスを選択すると、品目別、会社別、通貨コード別、費用規則別に集計した情報が表示されます。

このチェックボックスの選択を解除すると、個別の入荷レコードが表示されます。 |
| ゼロ数量の省略 | このチェックボックスを選択すると、手持数量ゼロの情報は表示されません。

手持数量がゼロの情報を表示するには、このチェックボックスの選択を解除します。 |

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「品目および数量情報の検討」、「数量情報の検索」

引当可能数量の計算の検討

「引当可能数量詳細」フォームにアクセスします。

事業所の品目引当可能数量に基づいて数量情報が取り込まれます。

在庫集計照会 - 引当可能数量詳細 i ?

在庫状況の処理 **引当可能数量詳細**

取消(L) フォーム(F) 前 次 ツール(T)

品目 No.	220	Touring Bike, Red
事業所	10	
保管場所	...	ロット/シリアル

基本

単位

減算数量	加算数量
<input checked="" type="checkbox"/> ソフト・コミット - 受注/NO	手持数量 <input type="text" value="1000"/>
<input checked="" type="checkbox"/> 受注オーダー・ハード・コミット	<input type="checkbox"/> 購買オーダー
<input type="checkbox"/> 将来引当	<input type="checkbox"/> 購買オーダー〈その他 1〉
<input checked="" type="checkbox"/> 作業オーダー・ハード・コミット	<input type="checkbox"/> 作業オーダー入庫
<input type="checkbox"/> 受注オーダー〈その他 1〉	<input type="checkbox"/> 積送中
<input type="checkbox"/> 受注オーダー〈その他 2〉	<input type="checkbox"/> 検査中
<input checked="" type="checkbox"/> 保留	<input type="checkbox"/> 作業中 1
<input type="checkbox"/> 安全在庫	<input type="checkbox"/> 作業中 2
ハードコミット - プロジェクト	

合計数量

入荷予定	引当可能数量
<input type="text" value="1000"/>	<input type="text" value="1000"/>

「引当可能数量詳細」フォーム

需要/供給照会プログラム(P4021)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、需要/供給照会プログラム(P4021)のデフォルトの処理を指定します。

処理

この処理オプションを使用して、需要/供給照会プログラムの照会で使用する数量や伝票タイプ、予測/計画データなどを制御します。

1. 安全在庫の減算

安全在庫のデータを表示し、引当可能数量から安全在庫を減算するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 安全在庫を差し引きません。

1: 安全在庫を差し引きます。

2. 入荷工程中数量

入荷工程中数量を手持数量に含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

- ブランク: 手持数量に含めません。
- 1: 手持数量に含めます。
- 積送中数量**
- 積送中数量を手持数量に含めるかどうかを指定します。製造環境では、在庫がすぐに使用できるかどうかを決定する設定が必要な場合があります。値は次のとおりです。
- ブランク: 該当する日付について、積送中数量を表示します。
- 1: 積送中数量を手持在庫に含めます。
- 検収中数量**
- 検査中数量を手持数量に含めるかどうかを指定します。製造環境では、在庫がすぐに使用できるかどうかを決定する設定が必要な場合があります。値は次のとおりです。
- ブランク: 該当する日付について、検査中数量を表示します。
- 1: 検査中数量を手持在庫に含めます。
- ユーザー定義数量1**
- ユーザー定義数量1を手持数量に含めるかどうかを指定します。この数量は、「入荷工程の定義」フォームの「作業1の更新」フィールドに定義します。製造環境では、在庫がすぐに使用できるかどうかを決定する設定が必要な場合があります。値は次のとおりです。
- ブランク: 該当する日付について、ユーザー定義数量1を表示します。
- 1: ユーザー定義数量1を手持在庫に含めます。
- ユーザー定義数量2**
- ユーザー定義数量2を手持数量に含めるかどうかを指定します。この数量は、「入荷工程の定義」フォームの「作業2の更新」フィールドに定義します。製造環境では、在庫がすぐに使用できるかどうかを決定する設定が必要な場合があります。値は次のとおりです。
- ブランク: 該当する日付について、ユーザー定義数量2を表示します。
- 1: ユーザー定義数量2を手持在庫に含めます。
- 3. 需要/供給組込規則**
- 使用する需要/供給組込規則のバージョンを入力します。これらの規則は、オーダー・タイプ、行タイプ、および行状況を定義します。組込規則のバージョンは、処理に使用するバージョンを示すUDC (40/RV) です。デフォルトとして使う組込規則を入力するか、「ユーザー定義コードの選択」フォームから選択します。
- 4. 満了ロット数量の減算**
- 引当可能数量から満了ロット数量を減算するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 引当可能数量から差し引きません。
- 1: 引当可能数量から差し引きます。
- この処理オプションは、約束可能数量行と同時に使用することはできません。この処理オプションで1を選択する場合は、「処理1」タブの約束可能数量行フラグ処理オプションをブランクまたは2のどちらかに設定する必要があります。
- 5. 受注設計(ETO)の使用**
- ETO機能を使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: ETO機能を使用しません。
- 1: ETO機能を使用します。

- 6. 期日を経過した供給の使用可能数量への組み込み**
- 引当可能数量の計算時に、納期を経過した数量を含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- blank: 納期を経過した数量を含めません。
- 1: 納期を経過した数量を含めます。
- 7. レート・スケジュールのタイプ**
- 表示するレート・スケジュールのタイプを示すコード (UDC 31/ST) を入力します。レート・スケジュールのタイプは、スケジュール・タイプを示すコードです。デフォルトとして使うタイプを入力するか、「ユーザー定義コードの選択」フォームから選択します。この処理オプションを blank にすると、レート・スケジュールは表示されません。
- 8. MPS/MRP/DRP 計画オーダー (基準生産日程計画/資材所要量計画/流通所要量計画の計画オーダーを含める)**
- MPS/MRP/DRP の生成で計画されたオーダーを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- blank: 計画オーダーを表示しません。
- 1: 計画オーダーを表示します。
- 9. 予測タイプ (最大5種類まで)**
- 照会に含める予測タイプを最大5種類まで指定します。この処理オプションを blank にすると、予測レコードは含まれません。複数の予測は、次のように入力します。01、02、および BF を入力するには、「0102BF」と入力します。
- 10. 予測に含める本日からの日数**
- 予測レコードに含めるシステム日付からの日数 (+または-) を入力します。この処理オプションを blank にすると、システム日付が使用されます。
- 11. バルク品目の除外**
- バルク在庫タイプのレコードを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- blank: バルク在庫タイプのレコードを表示します。
- 1: バルク在庫タイプのレコードを表示しません。
- 12. 期日を経過したレート・スケジュールの供給への組み込み**
- 納期を経過したレート・スケジュールの未処理数量を供給に含めるかどうかを指定します。1 を入力すると、納期を経過したレート・オーダーが表示されます。値は次のとおりです。
- blank: 納期を経過したレート・スケジュールの未処理数量を供給に含めません。
- 1: 納期を経過したレート・スケジュールの未処理数量を供給に含めます。
- 13. 予測開始日付**
- 開始日付を指定します。値は次のとおりです。
- blank: システム日付を使用します。
- 1: 現行予測期間の開始日付を使用します。
-
- 注意:** 「1」を入力する場合は、「受注設計 (ETO) の使用」処理オプションを blank にする必要があります。
-
- 14. ロット保留コード (5 つまで)**
- 手持在庫の計算に含めるロットを指定します。ロット保留コード (41/L) は 5 つまで入力できます。値は次のとおりです。
- blank: 手持在庫の計算に保留ロットを含めません。
- *: 手持在庫の計算にすべての保留ロットを含めます。

表示

この処理オプションを使用して、「需要/供給の処理」フォームでの情報の表示を制御します。たとえば、標準濃度に変換した後に数量を表示するかどうかを処理オプションにより制御します。

- | | |
|---------------------------|---|
| 1. 標準濃度への数量の換算 | <p>数量を標準濃度に換算するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 数量を換算しません。</p> <p>1: 数量を換算します。</p> |
| 2. ATP(約束可能数量行)の表示 | <p>約束可能数量行または累積約束可能数量行を表示するかどうか、またはどちらも表示しないかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: いずれの行も表示しません。</p> <p>1: 約束可能数量行を表示します。</p> <p>2: 累計約束可能数量行を表示します。</p> <p>この処理オプションで約束可能数量行を表示するように指定(値1)した場合、「表示3」タブの「満了ロット数量の減算」処理オプションは使用できません。</p> |
| 3. 入荷工程ステップの全数量の集計 | <p>入荷工程ステップの全数量を1行に集計するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 集計しません。</p> <p>1: 入荷工程ステップを集計します。</p> |
| 4. 品目残高数量レコードの集計 | <p>品目保管場所レコードの全数量を1行に集計するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 集計しません。</p> <p>1: 品目保管場所レコードの全数量を1行に集計します。</p> |
| 5. ウィンドウ形式でのデータ表示 | <p>別のプログラムから呼び出した場合に、需要/供給の照会プログラム(P4021)をウィンドウ形式で表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: プログラムをフル・フォーム形式で表示します。</p> <p>1: プログラムをウィンドウ形式で表示します。</p> |
| 5. ペギングと部品リスト需要の集計 | <p>ペギングと部品リスト需要を集計するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 集計しません。</p> <p>1: ペギングと部品リスト需要を集計します。</p> |

バージョン

この処理オプションを使用して、システムがアクセスする各プログラムのバージョンを指定します。処理オプションをブランクにした場合は、プログラムのバージョンZJDE0001が使用されます。

- | | |
|----------------------------|---|
| 1. 購買オーダーの入力(P4310) | <p>「需要/供給の処理」フォームの「ロー」および「フォーム」メニューからプログラムにアクセスしたときに使用する購買オーダー入力プログラム(P4310)のバージョンを入力します。</p> <p>バージョンはP4310プログラムによる情報の表示方法を制御するので、会社独自のニーズに応じて処理オプションを設定する必要があります。</p> |
|----------------------------|---|

- 2. 購買オーダー照会 (P4310)** 「需要/供給の処理」フォームの「ロー」および「フォーム」メニューからプログラムにアクセスしたときに使用する購買オーダー照会プログラム(P430301)のバージョンを入力します。
- バージョンはP430301プログラムによる情報の表示方法を制御するので、会社独自のニーズに応じて処理オプションを設定する必要があります。
- 3. 受注オーダーの入力 (P4210)** 「需要/供給の処理」フォームの「ロー」および「フォーム」メニューからプログラムにアクセスしたときに使用する受注オーダー入力プログラム(P4210)のバージョンを入力します。
- バージョンはP4210プログラムによる情報の表示方法を制御するので、会社独自のニーズに応じて処理オプションを設定する必要があります。
- 4. 受注オーダー照会 (P4210)** 「需要/供給の処理」フォームの「ロー」および「フォーム」メニューからプログラムにアクセスしたときに使用する販売履歴照会プログラム(P42045)のバージョンを入力します。
- バージョンはP42045プログラムによる情報の表示方法を制御するので、会社独自のニーズに応じて処理オプションを設定する必要があります。
- 5. スケジュール・ワークベンチ (P31225)** 「需要/供給の処理」フォームの「ロー」および「フォーム」メニューからプログラムにアクセスしたときに使用するスケジュール・ワークベンチ・プログラム(P31225)のバージョンを入力します。
- バージョンはP31225プログラムによる情報の表示方法を制御するので、会社独自のニーズに応じて処理オプションを設定する必要があります。
- 6. MPS/MRP/DRPペギング照会 (P3412)** 「需要/供給の処理」フォームの「ロー」および「フォーム」メニューからプログラムにアクセスしたときに使用するMPS/MRP/DRPペギング照会プログラム(P3412)のバージョンを入力します。
- バージョンはP3412プログラムによる情報の表示方法を制御するので、会社独自のニーズに応じて処理オプションを設定する必要があります。
- 7. MPS/MRP/DRPタイムフェーズ (P3413)** 「需要/供給の処理」フォームの「ロー」および「フォーム」メニューからプログラムにアクセスしたときに使用するMPSタイム・フェーズ・プログラム(P3413)のバージョンを入力します。
- バージョンはP3413プログラムによる情報の表示方法を制御するので、会社独自のニーズに応じて処理オプションを設定する必要があります。
- 8. MPS/MRP/DRPメッセージ詳細 (P3411)** 「需要/供給の処理」フォームの「ロー」および「フォーム」メニューからプログラムにアクセスしたときに使用するMPS/MRPメッセージ詳細の改訂プログラム(P3411)のバージョンを入力します。
- バージョンはP3411プログラムによる情報の表示方法を制御するので、会社独自のニーズに応じて処理オプションを設定する必要があります。
- 9. 部品表照会 (P30200)** 「需要/供給の処理」フォームの「ロー」および「フォーム」メニューからプログラムにアクセスしたときに使用する部品表照会プログラム(P30200)のバージョンを入力します。
- バージョンはP30200プログラムによる情報の表示方法を制御するので、会社独自のニーズに応じて処理オプションを設定する必要があります。
- 10. 事業所品目 (P41026)** 「需要/供給の処理」フォームの「ロー」および「フォーム」メニューからのアクセスに使用する事業所品目プログラム(P41026)のバージョンを入力します。バージョンはP41026プログラムによる情報の表示方法を制御するので、会社独自のニーズに応じて処理オプションを設定する必要があります。

- 11. オーダーの入力/変更 (P48013)** 「需要/供給の処理」フォームの「ロー」および「フォーム」メニューからプログラムにアクセスしたときに使用する製造作業オーダー処理プログラム (P48013) のバージョンを入力します。
- バージョンはP48013プログラムによる情報の表示方法を制御するので、会社独自のニーズに応じて処理オプションを設定する必要があります。
- 12. レート・スケジュールの入力/変更 (P3109)** 「需要/供給の処理」フォームの「ロー」および「フォーム」メニューからプログラムにアクセスしたときに使用するレート・スケジュールの入力/変更プログラム (P3109) のバージョンを入力します。
- バージョンはP3109プログラムによる情報の表示方法を制御するので、会社独自のニーズに応じて処理オプションを設定する必要があります。
- 13. 在庫状況 (P41202)** 「需要/供給の処理」フォームの「ロー」および「フォーム」メニューからのアクセスに使用する在庫状況プログラム (P41202) のバージョンを入力します。
- バージョンはP41202プログラムによる情報の表示方法を制御するので、会社独自のニーズに応じて処理オプションを設定する必要があります。

需要/供給情報の検討

「需要/供給の処理」フォームにアクセスします。

ハイライトされた約束可能数量行は、引当を行っていない使用可能在庫数量です。約束可能数量の在庫は、指定期間中の販売や流通用に引当可能です。

顧客情報と売上情報の検討

この項では、顧客勘定情報、受注オーダー情報、販売明細実績の情報の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 顧客勘定情報の検討
- 受注オーダーの検討
- 配送票照会 (P42290) の処理オプションの設定

アルゼンチンには、受注オーダー情報の検討のための国別機能が用意されています。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理 9.0 製品ガイド、「売掛金元帳情報の処理」

第 9 章、「追加オーダーの入力」、「販売履歴照会プログラム (P42025) の処理オプションの設定」、233 ページ

顧客勘定情報について

与信チェック・プログラム (P42050) を使用して、顧客の勘定および与信状況の情報を検討できます。顧客の売掛金と発注残の合計を業種別顧客マスター (F03012) で割り当てた現在の与信限度額と比較して、与信限度を超過していないかどうかを判断できます。

次のタイプの情報にアクセスできます。

- 売掛金 (現在未払の残高など)

- 支払実績(顧客の格付け、請求書、支払情報など)
- 受注残(オーダー日付や金額など)

さらに、次のレベルで与信をチェックできます。

- 顧客(C)
- 親(P)
- 業種(L)

業種が多岐にわたる企業と取引がある場合、製品や部門、所在地別に顧客を分類できます。業種レベル(LOB)で与信チェックを実行すると、同じ顧客について業種別にデフォルトの処理方法を定義できます。

受注オーダー情報について

受注オーダー入力プログラム(P4210)を使用して、受注オーダー明細(F4211)または受注オーダー履歴ファイル(F42119)のテーブルの受注オーダー、顧客、および品目の情報を検討します。P4210プログラムを使用すると、この情報を検討できます。

- 受注残情報
- 受注実績情報
- 受注オーダー、顧客、および品目のレベルの情報

注意: 請求書番号や品目番号などのフィールドで「*」(アスタリスク)をワイルドカードとして使用すると、そのフィールドのすべての値を検索できます。品目番号の最初のいくつかの文字または数字を入力し、次に「*」(アスタリスク)を付けると、入力した値で始まる品目がすべて検索されます。たとえば、「10*」と入力すると10で始まるすべての番号が表示されます。

仮定通貨での受注オーダー

伝票を基本通貨と外貨のいずれで入力しても、それらの金額を特定の通貨で照会できます。仮定通貨処理を使用すると、実際に入力した通貨以外の通貨で受注オーダーを検討できます。たとえば、カナダの会社がユーロ(EUR)で受注オーダーを入力し、金額を日本円(JPY)で検討してから国内通貨(CAD)および外貨建て金額(EUR)と比較できます。

仮定通貨処理の利点の1つは、ディスク・スペースに影響しないことです。仮定通貨で計算された金額はテーブルには書き込まれず、一時メモリーに保存されます。このため、ディスク・スペースには影響しませんが、処理時間には影響します。

仮定通貨で受注オーダーの金額を検討するには、受注残/完了オーダー照会プログラム(P4210)の処理オプションにデフォルトの通貨コードと為替レート日付を入力する必要があります。これにより、「受注残/完了オーダー照会」フォームに「仮定通貨」フィールドが表示されます。

為替レートは為替レート・テーブル(F0015)から読み込まれ、受注オーダーの基本通貨(国内通貨)を基準にして仮定通貨金額が計算されます。為替レートの変動のため、表示された仮定通貨建て金額が実際の請求書や入金と一致しない可能性もあります。

販売明細実績情報について

受注オーダー・プロセスで処理されたオーダーの販売明細実績情報を検討できます。販売明細実績情報を使用して、受注オーダーを追跡し、オーダーがいつ入力されたか、またはいつ印刷されたかを調べます。この情報は内部監査にも使用できます。

オーダー処理規則に基づいて、販売明細実績テーブル(F42199)に情報が書き込まれます。状況コードを使って、どの時点でオーダー情報がテーブルに書き込まれるかを指定できます。たとえば、受注オーダーの入力時、請求処理時、売上更新時などにデータを書き込むようにもできます。

履歴からクレジット・オーダーを作成するときには、F42199テーブルから当初のオーダー情報を取り込みます。クレジット・オーダー用に設定したP4210プログラムのバージョンの処理オプションで、販売明細実績の照会プログラム(P42025)のバージョンを指定する必要があります。

事前設定

「与信チェック」フォームを使用するには、「拡張売掛管理固定情報」の「売掛管理 - 業種別処理」を有効にする必要があります。

「販売履歴照会の処理」フォームにアクセスする前に、販売明細実績テーブル(F42199)にレコードを記録するための状況コードが正しく設定されていることを確認します。

「配送票の処理」フォームにアクセスする前に、顧客請求指示に配送票を印刷するように設定されていること、および配送票の印刷プログラム(R42535)を実行していることを確認します。

顧客情報と受注情報の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
与信チェック	W42050B	「受注オーダー照会」(G42112)、「与信チェック」 顧客を選択し、「顧客マスターの処理」フォームの「選択」をクリックします。	顧客勘定情報を検討します。
売掛金元帳照会の処理	W03B2002A	「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「売掛金元帳照会」	請求書および入金を検討したり、顧客の取引履歴を監査します。
請求書の入力	W03B11A	「売掛金元帳照会の処理」フォームから明細行を選択して、「選択」をクリックします。	特定の請求書の情報を検討します。
受注残/完了オーダー照会	W4210E	「受注オーダー照会」(G42112)、「受注残/完了オーダー」	受注オーダーを検討します。
既存オーダーの管理	W42101C	<ul style="list-style-type: none"> 「受注オーダー処理」(G4211)、「受注オーダーの更新 - 見出しを先頭」 「受注オーダー処理」(G4211)、「受注オーダーの更新 - 詳細を先頭」 	受注オーダーを検討します。
販売履歴照会の処理	W42025A	「受注オーダー照会」(G42112)、「販売履歴照会」	受注オーダーを追跡して、オーダーがいつ入力されたか、またはいつ印刷されたかを調べます。
販売明細履歴	W42025B	「販売履歴照会の処理」フォームでレコードを選択し、次に「ロー」メニューから「販売明細履歴」を選択します。	個々の元帳品目の明細情報を検討します。
配送票の処理	W42290A	「受注オーダー照会」(G42112)、「配送票照会」	配送担当者は、配送票を使用して配送する品目とトラックに積載されている品目を比較できます。このフォームで、配送する費目の情報を検討します。

顧客勘定情報の検討

「与信チェック」フォームにアクセスします。

未払金

未決済の請求書や伝票の残高や金額を検討します。

住所録マスター(F0101)では、未決済請求額は、特定のオーダーが与信限度額を超過しているかどうかを調べるためのメモ用金額です。

受注残額	仕入先または顧客の発注残の合計金額を検討します。品目保管場所テーブル(F41021)のリスト価格を、値引テーブルまたは一時変更価格によって調整した価格が使用されます。この金額は一時変更できません。
未決済合計	指定した顧客について、未払の売掛金合計、および受注残額の合計を検討します。
与信限度額	顧客に対する掛売り販売の限度額を入力します。この金額を超えるとワークフロー・メッセージが送信されます。この値は、与信管理プログラム全体で使用されます。与信限度額は子(顧客)レベルで管理され、親レベルでは管理されません。与信限度額を超過した顧客に対して、ワークフロー・メッセージが送信されます。与信限度額の設定または変更を行うと、承認待ちの限度額変更があることを知らせるワークフロー・メッセージが与信管理者に送信されます。与信管理者が承認するまで、与信限度額の変更は顧客マスター・レコードに反映されません。
与信限度超過額	このフィールドを検討して、顧客の未決済請求額の合計のうち、与信限度額を超えている金額を確認します。

受注オーダーの検討

「受注残/完了オーダー照会」フォームか「既存オーダーの管理」フォームにアクセスします。

「フォーム」メニューおよび「ロー」メニューのいずれかから、受注オーダーに関連する次のような補足の情報タイプを検索するオプションを選択します。

- オーダー保留
- オンライン請求書
- 顧客情報
- 品目引当可能数量
- 需要/供給情報
- 相互参照品目
- オーダー見出しの改訂情報
- オーダー明細の改訂情報
- 出荷情報
- 価格履歴
- リベート履歴

受注オーダー明細テーブル(F4211)または受注オーダー履歴ファイル・テーブル(F42119)の受注オーダー、顧客、および品目の情報を検討できます。

バックオーダー合計数量 オーダー明細行の合計数量にバックオーダー数量を含めることを指定するには、これを選択します。

顧客品目 相互参照品目番号を表示するには、これを使用します。それ以外の場合は、相互参照品目番号は不要です。

配送票照会プログラム(P42290)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、配送票照会プログラム(P42290)で使用するデフォルトの処理を指定します。

バージョン

この処理オプションを使用して、システムが使用するデフォルト値を指定します。バージョンは、アプリケーションやレポートの実行方法の制御するユーザー定義の仕様です。バージョンを使用することで、ユーザー定義の処理オプション値、データ選択オプション、データ順序オプションをグループ化して保存できます。対話型バージョンは、(通常、メニュー項目の形で)アプリケーションと関連付けられています。

- | | |
|-----------------|---|
| 1. 受注残/完了オーダー照会 | P42290プログラムで使用する受注オーダー入力プログラム(P4210)のバージョンを入力します。 |
| 2. 販売履歴照会 | P42290プログラムで使用する販売履歴照会プログラム(P42025)のバージョンを入力します。 |

コミッション情報の検討

この項では、コミッション情報の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- コミッション情報の検討
- 見越しコミッションの検討

コミッション情報について

コミッション情報は、会社の販売環境にあわせて設定できます。各顧客に複数の販売担当者または販売グループを割り当てることができます。オーダーを入力して売上更新プログラム(R42800)を実行すると、計算されたコミッション額がその販売担当者の住所録番号または販売グループに属する各販売担当者の住所録番号に適用されます。

売上の更新後、コミッション情報を検討して販売担当者が正しい額を受け取ったかどうかを確認できます。セキュリティの権限を持つユーザーは、必要に応じて既存の情報を修正できます。

事前設定

この項で説明されているタスクを実行する前に、次のタスクを完了してください。

- コミッション情報を検討する前に、売上更新プログラム(R42800)を実行します。
- 受注オーダー入力プログラム(P4210)の「表示」タブで、コミッション情報を非表示にする処理オプションが有効になっていないことを確認します。

コミッション情報の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
コミッション管理の処理	W42120D	「コミッション/ロイヤリティ管理」(G4223)、「コミッション/ロイヤリティ履歴」	選択したコミッション・レコードの検討と選択を行います。
コミッション管理の改訂	W42120C	「コミッション管理の処理」フォームのコミッション・レコードを選択します。	販売担当者ごとにコミッション情報の検討と設定を行います。
受注残/完了オーダー照会	W4210E	「受注オーダー処理」(G4211)、「受注明細」	検討を行う受注オーダーを検索し、選択します。
既存オーダーの管理	W42101C	<ul style="list-style-type: none"> 「受注オーダー処理」(G4211)、「受注オーダーの更新-見出しを先頭」 「受注オーダー処理」(G4211)、「受注オーダーの更新-詳細を先頭」 	検討を行う受注オーダーを検索し、選択します。
受注オーダー明細の改訂	W4210A	受注オーダーを選択して、「受注残/完了オーダー照会」フォームの「ロー」メニューから「オーダー」を選択し、次に「受注オーダー明細の改訂」を選択します。	受注オーダーの明細情報を検討します。
受注見出しコミッションの検索	W42150A	「受注オーダー明細の改訂」フォームの「フォーム」メニューから「見出しコミッション」を選択します。	コミッション情報を検討します。
受注明細コミッションの検索	W42150B	「受注オーダー明細の改訂」フォームでレコードを選択し、次に「ロー」メニューの「明細コミッション」を選択します。	コミッション情報を検討します。
見越しコミッションの検索	W42170A	<p>受注オーダーを選択して、「受注残/完了オーダー照会」フォームの「ロー」メニューから「オーダー」を選択し、次に「オンライン請求書」を選択します。</p> <p>「受注オーダー請求書の表示」フォームの「フォーム」メニューから「見越しコミッション」を選択します。</p>	見越しコミッションを検討します。

コミッション情報の検討

「受注見出しコミッションの検索」フォーム、または「受注明細コミッションの検索」フォームにアクセスします。

合計S/O（合計受注オーダー）

このオーダーの品目について、合計リスト価格から該当する割引を差し引いた後の合計金額を検討します。

行合計	この行の品目について、合計リスト価格から該当する割引を差し引いた後の合計金額を検討します。
定額コミッション	このフィールドの値を検討して、従業員がコミッション率ではなく、定額コミッションを受け取っているかどうかを調べます。請求書、粗利益額または原価に対してコミッション金額を計算するには、1個当たりの金額を入力する必要があります。
1個当たり金額	品目1個当たりの金額を検討します。
コミッション・コードタイプ	このフィールドを検討して、コミッションの計算に請求書金額と粗利益額のいずれを使用したかを確認します。いずれの項目を使用する場合でも、コミッション計算の開始点として金額を検討し、積荷係数、固定原価、最小粗利などを適用する必要があります。

見越しコミッションの検討

「見越しコミッションの検索」フォームにアクセスします。

コミッション受取人No.	<p>コミッション計算の基準を入力します。各オーダー行について、少なくとも2人の販売担当者と、対応するコミッション・レートが必要です。</p> <p>3人以上の販売担当者にコミッションを作成するには、1行のオーダー行に個人または部署/部門(ロイヤリティの場合)を関連付けます。このような場合、関連販売担当者ファイルで、特定の販売担当者ではなく、複数の販売担当者を表す売上/コミッション/コミッション受取人番号を設定します。このコードは、受注オーダーの入力時に顧客の請求指示レコードに挿入され、オーダー処理サイクルの適切な時点で複数のコミッション・レコード(関係する販売担当者ごとに1つのレコード)が作成されます。</p>
コミッション%	販売担当者に支払うオーダー売上金額の割合を検討します。
定額コミッション	コミッション金額を表すこの値を検討します。このフィールドに値がある場合は、従業員はコミッション率ではなく、定額コミッションを受け取っています。請求書、粗利益額、または原価に対してコミッション金額を計算するには、1個当たりの金額を使用する必要があります。
1個当たり金額	品目1個当たりの金額を検討します。
コミッション計算タイプ	このフィールドを検討して、コミッションの計算に請求書金額と粗利益額のいずれを使用したかを確認します。いずれの項目を使用する場合でも、コミッション計算の開始点として金額を検討し、積荷係数、固定原価、最小粗利などを適用する必要があります。
コミッション金額	<p>このフィールドの値を検討します。この金額は、見込みコミッションとして計算されます。</p> <p>オーダーまたは行のレベルでの売上金額に基づき、この金額は販売原価、間接係数、最小粗利額などの計算結果になることがあります。</p> <p>参照: 第 3 章、「オーダー処理情報の設定」、「コミッション情報の設定」、40ページ</p>
オーダー合計	販売減価額を検討します。オーダー売上金額からこの金額を差し引いて、このオーダーの総利益額が計算されます。
コミッション合計額	システムにより計算された金額を検討します。これは見込みコミッションです。

オーダーまたは行のレベルでの売上金額に基づき、この金額は販売原価、間接係数、最小粗利額などの計算結果になることがあります。

参照: 第 3 章、「オーダー処理情報の設定」、「コミッション情報の設定」、40 ページ

第 11 章

受注オーダーの処理

この章では、受注オーダー情報、受注処理およびトランザクション処理の概要と次の方法について説明します。

- 請求情報の使い方
- 状況コードの更新
- ピッキング伝票の印刷
- シリアル番号情報の処理
- 出荷の確認
- 出荷伝票の印刷
- UCC (米国コード・センター) 128 に従った出荷処理

受注オーダー情報について

受注オーダー情報を検討および分析して、受注オーダーおよび請求書の状況をトラッキングし、正確な需要を予測します。たとえば、数量情報をモニタリングして受注オーダーのうちバックオーダーとなっている数量をチェックできます。また、保留中を含むすべてのオーダーの現在の状況を検討できます。受注オーダーの入力または検討時に、品目番号や引当可能数量、数量 - 価格区切りなどの品目情報に簡単にアクセスできます。これらの情報は、顧客と直接交渉する際に役に立ちます。

また、在庫状況集計や品目の需要/供給など、正確な需要予測を立てるのに必要な補足の品目情報にもアクセスできます。たとえば、品目の需要や在庫の有無、納期の確約などの品目情報が検索可能です。

現在の (未処理) オーダーと過去の (終了済) オーダーを含む顧客の勘定情報にアクセスできます。与信チェック・プログラム (P42050) を使用すれば、顧客の売掛金合計および受注残と与信限度額を比較できます。販売実績情報へのアクセスと検討も可能です。

関連オーダーの状況など、顧客送付用の請求書には印刷されない請求情報を検討できます。これは、オーダー入力時に顧客に情報を提供する必要がある場合に役に立ちます。

この情報には、次のどちらかの方法でアクセスできます。

- 「受注オーダー照会」(G42112) メニューの「受注残/完了オーダー照会」フォームから選択する。
- 「受注オーダー照会」(G4211) メニューの「受注オーダーの更新 - 見出しを先頭 - 既存オーダーの管理」フォームから選択する。

どちらの方法で受注オーダーを照会するかは、オーダーが関連付けられている国によって決まる場合があります。次の国には、受注オーダー情報に関する国別機能が用意されています。

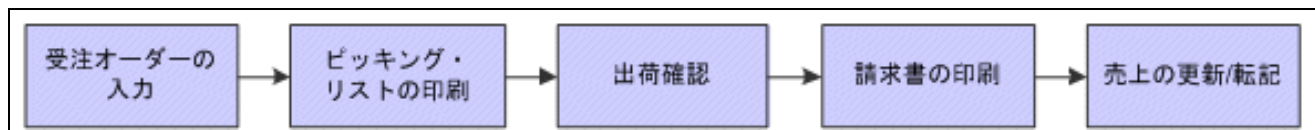
- チリ共和国
- ペルー共和国

- ポーランド共和国
- ロシア連邦

チリ、ペルー、ロシアなどには、それぞれの国に固有のフィールド、フォーム、プログラムが用意されており、これらを使用して受注オーダー情報を検討します。

受注オーダー処理について

受注オーダーは入力してから処理する必要があります。受注オーダーの処理サイクルの順番は次のとおりです。



受注オーダー管理のプロセス・フロー

ピッキング伝票は、倉庫の従業員が在庫をピッキングして受注オーダーを充当するために使用する伝票のことです。倉庫の従業員がオーダーのピッキングを行った後、受注オーダーの請求情報と出荷情報が正しいことを確認できます。商品を出庫する前に、運賃や税額の追加料金などの変更を受注オーダーに入力できます。

オーダー処理規則を使用して、受注オーダー処理の各ステップに対する状況コードを設定します。これらのコードによって、受注オーダー処理でのオーダー状況がトラッキングされます。たとえば、出荷を確認しようとするオーダーに対する状況コードは560になります。

受注オーダーの処理に必要な状況コードは会社のニーズに応じていくつでも設定できます。たとえば、受注オーダー入力とピッキング・リストの印刷の間に、与信承認のための状況コードを追加することが可能です。

手作業でオーダー行の状況コードを進めて、処理サイクルのステップを省略することもできます。これは、顧客が直接倉庫で品目を買い付ける場合などに役立ちます。オーダー入力後、オーダー行の状況コードを請求書処理の状況コードまで進めて、ピッキングと出荷確認を省略できます。

トランザクション処理について

トランザクション処理では、特定のプログラムやテーブルのデータ整合性が保証されます。在庫をデータベースにコミットしているときに、データベース・エラーやサーバー障害が発生した場合、トランザクションに関連しているすべてのテーブルの更新はデータベースからロールバックされてデータの整合性が維持されます。トランザクション処理によって、データはコミット・コマンドが発行されるまで待ち行列に保存されます。コミット・コマンドが発行されると、データは対応するテーブルに移動します。

トランザクション処理の対象となるプロセスごとに境界が作成されます。1つのトランザクション境界には、トランザクションを構成するすべてのデータ要素が含まれます。障害が発生すると、障害発生前の状態にシステムをリセットすることを知らせるワークフロー・メッセージが生成されます。

品目保管場所テーブル(F41021)は、事業所、保管場所、およびロット/シリアル番号別に品目の手持数量と引当済数量を反映しています。F41021テーブルを正確に維持することが重要です。トランザクション処理では、有効な処理済オーダーが作成される前に品目が受注オーダーに引き当てられることはありません。品目またはオーダーがなんらかの理由で保留されている場合、オーダーへの引当は行われません。

データはトランザクション・ワークファイル・テーブル (F41021WF) に格納されます。このテーブルはデータを一時的に保存する点を除いて F41021 と同じです。F41021 テーブルの更新は、トランザクション境界の外で実行されるため、データ整合性が保証されます。F41021 テーブルでデータが更新され、コミットメントが成功した時点でワークファイル・テーブルのデータが削除されます。

ユーザー定義コード (UDC) テーブル 00/AT (自動 TP ロールバック・レベル) の「特殊取扱」フィールドに「1」を入力し、自動入力するワークファイルを指定できます。

トランザクション処理では、売上更新で次のプログラムを使用します。

- 受注オーダー入力 (P4210)
- 出荷確認 (P4205)
- バックオーダー・リリース (P42117)

請求情報の使い方

この項では、オンライン請求書と注文承認書の印刷の概要、および次の方法について説明します。

- オンライン請求書照会プログラム (P42230) の処理オプションの設定
- 注文承認書の印刷

次の国には、請求情報に関する国別機能が用意されています。

- アルゼンチン共和国
- チリ共和国
- ペルー共和国

オンライン請求書について

オンライン請求書照会プログラム (P42230) を使用して、未請求または一部請求済のオーダーに関する請求書情報を検討できます。このプログラムでは、印刷した請求書と同じ情報が表示されます。

また、P42230 プログラムを使用して次の処理も行うことができます。

- 処理中および終了済の請求書情報の検討
- バックオーダー行付きまたは行なし請求書の表示
- 出荷条件や値引、支払条件、税金情報の検討
- 請求書の行のトランザクション日付の検討
- 受注オーダーの見越しコミッションの検討

P42230 プログラムの処理オプションを設定して、バックオーダー品目を次の方法で表示することもできます。

- 数量および合計価格情報なし
- 数量情報のみ
- 数量および合計価格情報を表示

次のいずれかの基準に基づいて税集計情報を表示できます。

- 税グループ – 課税対象金額合計
- 税域 – 県などの税域
- 納税先 – 市などその地域における納税先

オーダーに税率の異なる品目がある場合も税額は計算されますが、税率のかわりに「N/A(不適用)」と印刷されます。

注意: 請求書を印刷するまでは、事業所間と会社間オーダーは照会できません。

注文承認書の印刷について

オーダーが処理中であることを伝えるため、顧客に注文承認書を送付できます。次のような販売請求書と同じ情報を含めることができます。

- バックオーダーや取消を含む品目の数量
- 合計価格、税金、値引
- 納期
- 支払条件
- 関連テキストと印刷メッセージ
- 分離調整と固定料金に関する価格調整参照

通常は、ピッキング・リストに印刷可能な状態のオーダー行の注文承認書を印刷します。オーダー処理規則で、注文承認書の印刷に使用する状況コードを設定してください。これにより、ピッキング・リストを印刷する状況が省略されなくなります。

注文承認書の印刷では、請求書印刷プログラム(R42565)のいずれかのバージョンが使用されます。各バージョンの適切な処理オプションを設定することにより、注文承認書または請求書を印刷する際に、システムが請求書番号を割り当てるかどうかを指定できます。テスト・バージョンは、請求書再印刷など他の機能についても実行可能です。

重要: 請求書印刷をテスト・モードで実行すると、状況コードやテーブルは更新されません。受注オーダーの注文承認書を正しく処理するにはバージョンXJDE0005を実行するか、このバージョンのコピーを実行する必要があります。

参照: 第 14 章、「請求書作成」、「請求書印刷プログラム(R42565)の処理オプションの設定」、361ページ

請求情報の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オンライン請求書の処理	W42230A	「受注オーダー照会」(G42112)の「オンライン請求書」	未請求または一部請求済のオーダーに関する請求書情報を検討します。
日付	W42045G	明細行を選択し、「オンライン請求書の処理」フォームにある「ロー」メニューの「オーダー日付」を選択します。	明細行の日付を検討します。
受注オーダー行明細	W42045A	明細行を選択し、「オンライン請求書の処理」フォームにある「ロー」メニューの「オーダー明細」を選択します。	選択しているオーダー行の明細情報を検討します。
価格設定履歴	W4074C	明細行を選択し、「オンライン請求書の処理」フォームにある「ロー」メニューの「価格設定履歴」を選択します。	品目の価格履歴を検討します。

オンライン請求書照会プログラム(P42230)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、オンライン請求書照会プログラム(P42230)のデフォルト処理を指定します。

デフォルト

この処理オプションでは、請求書と受注オーダーを検索するためのデフォルト値を指定します。

1. オーダー・タイプ

伝票タイプを識別する値をUDC 00/DTから入力します。このコードはトランザクションの発生元も示します。伝票、請求書、領収書、およびタイム・シートの伝票タイプ・コードが予約されており、転記プログラムを実行したときに自動的に相殺仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)次の伝票タイプは事前定義されています。これらの伝票タイプは変更しないでください。

- P: 買掛金伝票
- R: 売掛金伝票
- T: 給与計算伝票
- I: 在庫伝票
- O: 購買オーダー処理伝票
- J: 一般会計/共有利息請求伝票
- S: 受注オーダー処理伝票

2. 開始状況コード

行タイプのオーダー・フローにおける次のステップを指定するコードをUDC 40/ATから入力します。

3. 終了状況コード このオーダー・タイプに関する処理サイクルの次の標準ステップを指定するコードをUDC 40/ATから入力します。処理サイクルのステップは、「オーダー処理規則」フォームで設定します。
4. 基準日状況 前状況に「1」を入力します。次状況のこのフィールドはブランクのままにします。
5. バックオーダー バックオーダーを除外するには「1」を、バックオーダーを数量のみ含めるには「2」を、バックオーダーの数量と価格を含めるには「3」を入力します。
6. カスタマ・セルフサービス機能 カスタマ・セルフサービス機能をJAVA/HTMLでできるようにアクティブ化するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: カスタマ・セルフサービスを使用しない。
1: Java/HTMLでカスタマ・セルフサービス機能を使用する。

運賃

この処理オプションでは、運賃情報を表示するかどうかを指定します。

1. 運賃の見積処理 見積運賃を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 見積運賃を表示しません。
1: 見積運賃を表示します。

バージョン

この処理オプションでは、システムで使用される請求書の印刷プログラムのバージョンを制御します。

1. 請求書印刷のバージョン 将来使用されます。請求書印刷プログラム(R42565)のバージョンを入力し
を入力してください(将来 ます。バージョンによって、アプリケーションに使用するデータ選択とデー
使用)。 タ順序の設定の組合せが決まります。バージョンには、英数字を組み合
 せて名前を付けることができます。

コミッション

この処理オプションでは、コミッションを処理するかどうかを指定します。

1. コミッションの処理 コミッションを処理するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: コミッションを処理します。
1: コミッションを処理しません。

注文承認書の印刷

「受注オーダー・レポート」(G42111)、「注文承認書の印刷」を選択します。

状況コードの更新

この項では、状況コードの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 状況コードの更新プログラム(P42040)の処理オプションの設定

- ・ 状況コードの更新

状況コードについて

状況コード更新プログラムを使用して、選択したオーダー行の状況コードを手作業で進めることができます。これにより、会社やオーダーに固有のオーダー処理ステップを管理できます。たとえば、状況コードの更新プログラム (P42040) から、複数のオーダー行の与信承認を省略できます。

また、1行の状況コードを手作業で次状況コードに変更することもできます。ただし、オーダーまたはオーダー行が保留になっている場合は、最初にオーダーをリリースする必要があります。保留オーダーの状況を先に進めても、オーダーが自動的にリリースされることはありません。

省略できる状況コードは、オーダー処理規則で設定されているステップにかぎります。

注意: P42040プログラムでは、オーダー行の状況を「999」などの終了状況に進めることはできません。また、受注オーダー入力時に指定する限られた状況にも進められません。受注オーダーに終了状況を割り当てるには、受注オーダー処理のすべてのステップを完了する必要があります。オーダーを取り消すには、オーダーを照会して各明細行を取り消してください。

事前設定

状況コードがオーダー処理規則UDCテーブル(40/AT)に設定されていることを確認してください。

状況コードの更新に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
販売状況スピード更新	W42040A	「追加オーダー処理」(G4212)、「状況コードの更新」	処理または更新するオーダーを検討および選択します。 「更新先状況コード」フィールドに入力し、「選択」をクリックして状況コードを更新します。
受注スピード状況更新の追加選択	W42040B	「販売状況スピード更新」フォームの「フォーム」メニューにある「追加選択」を選択します。	状況コードを更新します。

状況コードの更新プログラム (P42040) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、状況コードの更新プログラム (P42040) に関するデフォルト値の設定、バージョンの指定、およびデータの処理方法の定義を行います。

デフォルト値

この処理オプションでは、デフォルトの開始状況コードおよび終了状況コード、オーダーの処理で使用する状況コード、デフォルトの次状況コードを定義します。

1. 開始状況コード、2. 終了状況コード

「販売状況スピード更新」フォームに表示するオーダー状況コードの範囲を示します。UDC 40/ATから指定するコードは、使用するオーダー・タイプと行タイプに基づいてオーダー処理規則に設定されている必要があります。

開始状況と次状況の組合せは、オーダー処理規則にある有効な前状況と次状況の組合せである必要があります。

3. 基準日状況

フォームに表示するレコードのフィルタリングで使用する状況を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 次状況を使用します。

1: 前状況を使用します。

4. 更新するデフォルトの次状況コード

オーダー状況の更新で使用するデフォルトの次状況を入力します。

5. オプション

将来使用するために予約されています。このオプションは現在機能しません。この処理オプションはブランクにします。

6. オーダー・タイプ

最初の入力時にフォームに自動入力されるデフォルトのオーダー・タイプを指定します。

バージョン

この処理オプションでは、このプログラムから呼び出す受注オーダー入力プログラムのバージョンを指定します。

1. 受注オーダー入力バージョン

受注オーダーの作成で使用する受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを入力します。

倉庫オプション

この処理オプションでは、ピッキング要求を作成できるかどうか、ピッキング要求をサブシステムで生成するかどうか、および一時変更状況を指定します。

1. 要求プロセス・モード

JD Edwards EnterpriseOne 倉庫管理でピッキング要求を作成するかどうかを指定します。JD Edwards EnterpriseOne 倉庫管理を使用する場合、ピッキング要求を作成し、サブシステムから要求を処理できます。ピッキング要求は、オーダーに対して特定の保管場所から在庫をピッキングするように提示する処理に使用されます。値は次のとおりです。

ブランク: ピッキング要求を生成しません。

1: 要求のみを作成します。

2: サブシステムを使用して要求を生成しピッキング要求を作成します。

2. ピッキング要求をサブシステムで処理する場合は、そのバージョンを入力してください。

サブシステムから倉庫管理ピッキング要求を生成する保管場所選択ドライバ・プログラム (P46171) のバージョンを入力します。保管場所選択ドライバ・プログラムは、JD Edwards EnterpriseOne 倉庫管理システムのすべての移動要求 (ピッキング要求を含む) を処理します。

注意: サブシステム処理に設定しているバージョンを指定する必要があります。

3. 要求が生成済の受注オーダー行の一時変更用次状況

オーダー処理にかわりのステップを入力します。UDC 40/AT から指定するコードは、使用するオーダー・タイプと行タイプに基づいてオーダー処理規則に設定されている必要があります。開始状況と一時変更用状況の組合せは、オーダー処理規則テーブル (F40203) 内にある前状況と次状況の有効な組合せである必要があります。

状況コードの更新

「受注スピード状況更新の追加選択」フォームにアクセスします。

状況コードの更新 - 受注状況スピード更新の追加選択

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

開始

520

終了

580

状況範囲の基準

☒ 前状況

☐ 次状況

「受注スピード状況更新の追加選択」フォーム

開始	このオーダー行が正しく完了した処理サイクルの前のステップを指定します。
終了	オーダー行の更新に使用するオーダー・フローの次の状況を指定します。
状況範囲の基準	更新の実行で使用する状況コードを指定します。

ピッキング伝票の印刷

この項では、ピッキング伝票のタイプの概要、および次の方法について説明します。

- ピッキング・リストの印刷プログラム (R42520) の処理オプションの設定
- ピッキング・リストの印刷

ピッキング伝票のタイプについて

倉庫の従業員はピッキング伝票を印刷できるため、顧客のオーダー、出荷、または積荷に倉庫から在庫を充当する際に使用できます。また、複数の受注オーダーに対する品目のピッキング・リストも印刷できます。保管場所別ピッキング・リストやピッキング・リストを使用して、複数の受注オーダーに対する効率的なピッキング作業を行うことができます。

次の表に、倉庫の従業員が在庫の確保で印刷して使用できる伝票について示します。

伝票	説明
ピッキング・リスト(R42520)	<p>ピッキング・リストは数量や保管場所情報など、1件の受注オーダーに対する品目情報を記載した伝票のことです。ピッキング・リストを使用して次のことを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行品目およびオーダー全体の価格を検討する。 ・ 配送担当者を識別する。 ・ 納品時に顧客が受取確認したことを検証する。 ・ 顧客が品目を返品する場合の受領書として使用する。 <p>ピッキング・リストの印刷時に在庫をハード・コミットする場合は、品目のピッキングを行う複数の保管場所をピッキング・リストに記載できます。特定のロットと品目の保管場所が一覧されます。1箇所のロット保管場所が必要な数量の在庫をピッキングできない場合、行を分割してロットと保管場所ごとに別々の行を作成します。</p> <p>システムによりオーダー番号別にピッキング・リスト番号が割り当てられ、そのオーダーの合計品目数が印刷されます。</p>
保管場所別ピッキング・リスト(R42522)	<p>保管場所別ピッキング・リストには、複数の受注オーダーに対して出荷される品目の情報が記載されます。このリストでは、品目は品目番号別にグループ化され、数量と保管場所順に並べられています。</p> <p>保管場所別ピッキング・リストにより倉庫の従業員が複数の受注オーダーを効率的に充当できるため、必要な数量を検索する時間の削減につながります。</p> <p>システムにより保管場所別にピッキング・リスト番号が割り当てられ、その保管場所の合計品目数が印刷されます。</p>
梱包済ピッキング・リスト(R42521)	<p>梱包済ピッキング・リストでは、特定の出荷や積荷に充当する在庫のピッキングを行うことができます。</p> <p>システムにより出荷番号または積荷番号別にピッキング・リスト番号が割り当てられ、その出荷の合計品目数が印刷されます。</p>

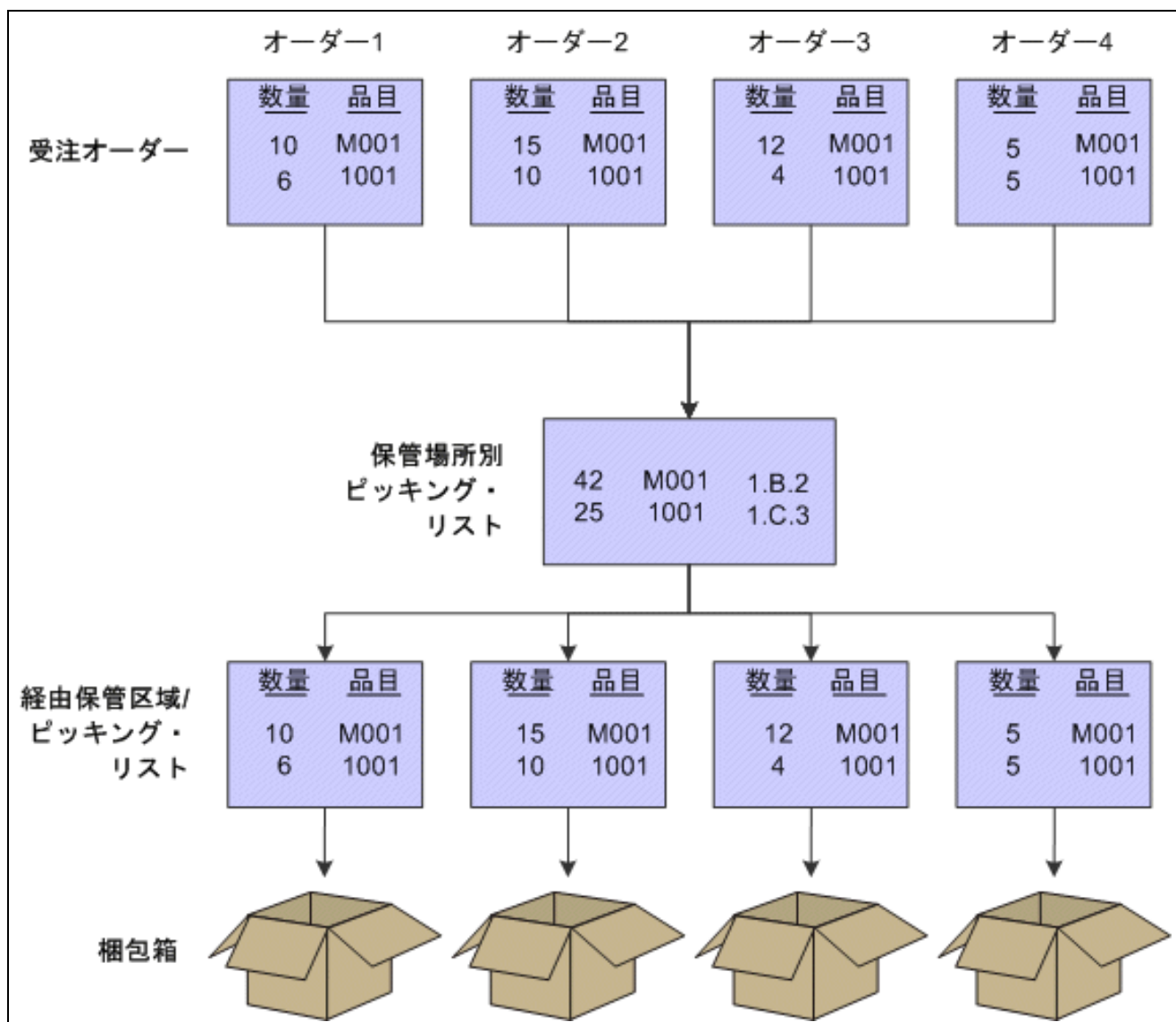
ピッキング・リストのかわりに保管場所別ピッキング・リストを先に印刷する場合、保管場所別ピッキング・リストにある受注オーダーごとのピッキング・リストを後で印刷できます。倉庫の従業員はこのピッキング・リストを使用して、出荷する受注オーダー用に梱包する品目と数量を確認できます。1つの区域の複数のオーダーを梱包できるため、倉庫の従業員が効率的に作業できます。後で出荷確認に使用する番号が、各ピッキング・リストに割り当てられます。

受注オーダーにキット品が含まれている場合は、ピッキング・リストの中でキットの親品目と構成品が連続して印刷されます。F4211テーブルの「キットID」フィールド内にある値によって、キット品目およびそれに対応する構成品が決定されます。

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne内示調整システムを使用する場合、レポートには日付/時間のカラムにピッキング予定時刻(PDTT)情報が表示されます。また、分離調整と固定料金に関する価格調整参照も表示されます。

顧客請求指示情報で顧客に優先順位コードを割り当て、その優先順位に従って顧客のオーダーを充当し、ピッキング・リストが生成できます。これにより、特定の顧客に対する適正在庫の維持が可能になります。

次の図は、保管場所別ピッキング・リストおよびピッキング・リストを使用してオーダーを充当する方法について示します。



保管場所別ピッキング・リストおよびピッキング・リストの利用

印刷が中断されたり、追加のコピーが必要な場合には、ピッキング・リストを再印刷できます。オーダーの状況コードを進めることなく、ピッキング・リストが再印刷されます。

印刷するピッキング・リストの種類を指定するには、処理オプションを設定してください。

ピッキング・リストの印刷プログラム(R42520)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、ピッキング・リストの印刷プログラム(R42520)に関する編集処理、印刷パラメータ、データの処理方法、および通貨を指定し、デフォルトのバージョンを定義します。

編集

この処理オプションでは、状況コードの処理方法を指定します。

1. 開始次状況(必須) ピッキング・リストを処理するオーダーの選択で使用する開始状況コード範囲を入力します。
状況コードは、UDC 40/ATにあります。使用するオーダー・タイプと行タイプの組合せごとに、状況コードをオーダー処理規則に設定する必要があります。
2. 終了次状況(必須) ピッキング・リストを処理するオーダーの選択で使用する最も高い行状況を入力します。UDC 40/ATから指定する値は、使用するオーダー・タイプと行タイプに基づいてオーダー処理規則に設定されている必要があります。
3. 一時変更用次状況 処理済オーダー行の次状況コードを入力します。このオプションを使用すると、オーダー処理規則が省略されます。
UDC 40/ATから指定するコードは、使用するオーダー・タイプと行タイプに基づいてオーダー処理規則に設定されている必要があります。
4. 次状況の更新 オーダー明細行の状況を更新するかどうか指定します。値は次のとおりです。
空白: 行状況を更新します。
1: 行状況を更新しません。
5. 検証する許容ロット状況グループの入力 検証する許容ロット状況グループを入力します。ピッキング・リストの印刷時、ユーザー定義の状況コード値に対して空白以外のロット状況コードが検証されます。空白以外のロット状況コードが許容ロット状況テーブル(F41081)にある場合、ユーザー定義のロット状況コードは空白とみなされ、保留中の品目はピッキング・リストの印刷処理を通してそのままになります。

表示

この処理オプションでは、印刷メッセージまたは関連テキスト、キット構成成品、バックオーダー品目および顧客相互参照など、特定の情報を印刷するかどうかを制御します。

1. 一括印刷メッセージ 一括印刷メッセージをすべてのピッキング・リストに印刷するかどうかを指定するコードをUDC 40/PMから入力します。
2. 関連テキストの印刷 受注オーダーに関連付けられているテキスト行を印刷するかどうかを指定します。受注オーダー見出し、受注オーダー明細、またはその両方に関連付けられているテキストを印刷するかどうかを指定できます。値は次のとおりです。
空白: 関連テキストを印刷しません。
1: 見出しと明細行に関連付けられているテキストを印刷します。
2: 見出しに関連付けられているテキストを印刷します。
3: 明細行に関連付けられているテキストを印刷します。
3. キット構成成品の印刷 ピッキング・リストにキット構成成品の行を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
1: すべての構成成品に加えて、キットの親品目が印刷されます。

- 2: キットの親品目のみが印刷されます。
- 4. 将来引当行**
- 将来引当行を処理するかどうか、およびピッキング・リストに情報を印刷するかどうかを指定します。ピッキング・リスト処理で将来引当行の処理時、状況コードなどのオーダー明細行情報は更新されます。値は次のとおりです。
- ブランク: 将来引当を印刷または処理しません。
- 1: 将来引当行を処理します。
- 2: 将来引当行を処理および印刷します。
- 3: 将来引当行を印刷します。
- 5. バックオーダー行**
- バックオーダー行を処理するかどうか、およびピッキング・リストに情報を印刷するかどうかを指定します。ピッキング・リスト処理でバックオーダー行の処理時、状況コードなどのオーダー明細行情報は更新されます。値は次のとおりです。
- ブランク: バックオーダー情報を印刷または処理しません。
- 1: バックオーダー行を処理します。
- 2: バックオーダー行を処理および印刷します。
- 3: バックオーダー行を印刷します。
- 6. 明細テキストの印刷**
- ピッキング・リストに受注オーダー明細テキスト行を印刷するかどうかを指定します。テキスト行は「行タイプ」フィールドにテキスト行タイプを持ち、テキストのみを含むオーダー明細行です。値は次のとおりです。
- 1: テキスト行を印刷します。
- 2: テキスト行を印刷しません。
- 7. 品目番号の印刷**
- ピッキング・リストに印刷する品目番号を指定します。値は次のとおりです。
- ブランクまたは1: 品目番号だけを印刷します。
- 2: 自社品目番号と顧客の品目番号を印刷します。
- 8. 顧客相互参照**
- ピッキング・リストに顧客品目番号を印刷する場合、顧客品目番号を特定する相互参照コードを指定します。UDC 41/DTから値を入力する必要があります。
- 9. 追加見出しテキストの印刷**
- レポートの見出しに追加見出しテキストを印刷するかどうかを指定します。追加見出しテキストでその文書がオリジナルのものが再印刷されたものかわかります。値は次のとおりです。
- ブランク: 追加見出しテキストを印刷しません。
- 1: 文書がオリジナルであることを示す追加見出しテキストを印刷します。
- 2: 文書が再印刷であることを示す追加見出しテキストを印刷します。
- 10. 出荷番号の印刷**
- ピッキング・リストの印刷プログラム(R42520)に関連付けられている受注オーダーの出荷番号を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 出荷番号をレポートに印刷しません。
- 1: 出荷番号をレポートに印刷します。

11. 印刷メッセージ優先情報の印刷

受注オーダー内の品目番号と顧客番号の組合せに対するユーザー定義の印刷メッセージ優先情報を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: ユーザー定義の印刷メッセージ優先情報を印刷しません。

1: ユーザー定義の印刷メッセージ優先情報を印刷します。

処理

この処理オプションでは、特定の処理を実行する方法を制御します。たとえば、在庫をコミットする方法を指定できます。また、ワークファイルの作成、シップ・アンド・デビット契約の処理方法の指定も可能です。

1. 在庫のハードコミット

オーダー明細行をハード・コミットするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

1: 在庫をハード・コミットします。

2: 引当処理を実行しません。

在庫のコミット時、一部の行はバックオーダーされるか、または取り消されます。

2. 優先引当て

優先情報処理を使用してオーダー明細行に引当を実行するかどうかを指定します。顧客優先情報 (P40071) プログラムと品目優先情報 (P40072) プログラムの設定に従って在庫を引き当てます。値は次のとおりです。

ブランク: 優先情報処理を使用して在庫を引き当てません。

1: 優先情報処理を使用して在庫を引き当てます。

3. ワークファイルの作成

ピッキング・リストの印刷プログラムのこのバージョンでワークファイルを作成するかどうかを指定します。ワークファイルの作成時、ピッキング・リスト処理を通してすべてのオーダー明細行が処理されます。この処理オプションを使用するには、レポート設計ツールでレポートを作成し、ピッキング・リスト見出しファイル (F42UI520) テーブルとピッキング・リスト明細ファイル (F42UI521) テーブルを指定する必要があります。値は次のとおりです。

ブランク: ワークファイルを作成しません。

1: ワークファイルを作成します。

4. シップ・アンド・デビット処理

ピッキング・リストの印刷プログラム (R42520) の実行時に、シップ・アンド・デビット契約を特定および調整する割当/再計算/再割当調整プログラム (R45100) にサブシステム処理またはバッチ処理を使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: サブシステム処理もバッチ処理も使用しません。

1: サブシステム処理を使用します。

2: バッチ処理を使用します。

通貨オプション

この処理オプションでは、ピッキング・リストを国内通貨と外貨のどちらで印刷するかを指定します。

1. 国内通貨/外貨

ピッキング・リストを国内通貨と外貨のどちらで印刷するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 国内通貨で印刷します。

- 1: 外貨で印刷します。
- 2: 外貨と国内通貨の両方で印刷します。

バージョン

この処理オプションでは、シップ・アンド・デビット処理を実行するときに使用するバージョンを指定します。

バージョンによって、プログラムの情報の表示方法が制御されます。このため、会社の要件にあわせてバージョンに処理オプションを設定する必要があります。

- | | |
|-------------------------------------|---|
| 1. シップ・アンド・デビット
(R45100) | ピッキング・リストの印刷プログラム (R42520) の実行時にシップ・アンド・デビット契約を特定および調整するために使用する割当/再計算/再割当契約プログラム (R45100) のバージョンを入力します。 |
|-------------------------------------|---|

ピッキング・リストの印刷

「受注オーダー処理」(G4211)、「ピッキング・リストの印刷」を選択します。

シリアル番号情報の処理

この項では、シリアル番号処理、流通管理システムでのシリアル番号処理、事業所用のシリアル番号の設定の概要、および次の方法について説明します。

- シリアル番号照会プログラム (P4220) の処理オプションの設定
- 事業所用のシリアル番号の入力

シリアル番号の処理について

シリアル番号は、このシステムでの品目ごとの識別とトラッキングに使用します。たとえば、部品の倉庫への到着時、入庫時、販売時、出荷時など、特定の部品に関する情報をトラッキングできます。

シリアル番号の条件に従って、品目を入荷した時点で事業所にシリアル番号を追加できます。品目を販売するときには、オーダー入力時にシリアル番号を入力し、出荷確認時にシリアル番号を検証してください。

または、製品の出荷時にもシリアル番号を追加できます。たとえば、出荷確認時にシリアル番号を入力して、品目の保証期間を指定できます。事業所内でシリアル番号を割り当てるには、基本シリアル番号プログラム (P4220) にアクセスします。

シリアル番号処理機能を使うと、ロット処理の向上につながります。システムでは数量を1つのロットとしてシリアル番号を処理します。数量が1のロットは、トラッキングできる最小のユニットになります。流通管理システムでシリアル番号をトレース/トラッキングする際には、次のロット情報プログラムを利用できます。

- ロット・マスター (P4108)
- 保管場所の改訂 (P41024)
- ロット別在庫状況 (P41280)
- 品目元帳照会 (CARDEX) (P4111)
- ロットのトレース/トラッキング照会 (P41203)

シリアル番号は次のテーブルで管理されます。

- 品目マスター (F4101)
- 事業所品目 (F4102)
- 品目保管場所 (F41021)
- ロット・マスター (F4108)
- 品目元帳 (F4111)

流通管理システムでのシリアル番号処理について

シリアル番号の付いた品目を販売する場合、品目情報を設定して入庫から顧客への納品まで品目の動きをトラッキングできます。

品目を最初に入力するときのシリアル番号条件

F4101テーブルに品目情報を入力する際には、シリアル番号の割当条件、ロット処理タイプ、引当方法、貯蔵期間の日数を指定する必要があります。このテーブルの情報はF4102テーブルに転送されます。シリアル番号を必須にすると、ロット処理タイプによって割当が任意と必須のどちらであるか、および必須の場合は、システムが割り当てるシリアル番号の形式が指定されます。品目の失効日付が算出できるように、貯蔵期間を指定してください。事業所ごとにシリアル番号条件は一時変更できます。「事業所品目の処理」フォームの情報に基づいて、シリアル番号処理が検証されます。

シリアル番号条件が任意であることを示すロット処理タイプを入力すると、出荷が確認されるまでシリアル番号入力のプロンプトは表示されません。この機能をシリアル番号用に使用して、顧客に提供する品目の保証期間を識別します。

シリアル番号の入力が必須の品目すべてに対してロット処理タイプと貯蔵期間を入力してください。在庫を引き当てるときに、このロット処理タイプと貯蔵期間が使用されます。貯蔵期間を指定しない場合は、品目を入荷するたびに失効日付を入力する必要があります。

入荷確認時のシリアル番号のアクセス

倉庫に品目を入庫するとき、シリアル番号情報を記録できます。購買オーダーの入荷を入力する際には、事業所品目プログラム (P41026) に存在するロット処理タイプを基に入荷オプションを入力する必要があります。

自動採番形式か日付形式に基づいてシリアル番号が自動的に割り当てられることを示すロット処理タイプを入力する場合、複数保管場所への入荷にオプションを入力してください。この場合、入荷数量は数量を1として入力するようにプロンプトが表示されます。自動採番形式または日付形式に基づいてF41021テーブルに新しい保管場所が作成され、P41026プログラムで入力した貯蔵期間に基づいて失効日付が取得されます。シリアル番号ごとに失効日付を入力することもできます。

手作業でシリアル番号を割り当てる必要があることを示すロット処理タイプを入力する場合、複数保管場所への入荷オプションを入力してください。シリアル番号と入荷数量1を入力するように指示するプロンプトが表示されます。必要に応じてこれらの情報を使用し、F41021テーブルにロットを作成できます。失効日付は、P41026プログラムに入力した貯蔵期間に基づいて自動的に取り込まれますが、シリアル番号ごとに手動でも入力できます。

シリアル番号別に品目情報をトレース/トラッキングするためにシリアル番号情報を記録するには、入荷確認プログラム (P4312) の処理オプションを設定してください。

オーダー入力時のシリアル番号入力

ロット処理タイプを持ち、シリアル番号が必須であることを示す品目のオーダーを入力する場合、オーダー入力時に有効な保管場所とシリアル (ロット) 番号を入力してください。

受注オーダー入力時にシリアル番号を必要とする場合、次の規則が適用されます。

- 取引単位はシリアル番号付きの品目の基本単位と一致させる。
- 保管場所とシリアル番号の組合せを入力する場合には数量を1にする。
- 保管場所とシリアル番号の組合せは有効かつ使用可能なものを入力する。

入力した保管場所/シリアル番号と品目の組合せが使用できない場合や手持在庫数量がゼロの場合にはエラーが表示されます。品目、保管場所、シリアル番号の組合せに対する数量が次の状況である場合、シリアル番号は使用できません。

- 検査中
- 作業中1
- 作業中2
- 積送中

品目の返品や修理用の返品の場合は、有効な保管場所とシリアル番号を入力する必要があります。その他に、シリアル番号情報を使用して既存のオーダーを照会できます。

出荷確認時のシリアル番号入力

品目がシリアル番号付きの場合、出荷確認時にシリアル番号情報を入力する必要があります。出荷確認中にオーダー明細行を確認する際には、P41026プログラムにある品目のロット処理タイプに基づいてシリアル番号を入力してください。

事業所用のシリアル番号設定について

品目を入荷する前、または倉庫から出荷するときに、組織固有のシリアル番号条件に従って事業所用のシリアル番号を設定できます。手作業でシリアル番号を割り当てる必要があることを示すロット処理タイプを入力する場合、シリアル番号を事前定義して、いつ受注オーダーを入力するかやいつ出荷を確認するかを選択できます。品目保証などの情報のIDとしてシリアル番号処理を使用する場合に、シリアル番号の入力を任意とするロット処理タイプを指定していれば、顧客への出荷を確認する前にシリアル番号を入力できます。また、すでに品目にシリアル番号を割り当てた場合は、任意で第2シリアル番号を入力して品目保証を識別することも可能です。

シリアル番号を照会して、顧客に販売された各品目のシリアル番号や特定のオーダー・タイプ内でのシリアル番号、または販売予定あるいは出荷予定の品目に割り当てられているすべてのシリアル番号を参照できます。

注意:「シリアル番号の処理」フォームでオーダーを検討する場合、数量が1の品目に割り当てられていないシリアル番号が表示されます。数量が1の品目については、ロットや保管場所がF41021テーブルに作成されません。

シリアル番号情報を処理するために使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
シリアル番号の処理	W4220B	「受注オーダー照会」(G42112)、「シリアル番号照会」	シリアル番号のあるオーダーを検討および選択します。
シリアル番号の改訂	W4220C	「シリアル番号の処理」フォームの「追加」をクリックします。	事業所用のシリアル番号を入力します。

シリアル番号照会プログラム (P4220) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、シリアル番号照会プログラム (P4220) のデフォルト値を設定し、バージョンを指定します。

デフォルト

この処理オプションでは、デフォルトのオーダー・タイプを指定します。

オーダー・タイプ 「シリアル番号照会」フォームにアクセスしたときに表示されるデフォルト伝票を指定します。伝票のタイプを識別するコードをUDC 00/DTから入力します。

バージョン

この処理オプションでは、受注オーダー入力プログラムのバージョンを指定します。

受注残/完了オーダー照会 (P4210) 受注残/完了オーダー照会に使用する受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを入力します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンXJDE0001が使用されます。

出荷の確認

この項では、出荷確認、出荷確認時の追加オーダー処理、自重と梱包情報、出荷確認バッチ・アプリケーションの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 出荷確認プログラム (P4205) の処理オプションの設定
- 出荷の確認
- 出荷確認バッチ・アプリケーション・プログラム (R42500) の処理オプションの設定
- 出荷確認バッチ・アプリケーションの実行

出荷確認について

倉庫の従業員がオーダーのピッキングを行った後、オーダーを出荷する前に品目と出荷情報を確認してください。出荷確認プログラム (P4205) を使用して、在庫が倉庫から出荷されたことを確認します。出荷前に品目のピッキングが行われた保管場所、数量、すべての品目および出荷情報、追加料金、シリアル番号などを確認できます。また、許容ロット状況が割り当てられている保留中の品目も出荷できます。

出荷確認中には受注オーダーに対して在庫品目は追加できませんが、処理オプションの設定しただけでは取扱料金や運賃などの非在庫品目の金額を追加できます。

オーダーを確認すると、オーダーは次状況に進みます。たとえば、状況コード540のオーダーは、出荷確認後には560になります。

出荷数量がオーダー数量よりも少ない場合は、受注オーダーの出荷数量を調整できます。品目の受注数量に満たない場合は、次のオプションの設定に従ってオーダーが処理されます。

- P4205プログラムに関するオプションでバックオーダー、取消、または出荷可能な品目が設定されている。
- 顧客請求指示でバックオーダーが許容されている。

事業所固定情報、事業所品目、品目マスターの設定でバックオーダーが許容されている。

P4205プログラムでは、オーダー行の確認時に「実際出荷時刻」の値を入力できます。また、輸送出荷確認(P49645)プログラムと積荷確認(P49640)プログラムから実際出荷時刻を取得することもできます。

キットは次のように出荷確認できます。

- 手作業で出荷を確認する。

処理オプションでキット構成품을すべて表示するように設定します。親品目のキット行、または1つ以上の構成품을個別に確認できます。構成품을個別に処理する場合、警告メッセージが表示され、数量変更のような特定の更新を行に加えることができないことを示すフラグがキット親品目に割り当てられます。

- カートン再構成プログラム(P4620)を使用して出荷を確認する。

行レベルの調整に失敗した場合や出荷確認時に数量が変更された場合、カートン・データを訂正できます。「カートン詳細」タブの「出荷確認カートン状況」および「出荷明細とカートン明細の照合」処理オプションを使用すれば、出荷を確認する前に必要な編集をカートンに必ず実行できます。「出荷確認」フォームの「ロー」メニューからカートン再構成プログラム(P4620)にアクセスして訂正できます。

たとえば、すべてのラベルを出荷に割り当ててから、カートン状況を変更してカートン明細が出荷明細に対して調整済であることを示すことができます。出荷のすべてのカートンがその状況にない場合、出荷は確認できません。状況を空白のままにすれば、カートン状況を確認せずに処理を進めることができます。この処理は任意です。また、出荷確認バッチ・アプリケーション・プログラム(R42500)のバッチ・バージョンを使用してこの機能を実行することもできます。バッチ・バージョンは、処理オプションで指定された対話型バージョンの処理オプションを取り込みます。

- 出荷を自動的に確認する。

処理オプションでキットの構成品を表示しないように設定します。キットの構成品はシステムにより確認され、各キット構成品の残数量が調整されます。

キットおよびコンフィギュレーション品目の部分オーダー数量

キットとコンフィギュレーション品目の受注オーダー数量はほとんどの場合、部品や半組立品を含めると大量になります。通常、その受注オーダーに対して品目と構成品がすべて揃っても、全体のオーダーがすべて揃うまで在庫として置かれます。その一方で、完了した分だけの数量を出荷すると、経費を削減しながら在庫管理を効率よく行えます。また、オーダー全体の数量を充当できるまで待たずに完了分だけを定期的に請求できます。

キット親品目またはキットの個別構成品の出荷を確認できます。キット構成品を個別に出荷確認する場合、バランスを不均衡にして親と構成品を作成したときに警告が表示されます。レコードに対してフラグが割り当てられ、キットの整合性を失わせる結果になるキット親品目に対するアクション、たとえばキット親品目のオーダー数量を変更することを防止するために、その情報が使用されます。キットがすでに部分的に処理されている場合、キット親品目を過剰在庫できません。

「キット残数調整ウィンドウ(P42055)の表示」処理オプションで、「キット残数調整ウィンドウ」フォームを表示するかどうかを指定します。この処理オプションの設定によっては、親品目に関するトランザクション数量を指定したときにP4205プログラムによってP42055プログラムが起動され、受注オーダーに関する行が処理されます。「キット残数調整ウィンドウ」フォームを使用して、推奨された構成品の数量を確認し、必要に応じて数量を更新します。

「キット残数調整ウィンドウ(P42055)の表示」処理オプションを1に設定した場合は、出荷確認を改訂するフォームの「ロー」メニューにある「保管場所の選択」は無効になります。この処理オプションを設定すると、親品目がない構成品の作成が防止されます。キット親品目が製造作業オーダーに所属している場合、「保管場所の選択」オプションは無効になりません。製造済キットに関しては、キット親品目が在庫品目であるとみなされ、キット構成品を個別に処理できません。複数保管場所プログラム(P42053)により、出荷確認時に、キット親品目数量の出荷元となる保管場所を決定できます。P42053プログラムから、キット構成品のロットまたはシリアル番号を選択することもできます。

出荷確認バッチ処理プログラム(R42500)を使用したキット構成品の個別処理はできません。推奨された構成品の数量に基づいて構成品が出荷されます。

注意: キット構成品を個別に出荷する場合、P4205プログラムで「キット構成品行の表示」処理オプションを設定し、構成品を表示する必要があります。「キット残数調整ウィンドウ」フォームを表示せずに構成品を個別に出荷できます。

推奨された構成品の数量を一時変更するには、P4205プログラムで「キット残数調整ウィンドウ(P42055)の表示」処理オプションを設定する必要があります。キットの残りに対して不一致の構成品を出荷するには、推奨された構成品を一時変更します。

JD Edwards EnterpriseOne輸送管理とキット

キット親品目のない行を出荷する場合、JD Edwards EnterpriseOne輸送管理システムによって、構成品の行は在庫品目タイプに変更されます。このアクションによって、構成品の行はキット親品目からの関連付けが解除されます。その結果、輸送された行に関して、キットを対象とする請求は利用不可になります。

親品目のない行を出荷する場合、構成品の行は在庫品目タイプに変更され、その後、構成品の在庫行とキット親品目の行に関する価格は一時的に変更されます。価格を一時的に変更すると、当初のキット親品目の合計金額を上回る請求を行わずに、受注オーダーで両方の行に対して請求を実行できます。

出荷昇順日付

消費者パッケージ商品や製薬業界は、ロット処理で様々な日付を扱います。顧客は、前回出荷の日付以降の有効期限、販売期限、失効日付で製品ロットを出荷してほしいと考えています。

出荷確認時、ピッキングされたロットと保管場所が昇順に従っているか確認されます。規則を満たしていない場合は、警告やエラー・メッセージが発行されます。

出荷確認の転送オーダーにおける積送中積荷の会計処理

事業所間でオーダーを出荷する場合、オーダー転送に関係する積送中積荷の会計処理が必要です。資材所要量計画(MRP)と流通所要量計画(DRP)によって、ある事業所から他の事業所に在庫を転送するための転送オーダーが生成されます。事業所間で多額の価値を輸送する企業は、輸送中の在庫価値に関する財務的な明確性を失うことはできません。受注を更新する時点で、出荷元事業所から在庫元帳の価値がリリースされます。入荷先事業所で購買オーダー入荷が実行されるまでは、元帳の在庫価値は更新されません。すなわち、在庫の積送中積荷の価値が元帳に正しく反映されていない場合、月末、四半期末および年末の財務諸表が不正確になる可能性があります。

「積送中勘定科目」処理オプションを使用すると、出荷確認時に入荷確認の作業工程が自動的に呼び出され、関連する更新が元帳に対して実行されて積送中積荷に相当する品目がトラッキングされます。この機能により、積送中積荷に対する品目在庫の財務的な明確性が保証されます。積送中積荷の在庫を正確にトラッキングするには、出荷確認プログラム(P4205)の「プロセス」タブにある「積送中勘定科目」処理オプションと、「バージョン」タブにある「入荷確認」(P4312)処理オプションを使用可能にしておく必要があります。

注意: JD Edwards EnterpriseOne輸送管理と積送中積荷を使用する場合、積送中積荷在庫はこのシステムによってトラッキングされます。

出荷確認時の追加オーダー処理について

出荷確認処理中に、オーダーの他の処理も実行できます。たとえば、手持在庫の更新処理、積荷および配送確認による正確な在庫状況の把握などがあります。また、出荷確認時にシリアル番号情報の入力や出荷品目のテスト結果の確認を行うことによって、オーダーの正確さを保証することもできます。

これらの追加オーダー処理には、オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 品質管理や JD Edwards EnterpriseOne 輸送管理などの他の EnterpriseOne システムを必要とするものもあります。

手持在庫の更新

出荷確認または売上の更新の際に、品目の手持数量を差し引くことができます。選択する方法によって、履歴ファイルが品目元帳テーブル (F4111) に書き込まれる時期が変わります。使用する方法を決定する際には、この点を考慮してください。

- 出荷確認時に手持数量を在庫から差し引く場合、受注オーダー番号は伝票番号で、オーダー・タイプは伝票タイプとして品目元帳テーブルにレコードが作成されます。

売上更新時の場合は、請求書の番号とタイプ、総勘定元帳日付、およびバッチ番号を持つレコードが上書きされます。

- 売上更新時に手持数量を在庫から差し引く場合は、請求書番号、請求書タイプ、元帳日付が F4111 テーブルに書き込まれます。

出荷確認時にはレコードの書込みは行われません。

また、在庫のリリースは、出荷確認の前、製造プロセス中のコンフィギュレーション品目の完成時にも実行できます。

出荷確認中に品目の手持数量をリリースするには、UDC テーブル 40/1UI にオーダー・タイプを追加する必要があります。売上更新時の場合は、請求書の番号とタイプ、総勘定元帳日付、およびバッチ番号を持つ F4111 テーブルのレコードが上書きされます。

積荷確認と配送確認

正しく輸送を行うには、積荷確認と配送確認を正確にタイミングよく実行することが不可欠です。積荷の確認時には、積荷を構成する製品が検証されます。配送を確認する際は、積荷が最終目的地に届いたかどうかを確認されます。JD Edwards EnterpriseOne 輸送管理システムでは、バルクおよびパッケージ製品の積荷を迅速に確認できます。

積荷は、1 つまたは複数の出荷で構成されます。積荷を確認することにより、出荷する製品の実際数量を記録します。積荷確認時には、積載日付と時刻に対して実際の出荷日付と時刻が取り込まれます。実際の配送日付と時刻は必要に応じて更新可能です。

納品の時点で所有権が顧客に移行します。配送確認を実行し、積荷の仕様に従って配送済製品の数量を確認します。バルク製品、パッケージ製品、計画外配送など、すべての配送タイプに対して確認されます。一度に 1 つのトリップまたはオーダーを確認したり、同時に複数の配送を確認することも可能です。

次の処理により在庫が正確に管理されます。

- 積荷中に行われた温度測定と密度測定に応じて必要な在庫の調整を行う。
- 積荷確認を完了する前に、バルク製品の有効な試験結果を記録できるようにする。
- オーダーの状況を変更してバッチ処理で伝票を印刷できるようにしたり、自動的に配送票が印刷されるようにする。
- 品目元帳に各トランザクションに対する履歴レコードを作成し、品質基準などの事前定義された基準に満たない場合には、積荷確認が実行されないようにする。
- 配送確認中に、バルク製品の残数量の処分が記録できるようにする。
- システムで必要な仕訳を作成する。

JD Edwards EnterpriseOne 輸送管理は、航空業務や船舶業務にも対応しています。航空/船舶業務については、積荷や配送の確認時にフライト番号や船舶番号、給油時間、到着および出発時間などの追加情報を入力できます。

「システム固定情報」フォームの「ECSシステムの使用」オプションを有効にすると、倉庫やデポから顧客へ配送するバルク製品やパッケージ製品をトラッキングできます。バルクオーダーの出荷も確認できます。出荷を確認する前にその他の必須フィールドに値を入力する必要があります。出荷確認情報は受注オーダー明細 - タグ・ファイル・テーブル (F49211) に保管されます。

確認時のシリアル番号情報の入力

事業所品目にある品目にシリアル番号条件がある場合、出荷確認時にシリアル番号情報を入力する必要があります。出荷確認中にオーダー明細行を確認する際には、事業所品目ファイル・テーブル (F4102) にある品目のロット処理タイプに基づいてシリアル番号を入力してください。

自動採番形式か日付形式に基づいてシリアル番号が自動的に割り当てられることを示すロット処理タイプを入力する場合、出荷数量を1として確認してください。自動採番形式かシステム日付形式のいずれかに基づいて、必要に応じて品目保管場所テーブル (F41021) に新しい保管場所が作成されます。1より大きな数量を出荷する場合、「ロー」メニューの「複数保管場所からの選択」オプションを選択し、「複数保管場所からの選択」フォームで行数量が1のシリアル番号を選択します。ロット制御構成品またはシリアル番号付き構成品を含むキット品目の場合、キット残数調整ウィンドウ・プログラム (P42055) から、「複数保管場所からの選択」フォームにアクセスできます。

手作業でシリアル番号を割り当てる必要があることを示すロット処理タイプを入力する場合、保管場所の選択についてオプションを入力してください。事業所のシリアル番号と出荷数量「1」を入力するように指示するプロンプトが表示されます。必要に応じてこれらの情報を使用し、F41021テーブルにロットを作成できます。1より大きい数量を出荷しようとする、「複数保管場所からの選択」フォームが自動的に表示され、数量が1より大きい行は確認されません。

出荷しようとしている品目のシリアル番号がシステムのシリアル番号と一致しない場合には、その情報を変更して出荷を正確に反映することが可能です。「シリアル番号の改訂」フォームで品目のシリアル番号を新規に設定できます。

参照: 第 11 章、「受注オーダーの処理」、「シリアル番号情報の処理」、303ページ

出荷品目の試験結果の確認

JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムを使用している場合、出荷事業所に対して「事業所固定情報」フォームで「品質制御」オプションを有効にすると、出荷確認時に試験結果のサンプルを確認できます。試験結果を入力すると、それらの結果は自動的に処理され、収集した結果が定義した試験で合格となるかどうか判定されます。試験結果は最小値および最大値と突き合せられ、その合否に応じて各オーダー明細行のロット状況が調整されます。そのロットが合格すると、出荷用にそのオーダー明細行が確認されます。不合格の場合は、「出荷確認」フォームの「ロー」メニューから試験結果の改訂にアクセスして、顧客と受注オーダー品目に対する品質基準を満たすロットを検索して選択できます。

さらに、出荷確認プログラム (P4205) の処理オプションを設定して、分析証明書 (COA) に試験結果が自動的に印刷されるようにもできます。分析証明書は、顧客に販売されるロット品目の試験とその結果が一覧された文書です。この文書を希望することが請求指示に指定されている顧客にのみ、分析証明書は印刷されます。さらに、試験定義に定義されているパラメータに基づいて分析証明書に試験結果が印刷されます。

自重および梱包情報について

出荷を作成し、出荷にあたって品目のピッキングを行うと、梱包情報を入力して内装やパレットを確認できます。

出荷を確認するときには、自重と梱包情報が検証されます。各出荷に対して、製品とオーダーの梱包方法についての情報を入力できます。自重情報を入力するときには、出荷しようとしているパレットや大規模の製品の集合体についての情報も同時に記録していることになります。梱包情報を入力するときには、内装も記録していることになります。たとえば、2つの異なるモデルで、2台で1カートンに梱包される電子レンジを持つパレットの情報を記録できます。それぞれの電子レンジのUPC(統一商品コード)と電子レンジが事前に梱包されているカートンのSCC(出荷コンテナ・コード)の両方が品目マスターに取り込まれます。自重と梱包情報を記録するには、電子レンジが積み込まれたパレットのタイプを入力します。

複合SCCを入力する場合、アスタリスクが2つ(**)表示されて、関連UPCがあることが示されます。「UCC128 - 改訂」フォームから品目相互参照プログラム(P4104)にアクセスして、UPCを検討できます。

自重と梱包の明細を入力するかどうかを指示するには、出荷確認プログラム(P4205)の処理オプションで「梱包確認」と「梱包確認バージョン」の各オプションを設定してください。両方の処理オプションを設定すると、オーダー明細行を確認するときにシステムによる梱包確認を実行するかどうかも指定できます。

注意: 会社別のSSCC(シリアル出荷コンテナ・コード)自動採番を生成するには、UDCテーブル00/DTで伝票タイプを設定する必要があります。

出荷確認バッチ・アプリケーションについて

出荷確認バッチ・アプリケーション・プログラム(R42500)では、複数のオーダーを同時に確認できます。この処理によりEDI受信購買変更見出し(F47131)およびEDI受信購買変更明細(F47132)テーブルが更新されます。R42500プログラムは、受信トランザクション・バッチ処理プログラム(R47500)を呼び出します。顧客オーダー変更テーブルも使用されます。

バッチ・モードで出荷確認するときには、R42500プログラムの処理オプションで指定した状況に該当するすべてのオーダーが検索されます。

次の基準に該当するオーダーは処理されません。

- 現在保留中のオーダー
- JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理で処理されているオーダー
- すでに出荷確認済のオーダー
- ゼロより大きな将来引当数量を持つオーダー

このプログラムはテスト・モードと最終モードのどちらでも実行できます。バッチ処理による出荷確認をテスト・モードで実行すると、オーダーの状況やデータベースの更新は行われません。このモードではエラーが発生した場合にワーク・センターに電子メールが送信されます。この場合、「受注オーダー明細の改訂」フォームでエラーを訂正し、オーダーを再送信して確認できます。

R42500プログラムを実行するたびにR47500プログラムが自動的に実行されるため、バッチ処理を合理的に実行できます。R42500プログラムに関する処理オプションを設定するときに、P4205プログラムのバージョンを指定する必要があります。また、R47500プログラムに関する処理オプションも設定してください。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- P4205プログラムの場合は、状況コードが出荷確認に設定されていることを確認します。
- R42500プログラムのバージョンを作成して、会社の業務の必要性に応じて処理オプションを設定します。
たとえば、テスト・モードと最終モードで実行するバージョンを複数作成するとします。この場合、実際にオーダーが確認されデータベースが更新される前にオーダーを検討できます。
- P4205プログラムのバージョンを作成して、会社の業務の必要性に応じて処理オプションを設定します。

- R47500プログラムのバージョンを作成して、業務の必要性に応じて処理オプションを設定します。
- R42500プログラムの処理オプションに、R47500プログラムの正しいバージョンが指定されていることを確認します。
- R47500プログラムの処理オプションに、R4205プログラムの正しいバージョンが指定されていることを確認する。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「ロット処理の使い方」、「許容ロット状況コードの設定」

出荷の確認に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
出荷確認の処理	W4205H	「受注オーダー処理」(G4211)、「出荷確認」	出荷を確認するオーダーを検討および検索します。
出荷確認	W4205K	出荷確認の処理プログラムで、確認するオーダーを選択します。 「SEL=1」フィールドに入力して「OK」をクリックします。	出荷を確認します。
梱包確認詳細の改訂	W4216A	「出荷確認」フォームの「SEL=1」フィールドに入力して「OK」をクリックします。	自重と梱包情報を入力および改訂します。 オーダーを確認します。 注意: 梱包確認を使用可能にするには、出荷確認プログラム(P4205)の「倉庫」タブで「梱包確認」処理オプションを1に設定する必要があります。

出荷確認プログラム(P4205)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、データ選択基準の指定、デフォルト値および表示値の指定、データの処理方法と編集方法の定義、印刷オプションの定義、バージョンの指定、前払処理の有効化を行います。

選択

この処理オプションでは、オーダー明細行が確認用に選択されるとき選択基準を指示します。

- 1. 開始次状況(必須)** 「終了次状況」処理オプションの値と組み合わせて使用する開始状況コードを入力します。これにより、P4205プログラムで処理する行を判断する際に使用する有効な次状況の範囲が決まります。
- 2. 終了次状況(必須)** 「開始次状況」処理オプションの値と組み合わせて使用する終了状況コードを入力します。これにより、P4205プログラムで処理する行を判断する際に使用する有効な次状況の範囲が決まります。
- 3. 受注オーダー・タイプ(必須)** 伝票のタイプを入力します。このコードはトランザクションの発生元も示します。伝票、請求書、入荷確認書、およびタイム・シートの伝票タイプ・コード

は予約されており、転記プログラムの実行時に自動的に仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)

UDC 00/DTに設定されている値を入力してください。

出荷確認中に品目の手持数量をリリースするには、UDC 40/IUにオーダー・タイプを追加する必要があります。UDCテーブルにオーダー・タイプを入力しない場合、品目の手持在庫数量は売上更新で自動的にリリースされます。

UDC 40/IUにオーダー・タイプを追加すると、手持在庫数量は出荷確認時に在庫から自動的に差し引かれます。受注オーダーは伝票番号として、オーダー・タイプは伝票タイプとして品目元帳テーブル(F4111)にレコードが作成されます。売上更新時に、請求書番号、請求書タイプ、元帳日付、およびバッチ番号のレコードが既存レコードに追加されます。

作業オーダー処理では、コンフィギュレーション品目構成品の在庫がリリースされ、受注オーダー明細テーブル(F4211)の「SO02」フィールドが更新されます。このフィールドは、その行に在庫がリリースされていることを示します。また、UDCがオーダー・タイプと行タイプの組合せに設定されている場合でも、出荷確認で在庫はリリースされません。

UDC 40/IUにオーダー・タイプを追加しない場合、売上更新プログラム(R42500)の実行時に在庫をリリースする必要があるかどうか判断するためにF4211テーブルの「SO02」フィールドが検討されます。必要に応じて、売上更新時に手持数量を在庫から差し引く場合は、請求書番号、請求書タイプ、元帳日付がF4111テーブルに書き込まれます。出荷確認時にはレコードの書き込みは行われません。

デフォルト

この処理オプションでは、トランザクションに値が入力されていない場合にP4205プログラムで使用する伝票タイプなどのデフォルト値を決定します。

1. 新規受注明細行の行タイプ

取引行の処理方法を制御するコードを入力します。値は「行タイプ固定情報の改訂」フォーム(P40205)に定義されています。在庫品目のS、直送品目のD、作業原価のJ、非在庫品目のN、運賃のF、テキスト情報のT、その他の料金や貸方額のM、作業オーダーのWがあります。

出荷確認中、受注オーダーに在庫品目は追加できませんが、取扱料金や運賃などの非在庫品目の金額は追加できます。

新しい受注オーダー明細行に非在庫行タイプを入力し、「追加行の入力許可」処理オプションを設定すると、受注オーダー明細行を確認した後に「追加行品目」ウィンドウが表示されます。

確認済み受注明細行

オーダー処理の別の手順を示す、一時変更用次状況のコードを入力します。UDC 40/ATから入力する値は、使用するオーダー・タイプと行タイプに基づいてオーダー処理規則に設定されている必要があります。受注オーダー明細行の次状況と一時変更用コードの組合せは、オーダー処理規則にある有効な前状況/次状況の組合せにします。

入力された追加の非在庫品目行

追加の非在庫品目行を入力します。出荷確認中、受注オーダーに在庫品目は追加できませんが、取扱料金や運賃などの非在庫品目の金額は追加できます。オーダー処理の別の手順は、出荷確認時に非在庫品目を追加する際に入力します。UDC 40/ATから入力する値は、使用するオーダー・タイプと行タイプに基づいてオーダー処理規則に設定されている必要があります。受注オーダー明細行の次状況と追加の非在庫行の一時変更用

コードの組合せは、オーダー処理規則にある有効な前状況/次状況の組合せにします。

この処理オプションは、「追加行の入力許可」処理オプションを有効にしている場合のみ使用できます。

バックオーダーの残数量

出荷確認時に使用できない数量についてオーダー処理の別の手順を入力します。確認済オーダーの当初オーダー明細行は、出荷が確認された数量を示します。引当可能数量がオーダー数量よりも少ない場合、未出荷のままである数量を示すオーダー明細行が追加されます。新しい明細行の現在の状況コードは904(出荷確認時のバックオーダー)です。オーダー処理から次状況コードを取得できる他、代替状況を指定することもできます。

UDC 40/ATから入力する値は、使用するオーダー・タイプと行タイプに基づいてオーダー処理規則に設定されている必要があります。

受注オーダー明細行の次状況とバックオーダー数量または取消数量の一時変更用コードの組合せは、オーダー処理規則にある有効な前状況/次状況の組合せにします。

この処理オプションは、「処理」タブの「未出荷数量のバックオーダーまたは取消し」処理オプションを有効にしている場合のみ使用できます。

承認済み行

承認済行の一時変更用状況コードを入力します。状況コードを入力する場合、オーダー処理規則のUDC(40/AT)テーブルに設定されている状況を使用し、オーダー・タイプと行タイプの組合せに基づいている必要があります。

決済済み行

決済済行の一時変更用状況コードを入力します。

状況コードを入力する場合、オーダー・タイプと行タイプの組合せに基づき、オーダー処理規則のUDC(40/AT)テーブルに設定されている状況を使用する必要があります。

表示

この処理オプションでは、特定の受注オーダー情報を表示するかどうか、また確認時に行を追加できるかどうかを指示します。

1. 追加行の入力許可

出荷確認時に、非在庫品目を受注オーダーに追加できるかどうかを指定します。たとえば、取扱料金や運賃などの非在庫品目の金額を追加できます。値は次のとおりです。

ブランク: 追加行の品目フォームを表示しません。

1: 受注オーダー明細行が確認されると、追加行の品目フォームを表示します。

2. キット構成品行の表示

キットの構成品行を表示するかどうかを指定します。キットの出荷を確認する際、手作業でキットの各構成品を確認できます。または、親品目の確認時にその構成品を自動的に確認できます。製造済キットの構成品行は表示されません。値は次のとおりです。

ブランク: キット構成品行は表示しませんが、各構成品を自動的に確認してキットの各品目の残り数量を調整します。数量を引き当てられない構成品がある場合は、キット全体がバックオーダーまたは取り消されます。

1: すべてのキット構成品行が表示されます。各構成品を手動で確認できます。任意の構成品の数量が引き当てられない場合、その構成品はバックオーダーまたは取り消されますが、親品目はそのままです。

3. テキスト行の表示

オーダーの出荷確認時にテキスト行を表示するかどうかを指定します。テキスト行タイプ(通常はT)を持つオーダー明細行には、メモ情報があります。

オーダーの出荷を確認する際、テキスト行情報を表示する必要がある場合もあります。値は次のとおりです。

ブランク: テキスト行を表示しません。

1: テキスト行を表示します。

4. 品目保管場所の保留エラー

品目保管場所が保留中の場合にエラーを受け取るかどうかを指定します。品目マスター(P4101)、品目事業所(P41026)、ロット・マスターの改訂(P4108)プログラムで、ロット状況コードを設定し、保管場所に状況コードを割り当てることができます。承認済のロットや保管場所に状況コードはありません。状況コードを保管場所やロットに割り当てない場合、それは承認済のロットや保管場所です。他のすべてのコードは保留中を示します。保留中である保管場所の品目が処理される場合があります。値は次のとおりです。

ブランク: 品目保管場所が保留中の場合にエラーを受信しません。

1: ロット状況が承認されるまでこの保管場所からの品目の出荷を確認しません。

5. 確認する明細行の事前選択

改訂フォームに選択値を入力するかどうかを指定します。キット構成品行や半組立品を表示する場合、明細行を事前選択するオプションを選択できます。値は次のとおりです。

ブランク: 確認する明細行を自動的に選択しません。選択値を入力して明細行を確認する必要があります。

1: 改訂フォームのすべてのオーダー明細行に選択値「1」が入力されます。確認しない明細行はクリアできます。

6. キット残数調整ウィンドウ(P42055)の表示

親品目レベルでキット品目を処理する場合に、キット残数調整ウィンドウ・プログラム(P42055)を表示するかどうかを指定します。常に製造済キット内の親品目のみが表示され、キット残高調整が非表示で実行されます。値は次のとおりです。

ブランク: 例外が存在する場合のみ、「キット残数調整ウィンドウ」フォームが表示されます。例外に該当するのは、キット親品目のオーダー数量を満たす十分な構成部品が利用できない場合や、構成部品がすでに処理されている場合です。

1: キットの親品目の処理時に、必ず対話型の「キット残数調整ウィンドウ」フォームが表示されます。

2: 対話型の「キット残数調整ウィンドウ」フォームは表示されません。部品表プログラム(P3002)で定義された各コンポーネントに対するデフォルトの数量に基づいて、非表示のキット残高調整が実行されます。

編集

この処理オプションでは、オーダー明細行の確認前に引当可能数量チェックを実行するか、またその数量は変更可能かを指示します。

1. 引当可能数量のチェック

オーダー明細行を確認する前に引当可能数量を通知するかどうかを指定します。出荷確認まで在庫をハード・コミットしない場合、出荷確認時に引当可能数量のチェックを実行できます。値は次のとおりです。

ブランク: 引当可能数量のチェックを実行しますが、オーダー数量が引当可能数量を超えている場合でも警告を発行しません。

1: 引当可能数量のチェックを実行し、オーダー数量が引当可能数量を超えている場合に警告を発行します。

P4205の「処理」タブにある「未出荷数量のバックオーダーまたは取消し」処理オプションで未出荷数量をバックオーダーする、または取り消すように設定されている場合、品目マスター、事業所品目、事業所固定情報、顧客請求指示でバックオーダー情報が検証され、引当できない数量が自動的にバックオーダーまたは取り消されます。「未出荷数量のバックオーダーまたは取消し」処理オプションをブランクのままにすると、数量は出荷可能なままになります。

2. マイナスの手持数量からの出荷

保管場所の手持数量がマイナスの場合、またはオーダー数量が保管場所の数量よりも多い場合、保管場所から出荷できるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: オーダー明細行を確認し、手持数量がマイナスの保管場所から出荷できます。

1: 出荷元の保管場所に引当可能数量がないこと、およびこの保管場所からオーダー明細行を確認できないことを示すエラー・メッセージが発行されます。出荷元となる別の保管場所を選択する必要があります。

3. 過剰出荷の回避

出荷確認時にオーダー明細行の数量を増やすことができるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 出荷確認時にオーダー明細行の数量を増やすことができます。

1: 出荷確認時にオーダー明細行の数量は増やすことができません。

4. 検証する許容ロット状況グループの入力

検証する許容ロット状況グループを入力します。出荷確認時、ユーザー定義の状況コード値に対してブランク以外のロット状況コードが検証されます。ブランク以外のロット状況コードが許容ロット状況テーブル(F41081)にある場合、ユーザー定義のロット状況コードはブランクとみなされ、保留中の品目は出荷確認処理を通してそのままになります。

処理

この処理オプションでは、P4205プログラムで次の操作を実行できるかどうかを指定します。

- 行タイプや出荷先住所などのオーダー情報を一時変更する。
- 手持数量をリリースする。

1. 行タイプの一時変更

トランザクションの行の処理方法を制御するコードを指定します。「行タイプ固定情報の改訂」フォームに定義されている値を入力します。値は次のとおりです。

ブランク: オーダー明細タイプ情報はこのオーダーに対してのみ変更できます。別の行タイプを入力する場合、非在庫明細タイプである必要があります。値は次のとおりです。

1: 行タイプは変更できません。行タイプはフォームに表示されますが、一時変更できません。

2. 出荷先住所の一時変更

出荷先住所のデフォルト住所情報が変更できるかどうかを指定します。顧客マスター情報と顧客請求指示を設定する際、請求書の送付先住所

を販売先住所として、出荷の配送先住所を出荷先住所としてそれぞれ定義します。値は次のとおりです。

ブランク: 出荷先住所は変更できません。

1: 出荷先住所はこのオーダーについてのみ変更できます。

3. 未出荷数量のバックオーダーまたは取消し

引き当てられない数量についてオーダーをバックオーダーするか取り消すかを指定します。

品目または顧客別にバックオーダーできる他、特定の事業所でバックオーダーを許可するかどうかを指定します。品目のバックオーダーを行うには、品目マスター、事業所品目、事業所固定情報、および顧客請求指示でオプションの「バックオーダー許可」を設定する必要があります。バックオーダーを許可する場合、オーダー明細行は数量が引当可能になるまで保留されます。バックオーダーを許可しない場合、オーダー明細行は取り消されます。

ブランク: 未出荷の数量をバックオーダーまたは取り消しません。すべての残り数量は、引当可能になると出荷可能になります。

1: 顧客請求指示、品目マスター情報、品目事業所、事業所固定情報のバックオーダー情報に基づいて、未出荷の数量はバックオーダーまたは取り消されます。

4. 一時変更用手持在庫のリリース

出荷確認時に在庫をリリースできるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 出荷確認時に品目の手持数量をリリースします。オーダー・タイプをUDCテーブル(40/IU)に追加する必要があります。

1: 出荷確認時に品目の手持数量をリリースしません。手持数量をリリースしない場合、基本シリアル番号処理、インタオペラビリティ、契約情報などの追加処理を実行しません。

5. シップ・アンド・デビット処理

出荷確認プログラムの実行時に、シップ・アンド・デビット契約を特定および調整するために割当/再計算/再割当契約プログラム(R45100)を使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: サブシステム処理やバッチ処理を使用しません。

1: サブシステム処理を使用します。

2: バッチ処理を使用しません。

6. 受注オーダー・バッチ価格/原価更新

出荷確認時に価格と原価を更新するために、受注オーダー価格/原価のバッチ更新プログラム(R42950)でサブシステム処理を使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 受注オーダー価格/原価のバッチ更新プログラムを使用しません。

1: サブシステム処理を使用します。

7. 昇順日付規則チェックに関する警告/エラーの表示

出荷確認時に日付規則をチェックし、規則に従っていない場合に警告やエラー・メッセージを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 警告メッセージを表示します。

1: エラー・メッセージを表示します。

8. クレジット・オーダーの新規ロットの処理

出荷確認時にクレジット・オーダーに新規ロット番号を割り当ててるかどうかを指定します。新規ロット番号を割り当ててるには、まず、ロット管理を無効にします。値は次のとおりです。

ブランク: クレジット・オーダーに新規ロット番号を割り当てません。

1: 新規ロット番号をクレジット・オーダーに割り当てます。

9. オーダー一次状況優先情報を有効にする

出荷確認プログラム (P4205) でオーダー一次状況優先を有効にする値を入力します。オーダー一次状況優先が有効な場合、確認済出荷のすべてのオーダー明細レコードに適用されます。値は次のとおりです。

ブランク: オーダー一次状況優先を有効にしません。

1: オーダー一次状況優先を有効にします。

10. 積送中勘定科目

出荷確認処理の一部として、輸送オーダー (ST/OT) の積送中積荷の会計処理を含めるかどうかを指定します。この処理オプションが有効な場合、手持在庫がリリースされ、出荷数量は対応する入荷工程の最初のステップに移動します。これにより、積送中の転送オーダー在庫が明確になります。このオプションを使用可能にする前にすべての必要な入荷工程とAAIが設定されていることを確認します。値は次のとおりです。

ブランク: 積送中積荷の会計処理を開始しません。

1: 積送中積荷の会計処理を開始します。

運賃

この処理オプションでは、運賃情報を取り込むかどうかと、その運賃と運送業者情報を一時変更できるかどうかを指示します。

1. 運賃プログラム (将来使用)

運賃情報を取り込むかどうかを指定します。適切な経路、中継点、区域で運賃計算を正確に実行できるように、運賃と運送業者情報を標準化できます。品目 (品目マスターと事業所品目) や顧客 (顧客請求指示) に対して優先運送業者を指定できます。値は次のとおりです。

ブランク: 運賃情報を取得しません。現行オーダーのみに影響を及ぼす値を入力できます。

1: 運賃情報が取り込まれ、オーダーは顧客請求指示または品目マスター情報に設定されているデフォルト情報に基づいて処理されます。

2. 運賃の一時変更 (将来使用)

オーダーはデフォルト情報に基づいて処理されます。オーダーの運賃情報の一時変更を避けるには、この情報を無効にします。値は次のとおりです。

ブランク: オーダーは、顧客請求指示または品目マスター情報に設定されているデフォルト情報に基づいて処理されます。

1: このオーダーについてのみデフォルト情報を変更できます。

印刷

この処理オプションでは、サブシステムで請求書を印刷するかどうかを指示します。

1. サブシステム請求書 (R42565)

サブシステムから請求書を印刷するかどうかを指定します。請求書の印刷にサブシステム処理を使用する場合、サブシステム処理を有効にする請求書印刷プログラム (P42565) のバージョンを指定する必要があります。値は次のとおりです。

ブランク: 自動的に請求書を印刷しません。

1: 請求書を自動印刷します。

バージョン

この処理オプションでは、オーダー明細行を確認する際に使用するバージョンを決定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

- | | |
|--------------------------------------|--|
| 1. 受注オーダー入力 (P4210) | 出荷確認時に追加のオーダー明細行を作成するために使用する受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを入力します。他のプログラムで受注オーダー入力のこのバージョンを使用する場合、出荷確認プログラム (P4205) の処理オプションで設定されているオーダー行タイプは、P4210プログラムのこのバージョンの処理オプションのオーダー行タイプに一時変更されます。 |
| 2. 請求書印刷 (R42565) | サブシステムから請求書を自動的に印刷する際に使用する請求書印刷プログラム (R42565) のバージョンを入力します。サブシステム処理を有効にするには、「請求書の自動印刷」処理オプションを有効にする必要があります。 |
| 3. シップ・アンド・デビット (R45100) | 出荷確認プログラム (P4205) の実行時にシップ・アンド・デビット契約を特定および調整するために使用する割当/再計算/再割当契約プログラム (R45100) のバージョンを入力します。 |
| 4. 受注オーダー・バッチ価格/原価更新 (R42950) | 出荷確認プログラム (P4205) で各オーダーを処理した後に使用する受注オーダー価格/原価のバッチ更新プログラム (R42950) のバージョンを入力します。バージョンによってサブシステム処理が必ず指定されます。指定されていない場合は、レポート作成に必要なデータが使用できないことがあります。 |
| 5. カートン再構成 (P4620) | 使用するカートン再構成プログラム (P4620) のバージョンを入力します。 |
| 6. 入荷確認 (P4312) | 「積送中勘定科目」処理オプションと組み合わせて使用する入荷確認プログラム (P4312) のバージョンを指定します。このバージョンは入荷工程を使用可能にしたものであることが必要です。 |

倉庫

この処理オプションでは、自重と梱包情報に対する追加処理を定義します。UCC 128に準拠する場合、オーダー明細行の確認後に自重と梱包情報を確認できます。

- | | |
|----------------------------------|--|
| 1. 梱包確認 (UCC128またはコンテナ入力) | <p>出荷の梱包を確認するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 梱包確認を行いません。</p> <p>1: 梱包確認を行います。</p> <p>各レコードに対して正しいSSCCとSCCが入力されていることと、出荷の入力時に指定された階層構成に対応していることが検証されます。たとえば、出荷入力時にSOTPI(出荷、オーダー、自重、梱包、品目)構成は入力したが、梱包SSCCまたはSCCを入力しなかった場合、エラー・メッセージが表示されます。</p> <p>各品目のSCCと単位が品目マスターと品目相互参照の改訂の情報が対応していることが検証されます。自重/梱包数量の合計は、受注オーダー行の出荷数量と等しくなります。SCCが入力されると、SCC単位はUPC数量に変換されます。たとえば、24ケースの炭酸飲料を出荷確認する場合、144缶の炭酸飲料の出荷確認が実行されます。</p> |
|----------------------------------|--|

UCC 128に準拠する場合、梱包確認のバージョンを指定する必要があります。

2. 梱包確認 (P4216) のバージョン

出荷の梱包を確認するときに使用する梱包確認プログラム (P4216) のバージョンを入力します。梱包確認を使用する処理オプションを有効にしている場合のみ、この処理オプションは影響します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

品質

JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムをJD Edwards EnterpriseOne品質管理システムと連携して使用している場合、この処理オプションで試験結果と分析証明書を作成するバージョンを定義します。

1. 試験結果改訂 (P3711) のバージョン

品目の出荷を確認する際に、品質仕様の検証で使用する試験結果の改訂プログラム (P3711) のバージョンを入力します。このバージョンを使用して、許容される最小値および最大値、ロット状況、合格数量または割合について品目の特性が検証されます。ロットが品質検査に合格して仕様を満たしている場合、顧客に出荷できます。

この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

2. 分析証明書

COAを印刷するかどうかを指定します。COAは、顧客に販売されるロットに実行されたすべてのテストとその結果を一覧したものです。値は次のとおりです。

空白: COAを自動印刷しません。

1: COAを自動印刷します。

COAを生成するには、処理オプションの「分析証明書の抽出のバージョン」を指定し、情報を取得する必要があります。

3. 分析証明書の抽出 (R37900) のバージョン

COAの生成に使用する分析証明書の抽出プログラム (P37900) のバージョンを入力します。この処理オプションは、分析証明書の印刷の処理オプションを有効にしている場合のみ影響します。

この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

4. サブシステムでの分析証明書

サブシステムからCOAを印刷するかどうかを指定します。サブシステム処理を使用する場合は、処理オプションで分析証明書の抽出プログラムのサブシステム・バージョンも指定する必要があります。値は次のとおりです。

空白: サブシステム処理からCOAを印刷しません。

1: サブシステム処理でCOAを印刷します。

5. 品質試験の評価

出荷確認を行うロットについて品質の再評価が必要な場合の値を入力します。テスト結果が入力されたロットのロット状況は、試験結果がその品目の品質の許容範囲に当てはまるかどうかによって決まります。ただし、顧客が独自の品質標準を製品に設定している場合があります。

このオプションが有効な場合、出荷するロットがこのオーダーの顧客の品質標準を満たしているかどうか判断するために品質試験が再評価されます。値は次のとおりです。

空白: 試験結果を再評価しません。このオプションが選択されている場合、この製品に対する顧客独自の品質基準を満たしていなくてもロットは出荷確認されます。

- 1: 品質管理優先情報を使用してテスト結果を再評価します。

契約

オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムを JD Edwards EnterpriseOne 契約管理システムとともに使用している場合、この処理オプションで契約が選択される方法を定義します。

1. 借入契約の出荷先を指定してください。

JD Edwards EnterpriseOne 契約管理を JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムと連携させて使用する場合に、品目の特定の出荷先を契約の一部として入力します。

または

JD Edwards EnterpriseOne 契約管理を JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムと連携させて使用する場合に、品目の特定の出荷先を契約の一部として入力します。値は次のとおりです。

ブランク: 「借入契約の出荷先指定」処理オプションで特定の出荷先を入力する必要があります。

1: 出荷先は契約で定義されているどの場所でもかまいません。

2: デフォルトの事業所が出荷先として指定されます。

2. 契約検索方法

契約を選択する方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 最短の有効期限に基づいて、契約を割り当てます。

1: 1件のみが検出された場合に自動的に契約を割り当てます。

2: 契約を割り当てるようにプロンプトが表示されます。

3: 最も早い失効日付に基づいて契約を割り当てます。

インタオペラビリティ

この処理オプションでは、インタオペラビリティ処理を実行するかどうかを指示します。

1. インタオペラビリティ・トランザクション・タイプ

インタオペラビリティ処理を有効にするかどうかを示します。値は次のとおりです。

ブランク: 送信インタオペラビリティを実行しません。

JDESC: 出荷確認トランザクション・タイプに入力します。

2. 送信サブシステム UBE の実行

サブシステム経由で、送信インタオペラビリティ・トランザクション処理を実行するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: サブシステム送信処理を実行しません。

1: サブシステム送信処理を実行します。

バルク

この処理オプションでは、温度による増減レコードの処理方法を指示します。

1. バルク・トランザクション容量

トランザクション数量がトランザクションのどのバルク・フィールドを表すかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: トランザクション数量を使用して常温体積を決定します。

1: トランザクション数量を使用して標準量を決定します。

2: 常温体積に価格を掛けた値と、標準温度の体積に価格を掛けた値の差を計算します。計算には、価格設定単位が使用されます。

事業所間

この処理オプションでは、事業所間オーダーのオーダー・タイプを指示します。

1. 会社間受注オーダーの作成(R4210IC)のバージョンを入力します。

会社間オーダーのオーダー・タイプの確認で使用する会社間受注オーダーの作成プログラム(R4210IC)のバージョンを入力します。事業所間オーダーを使用すると、販売事業所以外の事業所から顧客の受注オーダーを充当できます。このオーダーは販売元と出荷事業所(中央供給倉庫など)が異なる場合に役立ちます。

この処理オプションをブランクにすると、ZJDE0001が使用されます。

2. 会社間受注オーダーの作成を呼び出します。

会社間オーダーを作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 会社間オーダーを作成しません。

1: 会社間受注オーダーの作成プログラム(R4210IC)をバッチ・モードで実行してオーダーを作成します。バッチ・モードでは、ジョブが即座に処理されますが、オーダーの処理が完了するまで対話型の作業を実行できません。

2: 会社間受注オーダーの作成プログラム(R4210IC)をサブシステム・モードで実行してオーダーを作成します。サブシステム・モードでは、ジョブは待ち行列に入ってから処理されます。オーダーをサブシステム・モードで実行する場合は対話型の作業を継続できます。

前払

この処理オプションでは、オーダーの前払情報を記録できるかどうかを指定します。

1. 前払処理

前払トランザクションを更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 前払トランザクションを更新しません。

1: 前払トランザクションを更新します。

2. 承認処理

承認を処理する方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 承認を処理しません。

1: 承認を対話型で処理します。

2: バージョンによって、バッチまたはサブシステム・モードで承認を処理します。

3. 決済処理

決済を処理する方法を指定します。値は次のとおりです。

1: 決済を対話型で処理します。

2: バッチまたはサブシステム・モードで決済を処理します。

ブランク: 決済を処理しません。

4. 前払取引(トランザクション)の承認

実行する前払取引の承認プログラム(R004201)のバージョンを入力します。この処理オプションをブランクにした場合、承認は実行されません。

5. 前払取引(トランザクション)の決済

前払取引の決済プログラム(R004202)のバージョンを入力します。この処理オプションをブランクにすると、アプリケーションは実行されません。

6. 前払処理の承認保留 承認処理が失敗する場合にオーダーに表示する保留コードを入力します。
7. 前払処理の決済保留 決済処理が失敗する場合にオーダーに表示する保留コードを入力します。

カートン明細

この処理オプションを使用して、カートンの処理方法を指定します。

1. 出荷確認カートン状況 出荷と積荷確認のカートン状況を入力します。確認するすべてのカートンはこの状況である必要があります。カートン状況UDC (46/CS) から値を選択します。この処理オプションがブランクの場合、カートン状況は検証されません。
2. 出荷明細とカートン明細との照合 カートン明細を出荷明細に対して調整するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: カートン明細を出荷明細に対して調整しません。
- 1: カートン明細を出荷明細に対して調整します。

出荷の確認

「出荷確認」フォームにアクセスします。

出荷確認 - 出荷確認

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

オーダー番号 2472 S4 00001 事業所 *

ピッキング・リスト番号 *

出荷番号

顧客購買オーダー *

レコード 1-1

SEL	出荷数量	単位	2次単位 出荷済数量	2次 単位	品目 No.	保管 場所	ロ シ
1	100	EA	100	EA	1001		

「出荷確認」フォーム

出荷数量

受注オーダー入力で出荷に引き当てられた数量を、入力時の単位または品目の定義済基本単位を使用して入力します。

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne製造管理システムと作業オーダー時間入力では、このフィールドが完了数量や仕損数量を示す場合もあります。数量タイプは、入力したタイプ・コードで決まります。

ロット/シリアル

ロットまたはシリアル番号を識別する番号を入力します。ロットは、類似の特性を持つ品目のグループです。

バックオーダー数量

受注オーダー処理または作業オーダー処理でバックオーダーされた数量を入力します。入力時の単位か、品目に定義された基本単位を使用します。

取消数量 受注管理または作業オーダー処理で取り消された数量を入力します。入力時の単位か、品目に定義された基本単位を使用します。
製造では、仕損累計の数量でもあります。

出荷確認バッチ・アプリケーション・プログラム (R42500) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、出荷確認バッチ・アプリケーション・プログラム (R42500) のバージョン名を選択および指定するレコードを判断します。

レコード選択

この処理オプションでは、プログラムの実行時に選択する状況の範囲が決まります。

開始次状況 (必須) 行タイプのオーダー・フローの次のステップの開始状況を示すコードをUDC 40/ATから入力します。この処理オプションは、「終了次状況」処理オプションと組み合わせて使用し、処理するオーダー行の範囲を決定します。

終了次状況 (必須) 行タイプのオーダー・フローの次のステップの終了状況を示すコードをUDC 40/ATから入力します。このオプションは、「開始次状況」処理オプションと組み合わせて使用し、処理するオーダー行の範囲を決定します。

処理

この処理オプションでは、システムで使用される受信トランザクション・バッチ処理プログラムのバージョンを制御します。

R47500バージョン名 出荷確認で使用する受信トランザクション・バッチ処理プログラム (R47500) のバージョンを入力します。

出荷確認バッチ・アプリケーションの実行

「追加オーダー処理」(G4212)、「出荷確認バッチ・アプリケーション」を選択します。

出荷伝票の印刷

この項では、船荷証券と配送票の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 船荷証券の印刷プログラム (R42530) の処理オプションの設定
- 船荷証券 (B/L) の印刷
- 配送票印刷プログラム (R42535) の処理オプションの設定
- 配送票の印刷

船荷証券について

オーダーの出荷前に、船荷証券 (B/L) や配送レポートなどの出荷伝票を印刷できます。出荷伝票はオーダーの出荷先に納品する商品に添付されます。配送担当者はこれらの伝票を使用して、実際に積送中の商品と出荷予定の商品を比較できます。

船荷証券にはオーダーに関する次の情報が記載されます。

- 項目
品目記述、数量、重量、容量
- 請求情報
顧客住所および価格
- 出荷
出荷指示、総重量、総容量
- 納入
運転担当者および顧客の署名用の行

このプログラムを実行する際に、文書の上部に印刷する船荷証券などの見出しを指定できます。出荷伝票には配送担当者および顧客の署名用の行があるので、これを受領書として使用できます。

JD Edwards EnterpriseOne内示調整を使用する場合、レポートには日付/時間という見出しのカラムに次のフィールドが表示されます。

- 要求納期時刻 (DRQT)
- 約束納入時刻 (RSDT)
- 約束出荷時刻 (PMDT)

配送票について

配送票の印刷プログラムのバージョンを実行して、配送担当者が配送中に使用できる配送情報を印刷できます。たとえば、配送車両に積載された品目と実際に配送する品目とを比較することが可能です。これは、配送用に他の業者ではなく自社の車両を使用する場合に役に立ちます。

顧客請求指示で配送票を使用できるように設定されている場合のみ、配送票を顧客に送付できます。

顧客の請求書を正確なものにするように、出荷確認後にオーダーに対する請求書を生成する前に配送票を印刷できます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 顧客に対する顧客請求指示で、配送票の印刷ができるように設定されていることを確認します。
参照: 第 4 章、「顧客情報の設定」、「顧客請求指示の設定」、75ページ
- オーダー処理規則で、出荷確認と請求書印刷の間に配送票印刷用の状況コードがあることを確認します。
参照: 第 2 章、「受注管理システムの設定」、「オーダー処理規則の設定」、35ページ

船荷証券の印刷プログラム (R42530) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、デフォルト値の設定、データの処理方法の定義、印刷オプションの制御、およびデフォルト通貨の指定を行います。

デフォルト1

この処理オプションでは、オーダー・フローの次状況を指示します。

- | | |
|----------------------------|--|
| 1. 状況コード値を入力してください。 | 行タイプのオーダー・フローにおける次のステップを指定する値をUDC 40/ATから入力します。この状況のオーダーに関する出荷伝票が印刷されます。 |
|----------------------------|--|

デフォルト2

この処理オプションでは、追加のデフォルト情報を示します。

- | | |
|------------------------------|--|
| 1. 一時変更用次状況を入力してください。 | 当該オーダー・タイプの処理サイクルにおける次の標準的なステップを指定する値をUDC 40/ATからを入力します。処理サイクルのステップは、「オーダー処理規則」フォームで設定します。 |
| 2. 次状況コードの更新 | オーダー処理規則から次状況コードを更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: オーダー処理規則から次状況コードを更新します。
1: オーダー処理規則から次状況コードを更新しません。 |
| 3. 将来引当在庫を表示 | 将来引当在庫を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 将来引当在庫を表示します。
1: 将来引当在庫を表示しません。 |

処理

この処理オプションでは、容量と重量の計算で使用する単位を指定します。

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 基本容量単位 | 容量の計算で使用する単位を指定します。 |
| 2. 基本重量単位 | 重量の計算で使用する単位を指定します。 |

印刷

この処理オプションでは、レポート実行時の印刷オプションを指定します。

- | | |
|-----------------------------|--|
| 1. 価格の表示 | 価格を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 価格を表示しません。
1: 価格を表示します。 |
| 2. キット構成品の印刷 | キット構成品を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: キット構成品を印刷します。
1: キット構成品を印刷しません。 |
| 3. 品目番号と顧客品目番号の両方の印刷 | 品目番号と顧客品目番号を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 品目番号と顧客品目番号を印刷しません。
2: 品目番号と顧客品目番号の両方を印刷します。 |

4. 顧客品目番号を検索する相互参照

顧客品目番号を検索する相互参照のタイプを入力します。

5. シリアル番号の印刷

シリアル番号を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: シリアル番号を印刷しません。

1: シリアル番号を印刷します。

6. 追加見出しテキストの印刷

追加見出しテキストを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 追加見出しテキストを印刷しません。

1: 当初見出しテキストを印刷します。

2: 見出しテキストを再印刷します。

通貨

この処理オプションでは、印刷する通貨を指定します。

印刷通貨のタイプ

国内通貨、外貨、またはその両方を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 国内通貨でのみ印刷します。

1: 外貨でのみ印刷します。

2: 国内通貨と外貨の両方で印刷します。

船荷証券 (B/L) の印刷

「受注オーダー・レポート」(G42111)、「船荷証券の印刷」を選択します。

配送票印刷プログラム (R42535) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、デフォルト値の設定、データの処理方法の定義、印刷オプションの制御、およびデフォルト通貨の指定を行います。

デフォルト

この処理オプションでは、状況を制御します。

1. 一時変更用次状況を入力します。

当該オーダー・タイプの処理サイクルにおける次の標準的なステップを指定する値をUDC 40/ATからを入力します。処理サイクルのステップは、「オーダー処理規則」フォームで設定します。

2. 次状況を更新しない

次状況コードを更新できるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 次状況を更新します。

1: オーダー処理規則から次状況コードを更新しません。

表示

この処理オプションでは、印刷する情報を示します。

1. キット構成成品の印刷

キット構成成品を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: キット構成品を印刷しません。

1: キット構成品を印刷します。

2. 合計金額の印刷

合計金額を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 合計金額は印刷されません。

1: 合計金額を印刷します。

3. 輸送理由を入力します。 輸送理由を示す値をUDC 40/CRから入力します。

表示1

この処理オプションでは、印刷する情報を示します。

1. 各配送票に印刷する一括印刷メッセージを入力します。

印刷メッセージを指定するコードを入力します。メッセージで使用されるテキストとしては、生産設計仕様、休暇中の作業時間数、特殊配送指示などがあります。

2. 関連テキストの印刷

関連テキストを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 関連テキストを印刷しません。

1: 関連テキストを印刷します。

3. 追加見出しテキストの印刷

追加見出しテキストを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 追加見出しテキストを印刷しません。

1: 当初テキストを印刷します。

2: テキストを再印刷します。

品目番号

この処理オプションでは、印刷する情報を示します。

1. 顧客品目番号の印刷 顧客の品目番号を印刷するには「1」を入力します。

2. 取得する相互参照番号のタイプ 取得する相互参照番号のタイプを入力します。

処理

この処理オプションでは、配送票履歴テーブルにレコードを作成するかどうかを示します。

1. 配送票履歴ファイルへの書き込み 配送票履歴テーブル(F4290)に書き込むには「1」を入力します。

通貨オプション

この処理オプションでは、印刷する通貨を示します。

1. 外貨による金額の印刷 外貨で金額を印刷するには「1」を入力します。

配送票の印刷

「受注オーダー・レポート」(G42111)、「配送票印刷」を選択します。

UCC 128に従った出荷処理

この項では、UCC 128に従った出荷処理の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 出荷の処理プログラム(P4915)の処理オプションの設定
- 出荷、梱包、およびUCC 128出荷の情報の入力

UCC 128に従った出荷処理について

受注オーダーを作成した後に、ピッキングと出荷用にその製品を準備できます。UCC 128に準拠してオーダーや出荷の詳細情報を転送できるため、製品IDを統一して仕入先と顧客との出荷情報を円滑にやり取りできます。

UCC 128に従った出荷処理は、次のタスクで構成されます。

- 出荷準備
- 受注オーダーの出荷の作成
- 梱包、UCC 128、出荷に関する見出し情報の入力

出荷の準備

出荷商品と出荷形態の正確な情報を顧客に伝える電子データ交換(EDI)トランザクションを送信する際には、出荷を準備したときに収集した情報も伝送します。製品の輸送形態や経路指示、参照情報など、出荷情報を入力してください。

受注オーダーの出荷の作成

JD Edwards EnterpriseOne輸送管理を使用すると、処理オプションを設定して受注オーダー入力時にUDCテーブル(49/SD)で定義したオーダー・タイプと行タイプの組合せに基づいて、オーダーに対する出荷を自動作成できます。ここで言う出荷は、事業所から顧客へ商品を配送する要求のことを指します。オーダー入力時に運送業者と輸送モードを入力しない場合、デフォルトの運送業者と輸送情報が次のソースのいずれかから取得されます。

- 事業所品目情報
- 顧客マスター情報
- 在庫引当優先情報

JD Edwards EnterpriseOne輸送管理システムで配送経路オプションを検討するときに、運送業者と輸送モードも検討および改訂できます。前述のマスター・テーブルまたはオーダー入力時のどちらにも運送業者を指定しない場合には、運送業者優先情報に基づいて「運送業者」と「輸送モード」フィールドの値が自動入力されます。

運送業者と輸送モードが指定されている場合は、出荷の作成時に料金および配送経路オプションも省略できます。この機能を有効にするには、出荷経路、レベル設定の回避UDCテーブル(42/FR)に特殊取扱コード9でコードを設定します。

梱包、UCC 128、出荷に関する情報の確認

出荷を確認するときには、顧客の条件に出荷情報が検証されます。出荷情報を検討するときには、UCC 128見出し情報を入力できます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 顧客と品目に対して階層構成とUCC 128が設定されていることを確認します。

参照: 第 5 章、「UCC 128準拠の設定」、93ページ

- JD Edwards EnterpriseOne輸送管理システムがアクティブになっていることを確認します。

UCC 128に従った出荷処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
出荷の処理	W4915B	「出荷および積荷」(G4911)、「出荷の処理」	出荷を確認するオーダーを検討および検索します。
出荷情報の改訂	W4915K	「出荷の処理」フォームで確認するオーダーを選択します。	出荷、梱包、およびUCC 128出荷の情報を入力します。
パッケージの改訂	W4916A	「出荷の処理」フォームでオーダーを選択し、「ロー」メニューにある「パッケージの改訂」を選択します。	オーダーの梱包情報を追加および改訂します。
UCC-128改訂	W4916A	「出荷の処理」フォームでオーダーを選択し、「ロー」メニューにある「UCC-128改訂」を選択します。	オーダーのUCC-128情報を追加および改訂します。

出荷の処理プログラム(P4915)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、表示値の設定、データの処理方法の定義、状況の一時変更、バージョンの指定、手入力での出荷調整を実行します。

表示

この処理オプションでは、デフォルトの表示値を指定します。

- 開始出荷状況** 出荷状況コードの範囲の開始値を指定します。
終了出荷状況 出荷状況コードの範囲の終了値を指定します。
- 配送経路状況** 表示する出荷配送経路情報を入力します。値は次のとおりです。
 ブランク: すべての出荷を表示します。
 0: 配送経路が指定されている出荷を表示します。
 1: 配送経路が指定されていない出荷を表示します。
 9: 配送経路を指定できない出荷を表示します。
- 積荷出荷** すべての出荷を表示するか、積荷に組み込まれていない出荷のみを表示するかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: すべての出荷を表示します。
 1: 積荷に組み込まれていない出荷のみを表示します。

- 4. 配送経路ステップ** 配送経路ステップの表示方法を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: すべての配送経路ステップを表示します。
 1: 最初の出荷の配送経路ステップのみを表示します。
- 5. 保留受注オーダーを含む出荷の識別** 出荷に保留受注オーダーが含まれることを示す通知(目立つ色のXで示す)を記載するフォームを指定します。値は次のとおりです。
 1: 「出荷の処理」フォームに通知を表示します。
 2: 「出荷明細」フォームに通知を表示します。
 3: 両方のフォームに通知を表示します。

処理

この処理オプションでは、実行する処理を指定します。

- 1. 出荷の作成** 出荷を手作業で作成できるかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 出荷を手作業で作成できません。
 1: 出荷を手作業で作成できます。
- 2. 保護された出荷状況** 変更が認められない出荷状況を指定します。この処理オプションをブランクにすると、輸送固定情報プログラム(P49002)の確認済出荷状況が使用されます。
- 3. 最小の出荷状況 - 配送伝票の印刷** 配送票を印刷する最小の出荷状況番号を指定します。
- 4. 最小の出荷状況 - 配送確認(必須)** 配送を確認する最小の出荷状況番号を指定します。
- 5. 最大の出荷状況 - 配送確認(必須)** 配送を確認する最大の出荷状況番号を指定します。
- 6. セルフサービス・モード** セルフサービス機能を有効にするかどうか、およびJavaとHTMLユーザーに有効にできるセルフサービス機能のタイプを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: カスタマ・セルフサービス機能を有効にしません。
 1: カスタマ・セルフサービス機能を有効にする。
 2: 運送業者セルフサービス機能を有効にします。

承認

この処理オプションでは、承認プロセスを実行するかどうかを指示します。

- 1. 受注オーダー次状況の更新回避** 受注オーダーを含む出荷の承認時に、受注オーダーの次状況を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 次状況を更新します。
 1: 次状況を更新しません。
- 2. 受注オーダー次状況の一時変更** 受注オーダーを含む出荷の承認時に使用される、一時変更用の受注オーダー次状況を指定します。この処理オプションをブランクにすると、オーダー処理規則プログラム(P40204)の次状況が使用されます。

2: ピッキング要求を生成し、サブシステムで処理します。

3: 返品受注オーダーと購買オーダーの両方に有効なRMAが必要です。

1: オーダーの次状況を更新しません。

購買オーダーを含む出荷の承認時に使用される一時変更用次状況を指定します。

使用する配送確認プログラム (P49650) のバージョンを入力します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

- | | |
|--|---|
| 5. 配送伝票プログラム (P49590) | 伝票制御処理オプションの取得で使用する伝票印刷 - 対話型プログラム (P49590) のバージョンを入力します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 6. UCC128出荷編集プログラム (R42071) | 使用する出荷バッチ編集プログラム (R42071) のバージョンを入力します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 7. 梱包確認詳細プログラム (P4216) | 使用する梱包確認明細プログラム (P4216) のバージョンを入力します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 8. 優先プロファイル (R40400) | 「優先情報選択」フォームで有効な優先情報に基づいてオーダーを処理する際に使用される、優先情報プロファイル・プログラム (P42520) のバージョンを入力します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 9. 受注オーダー入力 (P4210) | 出荷の処理プログラム (P4915) からの転送時に使用される受注オーダー明細プログラム (P4210) のバージョンを入力します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 10. ピッキング要求の処理 (R46171) | ピッキング要求の処理で使用する、保管場所選択ドライバ・プログラム (R46171) のバージョンを入力します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンXJDE0007が使用されます。 |
| 11. カートン推奨 (P4615) | カートン推奨プログラム (P4615) のバージョンを入力します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 12. 輸送出荷のバッチ確認 (R49500) のサブシステム・モード | 輸送出荷確認のバッチ処理プログラム (R49500) のサブシステム・モードで使用するバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンXJDE0003が使用されます。 |

出荷の手動調整

この処理オプションでは、出荷の手動調整に関する値を指定します。

- | | |
|------------------------------|---|
| 1. オーダー行選択の出荷状況 | <p>出荷状況のために、既存の出荷から新しい出荷にオーダー行を移動できない場合を指定します。処理オプション値と同じかそれより進んでいる状況を持つ出荷のオーダー行は、新しい出荷に移動できません。値は、出荷状況 (41/SS) UDCから選択します。</p> <p>この処理オプションをブランクにすると、輸送固定情報プログラム (P49002) の確認済出荷状況が使用されます。</p> |
| 2. オーダー行選択の受注オーダー次状況 | <p>この処理オプションは、「オーダー行選択の出荷状況」処理オプションと組み合わせて使用し、受注オーダー次状況のために、オーダー行を既存の出荷から新しい出荷に移動できない場合を示します。処理オプション値と同じかそれより進んでいる次状況を持つオーダー行は、新しい出荷に移動できません。処理オプションの状況が確認済出荷の受注オーダー行の次状況より進んでいる場合、そのオーダー行は選択できません。この処理オプションに関する値は、処理状況コード (40/AT) UDCの中で定義されています。ブランクは、選択可能かどうか「オーダー行選択の出荷状況」処理オプションで決定されることを示します。</p> |
| 3. 出荷の手動調整のための手入力出荷作成 | <p>出荷調整に適格な手入力の出荷作成を有効にするかどうか指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 出荷を手入力で作成できません。</p> |

1: 出荷を手入力で作成できます。

出荷、梱包、およびUCC 128出荷の情報の入力

「出荷情報の改訂」フォームにアクセスします。

出荷デポ

出荷または積荷の当初デポを表示します。

個数

出荷を構成する個数、パレット、コンテナの数を入力します。

出荷貨物テーブル(F4943)で個数情報が定義されていない出荷の場合、取引単位の数を出荷単位に変換して品目の予定個数が計算されます。

整数の個数を得るために、単位は切り捨てによって丸められます。

すべての明細行の残り数量の重量と容量を加算し、合計を1個当たりの最大重量および最大容量で割ります。

生成された個数の重量または容量は、次の整数に切り上げられます。この数を整数の個数に加えて個数を得ます。

出荷予定日/時刻

受注オーダーの出荷予定日を入力します。この日付は、品目を倉庫から出荷できる日を表します。

約束納入日/時刻

品目を顧客に納入する日付を入力します。

貨物/運賃取扱コード

JD Edwards EnterpriseOne輸送管理では、最初の次の値を使用して運賃の責任者を指定できます。

取扱コードの最初に「1」を入力します。値「1」は運賃が回収されること、および運賃の支払責任が荷受人にあることを示します。JD Edwards EnterpriseOne輸送管理は、送信出荷の回収運賃を計算しません。

取扱コードの最初に「2」を入力します。値「2」は運賃が前払されていること、および運賃の支払責任が出荷者にあることを示します。JD Edwards EnterpriseOne輸送管理は、送信出荷の支払運賃を計算しますが、請求運賃は計算しません。

取扱コードの最初にある他のコードは、運賃が前払されており、運賃の支払責任は出荷者にあることを示します。JD Edwards EnterpriseOne輸送管理は、請求運賃と支払運賃の両方を計算します。

バルク/パッケージ区分

車両がバルク液体製品やパッケージ製品を輸送できるかどうかを指定します。バルク製品用車両の場合、温度と密度/重量の変換を実行する必要があります。このため、製品の移動はバルク製品用に設計された画面を使用して記録する必要があります。輸送画面で編集を実行し、適切な製品が処理されるようにします。値は次のとおりです。

P: パッケージ品目(製品)

B: バルク液体品目(製品)

第 12 章

前払処理

この章では、前払処理と前払処理の設定についての概要、および次の方法について説明します。

- クレジット・カード取引の承認
- 前払の更新
- 手作業によるトランザクション状況の更新
- 前払取引の決済
- 前払の手形の処理

前払処理について

顧客のオーダーを入力する際、顧客が受領した商品の請求書を顧客へ送付します。場合によっては、オーダー入力の直後に顧客がなんらかの形で前もって支払を済ませる可能性もあります。前払処理を使用することにより、顧客の領収書として請求書を生成して前払の全額を記載できます。

オーダーの前払は、オーダー入力の時点で売り手が顧客から支払を受け取る際に発生します。顧客は、現金、小切手、クレジット・カードなど、様々な前払タイプを使用できます。前払を使用すると、オーダー明細行に対しトランザクション情報が記録され、請求書に支払が示されます。

前払トランザクションには2つのタイプがあります。

- 2者間前払

2者間前払は、会社と顧客間に発生するトランザクション（通常は現金または小切手）です。オーダーに対して現金または小切手により前払が行われると、前払フォーム、トランザクションおよび請求書上の合計が表示されます。

- 3者間前払

3者間前払は通常、会社、顧客、クレジット・カード会社間に発生するクレジット・カード取引です。

システム上ではトランザクションとは、銀行、クレジット・カード会社、クレジット・カード処理機の間の特ランザクション情報伝送のことです。

支払方法にクレジットカードを使用する場合は、オーダー入力時に、クレジット情報を確認できます。ミドルウェア・ソリューションを介して、承認情報が検索され、前払トランザクションが更新されます。承認が得られない場合は、オーダーは承認保留となり、オーダー処理の継続は許可されません。

決済が実施されると、ミドルウェア・ソリューションにより、顧客の口座から販売元の口座に金額がリリースされます。決済トランザクションでエラーが生じた場合は、オーダーは決済保留となり、オーダー処理の継続は許可されません。

これらの保留を解除するには、該当する前払処理バージョンのバッチ・モードで、承認または決済プロセスを正常に実行する必要があります。

オーダー明細行に対して過剰出荷があった場合やオーダーに明細行が追加された場合は、新規承認を得る必要があります。

前払処理システムは、受注オーダー入力プログラム(P42101およびP4210)などのJD Edwards EnterpriseOne プログラムと、売り手側が指定するクレジット・カード処理機との間のインターフェイスを提供します。前払処理を使用することにより、クレジット・カード承認と最終決済を会社のビジネス・プロセス(オーダー入力や請求手順)に統合できます。

3者間前払トランザクションについては、システムにミドルウェアやクレジット・カード取引処理機は含まれていません。クレジット・カード前払処理を完了するためには、クレジット・カード処理機、サード・パーティ・ベンダーまたはミドルウェア・ソリューションを選択して、JD Edwards EnterpriseOne、クレジット・カード会社および取引銀行間で情報を伝送できるようにする必要があります。

事前設定

クレジット・カード処理機の設定が正しいことを確認してください。これには、代理店ID、端末ID、承認および決済用電話番号など電送処理に必要な情報が含まれます。

P4210プログラムの処理オプションが適切に設定されていることを確認してください。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理 9.0 製品ガイド、「買掛管理伝票の処理」、「前払処理」

前払処理の設定について

2者または3者間トランザクションを処理するには、その前に、システムがクレジット・カード会社に対してオーダーを承認する時期、トランザクション・タイプ、および決済を実行する状況を指定しておく必要があります。

この項では、前払状況コード、前払タイプおよび前払保留コードについて説明します。

前払状況コード

承認は通常、オーダー入力後に発生します。決済は通常、出荷確認後、請求書発行前に発生します。システムは、オーダー・タイプと行タイプの組合せに対するオーダー処理規則に従います。次のプログラムの処理オプションで、一時変更用状況コードを設定できます。

- 受注オーダー入力(P4210)
- 出荷確認(P4205)
- 請求書印刷(R42565)
- 保留オーダー・リリース(P43070)
- 売上更新(R42800)

前払処理情報プログラム(P004201)でオーダーを照会します。「前払取引の処理」フォームでは、ユーザー定義コード(UDC)テーブル00/SPの前払状況コードに基づいてトランザクション状況を識別できます。たとえば、承認、決済、却下などの準備が整っているトランザクションがあります。次の状況は事前定義済です。

- ブランク: 事前承認

- 01: 承認のために送信
- 02: 承認済み
- 03: 決済準備完了
- 04: 決済のために送信
- 05: 決済済み
- 06: 権限拒否/エラー
- 07: 決済拒否/エラー

前払タイプ

支払手段コード(00/PY)は、手形や小切手、電子資金決済など様々な支払手段を表します。各請求書や買掛伝票に対して支払手段コードを割り当てます。使用する支払手段のタイプごとにコードを設定します。このUDCテーブル00/PYは、オラクル社の他のJD Edwards EnterpriseOne一般ビジネス・システムでも、伝票および請求書用に使用されます。前払処理用のトランザクションを識別するには、割当済取扱コードを持つ支払タイプを使用する必要があります。デフォルト値は空白です。

ハードコード化されたコード

次の値はハードコード化されています。

- X: 電子データ交換(EDI)手形(ARおよびAP)
- Y: EDI振込(ARおよびAP)
- Z: EDI小切手(ARおよびAP)
- ?: クレジット・カード払い
- .: 現金払い
- !: 小切手払い

ソフトコード化されたコード

次の値はソフトコード化されています。

- C: 小切手 - 8 3/4" (ARおよびAP)
- D: 請求書別手形(ARおよびAP)
- N: 小切手の印刷 - ブラジル
- T: 電子資金決済(EFT) (ARおよびAP)
- W: 小切手 - 8 1/2" (APのみ)

特殊取扱コード

前払処理は、支払手段タイプの特殊取扱コード・カラムの値によって制御されます。つまり、支払タイプの取扱コードを設定する場合は、承認と決済サイクルを通じて取引が処理されます。特殊取扱コードが設定されたいくつかの事前定義の支払タイプが利用可能です。

- 11: 現金払い
- 12: 小切手払い
- 13: クレジット・カード払い

前払保留コード

オーダーの保留に使用されるオーダー保留情報を設定します。受注オーダー入力プログラム (P4210) で該当する処理オプションを設定すると、この情報が適用されます。前払トランザクション用に次の保留コードを定義しておく必要があります。

- 決済保留、保留コードCSによって識別
- 承認保留、保留コードCAによって識別

承認保留コード

支払方法にクレジットカードを使用する場合は、オーダー入力時に、クレジット情報を確認できます。ミドルウェア・ソリューションを介して、承認情報が検索され、前払トランザクションが更新されます。承認が得られない場合は、オーダーは承認保留となり、オーダー処理の継続は許可されません。保留を解除するには、承認プロセスがバッチ・モードで正常に実行される必要があります。

決済保留コード

前払取引の決済プログラム (R004202) を実行して決済を実行できます。ミドルウェア・ソリューションを介して、決済情報が取り込まれ、前払トランザクションが更新されます。決済が実施されると、ミドルウェア・ソリューションにより、顧客の口座から販売元の口座に金額がリリースされます。決済トランザクションでエラーが生じた場合は、オーダーは決済保留となり、オーダー処理の継続は許可されません。保留を解除するには、承認プロセスがバッチ・モードで正常に実行される必要があります。

保留オーダー固定情報プログラム (P42090) で、UDCテーブル42/HCIに保留コードを設定し、保留情報を定義します。

前払処理に定義した受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンの処理オプションで、承認と決済保留コードを入力してオーダー保留処理を有効にする必要があります。

関連項目:

第 2 章、「受注管理システムの設定」、「UDCの設定」、10ページ

第 3 章、「オーダー処理情報の設定」、「オーダー保留情報の設定」、58ページ

クレジット・カード取引の承認

この項では、クレジット・カード承認の概要と、次の方法について説明します。

- 前払取引の承認プログラム (R004201) の処理オプションの設定
- 前払取引の承認プログラムの実行

クレジット・カードの承認について

オーダー入力時に顧客のクレジット・カードの取引情報を取り込み、ミドルウェア・ソリューションであるクレジット・カード処理機を経由してオーダー金額を転送します。そうすると、処理機によりクレジット・カード所有者の勘定科目に資金があるかどうかチェックされ、クレジット・カード上限貸出額内でオーダー金額分だけ押さえられます。この後、クレジット・カード処理機により売り手に対して承認コードの確認が行われます。

承認処理は、クレジット・カード処理機により異なります。承認が完了すると承認コードが戻され、前払取引テーブル (F004201) のトランザクション状況が更新されます。

前払取引の承認プログラム(R004201)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、前払取引の承認プログラム(R004201)のデフォルト処理を指定します。

デフォルト

この処理オプションでは、承認済行の状況を指定します。

1. 承認済み行 次状況の一時変更用UDC (40/AT)を入力します。

保留

この処理オプションでは、承認保留の理由を指定します。

1. 前払処理についての承認保留 オーダーが保留中である理由を識別する値をUDC 42/HCから入力します。

前払取引(トランザクション)の承認プログラムの実行

「前払処理」(G42131)、「前払取引の承認」を選択します。

前払トランザクションの更新

前払トランザクションに影響する変更を加えると、取引レコードが更新され、必要に応じて再処理できるようになります。たとえばオーダーを取り消した場合、前払トランザクションは無効になります。数量を増やす場合、承認処理が再実行されます。

2者間トランザクションも3者間トランザクションも、標準のオーダー処理サイクルで処理できます。数量を増やしたりオーダーを取り消すなどしてオーダー情報を変更すると、受注オーダー見出し(F4201)、受注オーダー明細(F4211)および販売明細実績(F42199)などの標準JD Edwards EnterpriseOne受注管理テーブルのオーダー情報が、オーダー処理規則に従って更新されるのに加え、前払取引テーブルの前払状況が更新されます。

JD Edwards EnterpriseOne受注管理プログラムの処理オプションで、前払処理を有効にする必要があります。

- 受注オーダー入力(P4210)
- 出荷確認(P4205)
- 請求書印刷(R42565)
- 保留オーダーのリリース(P43070)
- 売上更新(R42800)

参照: 第 7 章、「受注オーダーの入力」、「受注オーダー入力(P4210)の処理オプション」、137ページ

オーダー入力時の前払情報の使い方

受注オーダー入力プログラム(P4210)で、前払処理用である「前払」タブの処理オプションが定義されている場合は、オーダー入力中に前払を入力または更新できます。オーダー入力後は、「前払取引の改訂」フォームにアクセスすることで、小切手番号またはクレジット・カード情報を入力できます。取り込まれたオーダー金額に計算した税が加算されたものが前払金額となります。前払情報を入力すると、レコードがF004201テーブルに書き込まれます。

オーダーを照会して情報を変更した場合、再度承認が必要となる場合があります。オーダーに対する変更を受け入れると、オーダー合計がF004201テーブルの承認された金額と比較されます。オーダー金額が承認された金額よりも大きい場合、承認を得るためにトランザクション状況が更新されます。

オーダー明細行が部分的にバックオーダーされたり取り消されている場合、他のトランザクションが決済済状況に移行されていないかぎり新規の承認は必要ありません。現在はオーダーに対し1つの前払タイプのみが許可されています。

承認および決済のための保留オーダー・リリース

オーダーが承認または決済を通らなかったために保留になっている場合、保留オーダー・リリース・プログラム (P43070) を使用してオーダーを処理サイクルに戻すことができます。ただし、顧客のオーダーをリリースしないかぎり、オーダーの処理は行われません。オーダーをリリースするには、適切なセキュリティ権限が必要です。

保留オーダー・リリース時に前払状況を承認準備完了または決済準備完了に更新するには、保留オーダー・リリース・プログラムの「前払」タブの対応する処理オプションを設定する必要があります。保留受注オーダーの印刷レポート (R42640) を実行して、保留状態の受注オーダーをすべて検討できます。

出荷確認中のトランザクション状況の更新

オーダー明細行に対して過剰出荷があった場合やオーダーに明細行が追加された場合は、新規承認を得る必要があります。

請求書への前払情報の印刷

請求書の印刷時に、前払情報を印刷するように処理オプションを設定できます。請求書印刷プログラム (R42565) で前払処理を有効にすると、請求書を集計できなくなります。

売上更新での前払情報の更新

売上更新プログラム (R42800) で、前払処理オプションを有効にする必要があります。決済トランザクションが有効で、売上更新プログラムでエラーが検出されなかった場合、クレジット・カード会社の銀行に入金を請求する手形が生成されます。

オーダーが請求書印刷プログラム (R42565) で未処理の場合は、前払取引の売上更新プログラムのバージョンを設定する際に、請求書番号が自動的に割り当てられるように処理オプションを設定できます。ただし、請求書は集計できません。

前払処理の処理オプションが適切に設定されて前払取引が決済された場合、クレジット・カード会社の銀行から支払われる売掛金に関する手形レコードが書き込まれます。売上更新プログラムを実行するときは、事前承認の手形レコードを生成するバッチ手形の作成プログラム (R03B671) の適切なバージョンを呼び出します。いったん手形が書き込まれたら、次のような方法で締めることができます。

- 仕訳入力 (P0911)
- 手形回収 (R03B680)

関連項目:

第 15 章、「日次締め処理の実行」、「顧客売上の更新」、380ページ

第 10 章、「オーダーの保留、リリース、および検討」、「保留オーダーのリリース」、249ページ

第 7 章、「受注オーダーの入力」、「受注オーダー明細情報について」、131ページ

第 14 章、「請求書作成」、355ページ

第 11 章、「受注オーダーの処理」、「出荷確認について」、306ページ

手作業によるトランザクション状況の更新

この項では、トランザクション状況の更新の概要と、トランザクション状況コードの更新方法について説明します。

トランザクション状況の更新について

受注オーダー入力プログラム (P4210) で、前払処理用である「前払」タブの処理オプションが定義されている場合は、オーダー入力中に前払を入力または更新できます。オーダー入力後は、「前払取引の改訂」フォームにアクセスすることで、小切手番号またはクレジット・カード情報を入力できます。システムはオーダー金額に算出した税額を加え、それを前払金額として取り込みます。前払情報を入力すると、レコードが F004201 テーブルに書き込まれます。

前払状況を特定の顧客または状況に関して検討できます。前払処理情報の処理プログラム (P004201) を使用すると、トランザクションの前払状況を修正できます。

例: 処理オプションの設定による影響

次の表に、受注オーダー入力プログラムの「前払」タブでの処理オプションの各設定による「前払取引状況」への影響と必要なアクションを示します。

「前払」タブの「承認処理」の値	「前払」タブの「決済処理」の値	前払取引状況	アクション
blank	blank	blank	前払取引の承認プログラムを手作業で実行し、トランザクション状況を 2 に変更します。
1 または 2	blank	2 (承認済)	出荷確認プログラムを使用してオーダーの出荷を確認する場合、手作業で前払取引の決済プログラムを実行するか決済を処理します。
1 または 2	1 または 2	5 (決済済)	アクション不要。

トランザクション状況の更新に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
前払取引の処理	W004201A	「前払処理」(G42131)、 「前払処理情報」を選択 します。	前払の状況の検討および 改訂するレコードを選択 します。
前払取引の改訂	W004201E	「前払取引の処理」フォー ムでトランザクションを選 択します。	トランザクション状況コード を更新します。 「前払取引状況」フィールド を改訂します。

トランザクション状況コードの更新

「前払取引の改訂」フォームにアクセスします。

前払処理情報 - 前払取引の改訂			
OK(O) 取消(L) ツール(T)			
オーダーNo.	28	承認取引額	1,300.00
オーダータイプ	CM	現金支払額	.00
オーダー会社	00200	小切手支払額	.00
オーダーサフィ	001	税	.00
前払が入力されたシステム	02	決済取引額	1,300.00
順序No.			
行No.	.001		
支払手段	?		
前払取引状況	05		

「前払取引の改訂」フォーム

前払が入力されたシステム 前払の発生元システムを指定する値をUDC 00/POから表示します。たとえば、01は受注オーダー入力を表示します。

順序No. 情報の順序を指定する番号を表示します。

前払取引状況 前払取引の状況を表示します。

承認取引額 前払クレジット・カード承認の金額を表示します。

現金支払額 現金で前払された金額を表示します。

小切手支払額 小切手で前払された金額を表示します。

決済取引額 前払決済金額を表示します。

前払取引の決済

この項では、前払取引の決済の概要と次の方法について説明します。

- 前払取引の決済プログラム(R004202)の処理オプションの設定
- 前払取引の決済プログラムの実行

前払取引の決済について

最終決済は、選択したミドルウェア・ソリューションの方法で、会社とクレジット・カード会社間に発生します。この時点ですべての承認済トランザクションは、クレジット・カード処理機に転送されます。

決済処理は、クレジット・カード処理機により異なります。決済が完了すると決済コードが表示され、F004201テーブルのトランザクション状況が“決済済”に更新されます。

決済は通常、出荷確認後、請求書発行前に発生します。決済は、商品を出荷確認した後に実行可能となります。こうすると、請求書の印刷時に、顧客がその金額を支払ったことを示すことができます。

前払取引の決済プログラム(R004202)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、前払取引の決済プログラム(R004202)のデフォルト処理を指定します。

デフォルト

この処理オプションでは、決済済行の状況を指定します。

1. 決済行 行タイプのオーダー・フローの次のステップを示す、次状況の一時変更用 UDC(40/AT)を入力します。

保留

この処理オプションでは、決済保留の理由を指定します。

1. 前払処理についての決済保留 オーダーが保留中である理由を識別する値をUDC 42/HCから入力します。

前払取引(トランザクション)の決済プログラムの実行

「前払処理」(G42131)、「前払取引の決済」を選択します。

前払の手形の使い方

この項では、手形の回収と事前承認手形の概要について説明します。

手形の回収について

決済処理が完了すると、クレジット・カード会社の銀行から(顧客に対して)請求されている売掛金に対して手形を生成できます。手形を書き込んだら、手作業で仕訳を入力するかまたは手形回収プログラム(R03B680)を実行して手形を締めることができます。

貴社の取引銀行は、手形の支払期日にクレジット・カード会社の取引銀行から送金を受け取ります。支払期日の当日またはそれ以降に、貴社とクレジット・カード会社は現金送金を計上します。ここで手形が回収済であることを示すように手形状況を更新します。

手形を決済日付に締めるのを好む会社もあれば、自社の銀行取引明細に支払が表示されるまで待つ会社もあります。会社の方針に基づいて、手形回収プログラム(R03B680)を使用して次の事項を実行します。

- 受注状況スピード更新プログラム(P42040)(仕訳入力あり)で手形満期日に仕訳を作成する。
- P(支払済)以外の支払状況コードを使用して、手形満期日にP42040プログラム(仕訳入力なし)を実行する。

支払額が回収されたことを確認した後、P42040(仕訳入力あり)を実行します。

さらに、クレジット・カード会社が承認手数料を徴収する場合があります。すべての料金を計上するためには、仕訳入力プログラム(P0911)で仕訳を別に作成してください。

このバッチ処理は、テスト・モードと最終モードのいずれかで実行できます。

モード	プロセスの説明
テスト・モード	<p>テスト・モードでは、次の処理が実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 銀行送金済状況の手形を選択する。 <p>つまり、送金されているがまだ回収されていない手形が選択されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 更新する手形を示すレポートが印刷される。 <p>このレポートには、支払状況がG(手形預入済、満期日前)で、処理オプションで指定した満期日を待つすべての手形が表示されます。</p>
最終モード	<p>最終モードでは、次の処理以外はテスト・モードと同じ処理が実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 手形の支払状況は、P(支払済)または選択した他の値に変更される。 手形回収後、仕訳を承認して総勘定元帳に転記する。 <p>手形を締めるには、このオプションを使用してプログラムを実行する必要があります。作成された仕訳では、現金勘定は借方に、送付された手形は貸方に入力されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 手形が偶発債務で作成された場合、その勘定科目は消去される。

この処理により入金明細テーブル(F03B14)にレコードが作成され、売掛金元帳テーブル(F03B11)のレコードが更新されます。

手形の回収(状況更新)のデータ選択

支払手段を基にクレジット・カード処理に対して手形(クレジット・カード・トランザクションを示す)を選択する必要があります。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理 9.0 製品ガイド、「受取手形の処理」

事前承認手形について

前払処理の処理オプションを設定して前払決済が正常に行われた場合は、その後で、売上更新プログラム(R42800)で手形レコードを作成できます。使用するバッチ手形の作成プログラム(R03B671)のバージョンに応じて、手形として支払われる未決済請求書が選択されます。

第 13 章

価格の更新

この章では、次の方法について説明します。

- 基本価格の更新
- 顧客価格の更新
- 価格レベルの変換
- 他通貨での新規基本先価格の生成

基本価格の更新

この項では、基本価格の更新の概要と次の方法について説明します。

- 基本価格の一括更新プログラム(R41830)の処理オプションの設定
- 基本価格の一括更新プログラムの実行

基本価格の更新について

基本価格の定義後に、価格の変更や、将来の日付で有効となる価格の作成など、必要に応じて更新を行います。基本価格を個別に更新するには、基本価格の改訂プログラム(P4106)を使用します。また一度に複数の価格を更新するには、基本価格の一括更新プログラム(R41830)を実行します。基本価格の一括更新プログラムの処理オプションの設定に応じて、バッチ・モードでの複数価格の更新時に、既存価格が新規価格で上書きされるか、または既存価格が計算により調整されます。

バッチ・プログラムで選択された有効価格に基づいて新しい価格が作成されます。基本価格の一括更新のバージョンをテスト・モードで実行すると、最終モードで実行する際に選択レコードに対して行われる更新を表示したレポートが作成されます。

このプログラムのバージョンを設定する際に、特定のフィールドを指定して選択されるようにします。たとえば、バージョンを作成して、そのバージョン用に顧客、顧客グループ、品目、品目グループなどを選択できます。更新する必要のない特定の価格タイプは除外することもできます。

システムが作成した新しい価格やその有効日付、新しい価格の基準となった旧価格などが、すべてレポートに表示されます。このプログラムは、テスト・モードで必要な回数だけ実行できます。

既存価格の変更

複数の価格を変更するには、基本価格の一括更新プログラムの基本価格改訂バージョンを実行します。処理オプションの設定によって、既存の価格が新規価格に一時変更されるかまたは既存の価格に対する調整が計算されます。調整には、加算、減算、パーセント調整、一時変更金額などの方法があります。

基本価格改訂バージョンをテスト・モードで実行すると、最終モードで実行する際に選択レコードに対して行われる更新を表示したレポートが作成されます。このプログラムの更新処理オプションで品目基本価格テーブル(F4106)に更新が実行されるように設定してください。

将来価格の作成

将来で使用する複数の基本価格を作成するには、基本価格の一括更新プログラムの将来価格の追加バージョンを実行します。このバージョンでは、プログラムの価格追加処理オプションの有効日付に基づいた新しい価格レコードが、F4106テーブルに書き込まれます。開始日付および終了日付を入力してください。入力しない場合、処理は行われません。

将来価格の追加バージョンをテスト・モードで実行すると、最終モードで実行する際に選択レコードに対して行われる更新を表示したレポートが作成されます。

将来価格は、有効期限が最も遅い既存価格に基づいて作成されます。処理オプションの設定によって、既存の価格が新規価格に一時変更されるかまたは既存の価格に対する調整が計算されます。調整には、加算や減額、パーセント計算などの方法があります。調整タイプと係数をブランクにすると、将来価格は現行の価格からそのままコピーされ、新たな調整は適用されません。

関連項目:

第 13 章、「価格の更新」、「異なる通貨を使用した基本価格の新規作成」、351ページ

基本価格の一括更新プログラム(R41830)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、品目基本価格テーブル(F4106)を更新するかどうかの制御、価格調整の指定、新規レコードを作成するか既存レコードを更新するかの指定を行います。

更新オプション

この処理オプションでは、F4106テーブルが更新されるかどうかを設定します。

- | | |
|-----------------------|---|
| 1. 基本価格テーブルの更新 | F4106テーブルを更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: ファイルは更新されません。
1: ファイルは更新されます。 |
|-----------------------|---|

調整オプション

この処理オプションでは、価格調整のタイプと係数を指定します。

- | | |
|---------------------|--|
| 1. 基本価格調整タイプ | F4106テーブルに行う調整のタイプを指定します。値は次のとおりです。
A: 価格を金額で調整します。
%: 価格をパーセントで調整します。
*: 価格を一時変更価格に調整します。 |
| 2. 金額 | 価格の計算に使用される金額またはパーセント比率を指定します。この処理オプションは、価格調整タイプと組み合わせて使用します。たとえば、調整タイプ「A」を入力した場合、価格を10ずつ増加させるには「10」を、10ずつ減少させるには「-10」を入力します。調整タイプ「%」を入力した場合、10%単位で価格を増やすには「10」を、減らすには「-10」を入力します。 |

日付オプション

この処理オプションでは、基本価格を更新するか、あるいは新規レコードを作成するかを制御します。

1. 有効開始日付、2. 有効終了日付 価格更新に使用される日付を指定します。有効開始日付と有効終了日付が入力されると、新しい基本価格レコードが作成されます。これらの処理オプションが両方ともblankの場合、既存の基本価格レコードが更新されます。

基本価格の一括更新プログラムの実行

「価格管理」(G4222)、「基本価格のバッチ改訂」を選択します。

顧客価格の更新

この項では、顧客価格の更新の概要と次の方法について説明します。

- ・ 受注オーダー価格/原価のバッチ更新プログラム (R42950) の処理オプションの設定
- ・ 受注オーダー価格/原価のバッチ更新プログラムの実行

顧客価格の更新について

最新の価格や価格調整を基準として受注オーダーが再計算されるように、顧客に対する価格を更新します。これは、価格変動の激しい品目などに使用します。この処理を使用して、受注オーダーの品目の単位原価および合計原価を最新の原価に更新することもできます。多通貨処理機能が有効である場合は、「外貨単位」および「合計原価」フィールドも更新されます。

次の表で、受注オーダー価格/原価のバッチ更新プログラムで実行するタスクについて説明します。

タスク	内容
受注オーダー原価の更新	未処理の未出荷オーダーの単位原価および合計原価は、品目原価テーブル (F4105) の現行の原価に置き換えられます。
受注オーダー価格の更新	最新の基本価格および価格調整を使用して、受注オーダー明細テーブル (F4211) の単価および合計価格が再計算されます。この再計算には、処理オプションで入力した日付が使用されます。
受注オーダー為替レートの置換	このプログラムを使用して、オーダーの原価と価格を計算する際に使用される為替レートを更新できます。オーダー入力時に有効だった為替レートは、既存の為替レートに置き換えられます。

受注オーダー価格/原価のバッチ更新プログラムの処理オプションを設定して、原価または価格の再計算が必要であるかどうかの決定に使用する受注オーダーの日付を指定できます。たとえば、約束日付を再計算の基準とすることができます。受注オーダーの価格は複数回更新できます。

受注オーダー価格/原価のバッチ更新プログラムを実行すると、受注残となっているオーダーの明細情報が更新されます。明細行の現行価格が新規価格で置き換えられるか、または現行価格と新規価格の差異に対して非在庫行が追加されます。行を追加するには、処理オプションに非在庫行タイプを指定する必要があります。行タイプを指定しない場合、当初価格が新規価格に一時変更されます。

受注オーダー価格/原価のバッチ更新プログラムを実行した後、各受注オーダーの当初単価および合計価格に対する変更が列挙されたレポートを検討できます。

注意: 売上更新プログラム (R42800) または請求書印刷プログラム (R42565) の処理オプションの設定によって、総勘定元帳 (GL) レコードを作成する前に受注オーダー価格/原価のバッチ更新プログラムを実行できます。選択された受注オーダーは、総勘定元帳レコードの作成前に現行の原価 (オーダーが出荷されていない場合)、為替レート、価格ですべて更新されます。

受注オーダー価格/原価のバッチ更新プログラム (R42950) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、システムの処理や更新を制御し、バージョンを指定します。

処理

この処理オプションでは、受注オーダーの原価、為替レート、会社間為替レートを更新するかどうかを指定します。

1. 原価の更新

受注オーダーで原価を更新するかどうかを指定します。原価変更は、当初の受注オーダー入力行で必ず更新されます。原価は、在庫がリリースされていない場合のみ更新されます。値は次のとおりです。

空白: 原価は更新されません。

1: 原価は更新されます。

2. 為替レートの更新

為替レートを更新するかどうかを指定します。為替レートが更新されると、国内価格と外貨原価のみ再計算されます。値は次のとおりです。

空白: 為替レートは更新されません。

1: 為替レートは更新されます。

3. 会社間為替レート

会社間為替レートを更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 会社間為替レートは更新されません。

1: 会社間為替レートは更新されます。

価格処理

この処理オプションでは、受注オーダーの価格を更新するかどうか、価格の更新に使用する有効日付を定義するかどうか、および受注オーダー価格有効日付を保持するかどうかを指定します。

1. 価格の更新

受注オーダーで価格を更新するかどうかを指定します。当初の受注オーダー行に価格変更を反映できます。または、「価格設定オプション」タブの「価格変更の新規行への反映」処理オプションに入力して別の行として表示することもできます。値は次のとおりです。

空白: 価格を更新しません。

1: 価格を更新します。

2. 価格有効日付

価格の更新で使用する受注オーダーの開始日付を入力します。値は次のとおりです。

空白: トランザクション日付

1: 要求出荷日付

- 2: 約束出荷日付
- 3: 当初約束納入日付
- 4: 実際出荷日付
- 5: システム日付
- 6: 請求書日付
- *: システム固定情報

3. 受注オーダーの価格有効日付を保持する

受注オーダーの一時変更価格有効日付、または価格有効日付を優先情報から保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 価格有効日付の処理オプションを使用して、価格有効日付を決定します。

1: 日付がユーザーによって手作業で一時変更された場合、または価格有効日付が日付優先情報に基づいて販売価格から判断された場合、受注オーダーの価格有効日付を保持します。

価格設定オプション

この処理オプションでは、当初受注オーダーについて、価格変更に対して新しい行と状況を作成するかどうか、数量または分割数量に基づいて価格を更新するかどうか、および無償品を処理するかどうかを指定します。

1. 価格変更の新規行への反映

価格変更の生じた受注オーダー行の合計価格差異を記述する新規行を作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 変更は当初受注オーダー行で更新します。

行タイプ: 指定した行タイプを使用する新規受注オーダー行に変更を反映します。

2. 新規行の次状況一時変更

新規オーダー明細行の次状況を指定します。この処理オプションがブランクの場合、当初明細行の次状況が使用されます。

3. 当初数量に基づいて価格を更新する

当初の行数量と現在の行数量のどちらに基づいて価格を設定するかを指定します。受注オーダー明細行を分割する場合、分割行の価格は分割前の当初詳細行の数量に基づいて更新できます。たとえば、数量が10の受注オーダーが入力されたとします。その顧客は2つの品目を保管場所Aへ、他の8つの品目を保管場所Bへ配送するよう希望しています。当初の行は2つの受注オーダー行に分割されます。値は次のとおりです。

ブランク: 現在の数量に基づいて価格を更新します。

1: 当初数量に基づいて価格を更新します。

4. 無償品目の保持

既存の無償品プロモーションを保存するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 既存の無商品プロモーションを取り消し、新しい無償品を加えます。

1: オーダーに無償品を保存し、それ以外の価格を再設定します。無償品処理は実行されません。新しい無償品も適用されません。

バージョン

この処理オプションでは、受注オーダー入力プログラムを呼び出すときに使用されるバージョンを設定します。

1. 受注オーダー入力 (P4210) のバージョン 受注オーダー価格と原価の更新に使用する受注オーダー入力プログラムのバージョンを選択します。

受注オーダー価格/原価のバッチ更新プログラムの実行

「価格管理」(G4222)、「販売価格/原価のバッチ更新」を選択します。

価格レベルの変換

この項では、価格レベルの変換の概要と次の方法について説明します。

- 品目販売価格レベルの換算プログラム (R41816) の処理オプションの設定
- 品目販売価格レベルの換算プログラムの実行

価格レベルの換算について

品目販売価格レベルの換算プログラム (R41816) を使用して、品目マスター (F4101) にすでに入力済の品目または品目グループの販売価格レベルを変更します。

このプログラムは、テスト・モードと最終モードのどちらでも実行できます。エラーを検出するため、最初は品目販売価格レベルの換算プログラムを常にテスト・モードで実行することをお勧めします。このプログラムでは、販売価格レベルの変換中に発生した問題を表示したレポートが生成されます。最終モードで実行する前にエラーを修正できます。

品目販売価格レベルの換算プログラムでは、前のレベルの価格レコードがすべて削除され新しいレベルの価格レコードが新規作成されます。たとえば、品目/事業所レベルから品目レベルへの変換を行うと、各品目/事業所に対する価格レコードがすべて削除され、品目に対する新しい価格レコードが作成されます。

このプログラムが最終モードで実行中の場合は、品目マスターおよび品目基本価格テーブルにアクセスしないでください。

このプログラムは F4101 ファイルを基準としているため、特定の事業所に基づく検索は実行できません。

品目販売価格レベルの換算プログラム (R41816) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、データを処理する方法を制御します。

処理

この処理オプションでは、テスト・モードと最終モードのどちらで実行するか、変更する価格レベルを定義するか、例外レポートを印刷するか、期限切れレコードを削除するかを制御します。

1. 価格レベル 品目または品目グループの販売価格レベルを変更する新しい価格レベルを指定します。

2. 価格をデフォルトとして使用する事業所

デフォルトの価格を取得する事業所を指定します。

「価格レベル」処理オプションが1の場合にデフォルト価格を取得する事業所を入力します。「価格レベル」処理オプションが3の場合、基本保管場所のデフォルト価格を取得する事業所を入力します。

警告: 価格レベルをレベル2または3からレベル1に移行する場合、その品目が1つ以上の事業所に存在するがこのフィールドで識別されている事業所には存在しなければ、“事業所が処理オプションに一致しません。”というメッセージが出力ファイルに出力されます。プログラムが最終モードで実行されている場合、F4106のすべてのレコードは削除されます。このプログラムの機能は、既存の基本価格レコードを削除し、それらのレコードの後継として、この処理オプションに指定した転送元事業所を基にした新しいレコードを作成することです。品目が転送元事業所にない場合、その品目にF4106レコードは作成されません。

3. テストまたは最終モード

プログラムをテスト・モードと最終モードのいずれで実行するかを指定します。最終モードではファイルが更新されます。値は次のとおりです。

ブランク: テスト・モード

1: 最終モード

注意: このプログラムは、最終モードで実行する前にテスト・モードで実行することをお勧めします。

4. 例外の印刷

レポートにすべてのレコードを出力するか、例外のみを出力するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 全品目を印刷する。

1: 例外のみを印刷する。

5. 期限切れレコードの削除

期限切れレコードを削除するか、履歴目的で保存するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 期限切れレコードを削除しない。

1: 期限切れレコードを削除する。

品目販売価格レベルの換算プログラムの実行

「上級/技術的操作」(G4231)、「販売価格レベルの換算」を選択します。

異なる通貨を使用した基本価格の新規作成

この項では、異なる通貨による基本価格の新規作成の概要と次の方法について説明します。

- 通貨別基本価格の生成プログラム(R410601)の処理オプションの設定
- 新しい通貨および基本価格の生成

異なる通貨を使用した新しい基本価格について

基本価格/通貨の生成プログラム(R410601)を実行すると、複数のレコード用に異なる通貨による新しい基本価格を一度に作成できます。このプログラムは、既存のレコードに基づいて新しい基本価格を生成します。

基本価格/通貨の生成プログラムは、異なる通貨で複数の基本価格レコードを作成する必要がある場合に非常に役に立ちます。たとえばこのプログラムは、基本価格レコードにない通貨を使用する顧客と取引する場合などに使用します。1件のレコードについて新しい価格を作成する場合は、「基本価格の改訂」フォームで既存のレコードを更新します。この場合はこのプログラムを実行する必要はありません。

基本価格/通貨の生成プログラムを実行する際は、次の処理オプションを使用して新しい基本価格を作成する通貨と為替レートを制御します。

基本価格/通貨の生成プログラムは、当初の基本価格レコードのコピー、新しい金額の計算、および新しい通貨の金額による価格レコードの作成を行います。このプログラムでは、次の処理が実行されます。

- 単位ごとに新しい基本価格レコードを1件だけ作成する。
すでにレコードが存在する場合は、通貨の価格レコードは作成されません。ただし、品目に関連付けられた通貨コードに複数の異なる有効終了日付がある場合は除きます。日付に応じて、プログラムにより新しい価格レコードが複数作成されることがあります。
- 次のように、基本価格/通貨の生成プログラムをまずテスト・モードで実行し、その後で最終モードで実行する。

- テスト・モード

監査レポートを検討して、生成されたレコードが正しいかを確認します。監査レポートが不正確な場合、処理オプションとデータ選択の値を変更した上でプログラムをテスト・モードで再実行してください。

- 最終モード

テスト・モードで作成した監査レポートが正しいければ、プログラムを最終モードで実行してください。監査レポートで新しい基本価格レコードを検討します。「基本価格の改訂」フォームで新しいレコードの検討もできます。金額は、単価(UPRC)のデータ辞書に設定されている小数点以下の桁数に従って丸められることに注意してください。

必要に応じて「基本価格の改訂」フォームで、新しい基本価格レコードを手入力により調整してください。たとえば、50,000円に対して作成された新しい基本価格が675.1155カナダ・ドルであれば、675カナダ・ドルに手入力で変更できます。

例: 新しい基本価格の生成

この例では、基本価格レコードを持つ品目について、異なる通貨で新規の基本価格を生成する前と後について説明します。

新規の基本価格を生成する前、既存の品目に次の基本価格レコードがあるとします。

単価	単位	通貨コード
1,000.00	EA	USD
1,563.00	EA	CAD
642.26	EA	GBP

基本価格/通貨の生成プログラムの処理オプションを次のように設定します。

- 実行モード
 - モード = 1 (最終)
 - 日付 = 6月30日
- 通貨
 - 換算先 = ユーロ
 - 換算元 = 米ドル
 - 為替レート = 1.02011
 - 方式 = 1 (乗数)

品目に複数の通貨金額が関連付けられている場合でも、米ドル価格に基づいて新しいユーロ金額が1つだけ生成されます。

基本価格/通貨の生成プログラムで、1,000.00米ドルのレコードを基に1,020.11ユーロの新しい価格レコードが生成されました。元のレコード、1,000.00米ドルは、顧客への請求に必要なときのためにそのまま残ります。基本の品目には、次のように新しい価格レコードができました。

単価	単位	通貨コード
1,020.11	EA	EUR
1,000.00	EA	USD
1,563.00	EA	CAD
642.26	EA	GBP

1,020.11ユーロの新しい価格レコードが生成された後は、既存の価格レコードの有効日付が処理オプションに入力した日付以降にならないかぎり、その品目に対し新しい価格レコードは生成されません。

基本価格/通貨の生成プログラムのデータ選択

通常、新しい基本価格は特定の事業所の顧客すべてに対して作成します。別通貨を使用する事業所が複数ある場合、基本価格/通貨の生成プログラムを繰り返して実行できます。事業所を持たない基本価格レコードには、データ選択で事業所にブランクを指定してください。

通貨別基本価格の生成プログラム(R410601)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、プログラム実行時の処理モードを制御し、通貨データを指定します。

実行モード

この処理オプションでは、プログラムをテスト・モードと最終モードのどちらで実行するかを指定し、新規価格レコード生成時に使用する日付を決定します。

処理するモード(テストまたは最終)

プログラムをテスト・モードと最終モードのいずれで実行するかを指定します。いずれのモードでも監査レポートが生成されます。最終モードではファイルが更新されます。値は次のとおりです。

ブランク: テスト・モード

1: 最終モード

価格レコード日付 生成する価格レコードの決定に使用する日付を入力します。価格の有効期限が入力された日付以降の場合、新しい価格レコードが作成されます。この処理オプションを空白にすると、システム日付が使用されます。

通貨

この処理オプションでは、通貨コード、通貨換算レートおよび換算方法を指定します。

換算先通貨コード 換算先の通貨コードを入力します。

換算元通貨コード 換算元の通貨コードを入力します。

通貨換算レート 為替レートを表す数値を入力します。外貨金額に為替レートを乗じて、国内通貨金額を計算します。このフィールドには最大で小数点以下7桁まで入力できます。これ以上の桁数を入力すると、最も近い小数点以下7桁の数値に調整されます。

換算方法 現行価格を通貨換算レートで乗算するか除算するかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 現行価格は通貨換算レートで除算されます。

1: 現行価格と通貨換算レートは乗算されます。

新しい基本価格/通貨の生成

「価格管理」(G4222)、「基本価格/通貨の生成」を選択します。

第 14 章

請求書作成

この章では、請求書作成の概要と、次の方法について説明します。

- 標準請求書の印刷
- 請求書サイクルの設定
- サイクル請求の実行

注意: アルゼンチン、チリ、中国およびペルーには、請求書作成のための国別機能が用意されています。

請求書について

出荷/積荷確認で受注明細行を処理して必要な請求および支払運賃計算を実行すると、納品した商品の請求書を発行できます。顧客のニーズに合う請求スケジュール用サイクルを設定することが可能です。たとえば、1か月の全出荷に対する請求書を月末にまとめて受け取ることを希望する顧客もいれば、特定の品目に対する週次の請求を希望する顧客もいます。

請求書には、オーダーに関する次のような情報が記載されます。

- 品目、数量、価格
- 出荷日付および支払期日
- 追加料金および適用可能な割引

請求書処理をスムーズに行うため顧客固有の情報を設定できます。優先情報、サイクル計算ルールおよびスケジュールを組み合わせて、会社のビジネス・ニーズに適した請求書を印刷することが可能です。

請求書サイクルを設定すると、顧客および品目との組合せに応じて、異なる請求書サイクル計算ルールやスケジュールを適用できます。請求書サイクルを設定するためには、請求書サイクル計算ルールを設定し、請求書サイクル優先情報を作成します。計画請求書日付を計算するにはサイクル請求プログラム (R49700) を使用します。請求書日付の計画後、請求書印刷プログラム (R42565) を適切なタイミングで実行して、請求書の個別印刷や一括印刷を行います。

標準請求書の印刷

この項では、請求書印刷プログラムの概要、キット構成部品および親品目の請求書作成の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 請求書印刷プログラム (R42565) の処理オプションの設定
- 請求書印刷プログラムの実行

請求書印刷プログラムについて

請求書印刷プログラム(R42565)により、受注オーダー明細テーブル(F4211)の次のフィールドが更新されます。

- 請求書番号
 - 請求書日付
 - 請求書伝票タイプ
 - 状況コード(売上更新プログラム(R42800)の実行がプログラムにより次状況コードとして指定されます)
- システムが次の処理のために選択する次状況コードを指定する必要があります。

注意: 請求書グループは、テスト・モードまたは最終モードのどちらかで一括して処理および印刷できます。R42565プログラムをテスト・モードで実行すると、状況コードやファイルの更新は行われません。テスト・モードは、受注オーダー承認書または請求書再印刷など他の機能にも使用できます。テスト・モードで請求書を正しく処理するには、バージョンXJDE0005またはこのバージョンのコピーを実行してください。

請求書タイプ

顧客に対する請求書のタイプを次の中から1つ指定します。

請求書タイプ	説明
個別請求書	顧客が発注した各オーダーに対して個別の請求書が印刷されます。
合計請求書	<p>複数の受注オーダーが1つの請求書にまとめられます。顧客請求指示のオプションで請求書をまとめるように設定できます。請求書をまとめると、売掛金と元帳の項目がまとめられます。</p> <p>合計請求書を実行するときにシステムによって売掛金番号が自動的に割り当てられないようにするには、請求書番号を割り当てる売上更新プログラムのバージョンを選択する必要があります。</p>
集計請求書	各行品目の品目番号、原価、価格が同じ場合は、複数の行品目がまとめられます。たとえば同じ品目を複数の場所に出荷する場合、特定の請求先に送られる請求書の行品目をまとめることができます。

注意: 請求書を合計または集計のいずれかで実行することはできますが、合計と集計を同時に行うことはできません。

通貨

請求書に正味金額、税額、および総額を印刷する場合には、通貨を決定できます。R42565プログラムの処理オプションを設定すると、国内通貨、外貨、または次の2つの通貨で金額を印刷できます。

- 国内通貨と仮定通貨
- 外貨と仮定通貨

請求書印刷プログラムでは仮定通貨を使って処理を実行して、別の通貨で入力されたように請求書金額が印刷されます。仮定通貨処理の利点の1つは、ディスク・スペースを必要としないことです。仮定通貨額は一時的に請求書印刷ファイル・テーブル (F42565) に保存され請求書処理後に削除されます。

外貨と仮定通貨で印刷するときには、請求書印刷プログラムは次の処理を実行します。

- 受注オーダーの国内通貨金額に基づいて、外貨と仮定通貨で金額を計算する。
- 請求書日付ではなく、受注オーダー日付の為替レートを使用する。
- 外貨金額は各明細行のみに印刷する。

また、仮定通貨で請求書に金額を印刷する場合、同じ仮定通貨で税集計が印刷されるよう処理オプションを設定できます。

税

税集計情報は次のいずれかに従って、国内通貨/外貨、および仮定通貨で印刷できます。

- 税グループ - 課税対象金額合計
- 税域 - 県などの税域
- 納税先 - 市などその地域における納税先

オーダーに異なる税率で課税される品目がある場合、その税額は計算されますが税率のかわりに「N/A (不適用)」と印刷されます。税額の計算は出荷する品目に対してのみ行われます。請求書のバックオーダー品目には、税額情報は記載されません。また、仮定通貨で請求書に金額を印刷する場合、同じ仮定通貨で税集計が印刷されるよう処理オプションを設定できます。

会社間請求書

会社間の受注オーダーは、請求書の処理中、販売事業所への請求書が印刷される点を除けば、その他の受注オーダーと同様に処理されます。

受注オーダー入力プログラム (P4210) の事業所間処理オプションで、会社間伝票タイプを指定する必要があります。これにより受注オーダー明細 - タグ・ファイル・テーブル (F49211) に受注明細レコードが作成されます。R42565プログラムを使用して会社間オーダーを処理した後で、会社間請求書番号を使用してF49211テーブルが更新されます。

会社間請求書は、R42565プログラムまたはサイクル請求プログラム (R49700) の通常の請求処理で印刷できます。ただし、顧客請求書と会社間請求書は同時には印刷できません。会社間請求書で合計請求書を印刷するには、販売事業所の顧客請求指示でこの機能を指定する必要があります。

会社間請求書を生成する場合、受注オーダー入力 (P4210)、出荷確認バッチ・アプリケーション (R42500)、請求書印刷 (R42565)、売上更新 (R42800) の各プログラムで会社間伝票タイプと同じタイプを指定する必要があります。

キット構成部品および親品目の請求書作成について

キット構成部品が個々に処理されるときに各構成品の請求書が作成されるように請求書印刷プログラム (R42565) の処理オプションを設定する場合、売上更新プログラム (R42800) を実行する前にR42565プログラムを実行する必要があります。

親品目と構成品のレベルで数量が重複して会計処理されることを回避するため、キットの親品目に対する累計の請求書金額がシステム内で管理されます。この金額は、そのキットに対して今日までに請求された合計金額になります。キットの請求書金額を計算する際は、請求書金額がキットの親品目の合計価格を超えないように、累計の請求書金額と現在の取引金額の合計が検証されます。未請求の残額に等しくなるように取引金額が減算されます。これが、親品目の合計価格と累計の請求書金額の差になります。構成品の請求書の作成によって累計額が変化する場合、キットの親品目の受注オーダー明細行の状況は、販売明細実績テーブル(F42199)でレコードの作成に設定されている必要があります。

受注オーダーのキットの親行が出荷確認またはバックオーダー・リリースによる部分的な処理のために分割される場合、累計額の残りが評価されキットの新しい親行に再割当されます。元の行に残っている合計価格が今日までに請求された合計金額以上の場合、元の行の値が保持されます。元の行に残っている合計価格が今日までに請求された合計金額未満の場合、超過額が新しい親行に再割当されます。

キットの各取引の構成品数量は、「キット残数調整ウィンドウ」フォームで操作できます。数量を調整すると、キットの処理の完了後に、残額が発生する場合があります。この場合、前回の取引の請求書価格が調整され、残額の処理に必要な金額が追加されます。親品目で請求される残額が今日までに請求された合計金額より大きく、これ以上の出荷が行われない場合、この差異が最終取引の請求書金額に追加されます。

注意: 構成品の請求書は、R42565プログラムでのみ作成できます。請求書をオンラインで確認するには、受注オーダーの請求書情報を照会する前に、R42565プログラムを実行する必要があります。F4101テーブルの「キット/コンフィギュレータ価格設定方法」フィールドが「2」(最終キットの価格表)に設定されている場合は、構成品には単価がないため、構成品の請求書は作成できません。

例: 構成品の部分出荷と親品目の一括出荷

数量100のポーカール・チップ・キットの受注オーダーがあります。

行番号	品目番号	親番号	親行番号	オーダー数量	出荷数量	単価	合計価格	累計額
1.000	PDH01	PDH01	0	100	100	18.00	1800.00	
1.010	CHIP01	PHD01	1.000	200	200	5.00		
1.020	CHIP02	PHD01	1.000	200	200	6.00		

キット構成品CHIP01を100ユニット出荷すると、次の処理が行われます。

- 構成品行を分割します。
- 構成品の単価を使用して、100ユニットの請求書を作成します(100 × 5.00 = 500.00)。
- 親品目の累計額を更新します。

この受注オーダーは次のようになります。

行番号	品目番号	親番号	親行番号	オーダー数量	出荷数量	単価	合計価格	累計額
1.000	PDH01		0	100	100	18.00	1800.00	500.00
1.010	CHIP01	PHD01	1.000	100	100	5.00	500.00	

行番号	品目番号	親番号	親行番号	オーダー 数量	出荷数量	単価	合計価格	累計額
1.011	CHIP01	PHD01	1.000	100	100	5.00		
1.020	CHIP02	PHD01	1.000	200	200	6.00		

次に、親品目PDH01を100ユニット出荷すると、次の処理が行われます。

- 構成部品CHIP01の残りの100ユニットを出荷します。
- 追加構成部品CHIP02を出荷します。
- 合計価格の残額に対して親品目の請求書を作成します(1800.00 - 500.00 = 1300.00)。
- 親品目の累計額を更新します。
- 親品目の請求書に追加構成部品が含まれる場合、追加構成部品の請求書は個別には作成しません。

例: 構成部品の部分出荷と親品目の部分出荷

数量100のポーカー・チップ・キットの受注オーダーがあります。

行番号	品目番号	親番号	親行番号	オーダー 数量	出荷数量	単価	合計価格	累計額
1.000	PDH01		0	100	100	18.00	1800.00	
1.010	CHIP01	PHD01	1.000	200	200	5.00		
1.020	CHIP02	PHD01	1.000	200	200	6.00		

キット構成部品CHIP01を100ユニット出荷すると、次の処理が行われます。

- 構成部品行を分割します。
- 構成部品の単価を使用して、100ユニットの請求書を作成します(100 × 5.00 = 500.00)。
- 親品目の累計額を更新します。

この受注オーダーは次のようになります。

行番号	品目番号	親番号	親行番号	オーダー 数量	出荷数量	単価	合計価格	累計額
1.000	PDH01		0	100	100	18.00	1800.00	500.00
1.010	CHIP01	PHD01	1.000	100	100	5.00	500.00	
1.011	CHIP01	PHD01	1.000	100	100	5.00		
1.020	CHIP02	PHD01	1.000	200	200	6.00		

次に、親品目PDH01を10ユニット出荷すると、次の処理が行われます。

- 構成部品CHIP01およびCHIP02を20ユニットずつ出荷します。

- ・ 構成品行と親行を分割します。
 - ・ 親行と構成品行のオーダー数量、出荷数量および合計価格を更新します。
 - ・ 金額はすでに請求されていて請求残額はゼロであるため、10ユニットの親品目に対して請求書を請求額ゼロで作成します。
 - ・ 親品目の累計額を更新します。
 - ・ 元の親の超過累計額を新しい親行に割り当てます ($500.00 - 180.00 = 320.00$)。
 - ・ 親品目の請求書に追加構成品が含まれる場合、追加構成品の請求書は個別には作成しません。
- この受注オーダーは次のようになります。

行番号	品目番号	親番号	親行番号	オーダー数量	出荷数量	単価	合計価格	累計額
1.000	PDH01		0	10	10	18.00	180.00	180.00
1.010	CHIP01	PHD01	1.000	100	100	5.00	500.00	
1.011	CHIP01	PHD01	1.000	20	20	5.00		
1.020	CHIP02	PHD01	1.000	20	20	6.00		
2.000	PDH01		0	90	90	18.00	1620.00	320.00
2.010	CHIP01	PHD01	2.000	80	80	5.00		
2.020	CHIP02	PHD01	2.000	180	180	6.00		

最後に、親品目PDH01の残りの90ユニットを出荷します。システムによって次の処理が行われます。

- ・ 構成品CHIP01およびCHIP02の残りを出荷します。
 - ・ 合計価格の残額に対して親品目の請求書を作成します ($1620.00 - 320.00 = 1300.00$)。
 - ・ 親品目の累計額を更新します。
 - ・ 親品目の請求書に追加構成品が含まれる場合、追加構成品の請求書は個別には作成しません。
- この受注オーダーは次のようになります。

行番号	品目番号	親番号	親行番号	オーダー数量	出荷数量	単価	合計価格	累計額
1.000	PDH01		0	10	10	18.00	180.00	180.00
1.010	CHIP01	PHD01	1.000	100	100	5.00	500.00	
1.011	CHIP01	PHD01	1.000	20	20	5.00		
1.020	CHIP02	PHD01	1.000	20	20	6.00		
2.000	PDH01		0	90	90	18.00	1620.00	1620.00

行番号	品目番号	親番号	親行番号	オーダー 数量	出荷数量	単価	合計価格	累計額
2.010	CHIP01	PHD01	2.000	80	80	5.00		
2.020	CHIP02	PHD01	2.000	180	180	6.00		

外貨

外貨建て取引に対するキット構成品の請求書を作成するときは、国内合計金額とは別に外貨の合計金額が検証されます。金額を別々に検証することで、請求書の計算に通貨換算が追加されることを防止できます。ただし、この処理によって、取引の一方に国内通貨または外貨の値が記載された請求書が作成され、取引の他方の値がゼロになる場合があります。一般に、このような未決算の請求書の値は小額であり、このような請求書が作成されることはあまりありません。こうした請求書は、会社の商慣習に基づいて処理してください。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 受注オーダーの状況コードが、請求書の印刷用のコードになっていることを確認してください。
- 顧客セットを使用する場合は、請求書印刷プログラム (R42565) で顧客セットに属するすべての対象が表示されるよう、事業所品目プログラム (P41026) で顧客セットのシステム固定情報が有効になっていることを確認してください。

請求書印刷プログラム (R42565) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、システム・デフォルト値の設定、印刷パラメータの定義、原価および価格の更新処理の指定、データの処理方法の定義を行います。

デフォルト

この処理オプションを使用して、システムが使用するデフォルト値を指定します。

- 1. 開始状況コード、2. 終了状況コード** 請求書印刷を行うオーダー選択の範囲指定に使用される開始および終了の状況コードを指定します。
 オーダー処理規則のユーザー定義コード (UDC) テーブル 40/AT に設定されている状況コードを使用する必要があります。開始状況コードと終了状況コードの組合せは、オーダー処理規則テーブル (F40203) にある有効な前状況と次状況の組合せである必要があります。
- 3. 基準日状況** 前状況または次状況に従って、受注オーダー明細テーブル (F4211) を選択するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 - 1: 前状況に基づいて選択します。
 - 2: 次状況に基づいて選択します。
- 4. 一時変更用次状況コード** オーダー処理の次のステップを示す UDC 40/AT の値を指定します。指定する UDC は、使用中のオーダー・タイプと行タイプに基づいて、オーダー処理規則テーブル (F40203) で設定されている必要があります。
 一時変更状況は請求処理で実行できる別のステップであり、省略可です。開始状況と一時変更用の次状況の組合せは、F40203 テーブルの前状況と次状況の有効な組合せになっている必要があります。

- 5. 次状況の更新回避** オーダー処理規則テーブルを基に次状況が更新されないようにするかどうかを指定します。UDC 40/ATから指定するユーザー・コードは、使用するオーダー・タイプと行タイプに基づいてオーダー処理規則テーブル(F40203)に設定する必要があります。値は次のとおりです。
 ブランク: 次状況を更新します。
 1: 次状況を更新しません。
- 6. 売掛金番号の割当** 売掛金番号をトランザクションに割り当てるかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 請求書がテスト・モードで処理されている場合、売掛金番号をトランザクションに割り当てます。
 1: 処理中、売掛金番号を割り当てません。
- 7. 売掛金自動採番の割当** 売掛金の自動採番の割当に使用するインデックス番号を指定します。売掛金の自動採番の割当には、10種類の順序設定バケットから選択できます。この処理オプションをブランクにすると、01が使用されます。
- 8. 請求書伝票タイプ** 請求書に割り当てられた伝票タイプを指定するUDC 00/DTの値を指定します。
 UDC 00/DTで設定されている伝票タイプを使用してください。この処理オプションをブランクにすると、伝票タイプRIが使用されます。

印刷

この処理オプションを使用して、印刷するデータを指定します。

- 1. 請求書日付** 請求書に記載される日付を入力します。この処理オプションをブランクにすると、システム日付が印字されます。
- 2. バックオーダー行/取消行の印刷** バックオーダー行、取消行、またはこの両方を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 1: バックオーダー行を印刷します。
 2: 取消行を印刷します。
 3: バックオーダー行と取消行の両方を印刷します。
 4: バックオーダー行または取消行を印刷しません。
- 3. バックオーダー行の合計価格の印刷** バックオーダー品目の合計価格を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: バックオーダー品目の合計価格を印刷しません。
 1: バックオーダー品目の合計価格を印刷します。
- 4. バックオーダー行の印刷回数** バックオーダー行と取消行を複数回印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: バックオーダー行および取消行を複数回印刷します。
 1: バックオーダー行と取消行を1回印刷します。
- 5. 原価小計の印刷** 合計原価と売上総利益率を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 合計原価と売上利益率を印刷しません。

- 1: 合計原価と売上利益率を印刷します。
この処理オプションを1に設定する場合は、合計原価が印刷されるように印刷の向きを横長に設定してください。
- 6. 提示割引の印刷** 顧客に適用できる値引を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 適用できる値引を印刷しません。
1: 顧客に適用できる値引を印刷します。
- 7. キット構成品行の印刷** キットの構成品行を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: キット構成品行を印刷しません。
1: キット構成品行を印刷します。
JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータを使用する場合は、1に設定してください。
- 8. 引当予定行の印刷** 将来引当行を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 将来引当行を印刷しません。
1: 将来引当行を印刷します。
- 9. 品目番号の印刷** 自社の品目番号に添えて、顧客の品目番号を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 自社の品目番号のみを印刷します。
1: 自社の品目番号とともに、顧客の品目番号を印刷します。
この処理オプションを空白にすると、自社の品目番号のみが印刷されます。
- 10. 顧客相互参照** 請求書に顧客の品目番号を印刷する場合、顧客の品目番号を識別する相互参照コードを指定するUDC 41/DTの値を入力します。
- 11. 品目の集計** 各行品目の品目番号、原価、価格が同一である場合、同じ品目に関する複数行を集計するかどうかを指定します。たとえば同じ品目を複数の場所に出荷する場合、特定の請求先に送られる請求書の行品目をまとめることがあります。値は次のとおりです。
空白または1: 各行品目の品目番号、原価、価格が同一である場合は、複数の行品目が集計されます。
この処理オプションを1に設定すると、次のフィールドを基準に集計が行われます。
- 第2品目番号
 - 単価
 - 単位
 - 行タイプ
 - 価格設定単位
 - 伝票番号
 - 伝票タイプ
 - 伝票会社

キット品目の処理を行う場合は、このオプションを1に設定してください。

2: 引当ごとに分割された品目集計を印刷します。

このオプションを2に設定すると、次のフィールドを基準に集計が行われます。

- オーダー番号
- オーダー・タイプ
- オーダー会社
- 行番号
- 単価
- 単位
- 行タイプ
- 価格設定単位

12. シリアル番号の印刷

請求書にシリアル番号を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 請求書にシリアル番号を印刷しません。

1: 請求書にシリアル番号を印刷します。

13. 外貨での印刷

外貨を印刷するかどうかを指定します。有効値は次のとおりです。

ブランク: 外貨を印刷しません。

1: 外貨を印刷します。

14. 税集計の印刷

請求書に税集計情報を印刷するかどうかを指定します。税情報の集計は、このオプションの設定に従って行われます。値は次のとおりです。

ブランク: 税集計情報を印刷しません。

1: グループ別に税集計情報を請求書に印刷します。

2: 税域別に税集計情報を請求書に印刷します。

3: 納税先別に税集計情報を請求書に印刷します。

15. 一括印刷メッセージ

各請求書に印刷される一括印刷メッセージを指定するUDC 40/PMの値を入力します。

16. 関連テキストの印刷

受注オーダーの関連テキストを請求書に印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 受注オーダーの関連テキストを請求書に印刷しません。

1: 関連テキストを印刷します。

1に設定すると、受注オーダー見出しと受注オーダー明細の両方の関連テキストを印刷します。

17. 手形の印刷

手形を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 手形を印刷しません。

1: 手形を印刷します。

- 18. 手形の振出し** 手形を振り出す市の名前を入力します。ここに市の名前を入力すると、手形に表示されます。
- 19. メッセージ優先情報の印刷** 受注オーダーに表示される品目番号と顧客番号の組合せに対するユーザー定義の印刷メッセージ優先情報を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: ユーザー定義の印刷メッセージ優先情報を印刷しません。
1: ユーザー定義の印刷メッセージ優先情報を印刷します。
- 20. 仮定通貨コード** 正味金額、売上税額、オーダー合計金額を請求書に印刷する際の仮定通貨を指定します。請求書印刷プログラム (R42565) では仮定通貨を使用して処理を実行し、国内通貨または外貨以外の通貨で入力されたかのように請求書金額が計算されて印刷されます。
- 21. 仮定通貨での税集計** 税集計金額を仮定通貨で印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 税集計情報を仮定通貨で印刷しません。
1: 税集計情報を仮定通貨で印刷します。
「仮定通貨」処理オプションで指定された通貨コードと、「仮定通貨コード」処理オプションで指定されたフォーマットが使用されます。
- 22. 追加見出しテキストの印刷** レポートのページ見出しに追加見出しテキストを印刷するかどうかを指定します。追加見出しテキストは、伝票がオリジナルか再印刷であることを識別します。値は次のとおりです。
空白: 追加見出しテキストを印刷しません。
1: 文書がオリジナルであることを示す追加見出しテキストを印刷します。
2: 文書が再印刷であることを示す追加見出しテキストを印刷します。
- 23. 住所への転送のコピーの印刷** 転送先住所に送付する請求書のコピーを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 転送先住所を印刷しません。
1: 転送先住所へ請求書のコピーを印刷します。
- 24. 仕入先税IDの印刷** 仕入先(事業所)税IDを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 仕入先税IDを印刷しません。
1: 仕入先税IDを印刷します。

原価/価格の更新

この処理オプションを使用して、原価の処理方法および使用する原価プログラムのバージョンを指定します。

- 1. 原価の更新** 請求書を印刷する前に、品目の原価、価格、または為替レートを更新するかどうかを指定します。選択されたすべての受注オーダーは、現行の原価、為替レート、価格に更新されます。売上高総利益率が正確に計算されていることを確認するために、売上原価の更新を実行できます。購買原価や製造原価が頻繁に変更される場合や更新していない期間が長いオーダーの場合、この更新を実行します。値は次のとおりです。

空白: 請求書を印刷する前に、品目の原価を更新しません。

1: 請求書を印刷する前に、受注オーダー価格/原価のバッチ更新プログラム(R42950)を使用して原価を更新します。

注意: 原価が更新されるのは、在庫がリリースされていない場合に限られます。

2. 販売価格/売上原価の更新バージョン(R42950)

請求書の印刷前に原価を更新するために使用される受注オーダー価格/原価のバッチ更新プログラム(R42950)のバージョンを入力します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

事業所間オーダーでは、価格情報を更新し、またトランザクションに関する事業所の為替レートを指定するために、このプログラムの処理オプションを設定します。

前払

この処理オプションを使用して、前払を表示するかどうかを指定します。

1. 請求書への前払の表示 請求書に前払情報を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 請求書に前払情報を印刷しません。
1: 請求書に前払情報を印刷します。

処理

この処理オプションを使用して、システムで実行される処理を指定します。

1. 次状況優先情報の使用 将来使用するために予約されています。
次状況優先情報を使用するかどうかを指定します。請求書の印刷中に、システムが処理するすべての受注オーダー明細レコードについて上級優先情報を有効にする処理オプションです。値は次のとおりです。
空白: オーダー次状況優先情報を使用しません。
1: オーダー次状況優先情報を使用します。
2. 請求書選択の印刷 請求書の印刷を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 請求書を印刷します。
1: 請求書を印刷しません。
3. 請求するキット構成
品レベル 親品目とは別に、キットの構成品を請求するかどうかを指定します。キット構成品の請求は、コンフィギュレーション品目や、JD Edwards EnterpriseOne 輸送管理システムで出荷された品目には使用できません。値は次のとおりです。
空白: 構成レベルの請求は有効ではありません。構成レベルの請求は行われません。
1: 構成レベルの請求が有効です。請求書の実行中にキットの親品目と構成品の両方を選択すると、親品目レベルでのみ請求が行われます。

EDI

この処理オプションを使用して、電子データ交換(EDI)情報の処理方法を指定します。

- | | |
|--|---|
| 1. EDI処理選択 | EDI機能を使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: EDI処理を有効にしません。
1: EDI処理を有効にします。 |
| 2. EDIトランザクション・タイプ | EDIトランザクション・タイプを指定します。値は次のとおりです。
1: 請求書
2: 購買オーダー承認
3: 見積要求 |
| 3. EDI伝票タイプ | EDIトランザクションの伝票タイプを指定するUDC 00/DTの値を入力します。
UDC 00/DTで設定されている伝票タイプを使用してください。 |
| 4. EDIトランザクション・セット番号 | EDI処理のトランザクション・セット番号を示すUDC 40/STの値を入力します。
UDCテーブル40/STで設定されているトランザクション・セット番号を使用してください。 |
| 5. EDI変換フォーマット | EDIトランザクションの変換フォーマットを指定します。 |
| 6. 取引先ID | EDI取引先のID番号を指定します。 |
| 7. トランザクション・セット目的 | EDI処理のトランザクション・セットの目的を示すUDC 47/PUの値を入力します。
UDCテーブル47/PUで設定されているトランザクション・セット目的を使用してください。 |
| 8. 拡張EDI請求書の処理 | 将来使用するために予約されています。
請求書の印刷時に、EDI請求書拡張見出しテーブル (F470462) およびEDI請求書拡張明細テーブル (F470472) に自動入力するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: テーブルに自動入力しません。
1: テーブルに自動入力します。 |
| 9. 参照修飾子1、10. 参照修飾子2、11. 参照修飾子3、12. 参照修飾子4、13. 参照修飾子5 | 将来使用するために予約されています。
対応する出荷参照番号を見つけるために使用される参照修飾子を入力します。 |

内示調整

この処理オプションを使用して、内示調整の処理方法を指定します。

連絡先タイプ1、連絡先タイプ2、連絡先タイプ3、連絡先タイプ4、連絡先タイプ5 連絡先タイプの名前とID番号の取得で使用する連絡先タイプ修飾子を入力します。「EDI」タブの「拡張EDI請求書の処理」フィールドが有効になっていると、F470462テーブルに連絡先名とID番号が自動入力されます。

電子メール

この処理オプションを使用して、電子メールの処理方法を指定します。

- | | |
|---------------------|---|
| 1. 電子メール承認選択 | 請求書印刷プログラムを実行するときに、電子メール承認を送信するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 電子メール承認を送信しません。 |
|---------------------|---|

- | | |
|-------------------|---|
| | 1: 電子メール承認を送信します。 |
| 2. 電子メール・アドレス・タイプ | 人名録連絡先情報から電子メール・アドレスの作成と定義を行うときに使用されるUDC 01/ETの値を入力します。電子メール・アドレスは、承認の送付に使用されます。この処理オプションをブランクにすると、デフォルト値「E」が使用されます。 |
| 3. 金額を電子メールに含める | 電子メール承認にすべての行の金額と合計(オーダー合計金額、価格、合計金額、税など)を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 電子メール承認にすべての行の金額と合計を印刷しません。
1: 電子メール承認にすべての行の金額と合計を印刷します。 |
| 4. 電子メール見出しのメッセージ | 電子メール承認に含まれる一括印刷メッセージを指定するUDC 40/PMの値を入力します。この処理オプションをブランクにすると、一括印刷メッセージは含められません。 |
| 5. 電子メールの件名の行 | 電子メール承認の送信時に件名の行に設定されるテキストを指定するUDC 40/PMの値を入力します。この処理オプションをブランクにすると、件名の行はブランクになります。 |
| 6. 電子メールの送り手の住所番号 | 電子メール承認の送信者の名前と電子メール・アドレスを指定する住所番号を指定します。 |

請求書印刷プログラムの実行

「受注オーダー処理」(G4211)、「請求書印刷」を選択します。

請求書サイクルの設定

この項では、請求書サイクルの設定の概要と、次の方法について説明します。

- 請求書サイクル優先情報の作成
- 計画請求書日付範囲の追加

請求書サイクルの設定について

請求書サイクルを設定して、サイクル請求プログラム(R49700)の計画請求日付の計算方法を決定します。請求書サイクルを設定すると、顧客と品目の組合せに応じて、別々の請求書サイクル規則やスケジュールを適用できます。たとえば、1か月の全出荷に対する請求書を月末にまとめて受け取ることを希望する顧客もいれば、特定の品目に対する週次の請求を希望する顧客もいます。

請求書サイクル計算ルールを設定して、請求書日付の計算に使用される計算タイプを定義します。請求書サイクルを設定した後、請求書サイクル優先情報を使用して、顧客と品目の組合せに対してそのルールを割り当てます。必要があれば、計画請求日付を後から変更することもできます。

納品を確認したらR49700プログラムを使用して処理を行います。R49700プログラムでは、請求書サイクル優先情報、請求書サイクル計算ルール、計画請求書日付範囲を基に計画請求書日付が算出されます。次に、請求書印刷プログラム(R42565)を実行し、顧客に送信する請求書を作成します。

請求書サイクル優先情報

請求書サイクル優先情報は、顧客番号、顧客グループ、品目番号、または品目グループの組合せに基づいて請求書サイクルを割り当てるために設定します。組合せは優先階層で定義されます。たとえば、すべての顧客がすべての品目に対して同じ請求書サイクルを使用する場合、優先階層はすべての顧客およびすべての品目に対して設定されます。請求書サイクルは、必要であれば追加できます。

請求書サイクル計算ルール

請求書サイクル計算ルールを設定して、請求書日付の計算に使用される計算タイプを定義します。たとえば、日次、隔週、または基準日に請求が行われるように設定できます。定義した後、テスト用の日付で計算した請求書日付を検討することにより、計算の設定が正しいかどうかを確認できます。

計算ルールが、隔週、半月ごと、または月末の場合には、計画請求書日付の範囲も設定する必要があります。

次の表に示す請求書サイクルの計算ルールはハードコード化されており、特定の設定が必要です。

計算ルール	必要な設定
日次請求	<ul style="list-style-type: none"> 「曜日コード」はblankに設定します。 「基準日コード」はゼロに設定します。 「増分日数」の設定は任意です。
週次請求	<ul style="list-style-type: none"> 「基準日コード」、および「曜日コード」は必ず設定します。 「増分日数」の設定は任意です。
隔週請求	<ul style="list-style-type: none"> 「基準日コード」は必ず設定します。 「曜日コード」はblankに設定します。 「増分日数」の設定は任意です。
半月ごとの請求	<ul style="list-style-type: none"> 「基準日コード」は必ず設定します。 「曜日コード」はblankに設定します。 「増分日数」の設定は任意です。
月末請求	<ul style="list-style-type: none"> 「基準日コード」は必ず設定します。 「曜日コード」はblankに設定します。 「増分日数」の設定は任意です。
基準日請求	<ul style="list-style-type: none"> 「基準日コード」は必ず設定します。 「曜日コード」はblankに設定します。 「増分日数」の設定は任意です。

例: 計画請求書日付の計算

次の例は、R49700プログラムによる計画請求書日付の計算と、この計算が請求書の生成に与える影響を示します。請求書サイクル計算ルール用に入力する値は次のとおりです。

- 「基準日」フィールドはオーダーまたはトランザクション日付(9月27日)に設定されます。

- 「増分日数」フィールドは0に設定します。
- 「計算ルール」フィールドは月末に設定します。
- 計画請求書日付の範囲は次のとおりです。
 - 開始日は9月1日と10月1日です。
 - 終了日は9月30日と10月31日です。
 - 請求書日付は9月30日と10月31日です。

9月29日に納品確認が行われた場合は、次のイベントが発生します。

- 9月29日
R49700プログラムによりオーダー行が処理され、計画請求日付が9月30日と計算されます。計画請求日付がシステム日付(9月29日)以降であるため、R49700プログラムにより繰延仕訳が作成されます。
- 9月30日
計画請求日付がシステム日付以前であるため、R49700プログラムにより請求書が作成され、売上更新プログラム(R42800)により繰延仕訳が逆仕訳され必要な元帳仕訳の値が作成されます。

請求書サイクル用AAI(自動仕訳)

在庫品目の請求書サイクル情報を処理する場合には、次のAAIを設定する必要があります。

- 4221 - 繰延売上原価(COGS)
- 4231 - 繰延収益
- 4232 - 未請求売掛金

請求書サイクルのUDC

請求書サイクル処理で使用する次のUDCテーブルを設定する必要があります。

- 請求書サイクル - 40/CY
- 曜日コード - 42/DW
- 基準日コード - 42/DN
- 計算ルール - 42/CR

関連項目:

第 17 章、「優先情報の有効化」、417ページ

請求書サイクル優先情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
優先マスターの処理	W40070C	「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」	請求書について、優先レコードを検討し選択します。
請求書サイクルの処理	W40315A	「優先マスターの処理」フォームで「請求書サイクル」(15)を選択します。	請求書サイクル・レコードの確認と選択を行います。 選択された優先情報の組合せから請求書サイクルを作成します。
優先階層の選択	W40073F	「請求書サイクルの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	作成する請求書サイクルの優先情報の組合せを選択します。
請求書サイクル計算ルール	W40315F	レコードを選択し、「請求書サイクルの処理」フォームで「ロー」メニューの「計算ルール」を選択します。	請求書サイクル優先情報を作成します。
計画請求書日付	W40315D	「請求書サイクル計算ルール」フォームで、「フォーム」メニューの「計画請求書日付」を選択します。	計画請求書日付範囲を追加します。

請求書サイクル優先情報の作成

「請求書サイクル計算ルール」フォームにアクセスします。

優先マスター - 請求書サイクル計算ルール

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

保存

キャンセル

印刷

ヘルプ

会計年度

日付計算パラメータ

請求書サイクル	EOM	月末
計算ルール	5	月末
増分日数	0	
基準日コード	6	実際出荷日付
曜日コード	0	日付機能無視

請求書日付の検証テスト

テスト日付	テスト結果

「請求書サイクル計算ルール」フォーム

このフォームには請求書サイクルの計算ルールが表示されます。

- 会計年度

該当年度を2桁の数字で指定します。ブランクにすると、システム日付が使用されます。
- 請求書サイクル

請求書サイクルを入力します。使用する請求方法（日次、週次、月次など）の決定には、サイクル請求プログラム（R49700）の「請求書サイクル」フィールドが使用されます。
- 優先状況

優先情報を有効、または無効にするコードを指定します。値は次のとおりです。
1: 有効にします。
2: 無効にします。
- 計算ルール

計画請求書日付の算出に使用される計算の種類を定義するUDC JE42/CRの値を入力します。
- 増分日数

基準日に追加する日数を入力します。たとえば、オーダー日付と配送日付との間に数日の余裕を見るためにこのフィールドに入力を行うことがあります。このフィールドに入力された数値は、サイクル請求プログラム（R49700）が計画請求書日付を計算するときに基準日に加えられます。
- 基準日コード

計画請求書日付の計算に使用される、受注オーダー見出しまたは受注オーダー明細のいずれかが指定された日付フィールドの名前のUDC 42/DNの値を入力します。

たとえば、顧客が配送時に請求書を要求している場合は、配送確認日付を選択します。

曜日コード 請求書印刷プログラム(R42565)が顧客の請求書を作成する曜日を定義するUDC JE42/DWの値を入力します。このフィールドは、毎週同じ曜日に顧客に請求を行うのでないかぎり、ブランクにしておきます。このフィールドは週次請求書計算ルールを使用する場合にのみ設定します。

計画請求書日付範囲の追加

「計画請求書日付」フォームにアクセスします。

請求書日付 各有効日付の開始日から終了日に対応する特定の請求書日付を割り当てます。次の優先情報に関しては、増分日数は無視されます。

- 隔週
- 半月ごと
- 月次

サイクル請求の実行

この項では、サイクル請求の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- サイクル請求プログラム(R49700)の処理オプションの設定
- サイクル請求プログラムの実行

サイクル請求について

計画請求書日付を計算するにはサイクル請求プログラム(R49700)を使用します。R49700プログラムは、請求書サイクル優先情報および請求書サイクル計算ルールとともに使用するバッチ・プログラムです。請求書サイクル優先情報が検索されない場合、処理オプションで指定されたデフォルトの請求書サイクルが適用されます。

勘定科目に対して繰延仕訳が書き込まれるかどうかは、計画請求書日付によって決まります。計画請求書日付が現行日付よりも後の場合、請求書は請求書サイクルに投入されます。

R49700プログラムは、繰延売上原価、繰延収益、未請求売掛金を更新します。このプログラムは、データを確認する場合はテスト・モードで、データを更新する場合は最終モードで実行してください。

オーダーを顧客に納品後も、次の請求サイクルで請求が行われるまでオーダーは売上更新の対象とならないため、繰延仕訳が必要となります。システムがレコードを更新するのは、在庫が輸送段階を完了したと繰延請求を総勘定元帳に反映させるためです。

オーダーの計画請求書日付が現行日付またはそれ以前である場合は、次のいずれかの可能性があります。

- 請求書サイクルが日次である。
- 請求書サイクルがない。
- 現行日付がサイクル日付である。

オーダーはその夜の売上更新により処理されるため、繰延仕訳は作成されません。

サイクル請求と非サイクル請求のオーダー処理方法は異なります。次の表では、勘定科目の処理が非サイクル請求とサイクル請求とで異なる例を示しています。ここでの借方および貸方金額は各取引例の金額です。

非サイクル請求仕訳

この表では、非サイクル請求の勘定科目と対応する仕訳を示しています。

プログラム	勘定科目	AAI	借方	貸方
積荷確認	輸送中在庫	4241	410	
積荷確認	在庫	4240		410
顧客売上の更新	売上原価	4220	410	
顧客売上の更新	輸送中在庫	4241		410
顧客売上の更新	請求済売掛金		990	
顧客売上の更新	収益	4230		990

サイクル請求仕訳

この表では、サイクル請求在庫品目の勘定科目と対応する仕訳を示しています。

プログラム	勘定科目	AAI	借方	貸方
積荷確認	輸送中在庫	4241	410	
積荷確認	在庫	4240		410
サイクル請求	繰延売上原価	4221	410	
サイクル請求	輸送中在庫	4241		410
サイクル請求	未請求売掛金	4232	990	
サイクル請求	繰延収益	4231		990
顧客売上の更新	売上原価	4220	410	
顧客売上の更新	繰延売上原価	4221		410
顧客売上の更新	繰延収益	4231	990	
顧客売上の更新	収益	4230		990
顧客売上の更新	未請求売掛金	4232		990
請求書転記	売掛金	なし	990	

次の例外に注意してください。

- 積荷確認と配送確認が同時に発生した場合（つまり在庫が一度も積送中とみなされない場合）は、輸送積荷確認プログラム（P49640）で仕訳が作成されません。R49700プログラムでは、輸送中在庫ではなく在庫の貸方仕訳が作成されます。
- P49640プログラムで基本請求書を印刷した場合
繰延仕訳は生成されません。この場合、非サイクル請求仕訳が生成されます。

オーダーを積荷確認で処理し、請求/支払運賃計算を実行すると、オーダーは次にサイクル請求状況に進みます。配送伝票と同時に請求書を印刷したかどうかによって、R49700プログラムではオーダー行を次のように処理します。

- 受注オーダー行が請求された場合
R49700プログラムにより受注オーダー行の状況が変更され、定期請求の対象から外されます。オーダー行は「顧客売上の更新」の状況に更新されます。
- 受注オーダー行が請求されなかった場合
R49700プログラムにより請求書サイクル優先情報またはその処理オプションがチェックされ、計画請求請求書日付が算出されます。最終モードでR49700プログラムを実行すると、請求サイクルと計画請求書日付でF49211テーブルが更新されます。また受注オーダー行の状況が変更され、定期請求の対象になることを示します。プログラムは将来日付で請求するオーダー行の繰延仕訳を書き込みます。

サイクル請求トランザクション・レポートの検討

総勘定元帳の仕訳に誤記がないか検討する場合は、繰延仕訳用に作成されるサイクル請求トランザクション・レポートを確認できます。レポートには、特定のオーダー行に対する総勘定元帳仕訳が詳述されます。1件のオーダー行に対して最高4つまでの総勘定元帳仕訳が使用できます。R49700プログラムをテスト・モードで実行すると、最終モードでプログラムを実行する場合の総勘定元帳仕訳がレポートに表示されます。最終モードでプログラムを実行すると、レポートには実行済の更新情報が表示されます。

事前設定

デフォルト請求書サイクル用のUDCが設定されていることを確認してください。顧客と品目の組合せに対応する優先情報が見つからない場合、このコードが使用されます。

サイクル請求プログラム（R49700）の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、レポートのデフォルト値を設定します。

デフォルト1

この処理オプションでは、請求済オーダーおよび処理済オーダーの一時変更、呼び出される売上更新プログラム（R42800）のバージョンの決定、プログラムをテスト・モードと最終モードのどちらで実行するかの決定、およびデフォルトの請求書サイクルの指定を設定します。

- | | |
|----------------------------|--|
| 1. 請求済オーダーの次状況の一時変更 | すでに請求済のオーダーに使用する一時変更用次状況の値を指定します。 |
| 2. 処理中オーダーの次状況の一時変更 | 処理中オーダーの一時変更用次状況の値を指定します。値が指定されないと、オーダー状況フローの「次状況」の値が使用されます。 |
| 3. 売上更新バージョン | 処理オプションを取り込む売上更新プログラム（R42800）のバージョンを指定します。 |

- ## サイクル請求プログラムの実行

Copyright © 2003, 2008, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第 15 章

日次締め処理の実行

この章では、日次締め処理、仕訳バッチの検討/承認と仕訳バッチの転記についての概要、および次の方法について説明します。

- 顧客売上の更新
- 売上更新レポートの検討
- オーダーの再転記
- データの除去

注意: アルゼンチンには、国固有の日次締め処理が用意されています。

日次締め処理について

日次締め処理は受注オーダー処理の最終ステップであり、この処理には日次売上情報の更新、確認、転記が含まれます。JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムのレコード、およびそれと連動するJD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムやJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムなどの他のシステムのレコードが更新されるため、この処理は受注処理サイクルの中で最も重要なステップと言えます。

正確な売上情報を管理するために、日次締め処理は毎日行ってください。プログラムの実行後、売上情報の検討と転記を行い、レポートを印刷できます。

日次締め処理実行時にシステムが提供する情報は次のとおりです。

- 売掛金取引
- 在庫、売上原価(COGS)、収益、売掛金の仕訳
- 手持数量の在庫残高
- 日次活動レポート
- 中間売上レポート

日次ベースで売上レコードの更新を行わない場合、次の情報が不正確になることがあります。

- 手持数量の在庫残高
- 売上、在庫、売上原価、税、および運賃の勘定に転記された金額
- 売掛金明細に転記された金額
- 中間売上レポート

日次締め処理の実行には、次を行います。

1. 顧客売上の更新
2. 顧客売上更新レポートの検討

3. オーダーの再転記
4. 仕訳バッチの検討と承認
5. 仕訳バッチの転記
6. データの除去

仕訳バッチの検討/承認について

売上更新プログラム (R42800) で作成した全般的な仕訳を総勘定元帳に転記する前に検討することにより、正しい受注取引レコードを使用できます。

R42800プログラムは、仕訳帳に転記するために各取引をバッチ・タイプ別にグループ化します。

- 顧客売上 (バッチ・タイプIB)

売上高、売上原価および在庫に関する仕訳を顧客売上元帳へ転記します。

R42800プログラムの集計処理オプションで、集計または明細の形式で仕訳の書込みを設定している場合、バッチ・タイプIBが作成されます。

- 在庫/売上原価 (バッチ・タイプG)

在庫/売上原価仕訳に転記します。

顧客売上の更新プログラムの集計処理オプションで、売上原価と在庫の仕訳を個別バッチに集計するように設定した場合、各仕訳に対してバッチ・タイプGが作成されます。

各バッチの情報を次の3つのレベルで検討できます。

- 全般的なバッチの検討

ユーザーID、バッチ状況、バッチ番号、および入力日付範囲別にバッチを表示します。

- 詳細なバッチの検討

請求書番号、伝票タイプ、および総額などの、単一バッチに対する仕訳の見出し情報を表示します。

- 個別仕訳の検討

売上原価、在庫、または収益の勘定に対する借方の金額などの、仕訳の明細情報を表示します。

この情報を使用して、次のことができます。

- 状況や日付範囲など、各バッチに特定の情報を検討する。
- バッチ内の取引の追加または変更を行う。
- バッチの状況を変更する。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「バッチの処理」

仕訳のバッチ転記について

仕訳のバッチを検討し承認した後で、総勘定元帳への転記プログラム(R09801)を使用して、各取引タイプの編集および転記を行うことができます。

このプログラムでは、取引明細テーブル(F0911)用の取引バッチを編集し、バッチ状況を更新して勘定残高テーブル(F0902)への転記を可能にします。編集中にエラーが発生した場合は、バッチにエラー状況が割り当てられ、転記は行われません。

任意で、税テーブル(F0018)の税情報を更新することもできます。税ファイルが更新されなかったり更新が正しく行われなかった場合、その情報は再転記できません。

仕訳を転記した後に、仕訳のバッチが正しく転記されたことを確認します。このプログラムでは転記情報を確認するための各種メッセージとレポートも作成されます。

警告: R09801プログラムは多くの複雑なタスクを実行します。転記プログラムは、原則として構成しないください。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「財務取引の転記」、「財務転記処理について」

事業所間売上の転記

異なる会社の事業所間売上取引が転記される場合は、転記プログラムを使って会社間決済項目が作成され、2つの会社の残高が調整されます。

転記処理中の変更

転記の実行中は、勘定科目やJD Edwards EnterpriseOne受注管理システムのAAI(自動仕訳)、およびR09801プログラムの処理オプションを変更しないでください。

仕訳転記の確認

仕訳を転記した後に、仕訳のバッチが正しく転記されたことを確認します。転記されていないバッチがある場合には、バッチが転記される前にエラーをすべて修正し、バッチを承認済状況に設定する必要があります。R09801プログラムでは、転記情報を確認するための各種メッセージとレポートも作成されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「財務取引の転記」、「財務転記処理について」

メッセージの電子メールの検討

エラーが発生した場合、およびジョブが正常に終了した場合には、ワーク・センター・プログラム(P012503)に電子メールでメッセージが送信されます。転記プログラムの実行後は、ジョブの状況を確認するために電子メールをチェックする必要があります。ジョブが正常に終了していない場合、エラー・メッセージを検討します。通常は、ジョブにエラーがあることを伝えるメッセージが送信され、次にエラーの内容を説明するメッセージが1通以上送信されます。

エラー・メッセージから「バッチの処理」フォームにアクセスして、問題を特定し対話形式で変更できます。

総勘定元帳への転記レポートの検討

F0902テーブルとF0911テーブルに転記した取引を確認するには、総勘定元帳への転記レポートを確認します。

総勘定元帳への転記レポートには、正常に転記されたバッチの一覧が表示されます。バッチにエラーがあった場合、レポートの最後にエラーが検出されたことを示すメッセージが印刷されます。電子メールをチェックして詳細に関するメッセージを検討してください。電子メールから「バッチの処理」フォームと「仕訳入力」フォームにアクセスして、エラーを修正できます。

顧客売上の更新

この項では、売上更新プログラム、事業所間や会社間の取引、および売上更新プログラムが使用するAAIの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 売上更新プログラム(R42800)の処理オプションの設定
- 売上更新プログラムの実行

売上更新プログラムについて

可能な限り正確に売上情報を維持するために、JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムでレコードを毎日更新できます。売上更新プログラム(R42800)のバージョンを毎日実行して、可能な限り正確に売上情報を維持してください。JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムのレコード、およびそれと連動するJD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムやJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムなどのレコードが更新されます。このプログラムの実行後に、売上取引の検討、転記、およびレポートの印刷ができます。

注意: R42800プログラムでは多数の取引件数を処理するため、初めにテスト・モードでプログラムを実行してすべてのエラーを修正してから、最終モードで実行してください。

売上の更新中に、警告メッセージとエラー・メッセージを出力します。エラー・メッセージのみを出力する処理オプションを設定すると、システム・パフォーマンスを向上させることができます。

重要: だれもシステムを利用していない時間に売上更新を実行することをお勧めします。レコードはロックされません。このため、売上更新中に受注オーダー・レコードにアクセスすると、レコードが正しく処理されない可能性があります。

テーブルの更新

売上更新プログラムを実行すると、次の処理が行われます。

- 顧客売上情報
- 売掛金および総勘定元帳の仕訳
- 在庫売上、運賃、売上原価、利益パーセントなど、異なるカテゴリに対する売上
- プログラムの実行で発生したエラー

処理オプションの設定に応じて、次のものの更新、または作成が行われます。

- オーダー処理規則によるすべての状況コード。

たとえば、状況600を持つオーダー明細行はすべて、終了状況999に更新されます。

- 品目保管場所テーブル(F41021)、品目元帳テーブル(F4111)、および品目履歴テーブル(F4115)の手持在庫(出荷確認中に数量が更新されなかった場合)。

注意: F41021テーブルへの出力は、品目の手持数量を出荷確認時に差し引いたかどうかによって異なります。

- F41021テーブルのバルク製品の手持在庫。さらに、レコードがバルク製品トランザクション・ファイル・テーブル(F41511)に書き込まれます。
- 販売コミッション・ファイル・テーブル(F42005)のコミッション情報、および販売集計履歴(F4229)の売上原価および品目別売上の集計。
- 「999」、または受注オーダー明細テーブル(F4211)で指定された状況。
- 品目原価テーブル(F4105)の原価の現行情報、価格調整元帳テーブル(F4074)の価格。

注意: F4105テーブルは、在庫を出荷確認時に差し引いていない場合にのみ更新されます。

- 初回および最終の請求書日付や請求書の年累計などの請求書情報。
- 取引明細テーブル(F0911)、売掛金元帳テーブル(F03B11)、受注オーダー元帳ファイル・テーブル(F42199)。

注意: 受注オーダー見出しに入力するビジネスユニットは、F03B11テーブルの請求書を基に更新されるビジネスユニットです。

- 事業所間売上情報。
- シップ・アンド・デビット履歴テーブル(F4575)のシップ・アンド・デビット情報、およびシップ・アンド・デビット保証請求テーブル(F4576)。

処理オプションの設定に応じて、次のものが除去されます。

- メディア・オブジェクト保存テーブル(F00165)に入力した見出しと明細のテキスト。
- 受注オーダー見出しテーブル(F4201)のレコード。これらは受注オーダー見出し履歴ファイル・テーブル(F42019)へ送られます。
- 受注オーダー明細テーブル(F4211)のレコード。これらはF42199テーブルへ送られます。

請求書の印刷プログラム(R42565)で未処理の請求書が作成され、受注オーダーに請求書番号が割り当てられます。

顧客売上の更新に使用するバージョンおよびモードの選択

テーブルを更新するには、R42800プログラムの適切なバージョンを選択する必要があります。会社の処理に基づいて、バージョンを選択します。

・ 売上更新

このバージョンは、受注オーダーが請求書の印刷プログラム(R42565)で処理済で、F4211テーブルに請求書番号とタイプが記録されている場合に使用できます。

・ 請求書番号の割当

受注オーダーが請求書を印刷するR42565プログラムで処理されていない場合は、このバージョンを使用する必要があります。このプログラムでは請求書(売掛用)番号が割り当てられます。

R42800プログラムでは多数の取引件数を処理するため、初めにテスト・モードでプログラムを実行してすべてのエラーを検知し修正してから、最終モードで実行してください。次の表は、これらの処理モードについて説明しています。

処理モード	説明
テスト・モード	<p>次の処理が可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕訳を確認し、エラーを修正する。 請求書仕訳、エラーのオンライン・レビュー、および売上仕訳(処理オプションの設定による)のテスト・コピーを確認する。 <p>このモードでは状況コードとテーブルは更新されません。売上更新と請求書番号の割当のいずれのバージョンでも、プログラムを最終モードで実行する前にテスト・モードで実行して、エラーの検出と修正ができます。</p> <p>プログラムをテスト・モードで実行した後にエラーの検討と修正を行ってから、最終モードで売上の更新を実行できます。</p>
最終モード	<p>請求書仕訳、完全なエラーのオンライン・レビュー、および処理オプションの設定によっては売上仕訳を確認できます。</p> <p>状況コードとテーブルの更新、および編集(総勘定元帳、売掛金および買掛金用の本稼働サーバーに対する重複レコードのチェックなど)が行われます。</p>

トランザクション処理

R42800プログラムのトランザクション処理を使用して、データの整合性の問題を防ぎます。

キット処理

キット構成成品請求を使用している場合、請求書の印刷プログラム(R42565)の処理オプションを適切に設定して実行する必要があります。R42800プログラムを実行する前に、R42565プログラムを実行してキット請求書を作成する必要があります。R42800プログラムを使用して、キット構成成品が個別に処理された受注オーダーを作成して請求書番号を割り当てることはできません。

参照: 第 11 章、「受注オーダーの処理」、289ページ

手持在庫

出荷確認または売上の更新の際に、品目の手持数量を差し引くことができます。選択する方法によって、F4111テーブルに書き込まれる履歴レコードが異なります。手持数量を在庫から差し引く時点により、レコードは次のようになります。

- 出荷確認時の場合は、受注オーダー番号が伝票番号、オーダー・タイプが伝票タイプのレコードがF4111テーブルに作成されます。
売上更新時の場合は、請求書の番号とタイプ、総勘定元帳日付、およびバッチ番号を持つレコードが上書きされます。
- 売上更新時の場合は、F4111テーブルに請求書の番号とタイプ、および総勘定元帳日付が書き込まれます。

出荷確認時にはレコードの書き込みは行われません。

品目の手持数量を出荷確認中に差し引くには、ユーザー定義コード(UDC)テーブル(40/IU)にオーダー・タイプを追加する必要があります。売上更新時の場合は、請求書の番号とタイプ、総勘定元帳日付、およびバッチ番号を持つF4111テーブルのレコードが上書きされます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「品目および数量情報の検討」、「手持数量情報の検索」

バルク在庫情報

積荷確認の処理中に、F41021テーブルのバルク品目の手持在庫数量が更新されます。

輸送積荷確認プログラム(P49640)で明細行を処理しない場合、R42800プログラムまたは出荷確認プログラム(P4205)によってバルク在庫が更新され、F41511テーブルにレコードが書き込まれます。積荷確認で受注オーダー明細行を処理する場合、売上更新のときには在庫数量の更新は行われません。

請求された数量に基づいて数量を更新できます。これは常温と標準温度のいずれでも可能です。ただし品目元帳は標準温度数量で更新されます。常温の数量の更新を行うと、予想外のエラーが発生する場合があります。

売上更新プログラムの対話型バージョン

R42800プログラムの処理オプションを設定するときには、売掛金管理システムおよび一般会計システムの処理のバージョンのみ指定できます。元帳タイプや多通貨オーダー用の税(VAT)処理など、売掛管理や一般会計管理に影響する処理オプションを確認するには、売掛管理や一般会計管理の対話型バッチ・バージョンを照会する必要があります。

「システム・アドミニストレーション・ツール」(GH9011)、「対話型バージョン」を選択し、次の対話型アプリケーションを照会します。

- 請求書入力MBF処理オプション(P03B0011)

バージョンはZJDE0002を使用します。

「通貨」タブで、税処理を許可するように設定する必要があります。「1」を入力して、通貨での税処理を許可します。

- 仕訳入力MBFの処理オプション(P0900049)

売上更新エラーに関する電子メールの検討

R42800プログラムを実行した後、最終更新を実行する前にエラーを確認して修正できます。エラーが発生した場合およびジョブの正常終了時に、電子メールでメッセージが従業員ワーク・センターに送信されます。R42800プログラムの実行後は、ジョブの状況を確認するために電子メールをチェックする必要があります。ジョブが正常に終了していない場合、エラー・メッセージを検討します。通常、エラーの発生を伝えるメッセージが送信され、次にエラーの内容を説明するメッセージが1通以上送信されます。

注意: 売上更新中に、エラー・メッセージとともに確認用の警告メッセージも書き出されます。エラー・メッセージのみを出力する処理オプションを設定すると、システム・パフォーマンスを向上させることができます。

事業所間および会社間の取引について

会社間請求書を生成する場合、受注オーダー入力(P4210)、請求書の印刷(R42565)およびR42800プログラムで、同一の会社間伝票タイプを指定する必要があります。

売上更新の処理中にR42800プログラムを実行して、事業所間売上の仕訳を作成できます。次の情報のどちらかを作成できます。

- 販売事業所の売掛金および買掛金の仕訳と、供給事業所の売掛金の仕訳
- 販売事業所のみの売掛金仕訳

例：売掛/買掛の仕訳

R42800プログラムの事業所間処理オプションを設定して、販売事業所と供給事業所の両方について売掛金仕訳および買掛金仕訳を作成すると、次のタイプのバッチが作成されます。

- バッチ・タイプI: 供給事業所と販売事業所で、借方が売上原価勘定、借方が売掛金勘定と在庫勘定の仕訳が作成されます。
- バッチ・タイプV: 販売事業所で、貸方が買掛金勘定、借方が在庫勘定の仕訳が作成されます。

例：売掛金仕訳

該当する処理オプションで売掛金仕訳のみを作成するように設定している場合は、次のタイプのバッチが作成されます。

- バッチ・タイプIB: 販売事業所の貸方が収益勘定と在庫勘定、借方が売上原価勘定の仕訳が作成されます。
- バッチ・タイプST: 販売事業所の貸方が収益勘定と在庫勘定、供給事業所の借方が売上原価勘定と在庫勘定の仕訳が作成されます。

売掛金元帳テーブル(F03B11)にレコードを作成しないよう処理オプションを設定できます。

売上更新プログラムが使用するAAIについて

AAIは、会社、日次業務、勘定科目表、および財務レポート間のリンクです。AAIは、仕訳を自動作成する勘定科目を決定する際に使用されます。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムでは、在庫品目を顧客に販売するときにその取引の記録方法がこれらのAAIにより示されます。

AAI	内容
売上原価(4220)	売上原価勘定の金額と勘定科目コードを指定します。
収益(4230)	売上収益科目に在庫の実際の販売価格を指定します。
在庫(4240)	在庫勘定科目の貸方に原価額を転記します。
売掛金(4245)	売掛金勘定の借方に売上金額を転記します。売掛金更新オプションの選択を解除している場合のみ、総勘定元帳に売掛金の相手仕訳が書き込まれます。
RC	売掛金の省略。
未払税(4250)	売上更新時に作成された税勘定の仕訳があります。
事業所間収益(4260)	製造が完了した商品と在庫の事業所間振替の仕訳があります。

AAI	内容
価格調整 (4270)	売上更新時に作成された個々の価格調整の仕訳があります。
支払リポート (4280)	支払リポート勘定の相手仕訳があります。
繰延売上原価 (4221)	繰延売上原価の相手仕訳があります。
シップ・アンド・デビット仮払請求 (4234)	シップ・アンド・デビット仮払請求の相手仕訳があります。

次のフィールドに情報を指定して、様々な勘定に取引を振り分けることができます。

フィールド	用途の説明
会社番号	「受注オーダー明細」フォームに指定した会社番号と、該当するAAIテーブルが比較されます。たとえば、会社番号として「100」を入力し、AAIテーブルに会社100用の設定が存在しない場合は、「受注オーダー明細」フォームの番号と、会社000用の設定が比較されます。
伝票タイプ	オーダーの伝票タイプが使用されます。受注オーダーの場合はSOです。
元帳クラス	<p>オーダー行タイプの設定で「在庫インターフェイス」オプションがYの場合、F41021テーブルの元帳クラスが使用されます。「在庫インターフェイス」オプションがNの場合、行タイプ定義にある元帳クラスが使用されます。</p> <p>売掛金AAIに対しては、「顧客マスター情報」フォームの顧客レコードの元帳クラスが使用されます。ただし、売掛金AAI用の元帳クラスは必須ではありません。値としてブランクを使用できます。</p> <p>ブランクの値を読み取ることができるように、元帳クラス・コード「****」を設定する必要があります。</p>

AAIの勘定科目コードに関連するビジネスユニットが、会社、伝票タイプ、および元帳クラスに対して検証されます。AAIにビジネスユニットを定義しない場合は、R42800プログラムの処理オプションのデフォルト値を使用して、オーダーに対する総勘定元帳の仕訳を追跡するビジネスユニットの選択優先順位を指定できます。

「顧客売上の更新」の処理オプションの選択に基づいて、次の方法でビジネスユニットが処理されます。

- AAI行のビジネスユニット・フィールドがブランクの場合、事業所詳細のビジネスユニット・マスター (F0006) に定義されているプロジェクト番号が使用されます。
 売掛金および収益については、総勘定元帳の仕訳が見出し事業所のプロジェクト番号に割り当てられます。在庫および売上原価には、事業所詳細のプロジェクト番号が使用されます。
- AAIのビジネスユニット・フィールド、および見出し事業所と事業所詳細のプロジェクト番号フィールドが両方ともブランクの場合は、売上原価、売掛金、収益の記録にはオーダー見出しのビジネスユニット、在庫の記録にはオーダー明細のビジネスユニットが使用されます。
- 勘定科目コードのビジネスユニットとして販売先住所録番号が使用されます。

請求書処理を省略し、売上更新により仕訳を処理する場合は、相手科目用にAAI 4245を設定する必要があります。元帳クラス・コードは在庫品目には関連付けられません。業種別顧客マスター(F03012)の売掛金の相手科目に関連付けられます。つまり、システムは仕訳を記録するためにAAI 4245をF03012テーブルの売掛仕訳の相手科目に一致させます。AAI 4245には、オーダーの明細行ではなく、見出しレベルの情報のみが使用されます。

特定の勘定に情報を送るには、F03012テーブルを編集して、対応するAAI 4245とRC(売掛管理、システム03B)のAAIを設定する必要があります。ただし、仕訳は顧客に関連する請求書合計として記録されるだけで、個別のオーダー明細行は記録されません。すべてアスタリスク(*)を使用すると、元帳と売掛金の相手科目を一致させません。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「組織の設定」、「ビジネスユニットの設定」

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- ・システムを使用しているユーザーがいないことを確認します。
- ・適切な行タイプを設定し、JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムおよび売掛管理システムが正しく連動するように処理オプションが設定されていることを確認します。
- ・売上仕訳と売上更新の状況コード、およびそれ以降の状況コードをオーダー処理規則で設定していることを確認します。
- ・R42800プログラムを実行する前に、サブシステム処理が終了していることを確認します。
- ・必要な会計項目を作成するための適切な処理オプションを設定していることを確認します。
- ・事業所間売上の処理オプションを、次のように設定していることを確認します。
 - 事業所間オーダーに使用するオーダー・タイプを認識する。
 - 会計仕訳の必要な種類を作成する。
- ・(CHLおよびPER)ロット検討照会プログラム(P76H3B50)を実行して、請求書に番号を付け印刷します。

売上更新プログラム(R42800)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、原価の更新、事業所間オーダー、フレックス会計、バルク製品、契約管理、および前払処理の実行方法を制御するデフォルト値を設定します。また、更新処理中にテーブルの処理を省略するかどうか、売上仕訳を印刷するかどうか、仕訳を明細形式と集計形式のいずれで書き出すかを指定したり、バージョンを指定できます。

デフォルト

この処理オプションでは、R42800プログラムで総勘定元帳および売掛金の項目の作成に使用されるデフォルト値が決定されます。

- 1. 請求書日付として使用する日付** 売掛請求書の日付を入力します。特定の日付を入力すると、「請求書日付として使用する日付の種類」処理オプションは無視されます。
- 2. 請求書日付として使用する日付の種類** オーダーの処理日付を指定します。値は次のとおりです。
 - 1: 請求書の印刷プログラム(R42565)で処理されたオーダーについて顧客への請求書が印刷された日付が使用されます。

- 2: 出荷確認プログラム (P4205) で処理されたオーダーについて出荷が確認された日付が使用されます。
- 3: プログラムの実行日付が使用されます。
- 3. 元帳日付として使用する日付**
- 元帳日付を入力するか、オーダー処理情報に基づいてシステムにより元帳日付が入力された日付を入力します。
- 特定の日付を入力した場合、「請求書日付として使用する日付の種類」処理オプションの日付は無視されます。
- 4. 元帳日付として使用する日付の種類**
- オーダーの処理日付を指定します。値は次のとおりです。
- 1: 請求書の印刷プログラム (R42565) で処理されたオーダーについて顧客への請求書が印刷された日付が使用されます。
- 2: 出荷確認プログラム (P4205) で処理されたオーダーについて出荷が確認された日付が使用されます。
- 3: プログラムの実行日付が使用されます。
- 5. 計上するビジネスユニット**
- AAI にビジネスユニットを指定していない場合に、総勘定元帳の仕訳を割り当てるビジネスユニットを指定します。AAI の勘定科目コードに関連するビジネスユニットが、会社、伝票タイプ、および元帳クラスに対して検証されます。値は次のとおりです。
- ブランク: 3 の値が使用されます。
- 1: 詳細ビジネスユニットが使用されます。
- 2: 販売先住所録番号が使用されます。
- 3: 在庫を除くすべての勘定について、収益ビジネスユニットが使用されます。在庫勘定については、詳細ビジネスユニットが使用されます。
- 6. 一時変更用次状況コード**
- オーダー処理の次のステップの値 UDC 40/AT を入力します。使用するオーダー・タイプと行タイプに基づいて、オーダー処理規則に設定した UDC 値を指定する必要があります。
- この一時変更用状況は、この処理で実行できるもう 1 つのステップになります。
- R42800 プログラムを最終モードで実行している場合、更新済のオーダーがシステムにより読み取られたり、R42800 プログラムで再び処理されないように、状況コードを 999 に更新する必要があります。
- 7. 請求備考**
- レポートの目的でメモ専用のフィールドが使用されるよう指定します。UDC テーブル 42/BR に設定済の 3 文字の値を入力できます。
- 請求備考を使用して、F0911 テーブルの「備考」、「摘要」、「名称」フィールドが更新されます。R42800 プログラムの前に売上仕訳プログラム (R42810) を実行している場合、仕訳の見出し部分の請求備考を検討できます。
- 8. 顧客相互参照**
- 顧客の品目番号を識別する相互参照コード (UDC 41/DT) を指定します。
- 更新**
- この処理オプションでは、R42800 プログラムの実行モード、および売上更新処理中に省略されるテーブルを指定します。
- 1. 実行モード**
- プログラムをテスト・モードと最終モードのいずれで実行するかを指定します。会社の更新処理に対応するバージョンを使用する必要があります。ま

た、どのバージョンについてもテスト・モードと最終モードのいずれを使用するかを指定する必要があります。値は次のとおりです。

ブランク: テスト・モードで実行します。

状況コードやテーブルは更新されません。仕訳の印刷と検討、従業員ワーク・センターでのエラーの検討と修正、および処理オプションによっては売上仕訳の検討ができます。

1: 最終モードで実行します。

状況コードとテーブルの更新、および編集(総勘定元帳、売掛金および買掛金用の本稼働サーバーに対する重複レコードのチェックなど)が行われます。仕訳の印刷と検討、従業員ワーク・センターでのエラーの検討と修正、および処理オプションによっては売上仕訳の検討ができます。

受注オーダーが請求書の印刷プログラム(R42565)で処理済みであり、F4211テーブルに請求書番号とタイプが記録されている場合には、R42800プログラムのテスト・バージョンまたは最終バージョン(XJDE0001、XJDE0002)を使用する必要があります。

受注オーダーについて請求書の印刷プログラムで処理されていない場合は、売上更新 - 請求書番号の割当プログラムのテスト・バージョンまたは最終バージョン(XJDE0003、XJDE0004)を使用する必要があります。このプログラムでは請求書(売掛用)番号が割り当てられます。

売上更新の前に売上仕訳の印刷など、複数のジョブを実行する場合は、処理結果、売上仕訳、および仕訳が検討用にオープンのままになっています。

2. 売掛金明細(F0311)の更新

F03B11テーブルを更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: F03B11テーブルを更新します。

1: テーブルを更新しません。そのかわりに、配賦AAI(売掛金勘定)4245を使用して、売掛金の相手科目仕訳が作成されます。

3. 在庫(F41021/F4115)の更新

F41021テーブルとF4115テーブルの手持在庫を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 出荷確認中に数量を更新しなかった場合、F41021、F4115、およびF4111のテーブルの手持在庫を更新します。

1: F41021、F4115、およびF4111のテーブルの手持在庫を更新しません。

4. コミッション・テーブル(F42005)の更新

F42005テーブルのコミッション情報を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: F42005テーブルのコミッション情報を更新します。

1: F42005テーブルのコミッション情報を更新しません。

コミッション情報を記録していない場合は、パフォーマンスを向上させるためにF42005テーブルの更新を省略できます。

5. 販売履歴集計(F4229)の更新

F4229テーブルを更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: F4229テーブルの売上原価と品目別売上を更新し、集計します。この結果はレポート用に使用できます。

1: F4229テーブルを更新しません。

レポートに販売履歴集計テーブルを使用しない場合は、パフォーマンスを向上させるためにF4229テーブルの更新を省略できます。

6. 販売明細履歴 (F42119) への移動

F4211テーブルから明細情報を移動するかどうかを指定します。顧客売上を更新すると、F4211テーブルの明細行がF42119テーブルに移動されます。F4211テーブルから情報を移動することにより、テーブルのサイズが小さくなり、パフォーマンスが向上します。値は次のとおりです。

ブランク: F4211テーブルからF42119テーブルにレコードをコピーし、元のレコードを削除します。

1: F4211テーブルからF42119テーブルにレコードをコピーしません。

レポートに販売履歴集計テーブルを使用しない場合は、パフォーマンスを向上させるためにF42119テーブルの更新を省略できます。

7. 販売見出し履歴 (F42019) への移動

F4201テーブルからF42019テーブルにレコードをコピーして元のレコードを削除するかどうかを指定します。F4211テーブルから情報を移動することにより、テーブルのサイズが小さくなり、パフォーマンスが向上します。

一致するオーダー・タイプとオーダー番号の組合せをF4211テーブルに持つ未処理の明細行がない場合にのみ、レコードが移動されます。値は次のとおりです。

ブランク: F4211テーブルからF42119テーブルにレコードをコピーし、元のレコードを削除します。

1: F4211テーブルからF42119テーブルにレコードをコピーしません。

8. 価格設定レコード (F4074) の除去

F4074テーブルのレコードを除去するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: F4074テーブルから価格レコードを除去しません。価格実績を検討できます。

1: F4074テーブルから価格レコードを除去します。価格実績を別のファイルに保持しません。

9. 補助元帳レコードの作成

組織に固有の補助元帳の仕訳を作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 補助元帳の仕訳は作成されません。

1: 補助元帳の仕訳、およびオーダーの仕訳に割り当てられたオーダー番号を総勘定元帳に書き込みます。

2: 補助元帳の仕訳、および顧客請求指示に割り当てられた営業担当者番号を総勘定元帳に書き込みます。

3: 補助元帳の仕訳、およびオーダーに入力した販売先番号を総勘定元帳に書き込みます。

4: 補助元帳の仕訳、およびオーダーに入力した出荷先番号を総勘定元帳に書き込みます。

5: 補助元帳の仕訳、および略式品目番号を総勘定元帳に書き込みます。

売掛金の相手科目は、行レベルではなくオーダー・レベルに書き込まれます。したがって、略式品目番号は、AAI 4245の補助元帳の選択には使用されません。

10. 売掛採番インデックス

請求書(売掛用)番号の割当に使用する次番号を指定します。この処理オプションをブランクにすると、システム03のバケット01が使用されます。

受注オーダーについて請求書の印刷プログラムで処理されていない場合は、売上更新 - 請求書番号の割当プログラムのテスト・バージョンまたは最終バージョン (XJDE0003、XJDE0004) を使用する必要があります。このプログラムでは、自動採番に基づいて請求書 (売掛用) 番号が割り当てられます。

11. 請求書の伝票タイプ

請求書 (売掛用) 番号の割当に使用する伝票タイプを指定します。

受注オーダーについて請求書の印刷プログラムで処理されていない場合は、売上更新 - 請求書番号の割当プログラムのテスト・バージョンまたは最終バージョン (XJDE0003、XJDE0004) を使用する必要があります。このプログラムでは、この取引に伝票タイプと請求書 (売掛用) 番号が割り当てられます。

12. 関連テキストの除去

F00165テーブルから関連テキストを移動するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: F00165テーブルから見出しと明細行の添付情報を削除しません。

1: F00165テーブルから見出しと明細行の添付情報を削除します。

13. シップ・アンド・デビット処理 (R45100)

R42800プログラムの実行時に、シップ・アンド・デビット契約を識別および調整するためにサブシステムまたはバッチ処理 (R45100) を使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: R45100を呼び出しません。

1: サブシステム処理を使用します。

2: バッチ処理を使用します。

14. シップ・アンド・デビットの見越計上 (R45800)

R42800プログラムの実行時に、補償請求と補償請求仮払仕訳の生成プログラム (R45800) 処理を使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: R45800処理を使用しません。

1: R45800処理を使用します。

15. 売掛金元帳汎用照合

売掛金元帳の汎用照合の詳細優先情報を有効にするかどうかを指定します。この優先情報は、システム固定情報 (P41001) のデフォルトの優先情報スケジュールを使用して評価されます。この機能は、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理が「売掛金明細の更新」処理オプションで省略されていない場合は利用できません。値は次のとおりです。

ブランク: 使用しません。

1: 有効にします。

バージョン

この処理オプションでは、売掛管理システムと一般会計システムのテーブルに仕訳を書き込むために使用するバージョンを指定します。処理オプションをブランクにすると、売掛管理システムにはバージョン ZJDE0002が、一般会計システムにはZJDE0001が使用されます。

1. 請求書入力MBF処理オプション (P03B0011)

請求書入力MBF処理オプション・プログラム (P03B0011) のバージョンを指定します。元帳タイプや多通貨オーダー用の税処理など、売掛管理に影響する処理オプションを確認するには、売上更新に使用する売掛管理のバッチ・バージョンを照会する必要があります。

ZJDE0002以外のP03B0011プログラムの処理オプションのバージョンを指定すると、このバージョンでの税処理が許可されます。P03B0011プログラムの処理オプションの「通貨」タブに適切な値1を設定し、その通貨でのVAT処理を許可します。

2. 仕訳入力MBF処理オプション(P0900049)

一般会計の処理に使用する仕訳入力MBF処理オプション・プログラム(P0900049)のバージョンを指定します。一般会計の処理に影響する処理オプションを確認するには、売上更新に使用する一般会計の対話型バッチ・バージョンを照会する必要があります。

3. シップ・アンド・デビット(R45100)

R42800プログラムを実行するときに、シップ・アンド・デビット契約の指定と調整を行うバッチまたはサブシステム処理(R45100)のバージョンを指定します。

4. シップ・アンド・デビット仮払請求(R45800)

R42800プログラムの実行時に使用する、保証請求/保証請求仮払仕訳の生成プログラム(R45800)のバージョンを指定します。

印刷

この処理オプションでは、仕訳更新前に売上仕訳を印刷するかどうか、印刷する場合には使用するバージョンを指定します。

1. 更新前の売上仕訳の印刷

仕訳更新前に売上仕訳を印刷するかどうかを指定します。売上仕訳には、集計情報のみがあります。このレポートには、合計請求金額、売上原価、利益金額および利益率が表示されます。このレポートは、売上収益の分配方法を検討する場合に役立ちます。値は次のとおりです。

ブランク: 更新前に売上仕訳を印刷しません。

1: 更新前に売上仕訳を印刷します。

売上仕訳の印刷(P42810)のバージョンに、受注オーダーの状況コードを更新しない処理オプションを設定していることを確認します。

2. 売上仕訳(R42810)のバージョン

R42800プログラムの実行前に、売上仕訳の印刷に使用する売上仕訳プログラム(R42810)のバージョンを指定します。「更新前の売上仕訳の印刷」処理オプションをオンにしている場合にのみ、この処理オプションは有効です。売上仕訳には、集計情報のみがあります。このレポートには、合計請求金額、売上原価、利益金額および利益率が表示されます。このレポートは、売上収益の分配方法を検討する場合に役立ちます。

この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

R42810のバージョンに、受注オーダーの状況コードを更新しない処理オプションを設定していることを確認します。

集計

この処理オプションでは、売掛金元帳テーブル、取引明細テーブル、売上原価、および在庫、売上原価に仕訳を書き込むときに、集計モードと明細モードのいずれで記録するかを指定します。

1. 請求書別売掛仕訳の集計

売掛仕訳を集計モードと明細モードのいずれで書き込むかを指定します。売掛仕訳は、バッチ・タイプIBで作成されます。バッチ・タイプIBには、各請求書または各オーダー明細行に個別の仕訳を作成するかどうかを指定できます。値は次のとおりです。

ブランク: 売掛仕訳を集計せず、F03B11テーブルに、請求書の各オーダー明細行について個別の仕訳を作成します。

1: 売掛仕訳を集計せず、F03B11テーブルに請求書の仕訳を作成します。

2: 売掛仕訳を集計せず、F03B11テーブルに出荷の仕訳を作成します。

2. 請求書別仕訳の集計

総勘定元帳仕訳を集計モードと明細モードのいずれで書き込むかを指定します。総勘定元帳の仕訳は、バッチ・タイプIBで作成されます。バッチ・タイプIBには、各請求書または各オーダー明細行に個別の仕訳を作成するかどうかを指定できます。値は次のとおりです。

ブランク: 総勘定元帳仕訳を集計しません。請求書の各オーダー明細行について、F0911テーブルに個別の仕訳が作成されます。

1: 総勘定元帳仕訳を集計せず、F0911テーブルに各請求書の仕訳を作成します。

3. 売上原価および在庫仕訳の集計

在庫と売上原価の仕訳について、タイプGの個別のバッチを作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 在庫と売上原価の仕訳を個別のバッチに集計しません。仕訳転記用にはバッチ・タイプIBのみが作成されます。

1: 在庫と売上原価の仕訳について、個別のバッチ・タイプGを作成しません。

原価の更新

この処理オプションでは、売上更新前に原価を更新するかどうか、および適用可能な場合は、販売価格/売上原価の更新プログラムのバージョンを指定します。

1. 原価の更新

売上更新前に、原価を更新するかどうかを指定します。売掛レコードおよび総勘定元帳レコードの作成前に、選択した受注オーダーすべての現行原価、為替レート、および価格が更新されます。出荷確認で在庫が差し引かれた受注オーダー行の原価は更新されません。

販売原価や製造原価が頻繁に変化する場合、また更新前のオーダーがシステム内に長期間あった場合は、売上原価の更新を実行します。これにより、粗利益率を正確に更新できます。値は次のとおりです。

ブランク: 品目の在庫原価を更新しません。

1: 売掛レコードおよび総勘定元帳レコードの作成前に、更新処理オプションで参照する販売価格/売上原価の更新プログラム(R42950)のバージョンを使用して、選択したすべての受注オーダーの現行原価、為替レートおよび価格を更新します。

在庫を差し引いていない場合にのみ、原価が更新されます。

2. 販売価格/売上原価の更新(R42950)バージョン

売上の更新前に原価の更新に使用される受注オーダー価格/原価のバッチ更新プログラム(R42950)のバージョンを指定します。デフォルトのバージョンはZJDE0001です。売掛レコードおよび総勘定元帳レコードの作成前に、選択した受注オーダーすべての現行原価、為替レート、および価格が更新されます。

販売原価や製造原価が頻繁に変化する場合、また更新前のオーダーがシステム内に長期間あった場合は、売上原価の更新を実行します。これにより、粗利益率を正確に更新できます。

事業所間オーダーについては、R42950プログラムの処理オプションを、供給事業所と販売事業所の両方の為替レートのみでなく価格情報を更新するように設定する必要があります。

事業所間

この処理オプションでは、事業所間オーダーのオーダー・タイプを指定します。

1. 事業所間オーダー・タイプ

事業所間オーダーのオーダー・タイプ用の値UDC 00/DTを指定します。複数のオーダー・タイプを区切り文字やスペースを使用せずにリストできます。事業所間オーダーをすべて正確に更新するには、受注オーダー入力プログラム(P4210)の「オーダー・タイプ」処理オプションに入力した事業所間オーダー・タイプをすべて入力する必要があります。

UDCテーブル00/DTに設定されている値を入力する必要があります。

2. 売掛金/買掛金バッチ

事業所間/会社間オーダーのバッチ・タイプを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 事業所間オーダーに個別のバッチ・タイプSTを作成します。STバッチは、供給事業所と販売事業所との間の取引の記録に使用され、会社間オーダーを作成していない場合に使用されます。

1: 販売事業所の売掛金および買掛金の仕訳と、供給事業所の売掛金の仕訳を作成します。

3. 伝票照合(P4314)バージョン

買掛取引レコードの作成に使用する伝票照合プログラム(P4314)のバージョンを指定します。会社間請求には、販売会社から供給会社への買掛仕訳が作成されます。

買掛管理の処理に影響する処理オプションを確認するには、売上更新に使用する買掛管理のバッチ・バージョンを照会する必要があります。

任意勘定科目設定

この処理オプションでは、任意売上勘定科目の設定を使用するかどうかを指定します。

1. 任意売上勘定科目設定

任意勘定科目の設定を使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 総勘定元帳仕訳の作成に、任意勘定科目の設定プログラム(P42096)を使用しません。

1: 任意勘定科目の設定プログラム(P42096)で設定した勘定科目コードに従って、原価の主科目情報を持つ仕訳を作成します。

バルク製品オプション

この処理オプションでは、温度増減レコードの計算方法を指定します。

1. 温度による増減

在庫を標準温度で差し引いた場合に、常温で請求した顧客用に温度変化による増減レコードを作成する方法を指定します。増減は、原価または収益で計算されます。値は次のとおりです。

ブランク: 温度変化による増減レコードを処理しません。

1: 原価について、常温体積に原価を掛けた値と、標準温度の体積に原価を掛けた値の差を計算します。計算には、基本単位が使用されます。

2: 収益について、常温体積に価格を掛けた値と、標準温度の体積に価格を掛けた値の差を計算します。計算には、価格設定単位が使用されます。

契約オプション

オラクル社のOracleのJD Edwards EnterpriseOne受注管理システムをJD Edwards EnterpriseOne契約管理システムとともに使用している場合、この処理オプションで契約が選択される方法を定義します。

- | | |
|-------------------------------|--|
| 1. 借入契約検索用の出力先ビジネスユニット | 契約品目の配送先を指定します。この処理オプションをblankにする場合は、配送先ビジネスユニットを選択するための値を入力する必要があります。 |
| 2. 配送先ビジネスユニットの選択 | <p>契約品目の配送先を指定します。値は次のとおりです。</p> <p>blank: 特定の配送先ビジネスユニットを入力する必要があります。</p> <p>1: 出荷先は契約で定義されているどの場所でもかまいません。</p> <p>2: デフォルトの事業所が出荷先として指定されます。</p> |
| 3. 選択基準 | <p>契約の選択方法を指定します。値は次のとおりです。</p> <p>blank: 最短の有効期限に基づいて、契約を割り当てます。</p> <p>1: 1件のみが検出された場合に自動的に契約を割り当てます。</p> <p>2: 最も早い失効日付に基づいて契約を割り当てます。</p> |

パフォーマンス改善オプション

この処理オプションでは、R42800プログラムの実行中に、エラー・メッセージのみでなく警告メッセージも従業員ワーク・センター・プログラムに送信するかどうかを指定します。

- | | |
|-----------------------|---|
| 1. 警告メッセージの非表示 | <p>売上の更新中に、警告メッセージを従業員ワーク・センターに送信するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>blank: 警告メッセージを従業員ワーク・センターに送信します。</p> <p>1: 警告メッセージを従業員ワーク・センターに送信しません。このオプションを選択すると、システムのパフォーマンスを向上させることができます。</p> |
|-----------------------|---|

前払

この処理オプションは前払処理に使用します。R42800プログラムのバージョンを前払取引用に設定し、かつ請求書の印刷プログラム(R42565)でオーダーを処理していない場合、この処理オプションで請求書番号が割り当てられるように設定します。

- | | |
|---------------------------------|---|
| 1. 決済済み前払取引の更新 | <p>未処理の請求書を持つクレジット・カードの前払取引を手形で支払うかどうかを指定します。請求書を選択すると未処理の金額が支払われ、手形伝票が作成されます。</p> <p>銀行で金額がまだ徴収されていないため、手形は受取りの状況で作成されます。値は次のとおりです。</p> <p>blank: 決済済み前払レコードを更新しません。</p> <p>1: 決済済み前払レコードを更新し、クレジット・カードの取引に対して手形が作成されます。</p> |
| 2. 事前承認済手形バージョン(R03B671) | 取引銀行に金額を請求する手形の印刷に使用される事前承認済手形プログラム(R03B671)のバージョンを指定します。この処理オプションは、「前 |

払」処理オプションを有効にし、売掛金の更新を省略せず、かつ最終モードを選択している場合にのみ有効です。

この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0007が使用されます。

売上更新プログラムの実行

「日次締め処理」(G4213)、「顧客売上の更新」を選択します。

売上更新レポートの検討

この項では、売上更新レポートの概要と、次の方法について説明します。

- 請求書仕訳の検討
- 売上仕訳の印刷プログラム(R42810)の処理オプションの設定
- 売上仕訳の検討

売上更新レポートについて

売上更新プログラム(R42800)を実行すると、次のレポートが生成されます。

- 請求書仕訳: 売掛金および総勘定元帳の仕訳がすべて表示されます。
- 売上仕訳: 集計仕訳または明細仕訳を使い、在庫の売上や運賃などをカテゴリ別に分析し、売上原価と利益率を検討します。

請求書仕訳の検討

R42800プログラムを実行するたびに、請求書仕訳が生成されます。このレポートには、処理オプションの設定方法に基づいて、集計または明細の総勘定元帳仕訳がリストされます。

請求書仕訳には総勘定元帳取引が次の項目別にリストされます。

- 顧客勘定科目コード
- 請求書別合計金額
- 全オーダーの合計金額

売上仕訳の印刷プログラム(R42810)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、印刷モードのデフォルト値とコントロールを設定します。

デフォルト1

この処理オプションでは、受注オーダーの状況コードを更新するかどうかを制御します。

1. 受注オーダーの状況コード更新

受注オーダーの状況コードを更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 状況コードを更新しません。

1: 状況コードを更新します。

デフォルト2

この処理オプションでは、受注オーダーの状況コードを一時変更するかどうかを制御します。

2. 一時変更用状況コード 受注オーダーの状況コードを一時変更するかどうか指定します。値は次のとおりです。

ブランク: オーダー処理規則テーブル(F40203)内の次状況コードを使用します。

1: 処理オプションで識別された新しい状況コードが使用されます。

印刷

この処理オプションでは、レポートの印刷モードを制御します。

1. 通貨印刷モード レポートの印刷モードの値を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 国内通貨で印刷します。

1: 外貨で印刷します。

2: 国内通貨と外貨の両方で印刷します。

売上仕訳の検討

R42800プログラムを実行するとこのレポートが自動生成されますが、「受注オーダー・レポート」(G42111)、「売上仕訳の印刷」を選択して、別個に実行することもできます。このレポートは、売上収益の分配方法を検討する場合に役立ちます。

請求書仕訳とは異なり、売上仕訳には集計情報のみが含まれます。このレポートには、合計請求金額、売上原価、利益金額および利益率が表示されます。

重要: R42800プログラムで、売上更新前に売上仕訳を印刷する「印刷」処理オプションを設定し、かつ売上仕訳の印刷プログラム(R42810)のバージョンを参照しない場合、R42810プログラムでは、R42800プログラムに指定したのと同じデータ選択が使用されます。

オーダーの再転記

この項では、オーダーの再転記処理の概要と、次の方法について説明します。

- 処理中受注オーダーの再転記プログラム(R42995)の処理オプションの設定
- 処理中受注オーダーの再転記プログラムの実行

オーダーの再転記処理について

処理中受注オーダーの再転記プログラム(R42995)のバージョンを設定して、将来の受注オーダーを再引当して処理中の受注オーダーを再転記できます。各機能では、それぞれ別の一連の処理が実行されます。

このプログラムでは次の情報の復元または再計算は行われません。

- ・ 非在庫品目
- ・ キット構成品を含むオーダー
- ・ 取消済明細行
- ・ 見出し情報がないオーダー

重要: だれもシステムを利用していない時間にR42995プログラムを実行することをお勧めします。レコードはロックされません。そのため、更新中に受注オーダー・レコードにアクセスすると、レコードが正しく処理されない可能性があります。

将来受注オーダーの再引当

将来オーダーを再引当するときに、次の処理を行うように指定できます。

- ・ 将来受注オーダーに対する顧客の与信限度額をチェックする。
- ・ 将来受注オーダーに対して品目をハード・コミットする。
- ・ 将来受注オーダーを検討するために保留する。

将来受注オーダーを再引当すると、F4211テーブルの予定ピッキング日付と、現在の日付に事業所固定情報プログラム(P41001)で指定した引当日数を加えた日付が比較されます。たとえば、6月5日に自転車1台に対する受注オーダーを入力し、納期を6月12日、事業所固定情報で引当日数を5日間と指定した場合、次の計算が行われます。

6月12日 > (6月5日 + 5日) = 将来引当日付

品目の約束納期(6月12日)が受注オーダー入力日付(6月5日)に事業所固定情報プログラムで指定した5日間の引当日数を足したものより後の日付であるため、オーダーが将来で引き当てられます。品目の約束納期が受注オーダー入力日付に引当日数を足したものと等しい場合、将来で引き当てられたオーダーが差し引かれます。

再引当手順が完了すると、将来引当品目がある各明細行を表示したレポートを印刷できます。このレポートは、将来引当について更新済情報が必要な場合に役立ちます。

処理中オーダーの復元

再転記は、システムの故障など通常とは異なる状況で実行します。処理中オーダーをすべて再転記すると、保管場所からの引当がすべて消去され、F4211テーブルの数量に基づいて引当が復元されます。この再転記により、処理中オーダー(保留オーダーも含む)が整理され、ピッキング・リスト、出荷確認、請求書の引当数量の変更により生じた引当可能数量計算の差異が解消されます。

「再転記」タブにある次の処理オプションの設定に従って、品目の数量情報を消去して再計算できます。

- ・ 品目引当ての更新
- ・ オーダー見出しの更新
- ・ 顧客の受注残金額

保留中品目も常にこの手順に含まれます。

オーダーの省略

次の場合には、オーダーが省略されます。

- ・ オーダーの次状況が「999」である。
- ・ 受注オーダーの見出しレコードに明細レコードがない。

同一バージョンの再引当と再転記の組合せ

1つのバージョンを使用して将来オーダーの再引当と処理中の受注オーダーの再転記の機能の両方を実行すると、バックオーダーが2回追加されます。バックオーダーの重複を防ぐために、「再転記」タブの処理オプション1がブランクの場合は、残りの処理オプションを1に設定する必要があります。同様に、「再転記」タブの処理オプション1が1の場合は、残りの処理オプションをブランクにする必要があります。2つの別個のバージョンを設定することをお勧めします。1つは将来オーダーの再引当用、もう1つは再転記用です。

処理中受注オーダーの再転記プログラム(R42995)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、再引当と再転記のオプションを実行するときの機能を制御します。

再引当て

この処理オプションでは、処理中および将来の受注オーダーの再引当時に実行する機能を決定します。将来オーダーを再引当するときに、顧客の与信限度、ハード・コミット品目、または保留オーダーを自動チェックして検討できます。

- | | |
|---------------------------------|--|
| 1. 将来オーダーのハード・コミット(将来使用) | オーダーをハード・コミットして、F03012とF03B11テーブルの未決済ファイルの金額およびF4201テーブルのオーダー合計金額を調整するかどうか指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 将来受注オーダーに対して品目をハード・コミットします。
1: 将来受注オーダーに対して品目をハード・コミットしません。
将来受注オーダーを再引当すると、品目の約束納期と、受注オーダーの入力日付に事業所固定情報プログラムで指定した引当日数を加えた日付が比較されます。 |
| 2. 与信チェックの保留コード | 将来受注オーダーの顧客与信限度をチェックするために使用する保留コードを指定します。この処理オプションをブランクにした場合、与信チェックは実行されません。UDC 42/HCに設定されている保留コードを使用する必要があります。 |
| 3. 将来オーダーの保留コード | 将来受注オーダーすべてに使用する保留コードを指定します。保留コードを入力すると、現在までにリリース済の将来オーダーをすべて保留にします。UDC 42/HCに設定されている保留コードを使用する必要があります。 |
| 4. 受注オーダー入力(P4210)のバージョン | 受注オーダーの更新に使用する受注オーダー入力プログラム(P4210)のバージョンを指定します。引当可能数量チェックの必要がある場合は、引当可能数量のチェック処理オプションをオンにしたバージョンを使用します。 |

再転記

この処理オプションでは、処理中および将来受注オーダーの再引当時に実行する機能を決定します。引当やオーダー見出し合計、受注残額の更新などの処理を実行するかどうかをこの処理オプションで制御します。

- | | |
|-----------------------|---|
| 1. 将来オーダーの再引当て | 受注オーダーの再転記時に、将来オーダーの再引当を省略するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 将来オーダーを再引当します。
1: 将来オーダーの再引当を省略します。 |
|-----------------------|---|

オプション1を使用すると、他の処理オプションの設定には関係なく、プログラムは再転記のみを実行し将来オーダーを再引当しません。

2. 品目引当ての更新

処理中の受注オーダーの再転記時に、F41021テーブルからの値で引当フィールドの更新を省略するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: ピッキング・リストの印刷、出荷確認および請求を行った時点で引当が変更された場合、F4211テーブルからの数量で引当フィールドを更新し、引当可能数量の計算をリセットします。

1: 再引当フィールドの更新を省略します。

常に取消行を処理し、保留中品目を更新に含めます。

3. オーダー見出しの更新

処理中の受注オーダーの再転記時に、オーダー合計をF4211テーブルの合計金額にリセットするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: オーダー見出しテーブルを、F4211テーブルの合計累計に更新します。

1: オーダー見出しの合計の更新を省略します。

保留中品目は常に更新に含められます。

4. 顧客の受注残金額

処理中の受注オーダーの再転記時に、F4211テーブルの顧客の受注残金額の更新を省略するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 受注残金額をF4211テーブルの累計で更新し、業種別顧客マスター(F03012)も更新します。

1: 顧客の受注残金額の更新を省略します。

保留中品目は常に更新に含められます。

処理中受注オーダーの再転記プログラムの実行

「日次締め処理」(G4213)、「処理中受注オーダーの再転記」を選択します。

データの除去

この項では、JD Edwards EnterpriseOne受注管理の除去プログラムと受注オーダー・テキスト行の除去プログラムの概要、事前設定および次の方法について説明します。

- 受注オーダーのテキスト行の除去
- 処理済の受注オーダー・バッチの除去
- 受注オーダー見出し(F4201)の除去プログラム(R4201P)の処理オプションの設定
- 受注オーダーの見出しレコードの除去
- 明細から履歴への除去プログラム(R42996)の処理オプションの設定
- 受注オーダー明細行の除去
- 監査ログの除去プログラム(R42420)の処理オプションの設定
- 監査ログ・トランザクションの除去
- 受注オーダー・トランザクションの除去

受注管理の除去プログラムについて

データが古くなったり、ディスク・スペースが足りなくなった場合に、除去プログラムを使用してテーブルからデータを削除できます。

選択基準をより明確にする必要がある場合、テーブルからデータを除去するプログラムが提供されます。除去プログラムには事前定義済の選択基準があり、データを削除する前にチェックされます。この選択基準により、他のテーブルの関連データを削除することを防止します。

データの除去は、次のタスクから構成されます。

- 削除する情報の指定
- 除去プログラムの実行
- テーブル構造を再構成するテーブル再編成プログラムの実行

受注オーダー・テキスト行の除去プログラムについて

受注オーダー/購買テキスト明細行テーブル(F4314)から特定の情報を削除するには、テキスト行の終了プログラム(R42960)を使用します。

この除去では、受注オーダー明細テーブル(F4211)と購買オーダー明細テーブル(F4311)に、オーダー・タイプとオーダー番号の組合せが一致する未処理明細行があるかどうかチェックされます。次の処理のいずれかが実行されます。

- 一致するレコードがない場合は、F4314テーブルから終了テキスト行が削除されます。
- 一致するレコードがある場合は、一致明細テーブルの状況が「999」の場合にのみF4314テーブルから終了テキスト行が削除されます。

オーダーのその他の行がすべて終了している場合にのみ、R42960プログラムにより終了テキスト行が削除されます。状況が999以外のオーダー行は削除できません。

R42960プログラムを使用して、未処理の明細行がないオーダーのテキスト行の状況を「999」(終了)に変更できます。売上更新プログラム(R42800)の処理オプションで終了オーダーのテキスト行を除去するように設定していない場合にのみ、このプログラムを使用します。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 影響を受けるテーブルをバックアップします。
- 除去するデータを決定します。
- 除去と再構成を行うデータを他のユーザーが使用していないことを確認します。

受注オーダーのテキスト行の除去

「データ・ファイルの除去」(G42312)、「受注オーダー・テキスト行(F4211)」を選択します。

処理済受注オーダー・バッチの除去

「データ・ファイルの除去」(G42312)、「バッチ入荷確認(F4001Z)の消去」を選択します。

バッチ入荷確認ファイルの除去プログラム(R4001ZP)を使用して、バッチ入荷確認テーブルから処理済受注オーダーを削除します。バッチ入荷確認テーブルの「処理済(Y/N)」フィールドがYのレコードのみが選択されます。

この除去を行ってもバッチ入荷確認ファイル - 出荷先数量テーブル(F4012Z)からレコードは削除されません。このテーブルからデータを除去するには、除去(一般)プログラムを使用します。

受注オーダー見出し(F4201)の除去プログラム(R4201P)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

除去

この処理オプションでは、受注オーダー見出しテーブル(F4201)のレコードを除去してそれらを受注オーダー見出し履歴ファイル・テーブル(F42019)へ移動するかどうかを指定します。

- | | |
|--|--|
| 1. 見出しレコードの除去と受注見出し履歴ファイル(F42019)への移動 | 見出しレコードを除去し、それらを受注オーダー見出し履歴ファイル・テーブル(F42019)へ移動するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 見出しレコードを除去せずにそれらをF42019テーブルへ移動します。 |
|--|--|

- 1: 見出しレコードを除去し、それらをF42019テーブルへ移動します。

受注オーダーの見出しレコードの除去

「データ・ファイルの除去」(G42312)、「受注見出し(F4201)の消去」を選択します。

受注オーダー見出しテーブル(F4201)から受注オーダー見出しレコードを削除するには、受注オーダー見出し(F4201)の除去プログラム(R4201P)を使用します。一致するオーダー・タイプとオーダー番号の組合せをF4211テーブルに持つ未処理の明細行がない場合にのみ、F4201テーブルからレコードが除去されます。レコードの除去に加えて、任意で情報を受注オーダー見出し履歴ファイル・テーブル(F42019)に移動できます。処理オプションで情報を移動するかどうかを指定します。

明細から履歴への除去プログラム(R42996)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

この処理オプションでは、指定されたテーブルから明細レコードを除去するかどうかを指定します。

- | | |
|--|--|
| 1. オーダー明細行がすべて終了している場合にかぎり、受注明細(F4211)のレコードを消去して履歴テーブルに移行するには、“1”を入力してください。 | 受注オーダー明細テーブル(F4211)のレコードを除去し、それらを受注オーダー履歴ファイル・テーブル(F42119)へ移動するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 状況が999の詳細レコードがすべて除去されます。
1: オーダーのすべての行が終了している場合のみ、詳細レコードを除去します。 |
|--|--|

2. 関連する価格調整元帳テーブル(F4074)および無償品参照テーブル(F4573)の全レコードを消去する場合は“1”を入力してください。

価格調整元帳(F4074)および無償品参照(F4573)テーブルのレコードを除去するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: F4074およびF4573テーブルからレコードは除去されません。

1: F4074およびF4573テーブルのレコードが除去されます。

3. オーダーの明細タグ行がすべて終了している場合にかぎり、受注明細タグ・テーブル(F49211)のレコードを消去して実績テーブルに移行するには、“1”を入力してください。

受注オーダー明細 - タグ・ファイル・テーブル(F49211)のレコードを除去するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 状況が999の詳細レコードがすべて除去されます。

1: オーダーのすべての行が終了している場合のみ、詳細レコードを除去します。

受注オーダー明細行の除去

「テーブル・データの除去」(G42312)、「明細から履歴への移行/除去」を選択します。

状況が999の明細行をF4211テーブルから除去して、F42119テーブルに移動するには、明細から履歴への除去プログラム(R42996)を実行します。

R42800プログラムの適切な処理オプションを設定して、顧客売上の更新時にこのプログラムを実行できます。

監査ログの除去プログラム(R42420)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、監査ログを除去するかどうかを制御します。

除去オプション

この処理オプションでは、監査ログ・レコードが存在することを検証するかどうか指定します。

監査ログ・レコードが存在しているか確認

監査ログ・トランザクション・テーブル(F42420)からレコードが削除される前に、受注オーダー履歴テーブル(F42119)に監査ログ・レコードが存在することを確認するかどうか指定します。

監査ログ・トランザクションの除去

「テーブル・データの除去」(G42312)、「監査ログの除去」を選択します。

監査ログ・トランザクション・テーブル(F42420)からレコードを削除するには、監査ログの除去プログラム(R42420)を使用します。オーダーがまだ存在しているかどうかを確認するために、F4211テーブルがチェックされます。次に、R42420プログラムの処理オプションに所定の設定をしている場合は、オーダーがまだ存在するかどうかを確認するためにF42119テーブルがチェックされます。いずれのテーブルにもオーダーが存在していない場合は、F42420テーブルにあるオーダーに対応するレコードが削除されます。

受注オーダー・トランザクションの除去

バッチ・バージョン・プログラム(P98305W)にアクセスして、「バッチ・アプリケーション」フィールドに「R4211Z1P」と入力します。

受注トランザクションレコードの除去プログラム(R4211Z1P)を使用して、受注オーダー明細未編集トランザクション・ファイル・テーブル(F4211Z1)からレコードを削除します。

第 16 章

返品承認の生成

この章では、返品承認(RMA)の概要と、次の方法について説明します。

- 返品承認デフォルト値の設定
- 返品承認の作成
- 返品承認(RMA) – 受注オーダー状況の更新プログラムの実行
- 返品承認の除去プログラムの実行

返品承認について

返品承認(RMA)は、仕入先が顧客からの返品に対して貸方入力、交換、修理を承認することです。仕入先用に、在庫の返品をトラッキングするための承認番号が作成されます。RGA(返品承認)とも呼ばれます。

返品承認を作成するには、返品を受け取るための購買オーダーと、交換製品を出荷するための受注オーダーを作成します。交換製品を出荷するかわりに、クレジット・オーダーを作成することもできます。購買オーダーと受注オーダーの作成方法を指定するには、受注オーダー入力プログラム(P4210)と購買オーダー・プログラム(P4310)の各バージョンの処理オプションを設定し、それらのバージョンを返品承認デフォルトプログラム(P40052)で指定します。

返品承認番号の生成には自動採番機能が使用されます。返品承認番号により、購買オーダーと受注オーダーが関連付けられます。

返品を受け取る際に購買オーダーを作成すると、入荷工程、倉庫貯蔵、および品質検査などのシステム処理を利用できます。また、顧客に代替品目を出荷する受注オーダーを作成したり、返品用の貸方入力するクレジット・オーダーを作成することもできます。

返品承認モジュールの機能は次のとおりです。

- 返品されていない部品または機械に対する請求処理のトリガー
- 在庫削減、用途に基づいた発注点予測
- 部品番号が使用される際の(予約、出荷、入荷、残高調整、バックオーダー補充など)の部品代用

一般的なビジネス例

あるコンピュータ販売会社が6か月の保証付きでラップトップ・コンピュータを顧客123に販売したとします。その3か月後ラップトップ・コンピュータが壊れ、顧客123は修理を依頼しました。コンピュータ販売会社はRMAを作成し、それによって受注オーダーと購買オーダーが自動的に作成されます。受注オーダーを使用して新しいコンピュータを出荷し、購買オーダーを使用して故障したコンピュータの入荷をトラッキングします。このコンピュータ販売会社の方針では、顧客が故障したコンピュータを20日以内に返品すれば、一切請求を行わないことになっています。20日を過ぎると、新しいコンピュータの料金が顧客に請求されます。この顧客の場合は、故障したラップトップ・コンピュータを20日以内に返品したので、出荷確認された時点で受注オーダーは取り消されます。

この例は単一のトラッキング・トランザクションの場合で、受注オーダーと購買オーダーをこのトランザクションに結び付けることができます。

返品承認デフォルト値の設定

この項では、返品承認デフォルト値の概要と次の方法について説明します。

- 返品承認デフォルト値の設定
- 検索順序の決定

返品承認デフォルト値について

返品承認デフォルト情報を設定する際、返品承認タイプ、事業所、サービス・タイプ、サービス業者およびサービス・グループを基準としたデフォルト・データを使用して出荷用部品が予約、リリースされるようシステムに指示します。購買オーダー、クレジット・オーダーおよび受注オーダーの返品承認デフォルト情報を入力します。

サービス・オーダーからの返品承認を入力すると、サービス業者情報がサービス・オーダーから取り込まれます。住所録情報は、サービス・オーダー入力時に作成された作業オーダー・マスター (F4801) から取り込まれます。

メニューから直接返品承認を入力した場合、サービス業者は自動入力されません。この場合、出荷先住所が顧客のデフォルト値として使用されます。

返品承認情報に基づいてデフォルト値を検索する順序を定義します。検索は最も詳細なものから一般的なものへ順番に進められます。一致するものが見つかったら、デフォルト値の検索は停止されます。

返品承認デフォルトの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
返品承認 (RMA) デフォルトの処理	W40052A	「日次受注オーダー管理処理」メニュー (G4210)、「追加オーダー処理」 (G4212)、「返品承認デフォルト」	返品承認デフォルトを検討します。
返品承認 (RMA) デフォルト値の改訂	W40052B	「返品承認 (RMA) デフォルトの処理」フォームで「追加」をクリックします。	返品承認デフォルト値を設定します。
返品承認 (RMA) デフォルトの検索順序	W40052C	「返品承認 (RMA) デフォルトの処理」フォームで、「フォーム」メニューの「検索順序」を選択します。	検索順序を決定します。

返品承認デフォルト値の設定

「返品承認 (RMA) デフォルト値の改訂」フォームにアクセスします。

返品承認デフォルト - 返品承認(RMA)デフォルト 値の改訂

返品承認(RMA)デフォルトの処理 返品承認(RMA)デフォルト値の改訂

OK(O) 取消(L) 前 次 ツール(T)

返品承認タイプ R8 Return Material Authorization 事業所

サービス・タイプ サービス・グループ

サービス業者

購買オーダー クレジット・オーダー 受注オーダー

修理可能事業所 ★ S30

修理可能保管場所

仕損事業所 ★ S30

仕損保管場所 SC.RAP.

購買オーダー・バージョン ZJDE0014 Return Material Authorization

入荷リードタイム 10 日

「返品承認(RMA)デフォルト値の改訂」フォーム

- サービス・グループ** 地域、提供されるサービス・タイプ、請求条件など、エンドユーザーがサービス業者を論理グループに分類できるようにするためのサービス業者の属性の値を入力します。
- 修理可能事業所** 修理可能保管場所が属する事業所を入力します。このフィールドは、RMAから作成された購買オーダー明細行に表示されます。
- 修理可能保管場所** 在庫を入庫する倉庫内の区域を入力します。保管場所フォーマットは、ユーザーが定義し、事業所別に入力します。
- 返品された在庫品目が修理可能である場合、その在庫品目は修理可能事業所に割り当てられます。返品された在庫品目が修理不能である場合、仕損事業所に割り当てられます。
- 仕損事業所** 売掛請求書の生成に使用するビジネスユニットを入力します。
- 購買オーダー・バージョン** 購買オーダーの作成に使用する購買オーダー入力プログラム(P4310)のバージョンを指定します。
- 入荷リードタイム** 返品在庫品目番号の約束納入日付の計算に使用する値を入力します。
- 出荷事業所** 受注オーダー明細行に表示される出荷事業所を入力します。
- 出荷保管場所** RMAから作成された受注オーダーの出荷保管場所を入力します。このフィールドをブランクのままにした場合、オーダー明細行は基本保管場所にソフト・コミットされます。保管場所が指定されている場合、この保管場所へのハード・コミットとしてオーダー明細行が表示され、それにあわせて品目保管場所テーブル(F41021)が更新されます。
- 受注オーダー・バージョン** 受注オーダーの作成に使用する受注オーダー入力プログラム(P4210)のバージョンを指定します。

検索順序の決定

「返品承認(RMA)デフォルトの検索順序」フォームにアクセスします。

階層型検索に組み込むフィールドに「Y」を入力します。

表示順序 フォーム上での表示順序を指定する数字を入力します。

返品承認の作成

この項では、返品承認の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 返品承認(RMA)の改訂プログラム(P400511)の処理オプションの設定
- 返品承認(RMA)の処理プログラム(P40051)の処理オプションの設定
- 返品承認の入力

返品承認の入力について

返品承認(RMA)は、仕入先が顧客からの返品に対して貸方入力、交換、修理を承認することです。仕入先用に、在庫の返品をトラッキングするための承認番号が作成されます。この一連のプログラムで、在庫品目番号で返品在庫を管理しているユーザーをサポートします。

返品を管理して、貸方入力または修理するには、返品承認情報を入力します。顧客から欠陥品目についてクレームの電話がかかってきた場合、返品承認プログラムを使用して次の処理を行うことができます。

- 返品に対する承認番号の採番
- 返品品目を記録する購買オーダーの定義
- 顧客の勘定科目に貸方入力するクレジット・オーダーの定義
- 出荷品目を予約およびリリースする受注オーダーの定義
- 返品に対する受注オーダー番号または請求書番号の関連付け
- 品目の受領または再出荷などの他の処分タイプの実行

必要に応じて、コンサルタントは返品修理用のサービス・オーダーを入力できます。また、サービス・オーダーが承認の見出しに記載されている場合、返品承認処理を使用して顧客、サービス業者、技術者に対して置換品目を出荷することも可能です。返品承認を入力すると、返品承認テーブル(F40051)にレコードが作成されます。

購買オーダーまたは受注オーダーの情報を入力できます。適切なオプションを選ぶことで、生成されるオーダー・タイプを選択して、オーダー情報を入力できます。たとえば、請求書を作成する場合は、「返品承認(RMA)の処理」フォームの「ロー」メニューから「受注オーダー」を選択して「オンライン請求書」を選択します。

クレジット・メモ

クレジット・メモを入力すると、既存の受注オーダーに対する逆仕訳が作成されます。これにより、受注オーダーの金額が差し引かれます。

クレジット・メモを作成する際に、販売明細実績テーブル (F42199) からオーダーの履歴情報が表示されます。ここからオーダー全体またはオーダー明細行を選択できます。クレジット・メモは、オーダーまたはオーダー明細行の組合せから作成できます。オーダーまたはオーダー明細行を選択すると、販売履歴照会プログラム (P42025) から返品承認 (RMA) の改訂プログラム (P400511) に情報が取り込まれます。P42025 プログラムを閉じると、与信情報を検討できます。

金額を貸方入力するには、行タイプに返品取引を示すコードが指定されている必要があります。

クレジット・メモを作成する際、販売明細履歴テーブル (F42199) からオーダーの履歴情報が取り込まれます。

注意: クレジット・メモを消去すると、「フォーム」メニューから「クレジット・メモの消去」を選択するたびに与信額が清算されます。

クレジット・メモの作成後に与信情報を削除するには、「返品承認 (RMA) の改訂」フォームで、該当する明細行を消去します。

一度に1つのオーダー明細行が取り込まれます。

誤った明細行またはオーダーを選択してクレジット・メモを作成してしまった場合、クレジット・オーダーの作成前であれば、与信情報を消去できます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 受注オーダーと購買オーダーを作成するためのデフォルト値を定義します。
- 返品承認状況用UDC (40/RN) を設定します。
- 次のシステムが購入およびインストール済であることを確認します。必ずこれらのシステムをインストールして、返品承認 (RMA) の処理プログラム (P40051) を使用できるようにしてください。
 - システム41: JD Edwards EnterpriseOne在庫管理
 - システム42: JD Edwards EnterpriseOne受注管理
 - システム43: JD Edwards EnterpriseOne調達管理
- 返品承認用に固有の伝票タイプを設定します。
- クレジット・オーダー用の受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを設定します。
- 返品承認用の販売履歴照会プログラム (P42025) のバージョンを設定します。請求済のオーダーのみを取り込むように、P42025プログラムの状況コードに関する処理オプションを設定してください。
- P40051およびP400511プログラムのバージョンを設定します。P400511プログラムの処理オプションでは、返品承認用に設定したP42025プログラムのバージョンを入力できます。
- 返品承認デフォルト・プログラムを設定します。P40052プログラムでは、受注オーダーおよびクレジット・オーダー用のP4210プログラムのバージョンや、返品承認に使用する購買オーダー入力 (P4310) のバージョンを指定できます。バージョンを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

関連項目:

第 16 章、「返品承認の生成」、「返品承認デフォルト値の設定」、404ページ

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Foundation Guide

第 7 章、「受注オーダーの入力」、「デフォルト行情報の入力」、169ページ

返品承認の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
返品承認(RMA)の改訂	W400511E	<p>「作業オーダー日次処理」(G1712)または「追加オーダー処理」(G4212)、「返品承認」</p> <p>「返品承認(RMA)の処理」フォームで「追加」をクリックします。</p> <p>クレジット・メモを追加するには、「返品承認(RMA)の改訂」フォームの「フォーム」メニューで「販売履歴」を選択します。「販売履歴照会の処理」フォームの「ロー」メニューで「クレジット・メモ」を選択した後、明細行またはオーダーを選択します。</p>	<p>返品承認を入力します。</p> <p>返品承認およびクレジット・メモを設定します。</p>

返品承認(RMA)の改訂プログラム(P400511)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、システム・デフォルト値の設定、編集するフィールドの制御、システム処理の制御、およびバージョンを指定します。

デフォルト処理オプション

この処理オプションでは、RMAの改訂処理で使用するデフォルト情報を制御します。

- 1. デフォルトの返品承認(RMA)伝票タイプ**
 デフォルトの返品承認(RMA)伝票タイプのユーザー定義コード(UDC)00/DTの値を入力します(R8やR9など)。
- 2. 受注オーダーの「補助元帳」フィールドのサービス・オーダー番号**
 受注オーダーの「補助元帳」フィールドに作業オーダー番号を入力するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 作業オーダー番号を受注オーダーの「補助元帳」フィールドに入力しません。
 1: 作業オーダー番号を受注オーダーの「補助元帳」フィールドに入力します。
- 3. サービス作業オーダーからの入荷在庫品目番号**
 部品の入荷時にRMAに品目番号を入力するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 入荷時に品目番号は入力しません。
 1: サービス作業オーダー見出しからの入荷に対し在庫品目番号を入力します。
- 4. サービス作業オーダーからの出荷在庫品目番号**
 部品の出荷時にRMAに品目番号を入力するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 出荷伝票に品目番号は入力しません。
 1: サービス作業オーダー見出しからの出荷在庫品目番号を入力します。
- 5. サービス作業オーダーからの入荷設備番号**
 部品の入荷時にRMAに設備シリアル番号を入力するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

- ブランク: シリアル番号を入力しません。
1: シリアル番号を入力します。
- 6. サービス作業オーダーからの出荷設備番号** 部品の出荷時にRMAに設備シリアル番号を入力するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: シリアル番号を入力しません。
1: 部品の出荷時にRMAにシリアル番号を入力します。
- 7. クレジット・メモの行タイプ** 販売明細からRMAが作成され、RMAによってクレジット・メモが作成される場合のRMA明細行の行タイプを指定します。UDC 40/RNから値を入力します。
- 8. 保証請求の前の処分** 保証請求からRMAを作成する場合に、RMA明細行を作成するための行タイプを示す値UDC 40/RNを指定します。
- 9. 仕入先回収請求の行タイプ** 仕入先回収請求からRMAを作成する場合に、RMA明細行を作成するための行タイプを示す値UDC 40/RNを指定します。

編集

この処理オプションでは、RMAの入力時に必要となるフィールドを制御します。

- 1. サービス・オーダー番号の入力** RMAを入力する際に、作業オーダー番号を必須にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 作業オーダー番号は必須ではありません。
1: 作業オーダー番号は必須です。
- 2. ケース番号の入力** RMAを入力する際に、ケース番号を必須にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 要求番号は必須ではありません。
1: ケース番号は必須です。
- 3. 当初の受注オーダー番号の入力** RMAを入力する際に、当初受注オーダー番号を必須にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 当初受注オーダー番号は必須ではありません。
1: 当初受注オーダー番号は必須です。
- 4. 当初の請求書番号の入力** RMAを入力する際に、当初請求書番号を必須にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 当初請求書番号は必須ではありません。
1: 当初請求書番号は必須です。
- 5. 必須理由コード** RMAを入力する際に、理由コードを必須にするかどうかを指定します。
ブランク: 理由コードは必須ではありません。
1: RMAの作成時に理由コードは必須です。
2: 処分の添付時に理由コードは必須です。

処理

この処理オプションでは、返品が予定される商品のメッセージを送信するかどうか、部品リストの検索/選択フィールドを追加モードで表示するかどうかを制御します。

- | | |
|---------------------------------|--|
| 1. 返却が予想される商品のメッセージ | 返品が予定される商品のメッセージを送信するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: メッセージを送信しません。
1: メッセージを送信します。 |
| 2. 追加モードでの部品リストの検索/選択の表示 | 追加モードで部品リストの検索/選択を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 追加モードでは部品リストの検索/選択を表示しません。
1: 追加モードで部品リストの検索/選択を表示します。 |

バージョン

この処理オプションでは、プログラムで呼び出されるバージョンを制御します。

- | | |
|----------------------------------|--|
| 1. 販売履歴照会 (P42025) | クレジット・メモ用に設定する販売履歴照会プログラム (P42025) のバージョンを入力します。このフィールドをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。 |
| 2. 顧客/連絡先のスピード追加 (P01015) | 新規の顧客レコードの追加に使用する顧客のスピード追加プログラム (P01015) のバージョンを入力します。このフィールドをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。 |
| 3. 作業オーダーの処理 (P48201) | 作業オーダーの処理プログラム (P48201) のバージョンを入力します。このフィールドをブランクにすると、バージョン ZJDE0002 が使用されます。 |
| 4. コールの処理 (P17500) | コールの処理プログラム (P17500) のバージョンを入力します。このフィールドをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。 |
| 5. オンライン請求書照会 (P42230) | オンライン請求書照会プログラム (P42230) のバージョンを入力します。このフィールドをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。 |
| 6. 出荷確認 (P4205) | 出荷確認プログラム (P4205) のバージョンを入力します。このフィールドをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。 |
| 7. 入荷確認照会 (P43214) | 入荷確認照会プログラム (P43214) のバージョンを入力します。このフィールドをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。 |
| 8. 在庫照会 (P41202) | 在庫照会プログラム (P41202) のバージョンを入力します。このフィールドをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。 |
| 9. 品目相互参照 (P4104) | 品目相互参照プログラム (P4104) のバージョンを入力します。このフィールドをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。 |
| 10. 入荷確認 (P4312) | 入荷確認プログラム (P4312) のバージョンを入力します。このフィールドをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。 |
| 11. 購買オーダー (P4310) | 購買オーダー・プログラム (P4310) のバージョンを入力します。このフィールドをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。 |

返品承認(RMA)の処理プログラム(P40051)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、システム・デフォルト値の設定およびバージョンを指定します。

デフォルト

この処理オプションでは、返品承認情報を入力する際に提供されるデフォルト情報を制御します。

- | | |
|--------------------------|---|
| 1. 返品承認(RMA)伝票タイプ | 作成する返品承認レコードの伝票タイプを示す値UDC 00/DTを指定します。たとえば、受注オーダーを作成する返品承認の場合はR8、クレジット・オーダーを作成する返品承認の場合はR9を指定します。 |
| 2. 見出し事業所 | デフォルト事業所を指定します。値は次のとおりです。
ブランク: ユーザー保管場所から事業所を使用します。
1: 出荷先住所から事業所を使用します。
2: 販売先住所から事業所を使用します。 |
| 3. デフォルト事業所 | 返品承認レコードの作成に使用するデフォルト事業所を指定します。データ入力に既存の事業所値を使用できます。 |

バージョン

この処理オプションを使用して、使用するプログラムのバージョンを制御します。

- | | |
|---|--|
| 1. 返品承認(RMA)の改訂 - P400511 (ZJDE0001) | 返品承認情報の入力に使用する、返品承認(RMA)の改訂プログラム(P400511)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 2. 出荷確認 - P04205 (ZJDE0001) | 返品承認(RMA)から作成される受注オーダーの出荷確認に使用する、出荷確認プログラム(P4205)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 3. 入荷入力 - P4312 (ZJDE0001) | 入荷の入力に使用する購買オーダー入荷プログラム(P4312)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 4. 受注オーダー入力 - P4210 (ZJDE0001) | 返品承認(RMA)の処理プログラム(P40051)へのアクセスに使用する受注オーダー入力プログラム(P4210)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 5. 購買オーダー入力 - P4310 (ZJDE0001) | 返品承認(RMA)の処理プログラム(P40051)から購買オーダー入力プログラム(P4310)へのアクセスに使用するP4310プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 6. 作業オーダーの改訂 - P17714 (ZJDE0001) | 作業オーダーの作成に使用する、作業オーダーの改訂プログラム(P17714)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 7. オンライン請求書 - P42230 (ZJDE0001) | 返品承認(RMA)から作成される受注オーダーの請求書の作成に使用するオンライン請求書照会プログラム(P42230)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。 |

- | | |
|------------------------------------|--|
| 8. 入荷確認照会 - P43214 (ZJDE0001) | 返品承認 (RMA) から作成される購買オーダーの検索に使用する入荷確認照会プログラム (P43214) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにした場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。 |
| 9. 入荷確認 - P4312 (ZJDE0001) | 購買オーダー入荷の入力に使用する購買オーダー入荷プログラム (P4312) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにした場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。 |
| 10. 作業オーダーの処理 - P48201 (ZJDE0002) | 作業オーダーの検索または追加に使用する、作業オーダーの処理プログラム (P48201) のバージョンを指定します。ブランクにした場合は、バージョン ZJDE0002 が使用されます。 |
| 11. ケースの処理 - P17500 (ZJDE0001) | 返品承認に該当する要求番号の検索に使用する、ケースの処理プログラム (P17500) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、ZJDE0001 が使用されます。 |
| 12. 設備マスターの処理 - P1701 (ZJDE0001) | 設備マスター・レコードの追加または検索に使用する、設備マスターの処理プログラム (P1701) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにした場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。 |
| 13. ピッキングリスト印刷 - R42520 (XJDE0001) | 返品承認 (RMA) を使用して作成した受注オーダーのピッキング・リストの処理に使用する、ピッキング・リストの印刷プログラム (R42520) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにした場合、バージョン XJDE0001 が使用されます。 |

返品承認の入力

「返品承認 (RMA) の改訂」フォームにアクセスします。

顧客

住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号を入力します。この番号は、住所録レコードに関する情報の検索および入力に使用できます。詳細住所や税IDなど、住所録番号 (AN8) 以外の値を入力した場合は、住所録固定情報で定義した特殊文字を前に付ける必要があります。レコードが検出されると、そのレコードの住所録番号がこのフィールドに表示されます。

たとえば、住所録番号 4100 (Total Solutions) の詳細住所が TOTAL で、住所録固定情報で定義した詳細住所を区別する記号が * (アスタリスク) の場合、このフィールドに「TOTAL*」と入力して検索すると、4100 が表示されます。

顧客参照No.

返品承認と顧客番号の相互参照に使用されます。

保証請求/PO No. (保証請求/購買オーダー番号)

保証修理のためにサービス業者が提示する保証請求を入力します。

事業所

受注オーダーおよび購買オーダーの作成時に使用する事業所を入力します。

コール

顧客案件を特定する番号を入力します。

前の処分

返品承認行の現行状況を示す UDC 40/RN の値を入力します。「前の処分」フィールドの特殊取扱コードによって、返品承認行への前の処分の入力時に、購買オーダーと受注オーダー (またはクレジット・オーダー) のどちらか、あるいは両方が作成されるかが決まります。

特殊取扱コードは次のとおりです。

1: 購買オーダーのみ。

	2: 受注オーダーのみ。
	3: 推奨のみ。購買オーダーも受注/クレジット・オーダーも作成されません。推奨は、返品承認の作成時に、受注オーダーまたは購買オーダーを作成する必要があるかが不明な場合に便利です。
	4: クローズ。
	5: 購買オーダーと受注オーダー。
	6: クレジット・オーダーのみ。
	7: 購買オーダーとクレジット・オーダー。
返品承認品目No.	品目に割り当てられる番号を入力します。略式、詳細形式、第3品目番号形式があります。
返品承認品目記述	ユーザー定義の名前または備考を入力します。
返品承認数量	引当可能数量を表す値を入力します。たとえば、手持残高数量から引当数量、予約数量、バックオーダー数量を引いた数量を入力します。この値は、事業所固定情報プログラム(P41001)で入力します。
返品承認行No.	返品承認レコードの明細行の番号を入力します。
入荷在庫品目	品目に割り当てられる番号を入力します。略式、詳細形式、第3品目番号形式があります。
設備No.入荷用	資産を示す識別コードを入力します。値は次のとおりです。 1: 資産番号のフォーマット(自動的に割り当てられる8桁の数値による制御番号) 2: ユニット番号のフォーマット(12文字の英数字フィールド) 3: シリアル番号のフォーマット(25文字の英数字フィールド) すべての資産には資産番号があります。ユニット番号とシリアル番号を使用して、さらに詳しく資産を識別できます。これがデータ入力フィールドである場合は、入力する最初の文字で、システムに定義されている基本(デフォルト)フォーマット、またはそれ以外の2種類のフォーマットのどれを入力するかを指定します。このフィールドの1文字目の特殊文字(「/」や「*」など)は、どの形式の資産番号を使用しているかを示します。資産番号フォーマットに対する特殊文字の割当は、固定資産管理のシステム固定情報フォームで行います。
返品承認タイプ	返品承認レコードの伝票タイプを示すUDC 00/DTの値を入力します。
顧客	交換部品を出荷するまたは返品を受けてそのかわりに在庫品目を出荷する出荷先を示す住所録番号を入力します。

返品承認(RMA) - 受注オーダー状況の更新プログラムの実行

この項では、返品承認(RMA) - 受注オーダー状況の更新プログラムの概要および次の方法について説明します。

- 返品承認(RMA) - 受注オーダー状況の更新プログラム(R400502)の処理オプションの設定
- 返品承認(RMA) - 受注オーダー状況の更新プログラムの実行

返品承認(RMA) - 受注オーダー状況の更新プログラムについて

返品承認(RMA) - 受注オーダー状況の更新プログラム(R400502)は、上級交換用に実行します。たとえば、品目出荷用の受注オーダーを作成し、欠陥製品ではあるけれども類似したものを入荷するために購買オーダーを作成するとします。約束納入日付までに欠陥製品が入荷されない場合、関連受注オーダー明細行の状況が請求書の印刷などのユーザー定義状況に更新され、置換品目の料金が顧客に請求されます。約束納入日付までに欠陥製品が入荷された場合、関連受注オーダー明細行の状況が完了-除去可能などのユーザー定義状況に更新されます。さらに、置換品目の価格がゼロに変更され、販売請求書は印刷されません。

F40051テーブルに基づいてデータが選択されます。返品承認(RMA)デフォルト・プログラム(P40052)の「入荷リードタイム」フィールドから約束納入日付が計算されます。納期が過ぎた後に欠陥品目が返品されてきた場合、受注オーダー状況が更新されます。欠陥品目を受け取った時点で、購買オーダー状況が更新されます。

返品承認(RMA) - 受注オーダー状況の更新(R400502)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、返品承認(RMA) - 受注オーダー状況の更新プログラム(R400502)のデフォルトの状況とバージョンを指定します。

処理

この処理オプションでは、品目番号の次状況を制御します。

- 1. 未入荷在庫品目番号に関連する受注オーダーに対する次状況を入力します。** 入荷していない在庫品目番号に関連する受注オーダーが次に変更される次状況を入力します。これはUDC(40/AT)です。
- 2. 入荷済み在庫品目番号に関連する受注オーダーの次状況を入力します。** 入荷した在庫品目番号に関連する受注オーダーが次に変更される次状況を入力します。これはUDC(40/AT)です。

バージョン

この処理オプションでは、プログラムから呼び出す受注オーダー入力プログラムのバージョンを制御します。

- 1. 受注オーダー入力 - P4210** 受注オーダー入力プログラム(P4210)のバージョンを入力します。この処理オプションをブランクのままにしておくと、バージョンZJDE0001が使用されます。

返品承認(RMA) - 受注オーダー状況の更新プログラムの実行

「追加オーダー処理」(G4212)、「RMA - 受注オーダー状況の更新」を選択します。または、「作業オーダー日次処理」(G1712)、「RMA - 受注オーダーの更新」を選択します。

返品承認の除去プログラムの実行

この項では、返品承認の除去の概要と次の方法について説明します。

- 返品承認の除去プログラム(R400510)の処理オプションの設定
- 返品承認の除去プログラムの実行

返品処理の除去について

クローズされた返品承認レコードをすべてF40051テーブルから削除するために、返品承認の除去プログラムを実行します。関連受注オーダーまたは購買オーダーがクローズされると(受注オーダー明細(F4211)または購買オーダー明細(F4311)テーブルに明細行がなくなると)、返品承認レコードが削除されます。また、補足検証として、返品承認の除去プログラムの適切な処理オプションを設定することもできます。これによって、F4211テーブルのみでなく受注オーダー履歴ファイル・テーブル(F42119)をチェックして、どちらのテーブルにも受注オーダー明細レコードがないことを確認できます。受注オーダー明細レコードがそのどちらかまたは両方のテーブルにある場合は、返品承認レコードは削除されません。

返品承認の除去プログラム(R400510)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、返品承認の除去プログラム(R400510)の除去処理を指定します。

除去

この処理オプションでは、受注オーダー履歴ファイル・テーブル(F42119)を検証して、関連受注オーダー明細行がないことを確認します。返品承認の除去プログラムが返品承認を除去するのは、F4211テーブルまたはF42119テーブルに関連受注オーダー行がない場合のみです。

レコードの検証

返品承認レコードを除去する前にF42119テーブルとレコードを照合して検証を行うかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: F42119テーブルとレコードを照合した検証は行いません。

1: F42119テーブルとレコードを照合して検証を行います。

返品承認の除去プログラム(R400510)の実行

「追加オーダー処理」(G4212)、「RMA(返品承認)のページ」を選択します。

または、「作業オーダー日次処理」(G1712)、「RMA(返品承認)のページ」を選択します。

第 17 章

優先情報の有効化

この章では、優先情報、基本優先情報と詳細優先情報の違い、優先タイプおよびカスタム優先タイプの概要や、次の方法について説明します。

- 優先マスター情報の設定
- 優先階層の作成
- 基本優先情報の設定
- 詳細優先情報の設定
- グループへの顧客および品目の割当
- 優先情報の有効化

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「補足調整の使い方」

優先情報について

優先情報は、特定の顧客と品目の組合せに基づいて、特定の受注オーダー明細行のデフォルト情報を一時変更するために使用されます。通常、JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムのデフォルトとは異なる設定を常に使用する場合に、優先情報を使用します。たとえば、優先情報は次の要件に応じて作成できます。

- 顧客固有のニーズ
- 品目固有のニーズ
- 品目数量のニーズ、オーダー独自のニーズ
- 会社の業務方針に固有のニーズ

優先情報を使用するには、特定のビジネス・ニーズにあわせて優先情報をカスタマイズする設定タスクを実行する必要があります。事業の拡大や変更に応じて優先情報をさらにカスタマイズするときにも、この設定タスクを使用できます。

各優先情報の設定と使用には、注意深い計画が要求されます。たとえば、優先情報を使用する業務目的だけでなく、処理時間の短縮についても考慮します。

注意: 状況によって変化する情報については、優先情報は使用しないでください。このような場合は、顧客情報または品目情報の該当フィールドに例外情報を手作業で入力します。

優先マスターと階層

受注オーダー処理において、システムのデフォルトと異なるビジネス要件が常に必要な場合に、優先情報を設定できます。

「優先プロファイル」フォームには論理グループの優先情報が表示されます。「優先マスターの改訂」フォームを使用して優先情報をフォームのどこに表示するか、および有効日付と数量を優先情報に含めるかどうかを指定します。

各優先情報に階層を定義して、受注オーダーに優先情報を適用する順序を指定する必要があります。

基本優先情報と詳細優先情報との違いについて

事前定義済の優先情報が用意されています。これらの優先情報は基本または詳細として定義されています。基本優先情報プロファイルは、オーダーの処理方法を一時変更するために使用する特定の優先タイプを基にしています。基本優先情報は、特別に定義されたビジネス・ニーズをカスタマイズする場合に便利です。詳細優先情報は、基本優先プロファイルで使用する優先タイプの多くを使用しますが、より詳細で複雑な処理機能を備えています。詳細優先情報は、オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 価格管理システムと同様のロジックを使用します。

基本優先情報

基本優先情報を使用して、受注オーダーの処理方法をカスタマイズできます。基本優先情報を使用して特定のビジネス・ニーズに対応します。基本優先情報または優先プロファイルは、顧客、品目、または顧客情報（販売先、出荷先または親住所）、顧客グループ、品目、および品目グループの組合せについて定義する情報のことです。優先プロファイルにより、オーダー入力時に通常使用される顧客および品目の設定情報が一時変更されます。

1つのカテゴリ内の全優先タイプに適用される標準優先情報は、すべての優先情報で共有されます。基本優先情報を設定するときに、各優先情報についてこの基本優先情報を「優先マスターの処理」フォームの見出し領域に入力します。詳細グリッドには、それぞれの優先情報に固有の情報を入力します。すべての優先情報にはキー・フィールドと呼ばれる共通のフィールドがあり、このフィールドに標準優先情報を入力します。各優先情報について、この情報を「優先プロファイルの改訂」フォームの見出し領域に入力する必要があります。

適用可能な「優先プロファイル」フォームのグリッドには、カスタム優先情報を入力します。それぞれの優先情報には、その条件に応じた固有の定義フィールドが1つ以上あります。たとえば、運送業者優先情報の定義フィールドは、輸送モード優先情報の定義フィールドとは異なります。

標準優先情報の入力時に、優先レコードの検索に使用する順序番号も指定できます。たとえば、顧客と品目の組合せに対して優先情報を設定し、追加のキー・フィールドごとにその優先情報を変更するには、優先情報レコードに順序を付けます。事業所Aの優先順序を「1」、事業所Bの優先順序を「2」、その他の事業所をすべて「999」に設定すると、その他の事業所に適用する優先情報が使用される前に、事業所AおよびBの優先情報が先に検索されます。

このため、優先情報レコードの順序番号は注意して設定してください。すべての事業所に適用される優先情報の順序番号が1の場合は、全事業所に適用する優先情報が最初に検索されるので、事業所AやBに割り当てられた特定の優先情報は検索されません。順序番号を昇順で設定すると、新しい優先情報を後で挿入できます。

基本優先情報の使用方法

それぞれの優先情報には標準の見出し行があります。この行のフィールドを使って、次の項目に優先情報を定義します。

- 顧客
- 顧客グループ
- 品目
- 品目グループ
- 顧客または顧客グループの組合せ
- 品目または品目グループの組合せ

優先情報を使用するには、その情報を有効にする必要があります。受注オーダー入力プログラム (P4210) などのプログラムで、各オーダー行の顧客と品目の組合せに影響する情報を含む、適用可能な優先情報が検索されます。

受注オーダーの入力では、この情報はオーダーの一部です。定義した階層を使用して、適切な顧客と品目の優先情報が検索されます。

作成した各優先情報に対してプログラムが実行されます。優先情報を使用しオーダーを入力している場合は、設定した階層を使用して、オーダー行ごとに顧客と品目の組合せに影響する情報の優先プロファイルが検索されます。この情報を基に、受注オーダーの一部が入力されます。

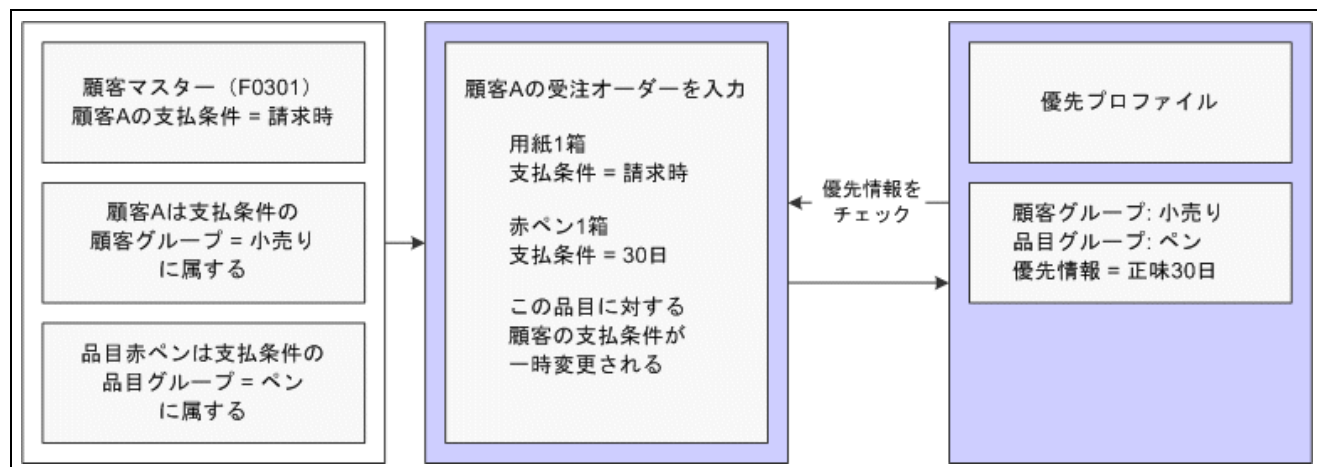
優先情報には、デフォルト情報を一時変更するものと、受注オーダーの処理中に使用する情報を追加するものがあります。このため、優先情報が受注オーダーにすぐに表示されないことがあります。

例: 基本優先情報の適用

デフォルトの支払は、品目が顧客に納品された時点で請求されます。たとえば、小売業の顧客を支払条件の基本優先顧客グループ「RETAIL」(小売り)に定義したとします。「RETAIL」(小売り)グループに属する顧客Aが赤ペンを発注します。赤ペンは、支払条件の基本優先品目グループ「PEN」(ペン)に属し、このグループの支払条件は30日と設定されています。この優先情報の階層に基づき、この顧客グループおよび品目グループの組合せに対する支払条件は30日となり、業種別顧客マスター (F03012) に設定した顧客の支払条件が一時変更されます。

顧客Aのオーダーを入力すると、F03012テーブルから取り込まれる顧客の支払条件がオーダー見出しに表示されます。

次の図は、システムによる優先情報の適用方法を示します。



優先情報

詳細優先情報

詳細優先情報を使用して、受注オーダーの処理方法をカスタマイズできます。複合ビジネス要件に対応するために詳細優先情報を使用します。詳細優先情報を使用することで、複合品目グループと複合顧客グループを使用できます。JD Edwards EnterpriseOne価格管理と同様に、複合グループはカテゴリ・コードの定義に基づいて処理されます。

詳細優先情報は、アプリケーションと定義テーブルのセットを1つ使用するため、設定と保守が容易になります。詳細優先情報の使用には、1つ以上の優先情報名(タイプ)、優先スケジュールおよび優先詳細の設定が含まれます。詳細優先情報を設定するときに、特定のオーダー処理時に優先情報により一時変更する特定のキー・フィールドを指定します。キー・フィールドとともに戻り値フィールドも指定します。

優先情報の解決に使用されるデフォルトの優先情報スケジュールを、「システム固定情報」フォームで作成できます。オプションとして、受注オーダー入力プログラム(P4210)の処理オプションに代替優先情報スケジュールを入力することで、デフォルトの優先情報スケジュールを一時変更できます。

デフォルトまたは代替詳細優先情報スケジュールで未定義の優先情報は、基本優先情報設定を使用して解決されます。したがって、ユーザーが優先情報を定義するのと同様に、基本優先情報と詳細優先情報が設定され解決されます。

優先タイプについて

オーダー処理をカスタマイズするために、基本または詳細の優先情報を設定できます。優先情報には、基本および詳細の両方として利用できるものがあります。また、基本優先情報としてのみ、または詳細優先情報としてのみ利用できるものもあります。基本と詳細の両方の優先情報とともに、別の優先タイプを使用できます。優先タイプには、すべての優先情報で共有するフィールドが含まれています。

優先情報のフィールドは通常、次のように分類されます。

- キー・フィールド
- 定義フィールド

これらのフィールドを使用して、標準となる優先情報を入力します。キー・フィールドは省略可能です。キー・フィールドは、受注オーダーと優先情報とを照合するときの検索条件として使用できます。このフィールドは「優先マスターの改訂」フォームの見出し領域にあります。

優先情報の定義フィールドは、優先情報を解決するときに使用されます。それぞれの優先情報には、その条件に応じた固有の定義フィールドが1つ以上あります。これらのフィールドは、「優先マスターの改訂」フォームの詳細領域にあります。ブランクが有効な値になる場合もありますが、定義フィールドは必須フィールドです。通常、これらのフィールドに入力した値を使用して、受注オーダーの情報の一時変更または追加が行われます。

優先情報は様々な方法で使用されます。

- オーダー入力時にオーダー明細レコードに優先情報を追加して、それを「オーダー見出し」または「オーダー明細」のフォームに表示する。

たとえば、在庫引当情報は受注オーダー明細テーブル(F4211)に追加され、「受注オーダー明細の改訂」フォームに表示されます。

- オーダー入力時に優先情報を明細レコードに追加するが、優先情報を表示しない。

たとえば、収益ビジネスユニット情報はF4211テーブルに追加されますが、「受注オーダー明細の改訂」フォームには表示されません。

- 優先情報により優先コードなどのデフォルト情報を一時変更したり、業種のような追加情報を提供する。

次の表に、優先タイプの概要を示します。

優先タイプ	詳細優先情報	業務目的	一時変更	適用時期および表示場所
運送業者	あり	顧客または顧客グループへ優先運送業者を割り当てる。運送業者の除外も可能。		オーダー入力時にF4211テーブルに適用。
顧客通貨	あり	顧客または顧客グループへ通貨を割り当てる。検索条件として事業所を使用し、その事業所の通貨がオーダーの基準となる。1件のオーダーに対して使用可能な通貨コードは1つのみ。	なし	オーダー入力時に受注オーダー見出しテーブル(F4201)に適用。オーダー見出しの「通貨コード」フィールドに表示。
顧客運賃	なし	運賃レート、貨物取扱、および配送経路タイプを指定。出荷に請求可能な費用を適用する方法も指定可能。		オーダー入力時にF4211テーブルに適用。
配送日付	あり	品目の配送に要する日数に基づき配送日付を計算する。	なし	オーダー入力時にF4211テーブルに適用。オーダー明細行のグリッドに表示。
伝票配賦	なし	特定の配送伝票、出力待ち行列、内部と顧客に配布する部数、および配送モードを指定。	なし	バルク/パッケージ積荷確認または配送伝票の事前印刷の実行中に適用。
伝票セット	あり	印刷する配送伝票グループを定義する。デポ別に異なる伝票セットを割り当てることも可能。	なし	バルク/パッケージ積荷確認または配送伝票の事前印刷の実行中に適用。「伝票選択」フォームで選択した伝票セットに表示。

優先タイプ	詳細優先情報	業務目的	一時変更	適用時期および表示場所
最終用途	あり	製品の最終用途および関税状況を定義する。規制、価格設定、および市場分析の目的で使用する。	なし	オーダー入力時にF4211テーブルに適用。オーダー明細行のグリッドにある「最終用途」フィールドに最終用途の結果を表示。オーダー明細行の「関税状況」フィールドに関税状況を表示。
拡張条件取引	なし	特定の品目または品目の組合せを購入する顧客に拡張条件を提供。		オーダー・レベル/バスケット・レベル価格設定プログラム(R42750)を実行する場合に適用。
運賃	あり	顧客請求運賃または契約業者に支払う運賃を決める運賃テーブルを選択する。運賃が距離、区域、固定手数料、または時間のいずれかを基準としているかを指定する。また、運賃が、支払可能運賃か、請求可能運賃かも指定する。	なし	運賃更新/レポート・バッチ・プログラム(R4981)の実行時に適用し、請求運賃または支払運賃を決定する。通常、これは日次締め処理の一部になる。配送伝票の印刷前に、請求可能な運賃計算が可能。
等級/濃度	あり	納品用に選択された梱包製品が、顧客の許容等級または濃度範囲にあることを確認する。在庫引当とともに使用するよう設計されている。	「工場製造」タブの「追加システム情報」フォームのデフォルト等級/濃度範囲(事業所情報項目に含まれる)	オーダー入力時にF4211テーブルに適用。「購買オーダー明細情報」フォームの等級/濃度範囲に表示。
売上高総利益率の価格設定	なし	目標利益率にあわせて品目の価格を定義。		オーダー入力時にF4211テーブルに適用。オーダー明細行に利益率を表示。
在庫引当	あり	顧客が製品または製品グループをオーダーするときに使用する供給元の事業所を1つ以上指定する。選択される事業所に対して、補充されるべきオーダーの最小パーセントも指定する。	オーダー見出しの「事業所」フィールドから読み取られたオーダー明細のデフォルトの事業所	オーダー入力時にF4211テーブルに適用。受注オーダー明細に、出荷元事業所、輸送モード、運送業者、経路コードを表示。
業種	あり	価格調整、受注分析、その他のビジネス・ニーズの基準として使用される顧客の業種を指定。	なし	オーダー入力時にF4211テーブルに適用。レポートに結果を表示。
輸送モード	なし	商品の輸送に使用する運送業者のタイプ、出荷元、出荷先の情報、および供給元の配送方法を指定。		オーダー入力時にF4211テーブルに適用。オーダー明細行に輸送モードを表示。

優先タイプ	詳細優先情報	業務目的	一時変更	適用時期および表示場所
複数の入出荷保管場所	なし	製品の保管場所を割り当てる入出荷用の保管場所を定義する。指定する保管場所のアクティブ化/非アクティブ化が可能。	事業所固定情報のデフォルト保管場所	受注オーダーおよび購買オーダーの入力時に適用。次のようなプログラムを使用して、割り当てられた入出荷用の保管場所を表示: 要求照会 (P4600) 倉庫移動確認 (P4617) 出荷保管場所の一時変更 (P460501) 出荷の処理 (P4915) 積荷の処理 (P4960)
次のオーダー状況	あり	顧客が特定の製品をオーダーするときに、次のオーダー状況を変更する。オーダー入力後にオーダー状況を変更することにより、オーダー行に対する標準処理のステップを省略したり、処理ステップを追加することが可能。	オーダー処理規則のデフォルトの次状況コード	オーダー入力時にF4211テーブルに適用。オーダー明細行のグリッドの「前状況」および「次状況」フィールドに次状況コードを表示。
オーダー明細のデフォルト	あり	支払条件、価格設定単位、収益ビジネスユニット、業種、最終用途、およびユーザー定義価格コードの優先タイプの組合せによる業務目的使用してオーダーを処理。	優先タイプ別に指定	オーダー入力時にF4211テーブルに適用。優先タイプ別に指定して表示。
オプション/設備	なし	出荷用の特殊なオプションまたは設備を指定。		出荷/積荷オプションおよび設備テーブル (F4944) への出荷の改訂中に適用。「出荷/積荷オプションおよび設備の改訂」フォームのグリッドに「オプション/設備」フィールドを表示。
オーダー準備日数	あり	品目のピッキング、梱包、出荷に要する日数に基づいて、受注オーダーの納品に要する日数を正確に計算する。	なし	オーダー入力時にF4211テーブルに適用。
支払条件	あり	顧客に対する標準支払条件を指定する。支払条件は、請求書の支払期日および割引に影響する。	オーダー見出しに表示され、顧客マスター・プログラム (P03013) に設定される、支払条件または手段	オーダー入力時にF4211テーブルに適用。オーダー明細情報に支払条件を表示。

優先タイプ	詳細優先情報	業務目的	一時変更	適用時期および表示場所
支払条件(事業所)	あり	事業所別に顧客に対する標準支払条件を指定。	オーダー見出しに表示され、顧客マスター・プログラム(P03013)に設定される、支払条件または手段	オーダー入力時にF4211テーブルに適用。オーダー明細情報に支払条件を表示。
価格調整スケジュール	あり	品目または品目グループ別に顧客ごとの複数の価格設定スケジュールを使用する。	業種別顧客マスター(F03012)のデフォルト・スケジュール	オーダー入力時にF4211テーブルに適用。オーダー明細行の「単価」フィールドの次の「価格設定単位」フィールドに表示。
価格設定単位	あり	品目の価格設定に使用する単位を設定。請求書の印刷時に、正しい価格を決定するのに使用される。	品目マスター(F4101)の価格設定単位	オーダー入力時にF4211テーブルに適用。オーダー明細行の「記述」フィールドの次の「価格設定単位」フィールドに表示。
価格設定単位(事業所)	あり	事業所別に価格設定単位と価格の拡張計算方法を設定。		オーダー入力時にF4211テーブルに適用。オーダー明細行の「記述」フィールドの次の「価格設定単位」フィールドに表示。
製品割当て	あり	顧客が購入できる製品の量を制限する。需要が供給よりも多い場合に使用する。製品が特定の顧客または顧客グループ向けにのみ生産され、その他の顧客には流通しないようにする場合にもこの優先情報を使用可能。	なし	オーダー入力時にF4211テーブルに適用。その顧客への割当限度を超過する数量をオーダー明細行に入力すると、警告メッセージを受信。残りの割当数量にまで減らさない場合は、オーダーは保留となる。メッセージを無視して超過数量を使用することも、超過数量を取り消すことも可能。
製品割当て(事業所)	なし	事業所別に、顧客が購入可能な最大数量を制限し、特定の顧客または顧客グループに引当可能な最大数量およびその割合を指定。		オーダー入力時にF4211テーブルに適用。
品質管理	なし	特定の顧客または顧客グループに対して、品質試験と仕様、許容値、推奨値、サンプル要件、および結果を指定。この優先情報は事業所に固有。		試験結果ファイル(F3711)への出荷確認時に適用。

優先タイプ	詳細優先情報	業務目的	一時変更	適用時期および表示場所
収益ビジネスユニット	あり	顧客、製品、またはその組合せに基づいて、ビジネスユニット(会計事業所)を割り当てる。収益が中央で認識される分散倉庫作業などに使用する。	オーダー見出しの「ビジネスユニット」フィールドから読み取られたデフォルトのビジネスユニット	オーダー入力時にF4211テーブルに適用。「オーダー明細情報」フォームの「収益ビジネスユニット」フィールドにすべてのカラムを表示。
収益ビジネスユニット(事業所)	あり	事業所に収益事業所、業種、および販売担当者を割り当てる。		オーダー入力時にF4211テーブルに適用。
販売コミッション	あり	顧客/品目の組合せに基づいて、販売担当者およびコミッション・レートを設定する。事業所や業種別に情報を変更することも可能。	「顧客請求指示(請求2)」フォームのデフォルトのコミッション・コード/レート・データ	オーダー入力時にF4211テーブルに適用。「オーダー明細情報」フォームのオーダー明細行に販売コミッション・データを表示。
販売価格基準日	なし	価格設定に使用する日付を指定。たとえば、要求日付、出荷日付、取引日付などを使用可能。		オーダー入力時にF4211テーブルに適用。
ユーザー定義価格コード	あり	特殊な価格設定要求に対して使用されるコードを指定。たとえば、価格コードを定義して、商品価格が一定期間公表された後に価格の再設定が必要となるオーダー行を指定する。	なし	オーダー入力時にF4211テーブルに適用。オーダー明細行のグリッド領域にある「価格コード」フィールドに価格コードを表示。

カスタム優先タイプについて

優先情報の定義フィールドは、駆動フィールドや値フィールドとも呼ばれ、優先情報を解決するときに使用されます。それぞれの優先情報には、その条件に応じた固有の定義フィールドが1つ以上あります。これらのフィールドは、各優先情報の改訂フォームの詳細領域にあります。空白が有効な値になる場合もありますが、定義フィールドは必須フィールドです。通常、これらのフィールドに入力した値を使用して、受注オーダーの情報の一時変更または追加が行われます。

運送業者の優先情報

運送業者の優先情報を使用することにより、次の項目について特定の運送業者を選択したり除外できます。

- 顧客
- 顧客グループ
- 品目
- 品目グループ

また、この情報を使って優先運送業者リストから運送業者を選択することもできます。リストから運送業者を除外する場合も運送業者の優先情報を使用できます。たとえば、易損品の出荷にあたって顧客が特定の運送業者を常に指定する場合、この情報を運送業者の優先情報として設定します。

配送経路を評価する場合にも、運送業者の優先情報が使用されます。除外された運送業者が割り当てられている配送経路は、配送経路の自動選択では選択されません。出荷の配送経路オプションとして除外された運送業者の配送経路を選択すると、配送経路オプションには警告メッセージが表示されます。

購買オーダーや顧客からの返品などのインバウンド出荷の輸送情報を入力するときに、顧客、品目、および納入倉庫を基に運送業者の優先情報を設定できます。購買オーダーについては、仕入先/品目/倉庫の組合せがデフォルト情報として使用されます。

運送業者の優先情報は、詳細優先情報として使用できます。

顧客通貨優先情報

顧客通貨優先情報を使用して、通貨コードを顧客番号または顧客グループに割り当てます。通貨コードは1件のオーダーの全品目に対して同じである必要があるため、他の優先情報と異なり、この優先情報には品目や品目グループは含まれません。

この優先情報により、オーダー見出しレコードにある業種別顧客マスター(F03012)のデフォルト通貨コードが一時変更されます。ただし、顧客通貨はF03012テーブルに指定する必要があります。この理由は、売掛処理では優先情報がチェックされないからです。売掛処理では各オーダー明細行からの通貨が使用されます。

見出し通貨コードは、オーダーの全明細行に適用されます。このため、顧客通貨優先情報のみを使用してオーダーの通貨コードを設定する場合は、1件のオーダー当たり1つの通貨コードのみを使用できます。

顧客通貨優先情報は、特定の販売事業所に対しても全事業所に対しても定義できます。たとえば、ジェット機燃料を国際航空会社に販売する場合、オーダーで使用される通貨はフランスのデポで使用しているユーロになったり、イギリスのデポで使用しているポンドになることもあります。

顧客運賃の優先情報

顧客運賃の優先情報は、次のタイミングで使用されます。

- オーダーへの請求金額追加
- 配送経路の選択
- 出荷用の運賃支払条件の指定

たとえば、1件のオーダーに運賃が複数ある場合、すべての運賃を単一の行に集計するか、各運賃を個別の行に表示するかをこの優先情報で指定できます。

また顧客運賃の優先情報により、配送経路を自動選択する要素が決定されます。顧客運賃の優先情報に基づいて、原価、パフォーマンス、配送時刻が評価されます。

納期の優先情報

納期の優先情報を使用し、納品に要する日数に基づいて納期を計算できます。

受注オーダーには、納期の決定に使用できる日付がいくつかあります。

日付	内容
オーダー日付	オーダーをシステムに入力した日付、またはオーダーに表示する日付。
要求日付	顧客がオーダーの納期として要求している日付。オーダー全体に対して日付を1つ入力するか、個別明細行に対してそれぞれの日付を入力できます。
ピッキング日付	倉庫の従業員が在庫のピッキングを行う日付。
出荷日	オーダーの出荷を約束した日付。各明細行に日付を入力できます。
納期	顧客に連絡したオーダー納品日。

次の場合に出荷日および納期が計算されます。

- 優先情報が有効になっている。
- 「事業所」、「経路コード」、「輸送モード」、「優先」および「運送業者No.」フィールドのうちの1つ以上が、優先情報のキー・フィールドと一致する。

「輸送モード」フィールド以外のフィールドは、業種別顧客マスター (F03012) からのオーダー明細に表示されます。これらのフィールドがブランクの場合は、日付計算時にフィールドが一致する必要はありません。

この優先情報を設定する場合は、次の項目を定義してください。

- オーダー入力からピッキング予定日付までの最低日数
- 出荷から納品までに要する商品の積送日数

例: 納期の優先情報のある製品への日付の適用

次の例では、納期およびオーダー準備日数の優先情報に、オーダー準備日数が4日、輸送リードタイム日数が5日と指定されています。

アクション	結果
受注担当者が手作業で出荷日付を入力する	<p>プログラムにより約束日付があらかじめ入力されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 受注オーダー入力日: 11月6日(金) • 計算されたピッキング日付: 11月8日(日) • 入力した出荷日付: 11月12日(木) • 計算された約束日付: 11月17日(火) <p>出荷日付に輸送リードタイム日数が加算されて、約束日付が計算されます。ピッキング日付は出荷日付から4日差し引いて計算されます。</p>

アクション	結果
受注担当者が手作業で約束日付を入力する	<p>プログラムにより出荷日付が逆算されます。約束日付から輸送リードタイム日数が減算され、出荷日付が計算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 受注オーダー入力日: 11月6日(金) • 入力した約束日付: 11月23日(月) • 計算された出荷日付: 11月18日(水) • 計算されたピッキング日付: 11月14日(土) <p>ピッキング日付は出荷日付から4日差し引いて計算されます。ピッキング日付がオーダー入力日付よりも前の場合は、警告が表示されます。</p>
受注担当者が約束日付と出荷日付を手作業で入力しない	<p>約束日付は、オーダー準備日数をピッキング日付に加算し、それに輸送リードタイム日数を加算して計算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 受注オーダー入力日: 11月13日(火) • 入力したピッキング日付: 11月13日(火) • 計算された出荷日付: 11月7日(土) • 計算された約束日付: 11月12日(木)
計算された出荷日付がオーダー入力日付よりも前の日付になる	<p>出荷日付とピッキング日付がオーダー入力日付よりも前になる場合、その旨を告げるソフト・エラーが表示されます。オーダー処理には影響ありません。</p>

顧客の優先コード情報がF03012テーブルで設定されていることを確認してください。

伝票セットの優先情報

伝票セットの優先情報を使用して、特定の顧客と品目の組合せについて配送伝票のセットを指定します。伝票セット名は「伝票セット・プロファイルの改訂」フォームとリンクしており、このフォームで伝票セットを個別に割り当てます。

配送伝票を使用する場合は、伝票セットの優先情報を少なくとも1つ定義する必要があります。優先情報の定義方法は、バルク製品や潤滑油などの製品タイプや、顧客の所在地が海外または国内のいずれかによって異なります。事業所別に異なる優先情報を定義することもできます。

次の段階で伝票を印刷するときに、伝票セットの優先情報が適用されます。

- 出荷確認
- バルク/パッケージ製品の積荷確認
- 配送伝票の事前印刷

各段階の終わりに、「伝票選択」フォームで伝票セット情報を確認したり、変更できます。

例: 伝票セットの優先情報

通常、バルク製品やパッケージ製品については、伝票セット優先情報を個別に作成します。この例では、各製品とともに該当する伝票セットが出荷されるように、伝票セットの優先情報を2つ設定する効率的な方法についてまとめています。

1. 品目グループを作成する。
2. 伝票セットの優先情報を品目グループに割り当てる。
3. 「顧客」、「顧客グループ」、「品目」および「品目グループ」フィールドをブランクにして、すべての品目と顧客に対して別の伝票セットの優先情報を設定する。
4. 伝票セットの優先情報に、次の優先階層を設定する。
 - 品目グループ/すべての住所を第1階層
 - すべての品目/すべての住所を第2階層

バルク/パッケージ積荷確認時に伝票セットの優先情報が処理されるときには、この優先階層によって品目グループの優先情報が最初に検索されます。受注オーダー行の品目がバルク品目で、それを品目グループに割り当てた場合、バルク製品用の伝票セットが使用されます。品目グループに割り当てなかった場合は、デフォルト値によりすべての品目およびすべての顧客用の伝票セットが発行されます。ここでは、パッケージ製品はバルク品目グループに割り当てていないため、パッケージ製品用の伝票セットが使用されます。

注意: 伝票セットの優先情報を設定するときには、顧客と品目の組合せに対する請求書サイクルの優先情報と矛盾しないことを確認してください。請求書サイクル(繰延請求)と配送伝票請求とを同時に使用することはできません。

配送伝票とともに請求書を生成するには、基本請求書を含む伝票セットを選択します。

定期的(週次または月次)に請求書を生成するには、サイクル請求プログラム(R49700)を実行します。

最終用途優先情報

最終用途優先情報は、価格調整を適用する基準として使用します。この優先情報を使用して、関税用混合蔵置の在庫の支払済状況や免税状況を設定することもできます。

最終用途とは、製品に対する顧客の最終的な用途のことです。たとえば、最終用途にあわせて、同じ品目でも異なる価格を請求する必要がある場合などに使用できます。航空関係の製品などでは、最終用途ごとに異なる関税率(この場合は、別々の空港を基準とした異なる関税率)が適用されることがあります。

「最終用途」および「関税状況」は、キー・フィールドです。異なる最終用途優先情報を作成して、様々な顧客および品目の組合せに対して値を割り当てることができます。さらに、業務ニーズにあわせて、各顧客および品目の組合せに対して適切な「最終用途」および「関税状況」のフィールドに値を割り当てることもできます。

延長期限優先情報

延長期限優先情報はバスケット価格設定とともに機能して、指定品目または品目の組合せを購入する顧客に対して支払条件の延長をオファーします。

バスケット・レベル調整が適用されるときに、バスケット・レベル支払条件の優先情報が決定されます。支払条件の優先情報が検索され、オーダー入力明細にある現行の支払条件が一時変更されます。優先情報が処理された後でも、手作業で支払条件を一時変更できます。

運賃優先情報

運賃優先情報は、受注明細行と運賃テーブルをリンクさせるために使用します。運賃を距離、区域、固定料金に基づいて決定するために、運賃テーブルが使用されます。また運賃テーブルは、運賃が請求可能か、支払可能か、またはその両方かを決定するためにも使用されます。運賃優先情報を使用して、顧客/顧客グループおよび品目/配送手配グループに対する運賃テーブルを指定します。

運賃優先情報はその他の優先情報と異なり、品目グループの選択は行われません。そのかわり、JD Edwards EnterpriseOne 輸送管理システムで使用されるものと同じ配送手配グループが使用され、配送手配用製品がグループ化されます。

運賃優先情報は運賃テーブルとともに使用されます。距離基準運賃テーブル、区域基準運賃テーブル、固定料金運賃テーブルを基に運賃優先情報を定義します。1つ以上の運賃テーブルを指定できます。たとえば、同じ品目や配送手配グループを使用する1顧客に対して、固定料金と追加の距離基準による料金を請求する場合などです。

また運賃が顧客に請求可能かどうか、契約者に支払可能かどうか、またはその両方であるかどうかを指定する必要があります。「事業所」および「輸送モード」は、任意検索フィールドです。

運賃更新およびレポート・プログラム (R4981) を実行して請求可能/支払可能の運賃を決定するときに、運賃優先情報が適用されます。通常、これは日締め処理になります。ただし、配送伝票を印刷する前に、請求可能な運賃を計算することもできます。

等級および濃度の優先情報

等級および濃度の優先情報を使用して、品目の特定の等級または濃度に基づき、顧客に納品する在庫を選択します。品目の等級または濃度ごとに基本価格を設定することが可能です。事業所品目テーブルに定義した標準範囲と顧客の要求する等級/濃度範囲が異なる場合に、この優先情報を使用できます。

注意: バルク製品を等級または濃度別に選択したり、積荷をロット別に確認することはできないため、この優先情報はパッケージ製品のものに使用してください。

等級および濃度の優先情報は、在庫引当優先情報および引当方法とともに使用され、製品の引当可能数量を決定します。この優先情報により、顧客の指定した等級/濃度パラメータの範囲内にある引当可能数量が確実に引き当てられます。

さらに等級および濃度の優先情報の「失効までの日数」フィールドに入力した値を使用して、有効日付が顧客の許容日付範囲内かどうか判断されます。これにより、製品の引当可能数量が顧客が許容した等級または濃度、かつ有効日付以前のものになります。

等級および濃度の優先情報は、「濃度制御」または「等級制御」フィールドが該当品目に対して有効になっている場合にのみ使用できます。これは、事業所品目プログラム (P41026) で行われます。この優先情報は主に、「品目/事業所情報」フォームで設定した標準範囲と、顧客の要求する等級または濃度範囲が異なる場合にのみ使用します。

同じ品目に対して等級と濃度の両方は指定できません。ただし、等級および濃度の優先情報を作成すると、「等級」および「濃度」の両方のフィールドが表示されます。これらのフィールドは、P41026 プログラムで設定する「濃度制御」と「等級制御」フィールドの状況にかかわらず表示されます。

等級および濃度の優先情報を作成するときには、「事業所品目」での設定がアクティブかどうかはチェックされません。したがって、「下限等級」、「上限等級」、「下限濃度」、「上限濃度」のいずれのフィールドにも値を入力できます。両方のフィールドに値を入力することもできます。いずれの場合にも、アクティブな設定やデータ入力規則と矛盾する優先情報は適用されません。

売上高総利益率価格設定優先情報

売上高総利益率価格設定優先情報は、目標利益を達成するためには品目の価格をいくらにすればよいかを決定するときに役立ちます。また、オーダー行に売上高総利益率を入力すると、その率に基づいた価格が計算されます。

この優先情報により、品目/品目グループおよび顧客/顧客グループの売上高総利益率の目標値を算出できます。優先情報で目標の最大値と最小値を指定して、利益率をより細かくカスタマイズできます。

利益率の範囲はテスト後に決定され、設定したパラメータ外に利益率がある場合はソフト・エラーが表示されますが、オーダーはシステムより受け取られます。

在庫引当優先情報

在庫引当優先情報は次の目的で使用します。

- 顧客/顧客グループ、または品目/品目グループに基づき、各オーダー行に対する補充が1つ以上の事業所から行われるように指定する。
- 製品を出荷する事業所を指定する。
- オーダーの補充を行う各事業所のパーセントを指定する。
- 受注明細行の輸送モードおよび運送業者情報を指定する。
- 将来のオーダー用の在庫出荷元を指定する(1つ以上の事業所からオーダーを出荷可能にする)。

この優先情報を使用して、製品の調達元の事業所を指定する場合は、「順序No.」フィールドおよび「事業所」フィールドを使用して製品の出荷元保管場所を制御します。次に、優先情報の順序付けを行い優先順位を設定します。

この優先情報を使用して、オーダー見出しにある事業所の引当日付には関係なく、常に在庫の調達元を指定できます。オーダーが将来、オーダー見出しの事業所に基づく場合は、この優先情報により在庫が引き当てられます。各事業所の引当日付に基づいて、調達元の全事業所について引当が行われます。受注オーダー入力プログラム(P4210)の処理オプションの「優先」タブにある「在庫引当の優先プロファイル処理」処理オプションに「2」を入力する必要があります。

この優先情報を使用して各事業所から補充するオーダーのパーセントを決定する場合は、優先順序を使用して順序を設定します。どの事業所からもオーダーを補充できない場合は、順序番号が最小の事業所でバックオーダーが作成されます。通常、パッケージ製品のみがバックオーダーされます。バルク在庫はバックオーダーされません。

各事業所がチェックされるので、オーダー全体を補充できるどの事業所からでもオーダーを出荷できます。「補充%」フィールドの値によっては、オーダー行を複数の事業所で補充できます。

この優先情報は、受注オーダーの入力時に適用されます。指定した調達元事業所は、オーダー明細行グリッドの「事業所」フィールドに表示されます。

補充パーセント値および関連システムのアクション

「補充%」フィールドの値がゼロ・パーセントの場合、通常の処理が行われます。手持数量のチェックは行われず、その数量に関係なくオーダーの補充用に出荷されます。

「補充%」フィールドの値が1から99パーセントの場合、どの事業所も指定パーセントの補充を行うことができるものとみなされます。事業所でそのパーセントを補充できる場合は、その引当可能数量が出荷され、残りの数量は次の事業所に転送されます。各事業所がチェックされ、その数量が出荷できるかどうか調べられます。

複数の事業所のそれぞれに対して補充パーセントを100%と指定した場合は、そのオーダーを補充するための在庫が十分ある事業所1つのみからオーダーが補充されます。オーダーを100%補充できる事業所がない場合は、オーダーはバックオーダーとなるか、優先順位の一番高い事業所から一部数量が出荷されます。

補充パーセント値が100の場合は、その事業所で全数量を出荷する必要があります。このため、複数の事業所から出荷することはできませんが、すべての事業所をチェックして、全数量の出荷が可能かどうか調べられます。複数の事業所のそれぞれに対して補充パーセントを100%と指定した場合は、そのオーダーを補充するための在庫が十分ある事業所1つのみからオーダーが補充されます。オーダーを100%補充できる事業所がない場合は、オーダーはバックオーダーとなるか、または優先順位が一番高い事業所から一部数量が出荷されます。

次の表に、数量500のオーダーの例を示します。

事業所コード: 引当可能数量	優先情報に設定された補充パーセント	引当可能な最小オーダー数量	結果
事業所 A: 99	50%	200	この事業所の引当可能数量は最小オーダー数量に満たないので、この事業所からは出荷されません。
事業所 B: 400	80%	400	この事業所から400が出荷されます。
事業所 C: 96	95%	95	この事業所の引当可能数量がオーダー残数の少なくとも95%達しているので、この事業所から96が出荷されます。

事業所Bで残りの数量4がバックオーダーとなります。

技術上の考慮事項

「補充%」フィールドを使用して、オーダーを1つ以上の事業所から柔軟に補充できます。在庫引当優先情報は引当可能数量に対する通常のチェックとともに機能し、優先情報に定義されたすべての事業所に対するチェックを追加します。

在庫引当優先情報については、次の点を考慮します。

タスク	内容
在庫引当優先情報を有効にする	在庫引当優先情報は、受注オーダー入力プログラム (P4210) の個別の処理オプションで有効にしてください。
キットおよびコンフィギュレーション品目を処理する	在庫引当優先情報は、キットまたはコンフィギュレーション品目では使用できません。

この優先情報を使用する前に、在庫引当用の受注オーダー入力の優先オプションがブランクになっていることを確認します。

業種優先情報

この優先情報を使用して、“航空”のような顧客の業種を指定します。業種優先情報は、顧客/顧客グループ、品目/品目グループの組合せに対して設定できます。

業種優先情報を定義すると、販売分析に有用なデータを取り出すことができます。業種別のレポートを作成できます。業種を基準にした価格設定ができます。

この優先情報は、受注オーダーの入力時に適用されます。

輸送モード優先情報

輸送モード優先情報は、顧客または品目レベルの優先情報に加えて、出荷先に基づいた特定の輸送方法を選択するために使用されます。たとえば、ある顧客が特定の出荷先に対しては常に翌日着の航空便で出荷するように希望する場合は、この情報を輸送モード優先情報として設定します。

購買オーダーや顧客からの返品などのインバウンド取引について輸送情報を入力するときに、顧客、品目、および入荷倉庫を基にして輸送モード優先情報を設定できます。購買オーダーについては、仕入先/品目/倉庫の組合せがデフォルト情報として使用されます。

複数の入出荷保管場所優先情報

この優先情報に、システムが製品を割り当てる入出荷用の保管場所を定義します。また、指定する保管場所のアクティブ化/非アクティブ化もできます。保管場所をアクティブにすると、事業所固定情報プログラム (P41001) で指定されたデフォルトの保管場所は複数の入出荷保管場所優先情報により一時変更されます。

たとえば、大量の製品を出荷する場合、倉庫従業員が製品のピッキングを行って適切なドックに配置すると運転手はその製品をトラックに積荷します。配送運転手は様々な納品先を回って納品することがあります。配送の対象となる入出荷保管場所をすべて定義することにより、製品の様々な入出荷を JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムで計画できるようになります。

システムにより製品が割り当てられた保管場所と異なる保管場所を選択する場合には、JD Edwards EnterpriseOne 倉庫管理または JD Edwards EnterpriseOne 輸送管理のいずれかのシステムでシステム割当の保管場所を一時変更できます。

注意: JD Edwards EnterpriseOne 倉庫管理システムで保管場所を一時変更する場合は、要求照会プログラム (P4600) または確認プログラム (P4617) を使用できます。

JD Edwards EnterpriseOne 輸送管理システムで保管場所を一時変更する場合は、出荷の処理プログラム (P4915) または積荷の処理プログラム (P4960) を使用できます。

次のオーダー状況優先情報

次のオーダー状況優先情報を使用して、受注オーダー入力後の処理ステップの省略または挿入を行います。処理の流れはオーダー処理規則によって決定されます。次のオーダー状況優先情報により、オーダー処理規則の次のステップが一時変更されます。オーダーの入力時にオーダー処理規則のステップを変更する場合にのみ、この優先情報を使用します。

たとえば、顧客と品目の組合せについて電子データ交換 (EDI) オーダー承認を送信するとします。別の顧客に対しては、オーダー処理規則に定義された確認手順を省略するとします。

オーダー処理規則により、省略するステップを指定できます。たとえば、受注オーダー入力 (状況 520) からあるステップを省略して別の状況ステップに進むには、“その他の使用可能”状況コードのいずれかを選択する必要があります。代替ステップがオーダー処理規則に設定されていないため、受注オーダー入力から直接サイクル請求 (状況 580) に進むことはできません。

注意: 優先情報の設定中は、無効な処理順序/状況コードを入力できます。ただし、受注オーダーの処理中に、受注オーダーの「状況コード」フィールドが強調表示され、無効な処理順序/状況コードが検索されたことが示されます。

この優先情報を使用する前に、オーダー処理規則と、処理フローから省略できるステップを指定します。

オプションおよび設備の優先情報

オプションおよび設備の優先情報には、出荷に必要なオプションと設備を指定します。この優先情報は優先階層内の該当するすべてのグリッド位置で解決されるため、オプション/設備の複数の条件が出荷に追加されます。

さらに、各優先情報にオプションや設備のリストを含めることができます。たとえば、腐敗しやすい品目には冷蔵トレーラが必要です。この場合、冷蔵トレーラで運送するこれらの品目に対してオプション優先情報を設定します。このオプションは、腐敗しやすい品目が含まれる出荷全体に適用されます。出荷の配送経路を設定するときには、冷蔵トレーラを提供できる運送業者、輸送モード、または配送経路のみが選択されます。

オーダー準備日数優先情報

オーダー準備日数優先情報には、オーダーの出荷準備に要する日数に関する情報を設定できます。これにより、顧客がオーダーを発注してからその納品までに要する日数を正確に決めることができます。

オーダー準備日数とは、受注オーダーを出荷する前にそのピッキングと梱包に要する日数のことです。F03012テーブルで顧客用に設定した優先コードを使用して、準備日数が決定されます。ただし、単一オーダーに対する優先コードは、オーダー入力時に一時変更できます。

オーダー入力時には、オーダー準備日数優先情報を使用して、逆算スケジューリングにより日数の計算が行われます。逆算スケジューリングでは、納期と作業日から溯ってオーダーのピッキング日付、出荷日付、配送日付の計算が行われます。

ピッキング日付が本日の日付よりも前の場合は、オーダー日付を基にしてピッキング、出荷、および納期が調整されます。

例: 製品日付へのオーダー準備日数優先情報の適用

次の例では、優先情報にオーダー準備日数を4日、輸送リードタイム日数を5日として指定しています。

アクション	結果
受注担当者が手作業で出荷日付を入力する	<p>プログラムにより約束日付があらかじめ入力されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 受注オーダー入力日: 11月6日(金) 計算されたピッキング日付: 11月8日(日) 入力した出荷日付: 11月12日(木) 計算された約束日付: 11月17日(火) <p>積荷日付に輸送リードタイム日数が加算されて、約束日付が計算されます。ピッキング日付は出荷日付から4日差し引いて計算されます。</p>

アクション	結果
受注担当者が手作業で約束日付を入力する	<p>プログラムにより出荷日付が逆算されます。約束日付から輸送リードタイム日数が減算され、出荷日付が計算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 受注オーダー入力日: 11月6日(金) • 入力した約束日付: 11月23日(月) • 計算された出荷日付: 11月18日(水) • 計算されたピッキング日付: 11月14日(土) <p>ピッキング日付は出荷日付から4日差し引いて計算されます。ピッキング日付が本日の日付よりも前の場合は、警告が表示されます。</p>
受注担当者が、「約束日付」と「出荷日」フィールドをブランクにする	<p>約束日付は、オーダー準備日数をピッキング日付に加算し、それに輸送リードタイム日数を加算して計算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 受注オーダー入力日: 11月3日(火) • 入力したピッキング日付: 11月3日(火) • 計算された出荷日付: 11月7日(土) • 計算された約束日付: 11月12日(木)
計算された出荷日付がオーダー入力日付よりも前の日付になる	<p>出荷日付とピッキング日付がオーダー入力日付よりも前になる場合、その旨を告げるソフト・エラーが表示されます。オーダー処理には影響ありません。</p>

支払条件優先情報

支払条件優先情報を使用して、特定の顧客と品目の組合せに対する支払条件と手段を指定します。支払条件の適用は品目の詳細レベルでのみ行われます。この優先情報に含まれない品目に対しては、オーダー・レベルで顧客マスター情報の支払条件が適用されます。

支払条件(事業所)優先情報

支払条件(事業所)優先情報を使用して、特定の顧客と品目の組合せに対する支払条件と手段を指定します。支払条件の適用は事業所レベルでのみ行われます。この優先情報に含まれない品目に対しては、オーダー・レベルで顧客マスター情報の支払条件が適用されます。

価格調整スケジュール優先情報

価格調整スケジュール優先情報は、JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムと併用します。この優先情報を使用して、特定の顧客に販売される品目に対して異なる価格調整スケジュールを割り当てることができます。この優先情報を使用して、取引先との契約に対するペナルティ・スケジュールを作成することもできます。

この優先情報は、F03012テーブルのデフォルト・スケジュールを一時変更します。この優先情報は、受注オーダーの入力時に適用されます。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「スケジュールと調整の使い方」、「調整制御の設定」

価格設定単位優先情報

価格設定単位優先情報は次の目的で使います。

- (デフォルト受注明細行の)「価格設定単位」フィールドを一時変更する。

受注明細行は、P4210または品目マスター・プログラム(P4101)の処理オプションの情報を基にして自動入力されます。この優先情報は、顧客と特定の単位で価格の交渉を行うときなどに使用できます。この場合、顧客および品目に対する価格設定をその単位で行い、オーダーに対して価格設定単位を自動的に追加するための価格設定単位優先情報を入力する必要があります。価格設定単位は、取引単位と同じである必要はなく、事業所ごとに別の単位を使用できます。

- 常温/標準温度で価格を計算する。

このフラグを使用して、配送確認時に、ユーザーの指定する標準温度または常温に基づいて価格が再計算されます。

注意: キー・フィールドをブランクにすると、そのフィールドに対する有効な値のすべてを指定したことになります。たとえば、「ビジネスユニット」フィールドをブランクにすると、価格設定単位優先情報がすべてのビジネスユニットに適用されます。

この優先情報を使用するには、次の作業を行います。

- システム固定情報に、販売価格の検索用の単位を設定します。
- この優先情報に入力される価格設定単位の基本価格レコード、または価格管理レコードが存在することを確認します。

関連項目:

第 6 章、「基本価格設定および標準価格設定の設定」、107ページ

第 2 章、「受注管理システムの設定」、「システム固定情報の設定」、20ページ

価格設定単位(事業所)優先情報

価格設定単位(事業所)優先情報は、次の目的で使います。

- (デフォルト受注明細行の)「価格設定単位」フィールドを一時変更する。

受注明細行は、P4210または品目マスター・プログラム(P4101)の処理オプションの情報を基にして自動入力されます。この優先情報は、顧客と特定の単位で価格の交渉を行うときなどに使用できます。この場合、顧客および品目に対する価格設定をその単位で行い、オーダーに対して価格設定単位を自動的に追加するための価格設定単位優先情報を入力する必要があります。価格設定単位は、取引単位と同じである必要はなく、事業所ごとに別の単位を使用できます。

- 常温/標準温度で価格を計算する。

このフラグを使用して、配送確認時に、ユーザーの指定する標準温度または常温に基づいて価格が再計算されます。

注意: キー・フィールドを空白にすると、そのフィールドに対する有効な値のすべてを指定したことになります。たとえば、「ビジネスユニット」フィールドを空白にすると、価格設定単位優先情報がすべてのビジネスユニットに適用されます。

この優先情報を使用するには、次の作業を行います。

- システム固定情報に、販売価格の検索用の単位を設定します。
- この優先情報に入力される価格設定単位の基本価格レコード、または価格管理レコードが存在することを確認します。

関連項目:

第 6 章、「基本価格設定および標準価格設定の設定」、「基本価格の設定」、114 ページ

第 2 章、「受注管理システムの設定」、「システム固定情報の設定」、20 ページ

製品割当優先情報

製品割当優先情報を使用して、顧客または顧客グループが購入できる品目または品目グループの数量を制限します。たとえば、その品目に対する需要が供給を上回る場合や政府の規制によって特定の品目が制限される場合に、この優先情報を使用します。

数量限度を設定して、顧客または顧客グループが購入できる数量、または販売できる品目または品目グループの数量を定義できます。引当可能数量よりも前に、割当限度がチェックされます。製品割当は、顧客間での製品の分配方法を示します。製品引当可能数量は、事業所保管場所における製品の数量を示します。

製品割当は次のいずれかの値で設定できます。

- 品目単位の固定数量
- 割当可能な製品のパーセント

オーダー数量が割当数量を超過する場合は、受注オーダーの入力時に警告メッセージが表示されます。その場合は、オーダーを保留にするか、オーダー数量を引当可能または割当可能な数量に減らします。

割当済製品に対するオーダーを入力するたびに、有効日付範囲内にオーダーされた数量が割当限度まで累計されます。また、オーダー入力のたびに、「販売数量」フィールドがシステムにより更新されます。このフィールドは、割当が有効になった時点でオーダー済の数量を示します。オーダーの変更または取消を行うと、現在合計からその数量が差し引かれます。製品割当優先情報は、引当可能数量のチェックの前に適用されます。

注意: 製品割当優先情報用の優先マスター・プログラム (P40070) の「開始数量」および「終了数量」フィールドを無効にする必要があります。これにより、この優先情報に対する単位が自動的に換算されます。

技術上の考慮事項

製品割当優先情報については、次の点を考慮します。

タスク	内容	タスク	内容
キットおよびコンフィギュレーション品目の処理	製品割当優先情報は、キットまたはコンフィギュレーション品目には使用できません。	キットおよびコンフィギュレーション品目の処理	製品割当優先情報は、キットまたはコンフィギュレーション品目には使用できません。
販売数量と残高の計算	次のいずれかに当てはまる場合は、「製品割当プロファイルの改訂」フォームの残高カラムは、販売可能数量に更新されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 割当方法1を使用 • 「数量プール・サイズ」の残高に割当方法2を使用 割当数量を超過するという理由でオーダーを保留にする場合は、割当方法1および2の両方に対して、残高は負の数で表示されます。	販売数量と残高の計算	次のいずれかに当てはまる場合は、「製品割当プロファイルの改訂」フォームの残高カラムは、販売可能数量に更新されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 割当方法1を使用 • 「数量プール・サイズ」の残高に割当方法2を使用 割当数量を超過するという理由でオーダーを保留にする場合は、割当方法1および2の両方に対して、残高は負の数で表示されます。
製品割当を有効にする	数量限度を設定して、顧客または顧客グループが購入できる数量、または販売できる品目または品目グループの数量を定義できます。 製品割当保留コードは製品割当優先情報とともに使用する必要があります。	製品割当を有効にする	数量限度を設定して、顧客または顧客グループが購入できる数量、または販売できる品目または品目グループの数量を定義できます。 製品割当保留コードは製品割当優先情報とともに使用する必要があります。

次の両方に当てはまる場合は、この優先情報を使用するには、受注オーダー入力の処理オプションで製品割当保留コードを指定する必要があります。

- 製品割当優先情報を作成する。
- 顧客のオーダーが割当を超過する場合にオーダーを保留にする。

製品割当(事業所)優先情報

製品割当(事業所)優先情報を使用して、顧客または顧客グループが事業所別に購入できる品目または品目グループの数量を制限します。たとえば、その品目に対する需要が供給を上回る場合や政府の規制によって特定の品目が制限される場合に、この優先情報を使用します。

数量限度を設定して、事業所から顧客または顧客グループが購入できる数量、または販売できる品目または品目グループの数量を定義できます。引当可能数量よりも前に、割当限度がチェックされます。製品割当は、顧客間での製品の分配方法を示します。製品引当可能数量は、事業所保管場所における製品の数量を示します。

製品割当は次のいずれかの値で設定できます。

- 品目単位の固定数量

・ 割当可能な製品のパーセント

オーダー数量が割当数量を超過する場合は、受注オーダーの入力時に警告メッセージが表示されます。その場合は、オーダーを保留にするか、オーダー数量を引当可能または割当可能な数量に減らします。

割当済製品に対するオーダーを入力するたびに、有効日付範囲内にオーダーされた数量が割当限度まで累計されます。また、オーダー入力のたびに、「販売数量」フィールドがシステムにより更新されます。このフィールドは、割当が有効になった時点でオーダー済の数量を示します。オーダーの変更または取消を行うと、現在合計からその数量が差し引かれます。製品割当優先情報は、引当可能数量のチェックの前に適用されます。

注意: 製品割当優先情報用の優先マスター・プログラム (P40070) の「開始数量」および「終了数量」フィールドを無効にする必要があります。これにより、この優先情報に対する単位が自動的に換算されます。

技術上の考慮事項

製品割当優先情報(事業所)については、次の点を考慮します。

タスク	内容
キットおよびコンフィギュレーション品目の処理	製品割当優先情報は、キットまたはコンフィギュレーション品目には使用できません。
販売数量と残高の計算	次のいずれかに当てはまる場合は、「製品割当プロファイルの改訂」フォームの残高カラムは、販売可能数量に更新されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 割当方法1を使用 ・ 「数量プール・サイズ」の残高に割当方法2を使用 割当数量を超過するという理由でオーダーを保留にする場合は、割当方法1および2の両方に対して、残高は負の数で表示されます。
製品割当を有効にする	数量限度を設定して、顧客または顧客グループが購入できる数量、または販売できる品目または品目グループの数量を定義できます。 <p>製品割当保留コードは製品割当優先情報とともに使用する必要があります。</p>

次の両方に当てはまる場合は、この優先情報を使用するには、受注オーダー入力の処理オプションで製品割当保留コードを指定する必要があります。

- ・ 製品割当優先情報を作成する。
- ・ 顧客のオーダーが割当を超過する場合にオーダーを保留にする。

品質管理優先情報

品質管理優先情報は、顧客と品目の組合せに対して検査を実行したり、一定の品質を保つために使用します。

この優先情報を使用するには、試験を実行したり品質基準を設定する試験仕様を設定します。

収益ビジネスユニット優先情報

収益ビジネスユニット優先情報は、中央のビジネスユニットとは異なるビジネスユニットの収益を認識するために使用します。この優先情報を使用することで、デフォルトの事業所をこの優先情報に入力した事業所に一時変更できます。収益ビジネスユニット優先情報は事業所間売上には適用されません。

この優先情報は、関連する収益ビジネスユニットに属する販売担当者に対しても使用できます。

例: 収益ビジネスユニット優先情報

この例では、収益を単一のビジネスユニットに転記する一方、複数のビジネスユニットから品目を出荷する場合の収益ビジネスユニット優先情報の設定方法を説明します。

1. 品目に対する“南西部”顧客グループを作成する。
2. 収益ビジネスユニット優先情報を設定する。
3. 「出荷先顧客グループ」と「品目No.」の交差部分に収益ビジネスユニット優先情報のための優先階層を設定する。
4. 「収益ビジネスユニット・プロファイルの改訂」フォームの「ビジネスユニット」フィールドに事業所を入力する。
5. 「収益ビジネスユニット・プロファイルの改訂」フォームの「収益ビジネスユニット」フィールドに、「ビジネスユニット」フィールドに入力した事業所とは別の事業所を入力する。

この優先情報を使用するには、売上更新プログラム (R42800) の処理オプションを収益ビジネスユニットを指定する設定にします。

収益ビジネスユニット優先情報(事業所)

収益ビジネスユニット優先情報(事業所)は、事業所別に中央のビジネスユニットとは異なるビジネスユニットの収益を認識するために使用します。この優先情報を使用することで、デフォルトの事業所をこの優先情報に入力した事業所に一時変更できます。収益ビジネスユニット(事業所)優先情報は事業所間売上には適用されません。

この優先情報は、関連する収益ビジネスユニットに属する販売担当者に対しても使用できます。

例: 収益ビジネスユニット(事業所)優先情報

この例では、収益を単一のビジネスユニットに転記する一方、複数のビジネスユニットから品目を出荷する場合の収益ビジネスユニット(事業所)優先情報の設定方法を説明します。

1. 品目に対する“南西部”顧客グループを作成する。
2. 収益ビジネスユニット(事業所)優先情報を設定する。
3. 「出荷先顧客グループ」と「品目No.」の交差部分に収益ビジネスユニット(事業所)優先情報のための優先階層を設定する。
4. 「収益ビジネスユニット・プロファイルの改訂」フォームの「ビジネスユニット」フィールドに事業所を入力する。
5. 「収益ビジネスユニット・プロファイルの改訂」フォームの「収益ビジネスユニット」フィールドに、「ビジネスユニット」フィールドに入力した事業所とは別の事業所を入力する。

この優先情報を使用するには、売上更新プログラム (R42800) の処理オプションを収益ビジネスユニットを指定する設定にします。

販売コミッション優先情報

販売コミッション優先情報は、顧客と品目の組合せを基準としたコミッション・レートおよび販売担当者の設定に使用します。コミッション・レートを設定するときには、複数の営業担当者または営業グループを割り当てることができます。「業種」および「事業所」がこの優先情報の補足検索フィールドです。業種および事業所の値に基づき、様々な顧客および品目の組合せに対して別々のコミッション優先情報を割り当てることができます。

受注オーダー見出しの「販売コミッション」フィールドには、通常、顧客マスターのデフォルト値が表示されます。コミッション/ロイヤリティ情報の請求指示「レート」フィールドが空白の場合は、システムによりコミッション・レートのデフォルト値を自動入力できます。通常、受注オーダーの各行にはデフォルト値が自動入力されます。優先情報により、見出し情報が行レベルで一時変更されます。

この優先情報を使用するには、販売担当者を優先情報に入力する前に、すべての販売担当者を住所録および「コミッション/ロイヤリティ情報」フォームに設定する必要があります。

関連項目:

第 3 章、「オーダー処理情報の設定」、「コミッション情報の設定」、40ページ

販売価格基準日優先情報

販売価格基準日優先情報を使用して、一定期間、特定の価格を保証します。たとえば、6月の受注オーダーの品目に対して、5月の価格をオファーする場合にこの優先情報を設定できます。

販売価格基準日優先情報は、優先情報が使用されるかどうか、有効日付が価格に対して設定されているかどうか、また受注オーダーの日付に関連する価格を適用するかどうかを評価するために、システムにより使用されます。

販売価格基準日優先情報により、販売価格基準日の有効期間内のすべての調整が一時変更されます。

ユーザー定義価格コード優先情報

ユーザー定義価格コード優先情報を使用して、会社独自の価格設定ニーズにあわせてコードを定義します。価格コードは、オーダー入力時に受注明細行に追加されます。

価格コードをJD Edwards EnterpriseOne価格管理プログラムで使用して、価格調整を定義できます。価格コードはレポート用に使用することもできます。たとえば、一時的な価格設定に価格コードを使用できます。価格コードを定義して、商品価格が一定期間公表された後に価格の再設定が必要となるオーダー行を識別できます。

価格が既知の場合は、受注オーダー価格/原価のバッチ更新プログラム(R42950)を実行できます。これらの行は、指定した値と価格コードが等しい場合にのみ選択します。

関連項目:

第 13 章、「価格の更新」、345ページ

第 6 章、「基本価格設定および標準価格設定の設定」、「基本価格の設定」、114ページ

優先マスター情報の設定

この項では、優先マスターの設定の概要と優先マスター情報の設定方法について説明します。

優先マスターの設定について

「優先プロファイルの処理」フォームには論理グループの優先情報がすべて表示されます。「優先マスターの改訂」フォームを使用して優先情報をフォームのどこに表示するか、および有効日付と数量を優先情報に含めるかどうかを指定します。

マスター優先情報で優先情報の数量を使用可能にする場合は、単位は換算されません。このため、オーダーで入力した単位とまったく同じ単位を持つ優先情報のみが検索されます。

たとえば、ある優先情報の単位にリットル(LT)を設定している場合、受注オーダーをガロンで入力すると、優先レコードの検索時にはガロンからリットルへ換算されないため、リットルで設定した優先情報は選択されません。

特定の優先情報に対して使用できる有効数量フィールドが必要な場合は、受注オーダーの取引単位として使用できる各単位に対して、個別の優先情報を作成する必要があります。

優先マスター情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
優先マスターの改訂	W40070D	「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」 「優先マスターの処理」フォームで「追加」をクリックします。	優先マスター情報を設定します。

優先マスター情報の設定

「優先マスターの改訂」フォームにアクセスします。

「優先マスターの改訂」フォーム

優先タイプ

優先タイプを識別する値を、ユーザー定義コード(UDC)40/PRから指定します。

優先分類

「優先プロファイル」の優先情報をグループ化するために使用される分類またはタイトルを指定します。

有効日付の使用

優先情報について、有効日付範囲のフィールドを表示するかどうかを指定します。優先情報に有効日付と有効数量を入力する場合、有効日付範囲を表示できます。

有効数量の使用

優先情報について、有効数量範囲のフィールドを表示するかどうかを指定します。有効数量のフィールドは省略可能なフィールドで、優先レコードの設定前に無効にすることができます。ただし、優先レコードの設定後に無効にすることはできません。

有効数量を割り当てる場合は、有効日付を割り当てる必要があります。

優先階層の作成

この項では、優先階層の作成の概要とその方法について説明します。

優先階層の作成について

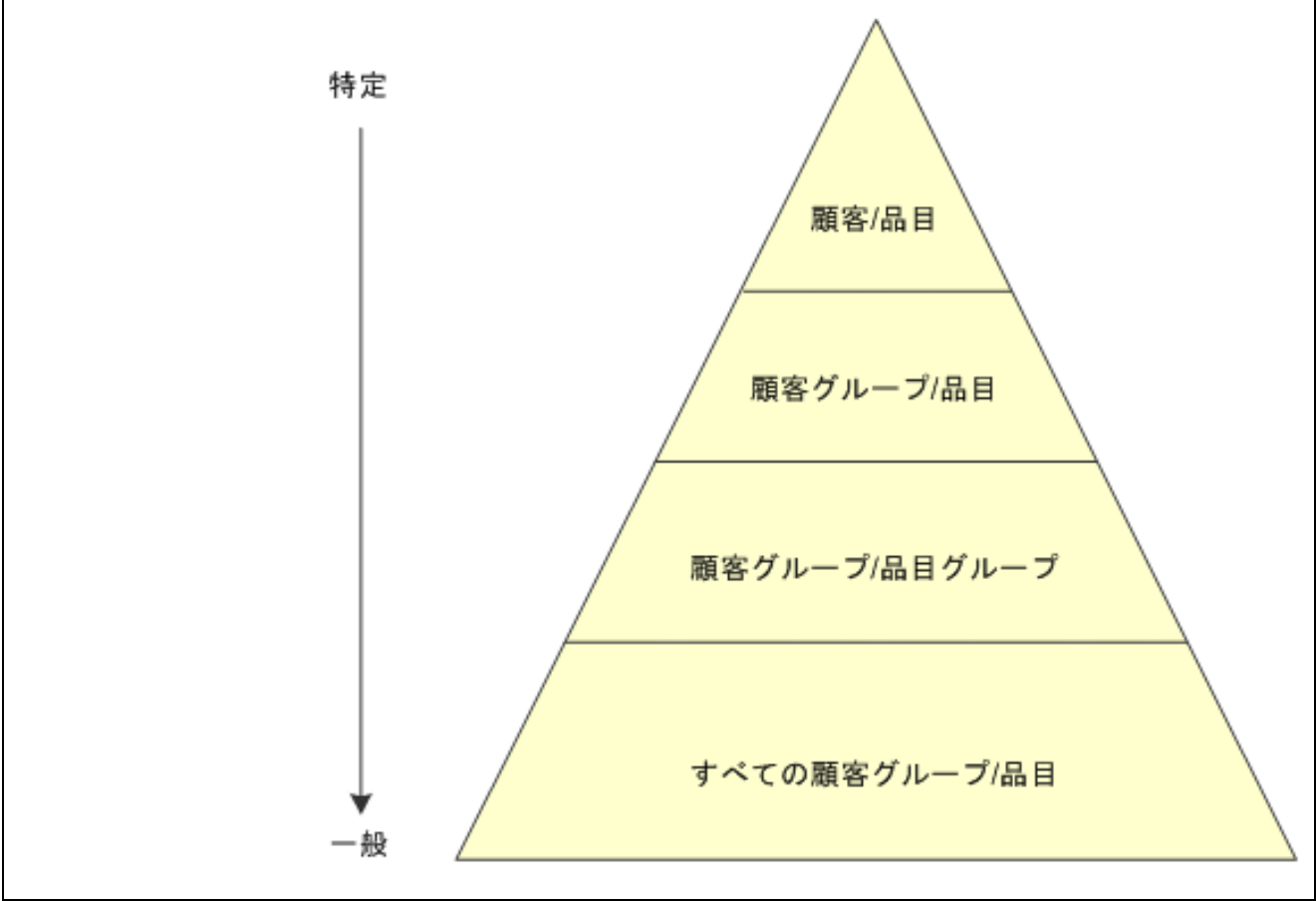
各優先タイプに階層を定義して、受注オーダーに適用する優先情報の順序を指定する必要があります。

「優先階層の改訂」フォームには、顧客と顧客グループを示すローと品目と品目グループを示すカラムがあります。ローとカラムの交差部分に階層順序を入力します。

階層は、オーダーの検索方法を示します。階層は、1から開始して1ずつ増分する必要があります。番号を飛ばすことはできません。

優先情報の検索時には、優先階層により優先情報の検索順序が決まります。「1」を入力した交差部分から、その顧客と品目の組合せに対して定義されたレコードの検索が開始されます。この交差部分に対応する優先情報が検出されない場合、「2」を入力した交差部分の検索が実行され、これ以降も同様に検索が続けられます。

次の図に、優先情報の検索方法を示します。



優先階層

注意: 階層を定義するときには、最も一般的なグループ(品目のみや顧客のみ)から始め、その後細分化したグループを定義します。印刷メッセージなどの一部の優先情報では、特定の組合せが使用できないことに注意してください。

優先階層の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
優先階層の改訂	W40073D	「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」 「優先マスターの処理」 フォームで優先情報を選択して、「ロー」メニューから「階層」を選択します。	優先階層を作成します。

優先階層の作成

「優先階層の改訂」フォームにアクセスします。

優先マスター - 優先階層の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

優先タイプ32顧客運賃

		品目 No.	品目 グループ	全 品目
出荷先	顧客 No.			
	顧客グループ			
販売先	顧客 No.	1	2	
	顧客グループ	3	4	
親	顧客 No.			
	顧客グループ			
すべての顧客				5

「優先階層の改訂」フォーム

基本優先情報の設定

この項では、基本優先情報の設定の概要および基本優先情報を入力するフォームについて説明します。

基本優先情報の設定について

優先マスターと階層情報を設定すると、基本優先情報を入力できます。基本優先情報を設定するときに、各優先情報についてこの基本優先情報を「優先マスターの処理」フォームの見出し領域に入力します。詳細グリッドには、それぞれの優先情報に固有の情報を入力します。

標準優先情報の入力時に、優先レコードの検索に使用する順序番号も指定できます。

基本優先情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
運送業者プロファイルの改訂	W40333B	「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」 「優先マスターの処理」フォームで「運送業者」を選択し、「選択」をクリックします。「運送業者プロファイルの処理」フォームで、「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。	運送業者プロファイルの優先情報の追加と変更を行います。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
顧客通貨プロフィールの改訂	W40345D	「上級/技術的操作」 (G4231)、「優先マスター」 「優先マスターの処理」 フォームで「顧客通貨」を選択し、「選択」をクリックします。「顧客通貨の処理」フォームで「追加」をクリックします。「顧客通貨プロフィールの改訂」フォームで適切な情報を追加し、「OK」をクリックします。	顧客通貨プロフィールの優先情報の追加と変更を行います。
顧客運賃の改訂	W40332B	「上級/技術的操作」 (G4231)、「優先マスター」 「優先マスターの処理」 フォームで「顧客運賃」を選択し、「選択」をクリックします。「顧客運賃プロフィールの処理」フォームで、「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。	顧客運賃プロフィールの優先情報の追加と変更を行います。
納期プロフィールの改訂	W40309A	「上級/技術的操作」 (G4231)、「優先マスター」 「優先マスターの処理」 フォームで「配送日」を選択し、「選択」をクリックします。「納期プロフィールの処理」フォームで、「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。	納期優先情報の追加と変更を行います。
伝票配賦プロフィールの改訂	W40329A	「上級/技術的操作」 (G4231)、「優先マスター」 「優先マスターの処理」 フォームで「伝票配賦」を選択し、「選択」をクリックします。「伝票配賦プロフィールの処理」フォームで、「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。	伝票配賦優先情報の追加と変更を行います。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
伝票セット・プロファイルの改訂	W40330A	<p>「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」</p> <p>「優先マスターの処理」フォームで「伝票セット」を選択し、「選択」をクリックします。「伝票セット・プロファイルの処理」フォームで、「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。</p>	伝票セット優先情報の追加と変更を行います。
最終用途プロファイルの改訂	W40304D	<p>「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」</p> <p>「優先マスターの処理」フォームで「最終用途」を選択し、「選択」をクリックします。「最終用途プロファイルの処理」フォームで、「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。</p>	最終用途優先情報の追加と変更を行います。
等級/濃度プロファイルの改訂	W40308B	<p>「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」</p> <p>「優先マスターの処理」フォームで「等級/濃度」を選択し、「選択」をクリックします。「等級/濃度プロファイルの処理」フォームで、「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。</p>	等級および濃度の優先情報の追加と変更を行います。
在庫引当プロファイルの改訂	W40306B	<p>「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」</p> <p>「優先マスターの処理」フォームで「在庫引当」を選択し、「選択」をクリックします。「在庫引当てプロファイルの処理」フォームで、「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。</p>	在庫引当優先情報の追加と変更を行います。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
業種優先プロファイル	W40310B	<p>「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」</p> <p>「優先マスターの処理」フォームで「業種」を選択し、「選択」をクリックします。「業種プロファイルの処理」フォームで、「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。</p>	業種優先情報の追加と変更を行います。
輸送モード・プロファイルの改訂	W40334B	<p>「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」</p> <p>「優先マスターの処理」フォームで「輸送モード」を選択し、「選択」をクリックします。「輸送モード・プロファイルの処理」フォームで、「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。</p>	輸送モード優先情報の追加と変更を行います。
入荷保管場所プロファイルの改訂, 出荷保管場所プロファイルの改訂	W40320B	<p>「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」</p> <p>「優先マスターの処理」フォームで入荷保管場所または出荷保管場所を選択し、「選択」をクリックします。保管場所優先プロファイル処理するフォームで、「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。</p>	入荷保管場所と出荷保管場所の優先情報の追加と変更を行います。
オーダー次状況プロファイルの改訂	W40341B	<p>「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」</p> <p>「優先マスターの処理」フォームで「オーダー次状況」を選択し、「選択」をクリックします。「オーダー次状況の処理」フォームで、「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。</p>	次のオーダー状況優先情報の追加と変更を行います。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
オプション/設備プロファイルの改訂	W40331A	<p>「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」</p> <p>「優先マスターの処理」フォームで「オプションおよび設備」を選択し、「選択」をクリックします。「オプション/設備プロファイルの処理」フォームで、「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。</p>	オプション/設備優先情報の追加と変更を行います。
オーダー準備日数の改訂	W40316B	<p>「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」</p> <p>「優先マスターの処理」フォームで「オーダー準備日数」を選択し、「選択」をクリックします。「オーダー準備日数の処理」フォームで、「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。</p>	オーダー準備日数の追加と変更を行います。
支払条件プロファイルの改訂	W40301C	<p>「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」</p> <p>「優先マスターの処理」フォームで「支払条件」を選択し、「選択」をクリックします。「支払条件プロファイルの処理」フォームで、「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。</p>	支払条件優先情報の追加と変更を行います。
支払条件プロファイルの改訂	W40338B	<p>「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」</p> <p>「優先マスターの処理」フォームで「支払条件(事業所)」を選択し、「選択」をクリックします。「支払条件プロファイルの処理」フォームで、「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。</p>	事業所の支払条件優先情報の追加と変更を行います。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
価格調整スケジュールプロファイルの改訂	W40314B	「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」 「優先マスターの処理」フォームで「価格調整スケジュール」を選択し、「選択」をクリックします。「価格調整スケジュールの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	価格調整スケジュール優先情報の追加と変更を行います。
価格設定単位の改訂	W40302C	「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」 「優先マスターの処理」フォームで「価格設定単位」を選択し、「選択」をクリックします。「価格設定単位プロファイルの処理」フォームで、「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。	価格設定単位優先情報の追加と変更を行います。
価格設定単位の改訂	W40347B	「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」 「優先マスターの処理」フォームで「価格設定単位(事業所)」を選択し、「選択」をクリックします。「価格設定単位プロファイルの処理」フォームで、「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。	事業所の価格設定単位優先情報の追加と変更を行います。
製品割当プロファイルの改訂	W40307A	「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」 「優先マスターの処理」フォームの「製品割当て」を選択し、「選択」をクリックします。「製品割当プロファイルの処理」フォームで、「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。	製品割当優先情報の追加と変更を行います。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
製品割当(事業所)プロファイルの改訂	W40339A	「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」 「優先マスターの処理」フォームの「製品割当て(事業所)」を選択し、「選択」をクリックします。「製品割当プロファイルの処理」フォームで、「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。	事業所の製品割当優先情報の追加と変更を行います。
品質管理優先情報の改訂	W40318B	「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」 「優先マスターの処理」フォームで「品質管理」を選択し、「選択」をクリックします。「品質管理プロファイルの処理」フォームで「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。	品質管理優先情報の追加と変更を行います。
収益ビジネスユニット・プロファイルの改訂	W40303C	「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」 「優先マスターの処理」フォームで「収益ビジネスユニット」を選択し、「選択」をクリックします。「収益ビジネスユニットの処理」フォームの「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。	収益ビジネスユニット優先情報の追加と変更を行います。
収益ビジネスユニット・プロファイルの改訂	W40349B	「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」 「優先マスターの処理」フォームで「収益ビジネスユニット(事業所)」を選択し、「選択」をクリックします。「収益ビジネスユニットの処理」フォームの「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。	事業所の収益ビジネスユニット優先情報の追加と変更を行います。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
販売コミッションプロファイルの改訂	W40344B	「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」 「優先マスターの処理」フォームで「販売コミッション」を選択し、「選択」をクリックします。「販売コミッションの処理」フォームで、「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。	販売コミッション優先情報の追加と変更を行います。
価格コード1プロファイルの改訂	W40311B	「上級/技術的操作」(G4231)、「優先マスター」 「優先マスターの処理」フォームで「ユーザー定義価格コード1」を選択し、「選択」をクリックします。「価格コード1プロファイルの処理」フォームで、「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。	価格コード優先情報の追加と変更を行います。

詳細優先情報の設定

この項では、詳細優先情報の設定の概要、および次の方法について説明します。

- 優先定義の設定
- 優先スケジュールの設定
- 優先詳細の設定
- 優先詳細値の設定

詳細優先情報の設定について

優先情報は、オーダーの処理方法のユーザー定義仕様です。システムでは標準と詳細の両方の優先情報が使用されます。JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムで使用する機能と同じ機能を使用して、詳細優先情報が設定されます。たとえば、品目と顧客グループがJD Edwards EnterpriseOne価格管理と同様にカテゴリ・コードの定義に基づいて処理されます。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理では、複合顧客グループと複合品目グループを使用して価格設定スケジュールを管理します。詳細優先情報を使用するときにも、複合顧客グループと複合品目グループを使用してオーダーの処理方法を指定できます。詳細優先情報は、優先情報の処理方法を指定するスケジュールとともに設定します。

詳細優先情報には1つ以上の優先情報名(タイプ)、優先スケジュール、および優先詳細があります。

詳細優先情報を設定するときに、特定のオーダー処理時に優先情報により一時変更する特定のキー・フィールドを指定します。キー・フィールドとともに戻り値フィールドも指定します。

詳細優先タイプ

優先タイプまたは名前は、デフォルトのオーダー処理を一時変更するために作成するプロファイルです。優先タイプは通常、優先情報の目的と一致します。

優先タイプを設定するときには、優先階層も割り当てます。優先階層によって特定の品目、品目グループ、顧客、顧客グループ、またはそれらの組合せに優先情報を設定できます。

詳細優先情報には、複数の基本優先情報がまとめられています。まとめられた詳細優先情報の例としては、オーダー明細デフォルト優先情報があります。オーダー明細デフォルト優先情報には、支払条件、価格設定単位、収益ビジネスユニット、最終用途などの多くの基本優先情報が含まれます。基本優先情報を組み合わせて詳細優先情報にまとめると、設定時間や処理時間が短縮されます。

詳細優先スケジュール

優先スケジュールは1つ以上の優先タイプを含み、優先情報の処理方法を管理します。スケジュールに優先情報の処理順序を指定します。スケジュールの有効日も指定できます。

優先タイプを定義して、各スケジュールの優先詳細を入力する必要があります。

詳細優先詳細

優先スケジュールに優先タイプを追加するときに、詳細優先明細を定義します。具体的には、詳細とは、キー・フィールドと戻り値フィールドです。キー・フィールドは優先タイプに定義されているので、キー・フィールドは優先階層によって異なります。戻り値フィールドは、処理を行うためのユーザー定義仕様です。

詳細優先明細にはグループ、品目番号と顧客番号、数量レベル区切り、単位などを含めることができます。定義した詳細優先明細を使用して、ビジネス・ニーズに対応する特定の処理方法と要件が決定されます。

詳細優先情報の処理

詳細優先情報の処理は、優先スケジュールに基づきます。優先スケジュールには、1つ以上の優先情報名(タイプ)があります。各スケジュールには、オーダーの処理方法に固有の詳細や値を追加することもできます。

最初にシステム固定情報内のスケジュールが検索されます。このスケジュールによって、オーダー処理時に解決する優先情報が決まります。システム固定情報に指定したスケジュールを一時変更するために、受注オーダー入力プログラム(P4210)の「優先」タブの「上級優先スケジュールの一時変更」処理オプションを設定した場合、受注オーダー入力プログラムのバージョンに指定されているスケジュールが使用されます。このスケジュールを使用して適切な優先情報名(タイプ)が検索され、処理されます。

その後、価格調整タイプ・プログラム(P4071)を使用して、優先情報の識別方法が検索されます。優先タイプだけでなく、設定した優先階層も考慮されます。優先情報履歴レコードを更新するか、数量レベル区切りを処理するかも配慮されます。

次に、優先情報に設定した詳細が使用されます。これらの詳細にはグループ、品目と顧客番号、数量レベル区切り、および単位などが含まれます。この時点で使用される詳細には、優先タイプを定義するときに定義する固有キーと戻り値のフィールドも含まれます。

次の表に、詳細優先情報の処理順序を示します。

順序	優先情報	プログラムまたはフィールド
1	詳細優先スケジュールに指定した優先タイプ	P4070 - 詳細優先スケジュールの改訂

順序	優先情報	プログラムまたはフィールド
2	次のような優先タイプ仕様 <ul style="list-style-type: none"> ・ 階層 ・ 数量レベル区切り ・ 複合グループ 	P4071 – 詳細優先情報名の改訂
3	次に基づく優先情報詳細 <ul style="list-style-type: none"> ・ 優先階層 ・ 優先タイプで定義された顧客グループと品目グループの両方、または一方 	P4072 – 詳細優先情報の詳細の改訂
4	キー・フィールド	P4072で指定したキー・フィールドと戻り値

詳細優先情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
優先定義の改訂	W4071A	「詳細優先情報」(G40311)、「詳細優先情報名の改訂」 「優先タイプの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	優先定義を設定します。
優先スケジュールの改訂	W4070C	「詳細優先情報」(G40311)、「詳細優先情報スケジュールの改訂」 「優先スケジュールの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	優先スケジュールを設定します。
優先情報詳細の改訂	W4072A	「詳細優先情報」(G40311)、「詳細優先情報詳細の改訂」 「優先詳細の処理」フォームで優先情報名を検索し、「追加」をクリックします。 「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。	優先詳細を設定します。
優先値の改訂	W4072C	ローを選択し、「ロー」メニューで「優先明細」を選択します。	優先詳細値を設定します。

優先定義の設定

「優先定義の改訂」フォームにアクセスします。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「スケジュールと調整の使い方」、「調整定義の利用」

詳細優先情報名の改訂 - 優先定義の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

調整制御

優先名

その 1

グループ

品目グループ

顧客グループ

優先仕様

優先階層 01 - 51 は PS 専用

詳細価格調整タイプ ブランク

レベル区切りタイプ

☒ 数量レベル区切り

優先オプション

☐ 優先情報履歴

「優先定義の改訂」フォーム

優先名 UDC 40/TYから優先調整を識別する値を入力します。

詳細価格調整タイプ UDC 40/APから詳細優先価格調整の処理方法を識別する値を入力します。

優先スケジュールの設定

「優先スケジュールの改訂」フォームにアクセスします。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「スケジュールと調整の使い方」、「調整スケジュールの作成」

詳細優先情報スケジュールの改訂 - 優先スケジュールの改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

優先スケジュール

レコード 1-1

	順序No.	優先名	記述	有効開始 日付	有効 期限	品目価格 グループ	顧客価格 グループ	優先 階層	手動 一時変 更	支払数量 調整
<input type="checkbox"/>										

「優先スケジュールの改訂」フォーム

優先スケジュール UDC 40/ASから詳細優先スケジュールを識別する値を入力します。優先スケジュールには、顧客または品目に適用される調整タイプが1つ以上含まれます。調整は、スケジュールで指定した順序に従って適用されます。

優先名 UDC 40/TYから優先調整を識別する値を入力します。

優先詳細の設定

「優先情報詳細の改訂」フォームにアクセスします。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「スケジュールと調整の使い方」、「調整明細の設定」

詳細優先情報詳細の改訂 - 優先情報詳細の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) ロー(R) フォーム(F) ツール(T)

優先名

DELDATE

配送日付

レコード 1-2

	顧客No.	顧客	有効開始 日付	有効 期限
<input type="checkbox"/>	4202	Palisade Inc.	2003/05/21	2010/12/31
<input type="checkbox"/>				

「優先情報詳細の改訂」フォーム

優先名 UDC 40/TYから優先調整を識別する値を入力します。

優先詳細値の設定

「優先値の改訂」フォームにアクセスします。

詳細優先情報詳細の改訂 - 優先値の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

Preference Name DELDATE 配送日付

詳細優先タイプ 03 配送日

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ

	順序No.	ビジネス ユニット	運送業者 No.	輸送 モード	優先 (1/0)	経路コード	輸送 日数
<input checked="" type="radio"/>	10.00	M30					1
<input type="radio"/>							

「優先値の改訂」フォーム

順序No.

情報の順序を指定する番号を入力します。

値フィールド

詳細優先情報の詳細の値を入力します。「詳細優先タイプ」フィールドの値に応じてフィールドが変更されます。各詳細優先情報は異なるキー・フィールドを使用して、情報の処理方法を決定します。

顧客と品目のグループへの割当

この項では、顧客と品目のグループへの割当の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 優先グループへの顧客の割当
- 優先グループへの品目の割当

顧客と品目のグループへの割当について

基本優先情報を使用するには、特定のビジネス・ニーズにあわせて優先情報をカスタマイズする設定タスクを実行する必要があります。業務の拡大や変更に応じて、同じタスクを使用して優先情報をさらにカスタマイズできます。

効率よく基本優先情報を定義するために、顧客または品目をグループに割り当てることができます。これにより、顧客や品目それぞれに対してではなく、そのグループに対して優先情報を定義できます。たとえば、同じ支払条件を適用する顧客すべてを1グループにまとめることができます。次に、支払条件優先情報を作成して、グループに対して1つの優先情報を定義できます。

優先グループへの顧客の割当

どの優先情報についても、顧客を顧客グループに割り当てることができます。たとえば、ある顧客を季節的な顧客として指定し、その顧客用に特別な支払条件を作成できます。このためには、次の作業を行います。

- 顧客グループのユーザー定義コードSEASONを設定します。

- ・ 季節的な顧客をすべてこのグループに割り当てます。

この季節的な顧客グループに1つの支払条件優先情報を作成します。

また、この顧客グループに季節的な新規の顧客を割り当てることができます。これにより、この新規顧客の受注オーダーすべてに支払条件優先情報が自動的に適用されます。

事前設定

顧客グループと品目グループのユーザー定義コードが設定されていることを確認します。

顧客と品目をグループに割り当てるために使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
顧客グループの改訂	W40071D	「上級/技術的操作」 (G4231)、「優先マスター」 「優先マスターの処理」 フォームの「フォーム」メニューから「顧客グループ」を選択します。 「顧客グループ優先情報の処理」フォームで顧客番号を検索して選択し、「選択」をクリックします。	優先グループに顧客を割り当てます。
品目グループ優先情報の改訂	W40072D	「上級/技術的操作」 (G4231)、「優先マスター」 「優先マスターの処理」 フォームの「フォーム」メニューから「品目グループ」を選択します。 「「品目グループ」優先情報の処理」フォームで顧客番号を検索して選択し、「選択」をクリックします。	優先グループに品目を割り当てます。

優先情報グループへの顧客の割当

「顧客グループの改訂」フォームにアクセスします。

優先マスター - 顧客グループの改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

顧客 No. 150

顧客グループ 1 顧客グループ 2 顧客グループ 3

支払条件	<input type="text"/>
価格設定単位	<input type="text"/>
収益ビジネスユニット	<input type="text"/>
最終用途	<input type="text"/>
印刷メッセージ	<input type="text"/>
在庫引当て	<input type="text"/>
製品割当て	<input type="text"/>
等級/濃度	<input type="text"/>
納期	<input type="text"/>
業種	<input type="text"/>
価格コード 1	<input type="text"/>
価格コード 2	<input type="text"/>
価格コード 3	<input type="text"/>

「顧客グループの改訂」フォーム

各詳細優先情報に、顧客が属するグループを指定できます。各詳細優先情報の適切な値をUDCテーブルから入力します。

優先情報グループへの品目の割当

「品目グループ優先情報の改訂」フォームにアクセスします。

優先マスター - 品目グループ優先情報の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

品目 No. 1001

品目グループ 1 品目グループ 2 品目グループ 3

支払条件	
価格設定単位	
収益ビジネスユニット	
最終用途	
印刷メッセージ	
在庫引当て	
製品割当て	
等級/濃度	
納期	
業種	
価格コード 1	
価格コード 2	
価格コード 3	

「品目グループ優先情報の改訂」フォーム

各詳細優先情報に、品目が属するグループを指定できます。各詳細優先情報の適切な値をUDCテーブルから入力します。

優先情報の有効化

この項では、優先情報を有効化する方法と優先情報の選択方法の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 優先情報の選択プログラム (R40400) の処理オプションの設定
- 優先情報の選択プログラムの実行

優先情報の有効化について

オーダー処理に使用する各優先情報を有効にできます。オンライン処理により、優先情報処理のバージョンで各優先情報を有効にします。このバージョンには、システムの処理について有効な優先情報と無効な優先情報のリストがあります。

受注オーダーの入力時に使用するオンライン処理のかわりに、優先情報のバッチ処理を使用できます。優先情報のバッチ処理は、オーダー入力後に実行できます。バッチ処理では、オーダー入力のたびに各優先情報を検索して適用する必要がないので、受注オーダー入力を短縮できます。

特定の優先情報を検索して、優先情報がどのように定義されているかを確認できます。また、優先情報を検索して、優先情報を新規作成する前に顧客と品目の組合せに対して優先情報が存在しているかどうかをチェックできます。

注意: 受注オーダー行の品目に手作業で入力した値により、優先情報が一時変更されます。

優先情報の選択方法について

優先情報を適用するオーダー入力プログラムの全バージョンについて、優先プロファイル処理の処理オプションを設定する必要があります。在庫引当優先情報、製品割当優先情報、納期優先情報のバッチ処理はできません。

処理に使用する各優先情報を有効にする必要があります。これは、優先情報処理オプション・プログラム (R40400) のバージョンで行います。有効な優先情報と無効な優先情報をリストしたプロンプトが表示されます。

優先情報が有効になっているかどうかを調べるには、検討している優先情報に固有の優先情報の照会または改訂フォームの「優先状況」フィールドを参照します。

優先情報値により、品目マスター (F4101)、事業所品目テーブル (F4102)、業種別顧客マスター (F03012) またはデータ辞書テーブルからのデフォルト値が一時変更されます。受注オーダー・プログラムまたは優先情報プロファイル・プログラムで優先情報を有効にしない場合は、通常のデフォルト値が使用されます。

優先情報の検索

特定の優先情報を検索して、優先情報の定義内容を表示できます。また、優先情報を検索して、優先情報を新規作成する前に顧客と品目の組合せに対して優先情報が存在しているかどうかをチェックできます。

注意: その顧客と品目の組合せに対して優先情報がすでに存在する場合は、新しい優先情報が既存の優先情報と矛盾するおそれがあるため、優先情報の使用方針を決定する必要があります。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- システム固定情報に優先スケジュールを定義します。
- 受注オーダー入力プログラム (P4210) の処理オプションで優先プロファイル処理を有効にしたことを確認します。

優先情報選択 (R40400) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、優先情報を処理します。

処理制御

この処理オプションでは、処理される優先情報を決定します。

支払条件、価格設定単位、収益ビジネスユニット、最終使途、製品割当て、等級および濃度

システムにより優先情報を処理するか、および優先情報解決元帳テーブル (F40300R) に書き込むかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 処理しません。

- 1: 優先情報を処理します。
- 2: 優先情報を処理し、F40300Rテーブルに書き込みます。

注意: 製品割当優先情報は、解決元帳をサポートしません。

処理制御2

この処理オプションでは、処理される優先情報を決定します。

納入日付、業種、価格コード1、価格コード2、価格コード3	システムにより優先情報を処理するか、および優先情報解決元帳テーブル(F40300R)に書き込むかどうかを指定します。値は次のとおりです。 ブランク: 処理しません。 1: 優先情報を処理します。 2: 優先情報を処理し、F40300Rテーブルに書き込みます。
------------------------------	--

処理制御3

この処理オプションでは、処理される優先情報を決定します。

オーダー準備日数、価格調整スケジュール、オーダー次状況、販売コミッション、顧客通貨	システムにより優先情報を処理するか、および優先情報解決元帳テーブル(F40300R)に書き込むかどうかを指定します。値は次のとおりです。 ブランク: 処理しません。 1: 優先情報を処理します。 2: 優先情報を処理し、F40300Rテーブルに書き込みます。
---	--

処理制御4

この処理オプションでは、処理される優先情報を決定します。

支払条件(事業所別)、価格設定単位(事業所別)、収益ビジネスユニット(事業所別)、製品割当(事業所別)、入荷保管場所、出荷保管場所	システムにより優先情報を処理するか、および優先情報解決元帳テーブル(F40300R)に書き込むかどうかを指定します。値は次のとおりです。 ブランク: 処理しません。 1: 優先情報を処理します。 2: 優先情報を処理し、F40300Rテーブルに書き込みます。
---	--

注意: 製品割当優先情報は、解決元帳をサポートしません。

優先情報の選択プログラムの実行

「上級/技術的操作」メニュー(G4231)、「優先情報選択」を選択します。

付録 A

JD Edwards EnterpriseOne受注管理の標準ワークフロー

この付録では、JD Edwards EnterpriseOne受注管理の標準ワークフローについて説明します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Workflow Tools Guide

JD Edwards EnterpriseOne受注管理の標準ワークフロー

この項では、JD Edwards EnterpriseOne受注管理のワークフローについて説明します。

JDESOENTRYワークフロー・プロセス

この項では、JDESOENTRYワークフロー・プロセスについて説明します。

内容

ワークフローの概要	JDESOENTRYワークフロー処理をオンにしている場合にオーダーが保留になると、現行のオーダーが保留になっていることを伝えるアクション・メッセージが販売担当者へ送信されます。
ワークフロー・トリガー	「OK」をクリックして受注オーダーを受け入れると、ワークフローがアクティブかどうか、受注オーダー入力プログラム (P4210) の「ワークフロー」タブにある処理オプションがチェックされます。また、保留コードの処理オプションがチェックされ、オーダーとその保留情報が比較されます。
ワークフロー処理	オーダー入力の承認者は、オーダーが保留になっていることを示すメッセージを電子ワーク・ベンチで受信します。その後、承認者は、保留オーダーの処理アプリケーションへのリンクを選択して、このオーダーをリリースします。

ワークフロー・オブジェクト

システム	42B
ワークフロー・オブジェクト名	JDESOENTRY
オブジェクトID	N4201570、B4200310
イベント記述/関数名	WorkflowProcessingSOE
順序/行番号	10

受信確認ワークフロー

この項では、受信確認ワークフローについて説明します。

内容

ワークフローの概要	アウトバウンドEDIメッセージのEDI受信確認をシステムがいつ受信したか、およびアウトバウンド・メッセージが受理されたか、却下されたかをユーザーに通知します。
ワークフロー・トリガー	受信確認見出しテーブルに、手動またはフラット・ファイルの変換によりレコードが追加されたとき。受信確認コードに基づいて、優先情報が解決されます。たとえば、オーダーが受理されたか、却下されたかです。優先情報が検出されると、ワークフローが開始されます。
ワークフロー処理	ユーザーは、受信確認が受理されたか、却下されたかを示すメッセージを受信します。アウトバウンド・メッセージが受理されたか、却下されたかをユーザーが調べるときに役に立つ、販売先、出荷先、出荷番号、請求書番号などの明細情報があります。

ワークフロー・オブジェクト

システム	42B
ワークフロー・オブジェクト名	K470600
オブジェクトID	N4700600
イベント記述/関数名	LaunchAcknowledgmentWorkflow
順序/行番号	45

受注オーダー変更承認

この項では、受注オーダー変更承認ワークフローについて説明します。

内容

ワークフローの概要	ワークフローをアクティブにするには、受注オーダー入力プログラム (P4210) の「監査ログ」タブにある、「受注オーダー変更の承認処理」処理オプションを設定する必要があります。受注オーダーの特定のフィールドを変更して「OK」をクリックすると、そのオーダーが保留になり、指定した承認者にメッセージが送信されます。承認保留を示す保留コード「AH」が入力されます。承認者が変更内容を受理した場合にのみ、オーダーがリリースされ、変更内容が受け付けられます。
ワークフロー・トリガー	「数量」(トランザクションと2次)、「単位」(トランザクションと2次)、「価格」(単位と拡張)、「要求日付」、「約束納入日付」、「支払条件」のいずれかのフィールドを変更しようとしたとき。
ワークフロー処理	オーダー変更の承認者は、ワーク・センターの“受注オーダー変更の承認”キューの下でメッセージを受信します。その後、承認者はメッセージを選択して変更内容を確認し、ワークフローのリンクを選択して、変更内容の受理または却下を行います。承認者は、承認または却下に関するコメントも入力できます。

ワークフロー・オブジェクト

システム	42B
ワークフロー・オブジェクト名	JDESOCHNG
オブジェクトID	N4202130、B4200310
イベント記述/関数名	ApprovalProcessWorkflow
順序/行番号	25

付録 B

JD Edwards EnterpriseOne受注管理レポート

この付録では、JD Edwards EnterpriseOne受注管理のレポートの概要について説明し、次の情報を提供します。

- 全レポートの一覧表
- 主なレポートの詳細

JD Edwards EnterpriseOne受注管理レポート

JD Edwards EnterpriseOne受注管理の様々なレポートを作成して、次の項目に関するオーダー状況の情報を検討します。

- 未処理オーダー
- 保留オーダー
- バックオーダー

様々な販売実績情報にアクセスして、検討することもできます。

JD Edwards EnterpriseOne受注管理のすべてのレポート

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne受注管理のレポートをレポートID順に示します。

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R004203 前払取引レポート	取引の状況を識別できます。	「前払処理」(G42131)、「前払取引レポート」
R42600 販売履歴レポート	販売履歴を分析できます。	「受注オーダー・レポート」(G42111)、「販売履歴レポート」
R42611 売上分析集計レポート	期間累計/年累計の売上金額と粗利益を検討できます。	「受注オーダー・レポート」(G42111)、「売上分析集計レポート」

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R42620 顧客別受注残レポート	次の情報を確認できます。 <ul style="list-style-type: none"> • ピッキングは完了したが未出荷のオーダー • ピッキングは完了したが未請求のオーダー • 顧客の要求出荷日付を過ぎたオーダー 	「受注オーダー・レポート」(G42111)、 「顧客別発注残レポート」
R42632 品目別受注残レポートの印刷	品目について受注残となっているオーダーの数を確認し、引当可能数量情報を使用してどのようにオーダーを充当するかを検討できます。	「受注オーダー・レポート」(G42111)、 「品目別発注残レポート」
R42640 保留オーダー・レポート	次の理由により保留になっている全受注オーダーのリストを確認できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 与信 • 粗利益 • 部分オーダー保留 • 価格検討 	「受注オーダー・レポート」(G42111)、 「保留オーダー・レポート」

JD Edwards EnterpriseOne受注管理の主なレポート

この項では、個々のレポートについて処理オプションなどの詳細情報を説明します。説明は、レポートID順になっています。

R004203 – 前払取引レポート

前払取引レポート・プログラム (R004203) を使用して、各取引の状況を確認できます。データ選択に基づいて、承認済で未決済の前払や、エラーのある取引を表示できます。

前払取引レポート (R004203) の処理オプション

処理オプションを使用して、前払取引レポート・プログラム (R004203) のデフォルト処理を指定します。

除去

この処理オプションでは、前払取引を除去するかどうかを指定します。

1. 前払取引の除去 前払取引を除去するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 前払取引は除去されない。

1: 決済済前払取引は除去される。

R42600 – 販売履歴レポート

販売履歴を分析するには、販売履歴レポート(R42600)を作成します。選択した販売履歴レポートのバージョンにより、販売履歴を次の項目で分析できます。

- 電話によるオーダー、一括オーダー、着払いオーダー、クレジット・オーダーなどのオーダー(伝票)タイプ別
- 在庫販売、非在庫販売、運賃、その他料金などの行タイプ別
- 出荷済、バックオーダー、取消などのオーダー状況別
- 顧客、販売担当者、オーダー入力担当者別
- 顧客の支払条件別
- 価格別

オーダー処理規則に、販売明細実績テーブル(F42199)にレコードを入力する処理のステップを指定できます。

F42199テーブルでは単一のオーダー明細行に対して複数のレコードを保存できるので、販売履歴レポートのデータ選択で、次状況コードまたは前状況コードを指定する必要があります。状況コードを指定しない場合は、販売履歴情報が重複して表示されることがあります。

このレポートにデータを販売レポートに印刷できない主な理由として、次のものがあげられます。

- 処理オプションに正しい状況コードを指定していない。
- オーダーに1つ以上の保留コードがある。
- 顧客売上の更新プログラム(R42800)の実行時に、販売集計履歴ファイル(F4229)テーブルを更新していない。

R42800プログラムの処理オプションが、F4229テーブルのレコードを更新するように設定されていることを確認してください。

参照: 第 15 章、「日次締め処理の実行」、「顧客売上の更新」、380ページ

販売履歴レポート(R42600)の処理オプション

処理オプションを使用して、販売履歴レポート・プログラム(R42600)のデフォルト処理を指定します。

日付

この処理オプションでは、レポートの日付を指定します。

開始日付 レポートの日付範囲の開始日付を入力します。

終了日付 レポートの日付範囲の終了日付を入力します。

R42611 – 売上分析集計

売上分析集計レポート(R42611)を作成して、期間累計/年累計の売上金額と粗利益を検討します。販売売上の集計プログラムにより、販売集計履歴テーブル(F4229)から情報が取り込まれます。

このレポートにデータを販売レポートに印刷できない主な理由として、次のものがあげられます。

- 処理オプションに正しい状況コードを指定していない。
- オーダーに1つ以上の保留コードがある。
- 顧客売上の更新プログラム(R42800)の実行時に、F4229テーブルが更新されていない。

R42800プログラムの処理オプションが、F4229テーブルのレコードを更新するように設定されていることを確認してください。

参照: 第 15 章、「日次締め処理の実行」、「顧客売上の更新」、380ページ

売上分析集計レポート(R42611)の処理オプション

処理オプションを使用して、売上分析集計プログラム(R42611)のデフォルト処理を指定します。

印刷

この処理オプションでは、レポートに対して要求された期間を指定します。

要求された期間開始日付の入力	確認用ワークファイルの作成に使用するSPC有効日付の範囲の開始日付を入力します。入力フォーマットはYYYY/MM/DDです。
要求された期間終了日付の入力	確認用ワークファイルの作成に使用するSPC有効日付の範囲の終了日付を入力します。入力フォーマットはYYYY/MM/DDです。

R42620 – 顧客別受注残レポート

次の項目について検討するため、顧客別受注残レポート・プログラム(R42620)を印刷します。

- ピッキングは完了したが未出荷のオーダー
- ピッキングは完了したが未請求のオーダー
- 顧客の要求出荷日付を過ぎたオーダー

このレポートの異なるバージョンを作成して、次の項目を検討できます。

- 未処理オーダーおよびその総額
- 特定の日付を過ぎた未処理オーダー
- 特定の伝票タイプまたは行タイプの未処理オーダー

受注オーダー入力プログラムの処理オプションで、在庫が不足している場合にバックオーダーを作成するように設定すると、レポートにバックオーダー品目が表示されます。バックオーダーおよび受注残の情報を正確に反映するように、このレポートを作成する前にバックオーダーをリリースしてオーダー処理過程に移行させてください。

オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 内示調整管理を使用する場合、レポートの日付/時刻列にピッキング予定時刻が記載されます。

関連項目:

第 9 章、「追加オーダーの入力」、231 ページ

顧客別受注残レポート(R42620)の処理オプション

処理オプションを使用して、顧客別受注残レポート(R42620)のデフォルト処理を指定します。

通貨処理

この処理オプションでは、レポートに印刷される通貨を指定します。

通貨印刷オプション

金額を印刷する通貨を指定します。値は次のとおりです。

- 1: 外貨で金額を印刷します。
- 2: 国内通貨と外貨の両方で金額を印刷します。

この処理オプションを空白にすると、国内通貨での金額のみが印刷されます。

R42632 - 品目別受注残レポート

品目別受注残レポート(R42632)を作成して、受注残となっているオーダーの数を検討し、引当可能数量情報を使用してどのようにオーダーを充当するかを検討できます。

このレポートには受注オーダーの各明細行の品目が印刷され、品目番号順に情報がソートされます。倉庫内の保管場所にある各品目の手持数量も印刷されます。

JD Edwards EnterpriseOne 内示調整管理を使用する場合、レポートの日付/時刻列にピッキング予定時刻が記載されます。

必要なバックオーダーがすべてリリースされて処理できる状態であることを確認します。

R42640 - 保留オーダー・レポート

次の理由により保留になっている全受注オーダーのリストを確認できます。

- 与信
- 粗利益

- 部分オーダー保留
- 価格検討

JD Edwards EnterpriseOne用語集

アクセサ・メソッド/アクセサ	値オブジェクトまたはその他のソース・ファイルの要素を参照 (get) および設定 (set) するためのJavaメソッドです。
アクティビティ・ルール、処理規則	フロー内で、あるポイントから次のポイントにオブジェクトが進むための条件です。
追加モード	ユーザーによるデータの入力可能なフォームの状態です。
拡張プランニング・エージェント (APAg)	業務データの抽出、加工、読込みに使用するJD Edwards EnterpriseOneのツールです。APAgは、リレーショナル・データベース、フラット・ファイル・フォーマット、およびXMLのような他のデータまたはメッセージ・エンコーディング形式によるデータ・ソースへのアクセスをサポートしています。
代替通貨	<p>取引通貨 (国内のみの取引の場合は国内通貨) として指定した通貨と異なる通貨です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、代替通貨を使用することにより、入金や支払を請求時とは異なる通貨で入力できます。</p>
アプリケーション・サーバー	分散環境内のアプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供するソフトウェアです。アプリケーション・サーバーの例として、Oracle Application Server (OAS) またはWebSphere Application Server (WAS) があげられます。
仮定通貨処理	取引に実際に使用されている通貨とは異なる通貨で、取引の金額を表示できる処理です。
基準日処理	ある時点を指定して、その日付までの取引を集計する処理です。たとえば、基準日を指定してJD Edwards EnterpriseOneの各種のレポートを実行し、その時点での勘定科目やビジネスユニットなどの残高や処理金額を確認できます。
自動コミット・トランザクション	すべてのデータベース操作をすぐにデータベースに書き込むデータベース接続です。
バック・ツーバック・プロセス	JD Edwards EnterpriseOne供給管理で使用されるプロセスで、別のプロセスで使用されるキーと同じキーが含まれます。
バッチ処理	<p>サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneにレコードを転送する処理です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、バッチ処理を使用して、JD Edwards EnterpriseOne以外のシステムで入力された請求書や伝票のデータをJD Edwards EnterpriseOne売掛管理やJD Edwards EnterpriseOne買掛管理のシステムに転送できます。また、顧客レコードや仕入先レコードなどの住所録情報も転送できます。</p>
バッチ・サーバー	バッチ処理リクエストの実行用に指定されたサーバーです。通常、バッチ・サーバーにはデータベースは格納されず、対話型アプリケーションが実行されることもありません。
一括バッチ処理	<p>クライアント・ワークステーション上でアプリケーション処理を実行してから、後続の処理を一度にサーバー・アプリケーションに投入するトランザクションの方式です。バッチ処理はサーバー上で実行されるため、クライアント・アプリケーションは引き続き他のタスクを実行できます。</p> <p>“ダイレクト接続”と“オフライン処理”の説明も参照してください。</p>
ベスト・プラクティス	開発者による設計についての意思決定が最適になるように、任意で従うガイドラインです。

BPEL	Business Process Execution Languageの略語です。個別のサービスを組み合わせてエンドツーエンドのプロセス・フローを作成できる、標準Webサービスのオーケストレーション言語です。
BPEL PM	Business Process Execution Language Process Managerの略語です。BPELビジネス・プロセスを作成、デプロイ、管理する包括的インフラストラクチャです。
ビルド構成ファイル	ANTスクリプトを生成するプログラムで 사용되는、構成の設定が記述されたテキスト・ファイルです。ANTは、ビルド・プロセスを自動化するソフトウェア・ツールです。ANTスクリプトによって、公開ビジネス・サービスが生成されます。
ビルド・エンジニア	アーティファクトの生成、マスタリング、パッケージングの担当者です。ビルド・エンジニアには、アプリケーション・アーティファクトの生成担当者と、基盤のアーティファクトの生成担当者がいます。
ビルド・プログラム	ビルド構成ファイルを読み込み、公開ビジネス・サービスの生成を行うANTスクリプトを生成するWIN32実行ファイルです。
ビジネス・アナリスト	EnterpriseOneのビジネス・サービスの開発を必要とする条件と理由を特定する担当者です。
ビジネス関数	ユーザーによって作成された再利用可能なビジネス・ルールとログのセットで、イベント・ルールを通じて呼び出すことができます。ビジネス関数によって、トランザクションまたはそのサブセットが実行されます（在庫照会、作業オーダー発注など）。また、ビジネス関数にはAPIも含まれているため、フォーム、データベース・トリガー、またはJD Edwards EnterpriseOne以外のアプリケーションから呼び出すこともできます。ビジネス関数は、他のビジネス関数、フォーム、イベント・ルール、その他の構成要素と組み合わせてアプリケーションを構成します。ビジネス関数の作成には、イベント・ルール、またはCなどの第3世代言語を使用します。ビジネス関数の例としては、与信チェック（Credit Check）や在庫照会（Item Availability）などがあげられます。
ビジネス関数イベント・ルール	“ネームド・イベント・ルール（NER）”の説明を参照してください。
ビジネス・サービス	Javaで記述されたEnterpriseOneのビジネス・ロジックです。ビジネス・サービスは、1つ以上のアーティファクトのコレクションです。他に指定されていなければ、ビジネス・サービスは公開ビジネス・サービスとビジネス・サービスの両方を意味します。
ビジネス・サービス・アーティファクト	ビジネス・サービスを開発するために管理され、ビジネス・サービスのビルド・プロセスに必要な、ソース・ファイル、ディスクリプタなどです。
ビジネス・サービス・クラス・メソッド	ビジネス・サービスのフレームワークから提供されるリソースにアクセスするメソッドです。
ビジネス・サービス構成ファイル	interop.ini、JDBj.iniおよびjdelog.propertiesなど（他にもある）の構成ファイルです。
ビジネス・サービス相互参照	オーケストレーション中に使用されるキーと値のデータの組合せです。WSG/XPIベースのシステムにおけるコードとキーの相互参照を表します。
ビジネス・サービス相互参照ユーティリティ	JD Edwards EnterpriseOneのオーケストレーション相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
ビジネス・サービス開発環境	統合開発者がビジネス・サービスを開発および管理する際に必要なフレームワークです。
ビジネス・サービス開発ツール	JDeveloperという名前でも知られています。
ビジネス・サービス EnterpriseOneオブジェクト	EnterpriseOne LCMツールによって管理されるアーティファクトのコレクションです。テーブル、ビュー、フォームなどの他のEnterpriseOneオブジェクトと同様に、EnterpriseOne LCM内に名前付きで表示されます。

ビジネス・サービス・フレームワーク	特にビジネス・サービスの開発を支援する、ビジネス・サービスの基盤の一部です。
ビジネス・サービス・ペイロード	エンタープライズ・サーバーとビジネス・サービス・サーバーとの間で受け渡されるオブジェクトです。ビジネス・サービス・ペイロードには、ビジネス・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスに入力される情報が含まれます。ビジネス・サービス・ペイロードには、エンタープライズ・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスから返される結果が含まれます。通知の際、返されたビジネス・サービス・ペイロードには確認応答が含まれます。
ビジネス・サービス・プロパティ	ビジネス・サービスの動作または機能の制御に使用されるキー値データの組合せです。
ビジネス・サービス・プロパティ管理ツール	開発者および管理者がビジネス・サービス・プロパティのレコードの管理に使用するEnterpriseOneアプリケーションです。
ビジネス・サービス・プロパティのビジネス・サービス・グループ	ビジネス・サービス・プロパティをビジネス・サービス・レベルで分類したものです。通常、ビジネス・サービス名として表されます。1つのビジネス・サービス・レベルには、1つ以上のビジネス・サービス・プロパティ・グループが含まれます。各ビジネス・サービス・プロパティ・グループは、0個以上のビジネス・サービス・プロパティ・レコードを含むことができます。
ビジネス・サービス・プロパティのカテゴリ化	ビジネス・サービス・プロパティをカテゴリ化する方法です。これらのプロパティは、ビジネス・サービス別にカテゴリ化されます。
ビジネス・サービス・プロパティ・キー	ビジネス・サービス・プロパティをシステム全体でグローバルに識別する一意の名前です。
ビジネス・サービス・プロパティ・ユーティリティ	EnterpriseOneのビジネス・サービス・プロパティ・データにアクセスするためにビジネス・サービスの開発で使用するユーティリティAPIです。
ビジネス・サービス・プロパティ値	ビジネス・サービス・プロパティの値です。
ビジネス・サービス・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトおよびビルド・ファイルを格納するClearCaseなどのソース管理システムです。または、ネットワーク内の物理ディレクトリのことをいいます。
ビジネス・サービス・サーバー	ビジネス・サービスが置かれる物理マシンです。ビジネス・サービスは、アプリケーション・サーバー・インスタンス上で実行されます。
ビジネス・サービス・ソース・ファイル/ビジネス・サービス・クラス	ビジネス・サービス・アーティファクトの種類の1つです。Javaコンパイラでコンパイルされるように記述された、javaファイル・タイプのテキスト・ファイルです。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート	Cビジネス関数で使用する、ビジネス・サービス値オブジェクトの構造表現です。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート・ユーティリティ	ビジネス・サービス値オブジェクトからビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレートを作成する際に使用されるユーティリティです。
ビジネス・サービス・サーバー・アーティファクト	ビジネス・サービス・サーバーにデプロイされるオブジェクトです。
ビジネス・ビュー	アプリケーションやレポートでデータが使用されているJD Edwards EnterpriseOne テーブル(複数可)から、特定のカラムを選択するために使用されます。ビジネス・ビュー自体には特定のローを選択する機能はありません。また、ビジネス・ビューに実際のデータは含まれていません。ビジネス・ビューは、情報の表示専用の機能であり、このビューを介してデータを操作できます。
セントラル・オブジェクトのマージ	現行のリリースで顧客がオブジェクトに加えた変更を、新規のリリースのオブジェクトに統合する処理です。
セントラル・サーバー	最初にインストールされ、クライアント・マシンに配布されるソフトウェア・バージョン(セントラル・オブジェクト)を格納するために指定されたサーバーです。JD

	Edwards EnterpriseOneの典型的なインストールでは、ソフトウェアは1つのマシン、すなわちセントラル・サーバーにロードされます。次に、セントラル・サーバーにつながっている各種のワークステーションに対して、ソフトウェアのコピーがプッシュ・アウトまたはダウンロードされます。このような構成にすることで、ワークステーション上での使用によってソフトウェアが変更されたり、破損したりした場合でも、常にセントラル・サーバーから変更前のオブジェクトのセット(セントラル・オブジェクト)を入手できます。
チャート	JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアのフォームに表示される表形式の情報です。
チェックイン・リポジトリ	開発者がビジネス・サービス・アーティファクトをチェックインおよびチェックアウトするリポジトリです。チェックイン・リポジトリは複数あります。各リポジトリは、それぞれ別の目的に使用されます(開発、本稼働、テストなど)。
コネクタ	JD Edwards EnterpriseOneとサード・パーティ・アプリケーションの間にロジックとデータの共有を可能にする、コンポーネント・ベースのインタオペラビリティ(相互運用)モデルです。JD Edwards EnterpriseOneコネクタ・アーキテクチャにはJavaコネクタとCOMコネクタが含まれています。
相殺/相手勘定	JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementの一般会計勘定科目であり、仕訳入力の相殺(貸借一致)処理に使用されます。たとえば、相殺/相手勘定を使用して、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでの配賦によって作成された会計入力の貸借一致を行います。
コントロール・テーブル・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、必要なマージを行うためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。このマージにより、データ辞書、ユーザー定義コード、メニュー、ユーザー一時変更テーブルが更新されます。
コントロール・テーブルのマージ	顧客がコントロール・テーブルに加えた変更を、新規リリースのデータに統合する処理です。
関連データ	ビジネス・サービス名およびメソッドで構成されるリクエストとHTTPレスポンスとの関連付けに使用されるデータです。
コスト割当	JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のプロセスであり、アクティビティまたはコスト・オブジェクトへのリソースの配賦またはトレースに使用されます。
原価要素	JD Edwards EnterpriseOne製造管理において、特定の品目の原価を構成する要素(資材費、人件費、間接費など)を表します。
資格証明	JD Edwards EnterpriseOneのユーザー名/パスワード/環境/ロール、EnterpriseOneセッションまたはEnterpriseOneトークンの有効なセットです。
相互参照ユーティリティ・サービス	EnterpriseOneの相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
セグメント間編集	コンフィギュレーション可能な品目セグメント間の関係を設定する論理ステートメントです。セグメント間編集を使用して、製造不可能なコンフィギュレーションに基づくオーダーを防ぐことができます。
通貨再換算	通貨を別の通貨に換算するプロセスであり、一般的にレポートで使用されます。たとえば、通貨再換算のプロセスを使用して、様々な通貨を単一の通貨に換算する必要がある連結レポートの作成に対応できます。
cXML	伝票と調達アプリケーションとの通信や、電子商取引ハブと仕入先との通信の簡素化に使用されるプロトコルです。
データベース資格証明	有効なデータベース・ユーザー名/パスワードです。
データベース・サーバー	データベースの管理やクライアント・マシンの検索を実行するローカル・エリア・ネットワーク内のサーバーです。

データ・ソース・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、インストール・プランに定義されたすべてのデータ・ソースを、プランナのデータ・ソースに含まれるテーブル/データ・ソース・サイジング・テーブルおよびデータ・ソース・マスターから、システムのリリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、データ・ソース・プラン詳細レコードも更新されます。
期間パターン	標準会計と52期間会計で、会計年度の開始日とその会計年度内の各期間の終了日を表すカレンダーです。
指定通貨	会社の財務レポートで基準として使用される通貨です。
デプロイメント・アーティファクト	サーバー、ポートなど、デプロイメント・プロセスに必要なアーティファクトです。
デプロイメント・サーバー	エンタープライズ・サーバーとクライアント・マシンへのソフトウェアのインストールや、それらのソフトウェアの管理、配布に使用されるサーバーです。
明細情報	JD Edwards EnterpriseOneの取引における個別の行に関する情報です。伝票支払品目や受注オーダー明細行などがあります。
ダイレクト接続	クライアント・アプリケーションとサーバー・アプリケーションが対話形式で直接通信するトランザクション方式です。 “一括バッチ処理”、“オフライン処理”の説明も参照してください。
DNT (Do Not Translate)	BLOBデータの制約のため、iSeriesサーバーに必要なデータ・ソースのタイプです。
2重価格設定	商品やサービスに対し、2種類の通貨で価格を設定するプロセスです。
重複した公開ビジネス・サービス承認レコード	同じユーザー識別情報と公開ビジネス・サービス識別情報を持つ、2つの公開ビジネス・サービス承認レコードです。
埋込みアプリケーション・サーバー・インスタンス	JDeveloperから起動され、完全にJDeveloper内で実行されるOC4Jインスタンスです。
編集コード	レポートやフォーム上の特定の値が、どのように表示またはフォーマットされるべきかを示すコードです。レポートに属するデフォルトの編集コードは大量の情報に関連しているため、使用時には注意が必要です。
編集モード	ユーザーによるデータの変更が可能なフォームの状態です。
編集ルール	ユーザーが入力したデータを、事前に定義されたルールやルールのセットに照合して、フォーマットや検証を行うための方法です。
電子データ交換 (EDI)	JD Edwards EnterpriseOneシステムとサード・パーティ・システムの間で、コンピュータ間の業務取引データの交換をペーパーレスに行うことを可能にするインタオペラビリティ・モデルです。EDIを使用する場合、EDI標準フォーマットから自社システムで使用されているフォーマットにデータを変換するためのソフトウェアを備えている必要があります。
埋込みイベント・ルール	特定のテーブルやアプリケーション専用のイベント・ルールです。たとえば、フォーム間の呼び出し、処理オプションの値に基づくフィールドの非表示化、ビジネス関数の呼び出しなどが含まれます。汎用的な“ビジネス関数イベント・ルール”とは対照的に使用されます。
従業員ワーク・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。各ユーザーには、アクティブ・メッセージなどのメッセージやワークフローを含むメールボックスが割り当てられます。
エンタープライズ・サーバー	JD Edwards EnterpriseOneのデータベースとロジックを格納するサーバーです。

ESB (Enterprise Service Bus)	イベント駆動型のXMLベースのメッセージング・フレームワーク(バス)を使用してサービス指向アーキテクチャを有効にする、Webサービス標準に準拠したミドルウェア・インフラストラクチャ製品またはテクノロジーです。
EnterpriseOne管理者	EnterpriseOne管理システムの担当者です。
EnterpriseOne資格証明	EnterpriseOneユーザーの検証に使用される、ユーザーID、パスワード、環境およびロールです。
EnterpriseOneオブジェクト	アプリケーションのビルドに使用される再利用可能なコードです。オブジェクトのタイプには、テーブル、フォーム、ビジネス関数、データ辞書項目、バッチ処理、ビジネス・ビュー、イベント・ルール、バージョン、データ構造体、メディア・オブジェクトなどがあります。
EnterpriseOne開発クライアント	以前は“ファット・クライアント”と呼ばれていた、Microsoft Windowsのクライアントおよび設計ツールを含む、EnterpriseOneアーティファクトの開発に必要なインストール済EnterpriseOneコンポーネントのコレクションです。
EnterpriseOne拡張機能	EnterpriseOne固有の、JDeveloperのコンポーネント(プラグイン)です。JDeveloperウィザードは、拡張機能の具体例の1つです。
EnterpriseOneプロセス	JD Edwards EnterpriseOneクライアントおよびサーバーで、プロセス・リクエストの処理とトランザクションの実行を可能にするソフトウェア・プロセスです。クライアントでは1つのプロセスが実行され、サーバーでは1つのプロセスの複数のインスタンスを処理できます。JD Edwards EnterpriseOneプロセスを、ワークフロー・メッセージやデータ・レプリケーションなど特定のタスク専用のプロセスに指定することで、サーバーが大量のタスクを処理している場合でも重要なプロセスの実行を確保できます。
EnterpriseOneリソース	権限を持つユーザーに限定された、EnterpriseOneのテーブル、メタデータ、ビジネス関数、辞書情報またはその他の情報です。
環境ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、環境情報および各環境のオブジェクト構成マネージャ・テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、環境プラン詳細レコードも更新されます。
エスカレーション・モニター	処理待ちのリクエストやアクティビティを監視し、それらが非アクティブの状態のまま指定した時間が経過した場合に、再実行するか、または次のステップやユーザーに処理を進めるバッチ・プロセスです。
イベント・ルール	フォームの入力や、フィールド間の移動など、特定のアプリケーションで実行された操作に基づいて処理(複数可)の実行をシステムに指示する論理ステートメントです。
明示的トランザクション	ビジネス・サービス開発者がビジネス・サービス内のトランザクション境界のタイプ(自動または手動)および範囲を明示的に制御する際に使用されるトランザクションです。
公開されたメソッド/値オブジェクト	公開インターフェイスの一部である、公開ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。顧客との契約の一部でもあります。
施設、事業所	原価のトラッキングの対象となる業務単位の1つです。たとえば、倉庫所在地、ジョブ、プロジェクト、ワーク・センター、事業所などがあります。“ビジネスユニット”と呼ばれる場合もあります。
略式コマンド	特定のコマンドを使用することで、メニューやアプリケーション間を迅速に移動できるコマンド・プロンプト機能です。
ファイル・サーバー	ネットワーク上で他のコンピュータからアクセスされるファイルを保存するサーバーです。リモート・ディスク・ドライブとしてユーザーに表示されるディスク・サーバーとは異なり、ファイル・サーバーには、単にファイルを保存するだけではなく、ネッ

	トワーク・ユーザーがファイルをリクエストしたりファイルを更新した場合に、それらの要求を整理してファイルを管理するための高度な機能が備えられています。
最終モード	データ・レコードの更新や作成を行うプログラムの処理モードの1つです。
基盤	実行時にビジネス・サービスを実行するためにアクセス可能にする必要のあるフレームワークです。例として、Java ConnectorおよびJDBjがあげられます(この他にもあります)。
FTPサーバー	FTP(ファイル転送プロトコル)を通じてファイルへのリクエストに応答するサーバーです。
見出し情報	テーブルやフォームの先頭に表示される情報です。見出し情報を使用して、付随するレコード・グループの制御情報が識別または提供されます。
HTTPアダプタ	特定のURLを指定したGET、POST、PUT、DELETE、TRACE、HEADおよびOPTIONSなどの基本HTTP操作に使用される、サービスの汎用セットです。
インスタンス化	“作成する”という意味のJava用語です。クラスがインスタンス化されると、新しいインスタンスが作成されます。
統合開発者	EnterpriseOneビジネス・サービスを開発、実行およびデバッグする、システムのユーザーです。統合開発者は、EnterpriseOneビジネス・サービスを使用してそのようなコンポーネントを開発します。
インテグレーション・ポイント(IP)	ドキュメント・レベルのインターフェイスを公開する、EnterpriseOneの以前の実装におけるビジネス・ロジックです。このタイプのロジックは、XBPと呼ばれていました。EnterpriseOne 8.11では、webMethodsのサポートにより、IPがWebサービスゲートウェイに実装されました。
インテグレーション・サーバー	コンピュータが内部および外部のネットワークで接続されたシステム環境で、異なるオペレーティング・システムやアプリケーション間でのデータの交換を行うための機能を提供するサーバーです。
整合性テスト	データの整合性を維持するための社内プロセスを補強するプロセスで、貸借が一致していないデータや矛盾のあるデータの検出と報告を行います。
インターフェイス・テーブル	“Zテーブル”の説明を参照してください。
内部メソッド/値オブジェクト	公開インターフェイスの一部ではない、ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。privateメソッドまたはprotectedメソッドがこれに相当するといえます。publishedメソッドで使用されない値オブジェクトもこれに相当するといえます。
インタオペラビリティ・モデル	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneへの接続やアクセスを行うための機能です。
エラー表示の有効化	JD Edwards EnterpriseOneにおけるフォーム・レベルのプロパティで、有効にすると、アプリケーション・エラーが発生した場合にエラー・メッセージがフォーム上に表示されます。
IServerサービス	Webサーバーに常駐するインターネット・サーバーサービスで、データベースからクライアントへのJavaクラスのファイル配信を高速化するために使用されます。
代替ラベル	代替的なデータ辞書項目のラベルで、使用されているオブジェクトの製品コードに基づいてJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションに表示されます。
Javaアプリケーション・サーバー	サーバー中心のアーキテクチャの中間層に置かれるコンポーネント・ベースのサーバーです。このサーバーは、データのアクセスや永続性ととともに、セキュリティとステータスの管理を行うためのミドルウェア・サービスを提供します。
JDBNET	異種サーバー間でのデータ・アクセスを実現するためのデータベース・ドライバです。

JDEBASEデータベース・ミドルウェア	JD Edwards EnterpriseOne独自のデータベース・ミドルウェア・パッケージで、プラットフォームに依存しないAPIとクライアント/サーバー間のアクセスを提供します。
JDECallObject	ビジネス関数から他のビジネス関数を呼び出すためのAPIです。
jde.ini	JD Edwards EnterpriseOneの初期設定に必要なランタイム設定を提供するJD Edwards EnterpriseOneファイル(またはiSeries用のメンバー)です。JD Edwards EnterpriseOneを実行する各マシンごとに、ファイルまたはメンバーの特定バージョンを常駐させる必要があります。これには、ワークステーションとサーバーも含まれます。
JDEIPC	サーバーコードによって使用される通信プログラミング・ツールであり、マルチプロセス環境における同一データへのアクセス制御、プロセス間の通信と調整、新規プロセスの作成を行います。
jde.log	JD Edwards EnterpriseOneの主要な診断ログ・ファイルです。このファイルは常に主ドライブのルート・ディレクトリに置かれ、JD Edwards EnterpriseOneの起動以降の状況とエラー・メッセージが書き込まれます。
JDENET	JD Edwards EnterpriseOne独自の通信ミドルウェア・パッケージで、ピア・ツーピア、メッセージ・ベース、ソケット・ベースのマルチプロセス通信用のミドルウェア・ソリューションです。JD Edwards EnterpriseOneのすべてのサポート対象プラットフォームでクライアント/サーバー間、サーバー/サーバー間の通信を処理します。
JDeveloperプロジェクト	JDeveloperでソース・ファイルのカテゴリ化およびコンパイルに使用されるアーティファクトです。
JDeveloperワークスペース	JDeveloperでプロジェクト・ファイルの編成に使用されるアーティファクトです。1つ以上のプロジェクト・ファイルがここに配置されます。
JMSキュー	ポイントツーポイントのメッセージングに使用されるJavaメッセージング・サービス・キューです。
リスナー・サービス	HTTP経由でXMLメッセージをリスニングするリスナーです。
ローカル・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトの格納に使用される、開発者のローカル開発環境です。
ローカルのスタンドアロンBPEL/ESBサーバー	アプリケーション・サーバーにインストールされていない、スタンドアロンBPEL/ESBサーバーです。
ロケーション・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、インストール・プランに定義されたすべてのロケーションを、プランナ・データ・ソースの保管場所マスターからシステム・データ・ソースにコピーするアプリケーションです。
ロジック・サーバー	アプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供する、分散ネットワーク内のサーバーです。典型的なコンフィギュレーションでは、プリスティン・オブジェクトがセントラル・サーバーからロジック・サーバーに複製されます。JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアの実行時に、ロジック・サーバーでは、ワークステーションと連動して、必要な処理が実際に実行されます。
差し込み印刷ワークベンチ	業務文書を自動的に印刷するため、Microsoft Word 6.0またはそれ以上のバージョンの文書とJD Edwards EnterpriseOneのレコードをマージするアプリケーションです。たとえば、雇用の証明に関する文書を印刷する際に、差し込み印刷ワークベンチを使用できます。
手動コミット・トランザクション	コミットがコールされるまで、すべてのデータベース操作によるデータベースへの書き込みが遅延されるデータベース接続です。
マスター・ビジネス関数(MBF)	データベース内の情報の追加、変更、更新を担う中心のロケーションとして機能する対話型のマスター・ファイルです。マスター・ビジネス関数によって、データ入力フォームと該当するテーブル間でのデータの交換が行われます。マスター関数によって、すべての必要なデフォルト値と編集ルールを含む関数の共通セット

	が、関連するプログラムに提供されます。MBFには、データベースの情報を追加、更新、削除する際の整合性を確保するロジックが含まれています。
マスター・テーブル	“パブリッシュ済テーブル”の説明を参照してください。
照合伝票	取引を完了または変更するために、当初伝票と関連付けられる伝票です。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、入金請求書の照合伝票に、支払が支払伝票の照合伝票になります。
メディア・ストレージ・オブジェクト	Gxxx、xxxGT、またはGTxxxのいずれかの命名規則を使用するファイルで、テーブルの形で分類されていないオブジェクトです。
メッセージ・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。
メッセージング・アダプタ	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneに接続し、メッセージ・キューを使用してデータの交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
メッセージング・サーバー	メッセージングAPIを使用して、他のプログラムで使用するために送信されたメッセージを処理するサーバーです。メッセージング・サーバーには、通常、関数を実行するためのミドルウェア・プログラムが配備されます。
中間層BPEL/ESBサーバー	アプリケーション・サーバーにインストールされたBPEL/ESBサーバーです。
監視アプリケーション	管理者が各種EnterpriseOneサーバーの統計情報を取得し、統計をリセットしたり通知を設定したりできる、EnterpriseOneのツールです。
ネームド・イベント・ルール (NER)	カプセル化された再利用可能なビジネス・ロジックです。C言語ではなく、イベント・ルールを使用して作成されます。NERは、ビジネス関数イベント・ルールとも呼ばれます。NERは、複数のプログラムによって、複数の場所で繰り返し使用できます。このようなモジュール方式での提供によって、コードの合理性や再利用性が高まり、必要な作業がより少なくなります。
Nota Fiscal	ブラジルでは、税務処理のためにすべての商取引についてこの書式を作成し、税法で指定された情報を含めることが義務付けられています。
Nota Fiscal Factura	ブラジルで使用する書式です。伝票情報を伴う“Nota Fiscal”です。 “Nota Fiscal”の説明も参照してください。
オブジェクト構成マネージャ (OCM)	JD Edwards EnterpriseOneでは、ランタイム環境で使用されるオブジェクトのリクエスト・ブローカーおよび制御センターとして機能します。OCMによって、ビジネス関数、データ、バッチ・アプリケーションのランタイム・ロケーションが追跡されます。これらのオブジェクトのいずれかが呼び出されると、OCMでは、指定された環境/ユーザーのデフォルト値と一時変更情報に基づいて、そのオブジェクトにアクセスするためのロケーションが特定されます。
オブジェクト・ライブラリアン	アプリケーションのビルドに繰り返し使用できるすべてのバージョン、アプリケーション、ビジネス関数のリポジトリです。オブジェクト・ライブラリアンによって、開発者にチェックアウト機能とチェックイン機能が提供されます。また、JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトの作成、変更、使用も管理されます。オブジェクト・ライブラリアンは、稼働環境や開発環境など複数の環境に対応しているため、異なる環境間でオブジェクトを簡単に移動できます。
オブジェクト・ライブラリアンのマージ	これまでのリリースでオブジェクト・ライブラリアンに加えられたすべての変更を、新規リリースのオブジェクト・ライブラリアンに統合する処理です。
オープン・データ・アクセス (ODA)	データの集計とレポート作成のために、SQLステートメントを使用してJD Edwards EnterpriseOneのデータを抽出できるインタオペラビリティ・モデルです。

出力ストリーム・アクセス (OSA)	JD Edwards EnterpriseOneのインターフェイスを設定し、別のソフトウェア・パッケージ (Microsoft Excelなど) にデータを渡して処理を実行するためのインタオペラビリティ・モデルです。
パッケージ	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトは、デプロイメント・サーバーからパッケージとしてワークステーションにインストールされます。パッケージには、部品表やキットなどのように、各ワークステーションに必要なオブジェクトが含まれます。さらに、デプロイメント・サーバー上でのオブジェクトの位置が示されるため、インストール・プログラムがそれらのオブジェクトを検出できるようになっています。パッケージは、ある時点におけるデプロイメント・サーバー上のセントラル・オブジェクトを示すスナップ・ショットでもあります。
パッケージ・ビルド	既存ユーザーに対し、ソフトウェアの変更や新規アプリケーションの反映を容易に行うためのソフトウェア・アプリケーションです。また、JD Edwards EnterpriseOneでは、パッケージ・ビルドとは、ソフトウェアのコンパイル済バージョンを指す場合もあります。たとえば、使用しているERPソフトウェアのバージョンをアップグレードする際に、“パッケージ・ビルド”を使用するという場合があります。 “パッケージ・ビルド”という用語は、たとえば次のようにも使用されます「また、パッケージ・ビルドの間に行われるビジネス関数のグローバル・ビルドには新しい関数が自動的に含まれるため、デプロイの準備ができるまでビジネス関数を本稼働パス・コードに含めないでください」。このように、パッケージ・ビルドを作成するプロセスが“パッケージ・ビルド”と呼ばれる場合もあります。
パッケージ・ロケーション	パッケージとその複製オブジェクトのセットが格納されるディレクトリ構造上の位置です。通常は、“¥¥デプロイメント・サーバー¥リリース¥パス・コード¥パッケージ¥パッケージ名”になります。このパスの下の子ディレクトリに、パッケージの複製オブジェクトが格納されます。パッケージがビルドまたは格納される場所を指す場合もあります。
パッケージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、パッケージ情報テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースに転送するアプリケーションです。処理の結果を反映するため、パッケージ・プラン詳細レコードも更新されます。
パスコード・ディレクトリ	EnterpriseOne開発アーティファクトを格納する、EnterpriseOne開発クライアント上にあるファイル・システムの特定の部分です。
パターン	ソフトウェアの設計でよく発生する問題に対し、繰り返して使用される一般的な解決策です。ビジネス・サービスの開発では、オブジェクトのリレーションシップとやり取りに重点が置かれます。オーケストレーションでは、統合パターン (同期/非同期のリクエスト/レスポンス、パブリッシュ、通知、受信/応答など) に重点が置かれます。
計画ファミリ	設計と製造に類似点があるため、まとめて計画する方が合理的である複数の最終品目をグループ化する手段です。
優先プロファイル	品目、品目グループ、顧客、および顧客グループについて、ユーザー定義の階層 (順序) に基づいて指定したフィールドのデフォルト値を定義する機能です。
プリント・サーバー	ネットワークとプリンタ間のインターフェイスであり、ネットワーク・クライアントはこのインターフェイスを介してプリンタに接続し、印刷ジョブを送信します。コンピュータ、独立したハードウェア・デバイス、またはプリンタ内部のハードウェアのどれでも、プリンタ・サーバーとして使用できます。
プリステイン環境	JD Edwards EnterpriseOneのデモ・データを使用した未変更オブジェクトのテストに使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。研修環境としても使用されます。変更したオブジェクトと変更前のオブジェクトを比較するには、この環境が必要になります。
処理オプション	バッチ・プログラムやレポートの実行を制御するパラメータをユーザーが指定するためのデータ構造です。たとえば、処理オプションを使用して、特定のフィールド

	<p>ドのデフォルト値の指定、情報の表示および印刷の方法、日付範囲の指定、プログラムの実行を制御するランタイム値の入力などを行います。</p>
本稼働用環境	<p>ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアを実際に使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。</p>
本稼働レベルのファイル・サーバー	<p>品質が保証され商品化されたファイル・サーバーで、通常はユーザーサポート・サービスとともに提供されます。</p>
本稼働公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>本稼働アプリケーション・サーバーにデプロイされた、公開ビジネス・サービスのWebサービスです。</p>
プログラム一時修正 (PTF)	<p>JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアに加えられた変更で、磁気テープやディスクの形式でユーザー企業に提供されます。</p>
プロジェクト	<p>JD Edwards EnterpriseOneでは、オブジェクト管理ワークベンチで開発されたオブジェクトのための仮想コンテナを指します。</p>
プロモーション・パス	<p>ワークフロー内におけるオブジェクトやプロジェクトの進捗状況を示すパスです。標準的なプロモーション・サイクル(パス)は次のとおりです。</p> <p>11>21>26>28>38>01</p> <p>このパスでは、11は検討待ちの新規プロジェクト、21はプログラミング、26は品質管理テスト/検討、28は品質管理テスト/検討の完了、38は本稼働、01はサイクルの完了をそれぞれ表します。たとえば標準的なプロジェクト・プロモーション・サイクルで、開発者は、開発(プログラミング)のパス・コードからチェックアウトしたオブジェクトをチェックインして戻したら、それらのオブジェクトをプロトタイプ(テスト)のパス・コードに進めます。すべての作業が終了したオブジェクトは、完了の前に本稼働のパス・コードに移されます。</p>
プロキシ・サーバー	<p>企業がセキュリティ管理、管理統制、サービスのキャッシュ化を確実に行うことができるように、ワークステーションとインターネットの間で防壁として機能するサーバーです。</p>
公開ビジネス・サービス	<p>EnterpriseOneのサービス・レベルのロジックおよびインターフェイスです。公開ビジネス・サービスに分類されている場合、外部(EnterpriseOne以外)のシステムに公開する意図があることを示しています。</p>
公開ビジネス・サービス識別情報	<p>関係のある承認レコードの特定に使用される、公開ビジネス・サービスに関する情報です。公開ビジネス・サービスとメソッド名、公開ビジネス・サービスのみ、または*ALLが使用されます。</p>
公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>J2EE Webサービスとしてパッケージされた、公開ビジネス・サービスのコンポーネント(つまり、ビジネス・サービス・クラス、ビジネス・サービス基盤、構成ファイルおよびWebサービス・アーティファクトを格納したJ2EE EARファイル)です。</p>
パブリッシュ済テーブル	<p>マスター・テーブルとも呼ばれ、他のマシンにレプリケートされる元のテーブルです。パブリッシュ・マシンに格納されるF98DRPUBテーブルにより、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュが識別されます。</p>
パブリッシュ	<p>パブリッシュされたテーブルを扱うサーバーです。F98DRPUBテーブルでは、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュの識別が行われます。</p>
プル・レプリケーション	<p>JD Edwards EnterpriseOneでデータを個別のワークステーションにレプリケートする方法の1つです。レプリケート先のマシンは、JD Edwards EnterpriseOneのデータ・レプリケーション・ツールを使用して、プル・サブスクライバとしてセットアップされます。プル・サブスクライバが情報を要求した場合にのみ、変更、更新、削除が通知されます。通常は起動時に、プル・サブスクライバからF98DRPCNテーブルが置かれているサーバーに対し、要求がメッセージ形式で送信されます。</p>

QBE	Query by Example (例示照会) の略語です。JD Edwards EnterpriseOne では、QBE 行は、詳細グリッドの最上段にあり、データのフィルタリングに使用されます。
リアルタイム・イベント	外部システムで使用するために EnterpriseOne のアプリケーション・ロジックからトリガーされるメッセージです。
リフレッシュ	新規リリースや PTF/累積アップデート・リリース (B73.2 や B73.2.1 など) に問題なく対応できるように、JD Edwards EnterpriseOne ソフトウェアまたはそのサブセット (テーブルや業務データなど) を修正する機能です。
レプリケーション・サーバー	クライアント・マシンへのセントラル・オブジェクトのレプリケーションを扱うサーバーです。
Rt-Addressing	ビジネス・サービス呼出しリクエストのホスト/ポート・ユーザー・セッションを開始するブラウザ・セッションを特定する一意のデータです。
規則	ツールによって強制されるのではなく、目的の結果を得るため、および指定された標準に準拠するために従う必須のガイドラインです。
見積オーダー	JD Edwards EnterpriseOne 調達管理および外注管理では、仕入先からの品目情報と価格情報のリクエストを指します。見積オーダーから購買オーダーを作成できます。 JD Edwards EnterpriseOne 受注管理では、まだ発注を行っていない顧客に対する品目情報と価格情報を指します。
Secure by Default	特定のレコードによってユーザーがオブジェクトの実行権限を持つことが示されないかぎり、ユーザーがオブジェクトの実行権限を持たないとみなすセキュリティ・モデルです。
SSL (Secure Socket Layer)	通信の機密性を提供するセキュリティ・プロトコルです。SSL を使用することで、クライアントとサーバー・アプリケーションは、盗聴、改ざん、なりすましを防ぐように設計された方法で通信できます。
SEI 実装	サービス・エンドポイント・インターフェイス (SEI) を宣言するメソッドを実装する Java クラスです。
選択項目	JD Edwards EnterpriseOne メニューに表示される選択項目は、メニューからアクセスできる各機能を表します。選択するには、関連する番号を選択フィールドに入力して [Enter] キーを押します。
シリアルライズ	オブジェクトやデータを、格納用の形式またはネットワーク接続リンク上で送受信できる形式に変換し、必要なときに元のデータやオブジェクトを再作成できるプロセスです。
サーバーワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、サーバー設定ファイルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、サーバープラン詳細レコードも更新されます。
サービス・エンドポイント・インターフェイス (SEI)	クライアントからのサービスの呼出しを可能にするメソッドを宣言する Java インターフェイスです。
SOA	Service Oriented Architecture の略語です。
ソフトコーディング	指定されたプロセスの実行に影響するサイト固有の変数を管理者が操作できるコーディング技術です。
ソース・リポジトリ	HTTP アダプタおよびリスナー・サービス開発環境アーティファクト用のリポジトリです。
スポット・レート	取引レベルで入力される為替レートです。このレートは、2 つの通貨の間に設定されている為替レートより優先して使用されます。

スペックのマージ	オブジェクト・ライブラリアン、バージョン・リスト、およびセントラル・オブジェクトの3つのマージで構成されるマージ処理です。この機能を使用して、顧客が変更したデータを新規リリースのデータに統合できます。
スペック	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトを完全に記述したものです。各オブジェクトには、アプリケーションのビルドに使用される固有のスペックまたは名前があります。
スペック・テーブル・マージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、スペック・テーブルを更新するためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。
SSL証明書	ユーザー名およびそのユーザーの公開鍵が記載された、認証局が署名した特別なメッセージです。メッセージが認証局によって正規に署名されたことを誰もが確認でき、そのためユーザーの公開鍵に対する信用が強化されます。
オフライン処理	サーバーに接続していないユーザーがトランザクションを入力し、後でサーバーに接続して、入力したトランザクションをアップロードできる処理モードです。
サブスクリイバ・テーブル	F98DRSUBテーブルを指します。このテーブルは、F98DRPUBテーブルとともにパブリッシャ・サーバーに置かれ、各パブリッシュ済テーブルに対するすべてのサブスクリイバ・マシンの識別に使用されます。
スーパークラス	クラスは何かのインスタンスであり、それをさらに詳細にしたものであるという、Java言語の継承についての概念です。たとえば、木は樅や榎のスーパークラスであるといえます。
補足データ	<p>マスター・テーブルで管理されないすべての情報を指します。通常、補足データとして、従業員、応募者、購買要求、職務(従業員の技能、取得学位、語学力など)に関する情報があります。補足データを使用することにより、実質的に組織で必要となるすべての情報を追跡管理できます。</p> <p>たとえば、標準のマスター・テーブル(住所録マスター、顧客マスター、仕入先マスター)とは別に、それらのテーブルでは管理されない情報を汎用データベースで管理します。汎用データベースを使用することで、JD Edwards EnterpriseOneシステム全体にわたって、標準的な方法で補足データの入力と管理を行うことができます。</p>
テーブル・アクセス管理(TAM)	ユーザー定義データの保存と取得を行うJD Edwards EnterpriseOneコンポーネントです。TAMには、データ辞書定義、アプリケーション/レポートのスペック、イベント・ルール、テーブル定義、ビジネス関数入力パラメータ、ライブラリ情報などの情報と、アプリケーション、レポート、ビジネス関数を実行するためのデータ構造体の定義が保存されます。
テーブル変換ディレクタ	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル変換	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル・イベント・ルール	データベース・トリガーに添付されるロジックで、トリガーに指定されたアクションがテーブルに対して発生した場合に起動します。JD Edwards EnterpriseOneでは、イベント・ルールをアプリケーションのイベントに添付できますが、この機能はアプリケーション固有になります。テーブル・イベント・ルールでは、テーブル・レベルで埋込みロジックを提供します。
ターミナル・サーバー	このサーバーを使用して、端末、マイクロコンピュータ、その他の機器を、ネットワーク/ホスト・コンピュータ、または特定のコンピュータに取り付けられたデバイスに接続できます。
3ステップ処理	JD Edwards EnterpriseOneでのバッチ・トランザクションの入力、検討と承認、転記、という3種類のタスクを指します。

3方向伝票照合	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、仕入先からの請求書と入荷情報を比較して伝票を作成するプロセスです。3方向照合では、入荷レコードに基づいて伝票を作成します。
トランザクション処理 (TP) モニター	ローカル端末およびリモート端末と、それらを設定したアプリケーションの間でのデータ交換を制御するモニター機能です。また、分散環境でのデータの整合性も確認します。TPモニターには、通常、データの検証と端末画面のフォーマットを行うプログラムが含まれます。
トランザクション処理方法	手動コミットのトランザクション境界の管理に関する方法です (開始、コミット、ロールバック、取消など)。
トランザクション・セット	複数のセグメントで構成されている電子的業務トランザクション (電子データ交換の標準ドキュメント) です。
トリガー	データ辞書項目ごとに定義される複数のイベントの1つです。イベントの発生時にシステム内で自動的に処理されるロジックをデータ辞書項目に添付できます。
トリガーイベント	特殊なアクションが必須であるか、または結果アクションが定義済の特定のワークフロー・イベントです。
2方向認証	クライアントとサーバーがSSL証明書を互いに提供することで相互に認証しあう認証メカニズムです。
2方向伝票照合	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、購買オーダーの明細行と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。入荷情報は記録されません。
ユーザー識別情報	ユーザーID、ロールまたは*publicです。
ユーザー一時変更のマージ	新規のユーザー一時変更レコードを、顧客が使用しているユーザー一時変更テーブルに追加する処理です。
値オブジェクト	データ構造がデータを渡すのと同様に入力/出力データを保持するソース・ファイルの特定のタイプです。値オブジェクトは、公開 (公開ビジネス・サービスで使用) か内部か、および入力か出力かを指定できます。値オブジェクトは、単純な要素および複雑な要素と、要素に対する付属情報から構成されます。
差異	JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメントでは、1つの設備で発生した収益と、その設備に関連して発生した費用の差を意味します。 JD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理とJD Edwards EnterpriseOne製造管理では、同じ品目に対する2つの原価計算方式の間に生じる差異を意味します。たとえば、凍結標準原価と現行原価の差として設計差異が生じます。凍結標準原価は原価要素テーブルから取得され、現行原価は資材、工程、間接費の各レートを使用して計算されます。
公開ビジネス・サービスのバージョン	既存の機能/インターフェイスを変更せずに、他の機能/インターフェイスを公開ビジネス・サービスに追加することです。
バージョン・リストのマージ	バージョン・リストのマージを実行すると、新規リリースで有効なオブジェクトについて、非XJDEおよび非ZJDEバージョンのスペックとその処理オプション・データが維持されます。
ビジュアル・アシスト	ユーザーが各コントロールに属する有効なデータを判別できるように、コントロールからトリガーを介して起動できるフォームです。
用語一時変更	特定のJD Edwards EnterpriseOneフォームやレポートに表示される、データ辞書項目の代替的なラベルです。
wchar_t	ワイド文字の内部タイプです。国際市場向けの移植可能プログラムの記述に使用します。

Webアプリケーション・サーバー	Webアプリケーションと、電子商取引に使用されているバックエンド・システムおよびデータベースとの間で、データ交換を可能にするWebサーバーです。
Webサーバー	ブラウザから送信されたリクエストに応じて、TCP/IPプロトコルを使用して情報を送信するサーバーです。Webサーバーでは、ブラウザからのリクエストに応じるだけでなく、アプリケーションやデータの格納など、通常のサーバーが行うあらゆるタスクを処理できます。どのコンピュータでも、サーバーソフトウェアをインストールし、インターネットに接続すれば、Webサーバーとして使用できます。
WSDL (Web Service Description Language)	ネットワーク・サービスを記述するXML形式です。
WSIL (Web Service Inspection Language)	使用可能なサービスのサイトの検出を支援するXML形式、および検出に関連する情報の作成方法を示す一連の規則です。
Webサービス・プロキシ基盤	WAS上でWebサービスを使用するためにビジネス・サービス・サーバー・アーティファクトに含める必要のある、Webサービス・プロキシの基盤となるクラスです。
Webサービス・ソフトコーディング・レコード	Webサービス・プロキシの構成に使用する値が記述されたXMLドキュメントです。このドキュメントは、エンドポイントを特定し、条件付きでセキュリティ情報を含みます。
Webサービス・ソフトコーディング・テンプレート	ソフトコーディングされたレコードの構造を提供するXMLドキュメントです。
WHERE句	データベース操作の対象となるレコードを指定する、データベース操作の一部です。
Windowsターミナル・サーバー	マルチ・ユーザー機能を持つサーバーで、単体ではWindowsソフトウェアを実行できない端末や最小限構成のコンピュータでも、このサーバーに接続することにより、Windowsアプリケーションを使用できます。すべてのクライアント処理は、Windowsターミナル・サーバーで集中的に実行されます。画面表示、キー入力、およびマウス操作のコマンドのみが、ネットワーク経由でクライアントの端末機器とターミナル・サーバー間で転送されます。
ウィザード	JDeveloperの拡張機能の1つで、一連のステップを順を追って説明します。
ワークベンチ	関連のあるプログラムのグループに対して、1つのエントリ・ポイントからアクセスすることを可能にするプログラムです。通常、ワークベンチからアクセスするプログラムは、大規模な業務プロセスに使用されています。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne給与計算サイクル・ワークベンチ (P07210) を使用して、給与の計算、支給レポートの印刷、給与レポートの作成、仕訳入力の作成、給与履歴の更新に使用されるすべてのプログラムにアクセスできます。JD Edwards EnterpriseOneには、サービス管理ワークベンチ (P90CD020)、ライン・スケジューリング・ワークベンチ (P3153)、計画ワークベンチ (P13700)、監査人ワークベンチ (P09E115)、給与計算サイクル・ワークベンチなどが用意されています。
作業日カレンダー	JD Edwards EnterpriseOne製造管理で、計画の作成に使用されるカレンダーです。このカレンダーには作業日のみが列挙されるので、実際に稼働可能な日数に基づいて構成と作業オーダーのスケジュールを設定できます。作業日カレンダーは、計画カレンダー、製造カレンダー、または製造現場カレンダーと呼ばれる場合もあります。
ワークフロー	ビジネス・プロセスの一部または全体の自動化を意味します。自動化されたプロセス (ワークフロー) では、ドキュメント、情報、タスクが、指定された手順に従ってユーザーからユーザーへ渡されます。
ワークグループ・サーバー	マスター・ネットワーク・サーバーからレプリケートされたデータのサブセットが通常置かれるサーバーです。ワークグループ・サーバーでは、アプリケーションやバッチ処理は実行されません。
XAPIイベント	システム・コールを使用してJD Edwards EnterpriseOneのトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求した

	サード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムを呼び出すサービスです。
XML CallObject	ビジネス関数の呼び出しを行うためのインタオペラビリティ機能です。
XMLディスパッチ	JD Edwards EnterpriseOneで応答として受信するすべてのXMLドキュメントに対して、単一のエントリ・ポイントを提供するインタオペラビリティ機能です。
XMLリスト	JD Edwards EnterpriseOneデータベース情報を、チャンク単位でリクエストおよび受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。
XMLサービス	JD Edwards EnterpriseOneシステムからイベントをリクエストし、別のJD Edwards EnterpriseOneシステムから応答を受信するためのインタオペラビリティ機能です。
XMLトランザクション	事前に定義されたトランザクション・タイプを使用して、JD Edwards EnterpriseOneにデータをリクエストしたり、JD Edwards EnterpriseOneからデータを受信するためのインタオペラビリティ機能です。XMLトランザクションでは、インターフェイス・テーブル機能が使用されます。
XMLトランザクション・サービス (XTS)	JD Edwards EnterpriseOneのフォーマットではないXMLドキュメントを、JD Edwards EnterpriseOneで処理可能なフォーマットに変換するサービスです。変換されたドキュメントに対する応答は、発信元(変換前)のXMLフォーマットに変換されます。
Zイベント	インターフェイス・テーブル機能を使用してJD Edwards EnterpriseOneトランザクションを取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求したサード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムに通知するサービスです。
Zテーブル	JD Edwards EnterpriseOne以外のデータを保存し、JD Edwards EnterpriseOne用に変換できるワークテーブルです。JD Edwards EnterpriseOneデータの取得にもZテーブルを使用できます。Zテーブルはインターフェイス・テーブルとも呼ばれます。
Zトランザクション	JD Edwards EnterpriseOneデータベースで更新できるよう、インターフェイス・テーブルで正しくフォーマットされたサード・パーティのデータです。

索引

- AAI, 参照: AAI(自動仕訳)
- AAI(自動仕訳)
 - 売上更新での使用 384
 - 概要 27
 - 勘定科目情報の検索 51
 - 受注管理 28
 - 請求書サイクル 370
 - 設定 29
 - 任意勘定科目設定コードの定義 50
- Customer Connection Webサイト xxvi
- IDコード(UCC 128) 94
- P4001Zプログラム 196
- P4004Zプログラム
 - 処理オプション 197
 - 用途 199
- P400511プログラム
 - 概要 406
 - 処理オプション 408
- P40051プログラム
 - 概要 403, 406
 - 処理オプション 411
- P4015プログラムの処理オプション 55
- P40205プログラム 32
- P4021プログラム
 - 処理オプション 275
 - 用途 280
- P40296プログラム 52
- P4074プログラムの処理オプション 270
- P40950プログラム 28, 29
- P4101Hプログラムの処理オプション 66
- P41020プログラム 105
- P41202プログラムの処理オプション 272
- P420111プログラム
 - 概要 263, 267
 - 処理オプション 265
 - 用途 266
- P42025プログラム
 - 処理オプション 233
 - 返品承認 406
- P42040プログラム
 - 処理オプション 295
 - 用途 297
- P4205プログラム
 - 処理オプション 312
 - 用途 334
- P42090プログラム
 - 概要 59
 - 前払 61
 - 用途 62
- P42101プログラム
 - 概要 128
 - 処理オプション 218
 - 見出し情報 217
 - 明細情報 217
- P4210プログラム
 - 概要 128
 - 処理オプション 137
 - 見出し情報 130
 - 明細情報 131
- P42117プログラム
 - 概要 254
 - 処理オプション 255
- P4220プログラム
 - 概要 305
 - 処理オプション 306
- P42230プログラム
 - 概要 291
 - 処理オプション 293
- P42290プログラムの処理オプション 284
- P42430プログラム 85
- P42440プログラムの処理オプション 89
- P43070プログラム
 - 概要 249
 - 処理オプション 250
- P4915プログラム
 - 概要 329
 - 処理オプション 330
- PeopleCodeの表記規則 xxviii
- R004201プログラム
 - 実行 339
 - 処理オプション 339
- R004202プログラム
 - 概要 342
 - 実行 343
 - 処理オプション 343
- R004203プログラム
 - 概要 467
 - 処理オプション 468
 - 用途 468
- R4001ZPプログラム 400

R400502プログラム		処理オプション	325
実行	414	R42535プログラム	
処理オプション	414	実行	328
R400510プログラム		処理オプション	327
実行	415	R42542プログラム	
処理オプション	415	概要	248
R40211Zプログラム		処理オプション	248
実行	201	R42550プログラム	
処理オプション	200	概要	253
R40400プログラム		処理オプション	252
実行	462	R42565プログラム	355
処理オプション	461	実行	368
R410601プログラム		処理オプション	361
実行	354	R42600プログラム	
処理オプション	353	概要	467
R41816プログラム		処理オプション	469
実行	351	用途	469
処理オプション	350	R42611プログラム	
R41830プログラム		概要	467
実行	347	処理オプション	470
処理オプション	346	用途	470
R4201Pプログラム		R42620プログラム	
処理オプション	401	概要	468
用途	401	処理オプション	471
R4210Zプログラム		用途	470
実行	211	R42632プログラム	471
処理オプション	210	概要	468
R42118プログラム		R42640プログラム	
概要	254	概要	340, 468
処理オプション	260	用途	471
用途	259	R42800プログラム	
R4211Z1Pプログラム	402	AAI(自動仕訳)	384
R42420プログラム		概要	380, 383
処理オプション	402	事前設定	386
用途	402	実行	395
R42441プログラム		処理オプション	386
実行	91	R42810プログラム	
処理オプション	90	処理オプション	395
R42442プログラム		レポートの検討	396
実行	90	R42815プログラム	
処理オプション	90	実行	58
用途	88	処理オプション	57
R42500プログラム		R42950プログラム	
実行	324	実行	350
処理オプション	324	処理オプション	348
R42520プログラム		R42960プログラム	
実行	303	概要	400
処理オプション	299	実行	400
R42530プログラム		R42995プログラム	
実行	327	実行	399

処理オプション 398
 R42996プログラム
 実行 402
 処理オプション 401
 R49700プログラム
 実行 376
 処理オプション 375
 R8903012Eプログラム
 実行 85
 処理オプション 84
 RGA, 参照: 返品承認
 RMA, 参照: 返品承認
 UCC 128
 IDコード 94
 階層構成の図 99
 階層構成の設定 98
 概要 93
 自重と梱包情報 310
 出荷 329
 出荷コンテナ・コード 95
 出荷準備 329
 出荷情報 334
 出荷処理 329
 出荷処理の事前設定 330
 準拠手順について 93
 シリアル出荷コンテナ・コード 95
 統一商品コード 94
 パッケージ・インディケータ 104
 バーコード・ラベル 96
 品目情報 104
 品目情報の事前設定 105
 品目情報の設定 105
 複合SCC 105
 UCC 128処理における品目情報
 概要 104
 事前設定 105
 設定 105
 パッケージ・インディケータ 104
 複合SCC 105
 UDC, 参照: ユーザー定義コード

あ

アップセル価格 181
 アップセル通知
 カスタマ・サービス担当者用の有効
 化 226
 有効化 180
 アップセルの通知
 カスタマ・サービス担当者用の有効
 化 226

有効化 180
 「アプリケーション固定情報」フォーム 23
 アプリケーションの基礎 xxv
 粗利益チェック
 保留コードに関連する実行 60
 リリース 340

い

一括オーダー
 キット 189
 事前設定 241
 説明 231, 240
 入力 240
 リリース 263, 266
 「一括オーダーの改訂」フォーム 266,
 268
 一括オーダーのリリース 263
 一括オーダー・リリース・プログラム
 (P420111)
 概要 263
 処理オプション 265
 一括バッチ処理 207
 一括バッチ処理の図 207
 一般会計の統合 4

う

売上更新プログラム(R42800)
 AAI(自動仕訳) 384
 概要 380, 383
 事前設定 386
 実行 395
 処理オプション 386
 売上情報
 更新 395
 対話型バージョンを使用した更新 383
 バージョンの選択 381
 売上仕訳 396
 売上仕訳およびレポート 395
 売上仕訳の印刷プログラム(R42810)
 処理オプション 395
 レポートの検討 396
 売上高総利益率価格設定優先情
 報 430
 売上分析集計プログラム(R42611)
 概要 467
 処理オプション 470
 用途 470
 売上分析集計レポート 470
 売掛管理の統合 3

運送業者の優先情報 425
 運賃情報 79
 運賃優先情報 429

え

エラー・メッセージの転記 379
 延長期限優先情報 429

お

オプションおよび設備の優先情報 434
 オフライン
 オーダー作成 205
 オーダーの入力 210
 事前設定 209
 処理 197
 処理図 201
 処理の概要 201
 「オフライン処理オーダー照会」フォー
 ム 210
 「オフライン処理オーダーの改訂」フォー
 ム 199
 オンライン請求書 291
 オンライン請求書照会プログラム
 (P42230)
 概要 291
 処理オプション 293
 「オーダー改訂履歴」フォーム 186
 オーダー行タイプ
 概要 31
 設定 32
 設定の概要 31
 非在庫品目用の割当 32
 メッセージの追加 31
 オーダー行タイプ・プログラム
 (P40205) 32
 オーダー住所の一時変更 134
 オーダー準備日数優先情報 434
 オーダー状況レポート 471
 「オーダー承認」フォーム 184
 オーダー処理 39
 オーダー処理規則
 概要 35
 事前設定 35
 状況コードの更新 295
 状況コードの割当 35
 設定 36
 「オーダー処理規則の改訂」フォーム 36
 オーダー・テンプレート
 概要 54

更新 55

処理 54

標準の作成 55

「オーダー・テンプレートの改訂」フォー
 ム 56

「オーダー・テンプレート」フォーム 176

オーダー入力

 テンプレートの使用 175

 見出し情報 130

 明細情報 131

オーダーの省略 397

オーダーのバッチ入力プログラム
 (P4001Z) 196

オーダーのリリース 247

オーダー保留 247

 事前設定 247, 250

オーダー保留コード

 粗利益チェックの実行 60

 オーダー入力時の割当 61

 顧客請求指示への割当 62

 最小および最大オーダー金額の設
 定 59

 設定 62

 定義 59, 338

 非アクティブな顧客のチェック 59

 部分保留の実行 60

 前払に関する定義 61

 与信チェックの実行 59

 割当 61

「オーダー保留情報」フォーム 62

「オーダー見出しの改訂」フォーム 222

か

会社間オーダー

 概要 244

 事前設定 246

 図 244

 請求書の印刷 357

 説明 232

 トランザクションの更新 383

階層構成

 UCC 128処理の設定 98

 図 99

 設定 98, 100

「階層構成定義の改訂」フォーム 100

価格および在庫状況情報

 検索 271, 274

 検討 271

価格グループ

 関係 121

- 関係の生成 118, 121
- 事前設定 118
- 複合 117
- 価格計算図 107
- 価格再設定
 - 既存レコードのクリア 172
 - 顧客価格の更新 347
- 価格設定
 - 階層 110
 - 価格再設定 347
 - 価格レベルの換算 350
 - キット 189
 - 基本 345, 346
 - 基本価格 109
 - 事業所間販売価格割増の設定 46
 - 受注管理システムの価格設定の概要 107
 - 調整前に既存レコードをクリアする 172
 - 標準価格調整 121
 - 変更 345
 - 優先情報 436
- 価格設定階層
 - 事前設定 111
 - 設定 113
 - 定義 110
- 「価格設定規則の処理」フォーム 125, 126
- 価格設定単位優先情報 436
- 価格設定優先情報
 - 粗利益 430
 - 延長期限 429
 - 価格設定単位 436
 - 価格調整スケジュール 435
- 価格ゼロ 134
- 価格調整スケジュール優先情報 435
- 価格/引当可能数量の照会プログラム (P4074) の処理オプション 270
- 「価格/引当可能数量の処理」フォーム 271
- 価格履歴
 - アップセル価格 181
 - アップセルの通知 180, 226
- 価格レベルの換算 350
- 隔週請求 369
- カスタマ・サービス担当者用のオーダー入力
 - テンプレートの使用 224
 - 見出し情報 217
 - 明細情報 217
- カスタマ・サービス担当者用の監査ログと承認プロセス 228
- カスタマ・サービス担当者用の受注オーダー
 - 概要 215
 - キット 229
 - コンフィギュレーション品目 229
 - 事前設定 216
 - 代替品目 225
 - テンプレート 224
 - 見出し情報 217
 - 明細情報 217
- カスタマ・サービス担当者用の受注オーダーのコピー 223
- カスタマ・サービス担当者用の受注オーダーの複製 223
- カスタマ・サービス担当者用の明細情報 217
- カスタマ・セルフサービス
 - 概要 64, 135
 - 事前設定 65
 - 処理オプションのアクティブ化 65
- カスタマ・セルフサービスでのオーダー入力 135
- カスタム優先タイプ 425
- 仮定通貨
 - 受注オーダーの検討 281
 - 請求書用 356
- カテゴリ・コード
 - 顧客グループ 117
 - 品目グループ 118
- 監査ログ
 - 概要 185
 - カスタマ・サービス担当者の概要 228
 - 検討 186
 - 事前設定 186
 - トランザクションの除去 402
- 監査ログの除去プログラム (R42420)
 - 処理オプション 402
 - 用途 402
- 勘定科目情報
 - 設定 29
 - 伝票のAAIの検索 51
- 「勘定科目の改訂」フォーム 29
- 関連住所
 - 概要 70, 130
 - 事前設定 71
 - 設定 70, 72
 - 入力 70

関連する受注オーダーと購買オーダー
（整合性の維持） 238
関連ドキュメンテーション xxvi
「関連販売担当者の改訂」フォーム 45
関連品目
概要 177
カスタマ・サービス担当者の概要 225
カスタマ・サービス担当者用の入
力 225
事前設定 178
受注オーダーへの入力 177
相互参照の設定 177, 225
入力 178

き

基準日請求 369
「既存オーダーの管理」フォーム 224,
284
キット
一括オーダー 189
運賃計算の制約 190
親品目の在庫 190
オーダーの入力 194
概要 187
価格設定 189
カスタマ・サービス担当者の概要 229
構成品 188
作業オーダー 190
事前設定 193
制約 190
転送オーダーの制約 236
入力 187
品目相互参照 189
部分オーダー数量の確認 307
見積オーダー 189
例 188
「キット選択」フォーム 194
キットの品目相互参照 189
基本価格
更新 109
更新の概要 345
設定 116
取込み 132
基本価格設定
概要 114, 345
価格グループ関係 121
価格レベルの換算 350
更新 109, 345
構造 109
事前設定 115

将来価格の作成 346
複数価格の変更 345
優先階層 110
基本価格の一括更新プログラム(R41830)
実行 347
処理オプション 346
「基本価格の改訂」フォーム 116
基本優先情報
概要 418
詳細優先情報との違い 418
処理 419
設定 445
例 419
業種優先情報 433
共通フィールド xxx, xxxiv
行デフォルト情報(出荷確認) 323

く

クレジット・オーダー
オーダー保留のリリース 340
概要 232
事前設定 233
自動入力 233
受注オーダー入力プログラムのバー
ジョン作成 232
説明 231
入力 232
履歴から入力 234
クレジット・カード承認 338
クレジット・カード取引
概要 338
承認 338
クレジット・メモ
概要 406
入力 406
クロス・ドッキング情報 170
グローバル導入の手順 5

け

計画請求書日付の計算例 369
「計画請求書日付」フォーム 373
警告 xxix
計算ルール 369
契約価格設定 122
契約(受注オーダーへの割当) 133
月末請求 369
原価ゼロ 134
限度額の換算
丸め 83

例 83

こ

ご意見 xxx

購買オーダー

受注オーダーの整合性の維持 238

直送オーダー 237

購買セグメント

コードの更新 88

事前設定 89

購買セグメント・コード 90

購買セグメント・コードの更新プログラム
(R42442)

実行 90

処理オプション 90

用途 88

顧客

価格グループへの割当 120

価格設定規則の割当 126

グループへの割当 457

購買セグメント・コードの割当 88, 90

顧客価格グループの割当 112

セルフサービスの設定 64

優先グループへの割当 457

顧客売上の更新 380

エラーに関する電子メールの確
認 383

仕訳バッチ 378

テスト・モードまたは最終モードの選
択 382

顧客売上の更新プログラム(R42800)

概要 380

処理オプション 386

顧客運賃の優先情報 426

顧客価格グループ

概要 109, 117

関係の生成 121

「顧客価格グループ定義」フォーム 119

「顧客価格設定規則」フォーム 123

顧客価格の更新 347

顧客勘定情報

概要 280

検討 283

顧客グループ

価格設定規則の割当 126

事前設定 458

「顧客グループの改訂」フォーム 458

顧客情報 69

顧客請求指示

オーダー保留コードの割当 62

概要 75

事前設定 75

税情報の設定 75

設定 76

与信情報の設定 75

顧客セグメント品目

作成 89

受注オーダーへの追加 179, 180

顧客セグメント品目の作成プログラム
(R42441)

実行 91

処理オプション 90

「顧客セグメント品目」フォーム 180

顧客セグメント品目プログラム(P983051)
の処理オプション 89

顧客セグメント・ベース販売

概要 88, 179

顧客セグメント品目の作成 89

顧客へのコードの割当 88

事前設定 179

受注オーダーへの品目の追加 179

説明 70

「顧客セットの改訂」フォーム 86

顧客セット(日付基準) 85

顧客セット・プログラム(P42430) 85

顧客通貨の換算 83

顧客通貨優先情報 426

顧客テンプレートの改訂プログラム
(P4015)の処理オプション 55

顧客別受注残レポート・プログラム
(R42620)

概要 468

処理オプション 471

用途 470

「顧客マスター・コミッションの検索」フォー
ム 81

「顧客マスターの改訂」フォーム 73, 82,
103

顧客与信情報 130

顧客履歴テンプレートの再作成プログ
ラム(R42815)

実行 58

処理オプション 57

固定情報

在庫状況 12

システム 12

事前設定 13

バッチ制御 12

保管場所制御 13

保管場所フォーマット 13

異なる通貨による基本価格

概要 352

データ選択の設定 353

例 352

コミッション

事前設定 42, 285

フレックス販売 133

フレックス販売の定義 41

見越しの検討 287

割当 41

コミッション固定情報

設定 43

追加情報の計算 42

「コミッション固定情報の改訂」フォーム 43

コミッション情報

概要 285

設定の概要 41

入力 81, 133

割当 41

コミッション割当 41

ご要望 xxx

コンフィギュレーション品目

概要 193

カスタマ・サービス担当者の概要 229

部分オーダー数量の確認 307

コンフィギュレーション品目オーダー

概要 193

入力 195

「コンフィギュレーション品目〈品目番号
- 記述〉」フォーム 195

さ

サイクル請求

事前設定 375

実行 373

仕訳 374

請求済オーダー行と未請求のオー
ダー行 375

トランザクション・レポートの確認 375

サイクル請求プログラム(R49700)

実行 376

処理オプション 375

在庫価格設定規則

概要 122

設定 125

在庫管理の統合 4

在庫状況

概要 12

設定 19

「在庫状況の処理」フォーム 274

在庫状況プログラム(P41202)の処理オ
プション 272

在庫引当優先情報

概要 431

技術上の考慮事項 432

補充パーセント値の指定 431

例 432

最終用途優先情報 429

サブシステム処理

カスタマ・サービス担当者用の受注

オーダー入力の有効化 227

受注オーダー入力の概要 135

有効化 135

し

仕入先通貨の換算 83

「事業所間移動による割増の改訂」フォー
ム 47

事業所間オーダー

売上情報の更新 383

オーダー入力 245

概要 244

事業所間販売価格割増の設定 46

システム更新 383

事前設定 246

出荷確認の入力 245

図 244

デフォルト情報 245

トランザクションの更新 383

入力 245, 246

バッチ・タイプ 383

事業所間オーダーのデフォルト情
報 245

事業所間販売価格割増

概要 46

設定 47

事業所固定情報

概要 12

設定 14

「事業所固定情報」フォーム 14

「事業所保管場所の定義」フォーム 24

試験結果(出荷品目の確認) 310

自重と梱包情報 310

システム固定情報

概要 12

設定 20

「システム固定情報」フォーム 20

システム設定

概要 9

- 固定情報 12
- 受注管理の設定 9
- ユーザー定義コードの定義 10
- 事前設定
 - UCC 128処理 105
 - UCC 128処理の出荷 330
 - 一括オーダー 241
 - 売上の更新 386
 - オフライン 209
 - オーダー処理規則 35
 - オーダー保留 247, 250
 - 会社間オーダー 246
 - 価格グループ 118
 - 価格設定階層 111
 - カスタマ・サービス担当者用の受注
オーダー 216
 - カスタマ・セルフサービス 65
 - 監査ログ 186
 - 関連住所 71
 - 関連品目 178
 - キット 193
 - 基本価格設定 115
 - クレジット・オーダー 233
 - 購買セグメント 89
 - 顧客グループと品目グループ 458
 - 顧客請求指示 75
 - 顧客セグメント・ベース販売 179
 - 固定情報 13
 - コミッション 42, 285
 - サイクル請求 375
 - 事業所間オーダー 246
 - 受注オーダー 129
 - 受注オーダー入力 135
 - 受注オーダーのコピー 172
 - 出荷確認 311
 - 出荷伝票の印刷 325
 - 状況コード 295
 - 承認プロセス 186
 - 代替品目 178
 - 直送オーダー 239
 - 転送オーダー 236
 - テンプレート 55
 - テンプレートを使用した受注オー
ダー 176
 - データの除去 400
 - 任意勘定科目設定コード 51
 - 配送票 282
 - 販売促進品目 178
 - 販売高アップセル 181
 - 販売明細実績 282
 - 日付基準顧客セット 86
 - 標準価格設定 122
 - 標準請求書 361
 - 品目情報 270
 - 返品承認 407
 - 前払 336
 - マトリックス品目 212
 - 見積オーダー 243
 - 優先情報 461
 - 与信チェック 282
 - 自動生成クレジット・オーダー 233
 - 自動生成テンプレート 58
 - 支払条件(事業所)優先情報 435
 - 支払条件優先情報 435
 - 収益ビジネスユニット(事業所)優先情報
概要 440
 - 例 440
 - 収益ビジネスユニット優先情報
概要 440
 - 例 440
 - 週次請求 369
 - 住所録換算 - F03012プログラム
(R8903012E)
実行 85
 - 処理オプション 84
 - 「住所録の改訂」フォーム 72
 - 住所録の統合 4
 - 出荷確認バッチ・アプリケーション・プロ
グラム(R42500)
概要 311
 - 実行 324
 - 処理オプション 324
 - 受注一括オーダー・リリース・プログラム
(P420111)
処理オプション 265
 - 用途 266
 - 受注オーダー
売上情報の更新 380, 381, 382
 - 概要 127
 - 価格設定 107
 - キット 187
 - 検討 281, 284
 - 購買オーダーの整合性の維持 238
 - 顧客勘定情報 289
 - 顧客勘定情報の検討 280
 - 顧客セグメント品目の追加 180
 - コピー 173, 223, 224
 - コミッション情報の検討 286
 - コミッション情報の入力 131
 - コンフィギュレーション品目 193

- 再転記 396
- 再引当 398
- サーバーへのアップロード 205, 210
- 事前設定 129
- 事前設定(コピー) 172
- 出荷の確認 306
- 出荷の作成 329
- 将来オーダーの再引当 397
- 省略 397
- 処理 290
- 処理中受注オーダーの復元 397
- 請求書 355
- 請求情報 289, 291, 292
- 代替品目 177
- タイプ 196
- 調整前に既存レコードをクリアする 172
- 定期 196, 197
- テンプレートの使用 175, 224
- テンプレートを使用した入力 176
- テーブルの更新 128
- トランザクションの除去 402
- 日次締め処理 377
- バッチ修正 211
- バッチ処理 211
- バッチ・モード 196, 197
- ピッキング・リスト 297
- 品目情報 289
- 品目情報の検索 274
- 品目情報の検討 271, 274
- プログラム 128
- 保留 248
- 保留オーダーのリリース 252, 340
- マトリックス品目 212
- マトリックス品目の入力 212
- 見出し情報 128, 130
- 明細情報 128, 131
- 受注オーダー価格/原価のバッチ更新プログラム(R42950)
 - 実行 350
 - 処理オプション 348
- 受注オーダー情報
 - 検討 281
 - 更新 171
 - コピー 171
 - コピーの事前設定 172
- 受注オーダー処理 290
- 受注オーダー入力
 - 概要 127
 - 事前設定 135
 - 前払情報の利用 339
- 「受注オーダー入力 - 追加情報」フォーム 170
- 受注オーダー入力プログラム(P4210)
 - 処理オプション 137
 - 見出し情報 130
 - 明細情報 131
- 受注オーダー入力プログラム(P42101)
 - 処理オプション 218
 - 見出し情報 217
 - 明細情報 217
- 受注オーダーのコミッション情報 286
- 受注オーダー品目情報
 - カスタマ・サービス担当者用の入力 222
 - 入力 167
- 受注オーダー見出し(F4201)の除去プログラム(R4201P)
 - 処理オプション 401
 - 用途 401
- 受注オーダー見出し情報
 - カスタマ・サービス担当者用の入力 222
 - 除去 401
 - 処理 130
 - 入力 165
- 「受注オーダー見出し」フォーム 165
- 受注オーダー明細情報 131
- 「受注オーダー明細の改訂」フォーム 167, 169
- 受注管理
 - 概要 1
 - 統合 3
 - 導入手順 5, 6
 - ビジネス・プロセス 2
 - プロセス・フロー 2
- 受注管理のプロセス・フロー 2
- 「受注残/完了オーダー照会」フォーム 284
- 「受注状況スピード更新の追加選択」フォーム 297
- 受注情報の更新
 - 概要 380
 - 更新エラーに関する電子メールの確認 383
 - 仕訳 378
 - テスト・モードまたは最終モードの選択 382
 - バッチ 378

受注トランザクションレコードの除去プログラム(R4211Z1P) 402
 「受注見出しコミッションの検索」フォーム 286
 「受注見出しの処理」フォーム 173
 「受注明細コミッションの検索」フォーム 286
 出荷
 UCC 128に従った処理 329
 確認 306
 関連伝票 324
 出荷確認
 事前設定 311
 その他の処理 308
 出荷確認時のその他のオーダー処理 308
 「出荷確認」フォーム 323
 出荷確認プログラム(P4205)
 処理オプション 312
 用途 323, 334
 出荷コンテナ・コード
 構造 95
 バーコード・ラベル 97
 複合の設定 105
 出荷、梱包、およびUCC 128出荷の情報の入力 334
 出荷、梱包、およびUCC 128出荷の入力 334
 出荷昇順日付 308
 出荷情報
 設定 103
 伝票印刷の事前設定 325
 伝票の印刷 324
 ラベル 101
 「出荷情報の改訂」フォーム 334
 出荷処理(UCC 128の事前設定) 330
 出荷の確認
 概要 306
 関連伝票の印刷 324
 試験結果 310
 追加の非在庫行品目 323
 バッチ 311
 出荷の処理プログラム(P4915)
 概要 329
 処理オプション 330
 出荷品目(試験結果の確認) 310
 需要/供給照会プログラム(P4021)
 処理オプション 275
 用途 280
 「需要/供給の処理」フォーム 280

需要と供給
 概要 269
 情報の検討 280
 状況コード
 概要 295
 更新 295, 297
 事前設定 295
 出荷の確認 306
 請求書 355
 状況コード更新プログラム(P42040) 297
 処理オプション 295
 用途 297
 詳細優先情報
 概要 420, 452
 基本優先情報との違い 418
 処理 453
 スケジュール 453
 設定 452
 タイプ 453
 明細 453
 承認プロセス
 概要 185
 事前設定 186
 将来価格の作成 346
 将来受注オーダーの再引当 397
 処理中受注オーダーの再転記プログラム(R42995)
 実行 399
 処理オプション 398
 処理中受注オーダーの復元 397
 シリアル出荷コンテナ・コード
 構造 95
 バーコード・ラベル 97
 シリアル番号
 確認時の情報入力 310
 事業所用の設定 305
 受注オーダー入力時の入力 304
 出荷確認時の処理 323
 出荷確認時の入力 305
 処理の概要 303
 処理要件 132
 入荷確認時のアクセス 304
 品目を最初に入力するときの入力 304
 流通管理システムでの処理 304
 シリアル番号照会プログラム(P4220)
 概要 305
 処理オプション 306
 仕訳
 売上情報の更新 378

検討 378
 検討/承認 378
 サイクル請求と非サイクル請求 374
 転記 379
 転記の確認 379
 バッチ 378
 仕訳の転記 379
 「新規オーダーの入力」フォーム 222,
 223

す

数量情報の検索 274

せ

請求先住所の定義 73
 請求書
 オンライン 291
 概要 355
 仮定通貨 356
 関連住所の設定 70
 合計 356
 集計 356
 請求書住所の設定 71
 税情報 357
 デフォルト住所タイプの設定 71
 標準の印刷 356
 請求書印刷プログラム(R42565)
 概要 355
 実行 368
 処理オプション 361
 請求情報
 オンライン請求書の検討 291
 注文承認書の印刷 292
 「請求情報」フォーム 74, 76, 79, 90,
 112, 120, 126
 請求書サイクル
 AAI(自動仕訳)の設定 370
 設定 368
 優先情報 369
 優先情報の作成 371
 ユーザー定義コードの設定 370
 請求書サイクル計算ルール 369
 「請求書サイクル計算ルール」フォー
 ム 371
 請求書仕訳 395
 請求書日付範囲 373
 請求書の設定
 計画日付の計算 369
 請求書サイクル計算ルール 369

税情報
 概要 75
 請求書 357
 変更 132
 製品階層
 設定 67
 セルフサービス・オーダー 65
 「製品階層の改訂」フォーム 67
 製品ガイド
 注文 xxvi
 製品割当(事業所)優先情報
 概要 438
 技術上の考慮事項 439
 製品割当優先情報
 概要 437
 技術上の考慮事項 437
 セグメント・コード(顧客への割当) 88
 設定
 AAI(自動仕訳) 27
 オーダー行タイプ 31
 オーダー処理規則 35
 オーダー・テンプレート 54
 オーダー保留 58
 価格設定 107
 顧客情報 69
 顧客請求指示 75
 コミッション 41
 コミッション固定情報 42
 事業所間販売価格割増 46
 任意勘定科目設定コード 48, 52
 セルフサービスの設定
 受注管理での設定 64
 製品階層 65
 セキュリティ問題への対応 64
 前提知識 xxv

そ

総勘定元帳への転記 379
 相互参照 xxix

た

代替品目
 概要 177
 カスタマ・サービス担当者の概要 225
 カスタマ・サービス担当者用の入
 力 225
 事前設定 178
 相互参照の設定 177, 225
 入力 178

「代替/補足品目」フォーム 178
多通貨処理 128

ち

注意 xxix
注意事項 xxix
注文承認書 292
注文承認書の印刷 292, 294
調達管理の統合 4
直送オーダー
 キットの制約 190
 事前設定 239
 説明 231, 237
 伝票照合の実行 239
 入金入力 239

つ

追加ドキュメンテーション xxvi
通貨別基本価格の生成プログラム
 (R410601)
 実行 354
 処理オプション 353
次のオーダー状況優先情報 433
積荷確認と配送確認 309

て

提案 129
定期オーダー
 手動入力 196
 処理 201
「定期オーダー情報」フォーム 199
定期オーダーの編集/作成プログラム
 (R40211Z)
 実行 201
 処理オプション 200
定期オーダー・プログラム(P4004Z)
 処理オプション 197
 用途 199
定期受注オーダー
 概要 197
 情報の入力 199
 入力 196, 199
テキスト行
 終了行の除去 400
 処理中の行の除去 400
テキスト行タイプ 31
テキスト行の終了プログラム(R42960)
 概要 400
 実行 400

デフォルト行情報
 カスタマ・サービス担当者用の入
 力 223
 入力 133, 169
デフォルト住所タイプ
 概要 71
 定義 71, 74
手持在庫
 更新 382
 出荷確認時の更新 309
電子メール・メッセージ
 売上更新エラーの確認 383
 エラーやその他のメッセージの送
 信 379
転送オーダー
 キットの制約 190, 236
 事前設定 236
 出荷確認における積送中積荷の会計
 処理 308
 出荷の確認 308
 説明 231, 236
 入力 237
「転送オーダー - 受注オーダー明細の
改訂」フォーム 237
転送オーダーにおける積送中積荷の会
計処理 308
伝票セットの優先情報
 概要 428
 例 428
テンプレート
 カスタマ・サービス担当者用 224
 更新 55
 事前設定 55
 自動生成 58, 402
 受注オーダーの入力 175, 176
 標準の作成 55, 56
テンプレートを使用した受注オーダー
 事前設定 176
 入力 175
データ
 終了テキスト行の除去 400
 除去 400
 処理中のオーダー行の除去 400
データの除去 400
 事前設定 400
 受注オーダー見出し 401
 受注オーダー明細の履歴への移
 行 402
 バッチ・オーダー・ファイル 400

と

- 統一商品コード
 - 構造 94
 - バーコード・ラベル 96
- 等級および濃度の優先情報 430
- 統合
 - 一般会計 4
 - 売掛管理 3
 - 概要 3
 - 在庫管理 4
 - 住所録 4
 - 調達管理 4
 - バルク在庫管理 4
 - 輸送管理 4
- 導入手順
 - グローバル 5
 - 受注管理 6
- ドキュメンテーション
 - 関連 xxvi
 - 最新版 xxvi
 - ダウンロード xxvi
- ドキュメンテーションのダウンロード xxvi
- 特殊な除去 400
- 特殊な除去の実行 400
- トランザクション処理 290
- 取引状況
 - 検討 468
 - 手作業による更新 341
- 取引値引
 - 概要 122
 - 設定 126

に

- 日次締め処理
 - 売上情報の更新 380
 - 売上仕訳およびレポートの検討 395
 - 概要 377
 - サイクル請求の実行 373
 - テーブルの更新 380
- 日次請求 369
- 「任意売上勘定科目の改訂」フォー
ム 52
- 任意売上勘定科目の処理プログラム
(P40296) 52
- 任意勘定科目設定コード
 - 概要 48
 - 事前設定 51
 - 上級価格設定AAI(自動仕訳)の定
義 50

- 図 49
- 定義 48
- 伝票のAAIの定義 50
- ビジネスユニットの検索 51
- 補助勘定科目の検索 51
- 補助元帳の検索 51
- 例 49

の

- 納期回答
 - 概要 182
 - カスタマ・サービス担当者の概要 227
 - 提案納期の生成 182
 - 提案の設定 182
 - ユーザー定義コード 183
- 納期の優先情報
 - 概要 426
 - 例 427, 434

は

- 配送経路オプション 329
- 配送情報 79
- 配送票
 - 印刷 325, 328
 - 事前設定 282
- 配送票印刷プログラム(R42535)
 - 実行 328
 - 処理オプション 327
- 配送票照会プログラム(P42290)の処理
オプション 284
- バックオーダーのバッチ・リリース 254
- バックオーダーのバッチ・リリース・プロ
グラム(R42118)
 - 概要 254
 - 処理オプション 260
- バックオーダー・リリース
オンライン 259
 - 概要 254
 - バッチ 254
 - バッチ・リリース 263
- バックオーダー・リリース(オンライン)プ
ログラム(P42117)
 - 概要 254
 - 処理オプション 255
- バックオーダー・リリース/レポート・プロ
グラム(R42118)
 - 処理オプション 260
 - 用途 259
- バッチ・オーダー

処理 197
 定期受注用 196
 バッチ受注オーダー
 修正 211
 修正の概要 207
 処理 197, 211
 処理の概要 206
 バッチ制御固定情報
 概要 12
 設定 23
 バッチ・タイプ
 事業所間オーダー 383
 例 384
 バッチ入荷確認の除去 400
 バッチ入荷確認ファイルの除去プログラム
 (R4001ZP) 400
 バッチ編集/作成プログラム(R4210Z)
 実行 211
 処理オプション 210
 バルク在庫管理の統合 4
 バルク在庫情報 383
 半月ごとの請求 369
 販売価格基準日優先情報 441
 販売価格レベルの変換 350
 販売グループ
 グループ内の変動コミッションの設
 定 45
 設定 45
 追加コミッション情報の計算 42
 販売コミッション優先情報 441
 販売促進品目
 概要 177
 カスタマ・サービス担当者の概要 225
 カスタマ・サービス担当者用の入
 力 225
 事前設定 178
 受注オーダーへの入力 177
 入力 178
 販売高アップセル
 価格の作成 181
 カスタマ・サービス担当者への通知の
 有効化 226
 事前設定 181
 通知の有効化 180
 販売高アップセルの通知
 カスタマ・サービス担当者用の有効
 化 226
 有効化 180
 販売提案 129
 販売明細実績

事前設定 282
 情報 281
 販売明細履歴レポート
 概要 281
 生成 469
 「販売履歴照会の処理」フォーム 234
 販売履歴照会プログラム(P42025)
 処理オプション 233
 返品承認 406
 販売履歴レポート 469
 販売履歴レポート・プログラム(R42600)
 概要 467
 処理オプション 469
 用途 469

ひ

非アクティブな顧客(オーダー保留コー
 ドのチェック) 59
 引当
 在庫引当優先情報 431
 等級および濃度の優先情報の利
 用 430
 引当可能数量計算 275
 「引当可能数量詳細」フォーム 275
 非サイクル請求仕訳 374
 非在庫行タイプ 32
 非在庫品目 32
 ビジネス・プロセス 2
 ビジネスユニット(任意勘定科目設定コー
 ドの検索) 51
 ピッキング伝票
 概要 297
 ピッキング・リスト 297
 ピッキング・リストの印刷 303
 ピッキング・リストの印刷プログラム
 (R42520)
 実行 303
 処理オプション 299
 日付基準顧客セット
 概要 85
 事前設定 86
 設定 86
 表記規則 xxviii
 標準価格設定
 事前設定 122
 調整の概要 121
 調整の設定 123
 標準請求書
 概要 356
 事前設定 361

標準請求書の印刷 356
 標準テンプレート 56
 品質管理優先情報 439
 品目
 関連 177, 225
 旧 225
 グループへの割当 457
 コンフィギュレーション品目 193
 相互参照の設定 177, 225
 代替 177, 225
 販促 177, 225
 品目価格グループの割当 113
 品目グループへの割当 120
 品目階層プログラム(P4101H)の処理
 オプション 66
 品目価格グループ
 概要 110, 118
 関係の生成 121
 「品目価格グループの定義」フォー
 ム 120
 品目グループ
 事前設定 458
 「品目グループ優先情報の改訂」フォー
 ム 459
 「品目/事業所情報」フォーム 113, 120
 品目情報 132
 UCC 128処理 104
 概要 269
 基本価格の設定 114
 検討 271, 274
 顧客別受注残レポートの作成 470
 事前設定 270
 品目別受注残レポートの作成 471
 品目制約 81
 「品目制約の改訂」フォーム 81
 品目販売価格レベルの換算プログラム
 (R41816)
 実行 351
 処理オプション 350
 品目別受注残の印刷プログラム
 (R42632) 471
 品目別受注残レポートの印刷プログラ
 ム(R42632)
 概要 468
 品目マスター管理 - UCC 128プログラ
 ム(P41020) 105

ふ

複合価格グループ

概要 117
 設定 119
 複合品目価格グループ
 概要 118
 設定 120
 複数の入出荷保管場所優先情報 433
 船荷証券
 印刷 324, 327
 概要 324
 船荷証券の印刷プログラム(R42530)
 実行 327
 処理オプション 325
 部分オーダー数量 307
 部分保留 60
 フレックス販売コミッション 41

へ

返品承認 403
 概要 403
 クレジット・メモの入力 406
 事前設定 407
 受注オーダー状況の更新 414
 除去 415
 処理 406
 設定 404
 デフォルトの設定 404
 入力 406, 412
 例 403
 返品承認(RMA) - 受注オーダー状況の
 更新プログラム(R400502)
 実行 414
 処理オプション 414
 「返品承認(RMA)デフォルト値の改訂」
 フォーム 404
 「返品承認(RMA)デフォルトの検索順
 序」フォーム 406
 「返品承認(RMA)の改訂」フォーム 412
 返品承認(RMA)の改訂プログラム
 (P400511)
 概要 406
 処理オプション 408
 返品承認(RMA)の処理プログラム
 (P40051)
 概要 403, 406
 処理オプション 411
 返品承認の除去プログラム(R400510)
 実行 415
 処理オプション 415

ほ

- 「保管/出荷」フォーム 105
- 保管場所
 - 事業所での定義 13
 - 事業所における設定 25
- 保管場所制御の設定 13
- 保管場所フォーマット
 - 固定情報 13
 - 設定 24
- 保管場所別ピッキング・リストおよびピッキング・リスト図 299
- 補助勘定科目(任意勘定科目設定コードの検索) 51
- 補助元帳(任意勘定科目設定コードの検索) 51
- 保留オーダー
 - 印刷 340
 - 概要 249
 - 前払のリリース 340
 - リリース 249, 252
 - レポートの生成 471
- 保留オーダー固定情報プログラム(P42090)
 - 概要 59
 - 前払 61
 - 用途 62
- 「保留オーダーの処理」フォーム 252
- 保留オーダー・レポート・プログラム(R42640)
 - 概要 468
 - 用途 471
- 保留コード
 - 粗利益チェックの実行 60
 - オーダー入力時の割当 61
 - 概要 58
 - 顧客請求指示への割当 62
 - 最小および最大オーダー金額の設定 59
 - 設定の概要 58
 - 定義 59, 338
 - 非アクティブな顧客のチェック 59
 - 部分保留の実行 60
 - 前払に関する定義 61
 - 与信チェックの実行 59
 - 割当 61
- 保留受注オーダーの印刷レポート(R42640) 340
- 保留リリース・プログラム(P43070)
 - 概要 249

処理オプション 250

ま

- 前払状況コード 336
- 前払状況の検討 468
- 前払処理
 - 概要 335
 - 設定 336
 - 手形の処理 343
 - トランザクションの更新 339
 - 取引の決済 342
 - 取引の承認 338
- 前払処理における事前承認手形 344
- 前払タイプ 337
- 前払取引
 - オーダー処理中の変更 339
 - 概要 342
 - 更新 339
 - 事前設定 336
- 「前払取引の改訂」フォーム 341
- 前払取引の決済プログラム(R004202)
 - 概要 342
 - 実行 343
 - 処理オプション 343
- 前払取引の承認プログラム(R004201)
 - 実行 339
 - 処理オプション 339
- 前払取引レポート・プログラム(R004203)
 - 概要 467
 - 処理オプション 468
 - 用途 468
- 前払の状況フロー 336
- 前払の手形の回収 343
- 前払保留コード 338
- マスター・テーブル
 - ワークステーションへのダウンロード手順 209
 - ワークステーションへのダウンロードの概要 203
- 「マトリックス・オーダー入力」フォーム 212
- マトリックス品目
 - 概要 212
 - 事前設定 212
 - 受注オーダーの入力 212

み

- 「見越しコミッションの検索」フォーム 287
- 見出し情報

カスタマ・サービス担当者用 217
 更新 173
 除去 401
 明細情報に対する見出しの更新 171
 見出し情報の編集 217
 見積オーダー
 キット 189
 事前設定 243
 説明 231, 242
 入力 242
 リリース 267, 268
 見積オーダー・リリース・プログラム
 (P420111)
 概要 267
 処理オプション 265

め

明細から履歴への移行/除去 402
 明細から履歴への除去(R42996)プログラム
 実行 402
 処理オプション 401
 明細情報
 概要 131
 代替品目 177, 225
 メッセージ
 オーダー 31
 電子メール 379

や

約束納入日付 184

ゆ

優先階層
 概要 418
 作成 443
 設定 444
 優先階層図 443
 「優先階層の改訂」フォーム 113, 444
 優先情報 417
 運送業者の優先情報 425
 運賃 429
 オプションおよび設備の優先情報 434
 オーダー準備日数 434
 概要 417
 価格設定単位(事業所) 436
 業種 432
 検索 461

顧客運賃の優先情報 426
 顧客通貨優先情報 426
 在庫引当 431
 最終用途 429
 事前設定 461
 支払条件 435
 支払条件(事業所) 435
 収益ビジネスユニット 440
 収益ビジネスユニット(事業所) 440
 製品割当 437
 製品割当(事業所) 438
 設定 417
 次のオーダー状況 433
 伝票セット 428
 等級および濃度 430
 納期 426
 販売価格基準日 441
 販売コミッション 441
 品質 439
 複数の入出荷保管場所 433
 輸送モード優先情報 433
 ユーザー定義価格コード 441
 「優先情報詳細の改訂」フォーム 456
 優先情報の図 419
 優先情報の選択 461
 優先情報の選択プログラム(R40400)
 実行 462
 処理オプション 461
 優先情報の有効化 460
 「優先スケジュールの改訂」フォーム 455
 優先タイプ
 概要 420
 定義 420
 明細 421
 「優先値の改訂」フォーム 457
 「優先定義の改訂」フォーム 454
 優先マスター
 概要 418
 設定 442
 優先マスター情報 442
 「優先マスターの改訂」フォーム 442
 輸送管理の統合 4
 輸送モード優先情報 433
 ユーザー定義価格コード優先情報 441
 ユーザー定義コード
 請求書サイクル 370
 設定 10

よ

- 用語 xxxiv
- 与信情報
 - 設定 75
 - 入力 82
- 与信チェック
 - オーダー保留コードに関連する実行 59
 - 事前設定 282
- 「与信チェック」フォーム 283
- 与信保留
 - バッチ・リリース 253
 - リリース 249
- 与信保留のバッチ処理プログラム (R42542)
 - 概要 248
 - 処理オプション 248
- 与信保留のバッチ・リリース・プログラム (R42550)
 - 概要 249, 253
 - 処理オプション 252

り

- 流通AAIプログラム (P40950) 28, 29
- 料金と配送経路の省略 329

れ

- レコード予約 40
- 連絡先情報 xxx

わ

- ワークフロー処理
 - 概要 134
 - 受注オーダー入力時 217

